平成29年度（2017年）東邦音楽大学　シラバス

― 目　次 ―

基礎教育科目（外国の言語と文化を含む）

東邦スタンダードⅠA	1
東邦スタンダードⅠB	3
東邦スタンダードⅡA	5
東邦スタンダードⅡB	7
東邦スタンダードⅢA	9
東邦スタンダードⅢB	11
東邦スタンダードⅣA・B	13
〔人間探究〕	
哲学A	15
哲学B	17
文化芸術論A	19
文化芸術論B	21
コミュニケーション論	23
〔社会的視点〕	
日本国憲法と生活A	25
日本国憲法と生活B	27
国際理解と交流A	29
国際理解と交流B	31
社会福祉概論〔老人・児童福祉を含む〕A	33
社会福祉概論〔老人・児童福祉を含む〕B	35
〔自然理解〕	
ひとを読み解く科学A	37
ひとを読み解く科学B	39
現代の心理学〔発達心理を含む〕A	41
現代の心理学〔発達心理を含む〕B	43
コンピュータ演習A	45
コンピュータ演習B	47
ウィーンの社会と文化A	49
ウィーンの社会と文化B	51
スポーツ文化論	53
スポーツ演習a	55
スポーツ演習b	57
〔外国の言語と文化〕	
ドイツ語1	59
ドイツ語2	61
ドイツ語3	63
ドイツ語4	65
ドイツ語圏異文化コミュニケーション1	67
ドイツ語圏異文化コミュニケーション2	69
ドイツ語圏異文化コミュニケーション3	71
ドイツ語圏異文化コミュニケーション4	73
ドイツ語【Konzertfach(演奏専攻)】1・3 〔3は異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝを含む〕	75
ドイツ語【Konzertfach(演奏専攻)】2・4 〔4は異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝを含む〕	77
ドイツ語【Konzertfach(演奏専攻)】5・7	79
ドイツ語【Konzertfach(演奏専攻)】6・8	81

英語1 ····· 83
英語2 ····· 85
英語3 ····· 87
英語4 ····· 89
英語圏異文化コミュニケーション1 ····· 91
英語圏異文化コミュニケーション2 ····· 93
英語圏異文化コミュニケーション3 ····· 95
英語圏異文化コミュニケーション4 ····· 97
イタリア語1 ····· 99
イタリア語2 ····· 101
イタリア語3 ····· 103
イタリア語4 ····· 105
イタリア語圏異文化コミュニケーション1 ····· 107
イタリア語圏異文化コミュニケーション2 ····· 109
イタリア語圏異文化コミュニケーション3 ····· 111
イタリア語圏異文化コミュニケーション4 ····· 113
音楽専門教育科目・共通専門教育科目
和声学1-a ····· 115
和声学1-b ····· 117
和声学1-c ····· 119
和声学2－a ····· 121
和声学2－b ····· 123
和声学2－c ····· 125
和声学3－a ····· 127
和声学3－b ····· 129
和声学3－c ····· 131
和声学4－a ····· 133
和声学4－b ····· 135
和声学4－c ····· 137
対位法A ····· 139
対位法B ····· 141
和声学【Konzertfach(演奏専攻)】1・3 ····· 143
和声学【Konzertfach(演奏専攻)】2・4 ····· 145
対位法【Konzertfach(演奏専攻)】A ····· 147
対位法【Konzertfach(演奏専攻)】B ····· 149
楽式論〔作曲法・編曲法を含む〕A－a ····· 151
楽式論〔作曲法・編曲法を含む〕A－b ····· 153
楽式論〔作曲法・編曲法を含む〕B－a ····· 155
楽式論〔作曲法・編曲法を含む〕B－b ····· 157
ポピュラーミュージックA〔作曲法・編曲法を含む〕 ····· 159
ポピュラーミュージックB〔作曲法・編曲法を含む〕 ····· 161
指揮法 ····· 163
音楽文化論A ····· 165
音楽文化論B ····· 167
日本音楽史概説A ····· 168
日本音楽史概説B ····· 171
民族音楽学A ····· 173
民族音楽学B ····· 175

音楽の基礎理論A－a	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	177
音楽の基礎理論A－b	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	179
音楽の基礎理論B－a	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	181
音楽の基礎理論B－b	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	183
音楽の基礎理論【Konzertfach(演奏専攻)】A	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	185
音楽の基礎理論【Konzertfach(演奏専攻)】B	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	187
音楽音響メディア論A	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	189
音楽音響メディア論B	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	191
音楽史A	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	193
音楽史B	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	195
音楽療法概論 a	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	197
音楽療法概論 b	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	199
音楽療法的音楽論	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	201
日本の伝統音楽概説A	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	203
日本の伝統音楽概説B	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	205
音楽心理学A	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	207
音楽心理学B	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	209
作品研究〔鍵盤〕A	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	211
作品研究〔鍵盤〕B	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	213
作品研究〔管弦楽〕A	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	215
作品研究〔管弦楽〕B	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	217
作品研究〔オペラ〕A	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	219
作品研究〔オペラ〕B	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	221
作品研究〔歌曲〕A	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	223
作品研究〔歌曲〕B	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	225
作品研究〔様式学〕【Konzertfach(演奏専攻)】Ⅰ・ⅡA･B	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	227
音楽専門教育科目　≪学科≫		
合唱ⅠA	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	229
合唱ⅠB	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	231
合唱ⅡA	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	233
合唱ⅡB	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	235
合唱ⅢA（日本の伝統的な歌唱を含）	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	237
合唱ⅢB（日本の伝統的な歌唱を含）	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	239
合唱ⅣA（日本の伝統的な歌唱を含）	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	241
合唱ⅣB（日本の伝統的な歌唱を含）	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	243
同族楽器アンサンブル（含オーケストラ・スタディ）Ⅰ～Ⅳ〔弦楽器〕	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	245
室内楽（異種楽器）Ⅰ～Ⅳ〔弦楽器〕	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	247
同族楽器アンサンブル（含オーケストラ・スタディ）Ⅰ～Ⅳ〔フルート〕	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	249
同族楽器アンサンブル（含オーケストラ・スタディ）Ⅰ～Ⅳ〔オーボエ〕	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	251
同族楽器アンサンブル（含オーケストラ・スタディ）Ⅰ～Ⅳ〔クラリネット〕	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	253
同族楽器アンサンブル（含オーケストラ・スタディ）Ⅰ～Ⅳ〔ファゴット〕	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	255
同族楽器アンサンブル（含オーケストラ・スタディ）Ⅰ～Ⅳ〔サクソフォン〕	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	257
室内楽（異種楽器）Ⅰ～Ⅳ〔木管楽器〕	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	259
室内楽（異種楽器）Ⅰ～Ⅳ〔木管楽器〕（サックスアンサンブル）	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	261

同族楽器アンサンブル（含オーケストラ・スタディ）Ⅰ～Ⅳ〔ホルン〕 …… 263
同族楽器アンサンブル（含オーケストラ・スタディ）Ⅰ～Ⅳ〔トランペット〕 …… 265
同族楽器アンサンブル（含オーケストラ・スタディ）Ⅰ～Ⅳ〔トロンボーン〕 …… 267
同族楽器アンサンブル（含オーケストラ・スタディ）Ⅰ～Ⅳ〔ユーフォニアム・テューバ〕 …… 269
室内楽（異種楽器）Ⅰ～Ⅳ〔金管楽器〕 …… 271
同族楽器アンサンブル（含オーケストラ・スタディ）Ⅰ～Ⅳ〔打楽器〕 …… 273
室内楽（異種楽器）Ⅰ～Ⅳ〔打楽器〕 …… 275
合奏A〔和楽器を含む〕 …… 277
合奏B〔和楽器を含む〕 …… 279
オペラ研究Ⅰ・ⅡA …… 281
オペラ研究Ⅰ・ⅡB …… 283
朗読法A（ドイツ語） …… 285
朗読法B（イタリア語） …… 287
朗読法ⅠA（イタリア語） …… 289
朗読法ⅠB（イタリア語）【Konzertfach(演奏専攻)】 …… 291
朗読法ⅡA（ドイツ語）【Konzertfach(演奏専攻)】 …… 293
朗読法ⅡB（ドイツ語）【Konzertfach(演奏専攻)】 …… 295
ピアノアンサンブルA …… 297
ピアノアンサンブルB …… 299
チェンバロ研究ⅠA …… 301
チェンバロ研究ⅠB …… 303
チェンバロ研究ⅡA …… 305
チェンバロ研究ⅡB …… 307
オーケストラⅠ～ⅣA …… 309
オーケストラⅠ～ⅣB …… 311
ウインドオーケストラⅠ～ⅣA …… 313
ウインドオーケストラⅠ～ⅣB …… 315
総合作曲演習ⅠA …… 317
総合作曲演習ⅠB …… 319
ソフトウェア演習ⅠA・B …… 321
ソフトウェア演習ⅡA・B …… 322
ソフトウェア演習ⅢA・B …… 323
子供のためのピアノ指導法A …… 325
子供のためのピアノ指導法B …… 327
教材伴奏法ⅠA …… 329
教材伴奏法ⅠB …… 331
教材伴奏法ⅡA …… 333
教材伴奏法ⅡB …… 335
ピアノ伴奏法ⅠA …… 337
ピアノ伴奏法ⅠB …… 339
ピアノ伴奏法ⅡA …… 341
ピアノ伴奏法ⅡB …… 343
音楽療法の理論と技法A …… 345
音楽療法の理論と技法B …… 347
音楽療法各論〔児童〕 …… 349

音楽療法各論〔精神科〕 …… 351
音楽療法各論〔高齢者〕 …… 353
ソルフェージュ1－a …… 355
ソルフェージュ1－b …… 357
ソルフェージュ1－c …… 359
ソルフェージュ2－a …… 361
ソルフェージュ2－b …… 363
ソルフェージュ2－c …… 365
ソルフェージュ3－a …… 367
ソルフェージュ3－b …… 369
ソルフェージュ3－c …… 371
ソルフェージュ3－d・e(大場クラス) …… 373
ソルフェージュ3－d・e(小林クラス) …… 375
ソルフェージュ4－a …… 377
ソルフェージュ4－b …… 379
ソルフェージュ4－c …… 381
ソルフェージュ4－d・e(大場クラス) …… 383
ソルフェージュ4－d・e(小林クラス) …… 385
キーボードハーモニーA …… 387
キーボードハーモニーB …… 389
学内演奏 …… 391
学内作品発表（作曲コース） …… 392
学内実習発表（音楽療法コース） …… 393
音楽専門教育科目　≪実技≫
声楽1・2〔教職実践専攻の音楽実技を含〕 …… 395
声楽3・4〔教職実践専攻の音楽実技を含〕 …… 396
声楽5・6〔教職実践専攻の音楽実技を含〕 …… 397
声楽7・8〔教職実践専攻の音楽実技を含〕 …… 398
ピアノ1・2〔教職実践専攻の音楽実技を含〕 …… 399
ピアノ3・4〔教職実践専攻の音楽実技を含〕 …… 400
ピアノ5・6〔教職実践専攻の音楽実技を含〕 …… 401
ピアノ7・8〔教職実践専攻の音楽実技を含〕 …… 402
管弦打楽器1・2〔弦楽器〕〔教職実践専攻の音楽実技を含〕 …… 403
管弦打楽器3・4〔弦楽器〕〔教職実践専攻の音楽実技を含〕 …… 404
管弦打楽器5・6〔弦楽器〕〔教職実践専攻の音楽実技を含〕 …… 405
管弦打楽器7・8〔弦楽器〕〔教職実践専攻の音楽実技を含〕 …… 406
管弦打楽器1・2〔木管楽器〕〔教職実践専攻の音楽実技を含〕 …… 407
管弦打楽器3・4〔木管楽器〕〔教職実践専攻の音楽実技を含〕 …… 408
管弦打楽器5・6〔木管楽器〕〔教職実践専攻の音楽実技を含〕 …… 409
管弦打楽器7・8〔木管楽器〕〔教職実践専攻の音楽実技を含〕 …… 410
管弦打楽器1・2〔金管楽器〕〔教職実践専攻の音楽実技を含〕 …… 411
管弦打楽器3・4〔金管楽器〕〔教職実践専攻の音楽実技を含〕 …… 412
管弦打楽器5・6〔金管楽器〕〔教職実践専攻の音楽実技を含〕 …… 413
管弦打楽器7・8〔金管楽器〕〔教職実践専攻の音楽実技を含〕 …… 414

管弦打楽器1・2〔打楽器〕〔教職実践専攻の音楽実技を含〕 …… 415
管弦打楽器3・4〔打楽器〕〔教職実践専攻の音楽実技を含〕 …… 416
管弦打楽器5・6〔打楽器〕〔教職実践専攻の音楽実技を含〕 …… 417
管弦打楽器7・8〔打楽器〕〔教職実践専攻の音楽実技を含〕 …… 418
作曲1・2〔教職実践専攻の音楽実技を含〕 …… 419
作曲3・4〔教職実践専攻の音楽実技を含〕 …… 420
作曲5・6〔教職実践専攻の音楽実技を含〕 …… 421
作曲7・8〔教職実践専攻の音楽実技を含〕 …… 422
メディアデザイン演習1・2 …… 423
メディアデザイン演習3・4 …… 424
メディアデザイン演習5・6〔実習を含む〕 …… 425
メディアデザイン演習7・8〔実習を含む〕 …… 426
音楽療法1・2－1 …… 427
音楽療法1・2－2 …… 428
音楽療法3・4－1 …… 429
音楽療法3・4－2 …… 430
音楽療法5・6〔実習を含む〕 …… 431
音楽療法7・8〔実習を含む〕 …… 432
副科ピアノⅠA/B …… 433
副科ピアノⅡA/B …… 434
副科ピアノⅢA/B …… 435
副科ピアノⅣA/B …… 436
副科声楽Ⅰ A/B …… 437
副科声楽Ⅱ A/B …… 438
副科管弦打楽器Ⅰ A/B〔弦楽器〕 …… 439
副科管弦打楽器Ⅱ A/B〔弦楽器〕 …… 440
副科管弦打楽器Ⅲ A/B〔弦楽器〕 …… 441
副科管弦打楽器Ⅳ A/B〔弦楽器〕 …… 442
副科管弦打楽器Ⅰ A/B〔木管楽器〕 …… 443
副科管弦打楽器Ⅱ A/B〔木管楽器〕 …… 444
副科管弦打楽器Ⅲ A/B〔木管楽器〕 …… 445
副科管弦打楽器Ⅳ A/B〔木管楽器〕 …… 446
副科管弦打楽器Ⅰ～Ⅳ A/B〔金管楽器〕 …… 447
音楽療法に関する科目
障害学A …… 449
障害学B …… 451
臨床心理学Ⅰ A …… 453
臨床心理学Ⅰ B …… 455
臨床心理学Ⅱ …… 457
人間と医療Ⅰ A …… 459
人間と医療Ⅰ B …… 461
人間と医療Ⅱ A …… 463
人間と医療Ⅱ B …… 465

総合教育科目
ウィーンアカデミー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 467
ヒューマンコミュニケーション１～４ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 468
インターンシップⅠ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 469
インターンシップⅡ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 471
地域創造①ⅠA･B ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 473
地域創造①ⅡA･B ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 474
地域創造②ⅠA･B ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 475
地域創造②ⅡA･B ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 476
文化教養科目
コンピュータミュージック演習ⅠA ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 477
コンピュータミュージック演習ⅠB ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 479
コンピュータミュージック演習ⅡA ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 481
コンピュータミュージック演習ⅡB ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 483
外国人留学生に関する科目
日本事情ⅠA ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 485
日本事情ⅠB ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 487
日本事情ⅡA ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 489
日本事情ⅡB ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 491
日本事情ⅢA ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 493
日本事情ⅢB ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 495
日本事情ⅣA ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 497
日本事情ⅣB ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 499
日本語1 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 501
日本語2 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 503
日本語3 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 505
日本語4 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 507
日本語5 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 509
日本語6 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 511
日本語7 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 513
日本語8 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 515
教職に関する専門科目
教職入門 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 517
教育学概説 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 519
教育心理学 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 521
教育方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 523
教育相談･進路指導 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 525
音楽科教材研究A ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 527
音楽科教材研究B ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 529
教育行政 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 531
音楽科教育法A ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 533
音楽科教育法B ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 535
道徳教育の研究 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 537
特別活動の研究 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 539
生徒指導の研究 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 541
教育総合科目（教職実践専攻）Ⅰ・ⅡA ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 543
教育総合科目（教職実践専攻）Ⅰ・ⅡB ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 545
教職実践演習（中・高） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 547

教育実習指導	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	549
教育実習	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	551
インターンシップ（教職実践専攻）Ⅰ	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	553
インターンシップ（教職実践専攻）Ⅱ	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	554
楽器の特性と機能（教職実践専攻）	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	555
教職特講（教職実践専攻）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	557
教職特講（教職実践専攻）Ⅳ	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	559

科目名(クラス)	東邦スタンダードＩＡ－a･b	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	井上　淳司 岩見真佐子	履修対象・条件	全専攻必修				

【授業の概要】

学生生活の過ごし方やスタディスキルを中心に展開する。学生生活、大学での学びの楽しさを知り、知的探求の面白さに気付くこと、自分の立ち位置を認識し、教員や友人を始めとする、周囲の人々と円滑なコミュニケーションがとれるようになることを目指す。

【授業の到達目標】

学生生活の基礎的知識を把握するとともに、スタディスキルを身につける。また、コミュニケーション・スキルを身につけ、日常生活で活用できるようになること。

【授業の「方法」と「形式」】

講義、個人及びグループでのワーク、グループ討議と発表

【履修時の「留意点」と「心得」】

遅刻・欠席をしないこと。学生が主体的、能動的に取り組むことにより、共に作り上げていく授業です。一人一人が積極的に授業に貢献しようと心がけること。

【成績評価の「方法」と「基準」】

ポートフォリオ、平常点（授業への積極的な取り組み）を総合して評価する。

教科書	授業時にテキストを配布する	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	学生生活における危機管理 ・非常時に対する備え ・防災心得	学生サポートハンドブックの関連項目に目を通す。
第2回	オリエンテーション ・東邦スタンダードとは ・前期目標設定（ポートフォリオ、目標設定シート記入）	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に務める
第3回	防犯講話 ・学生生活における防犯上の諸注意 ・大麻（薬物）の危険性と犯罪について　（川越警察署生活安全課の講師による講演）	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に務める

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	労働法セミナー ・アルバイトその他、「労働」する場合のルール、働く人の持つ権利等について学ぶ	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に務める
第5回	消費生活講座 ・ネットトラブル、架空請求等の悪徳商法の被害を防ぐために （埼玉県消費生活支援センター・消費生活コンサルタントによる講演）	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に務める
第6回	川越市文化講座 ・川越市にまつわる歴史と、今に伝わる文化について （川越市役所観光課の講師による講演）	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に務める
第7回	高校生から大学生へ ・大学生の学び方 ・聴く態度 ・グループ討議入門	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に務める。日々の学生生活での実践に務める
第8回	大学生としてのマナー ・学生生活の基本 ・コミュニケーション力	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に務める。日々の学生生活での実践に務める
第9回	授業の受け方 ・受講態度について ・ノートテイクの基本 新聞の読み方 情報収集の仕方	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に務める。日々の学生生活での実践に務める。新聞に目を通す習慣を身に付ける
第10回	情報検索 ・図書館の活用方法 ・資料検索の方法 ・ネット検索の仕方	検索方法を習得し、日々の勉強に役立てるように務める
第11回	レポートの書き方 ・レポート提出の流れ ・レポートを書	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に務める。日々の学生生活での実践に務める
第12回	音楽人としての歩み （担任、副担任のキャリアパスの紹介（A/B合同授業）	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に務める。日々の学生生活での実践に務める
第13回	音楽的職業ナビ ・オーケストラの仕事 （オーケストラ団員経験を持つ講師によるパネルディスカッション）	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に務める。日々の学生生活での実践に務める
第14回	コミュニケーションの基本 ・コミュニケーションの重要性 ・アサーション ・質問力	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に務める。日々の学生生活での実践に務める
第15回	振り返り（テスト） ・ポートフォリオ作成 ・夏休みの計画	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に務める。日々の学生生活での実践に務める

科目名(クラス)	東邦スタンダードＩＢ－a･b	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	井上　淳司 岩見真佐子	履修対象･条件	全専攻必修				

【授業の概要】

学生生活の過ごし方やスタディスキルを中心に展開します。学生生活、大学での学びの楽しさを知り、知的探求の面白さに気付くこと、自分の立ち位置を認識し、先生や友人を始めとする、周囲の人々と円滑なコミュニケーションがとれるようになることを目指します。

【授業の到達目標】

学生生活の基礎的知識を把握するとともに、スタディスキルを身につける。また、コミュニケーション･スキルを身につけ、日常生活で活用できるようになること。

【授業の「方法」と「形式」】

講義、個人及びグループでのワーク、グループ討議と発表

【履修時の「留意点」と「心得」】

遅刻･欠席をしないこと。学生が主体的、能動的に取り組むことにより、共に作り上げていく授業です。一人一人が積極的に授業に貢献しようと心がけること。

【成績評価の「方法」と「基準」】

ポートフォリオ、平常点（授業への積極的な取り組み）を総合して評価する。

教科書	授業時にテキストを配布する。	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画･内容･準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習･復習）
第1回	振り返りと目標設定 ･夏休みの振り返り ･後期目標設定（ポートフォリオ記入）	夏休みを振り返り、活動の記録や気づいたことをまとめる。
第2回	OB/OG講演会 ･本学卒業生による講演会	予習：講師への質問を考えておく 復習：講演会で印象に残ったこと、気づいたことをまとめる
第3回	年金講座 ･国民年金について	配布資料に詳しく目を通し、理解･定着に務める

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	大学生のための租税講座 ・暮らしの中の税とその種類について ・納税の義務、国民経済と財政について	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に務める
第5回	タイムマネジメント ・計画・進捗管理 ・PDCAサイクル	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に務める。日々の学生生活での実践に務める
第6回	グループディスカッション① ・グループディスカッションの進め方	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に務める。日々の学生生活での実践に務める
第7回	グループディスカッション② ・ディスカッションワーク	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に務める。日々の学生生活での実践に務める
第8回	伝わる書き方① ・文章表現の基本	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に務める。日々の学生生活での実践に務める
第9回	伝わる書き方② ・文章表現（作文ワーク）	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に務める。日々の学生生活での実践に務める
第10回	質問力を身に着けよう ・良い質問とは（インタビューワーク）	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に務める。日々の学生生活での実践に務める
第11回	留学経験者の体験談を聴く ・留学を経験した本学卒業生の体験談を聴く	予習：講師への質問を考えておく 復習：印象に残ったこと、気づいたことをまとめる
第12回	プレゼンテーション基礎 ・プレゼンテーションの基礎知識 プレゼンテーションワーク ・グループワーク	配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に務める。日々の学生生活での実践に務める
第13回	学年末発表（準備） ・一年間の学びの振り返り ・各自の成果発表	発表原稿を仕上げ、プレゼンテーションの練習を十分に行う
第14回	学年末発表（発表） ・一年間の学びの振り返り ・各自の成果発表	自分の発表についての反省やクラスメイトの発表を聞いて、印章に残ったことを記録しておく
第15回	振り返り（テスト） ・ポートフォリオ作成	予習：半期の学生生活、レッスンや授業を振り返り、活動の記録や気づいたことをまとめる ・レポート課題を仕上げる

科目名（クラス）	東邦スタンダードⅡA－a・b	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	武藤　直美 岩間　丈正	履修対象・条件	全専攻必修				

【授業の概要】

1年次に学んだ東邦スタンダードⅠの内容を基礎とし、7回の外部講師によるキャリアデザインの内容を含む、多角的な講義やワークを行う。音楽大学での学修をめぐって真剣に考え、学生生活を充実させるための基礎を作り発展させる科目である。

【授業の到達目標】

各自の専門分野のスキルアップ、社会の仕組みを学び将来に向けての具体的なイメージを構築する力を身につけ、一般教養とコミュニケーションスキルを向上させ、社会性を高めることができる。

【授業の「方法」と「形式」】

授業は、講義形式で、ワークを伴いながら行う。

【履修時の「留意点」と「心得」】

授業は、毎回テーマに沿って進められる。欠席遅刻をしないことはむろん、毎回の授業で何かひとつは学び取ろうという積極的な姿勢で取り組むことが肝要である。何事も取り組む気持ち次第で自分に生かすことができるということを強く念頭に置き、集中して取り組むこと。

【成績評価の「方法」と「基準」】

前記授業初回および最終回に記入するポートフォリオ３０%、セメスター終了時に課すレポート４０%、毎回の授業への取り組み３０%の基準に従い、総合的に評価をする。

教科書	授業時に大学作成のテキストを配布。	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	学生生活における危機管理 ・非常時に対する備え ・防災心得 ：学生生活において必要な危機管理の意識を育成し、非常時における避難方法の理解を促す。	学生サポートハンドブックの関連事項に目を通す。
第2回	東邦スタンダードとは ・前期目標設定（ポートフォリオ、目標設定シート記入） ：授業の目的を理解し、これから学習する計画についてのイメージを構築する。	この授業の目的を確認する。
第3回	伝える力１ ・話し方チェック　ＰＲＥＰ法　ＹＥＳ・ＢＵＴ法 ：円滑なコミュニケーションを図る話し方、相手に伝わりやすい話し方について学ぶ。	授業で学んだ内容を日常生活の中で実際に応用して実践する。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　　業　　内　　容	準備学習（予習・復習）
第4回	（合同）講演会 労働法セミナー	予習：労働法について予め調べる。 復習：講座内容を振り返りまとめる。
第5回	キャリアとは ※第5回～第11回は、外部講師・ベネッセによるキャリアデザイン講義 ：キャリアデザインの基本的な考え方を理解し、働く意義を考える。	講義内容を復習しテキストを整理する。
第6回	社会を知る① ：現代社会の仕組みについて学ぶ。	講義内容を復習しテキストを整理する。
第7回	社会を知る② ：現代社会の仕組みについて学ぶ。	講義内容を復習しテキストを整理する。
第8回	働く環境を理解する ・理想の働き方を考える ：働き方の種類、労働関連法規、大企業と中小企業の違いについて学ぶ。	講義内容を復習しテキストを整理する。
第9回	社会で求められる力① ・国語編 ：就職活動に必要な一般教養の学び方を演習を通して理解し、その力を高める。	講義内容を復習しテキストを整理する。
第10回	社会で求められる力② ・数的処理編 ：就職活動に必要な一般教養の学び方を演習を通して理解し、その力を高める。	講義内容を復習しテキストを整理する。
第11回	社会で求められる力③ ・一般社会編 ：就職活動に必要な一般教養の学び方を演習を通して理解し、その力を高める。	講義内容を復習しテキストを整理する。
第12回	伝える力2 ・雑談力を高める ：コミュニケーションをより円滑にするための「雑談」というスキルを実践ワークを通じて高める。	学習の内容を日常生活に生かし実践する。
第13回	（合同）講演会 音楽的職業ナビ ・オーケストラの仕事 （オーケストラ団員の経験を持つ講師による講演）	予習：講師への質問を考えておく。 復習：講演で印象に残ったこと、気づいたことをまとめる
第14回	グループ討議と発表 ・コミュニケーション力を高める ：グループ討議の方法を学び、グループ内のコミュニケーションをとりながら考えを集約する力を身につける。	ひとつのテーマに沿って意見を交わし、討議する機会を作り学習した内容を更に実践に生かす。
第15回	まとめ ・ポートフォリオ作成 ：前期を振り返り、適切な文章で表現する。	本授業のみならず、各自のレッスンや授業への取り組みについて、具体的に振り返る。

科目名(クラス)	東邦スタンダードⅡB－a・b	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	武藤　直美 岩間　丈正	履修対象・条件	全専攻必修				

【授業の概要】

東邦スタンダードIIAに引き続き、8回の外部講師によるキャリアデザインの内容を含む、多角的な講義やワークを行う。音楽大学での学修をめぐって真剣に考え、学生生活を充実させるための基礎を作り発展させる科目である。

【授業の到達目標】

各自の専門分野のスキルアップ、社会の仕組みを学び将来に向けての具体的なイメージを構築する力を身につけ、一般教養とコミュニケーションスキルを向上させ、社会性を高めることができる。

【授業の「方法」と「形式」】

授業は、講義形式で、ワークを伴いながら行う。

【履修時の「留意点」と「心得」】

授業は、毎回テーマに沿って進められる。欠席遅刻をしないことはむろん、毎回の授業で何かひとつは学び取ろうという積極的な姿勢で取り組むことが肝要である。何事も取り組む気持ち次第で自分に生かすことができるということを強く念頭に置き、集中して取り組むこと。

【成績評価の「方法」と「基準」】

教科書	授業時に大学作成のテキストを配布。	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	後期目標設定 ・前期の振り返りと後期の目標を設定する。 ：前期の学習状況を振り返り、後期の学習をよりよいものにするための目標を設定する。	自らの行動記録を記し、後期の計画を明確にする。
第2回	OB・OG講演会 ：本学卒業生の講演を聴くことで、将来のビジョンのイメージ作りを援助する。	講演会の内容を復習し、自分の将来像との共通点、相違点、疑問点などをまとめてみる。
第3回	世の中の仕事を知る① ※第３回～第10回は、外部講師・ベネッセによるキャリアデザイン講義 ：社会と、業種や職種の理解を促す。	講義内容を復習しテキストを整理する。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　　業　　内　　容	準備学習（予習・復習）
第4回	世の中の仕事を知る② ：視野を広げて仕事を考える。	講義内容を復習しテキストを整理する。
第5回	自分を知る① ：自分を客観視する方法を学ぶ。	講義内容を復習しテキストを整理する。
第6回	自分を知る② ：自分の長所・短所を考える。	講義内容を復習しテキストを整理する。
第7回	将来について考える ：自分の強みを生かす視点で、将来について考える。	講義内容を復習しテキストを整理する。
第8回	夢を叶えるための目標設定 ・ライフプランシートの作成 ：ライフプランシートを作成することにより、現在の学生生活の充実度を考える。	講義内容を復習しテキストを整理する。
第9回	ライフプラン実行に向けて ・ＰＤＣＡサイクル ：目標達成への考え方を捉え、自分と社会を照らし合わせて考える。ＰＤＣＡサイクルの考え方を習得する。	講義内容を復習しテキストを整理する。
第10回	まとめ ・キャリアについてのまとめ ：第3回から第９回までの授業で学習したことを振り返り、それらを用いた考え方を習得する。	講義内容を復習しテキストを整理する。
第11回	留学経験者の体験談を聴く ・留学を経験した本学卒業生の体験談を聴く ：・留学に至るまでの道筋、留学経験がどのように生かされているかを知り、将来のひとつの選択肢であることを把握する。	体験談で聴いた内容を各自まとめて、自分の将来と照らし合わせる。
第12回	音楽と仕事 ・音楽を仕事にするには ：音楽を仕事とするためにすべきことや必要なことを知り、学生生活をどのように送ったらよいかを考える。	音楽とどのように関わっていくか自分の将来像を図式化する。
第13回	ウィーン研修について ・研修の概要、ウィーンの文化と音楽 ：ウィーン研修の概要、ウィーンの歴史を学び、3年次のウィーン研修に対する必要な準備について考える。	ウィーンの歴史や文化について学習したことを整理する。
第14回	3年生のウィーン研修発表会 ・発表会を聴く ：3年生が実際に経験したこと聴き、自分の研修のイメージを具体化する。	ウィーン研修でどのようなことを学習したいか、どのような留意点があるのかをまとめる。
第15回	まとめ ・ポートフォリオ作成 ：後期を振り返り、適切な文章で表現する。	本授業のみならず、各自のレッスンや授業への取り組みについて、具体的に振り返る。

科目名(クラス)	東邦スタンダードⅢA－a・b	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	澤敦・平田紀子 中島裕紀	履修対象・条件	必修（但し、Konzertfach、教職実践専攻を除く）				

【授業の概要】

東邦スタンダードⅠ・Ⅱで学んだ内容を土台にして、毎回のテーマに沿ったさまざまなワークを通じ、東邦音楽大学の学生として、日々の学修と学生生活を充実させ、それを将来社会でどう活かしていくかをより具体的に考え、必要なスキルを学ぶ授業である。
7回の外部講師によるキャリアデザインの授業や各種講演会を含む。
コミュニケーション能力を高めながら、物事の多角的な見方や考え方を実践し、問題解決能力を養う。

【授業の到達目標】

日々の学修と将来のありかたとの接点を見出し、現時点での各自の将来像をより具体化・可視化することができる。
毎回のテーマに沿ったワークを通じて、社会人基礎力を高めることができる。
・コミュニケーション能力を向上させ、協調性と協働性を身につける。
・物事を的確に伝えるプレゼンテーション能力を身につける。
・問題解決能力を身につける。

【授業の「方法」と「形式」】

授業は、講義形式で、ワークを伴いながら行う。

【履修時の「留意点」と「心得」】

授業は、毎回テーマに沿って進められ、それらは関連性を持つため、欠席遅刻をしないことは大前提であるが、毎回の授業で何かひとつは学び取ろうという積極的な姿勢で取り組むことが肝要である。何事も、取り組む気持ち次第で自分に生かすことができるのだという気持ちを忘れずに、しっかりと取り組むこと。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業開始時、及び最終回に記入するポートフォリオ30%、セメスター終了時に課すレポート40%、毎回の授業への取り組み30%の基準に従い、総合的に評価をする。

教科書	授業時に大学作成のテキストを配布。	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	学生生活における危機管理 ・非常時に対する備え ・防災心得	学生サポートハンドブックの関連項目に目を通す。
第2回	東邦スタンダードとは ・前期目標設定（ポートフォリオ、目標設定シート記入）	復習：配布資料に詳しく目を通し、理解・定着に務める。
第3回	講演会 「労働法講座」	労働法について予め調べる。 講座内容を振り返りまとめる。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	ウィーンアカデミー研修に向けて ・引率経験のある教員による講義	復習：講義の内容を振り返り、まとめる。
第5回	社会とは？仕事とは？ ※第5～第11回は、外部講師・ベネッセi-キャリアによるキャリアデザイン講義を行う	講義内容を復習しテキストを整理する。
第6回	仕事の情報を探そう ～情報収集について～	講義内容を復習しテキストを整理する。
第7回	社会で必要な力 ～コミュニケーション①～	講義内容を復習しテキストを整理する。
第8回	社会で必要な力 ～コミュニケーション②～	講義内容を復習しテキストを整理する。
第9回	社会で必要な力 ～基礎学力①～	講義内容を復習しテキストを整理する。
第10回	社会で必要な力 ～基礎学力②～	講義内容を復習しテキストを整理する。
第11回	自分を知る ～自己分析～	講義内容を復習しテキストを整理する。
第12回	思考力・発想法 ・思考のコツを学ぶ ・さまざまな発想法を知る	講義内容を復習しテキストを整理する。
第13回	音楽的職業ナビ ・オーケストラの仕事 （オーケストラ団員経験を持つ講師による講演）	予習：講師への質問を考えておく。 復習：講演で印象に残ったこと、気づいたことをまとめる。
第14回	キャリア支援センターの活用方法 ・キャリア支援センター長による講演	復習：キャリア支援センターを実際に活用する。
第15回	振り返り ・ポートフォリオ作成 ・夏休みの計画	予習：半期の学生生活、レッスンや授業を振り返り、活動の記録や気づいたことをまとめる。

科目名(クラス)	東邦スタンダードⅢB－a・b	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	澤敦・平田紀子 中島裕紀	履修対象・条件	必修（但し、Konzertfach、教職実践専攻を除く）				

【授業の概要】

東邦スタンダードⅠ・Ⅱで学んだ内容を土台にして、毎回のテーマに沿ったさまざまなワークを通じ、東邦音楽大学の学生として、日々の学修と学生生活を充実させ、それを将来社会でどう活かしていくかをより具体的に考え、必要なスキルを学ぶ授業である。
8回の外部講師によるキャリアデザインの授業や各種講演会を含む。
コミュニケーション能力を高めながら、物事の多角的な見方や考え方を実践し、問題解決能力を養う。

【授業の到達目標】

日々の学修と将来のありかたとの接点を見出し、現時点での各自の将来像をより具体化・可視化することができる。
毎回のテーマに沿ったワークを通じて、社会人基礎力を高めることができる。
・コミュニケーション能力を向上させ、協調性と協働性を身につける。
・物事を的確に伝えるプレゼンテーション能力を身につける。
・問題解決能力を身につける。

【授業の「方法」と「形式」】

授業は、講義形式で、ワークを伴いながら行う。

【履修時の「留意点」と「心得」】

授業は、毎回テーマに沿って進められ、それらは関連性を持つため、欠席遅刻をしないことは大前提であるが、毎回の授業で何かひとつは学び取ろうという積極的な姿勢で取り組むことが肝要である。何事も、取り組む気持ち次第で自分に生かすことができるのだという気持ちを忘れずに、しっかりと取り組むこと。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業開始時、及び最終回に記入するポートフォリオ30%、セメスター終了時に課すレポート40%、毎回の授業への取り組み30%の基準に従い、総合的に評価をする。

教科書	授業時に大学作成のテキストを配布。	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	振り返りと目標設定 ・夏休みの振り返り ・後期目標設定（ポートフォリオ記入）	夏休みを振り返り、活動の記録や気づいたことをまとめる。
第2回	OB/OG講演会 ・本学卒業生による講演会	予習：講師への質問を考えておく。 復習：講演会で印象に残ったこと、気づいたことをまとめる。
第3回	仕事について調べよう ～業界研究～ ※第3回～第10回は外部講師・ベネッセi-キャリアによるキャリアデザイン講義を行う	講義内容を復習しテキストを整理する。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	自己PRを作ろう	講義内容を復習しテキストを整理する。
第5回	魅力的な応募書類を作成しよう ～履歴書編～	講義内容を復習しテキストを整理する。
第6回	魅力的な応募書類を作成しよう ～エントリーシート編～	講義内容を復習しテキストを整理する。
第7回	面接シミュレーション ～グループディスカッション対策編～	講義内容を復習しテキストを整理する。
第8回	面接シミュレーション ～グループディスカッション応用編～	講義内容を復習しテキストを整理する。
第9回	面接シミュレーション ～面接対策編～	講義内容を復習しテキストを整理する。
第10回	面接シミュレーション ～面接応用編～	講義内容を復習しテキストを整理する。
第11回	留学経験者の体験談を聴く ・留学を経験した本学卒業生の体験談を聴く	体験談で聴いた内容を各自がまとめ、自分の将来を考える。
第12回	情報リテラシー ・情報収集における留意点 ・SNS等の利用マナー、文献引用のルールについて	復習：配布資料に詳しく目を通し、理解・定着につとめる。
第13回	ウィーン研修の発表準備 ・2年生に対するウィーン研修の発表準備を行う	復習：次回に向けて発表の準備を終える。
第14回	ウィーン研修の発表 ・2年生に対してウィーン研修の発表を行う	復習：他のグループによる発表も含めて内容を振り返りまとめる。
第15回	振り返り ・ポートフォリオ作成	予習：半期の学生生活、レッスンや授業を振り返り、活動の記録や気づいたことをまとめる。 ・レポート課題を仕上げる。

科目名(クラス)	東邦スタンダードⅣA・B－a・b

【授業の概要】

大学での学びをより深化させ、自らの音楽の学びを社会の中で生かしていくための方法論を幅広く扱う。「社会人基礎力」獲得を目標に、物事の多角的な見方、考え方、問題解決の手法などを実践する。
また、前期・後期ともに、自分の学んだ専門分野に関わるレポートをまとめ、それをクラス全員に向けて発表することで、東邦スタンダードでこれまでに学んできた「プレゼンテーション能力」を社会で活用できるまでに高めることを目指す。
全体としては、4年間の学びを振り返り、学んだことを卒業後の仕事の中で活かす方法を考え、その技術を身に着けることを目指す。

【授業の到達目標】

大学での学びを総括し、それを自らの言葉で表現し、プレゼンテーション出来るようになる。
具体的な活用の場、方法論を豊かに発想し、情報を収集し、社会での活用を念頭に実践への考察が出来るようになる。

【成績評価の方法】

ポートフォリオ、授業への積極的な取り組み、プレゼンテーションのレポート及び実践を総合して評価する。

【授業計画の内容】

月	内　　容
4 5 6	・学生生活における危機管理 ・ポートフォリオへの記入 ・前期末の「プレゼンテーション実習」のためのレポート作成 ・労働法セミナー
7 8 9	・音楽の存在意義について考える ・音楽的職業ナビ　「オーケストラの仕事を考える」 ・「プレゼンテーション実習」のためのレポート作成、およびプレゼンテーションの実践 ・レポート作成、ポートフォリオ記入
10 11 12	・ポートフォリオ記入 ・OB・OG講演会 ・「あがり」をどうコントロールするか、セルフ・コントロールの方法 ・ディベートの体験／論理的な議論のルールとコツを学ぶ
1 2 3	・4年間の学びを振り返る ・ポートフォリオの作成 ・「プレゼンテーション実習」のためのレポート作成、およびプレゼンテーションの実践 ・レポート作成

科目名(クラス)	哲学A	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1～4
担当教員	粂原　恒久	履修対象・条件					

【授業の概要】

我々は何を目的として生きるのでしょうか。どうして世界に我々は存在するのでしょうか。どうして音楽をはじめとする芸術が必要なのでしょうか。無意識にただ生きる人生から目的を持った人生の構築へ。
東西の歴史の中から哲学を踏まえた宗教の代表的なものを選び、これらに対する解答あるいはヒントを探りたいと思います。

【授業の到達目標】

宇宙を貫く原理原則。これらこそ我々にとって最高の人生を歩むための生きる指針なのです。又、これらは、人類の歴史の中で偉人といわれる人々によって明らかにされ、「哲学をもった宗教」として人々に伝えられてきたものでもあります。本授業では、これらを学ぶことによって私達一人一人が最高の価値ある人生を歩む基本的考え方、判断力を身につけたいと思います。

【授業の「方法」と「形式」】

教科書を中心に教師が解説。

【履修時の「留意点」と「心得」】

とにかくしっかりと教師の言葉を聞き、自らの中に受け入れて欲しいと思います。
専門用語も出てきますが、これを理解することによって、自らの心が豊かになります。

【成績評価の「方法」と「基準」】

期末の試験と授業中への参加度を総合的に評価する。

教科書	図解宗教史	著者等		出版社	成美堂出版
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	授業の目的と各宗教の世界的分布を示します。	教科書の事前読了。
第2回	同上	同上
第3回	キリスト教の分布とその教えを学ぶ。	同上

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	キリスト教の救いの構造を学ぶ。	教科書の事前読了。
第5回	同上	同上
第6回	キリスト教の母体としてのユダヤ教の理論を学ぶ。	同上
第7回	同上	同上
第8回	同上	同上
第9回	イスラム教の教えと民族に視点を置き、救いの基本を学ぶ。	同上
第10回	イスラム教の世界への影響、他の宗教との比較に視点を合わせる。	同上
第11回	日本人の考え方、歴史、文化の基礎をなす仏教の考え方とは何かを学ぶ。	同上
第12回	インドの釈迦の生き方を学ぶ。	同上
第13回	同上	同上
第14回	東洋（中国）の思想と日本に与えた影響、仏教との対応を理解する。	同上
第15回	同上	同上

科目名(クラス)	哲学B	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1～4
担当教員	粂原　恒久	履修対象・条件					

【授業の概要】

世界の宗教、特に前期で学んだ信頼性のある、哲学をもった諸宗教（キリスト教、イスラム教、仏教など）を
再度異なった視点から学んでみる。

【授業の到達目標】

世界の代表的な宗教を学ぶ中で、我々はいかに生きるべきか、世界の人々は長い歴史の中で何を拠り所として人生を歩んできたか、を概観してきました。その中で世界の代表的宗教は、共に共通の世界観と真理（宇宙の）に立脚していることを学びました。我々はこの中、特に日本人の心の拠り所となり、国家の歴史を導いた仏教の思想、そこに示された人生観、生き方を中心に学びつつ、総括的に、自らの生き方、考え方の基本（宇宙の原理）をしっかり身につけたいと思います。

【授業の「方法」と「形式」】

教科書を中心に教師が解説。

【履修時の「留意点」と「心得」】

初めて出会う用語、理念、ものの見方について、柔軟に心を向け理解する。

【成績評価の「方法」と「基準」】

期末の試験、授業への態度を総合的に評価する。

教科書	図解宗教史	著者等		出版社	成美堂出版
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	世界の宗教を概観し、世界史に残したその跡をたどる。	教科書の事前読了。
第2回	同上	同上
第3回	キリスト教の精神と世界史への影響	同上

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	キリスト教の精神と世界史への影響	教科書の事前読了。
第5回	同上	同上
第6回	イスラム教の精神と世界史への影響について学ぶ。	同上
第7回	同上	同上
第8回	コーランの精神とそれを信ずる人々の実態について学ぶ。	世界情勢の理解を参考書等により試みる。
第9回	同上	同上
第10回	世界三大宗教の将来への影響と、我々の対応について考える。	同上
第11回	キリスト教、イスラム教と日本の仏教の相違を確認し、日本人の目指す世界平和を考える。	同上
第12回	同上	同上
第13回	日本仏教、宗派の教えを学ぶ。	宗派の違いと教えの違いを学んでおく。
第14回	同上	同上
第15回	音楽家としての生きる目標、生きる心の基準について解答を出そう。	自らの人生は何のためにあるのか、考えをまとめておく。

科目名(クラス)	文化芸術論A	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1～4
担当教員	山下　暁子	履修対象・条件					

【授業の概要】

・本科目では、西洋音楽を中心に西洋以外の音楽も取り上げ、具体的な事例を通して、音楽を「文化」としてとらえることを目的とします。
・前期は、「楽器」と「楽譜」という音楽にとって非常に大きな2つのテーマについて、歴史的・文化的コンテクスト（文脈・脈絡）を通して考えを深めます。

【授業の到達目標】

・音楽は単独で存在するのではなく、様々なコンテクスト（文脈・脈絡）の中に位置づけられることを理解する。
・「自分の言葉で表現する」ことは「真に考える」ことになります。各テーマについて自分なりに受け止め、言葉で書き表すことで、音楽というものをより広い視野でとらえ、学ぼうとする姿勢を身に付けます。

【授業の「方法」と「形式」】

・講義形式　・視聴覚機器等を使用し、なるべく実際の音楽に触れられるようにします。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・受講マナーを守り、欠席、遅刻、早退をしないこと。
・授業への積極的な取り組みが高く評価されます。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・定期試験「レポート課題」（60%）、授業への積極性（40%）から総合的に評価します。
・授業への積極性は、毎回授業内に行う出席シートの記述内容、予習や復習等の学習への取り組みから評価します。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	参考文献をその都度指示します。	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	音楽をどうとらえるか	予習：シラバスを読んで授業の内容を理解する。 復習：音楽をどうとらえることができるかについて、自分なりに考えて説明できるようにする。
第2回	楽器について考える①　楽器の分類(1)	予習：自分が楽器の何に興味があるのか、考えをまとめておく。 復習：楽器の分類の問題点について、自分なりに考えて説明できるようにする。
第3回	楽器について考える②　楽器の分類(2)	予習：楽器の分類の問題点について、自分なりに考えて説明できるようにする。 復習：授業で学んだ分類法について確認する。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	楽器について考える③　楽器の分類(3)	予習：授業で学んだ分類法について確認する。 復習：自分独自の分類法についてもう一度見直す。
第5回	楽器について考える④　楽器が示すもの(1)	予習：前回までの内容を復習する。 復習：楽器が示すものについて、自分なりに説明できるようにする。
第6回	楽器について考える⑤　楽器が示すもの(2)	予習：前回の内容を復習する。 復習：楽器が示すものについて、自分なりに説明できるようにする。
第7回	楽器について考える⑥　ピアノの歴史(1)	予習：ピアノについて知っていること、知りたいことについて考えをまとめておく。 復習：ピアノの歴史について、自分なりに説明できるようにする。
第8回	楽器について考える⑦　ピアノの歴史(2)	予習：前回の内容を復習する。 復習：ピアノの歴史について、自分なりに説明できるようにする。
第9回	楽譜について考える①　五線譜	予習：楽譜について知っていること、知りたいことについて考えをまとめておく。 復習：五線譜について、自分なりに説明できるようにする。
第10回	楽譜について考える②　エディションと演奏慣習	予習：前回の内容を復習する。 復習：エディションと演奏慣習について、自分なりに説明できるようにする。
第11回	楽譜について考える③　五線譜以外の楽譜(1)	予習：前回の内容を復習する。 復習：授業で学んだ楽譜を読めるようにする。
第12回	楽譜について考える④　五線譜以外の楽譜(2)	予習：前回の内容を復習する。 復習：授業で学んだ楽譜を読めるようにする。
第13回	楽譜について考える⑤　楽譜を用いない文化	予習：前回の内容を復習する。 復習：楽譜を用いない文化について、自分なりに考えて説明できるようにする。
第14回	楽譜について考える⑥　柴田南雄の骸骨図	予習：前回の内容を復習する。 復習：授業で学んだ骸骨図をもう一度書いてみる。
第15回	まとめ	予習：これまでの内容を復習する。 復習：本科目の目的を、知識の定着と共に確認する。

科目名(クラス)	文化芸術論B	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1～4
担当教員	山下　暁子	履修対象・条件					

【授業の概要】

・本科目では、西洋音楽を中心に西洋以外の音楽も取り上げ、具体的な事例を通して、音楽を「文化」としてとらえることを目的とします。
・前半は、総合芸術における音楽について、音楽以外の要素と共に、オペラ作品を例に具体的に読み解きます。
・後半は、任意のオペラ作品の一場面の音楽的特徴や演出について、レジュメを準備し、一人ずつ発表を行います。

【授業の到達目標】

・音楽は単独で存在するのではなく、様々なコンテクスト(文脈・脈絡)の中に位置づけられることを理解する。
・「自分の言葉で表現する」ことは「真に考える」ことになります。各テーマについて自分なりに受け止め、言葉で伝えることで、音楽というものをより広い視野でとらえ、学ぼうとする姿勢を身に付けます。

【授業の「方法」と「形式」】

・講義形式　・視聴覚機器等を使用し、なるべく実際の音楽に触れられるようにします。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・受講マナーを守り、欠席、遅刻、早退をしないこと。
・授業への積極的な取り組みが高く評価されます。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・定期試験①[授業内に行う発表](30%)、定期試験②[レポート課題](30%)、授業への積極性(40%)から総合的に評価します。
・授業への積極性は、毎回授業内に行う出席シートの記述内容、予習や復習等の学習への取り組みから評価します。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	参考文献をその都度指示します。	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	音楽をどうとらえるか	予習:シラバスを読んで授業の内容を理解する。 復習:音楽をどうとらえることができるかについて、自分なりに考えて説明できるようにする。
第2回	総合芸術における音楽　オペラ(1)	予習:前回の内容を復習する。 復習:授業で学んだ内容について、自分なりに説明できるようにする。
第3回	総合芸術における音楽　オペラ(2)	予習:前回の内容を復習する。 復習:授業で学んだ内容について、自分なりに説明できるようにする。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	総合芸術における音楽　オペラ(3)	予習：前回の内容を復習する。 復習：授業で読み解いた内容について、具体的な語句や人物を挙げて自分なりに説明できるようにする。
第5回	総合芸術における音楽　オペラ(4)	予習：前回の内容を復習する。 復習：授業で読み解いた内容について、具体的な語句や人物を挙げて自分なりに説明できるようにする。
第6回	総合芸術における音楽　オペラ(5)	予習：前回の内容を復習する。 復習：授業で読み解いた内容について、具体的な語句や人物を挙げて自分なりに説明できるようにする。
第7回	総合芸術における音楽　その他	予習：　前回の内容を復習する。 復習：　授業で読み解いた内容について、具体的な語句や人物を挙げて自分なりに説明できるようにする。
第8回	総合芸術における音楽　能	予習：前回の内容を復習する。 復習：授業で読み解いた内容について、具体的な語句や人物を挙げて自分なりに説明できるようにする。
第9回	発表	予習：発表の準備をする。 復習：自分と他の学生の発表について振り返り、学んだことを確認する。
第10回	発表	予習：　発表の準備をする。 復習：　自分と他の学生の発表について振り返り、学んだことを確認する。
第11回	発表	予習：発表の準備をする。 復習：自分と他の学生の発表について振り返り、学んだことを確認する。
第12回	発表	予習：発表の準備をする。 復習：自分と他の学生の発表について振り返り、学んだことを確認する。
第13回	発表	予習：発表の準備をする。 復習：自分と他の学生の発表について振り返り、学んだことを確認する。
第14回	発表	予習：発表の準備をする。 復習：自分と他の学生の発表について振り返り、学んだことを確認する。
第15回	まとめ	予習：これまでの内容を復習する。 復習：本科目の目的を、知識の定着と共に確認する。

科目名(クラス)	コミュニケーション論	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1～4
担当教員	徳富　政樹	履修対象・条件	音楽療法専攻は必修				

【授業の概要】

様々なコミュニケーション手段を心理学の側面から概観していくことにより、私たちの日常生活でのコミュニケーションを理論的に考察していきます。日々何気なく他者とコミュニケーションをとっている私たちですが、そこには自分たちでは気がつかない長所と短所が存在しています。他者に正確に意思を伝えるためにそれらを把握しておく必要があるでしょう。講義と実習、及び心理テストを通じてコミュニケーションについて考えてもらいます。

【授業の到達目標】

人と人とのコミュニケーションは大きく分けて言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションがあります。この2つの違いを理解し、両者の長所短所を把握した上で現実世界でのコミュニケーションに役立たせることができるようになること。

【授業の「方法」と「形式」】

基本的に講義形式ですが、適宜集団での討議・作業も取り入れます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

この授業では板書をたくさんするのできちんとノートをとる必要があります。ただ書き写すだけではなく自分なりの説明を加えてわかりやすいノートを作成するようにしてください。当たり前のことですが、遅刻、無断早退、私語は厳禁です。

【成績評価の「方法」と「基準」】

レポート(70%)+授業への取り組み方(授業終了後の小レポート、授業時の積極性)(30%)で成績評価を行います。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	対人行動の心理学	著者等	土田昭司	出版社	北大路書房
参考文献	影響力 その効果と威力	著者等	今井芳昭	出版社	光文社新書

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	コミュニケーションにおけるスキーマ	予習:日常生活の中でコミュニケーションが成立しない事例を考えておくこと 復習:コミュニケーションが成立する要件について理解を深める
第2回	自己概念とは	予習:「私」とは行ったに何かについて考えておくこと 復習:「私」をどのように表現したらいいかまとめてみる
第3回	自己開示とは	予習:初対面の人への自己紹介をシミュレーションしてみる 復習:自己開示の特徴についてまとめてみる

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	自己呈示とは	予習:自己紹介をアピールする時にどれだけ真実が含まれていないか考えてみる 復習:自己提示の特徴についてまとめてみる
第5回	対人説得とは	予習:他者の意見や行動を変えた事例をピックアップしてみる 復習:他者を説得する際に有効なパターンを理解する
第6回	非言語コミュニケーション	予習:言語を用いないコミュニケーションにはどのようなものがあるか考えてみる 復習:非言語コミュニケーションの特徴をまとめてみる
第7回	異文化間コミュニケーション	予習:外国人とのコミュニケーションにおける失敗事例を挙げてみる 復習:外国人とのコミュニケーションにおいて気をつけるべき点をまとめてみる
第8回	対人認知	予習:自分自身の人を見る目が正確か考えてみる 復習:他者の印象を形成するメカニズムについてまとめてみる
第9回	対人認知・対人魅力	予習:他者に魅力を感じるのはどのような点か予めリストアップしてみる 復習:外見の魅力と内面の魅力の違いについてまとめてみる
第10回	親密な対人関係の崩壊	予習:他者との関係性が壊れる原因について考えてみる 復習:親密な対人関係が崩壊した時の行動や心理的反応についてまとめてみる
第11回	対人関係の親密化過程	予習:他者と親密になる過程をシミュレーションしてみる 復習:出会いから別れまでの対人関係の変化について考えてみる
第12回	対人行動のルール	予習:「囚人のジレンマ」という言葉について予め調べておく 復習:ゲーム理論についてまとめてみる
第13回	攻撃行動	予習:自分の身の回りで生じている攻撃行動をピックアップしておく 復習:他者に対する攻撃行動の種類とメカニズについて考えてみる
第14回	援助行動	予習:他者を援助するのはどういう時か自分の体験をまとめておく 復習:他者に助けを求める際の心理的過程についてまとめてみる
第15回	グループワーク	予習:コミュニケーションとは一体何かをまとめておく 復習:コミュニケーションの難しさにつて最終的なまとめをする

科目名(クラス)	日本国憲法と生活A	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1～4
担当教員	川端　敏朗	履修対象・条件	教職実践専攻は必修。教職課程履修者はBとのいずれか必修				

【授業の概要】

私たちの日常生活では，法的な判断をしなければならない数多くの場面に出会います。そこで，この講義では，日本国憲法（国家の統治および組織に関する基本法）をはじめとする法，たとえば民法，会社法，消費者法やその仕組みなどが実際の社会生活でどのような働きをしているかについて，裁判例や具体的な事例などを通して理解することができるようにします。

【授業の到達目標】

法の果たす機能や法の必要性を考察し，法的なものの見方・考え方＝リーガル・マインドを身につけることができるようにし，法的な事象について具体的な考察ができるようにします。

【授業の「方法」と「形式」】

・講義形式ですが，身近な例をあげ，学生自らが考察できるようにします。また，資料などを用いて具体例も明示します。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・履修にあたり，テキストの該当項目をよく確認してください。受講中にはノートをしっかりととるように心がけてください。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・定期試験およびレポート（60%），受講中の熱意や積極性（40%）を踏まえ総合的に評価します。

教科書	プライマリー法学	著者等	茂野隆晴編著	出版社	芦書房
教科書		著者等		出版社	
参考文献	エッセンシャル実定法学	著者等	佐藤・茂野編著	出版社	芦書房
参考文献	ポケット六法　平成29年版	著者等		出版社	有斐閣

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	現代社会での法の果たす役割	予習：教科書の該当項目を熟読し，具体的な例を思い描いてみる。 復習：現実に法が果たしている役割を整理しておく。
第2回	法と道徳，法の目的	予習：教科書の法と道徳に関する事項をよく読んおく。 復習：法と道徳について整理しておく。
第3回	法の存在形式，法の分類	予習：教科書の法の存在形式，法の分類に関する事項をよく読んでおく。 復習：講義で扱った法の存在形式，法の分類を整理しておく。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	法の適用と解釈，法の効力－実質的効力と形式的効力	予習：教科書の第1編第6章，第7章を読んでおく。 復習：法の適用と解釈，法の効力を整理しておく。
第5回	日本国憲法の基本原理－日本国憲法の柱になることが何であり，どのような機能を果たしているかについて考える。	予習：教科書の第2編第1章を読んでおく。 復習：日本国憲法の基本原理の内容について整理しておく。
第6回	基本的人権とは－人権保障のカタログ	予習：教科書の第2編第4章を読んでおく。 復習：基本的人権の概念を確認しておく。
第7回	基本的人権の一般原則，基本的人権と公共の福祉	予習：教科書の第2編第4章を読んでおく。 復習：基本的人権の一般原則，公共の福祉について整理しておく。
第8回	基本的人権の種別－平等権，自由権，社会権，参政権，請求権，義務	予習：教科書の第2編第4章を読んでおく。 復習：基本的人権の内容について整理しておく。
第9回	国会，内閣，裁判所の働き	予習：教科書の第2編第5章，第6章，第7章を読んでおく。 復習：国会，内閣，裁判所の働きについて整理しておく。
第10回	民法（財産法）－物権や債権	予習：物の所有や売買について考えてみる。 復習：物権や債権について整理しておく。
第11回	民法（家族法）－親族や相続，遺留分	予習：教科書の第4編を読んでおく。 復習：民法上の親族の範囲，相続分や遺留分について整理しておく。
第12回	商法－会社法，有価証券法	予習：会社や手形，小切手のりようについて考えてみる。 復習：会社や手形，小切手について整理しておく。
第13回	消費者保護のための法律－特定商取引法	予習：消費者保護のための法律について考えてみる。 復習：特定商取引法の概要について整理しておく。
第14回	消費者保護のための法律－消費者契約法	予習：消費者契約にはどのようなもjのがあるかについて考えてみる。 復習：消費者契約法の概要について整理しておく。
第15回	この講義で扱った事項のまとめ（振り返り）	予習：この講義で扱った事項について教科書，ノートで確認しておく。 復習：講義で扱った事項を整理しておく。

科目名(クラス)	日本国憲法と生活B	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1～4
担当教員	川端　敏朗	履修対象・条件	教職実践専攻は必修。教職課程履修者はAとのいずれか必修				

【授業の概要】

私たちの日常生活では，法的な判断をしなければならない数多くの場面に出会います。そこで，この講義では，日本国憲法（国家の統治および組織に関する基本法）をはじめとする法，たとえば民法，会社法，消費者法やその仕組みなどが実際の社会生活でどのような働きをしているかについて，裁判例や具体的な事例を通して理解することができるようにします。

【授業の到達目標】

法の果たす機能や法の必要性を考察し，法的なものの見方・考え方＝リーガル・マインドを身につけることができるようにし，法的な事象について具体的な考察ができるようにします。

【授業の「方法」と「形式」】

・講義形式ですが，身近な例をあげ，学生自らが考察できるようにします。また，資料などを用いて具体例も明示します。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・履修にあたり，テキストの該当項目をよく確認してください。受講中にはノートをしっかりととるように心がけてください。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・定期試験およびレポート（60%），受講中の熱意や積極性（40%）を踏まえ総合的に評価します。

教科書	プライマリー法学	著者等	茂野隆晴編著	出版社	芦書房
教科書		著者等		出版社	
参考文献	エッセンシャル実定法学	著者等	佐藤・茂野編著	出版社	芦書房
参考文献	ポケット六法　平成29年版	著者等		出版社	有斐閣

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	法の基本的な機能	予習：教科書の該当項目をよく確認しておく。 復習：法の役割について整理しておく。
第2回	国家と法	予習：教科書の国家と法の項目をよく確認しておく。 復習：講義で扱った国家と法について整理しておく。
第3回	日本国憲法の全体像	予習：教科書の日本国憲法の最初の項目を読んでおく。 復習：講義で扱った日本国憲法の全体像を整理しておく。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	基本的人権（人権確保のための制度など）	予習：教科書の基本的人権の項目をよく確認しておく。 復習：基本的人権の内容について整理しておく。
第5回	国会，内閣，裁判所の地位，権能	予習：教科書の第2編第5章，第6章，第7章を読んでおく。 復習：国会，内閣，裁判所の地位，権能について整理しておく。
第6回	地方自治の仕組み，憲法改正	予習：地方自治の仕組みや憲法改正について考えてみる。 復習：地方自治の仕組みや憲法改正について整理しておく。
第7回	裁判所の種類と審級，違憲法令法令審査権	予習：裁判所の働きについて考えてみる。 復習：裁判所の働きについて整理しておく。
第8回	犯罪と刑罰（刑事法）	予習：教科書の刑法や刑事訴訟法の内容について見ておく。 復習：犯罪と刑罰に関する事項について確認しておく。
第9回	裁判の手続き（民事裁判）	予習：教科書の民事裁判に関する事項を確認しておく。 復習：民事裁判の内容について整理しておく。
第10回	裁判の手続き（刑事裁判）	予習：教科書の刑事裁判に関する事項をよく確認しておく。 復習：刑事裁判の手続きについて整理しておく。
第11回	裁判員制度－長所，短所	予習：裁判員制度について考えてみる。 復習：裁判員制度の内容について整理しておく。
第12回	意思表示と契約	予習：意思表示や契約について考えてみる。 復習：意思表示の過程や契約の意義，種類を整理しておく。
第13回	不法行為	予習：不法行為とは何かを考えてみる。 復習：不法行為の意義や問題点を整理しておく。
第14回	情報化社会と法－電子商取引	予習：各種の電子商取引について考えてみる。 復習：電子商取引の意義，手続きや種類について整理しておく。
第15回	この講義で扱った事項のまとめ（振り返り）	予習：この講義で扱った事項を教科書，ノートで確認しておく。 復習：講義で扱った事項について整理しておく。

科目名(クラス)	国際理解と交流A	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1～4
担当教員	川端　敏朗	履修対象・条件					

【授業の概要】

21世紀は，いのちの世紀，水の世紀などといわれています。世界の人口はいまや70億を超えています。このうち12億人が安全な水を使用できない状況にあります。また残念なことに水や食糧をめぐり，紛争や戦争が幾度となく繰り返されてきました。レイチェル＝カーソンの著作『沈黙の春』は農薬が引き起こす環境汚染を警告した書物として有名ですが，オゾン層の破壊，酸性雨，海洋汚染，森林の減少，砂漠化という環境問題も私たち一人ひとりが解決しなければならない喫緊の課題です。講義では，多様な文化，民族，生活様式の相違や知的財産権，環境問題，人口問題，食糧問題などについて，資料や映像に触れながら検討します。

【授業の到達目標】

国際交流には流暢な外国語の使用のみならず，相手の考え方や，文化，生活様式の違いも踏まえ，十分に理解し合えることが何よりも重要です。国際理解と交流のために必要となる様々な事象に触れ，多様な考え方，文化について十分に把握し，幅広い柔軟な考え方ができるようにします。

【授業の「方法」と「形式」】

・講義形式ですが，身近な例をあげ学生自ら考察，発言できるものとします。また，DVDなどを用い具体例も明示します。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・履修にあたり，テキストの該当項目をよく確認して，受講中にはノートをしっかりととるように心がけてください。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・定期試験およびレポート（60%），受講中の熱意や積極性（40%）を踏まえ総合的に評価します。

教科書	今がわかる時代がわかる世界地図2017	著者等	正井泰夫監修	出版社	成美堂出版
教科書		著者等		出版社	
参考文献	なるほど地図帳世界2017	著者等	谷治他著	出版社	昭文社
参考文献	沈黙の春	著者等	レイチェル	出版社	新潮社

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	この講義で扱う事項の内容－国際理解と交流	予習：教科書の最初の項目についてよく理解しておく。 復習：国際理解と交流のために重要な事項を整理しておく。
第2回	世界の古代文明のはじまり－どのような文明であったのか	予習：世界の古代文明などの事項について見ておく。 復習：世界の古代文明のなかでの事項が現在に生かされる点を整理しておく。
第3回	日本人の暮らしとしきたり	予習：日本人の暮らしに根付いているしきたりを考えてみる。 復習：日本人の暮らしとしきたりについて配布した資料をよく読み，確認しておく。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	異文化交流の歴史－私たちはどのように文化交流してきたのか	予習：教科書の異文化交流についてよく確認しておく。 復習：現代までどのような文化交流があったかを整理しておく。
第5回	日本人の食文化とバランス－食糧自給率など	予習：教科書の食文化に関する項目をよく確認しておく。 復習：配布資料も参考に日本人の食文化について整理しておく。
第6回	世界各地の食文化	予習：教科書の世界各地の食文化に関する項目についてよく確認しておく。 復習：配布資料も参考に世界各地の食文化について整理しておく。
第7回	世界の裁判制度	予習：教科書で世界の裁判制度にはどのようなものがあるかを確認しておく。 復習：世界の裁判制度について整理しておく。
第8回	世界の地域的経済統合	予習：教科書で世界の地域的経済統合に関する項目をよく確認しておく。 復習：世界の地域的経済統合について整理しておく。
第9回	EU(ヨーロッパ連合）とユーロ	予習：教科書でEUに関する項目をよく読んでおく。 復習：EUやユーロの内容，その問題点について整理しておく。
第10回	世界各地の地域的紛争と法的解決	予習：教科書で世界各地の地域的紛争にはどのようなものがあるかを確認しておく。 復習：世界の地域的紛争の解決方法について整理しておく。
第11回	自由貿易とWTO（世界貿易機関）	予習：教科書で世界のなかでの自由貿易の内容，WTOについて確認しておく。 復習：自由貿易およびWTOについて整理しておく。
第12回	アメリカ大統領選挙	予習：教科書でアメリカ大統領選挙に関する事項をみておく。 復習：アメリカ大統領選挙，日本の首相選出方法について整理しておく。
第13回	知的財産権（小冊子を配布します。）	予習：教科書の知的財産に関する項目をよく確認しておく。 復習：小冊子で知的財産権の概要について確認しておく。
第14回	知的財産権－著作権とはどのようなものか	予習：配布資料の小冊子で著作権の概要についてみておく。 復習：著作権の種類や保護期間について整理しておく。
第15回	この講義で扱った事項のまとめ（振り返り）	予習：この講義で扱った事項について教科書，ノートで確認しておく。 復習：国際理解と交流の講義で扱ったすべての事項を整理しておく。

科目名(クラス)	国際理解と交流B	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1～4
担当教員	川端　敏朗	履修対象・条件					

【授業の概要】

21世紀は，いのちの世紀，水の世紀などといわれています。世界の人口はいまや70億人を超えています。このうち12億人が安全な水を使用できない状況にあります。また残念なことに水や食糧をめぐり，紛争や戦争が幾度となく繰り返されてきました。レイチェル＝カーソンの著作『沈黙の春』は農薬が引き起こす環境汚染を警告した書物として有名ですが，オゾン層の破壊，酸性雨，海洋汚染，森林の減少，砂漠化という環境問題も私たち一人ひとりが解決しなければならない喫緊の課題です。講義では，多様な文化，民族，生活様式の相違や知的財産権，環境問題，人口問題，食糧問題などについて，資料や映像に触れながら検討します。

【授業の到達目標】

国際交流には流暢な外国語の使用のみならず，相手の考え方や，文化，生活様式の違いも踏まえ，十分に理解し合えることが何よりも重要です。国際理解と交流のために必要となる様々な事象に触れ，多様な考え方，文化について十分に把握し，幅広い柔軟な思考ができるようにします。

【授業の「方法」と「形式」】

・講義形式ですが，身近な例をあげ学生自ら考察，発言できるものとします。また，DVDなどを用い具体例も明示します。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・履修にあたり，テキストの該当項目をよく確認して，受講中にはノートをしっかりとるように心がけてください。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・定期試験およびレポート（60%），受講中の熱意や積極性（40%）を踏まえ総合的に評価します。

教科書	今がわかる時代がわかる世界地図2017	著者等	正井泰夫著	出版社	成美堂出版
教科書		著者等		出版社	
参考文献	なるほど地図帳世界2017	著者等	谷治他著	出版社	昭文社
参考文献	沈黙の春	著者等	レイチェル	出版社	新潮社

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	この講義で扱う事項の内容－国際理解のための文化交流，生活様式，環境問題など。	予習：教科書で国際理解と交流に必要な事項を考えてみる。 復習：国際理解と交流のために必要な事項をまとめておく。
第2回	知的財産権①（小冊子を配布します。）	予習：知的財産権，特に著作権とはどのようなものであるかについて考えてみる。 復習：知的財産権，特に著作権の内容と種類を整理しておく。
第3回	知的財産権②（音楽著作権①）	予習：配布資料で著作権や音楽著作権について確認しておく。 復習：著作権や音楽著作権について整理しておく。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	知的財産権③（音楽著作権②）	予習：音楽著作権の内容について確認しておく。 復習：音楽著作物での留意事項についてまとめておく。
第5回	私たちの生活と水資源	予習：教科書で水資源に関する事項を確認しておく。 復習：講義で扱った水に関する事項について整理しておく。
第6回	水をめぐる法律問題	予習：水の規制などの法律や条約について考えておく。 復習：講義で扱った水に関する問題点を整理しておく。
第7回	私たちの食糧と自給	予習：教科書の食糧と自給に関する事項を読んでおく。 復習：講義で扱った食糧問題やわが国の食糧自給率について整理しておく。
第8回	人口問題と食糧の確保	予習：教科書の人口問題に関する事項を読んでおく。 復習：講義で扱った人口問題と食糧の確保に関する事項について整理しておく。
第9回	環境問題とは何か	予習：教科書の環境問題に関する事項を読んでおく。 復習：講義で扱った環境問題について整理しておく。
第10回	酸性雨，大気汚染など	予習：教科書の酸性雨に関する事項を確認しておく。 復習：講義で扱った酸性雨に関する事項について整理しておく。
第11回	森林の減少，砂漠化など	予習：教科書の森林の減少と砂漠化に関する事項を確認しておく。 復習：講義で扱った森林の減少と砂漠化について整理しておく。
第12回	環境問題と地球規模の温暖化	予習：教科書の地球規模の温暖化に関する事項を確認しておく。 復習：地球規模の温暖化の問題について整理しておく。
第13回	地球温暖化防止のための取り組み	予習：教科書の地球規模の温暖化に対する取り組みに関する事項を確認しておく。 復習：地球規模の温暖化の取り組みについて整理しておく。
第14回	地球温暖化防止のための条約など	予習：教科書の地球温暖化防止のための条約をかくにんしておく。 復習：地球温暖化防止のための法律や条約について整理しておく。
第15回	この講義で扱った事項のまとめ（振り返り）	予習：この講義で扱った事項を教科書，ノートで確認しておく。 復習：講義で扱ったすべての内容について確認しておく。

科目名(クラス)	社会福祉概論 〔老人・児童福祉を含む〕A	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1～4
担当教員	高畑　敦子	履修対象・条件	音楽療法専攻はBとのいずれか必修				

【授業の概要】

・私たちが自立した、より良い、幸せな生活を送ることは、とても大切なことであり、人としての権利でもあります。しかしながら、自分の努力だけで「より良い生活」を送ることは難しく、国・地方自治体・地域等が様々な取り組みで支援を行っています。それらの政策・施策が「社会福祉」です。
・この授業では、日本における社会福祉の制度や、現状および課題を学んでいきます。将来、皆さんが、社会的支援を必要とする人々と関わる仕事をしていく時に、相手を理解する一助となる内容です。

【授業の到達目標】

・自身の生活と関連づけ、社会福祉が身近にあることを自覚し、学んだ知識を生活や仕事に生かすことができる。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・新聞、テレビ、インターネットなどで「社会福祉」に関連するニュースや番組を意識して見ておくようにしてください。
・ディスカッションがある場合は、積極的な発言を望みます。
・遅刻、途中退出は原則として認めません。
・音楽療法専攻生は、ABの両方を履修修得することが望ましいです。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・学期末定期試験【4択問題と筆記】70%
・授業内レポートおよび小テスト30%

教科書	指定なし（毎回資料配布）	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	「社会福祉」について① ・概念、基本理念、定義 ・しくみ	予習：シラバスを読んで各回のテーマを押さえておく。 復習：配布資料の再読。
第2回	暮らしと社会福祉～現状と課題～	予習：前回配布資料を読んでおく。 復習：今回配布資料の再読。
第3回	社会福祉の法体系 ・法制度 ・実施のしくみ ・医療・保険との関連性	予習：前回配布資料を読んでおく。 復習：今回配布資料の再読。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	小テスト（ノート持ち込み可） ・第１回～第３回までの授業内容について、記述式のテストを実施	予習：第１回～３回までに配布された資料および、授業内で板書したものを再読、理解しておく。 復習：テスト内容で理解できなかった部分を確認し、資料を再読する。
第5回	地域の福祉① ・近年の福祉制度改革の経緯と特徴 ・地域福祉とコミュニティ ・概念	予習：前回配布資料を読んでおく。 復習：今回配布資料の再読。
第6回	地域の福祉② ・実際の方法	予習：自身の住んでいる地域の地域福祉について調べる。 復習：今回配布資料の再読。
第7回	女性と家族の福祉① ・現状、基本理念、制度	予習：前回配布資料を読んでおく。 復習：今回配布資料の再読。
第8回	女性と家族の福祉② ・実施体制、今後の課題	予習：前回配布資料を読んでおく。 復習：今回配布資料の再読。
第9回	児童家庭の福祉① ・現状、基本理念、制度	予習：前回配布資料を読んでおく。 復習：今回配布資料の再読。
第10回	児童家庭の福祉② ・実施体制、今後の課題	予習：前回配布資料を読んでおく。 復習：今回配布資料の再読。
第11回	小テスト（ノート持ち込み可） ・第５回～第１０回までの授業内容について、記述式のテストを実施	予習：第５回～１０回までに配布された資料および、授業内で板書したものを再読、理解しておく。 復習：テスト内容で理解できなかった部分を確認し、資料を再読する。
第12回	生活困窮者の福祉① ・現状、基本理念、制度	予習：前回配布資料を読んでおく。 復習：今回配布資料の再読。
第13回	生活困窮者の福祉② ・実施体制、今後の課題	予習：前回配布資料を読んでおく。 復習：今回配布資料の再読。
第14回	社会福祉の歴史	予習：前回配布資料を読んでおく。 復習：今回配布資料の再読。
第15回	まとめ	予習：各回に配布された資料および、授業内で板書したものを再読、理解しておく。 復習：授業で学んだことを、他科目や日常生活で学んだことと関連づけながら「社会福祉」の理解をより深めていく。

科目名(クラス)	社会福祉概論 〔老人・児童福祉を含む〕B	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1～4
担当教員	高畑　敦子	履修対象・条件	音楽療法専攻はAとのいずれか必修				

【授業の概要】

・私たちが自立した、より良い、幸せな生活を送ることは、とても大切なことであり、人としての権利でもあります。しかしながら、自分の努力だけで「より良い生活」を送ることは難しく、国・地方自治体・地域等が様々な取り組みで支援を行っています。それらの政策・施策が「社会福祉」です。
・この授業では、日本における社会福祉の制度や、現状および課題を学んでいきます。将来、皆さんが、社会的支援を必要とする人々と関わる仕事をしていく時に、相手を理解する一助となる内容です。

【授業の到達目標】

・自身の生活と関連づけ、社会福祉が身近にあることを自覚し、学んだ知識を生活や仕事に生かすことができる。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・新聞、テレビ、インターネットなどで「社会福祉」に関連するニュースや番組を意識して見ておくようにしてください。
・ディスカッションがある場合は、積極的な発言を望みます。
・遅刻、途中退出は原則として認めません。
・音楽療法専攻生は、ABの両方を履修修得することが望ましいです。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・学期末定期試験【4択問題と筆記】70%
・授業内レポートおよび小テスト30%

教科書	指定なし（毎回資料配布）	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	障害者の福祉① ・障害者について	予習：シラバスを読んで各回のテーマを押さえておく。 復習：配布資料の再読。
第2回	障害者の福祉② ・障害観の変遷、基本理念 ・現状	予習：前回配布資料を読んでおく。 復習：今回配布資料の再読。
第3回	障害者の福祉③ ・法体系と制度	予習：前回配布資料を読んでおく。 復習：今回配布資料の再読。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	障害者の福祉④ ・実施体制、今後の課題	予習：前回配布資料を読んでおく。 復習：今回配布資料の再読。
第5回	小テスト（ノート持ち込み可） ・第１回～第４回までの授業内容について、記述式のテストを実施	予習：第１回～４回までに配布された資料および、授業内で板書したものを再読、理解しておく。 復習：テスト内容で理解できなかった部分を確認し、資料を再読する。
第6回	高齢者の福祉① ・高齢者について ・基本理念 ・現状	予習：前回配布資料を読んでおく。 復習：今回配布資料の再読。
第7回	高齢者の福祉② ・基本理念 ・現状	予習：前回配布資料を読んでおく。 復習：今回配布資料の再読。
第8回	高齢者の福祉③ ・制度の経緯と現在	予習：前回配布資料を読んでおく。 復習：今回配布資料の再読。
第9回	高齢者の福祉④ ・実施体制（介護保険制度）、今後の課題	予習：前回配布資料を読んでおく。 復習：今回配布資料の再読。
第10回	小テスト（ノート持ち込み可） ・第６回～第９回までの授業内容について、記述式のテストを実施	予習：第６回～９回までに配布された資料および、授業内で板書したものを再読、理解しておく。 復習：テスト内容で理解できなかった部分を確認し、資料を再読する。
第11回	社会福祉施設の体系と運営	予習：前回配布資料を読んでおく。 復習：今回配布資料の再読。
第12回	社会福祉の担い手 ・マンパワー ・専門職、資格制度と倫理	予習：前回配布資料を読んでおく。 復習：今回配布資料の再読。
第13回	トピック検討 ・新聞、インターネット等から社会福祉に関係するトピックを選択し、課題や解決策について検討する。	予習：前回配布資料を読んでおく。 復習：今回配布資料の再読。
第14回	トピック検討 ・新聞、インターネット等から社会福祉に関係するトピックを選択し、課題や解決策について検討する。	予習：前回配布資料を読んでおく。 復習：今回配布資料の再読。
第15回	まとめ	予習：各回に配布された資料および、授業内で板書したものを再読、理解しておく。 復習：授業で学んだことを、他科目や日常生活で学んだことと関連づけながら「社会福祉」の理解をより深めていく。

科目名(クラス)	ひとを読み解く科学A	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1～4
担当教員	三室戸 元光	履修対象・条件	教職実践専攻のみ1～3に履修				

【授業の概要】

人の内面を読み解く方法をアセスメントといい、言葉や文章、数値や量的データを用いる方法と、制作物・作品又は教示物への反応等によって行う方法などが代表的です。アセスメントを、日常生活でどのようにマネジメントして活かしていくかを考えます。
前期前半には、ひとの「(悪い)ストレス」を減らし、「(適度な)ストレス」に変えていくマネジメントの練習を、段階的に個人内・ペア学習・グループ学習で学びます。また、前期後半には、アドラー心理学の考え方を使って、自分にも他者にも使える「勇気づけの心理学」を学ぶ中で、自分自身の心をマネジメントする方法やひとを勇気づける方法を総合的に身につけます。

【授業の到達目標】

ひとの内面を読み解く方法を使って、自分自身や同じ仲間をサポートできるようにするのが、この科目の目的です。自分自身や他者の内面に触れ理解を深めることによって、自分自身や仲間がどんなパーソナリティなのか、どんな心理的課題があるのか、について、それをリフレーミングによって肯定的かつ健全な勇気づけに転換できるようにしていきます。
最終的には、皆さんが仲間(＝ピア)同士の簡単なカウンセリングならばできる(＝ピア・カウンセラー)ようになることを目標とします。

【授業の「方法」と「形式」】

授業は全体講義＋個人ワーク・グループワーク、をアクティブ・ラーニング(協同学習)の手法も取り入れて行います。

【履修時の「留意点」と「心得」】

心理学についての全体解説はしないで、すぐ各論(ストレス・マネジメント他)に入ります。このため、別科目「現代の心理学A・B」を受講したあとで、この科目を受講することを、学生の皆さんにおすすめします。配布物などは専用の「緑ファイル」に入れて各自のロッカーで保管して下さい。また、教員が当日指定した配布物は、授業終了時に提出して下さい。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業時間内で「①中間試験(知的な理解がどの程度進んだかどうかを計る　30%)」と「②期末試験(自分自身やひとを読み解く練習をして、「ひと」の事例を読み解く能力がどの程度身についたかを確かめる　40%)」を行います。さらに③毎回の授業で提出してもらう課題のワークシートでの習得状況(30%)をもとに、総合的な評価をします。
②③については1つの正解を求めているのではなく、「獲得した知識や学び得たマネジメント能力をもとに、(感想文ではなく)自分の言葉で、ひとの内面の理解を、その根拠や理由とともに【科学的に】説明できているか」を基準に評価します。

授業時の態度目標は「考えたことを伝える・仲間に質問する・分かるように説明する」「自分から動く・チームで協働する・チームに役に立つ」です。

教科書	なし	著者等		出版社	
教科書	なし	著者等		出版社	
参考文献	子どもと若者のための認知行動療法ワークブック	著者等	ポール・スタラード:著　下山晴彦:監訳	出版社	金剛出版
参考文献	勇気づけの心理学	著者等	岩井俊憲	出版社	金子書房

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	授業インフォメーション 知的理解　認知行動療法によるストレス・マネジメントとは	予習:なし 復習:授業で指示された課題を提出する
第2回	知的理解　自分の気持ちに気づく	予習:「この人は何を考えているのかな？この猫とネズミは何を考えているのかな？ワークシート」にとりくむ 復習:授業で指示された課題を提出する
第3回	知的理解　認知行動療法モジュール1 自分の「認知(考え方の癖)」に気づく	予習:「ポジティブ日記　学校生活版」にとりくむ 復習:授業で指示された課題を提出する

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	知的理解　認知行動療法モジュール2 考え方と気持ち、行動と気持ち	予習：「出来事を整理するワークシート、刺激と行動のパターンを学ぶ」にとりくむ 復習：授業で指示された課題を提出する
第5回	知的理解　認知行動療法モジュール3 悪さをする「自動思考」	予習：「心の中心にある『思い込み』をとらえてみよう」にとりくむ 復習：授業で指示された課題を提出する
第6回	知的理解　認知行動療法モジュール4 考え方を変えてみる	予習：「DACS自動思考をさぐる、又はJIBI－R不合理な信念をみつける」にとりくむ 復習：授業で指示された課題を提出する
第7回	知的理解　認知行動療法モジュール5 いつもと違う行動をしてみる	予習：「見つめ直し日記を書いてみよう」にとりくむ 復習：授業で指示された課題を提出する
第8回	★★★中間まとめ（認知行動療法についての知的理解）	予習：「行動実験ワークシート」および前期前半の総復習を行う 復習：授業で指示された課題にとりくむ
第9回	勇気づけの心理学　理論編 自己受容・劣等コンプレックス・自己決定性 勇気づけの演習その1　SCT	予習：「あなたはどんな時に幸せな気持ちになりますか？あなたはどんな時に不安な気持ちになりますか？」にとりくむ 復習：週間練習　SCTにとりくむ
第10回	勇気づけの心理学　理論編 勇気づけの前提条件 勇気づけの演習その2　打ち消しによる勇気づけ	予習：課題「SCT」に取り組む。要提出。 復習：「週間演習　打ち消しによる勇気づけ」にとりくむ
第11回	勇気づけの心理学　理論編 勇気づける人から学ぶ 勇気づけの演習その3　あなたを勇気づけた人たち	予習：課題「打ち消しによる勇気づけ」にとりくむ。要提出。 復習：「週間演習　あなたを勇気づけた人たち」にとりくむ
第12回	勇気づけの心理学　実践編　勇気づけ名人への道 勇気づけの演習その4　悪魔のささやき・天使のささやき	予習：課題「あなたを勇気づけた人たち」にとりくむ。要提出。 復習：「週間演習　悪魔のささやき・天使のささやき」にとりくむ
第13回	勇気づけの心理学　実践編　勇気づけ演習 勇気づけの実践 勇気づけの演習その5　短所は長所リフレーミング	予習：課題「悪魔のささやき・天使のささやき」にとりくむ。要提出。 復習：「週間演習　短所は長所リフレーミング」にとりくむ
第14回	勇気づけの心理学　実践編　勇気づけのケーススタディ 勇気づけの演習その6　好感度ステップ	予習：課題「短所は長所リフレーミング」にとりくむ。要提出。 復習：「週間演習　好感度ステップ」にとりくむ
第15回	★★★前期後半まとめ（勇気づけの心理学の総合力）	予習：前期後半の授業内容を再度確認しておく 復習：なし

科目名(クラス)	ひとを読み解く科学B	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1～4
担当教員	三室戸 元光	履修対象・条件	教職実践専攻のみ1～3に履修				

【授業の概要】

ひとの内面を読み解く方法をアセスメントといい、言葉や文章、数値や量的データを用いる方法と、制作物・作品又は教示物への反応等によって行う方法などが代表的です。
後期前半には、制作物や作品を通してアセスメントを行う描画法をもとに、描画作者（子ども～学生）の心象世界に触れつつ、後半でひとの内面を深く読み解くための分析方法を、個人内、グループ内検討、グループ発表で総合的に身につけます。特に、後期後半は実際の描画事例をもとに、アセスメントによるカウンセリングとその人への援助の立案の実践練習を行います。

【授業の到達目標】

ひとの内面を読み解く方法を使って、自分自身や同じ仲間をサポートできるようにするのが、この科目の目的です。自分自身や他者の内面に触れ理解を深めることによって、自分自身や仲間がどんなパーソナリティなのか、どんな心理的課題があるのか、どんな援助の方針が考えられるかについて、「制作物・作品によって行う方法」を軸に、カウンセリングでアセスメントを活用できるようにしていきます。最終的には、皆さんが仲間（＝ピア）同士の簡単なカウンセリングならばできる（＝ピア・カウンセラー）ようになることを目標とします。

【授業の「方法」と「形式」】

授業は、後期前半に描画体験と描画法の解説、後期後半に事例検討と事例についてのグループ演習、を行います。

【履修時の「留意点」と「心得」】

心理学についての全体解説はしないで、すぐ各論（描画法）に入ります。このため、別科目「現代の心理学A・B」を受講したあとで、この科目を受講することを、学生の皆さんにおすすめします。配布物などは専用の「黄色ファイル」に入れて各自のロッカーで保管して下さい。また、教員が当日指定した配布物は、授業終了時に提出して下さい。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業時間内で「①中間試験（知的な理解がどの程度進んだかどうかを計る　30%）」と「②期末試験（自分自身やひとを読み解く練習をして、「ひと」の事例を読み解く能力がどの程度身についたかを確かめる　40%）」を行います。さらに③毎回の授業で提出してもらう課題のワークシートによる授業の習得状況（30%）をもとに、総合的な評価をします。
②③については1つの正解を求めているのではなく、「獲得した知識や学び得たマネジメント能力をもとに、（感想文ではなく）自分の言葉で、ひとの内面の理解を、その根拠や理由とともに【科学的に】説明できているか」を基準に評価します。

授業時の態度目標は「考えたことを伝える・仲間に質問する・分かるように説明する」「自分から動く・チームで協働する・チームに役に立つ」です。

教科書	なし	著者等		出版社	
教科書	なし	著者等		出版社	
参考文献	スクールカウンセリングに活かす描画法	著者等	高橋依子	出版社	金子書房
参考文献	描画テスト	著者等	高橋依子	出版社	北大路書房

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	授業インフォメーション 知的理解　質問紙法と投映法の「アセスメント手法」の違い	予習：なし 復習：質問紙法と投映法の違いを確認する（特に前期から継続受講する学生は、必要不可欠です）
第2回	知的理解　樹木画についての理解のしかた	予習：投映法による見立て方を前回のプリントで確かめておく 復習：授業で指示した課題を提出する
第3回	知的理解　人物画についての理解のしかた	予習：樹木画での描画の見立て方のポイントを、前回のプリントで確認する 復習：授業で指示した課題を提出する

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	知的理解　HTTP法描画についての理解のしかた	予習：人物画での描画の見立て方のポイントを、前回のプリントで確認する 復習：授業で指示した課題を提出する
第5回	知的理解　家族画・動的家族画についての理解のしかた	予習：HTTP法での描画の見立て方のポイントを、前回のプリントで確認する 復習：授業で指示した課題を提出する
第6回	知的理解　学校画・動的学校画についての理解のしかた	予習：家族画での描画の見立て方のポイントを、前回のプリントで確認する 復習：授業で指示した課題を提出する
第7回	★★★中間まとめ（描画法についての知的理解を確かめる）	予習：前半のアセスメント法や描画法の見立て方の総復習をしておく 復習：描画事例を見て、見立て方を確認する
第8回	アセスメント事例検討　描画を用いたカウンセリング・トレーニング１	予習：描画法による見立て方を事前に確認しておく 復習：課題を提出する。
第9回	アセスメント事例検討　描画を用いたカウンセリング・トレーニング２	予習：前回の課題で理解できたこと、分からなかったことをそれぞれ見つけておく 復習：描画法による見立て方を再度確認する。課題を提出する。
第10回	アセスメント事例検討　描画を用いたカウンセリング・トレーニング３	予習：前回の課題で理解できたこと、分からなかったことをそれぞれ見つけておく 復習：描画法による見立て方を再度確認する。課題を提出する。
第11回	アセスメント事例検討　描画を用いたカウンセリング・トレーニング４	予習：前回の課題で理解できたこと、分からなかったことをそれぞれ見つけておく 復習：描画法による見立て方を再度確認する。課題を提出する。
第12回	アセスメント事例検討　描画を用いたカウンセリング・トレーニング５	予習：前回の課題で理解できたこと、分からなかったことをそれぞれ見つけておく 復習：描画法による見立て方を再度確認する。課題を提出する。
第13回	アセスメント事例検討　描画を用いたカウンセリング・トレーニング６	予習：前回の課題で理解できたこと、分からなかったことをそれぞれ見つけておく 復習：描画法による見立て方を再度確認する。課題を提出する。
第14回	★★★後期後半まとめ（人物理解の総合力を計る）その１ 後期後半の事例検討の方法を使って、描画法による総合的なアセスメントと援助の立案について、紙上実践を行う	予習：前回の課題で理解できたこと、分からなかったことをそれぞれ見つけておく 復習：描画法による見立て方を再度確認する。課題を提出する。
第15回	★★★後期後半まとめ（人物理解の総合力を計る）その２ 受講者個人個人が描いた描画をもとに、カウンセリング実践演習を行う	予習：描画法による見立て方を再度確認する。 復習：課題を提出する

科目名(クラス)	現代の心理学〔発達心理を含む〕A	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1～4
担当教員	徳富　政樹	履修対象・条件	音楽療法専攻はBとのいずれか必修				

【授業の概要】

これまで「心理学」という言葉を聞いたこともないという方もいると思います。高等学校までの授業では心理学という科目がないのでそれも当然のことでしょう。しかし人間の心に関しては日々考えることがあり、素朴ながらも人間の心理について皆さんが考えているのも事実です。そこで、この授業では人間の心と行動について入門的なお話をしていこうと思います。身の周りにある事象を取り上げ、それをわかりやすく心理学的に解説していきます。前期では学習心理学、認知心理学、社会心理学といった心理学の基礎的分野についてお話をします。

【授業の到達目標】

心理学とはどのような研究をしている学問分野なのかを理解する。自分の身の回りの事象が一体どのような心理的メカニズムで生じているものなのか考察できるようになること。

【授業の「方法」と「形式」】

基本的に講義形式です。

【履修時の「留意点」と「心得」】

この授業では板書をたくさんするのできちんとノートをとる必要があります。ただ書き写すだけではなく自分なりの説明を加えてわかりやすいノートを作成するようにしてください。当たり前のことですが、遅刻、無断早退、私語は厳禁です。

【成績評価の「方法」と「基準」】

レポート(70%)+授業への取り組み方(授業終了後の小レポート、授業時の積極性)(30%)で成績評価を行います。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	やさしい教育心理学 第3版	著者等	鎌原雅彦	出版社	有斐閣
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	心理学入門	予習:心理学に対するイメージをまとめておく 復習:心理学の研究分野にはどのようなものがあるのか
第2回	学習心理学 その1	予習:「学習」という言葉から受けるイメージをまとめておく 復習:古典的条件付けについてまとめてみる
第3回	学習心理学 その2	予習:報酬の効果について自分なりのイメージをまとめておく 復習:道具的条件付けについてまとめてみる

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	学習心理学 その3	予習:人に対して道具的条件付けをどのうようにすればいいか予め考えておく 復習:人に対する道具的条件付けの効果についてまとめてみる
第5回	学習心理学 その4	予習:人間と動物の学習の違いについて考えておく 復習:観察学習と自己強化についてまとめてみる
第6回	認知心理学 その1	予習:記憶についてのイメージをまとめておく 復習:記憶のプロセスについてまとめてみる
第7回	認知心理学 その2	予習:記憶の失敗体験をまとめておく 復習:なぜ記憶の失敗が生じるのかそのメカニズムをまとめてみる
第8回	認知心理学 その3	予習:目の錯覚が生じた経験をまとめておく 復習:目の錯覚を利用した広告事例を探してみる
第9回	認知心理学 その4	予習:脳の働きについての自分なりのイメージをまとめておく 復習:視覚と脳の関係についてまとめてみる
第10回	認知心理学 その5	予習:これまでの自分の経験で誤った思考過程についてまとめておく 復習:思考のメカニズムについてまとめてみる
第11回	認知心理学 その6	予習:自分の体験内で突然のひらめきが生じた事例をピックアップしてみる 復習:認知心理学の研究分野についてまとめてみる
第12回	社会心理学 その1	予習:集団が個人に対して影響を与えている事例を集めてみる 復習:他者や集団から影響される過程についてまとめてみる
第13回	社会心理学 その2	予習:「マインドコントロール」という言葉について調べておく 復習:マインドコントロールの過程についてまとめてみる
第14回	社会心理学 その3	予習:血液型と性格との関連についてのイメージをまとめておく 復習:心理学における血液型研究についてまとめてみる
第15回	まとめ	予習:これまでの授業内容についてもう一度振り返ってみる 復習:心理学の様々な研究分野の特徴をまとめてみる

科目名(クラス)	現代の心理学〔発達心理を含む〕B	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1～4
担当教員	徳富　政樹	履修対象・条件	音楽療法専攻はAとのいずれか必修				

【授業の概要】

これまで「心理学」という言葉を聞いたこともないという方もいると思います。高等学校までの授業では心理学という科目がないのでそれも当然のことでしょう。しかし人間の心に関しては日々考えることがあり、素朴ながらも人間の心理について皆さんが考えているのも事実です。そこで、この授業では人間の心と行動について入門的なお話をしていこうと思います。身の周りにある事象を取り上げ、それをわかりやすく心理学的に解説していきます。後期授業では臨床心理学、発達心理学などの応用的分野についてのお話となります。

【授業の到達目標】

心理学には様々な考え方があることを把握して、それぞれ違いを自分なりにまとめることができるようになること。

【授業の「方法」と「形式」】

基本的に講義形式です。

【履修時の「留意点」と「心得」】

この授業では板書をたくさんするのできちんとノートをとる必要があります。ただ書き写すだけではなく自分なりの説明を加えてわかりやすいノートを作成するようにしてください。当たり前のことですが、遅刻、無断早退、私語は厳禁です。

【成績評価の「方法」と「基準」】

テスト(70%)+授業への取り組み方(授業終了後の小レポート、授業時の積極性)(30%)で成績評価を行います。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	やさしい教育心理学 第3版	著者等	鎌原雅彦	出版社	有斐閣
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	臨床心理学 その1	予習:カウンセリングという言葉のイメージを予めリストアップしておく 復習:様々なカウンセリングの考えかたを簡単にまとめてみる
第2回	臨床心理学 その2	予習:フロイトとユングという人名を予め調べてみる 復習:フロイトの考えかたについてまとめてみる
第3回	臨床心理学 その3	予習:自分が見た夢をいくつかまとめてみる 復習:ユングの考えかたについてまとめてみる

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	臨床心理学 その4	予習:行動療法という言葉について予め調べておく 復習:行動療法と認知療法についてまとめてみる
第5回	発達心理学 その1	予習:自分の生まれ育った歴史を振り返ってみる 復習:「発達」という言葉の意味をまとめてみる
第6回	発達心理学 その2	予習:発達に必要なものをイメージしてみる 復習:発達の過程についてまとめてみる
第7回	発達心理学 その3	予習:人間と動物の行動に違いがあるか予め考えておく 復習:臨界期と敏感期の違いについてまとめてみる
第8回	発達心理学 その4	予習:頭がいいとはどういうことが予めまとめておく 復習:知能指数の概念についてまとめてみる
第9回	発達心理学 その5	予習:知能が発達する過程について自分なりのイメージをまとめてみる 復習:ピアジェの発達段階の考え方をまとめてみる
第10回	発達心理学 その6	予習:性と発達について予め自分なりのイメージをまとめてみる 復習:フロイトの発達段階の考え方についてまとめてみる
第11回	発達心理学 その7	予習:自分が将来何になりたいのかのイメージをまとめてみる 復習:エリクソンの自我同一性の考えかたについてまとめてみる
第12回	生理心理学	予習:自分の睡眠状況について予めまとめておく 復習:レム睡眠とノンレム睡眠の違いについてまとめてみる
第13回	教育心理学	予習:教育現場で心理学をどう活かすかのイメージをまとめておく 復習:ピグマリオン効果についてまとめてみる
第14回	発達臨床心理学	予習:自分が中学生の頃に何に悩んでいたのか振り返ってまとめてみる 復習:思春期の心理状態についてまとめてみる
第15回	まとめ	予習:これまで授業内容について振り返ってみる 復習:心理学とは何かについて自分なりの考えかたをまとめてみる

科目名(クラス)	コンピュータ演習A	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1～4
担当教員	湯浅　恭子	履修対象・条件	教職課程履修者と教職実践専攻は必修。				

【授業の概要】

「情報を得る・発信する・保管する」「コミュニケーションをはかる」など、コンピュータの活用法はとても多様になっています。企業や学校教育現場などにおいてもコンピュータを活用する場面は多くあります。本演習では、文書作成ソフトウェアを用いた書類作成やプレゼンテーションの実習を行います。またインターネットを利用する上での情報モラルや、情報技術についても学習します。
みなさんの身近にあるコンピュータを情報整理や情報発信に活用し、操作を通じて考え方と応用の仕方を見につけていきます。
「コンピュータは苦手」という意識がある学生も、是非一緒にそれをなくしていきましょう。

【授業の到達目標】

・Windows、Microsoft Office Word,PowerPointの基本的な操作ができる。
・文書作成やプレゼンテーション実習を通じて、的確な伝え方や発信の仕方を身につける。
・情報機器を使う上での情報セキュリティに関する基本的な仕組みを理解し、安全に利用できる。
・インターネットやSNSを利用する際の情報モラルを理解し、活用できる。

【授業の「方法」と「形式」】

演習形式・講義形式・グループでのプレゼンテーション実習

【履修時の「留意点」と「心得」】

・課題データを保存するため、USBフラッシュメモリ（2GB～）を必ず用意してください。
・授業への参加姿勢、時間と期限を守ることを重視します。
　授業開始後、30分を越えてからの入室は欠席、また遅刻は3回で欠席1とします。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・授業への参加度（積極性・演習課題への取り組み）40%
・各演習ごとの提出物・プレゼンテーション内容30%
・学期末実技試験30%

教科書	30時間でマスター Office2013	著者等	実教出版編修部	出版社	実教出版
教科書	必要に応じて授業時にプリントを配布	著者等		出版社	
参考文献	最新 情報トピックス 2017	著者等	久野靖 他(監修)	出版社	日経BP社
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	〔OS-オペレーティングシステム-とソフトウェア・ハードウェア〕 〔身近なコンピュータのしくみ①〕	予習：シラバスを読んで各回のテーマを押さえておく。 復習：身近な情報機器のOSについて調べ、配布プリントに沿ってまとめる。
第2回	〔身近なコンピュータのしくみ②〕 〔教育における情報活用・eラーニング〕 〔情報セキュリティ　コンピュータやネットワークを安全に使うために〕	予習：eラーニングについて、その種類や活用方法について調べる。 復習：自分の利用している情報機器の安全対策を確認し、続けて管理を行う。
第3回	〔情報セキュリティ　ネットワークにおける脅威〕 〈Windowsの基本操作〉 〈文書作成ソフトウェア-Word-演習（1）〉 ・文字入力・編集	予習：ネットワークを利用する際のリスクについて調べる。 復習：Windowsの基本操作を確認する（PCまたは教科書を使用）。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	〔画像のディジタル化〕 〈文書作成ソフトウェア-Word-演習（2）〉 ・画像の取り込み	予習：自己プロフィール・取り込む写真の準備。 復習：ディジタル画像について身近な情報機器で ファイル形式や画質・圧縮方法を調べる。
第5回	〈文書作成ソフトウェア-Word-演習（3）〉 ・一般的なビジネス文書の作成① ・ワードアートや図形の利用	予習：作成するチラシ・ポスターの構想を行う。 参考になるポスターなどを集める。 復習：授業で行ったWordの基本操作を確認する （PCまたは教科書を使用）。
第6回	〈文書作成ソフトウェア-Word-演習（4）〉 ・一般的なビジネス文書の作成② ・表の活用	予習：作成する案内状・招待状の文書内容を 準備する。 復習：授業で行ったWordの基本操作を確認する （PCまたは教科書を使用）。
第7回	〈文書作成ソフトウェア-Word-演習（5）〉 ・ヘッダーとフッター ・印刷・ページ設定について ・総合的な文書の作成（ディジタルデータの活用）	予習：指導者の立場を想定し、音楽教材の 作成の準備をする。 復習：授業で行ったWordの基本操作を確認する （PCまたは教科書を使用）。
第8回	〈文書作成ソフトウェア-Word- まとめ〉 ・問題演習 〔クラウドコンピューティング〕	予習：前回の授業での配布資料を読む。 復習：身近なクラウドコンピューティングを調べ、 利用方法やメリット・デメリットをまとめる。
第9回	情報を集め、まとめ、発信する ・プレゼンテーションの組み立て ・PowerPointの基本操作 〔情報技術の発達 IoT/AI/VR〕	予習：前回の授業での配布資料を読む。 復習：授業で取り扱った情報技術について、 利用方法やメリット・デメリットなどを調べる。
第10回	情報を集め、まとめ、発信する 〈プレゼンテーションの準備（グループ演習）①〉	予習：プレゼンテーションのテーマの候補を挙げ 下調べを行う。 復習：プレゼンテーションのストーリーの流れを 整理する。
第11回	情報を集め、まとめ、発信する 〈プレゼンテーションの準備（グループ演習）②〉	予習：プレゼンテーションに必要な調べを行う。 テーマに対する意見をまとめる。 復習：グループでストーリーを完成させる。
第12回	情報を集め、まとめ、発信する 〈プレゼンテーションの準備（グループ演習）③〉	予習：プレゼンテーションに必要な調べを行う。 テーマに対する意見をまとめる。 復習：グループでストーリーを完成させる。
第13回	情報を集め、まとめ、発信する 〈グループプレゼンテーション実践①〉	予習：プレゼンテーションのリハーサルを行う。 復習：実践したプレゼンテーションの評価と 改善を行う。
第14回	情報を集め、まとめ、発信する 〈グループプレゼンテーション実践②〉	予習：プレゼンテーションのリハーサルを行う。 復習：実践したプレゼンテーションの評価と 改善を行う。
第15回	まとめ	予習：各回で行ったことを振り返る。 Microsoft Wordの基本操作を確認する。 復習：授業で学んだ情報セキュリティ・情報モラル 資料を再確認し、続けて実践する。

科目名(クラス)	コンピュータ演習B	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1～4
担当教員	湯浅　恭子	履修対象・条件	教職課程履修者と教職実践専攻は必修。				

【授業の概要】

コンピューター演習Aで学んだWindowsの基本操作をもとに、他のソフトウエアを用いながらコンピュータの利用方法の幅を広げます。
表計算ソフトウエア(Excel)・楽譜作成ソフトウエア・音楽制作ソフトウエアの基本操作を学んだあと、各自で理解を深めたいソフトウエアを選び、個人またはグループワークで演習を進めていきます。自身の音楽活動や教育現場での利用に繋げられるよう、活用方法を考察します。また著作権などの知的財産権や、肖像権などの個人の権利について正しく理解し、インターネットやSNS、コンテンツを適切に利用できるよう学習します。

【授業の到達目標】

・表計算ソフトウエア(Excel)の基本操作ができる。
・楽譜作成ソフトウエア、音楽制作ソフトウエアの基本操作と、その利用の概要を理解する。
・音楽に関するソフトウエアの利用を通じて、自身の音楽活動や教育現場での活用法を見い出す。
・知的財産権、個人の権利について正しく理解する。

【授業の「方法」と「形式」】

演習形式(個人、グループ)・講義形式

【履修時の「留意点」と「心得」】

・課題データを保存するため、USBフラッシュメモリ(2GB～)を必ず用意してください。
・授業への参加姿勢、時間と期限を守ることを重視します。
　授業開始後、30分を越えてからの入室は欠席、また遅刻は3回で欠席1とします。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・授業への参加度(積極性・演習課題への取り組み)40%
・各演習ごとの提出物30%
・学期末提出課題(各自選択)30%

教科書	30時間でマスター Office2013	著者等	実教出版編修部	出版社	実教出版
教科書	必要に応じて授業時にプリントを配布	著者等		出版社	
参考文献	最新 情報トピックス 2017	著者等	久野靖 他(監修)	出版社	日経BP社
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	〔知的財産権〕 〈Windowsの基本操作の確認〉 〈音楽制作ソフトウエアの基本操作(1)〉	予習:シラバスを読んで各回のテーマを押さえておく。 復習:著作物の利用についてのプリント課題。
第2回	〔情報モラル(肖像権や人格権などの個人の権利)〕 〔音楽情報とディジタル〕 〈音楽制作ソフトウエアの基本操作(2)〉	予習:配布テキストの確認と整理。 復習:知的財産権・情報モラルに関しての自身の考えを文章にまとめる。
第3回	〈音楽制作ソフトウエアの基本操作(3)〉	予習:配布テキストの確認と整理。 復習:音楽制作ソフトウエアでできることを調べ、自分の音楽活動との関わりを考察する。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	〈楽譜作成ソフトウェア-Sibelius-の基本操作（1）〉	予習：配布テキストの確認と整理。 復習：配布テキストを用いて操作の確認をする。
第5回	〈楽譜作成ソフトウェア-Sibelius-の基本操作（2）〉	予習：演習で使用する楽曲を準備する。 必要に応じて手書き譜面をおこす。 復習：配布テキストを用いて操作の確認をする。
第6回	〈楽譜作成ソフトウェア-Sibelius-の基本操作（3）〉	予習：必要に応じて手書き譜面をおこす。 復習：配布テキストを用いて操作の確認をする。
第7回	〈表計算ソフトウェア-Excel-の基本操作-（1）〉 ・表作成　罫線の利用	予習：スケジュール管理表の仕様を考える。 復習：教科書・コンピュータを用いてExcelの 操作確認をする。
第8回	〈表計算ソフトウェア-Excel-の基本操作-（2）〉 ・計算式の利用①	予習：配布テキストの確認と整理。 復習：教科書・コンピュータを用いてExcelの 操作確認をする。
第9回	〈表計算ソフトウェア-Excel-の基本操作-（3）〉 ・計算式の利用②	予習：配布テキストの確認と整理。 復習：教科書・コンピュータを用いてExcelの 操作確認をする。
第10回	〈表計算ソフトウェア-Excel-の基本操作-（4）〉 ・計算式の利用③	予習：配布テキストの確認と整理。 復習：教科書・コンピュータを用いてExcelの 操作確認をする。
第11回	ソフトウエア実習-1 第2～10回で取り上げた3つのソフトウエアから選択して演習	予習：理解を深めたいソフトウエアを選択する。 実習に必要な資料を集める。 復習：配布テキストの確認と整理。
第12回	ソフトウエア実習-2 第2～10回で取り上げた3つのソフトウエアから選択して演習 （原則として前回と同じソフトウエアで続けて行う）	予習：実習に必要な資料を集める。 必要に応じて手書きで資料を作成する。 詳細は授業時に指示。 復習：配布テキストの確認と整理。
第13回	ソフトウエア実習-3 第2～10回で取り上げた3つのソフトウエアから選択して演習 （原則として前回と同じソフトウエアで続けて行う）	予習：実習に必要な資料を集める。 必要に応じて手書きで資料を作成する。 詳細は授業時に指示。 復習：配布テキストの確認と整理。
第14回	ソフトウエア実習-4 第2～10回で取り上げた3つのソフトウエアから選択して演習 （原則として前回と同じソフトウエアで続けて行う）	予習：実習に必要な資料を集める。 必要に応じて手書きで資料を作成する。 詳細は授業時に指示。 復習：配布テキストの確認と整理。
第15回	まとめ	予習：各回で行ったことを振り返る。 復習：授業で学んだことをもとに、興味を持った コンピュータの利用方法を掘り下げる。 自身の活動や音楽教育へ活用する。

科目名(クラス)	ウィーンの社会と文化A－a･b	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	荒木　洋育	履修対象･条件	全専攻必修				

【授業の概要】

オーストリアとその首都である都市ウィーンの歴史と文化を、ハンガリー、チェコ、スロヴァキア等中欧世界の流れとも関連づけながら、1年をかけてたどっていきます。その際に、社会変動と文化事象との関わりが密接になる18世紀末～19世紀初頭の時期、具体的には「ウィーン会議」前後の時期を一つの分岐点として考え、前期の授業ではそれ以前の時代について扱います。

【授業の到達目標】

オーストリア、およびその首都ウィーンを、ハンガリー、チェコ等を含む中欧世界の枠組みのなかでとらえる視点を身につける。また音楽という芸術形態を、各作品が作られた時代と社会状況、文化環境というより広い観点から理解できるようになる。

【授業の「方法」と「形式」】

口頭発表など学生とのコミュニケーションをとる時間（20分～30分）、講義（60分～70分）で構成します。

【履修時の「留意点」と「心得」】

･オーストリア、ウィーンの歴史･文化に関する知識を学生の皆さんが初歩段階から身につけるという前提で授業を行います。
･口頭発表を含め、積極的な授業参加を期待しています。

【成績評価の「方法」と「基準」】

･口頭発表（任意の楽曲について、自分の言葉で説明する（50%）
（指定の時間内に、選んだ曲の知名度も考慮して、内容、魅力等について適切な説明をおこなうこと）
･期末レポート（50%）

教科書	（プリントを授業時に配布する）	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	『世界各国史　19　ドナウ･ヨーロッパ史』	著者等	南塚信吾（編）	出版社	山川出版社
参考文献	（その他授業時に適宜指定）	著者等		出版社	

【授業計画･内容･準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習･復習）
第1回	導入：オーストリアとウィーン ･「中欧国家」「アルプス国家」としてのオーストリア。 ･「多民族都市」としてのウィーン。	復習：授業の内容を確認する。
第2回	中世西欧世界とオーストリア（1） 西欧世界の「辺境」としてのオーストリアの登場。	復習：授業の内容を確認する。
第3回	中世西欧世界とオーストリア（2） ･「中世ドイツ帝国」の盛衰。 ･バーベンベルク家のオーストリア支配。	復習：授業の内容を確認する。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	中世西欧世界とオーストリア（3） ・ベーメンによる支配。 ・ハプスブルク家による支配の開始。	復習：授業の内容を確認する。
第5回	ハプスブルク家の発展 ・ハプスブルク家の分割相続。 ・他の中欧国家、および他の家門（ルクセンブルク家など）との競合。	予習：『ドナウ・ヨーロッパ史』第1章、第2章を読んでおく。 復習：授業内容を確認する。
第6回	ベーメンとハンガリー ・ベーメンの歴史、および「帝国」との関係。 ・ハンガリーの歴史、およびオーストリアとの関係。	予習：『ドナウ・ヨーロッパ史』第1章、第2章を読んでおく。 復習：授業内容を確認する。
第7回	「ハプスブルク帝国」の成立と宗教改革 ・諸領域の統合と統治。 ・カール5世の「帝国」と宗教改革の推移。	復習：授業の内容を確認する。
第8回	三十年戦争 ・「帝国」内の宗教対立の激化。 ・戦争の経緯とウェストファリア条約（1648年）。	復習：授業の内容を確認する。
第9回	「ドナウ帝国」の成立 ・「帝国」から「オーストリア」へ。 ・トルコとの戦争と領土拡大。	予習：『ドナウ・ヨーロッパ史』第3章を読んでおく。 復習：授業内容を確認する。
第10回	マリア＝テレジアと後継者たち ・オーストリア継承戦争と七年戦争。 ・マリア＝テレジアとヨーゼフ2世。	復習：授業の内容を確認する。
第11回	「神聖ローマ帝国」の終わり ・フランス革命、ナポレオンへの対処。 ・「オーストリア帝国」の成立。	復習：授業の内容を確認する。
第12回	「ウィーン体制」とウィーン ・ウィーン体制の中でのオーストリアの位置。 ・「三月前期」の政治体制。	復習：授業の内容を確認する。
第13回	都市ウィーンとその音楽環境 ・ウィーンの都市構造と建造物。 ・18世紀半ばまでの音楽状況。	予習：観光ガイドなどを読んでおく。 復習：授業内容を確認する。
第14回	モーツァルトの時代のウィーンの文化状況 ・モーツァルトの活動。 ・18世紀末のウィーンの文化状況。	復習：授業内容を確認し、紹介された曲を聴いておく。
第15回	ベートーヴェンの時代のウィーンの文化状況 ・ベートーヴェンの活動。 ・19世紀初頭のウィーンの文化状況。 まとめ	復習：授業内容を確認し、紹介された曲を聴いておく。

科目名(クラス)	ウィーンの社会と文化B－a･b	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	荒木　洋育	履修対象･条件	全専攻必修				

【授業の概要】

前期から継続して、オーストリアとその首都ウィーンの歴史および文化を他の中欧地域の流れと関連づけながらたどっていきます。後期では「ウィーン会議」を起点として、その時点での社会、文化状況を改めて振り返ることから出発し、現代(21世紀前半)まで授業を進めていく予定です。

【授業の到達目標】

前期の授業で提示した2つの目標の達成、充実に加えて、後期では現代までを授業で扱うことから、ウィーンでの研修を実りあるものにする上で必要な知識、具体的には現地での音楽活動の場、組織、制度についての知識を身につけることも目標となる。

【授業の「方法」と「形式」】

口頭発表など学生とのコミュニケーションをとる時間(20分～30分)、講義(60分～70分)で構成します。

【履修時の「留意点」と「心得」】

･オーストリア、ウィーンの歴史･文化に関する知識を学生の皆さんが初歩段階から身につけるという前提で授業を行います。
･口頭発表を含め、積極的な授業参加を期待しています。

【成績評価の「方法」と「基準」】

･口頭発表(任意の楽曲について、自分の言葉で説明する(50%)
(指定の時間内に、選んだ曲の知名度も考慮して、内容、魅力等について適切な説明をおこなうこと)
･期末レポート(50%)

教科書	(プリントを授業時に配布する)	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	『世界各国史　19　ドナウ･ヨーロッパ史』	著者等	南塚信吾(編)	出版社	山川出版社
参考文献	(その他授業時に適宜指定)	著者等		出版社	

【授業計画･内容･準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習･復習)
第1回	「二重帝国」への道 ･前期内容の確認。 ･「三月革命」(1848年)とその結果。	予習:前期内容全般を振り返り、理解しておく。 復習:授業内容を確認する。
第2回	ロマン主義時代前半のウィーンの文化状況 ･ロマン派の作曲家たちとウィーンの関係。 ･ウィンナ･ワルツ、音楽院の成立。	復習:授業内容を確認し、紹介された曲を聴いておく。
第3回	「二重帝国」の推移 ･1867年に成立したいわゆる「オーストリア＝ハンガリー二重帝国」の構造。	予習:『ドナウ･ヨーロッパ史』第6章を読んでおく。 復習:授業内容を確認する。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	「二重帝国」とハプスブルク家 ・1890年代以降の世界情勢の変化とオーストリアとの関係。	予習：『ドナウ・ヨーロッパ史』第6章を読んでおく。 復習：授業内容を確認する。
第5回	第一次世界大戦とハプスブルク家の没落 ・「サライェヴォ事件」とその背景。 ・第一次世界大戦の推移と「帝国」の崩壊。	復習：授業内容を確認する。
第6回	ブラームス・ブルックナーの時代 ・ブラームス、ブルックナーのウィーンでの活動。 ・19世紀後半ウィーンの音楽・文化環境。	復習：授業内容を確認し、紹介された曲を聴いておく。
第7回	マーラーと世紀末ウィーンの文化 ・「ウィーン分離派」の活動。 ・作曲家・指揮者としてのマーラーの活動。	復習：授業内容を確認し、紹介された曲を聴いておく。
第8回	「第一共和国」の成立 ・ヴェルサイユ条約とサン・ジェルマン条約。 ・オーストリア、ハンガリー、チェコスロヴァキアの推移。	予習：『ドナウ・ヨーロッパ史』第7章を読んでおく。 復習：授業内容を確認する。
第9回	アンシュルス（合邦）と「第一共和国」の終末 ・世界恐慌のオーストリアへの影響。 ・ドルフス政権とアンシュルスへの道。	予習：『ドナウ・ヨーロッパ史』第8章を読んでおく。 復習：授業内容を確認する。
第10回	第二次世界大戦とオーストリアの再興 ・併合時代のオーストリア。 ・英米仏ソによる分割占領。	復習：授業内容を確認する。
第11回	20世紀前半のウィーンの音楽と文化 ・リヒャルト＝シュトラウスの活動。 ・「新ウィーン楽派」の活動。	復習：授業内容を確認し、紹介された曲を聴いておく。
第12回	東西冷戦期のオーストリア、ウィーン（1） ・冷戦の進行と中欧の分断。 ・オーストリア国家条約の成立。	復習：授業内容を確認する。
第13回	東西冷戦期のオーストリア、ウィーン（2） ・永世中立国オーストリアの登場。 ・「プラハの春」と東欧民主化。	復習：授業内容を確認する。
第14回	現代のオーストリア、ウィーン（1） ・中欧諸国のEU加盟。 ・20世紀末オーストリアの政治・社会状況	復習：授業内容を確認する。
第15回	現代のオーストリア、ウィーン（2） ・20世紀後半のオーストリアの音楽・文化状況。 ・21世紀のオーストリア。 まとめ	復習：授業内容を確認し、紹介された曲を聴いておく。

科目名(クラス)	スポーツ文化論	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	江向　真理子	履修対象・条件	教職課程履修者必修。教職実践専攻必修。				

【授業の概要】

スポーツの歴史と発展を学び、スポーツが社会とどのようにかかわり、影響を受けてきたのかを考える。また、古代オリンピックの概要について理解し、近代オリンピックの足跡をたどりながら、オリンピックムーブメントとは何か、またオリンピックが目指す国際親善や世界平和について理解する。
生涯を通じてスポーツや運動に親しみ、健康で豊かな生活を送るために重要であることを理解し、自分の生活に積極的に取り入れることができるように様々な知識を得られるようにする。

【授業の到達目標】

:スポーツの発生と背景、各種スポーツの歴史を学び様々なスポーツについての知識を深める。
:古代オリンピックについて、近代オリンピックの変遷について学び、オリンピック精神と意義について理解するとともに、東京オリンピックを身近なことと捉え、さらに興味や関心を持てるようになる。
:私たちが健康で豊かな生活を送るために、スポーツや運動の必要性を学び、自らの生活にどのように生かしていくのかを考える。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式。必要に応じてDVD等を鑑賞

【履修時の「留意点」と「心得」】

教科書は使用せず、随時配布資料とする。
本授業は60分のため、1/3に相当する20分以上の遅刻は出席と認めない。
毎回授業の最後5～10分間で振り返り確認テストを行なう。

【成績評価の「方法」と「基準」】

平常点（授業に取り組む姿勢、授業内の小テスト）50%
定期テスト50%

教科書	現代生活とスポーツ文化	著者等	金芳保之 松本芳明	出版社	大修館
教科書	近代スポーツ文化とはなにか	著者等	西山哲郎	出版社	世界思想社
参考文献	スポーツの歴史と文化	著者等	新井博 榊原浩晃	出版社	道和書院
参考文献	驚異の古代オリンピック	著者等	トニーペロテット 矢羽野薫　訳	出版社	河出書房新社

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	スポーツとは何か？ スポーツの語源	予習：教科書を読んでおく 復習：学習した事項をまとめる
第2回	スポーツの歴史と発展① スポーツの起源は何か？未開社会におけるスポーツの発生	同上
第3回	スポーツの歴史と発展② 古代オリンピックとローマ帝国のショースポーツ	予習：教科書を読んでおく 復習：配布された資料から、「古代オリンピック」についてまとめる

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	ヨーロッパ中世時代のスポーツ 農民・都市の祭りとスポーツ	予習：教科書を読んでおく 復習：学習した事項をまとめる
第5回	近代のスポーツ 近代スポーツの特徴　スポーツの共有	同上
第6回	近代オリンピック① ピエール・ド・クーベルタンの主張	予習：あらかじめ配布された資料を読む 復習：学習した事項をまとめる
第7回	近代オリンピック② 1896年第一回～第二世界大戦まで	予習：嘉納治五郎について調べる。 復習：学習した事項をまとめる
第8回	近代オリンピック③ 1948年第14回ロンドン～1980年第22回大会モスクワまで	予習：教科書を読んでおく 復習：学習した事項をまとめる
第9回	1964年第18回東京オリンピックについて	予習：特に定めず 復習：オリンピック後スポーツの普及がさらに広がったことについてまとめる。
第10回	近代オリンピック④ 1984年第23回ロサンゼルスオリンピック ビジネスとオリンピック	予習：教科書を読んでおく 復習：学習した事項をまとめる
第11回	東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて	予習：JOC、東京都オリンピック準備委員会のホームページをみる。 復習：学習した事項をまとめる
第12回	スポーツに求められているもの① 多様化するスポーツ	予習：教科書を読んでおく 復習：学習した事項をまとめる
第13回	スポーツに求められているもの② ラジオ体操	同上
第14回	健康で豊かな生活を送るために	予習：「スポーツ基本法」（2011）について調べる。 復習：学習した事項をまとめる
第15回	まとめ	予習：前回までに配布された資料を読む 復習：学習した事項をまとめる

科目名(クラス)	スポーツ演習a	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	南　明恵美	履修対象・条件	教職課程履修者は必修。教職実践専攻は必修。				

【授業の概要】

・幼児期には運動が好きな子がほとんどであるが、いつの頃からか運動が苦手になったり、嫌いになったり、体を使うことを避ける楽な生活に慣れてしまう。この授業では、基礎運動能力（走・跳・投）を高め、様々なスポーツを楽しめるような体の使い方の基本を確認する。さらに、スポーツを楽しむためのコーディネーション力(運動の神経支配、調整力)を高める運動や簡単な「ダンス」を行う。
・その上で、体を使ったゲーム・レクレーションは、心身のリフレッシュ、コミュニケーションや親睦を深めるために有効であることから、経験してきた遊び、過去に体験したゲームを実施するとともに、ニュー・スポーツといわれるカテゴリーの運動をしていく。
・最終的に自分の体を見つめ直し、将来の運動習慣が身につく知識と実践力を身につける。

【授業の到達目標】

・スポーツを楽しむためのコーディネーション(運動の神経支配、調整力)力を高める
・運動の方法を習得し、心身のリフレッシュ、コミュニケーション、親睦を深めることを体得する
・自分の体を見つめ直し、将来の運動習慣が身につく知識と実践力を身につける

【授業の「方法」と「形式」】

自己の行動データを分析し、必要な運動を個人やグループでおこなう。ほとんどの授業は講堂で行うが、グランドを使用する場合もある。

【履修時の「留意点」と「心得」】

怪我の予防のため必ず運動に適した服装で出席する。踵のある靴、伸縮性の無い素材の服での受講は不可。名前を見えるところにつけることが望ましい。不規則になりがちな大学生活の中で、健康を管理し出席する事を重要とし、遅刻は3回で1回欠席とする。ただし、見学は授業の記録や審判をすることで出席となる。

【成績評価の「方法」と「基準」】

出席状況；授業への参加度と積極性　70%
態度；リーダーシップ・フレンドシップ・協調性、授業の準備（服装等）・用具の管理等　20%　　知識；レポート課題　10%

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	健康づくりへのアプローチ	著者等	石井兵衛	出版社	文光堂
参考文献	体脂肪を落として「筋肉質」になる	著者等	金子嘉徳	出版社	女子栄養大学出版社

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	講義「大学時代以降の身体の変化と健康危機」・授業の受講の仕方 着替えなくてもよい	現代社会において運動の必要性を考察する。 日常に必要な運動量を算出し、学習の目的を確認する。
第2回	前半講義【体脂肪のことを知る】 後半実技【基礎運動能力の向上と「筋力トレーニング」と「手具体操」・「エアロビック・ダンス」】	目標の運動強度を算出する方法を知り、エアロビック運動を実践する。
第3回	前半講義【体脂肪のことを知る】 後半実技【基礎運動能力の向上と「筋力トレーニング」と「手具体操」・「エアロビック・ダンス」】	運動で太りにくい体質になる理論を知り、手段として「ストレッチイング」を実践する。 復習として「ストレッチイング」を日常でも実践する目標を立てる。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	【バドミントン（で運動能力向上）】 ラケットの握り方 バドミントンのサーブ、レシーブ 【基礎運動能力の向上として「筋力トレーニング」と「手具体操」・「簡単なHIP・HOP」	予習としてストレッチイング、基礎運動能力を高める運動を実践する。 復習としてバドミントンの運動方法を知り、ゲームができる力を高める。
第5回	【バドミントン（で運動能力向上）】 ゲーム　レシーブと攻撃 ダブルスのゲームの仕方【基礎運動能力の向上として「筋力トレーニング」と「手具体操」・」「簡単なHIP・HOP」	予習としてバドミントンに必要な体力トレーニング方法を理解し、実践する。 復習としてバドミントンのゲームができる力をさらに伸ばす。
第6回	【ソフトバレーボール(で運動能力向上)】 ボール遊びからボールゲームへ 【基礎運動能力の向上として「筋力トレーニング」と「手具体操」・「簡単なHip・HOP」	予習としてストレッチイング、基礎運動能力を高める運動を実践する。 復習としてソフト・バレーボールの運動方法を知り、ゲームができる力を高める。
第7回	【ソフトバレーボール(で運動能力向上)】 ボールを使った運動からボールゲーム「ソフトバレーボール」へ バレーボールのサーブ、レシーブ ゲーム　レシーブ、トス、パスの仕方	予習としてバレーボールに必要な体力トレーニング方法を理解し、実践する。 復習としてソフト・バレーボールのゲームができる力をさらに伸ばす。
第8回	【ポートボール(で運動能力向上)】 ボール遊びからボールゲームへ ゲーム　攻撃・守備の仕方	予習としてストレッチイング、基礎運動能力を高める運動を実践する。 復習としてポートボールの運動方法を知り、ゲームができる力を高める。運動を通じて集団の課題を解決し、自己の責任を果たす。
第9回	【ポートボール(で運動能力向上)】 ボール遊びからボールゲームへ ゲーム　攻撃・守備の仕方 ゲームの運営と参加　評価	予習としてポートボールに必要な体力トレーニング方法を理解し、実践する。 復習としてポートボールのゲームができる力をさらに伸ばす。
第10回	【卓球（で運動能力向上）】 ラケットの握り方、サーブ、レシーブ 【自己にあったストレッチング及び筋力トレーニング】 実技テスト	予習としてストレッチイング、基礎運動能力を高める運動を実践する。 復習として卓球の運動方法を知り、ゲームができる力を高める。運動を通じて集団の課題を解決し、自己の責任を果たす。
第11回	【卓球（で運動能力向上）】 ダブルスのゲーム攻撃の仕方 【自己にあったストレッチング及び筋力トレーニング】 実技テスト	予習としてその運動に必要な体力トレーニング方法を理解し、実践する。 復習として卓球のゲームができる力をさらに伸ばす。運動を通じて集団の課題を解決し、自己の責任を果たす。
第12回	【ユニバーサル・ホッケー】 ストックの握り方、パス、レシーブ、シュート ルール理解・コーディネーション力評価	予習としてストレッチイング、基礎運動能力を高める運動を実践する。 復習としてユニバーサル・ホッケー運動方法を知り、ゲームができる力を高められた。運動を通じて集団の課題を解決し、自己の責任を果たす。
第13回	【ユニバーサル・ホッケー】 ストックの握り方、パス、レシーブ、シュート ルール理解・コーディネーション力評価	予習としてその運動に必要な体力トレーニング方法を理解し、実践する。 復習としてユニバーサル・ホッケーのゲームができる力をさらに伸ばした。運動を通じて集団の課題を解決し、自己の責任を果たす。
第14回	【キックベース・ボール(で親睦)】 ルール理解	予習として運動の重要性を知り、日常の運動計画を立てる。復習として計画を考察する
第15回	【キックベース・ボール(で親睦)】 ルール理解	予習として日常の運動計画を完成させる。復習として計画を実践に移す。

科目名(クラス)	スポーツ演習b	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	南　明恵美	履修対象・条件	教職課程履修者は必修。教職実践専攻は必修。				

【授業の概要】

・幼児期には運動が好きな子がほとんどであるが、いつの頃からか運動が苦手になったり、嫌いになったり、体を使うことを避ける楽な生活に慣れてしまう。この授業では、基礎運動能力（走・跳・投）を高め、様々なスポーツを楽しめるような体の使い方の基本を確認する。さらに、スポーツを楽しむためのコーディネーション力(運動の神経支配、調整力)を高める運動や簡単な「ダンス」を行う。
・その上で、体を使ったゲーム・レクレーションは、心身のリフレッシュ、コミュニケーションや親睦を深めるために有効であることから、経験してきた遊び、過去に体験したゲームを実施するとともに、ニュー・スポーツといわれるカテゴリーの運動をしていく。
・最終的に自分の体を見つめ直し、将来の運動習慣が身につく知識と実践力を身につける。

【授業の到達目標】

・スポーツを楽しむためのコーディネーション(運動の神経支配、調整力)力を高める
・運動の方法を習得し、心身のリフレッシュ、コミュニケーション、親睦を深めることを体得する
・自分の体を見つめ直し、将来の運動習慣が身につく知識と実践力を身につける

【授業の「方法」と「形式」】

自己の行動データを分析し、必要な運動を個人やグループでおこなう。ほとんどの授業は講堂で行うが、グランドを使用する場合もある。

【履修時の「留意点」と「心得」】

怪我の予防のため必ず運動に適した服装で出席する。踵のある靴、伸縮性の無い素材の服での受講は不可。名前を見えるところにつけることが望ましい。不規則になりがちな大学生活の中で、健康を管理し出席する事を重要とし、遅刻は3回で1回欠席とする。ただし、見学は授業の記録や審判をすることで出席となる。

【成績評価の「方法」と「基準」】

出席状況；授業への参加度と積極性　70%
態度；リーダーシップ・フレンドシップ・協調性、授業の準備（服装等）・用具の管理等　20%　　知識；レポート課題　10%

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	健康づくりへのアプローチ	著者等	石井兵衛	出版社	文光堂
参考文献	体脂肪を落として「筋肉質」になる	著者等	金子嘉徳	出版社	女子栄養大学出版社

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	講義「大学時代以降の身体の変化と健康危機」・授業の受講の仕方 着替えなくてもよい	現代社会において運動の必要性を考察する。 日常に必要な運動量を算出し、学習の目的を確認する。
第2回	前半講義【体脂肪のことを知る】 後半実技【基礎運動能力の向上と「筋力トレーニング」と「手具体操」・「エアロビック・ダンス」】	目標の運動強度を算出する方法を知り、エアロビック運動を実践する。
第3回	前半講義【体脂肪のことを知る】 後半実技【基礎運動能力の向上と「筋力トレーニング」と「手具体操」・「エアロビック・ダンス」】	運動で太りにくい体質になる理論を知り、手段として「ストレッチイング」を実践する。 復習として「ストレッチイング」を日常でも実践する目標を立てる。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	【バドミントン（で運動能力向上）】 ラケットの握り方 バドミントンのサーブ、レシーブ 【基礎運動能力の向上として「筋力トレーニング」と「手具体操」・「簡単なHIP・HOP」	予習としてストレッチイング、基礎運動能力を高める運動を実践する。 復習としてバドミントンの運動方法を知り、ゲームができる力を高める。
第5回	【バドミントン（で運動能力向上）】 ゲーム　レシーブと攻撃 ダブルスのゲームの仕方【基礎運動能力の向上として「筋力トレーニング」と「手具体操」・」「簡単なHIP・HOP」	予習としてバドミントンに必要な体力トレーニング方法を理解し、実践する。 復習としてバドミントンのゲームができる力をさらに伸ばす。
第6回	【ソフトバレーボール(で運動能力向上)】 ボール遊びからボールゲームへ 【基礎運動能力の向上として「筋力トレーニング」と「手具体操」・「簡単なHip・HOP」	予習としてストレッチイング、基礎運動能力を高める運動を実践する。 復習としてソフト・バレーボールの運動方法を知り、ゲームができる力を高める。
第7回	【ソフトバレーボール(で運動能力向上)】 ボールを使った運動からボールゲーム「ソフトバレーボール」へ バレーボールのサーブ、レシーブ ゲーム　レシーブ、トス、パスの仕方	予習としてバレーボールに必要な体力トレーニング方法を理解し、実践する。 復習としてソフト・バレーボールのゲームができる力をさらに伸ばす。
第8回	【ポートボール(で運動能力向上)】 ボール遊びからボールゲームへ ゲーム　攻撃・守備の仕方	予習としてストレッチイング、基礎運動能力を高める運動を実践する。 復習としてポートボールの運動方法を知り、ゲームができる力を高める。運動を通じて集団の課題を解決し、自己の責任を果たす。
第9回	【ポートボール(で運動能力向上)】 ボール遊びからボールゲームへ ゲーム　攻撃・守備の仕方 ゲームの運営と参加　評価	予習としてポートボールに必要な体力トレーニング方法を理解し、実践する。 復習としてポートボールのゲームができる力をさらに伸ばす。
第10回	【卓球（で運動能力向上）】 ラケットの握り方、サーブ、レシーブ 【自己にあったストレッチング及び筋力トレーニング】 実技テスト	予習としてストレッチイング、基礎運動能力を高める運動を実践する。 復習として卓球の運動方法を知り、ゲームができる力を高める。運動を通じて集団の課題を解決し、自己の責任を果たす。
第11回	【卓球（で運動能力向上）】 ダブルスのゲーム攻撃の仕方 【自己にあったストレッチング及び筋力トレーニング】 実技テスト	予習としてその運動に必要な体力トレーニング方法を理解し、実践する。 復習として卓球のゲームができる力をさらに伸ばす。運動を通じて集団の課題を解決し、自己の責任を果たす。
第12回	【ユニバーサル・ホッケー】 ストックの握り方、パス、レシーブ、シュート ルール理解・コーディネーション力評価	予習としてストレッチイング、基礎運動能力を高める運動を実践する。 復習としてユニバーサル・ホッケー運動方法を知り、ゲームができる力を高められた。運動を通じて集団の課題を解決し、自己の責任を果たす。
第13回	【ユニバーサル・ホッケー】 ストックの握り方、パス、レシーブ、シュート ルール理解・コーディネーション力評価	予習としてその運動に必要な体力トレーニング方法を理解し、実践する。 復習としてユニバーサル・ホッケーのゲームができる力をさらに伸ばした。運動を通じて集団の課題を解決し、自己の責任を果たす。
第14回	【キックベース・ボール(で親睦)】 ルール理解	予習として運動の重要性を知り、日常の運動計画を立てる。復習として計画を考察する
第15回	【キックベース・ボール(で親睦)】 ルール理解	予習として日常の運動計画を完成させる。復習として計画を実践に移す。

科目名(クラス)	ドイツ語１－a・b	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	高橋　幸雄	履修対象・条件	Konzertfach（演奏専攻）は履修不可				

【授業の概要】

ドイツ語圏（ドイツ、オーストリア、スイス等）の文化理解のために、基本的な文法と発音そして文構造を身につけて行くことを主眼に置きます。
既習の英語との違いを意識しながら練習中心の授業を展開します。

【授業の到達目標】

ドイツ語の文法基礎力を身につけ、コミュニケーション力を獲得する。
ドイツ文化を理解し、日本文化との差異を説明できる。

【授業の「方法」と「形式」】

演習形式です。反復練習のための問題を数多く行います。

【履修時の「留意点」と「心得」】

まずドイツ語の構造を理解し、変化の定着を行いますから、規則の反復練習（復習）が最重要です。

【成績評価の「方法」と「基準」】

小テスト（40%）、課題提出（10%）、定期試験（50%）

教科書	総合学習・異文化理解のドイツ語	著者等	大薗正彦	出版社	朝日出版
教科書		著者等		出版社	
参考文献	アクセス独和辞典　いずれか	著者等		出版社	三修社
参考文献	新アポロン独和辞典	著者等		出版社	同学社

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	ドイツ語圏を知る。又、基本的な発音の特徴をつかむ。	予習：日本語になったドイツ語を見つける。 復習：習った発音をくり返し練習し、慣れる。
第2回	特徴的な発音に慣れる。動詞の人称変化を知る。	予習：人称変化をノートにまとめる。 復習：練習問題を用いて動詞の人称変化を練習する。
第3回	規則変化の特徴を練習し、実際に文章を作ってみる。	予習：教科書から動詞を抜き出し、人称変化する。 復習：変化の練習を他のさまざまな動詞でやってみる。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	不規則変化を学ぶ。規則動詞との違いを理解する。	予習：不規則動詞の練習を行ってみる。 復習：不規則動詞の練習を行ってみる。
第5回	文について知る。動詞の位置を中心に。	予習：今まで学んだ語順をまとめる。 復習：語のならびを意識して文を作る練習をする。
第6回	動詞を作って疑問文を作り、人称変化を意識して答えの文を作ってみる。	予習：疑問文を教科書から抜き出す。 復習：疑問文を既習の動詞を使って作り、応答練習を繰り返す。
第7回	名詞の性について考える。性（男性、女性、中性）の重要性を理解する。	予習：教科書から名詞を抜き出し、整理する。 復習：習った名詞を性に分類し、動詞と供に使ってみる。
第8回	冠詞類を用いて文を組み立てる。	予習：冠詞類をまとめる。 復習：練習問題で冠詞を使用し定着させる。
第9回	格の使い方を英語との比較の中でする。	予習：格変化をノートにまとめる。 復習：問題を用いて、格変化の練習をする。
第10回	名詞と動詞を用いて文を組み立てる。	予習：冠詞の変化をノートに書き出してみる。 復習：語尾、格変化の練習を数多くする。
第11回	前置詞を格変化とともに使う。	予習：教科書の例文から前置詞を抜き出す。 復習：前置詞の格支配を意識して練習し、身につける。
第12回	前置詞の応用練習をする。	予習：例文を覚える。 復習：動詞との関連の中で3・4格支配の前置詞を練習してみる。
第13回	人称代名詞を学ぶ。	予習：教科書の文の中の名詞を代名詞に置きかえる。 復習：人称代名詞の変化を覚え、文の中で使ってみる。
第14回	語法の助動詞を身につける。	予習：教科書から助動詞文を抜き出してみる。 復習：助動詞の変化を、一般動詞の変化と比較して練習する。
第15回	語法の助動詞の使い方の定着と学んできたことのまとめ。	変化と語順についてまとめてみる。

科目名(クラス)	ドイツ語2－a・b	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	高橋　幸雄	履修対象・条件	Konzertfach（演奏専攻）は履修不可				

【授業の概要】

1で学んだ内容をさらに確実なものにしながら、文を読む力をつけるため次の文法的ステージに移行します。
文を中心にしながら、分離動詞、再帰動詞、時制という初級文法の基礎になる項目の習得を目指します。

【授業の到達目標】

ドイツ語の文法基礎力を身につけ、コミュニケーション力を獲得する。
ドイツ文化を理解し、日本文化との差異を説明できる。

【授業の「方法」と「形式」】

演習形式で問題解読を数多く行います。

【履修時の「留意点」と「心得」】

反復練習が更に重要です。又、ドイツとドイツ語圏への興味を積極的に持って下さい。

【成績評価の「方法」と「基準」】

小テスト（40%）、課題提出（10%）、定期試験（50%）

教科書	総合学習・異文化理解のドイツ語	著者等	大薗正彦	出版社	朝日出版
教科書		著者等		出版社	
参考文献	アクセス独和辞典　いずれか	著者等		出版社	三修社
参考文献	新アポロン独和辞典	著者等		出版社	同学社

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	1の学習範囲の復習、及び今期の学習項目の概略。	予習：動詞の人称変化と格変化の確認。又、文構造の概略を再確認。 復習：例文の独作文を作る。
第2回	助動詞と未来形の関係を知る。	予習：枠構造の理解を深めるため助動詞を使った単文を作る練習をする。 復習：練習問題の独作文に取り組む。
第3回	分離動詞の特徴を学ぶ。	予習：不規則変化の再確認を変化表を用いて行う。 復習：教科書の例文を訳す。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	簡単な文章を読んでみる。 都市物語　ミュンヘンとザルツブルク	予習：ミュンヘンとザルツブルクについて調べてみる。 復習：調べた事例との違いを整理する。
第5回	再帰動詞を学ぶ。及び人称代名詞と再帰代名詞。	予習：人称代名詞の使い方を復習しておく。 復習：例文の問題を取り組む。
第6回	分離動詞と再帰動詞を用いた文章を読む。	予習：変化表を使って分離、再帰で出てきた不規則動詞を確認する。 復習：プリントの課題を解いてみる。
第7回	時制について学ぶ（1） ドイツ語の「時」の考え方	予習：変化表を用いて三基本形に慣れる。 復習：課題の時制文を解く。
第8回	時制について学ぶ（2） 過去形について	予習：現在人称変化の再確認をする。 復習：過去形の文を読む。
第9回	時制について学ぶ（3） 現在完了について	予習：英語との相違を考えてみる。完了形の形式を反復練習する。 復習：課題の文を読む。
第10回	時制について学ぶ（4） その他の時制について考えてみる	予習：時制全体を図にしてまとめてみる。 復習：グリム童話を読む①
第11回	接続詞について考えてみる。	予習：語順に注意して文をつなげてみる練習をする。 復習：教科書の課題を解く。
第12回	時制を含んだ文章を読んでみる。	予習：現在文を他の時制に置き換える練習をする。 復習：グリム童話を読む②
第13回	独検の練習問題を解いてみる（1）	予習：変化や格、文構造に注意して問題を解いてみる。 復習：誤った項目の問題にあたる。
第14回	独検の練習問題を解いてみる（2）	予習：独作文をさまざまなテーマをたてて実践してみる。 復習：誤った項目の問題にあたる。
第15回	今期で学んだことをまとめてみる。	1・2で学んだ変化や構造をまとめてみる。

科目名(クラス)	ドイツ語3	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	高橋　幸雄	履修対象・条件	Konzertfach（演奏専攻）は履修不可				

【授業の概要】

ドイツ語1・2で習得した文法知識をさらに高めるために、未習の項目を学習します。
形容詞、関係代名詞、受動態、接続法をまず学習し、その上で文章を読むことによって、実践力を身につけて行きます。
異文化としての文化領域にも触れながら進めます。

【授業の到達目標】

「読む」「書く」「聞く」「話す」という4技能を確実に身につけ、コミュニケーションができる。

【授業の「方法」と「形式」】

演習形式で練習問題を数多く解いて行きます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

課題としての問題を数多く練習します。復習を兼ねた予習を既習の文法項目を使い確実にこなして下さい。

【成績評価の「方法」と「基準」】

小テスト（40%）、課題提出（20%）、定期試験（40%）

教科書	CD付きドイツ語ネクスト・ステージ	著者等	大薗正彦	出版社	三修社
教科書		著者等		出版社	
参考文献	アクセス独和辞典　いずれか	著者等		出版社	三修社
参考文献	新アポロン独和辞典	著者等		出版社	同学社

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	初級文法の総復習（1）	予習：既習の項目の変化表を確認する。 復習：プリントの問題を解く。
第2回	初級文法の総復習（2）	予習：時制の項目で扱った問題を再確認してみる。 復習：時制の文を読んでみる。
第3回	形容詞の比級、最高級を学ぶ。	予習：練習問題で比較級、最高級を作ってみる。 復習：教科書の問題を解く。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	関係代名詞について学ぶ（1）	予習：定冠詞の変化の再確認と関係代名詞との違いを練習する。 復習：プリントの課題を解いてみる。
第5回	関係代名詞について学ぶ（2） （不定関係代名詞）	予習：関係文を数多く練習する。 復習：課題のプリントを訳してみる。
第6回	関係代名詞の含む文章を読む	予習：辞書を用いて自分で読み疑問点を確認してみる。 復習：課題のプリントを訳してみる。
第7回	受動文について学ぶ（1）	予習：変化表を用いて過去分詞の形を確認する。 復習：プリントの問題を解く。
第8回	受動文を実際に使ってみる（2）	予習：時制の項目で扱った問題を再確認してみる。 復習：長文を訳してみる。
第9回	受動文の文章を読む	予習：辞書を用いて読み問題点を確認してみる。 復習：長文を訳してみる。
第10回	不定詞の使い方を学ぶ	予習：不定詞の問題を繰り返し行う。 復習：課題のプリントで独作してみる。
第11回	分詞の使い方	予習：形容詞の変化と使い方を再確認する。 復習：形容詞の文を読んでみる。
第12回	接続法の使い方（1）	予習：直接法と接続法の変化の違いを練習する。 復習：教科書の問題を解いてみる。
第13回	接続法の時制（2）	予習：直接法と接続法の時制に従って文を作る練習をする。 復習：Ⅰ式Ⅱ式の独作文にあたる。
第14回	接続法の文を読む（3）	予習：辞書を用いて読んでみる。そして、問題点を見つける。 復習：長文を読んでみる。
第15回	学んだことのまとめ。	総合練習問題を行ってみる。

科目名(クラス)	ドイツ語4	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	高橋　幸雄	履修対象・条件	Konzertfach（演奏専攻）は履修不可				

【授業の概要】

3で積み上げた文法項目を実際のドイツ文を読むことを通して定着をさせて行きます。
ベルリンを中心としたドイツの都市めぐりを主題にしながら読む力と文法力の増強をはかります。
更に、ドイツ語をさまざまな文化的視点から考えてみます。
異文化を実感として体験できるDVDを仕様しながら授業を進めます。

【授業の到達目標】

「読む」「書く」「聞く」「話す」の4技能を確実に身につけ、コミュニケーションができる。

【授業の「方法」と「形式」】

演習形式で行い、読解力向上のための文章を数多く扱います。

【履修時の「留意点」と「心得」】

ドイツ文化に目を向けて、正確に文を読む力をつけます。
辞書を使いこなすスキルを積極的に身につけてください。

【成績評価の「方法」と「基準」】

小テスト（40%）、課題提出（20%）、定期試験（40%）

教科書	CD付きドイツ語ネクスト・ステージ	著者等	大薗正彦	出版社	三修社
教科書		著者等		出版社	
参考文献	アクセス独和辞典　いずれか	著者等		出版社	三修社
参考文献	新アポロン独和辞典	著者等		出版社	同学社

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	既習の文法を語尾変化、人称変化、時制を通してまとめる	予習：初級文法のまとめのプリントを確認。 復習：プリントの課題を行う。
第2回	ベルリン（1） （動詞群をまとめる）	予習：動詞の語順の整理を行う。 復習：教科書の長文にあたる。①
第3回	ベルリン（2） （名詞群をまとめる）	予習：名詞の格変化表を確認する。 復習：教科書の長文にあたる。②

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	ブレーメン （疑問詞のもう一つの使い方）	予習：疑問詞の変化を再確認する。 復習：例文を読む。
第5回	ヴッパータール （不定代名詞）	予習：人称代名詞の復習と他の代名詞の違いをプリントを使って練習する。 復習：例文を読む。
第6回	ケルン （接続詞のいろいろ）	予習：既習の接続詞と文の中での構文としての接続詞を練習する。 復習：長文を読む。①
第7回	バーデン・バーデン （熟語としての前置詞）	予習：動詞の格と前置詞の格を独作文で確認する。 復習：長文を読む。②
第8回	アウグスブルク （助動詞の他の使い方を知る）	予習：助動詞の変化の確認と語順を復習する。 復習：長文を読む。③
第9回	バンベルク （不定詞句について）	予習：zu不定詞の基本的な用法をプリントで確認する。 復習：例文を読む。
第10回	マイセン （時制の実際）	予習：6時制について復習する。 復習：例文を読む。
第11回	ヴィッテンベルク （現在完了形のいろいろ）	予習：基本的な現在完了形について復習しておく。 復習：完了形の文を独作する。
第12回	ミュンヘン （関係代名詞のさまざまな使い方）	予習：関係代名詞の動詞の語順について前もって確認しておく。 復習：関係文の問題を解く。
第13回	ウィーン （能動文による受動表現）	予習：受動表現をプリントで練習する。 復習：受動分の問題を解く。
第14回	ザルツブルク （さらに構文について知る）	予習：基本構文を覚え、文の中で確認する。 復習：構文の例文を訳す。
第15回	まとめ （ドイツ、オーストリア文化に関する文を読む）	次のステップにそなえるために素材を考える。

科目名(クラス)	ドイツ語圏 異文化コミュニケーション1−a・b	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	I.K.Lenz	履修対象・条件					

【授業の概要】

「話すこと」を中心にコミュニケーション能力を高めることを主眼に授業を進めます。
日常生活の中のさまざまな対話形式を通してドイツ語で表現する力を養成します。

【授業の到達目標】

基礎ドイツ語力養成のための文法知識の習得と文化理解のためのコミュニケーション力を獲得する。

【授業の「方法」と「形式」】

演習形式で、毎回ダイアローグを行います。

【履修時の「留意点」と「心得」】

「話す」ことに積極的な関心を持って下さい。毎時間簡単な対話形式の会話を行います。

【成績評価の「方法」と「基準」】

課題提出（30%）、対話テスト（30%）、定期試験（40%）

教科書	GENAU neu コミュニケーションのドイツ語	著者等	新倉真矢子	出版社	第三書房
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	ドイツ、オーストリアを知る(発音)	予習：ドイツ、オーストリアの基本知識を得る。発音に慣れる。 復習：楽語の発音をくり返し練習する。
第2回	あいさつ表現に慣れる。	予習：あいさつ表現を通して発音に更に慣れる。 復習：更に発音練習をくり返す。
第3回	出会い（動詞の使い方）①	予習：人称変化を習得する。 復習：動詞の変化を問題で確認する。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	若者達 （動詞の使い方）②	予習：重要動詞の使い方を覚える。 復習：プリントで動詞の変化の再確認を行う。
第5回	パーティーにて （性について格変化を使えるようにする）①	予習：格変化を性別に習得する。 復習：男性、女性、中性の3つの性の冠詞を名詞につけて練習する。
第6回	週末をどう過ごすか （疑問文の作り方と格）②	予習：対話形式の中で、動詞、冠詞を使えるようにする。 復習：動詞の位置をプリントを用いて練習を行う。
第7回	買い物に行く （複数形の使い方）	予習：名詞の複数形と動詞の形を習得する。 復習：辞書を用いて複数形を作ってみる。
第8回	対話練習①	予習：対話練習を通して自己紹介をする。 復習：動詞、冠詞に注意して文を作る練習をする。
第9回	ドイツの住まい （人称代名詞の使い方）	予習：主語以外の代名詞の使い方を習得する。 復習：代名詞の変化を練習する。
第10回	ライン川 （前置詞の使い方）	予習：前置詞の格支配を身につける。 復習：前置詞の格を冠詞とともに使う練習をする。
第11回	対話練習②	予習：他己紹介を通して2・3人称について変化を習得する。 復習：2・3人称の不規則動詞を確認する。
第12回	大学について① （分離動詞を学ぶ）	予習：分離動詞の動詞の位置を文の中で習得する。 復習：動詞の変化を変化表を用いてまとめる。
第13回	大学について② （分離動詞）	予習：分離の文型に慣れる。 復習：枠構造の練習を問題を使って行う。
第14回	対話練習③	予習：テーマを設定して、それをドイツ語で表現してみる。 復習：既習の変化語尾の確認をする。
第15回	まとめ （テーマを設定して文を組み立てプレゼンをする）	予習：他の学生が作った文のチェックをし、文を正確に手直しできるようにする。 復習：次のステップのためのまとめを変化表を基に作成する。

科目名(クラス)	ドイツ語圏 異文化コミュニケーション2-a・b	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	I.K.Lenz	履修対象・条件					

【授業の概要】

1で習得した文法知識で少しづつ長い文を作り、さらに文法の積み上げで高度な文を作れるようにすることを目標にします。
そして、会話練習でそれを実際に使用します。

【授業の到達目標】

基礎ドイツ語力養成のための文法知識の習得と文化理解のためのコミュニケーション力を獲得する。

【授業の「方法」と「形式」】

演習形式で行い、毎回ダイアローグを行います。

【履修時の「留意点」と「心得」】

より積極的な姿勢が求められます。自分を表現するための文法力を高めましょう。

【成績評価の「方法」と「基準」】

課題提出（30%）、小テスト（30%）、定期試験（40%）

教科書	GENAU neu コミュニケーションのドイツ語	著者等	新倉真矢子	出版社	第三書房
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	1で学んだことの復習①	予習：人称変化の確認と定着を行う。 復習：動詞の人称変化を再度練習する。
	1で学んだことの復習②	予習：冠詞の変化を身につける。 復習：冠詞の格変化について問題で練習する。
第3回	ドイツ人の休日（助動詞を学ぶ）①	予習：助動詞の変化を練習し、動詞とともに使えるようにする。 復習：助動詞の人称変化を問題で確認する。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	旅行とドイツ人(助動詞を学ぶ)②	予習：助動詞の文型に慣れる。文を実際に作ってみる。 復習：助動詞文の中の動詞の人称変化と不定詞の関係をプリントを用いて練習してみる。
第5回	対話練習①	予習：助動詞を用いて自己紹介をしてみる。 復習：動詞変化の再確認をプリントを用いてする。
第6回	環境問題①（時制について）	予習：時制の概念を図式化し、時制を変える練習をする。 復習：変化表を作って時の変換のツールを確認する。
第7回	環境問題②（時制について）	予習：過去形を習得する。 復習：現在人称変化の確認と過去人称変化を問題を用いて練習する。
第8回	環境問題③(時制について)	予習：現在完了形について、助動詞の使い分けを身につける。 復習：他動詞、自動詞の使い分けを練習する。
第9回	対話練習②	予習：時制を変化させて自己紹介をする。 復習：変化表を用いて過去分詞を使えるように練習する。
第10回	日本とドイツ①	予習：歴史の中で使われたドイツ語に親しむ。 復習：日本語化した、ドイツ語を調べ、それを使ってみる。
第11回	日本とドイツ②	予習：文章表現で歴史的テーマをプレゼンする。 復習：実際に文に書いてみて、文法確認をする。
第12回	ヨーロッパについて①	予習：ドイツのヨーロッパの中での位置、状況を考えてみる。 復習：ドイツ情報を集めてみる。
第13回	ヨーロッパについて②	予習：ドイツ、オーストリア、スイスのドイツ語圏の中でのドイツ語を考える。 復習：3か国の間での文化、風俗、ドイツ語の違いを見つけてみる。
第14回	今回までのまとめ①（文法を整理する）	予習：既習の文法項目を整理して、使えるようにする。 復習：変化形の確認と変化表の使い方をチェックする。
第15回	今回までのまとめ②（文型を整理する）	予習：ドイツ文の文型を並べ、特徴をつかみ、使用できるようにする。 復習：次のステップへの文法のまとめを行う。

科目名(クラス)	ドイツ語圏 異文化コミュニケーション3-a・b	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	I.K.Lenz	履修対象・条件					

【授業の概要】

1・2で学習した文法項目を用いて更に表現力を高めるため、さまざまなテーマを使って既習項目の精度を上げて行きます。
この授業も毎回対話練習を組み込んで行います。

【授業の到達目標】

自分の日常生活をドイツ語で表現できる。又、異文化理解のための知識を身につける。

【授業の「方法」と「形式」】

演習形式で行い、ダイアローグを中心に進めます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

ドイツ、オーストリア文化に興味を持って下さい。アクティブなテーマを選んで表現練習を行います。

【成績評価の「方法」と「基準」】

課題提出（30%）、小テスト（30%）、定期試験（40%）

教科書	CD付きスツェーネン1　場面で学ぶドイツ語	著者等	佐藤修子	出版社	三修社
教科書		著者等		出版社	
参考文献	アクセス独和辞典　いずれか	著者等		出版社	三修社
参考文献	新アポロン独和辞典	著者等		出版社	同学社

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	1・2の復習① （発音、人称変化）	予習：既習の動詞の変化を確実なものにする。 復習：規則、不規則動詞の変化を練習する。
第2回	1・2の復習① （格変化）	予習：冠詞の格変化を確実にできるようにする。 復習：変化表の確認と練習。
第3回	私の部屋① （代名詞のいろいろ）	予習：人称代名詞とそれ以外の代名詞の使い方を習得する。 復習：人称代名詞の変化を練習する。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	家族① （否定詞の使い方）	予習：いろいろな疑問文を作り、答え方の違いを習得する。 復習：動詞の語順に注意して文を作る練習をする。
第5回	私の部屋② （不定代名詞の使い方）	予習：一般化した表現法としての不定代名詞を使ってみる。 復習：代名詞の変化を確認。
第6回	家族② （nichtとkeinの使い方）Doch	予習：実際の文の中で否定詞を使い否定形を習得する。 復習：疑問文に対する答えをプリントを用いて練習する。
第7回	対話練習①	予習：肯定文、否定文を使い分けてみる。 復習：練習問題を否定形に換えて練習してみる。
第8回	ベルリン	予習：都市文化に触れる。簡単な文を読み、対話してみる。 復習：動詞の変化、格変化、文構造をまとめてみる。
第9回	ミュンヘン	同上
第10回	ボン	同上
第11回	ウィーン、ザルツブルク	同上
第12回	対話練習②	予習：助動詞文と時制を変換する文を中心に文を作ってみる。 復習：文型を動詞の語順に注意して練習する。
第13回	ヨーロッパの中のドイツを考える①	予習：ドイツ文化の特徴を考え、それを簡単なドイツ語で表現してみる。 復習：相手に質問して答えを一緒に創る練習をする。
第14回	ヨーロッパの中のドイツを考える②	予習：プレゼンを行い、他の学生の意見を聞く。 復習：ドイツ文化の特徴を自分なりにまとめる。
第15回	まとめ （文法の整理と文化の特徴をまとめてみる）	予習：テーマ設定をした項目について、自分でまとめたドイツ文をプレゼンしてみる。 復習：次のステップへの素材を考えてみる。

科目名(クラス)	ドイツ語圏 異文化コミュニケーション4-a・b	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	I.K.Lenz	履修対象・条件					

【授業の概要】

1・2・3で学んだ項目を用いてドイツ文化のさまざまな面をドイツ語を用いて表現することを目指します。
ウィーンを含むオーストリアを中心に国の在り方や状況、歴史に触れて行きます。

【授業の到達目標】

自分の日常生活をドイツ語で表現できる。又、異文化理解のための知識を身につける。

【授業の「方法」と「形式」】

演習形式と対話練習を中心に行います。

【履修時の「留意点」と「心得」】

ドイツ、オーストリア文化に興味を持って下さい。アクティブなテーマを選んで表現練習を行います。

【成績評価の「方法」と「基準」】

課題提出（30%）、小テスト（30%）、定期試験（40%）

教科書	CD付きスツェーネン1　場面で学ぶドイツ語	著者等	佐藤修子	出版社	三修社
教科書		著者等		出版社	
参考文献	アクセス独和辞典　いずれか	著者等		出版社	三修社
参考文献	新アポロン独和辞典	著者等		出版社	同学社

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	3の復習を行う①	予習：助動詞文、分離動詞文を確実に作ることができるようにする。 復習：動詞の変化の確認と練習。
第2回	3の復習を行う②	予習：時制を整理して文をつくってみる。 復習：枠構造の文を時制を換えて作ってみる。
第3回	なぜドイツ語？① （未来形と意志表現）	予習：時制の種類と実際に使われる形の違いを習得する。 復習：werdenの使い方のいろいろを復習する。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	なぜドイツ語？② （seinの使い方のいろいろ）	予習：sein動詞を文章論から考えてみる。 復習：seinの使い方を整理する。
第5回	なぜドイツ語？③ （habenの使い方のいろいろ）	予習：haben動詞を文章論から考える。 復習：habenの使い方を整理する。
第6回	対話練習①	予習：3つの重要動詞を文の中で使ってみる。 復習：3つの動詞を変化として整理する。
第7回	宗教① （再帰動詞）	予習：再帰動詞の使い方を代名詞との関係の中で習得する。 復習：人称代名詞の変化を復習する。
第8回	宗教② （比較表現）	予習：比較級、最高級の文を習得する。 復習：形容詞の変化をまとめる。
第9回	パソコンとEメール① （受動文）	予習：受動の形を身につける。時制とともに使えるようにする。 復習：werdenの変化と使い方を復習する。
第10回	パソコンとEメール② （受動表現）	予習：受動表現の可能性を実際の文で身につける。 復習：不定代名詞、zu不定詞の復習をする。
第11回	もっとドイツ語を！① （関係代名詞を使ってみる）	予習：関係代名詞の形式を学び、文の連結ができるようにする。 復習：冠詞の変化を再復習する。
第12回	もっとドイツ語を！② （不定関係代名詞の使い方）	予習：不定関係代名詞の用法を例文で確認し、使えるようにする。 復習：疑問代名詞との違いを考え、プリントで練習する。
第13回	対話練習②	予習：比較、受動表現を用いて文を組み立てる力をつける。 復習：練習問題を数多くこなし、定着してみる。
第14回	まとめ①	予習：対話練習の文を参考にテーマを考え文に組み立てる。 復習：対話文を多く読む。ヒアリングをくり返す。
第15回	まとめ②	予習：ヒアリングCDを使って内容理解を深める。 復習：ヒアリングの練習問題を繰り返しやってみる。

科目名(クラス)	ドイツ語(Konzertfach(演奏専攻))1・3 〔3は異文化コミュニケーションを含む〕	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1・2
担当教員	高橋　幸雄	履修対象・条件	Konzertfach(演奏専攻)のみ履修可				

【授業の概要】

ドイツ語を正確に理解し、発信するために基本的な文法の習得、表現するためのスキルを徹底的に身につけることを目指します。
この授業では文法力の向上と読解力のステップアップを主眼とする授業を心がけて行います。DVDを使って実際のドイツ、オーストリア事情を見て行きます。

【授業の到達目標】

基本的な「読解の技術」を身につけ、欧州語学力評価A1～A2の学力を習得する。

【授業の「方法」と「形式」】

演習形式で行います。

【履修時の「留意点」と「心得」】

留学を目指すコースですから初歩から高度な言語力の習得を目指しますので、積極的な向上心と努力が必要です。

【成績評価の「方法」と「基準」】

課題提出(30%)、小テスト(30%)、定期試験(40%)

教科書	プリント教材を使います		著者等		出版社	
教科書			著者等		出版社	
参考文献	アクセス独和辞典	いずれか	著者等		出版社	三修社
参考文献	新アポロン独和辞典		著者等		出版社	同学社

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	ドイツ語圏について 発音	予習:くり返し口に出してドイツ語の発音に慣れる。 復習:プリントの単語の特徴をまとめる。
第2回	動詞の使い方(1) (規則動詞)	予習:人称変化の練習をする。 復習:プリントの問題を解く。
第3回	動詞の使い方(2) (不規則動詞)	予習:変化表を用いて、不規則変化の確認をする。 復習:練習問題を解く。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	冠詞の変化に慣れる。	予習：3つの性の変化をくり返し練習する。 復習：課題のプリントを解く。
第5回	人称代名詞、前置詞について学ぶ。	予習：人称代名詞の変化と前置詞の格支配を覚える。 復習：人称代名詞を使って独作をする。
第6回	助動詞の使い方を学ぶ。	予習：助動詞の変化と枠構造を練習する。 復習：助動詞を用いて独作をする。
第7回	分離動詞の使い方を学ぶ。	予習：動詞の変化をプリントを使って練習する。 復習：課題の文を読む。①
第8回	文章を読む（1）	予習：練習問題を解き、変化を定着させる。 復習：課題の文を読む。②
第9回	文章を読む（2）	予習：人称代名詞、前置詞の特徴を練習問題で確認する。 復習：課題の文を読む。③
第10回	文章を読む（3）	予習：助動詞、分離動詞を用いて文を組み立てて練習を行う。 復習：課題の文を読む。④
第11回	ドイツの都市を知る（1） ベルリン、ブレーメン	予習：変化語尾をまとめ、定着させる。 復習：プリントの練習問題を解く。
第12回	ドイツの都市を知る（2） フランクフルト、ボン	予習：人称変化をまとめ、文を作る練習をする。 復習：総合問題にあたる。①
第13回	ドイツの都市を知る（3） ミュンヘン、ウィーン、ザルツブルク	予習：文構造を理解し、実際にテーマをたてて文を作る練習をする。 復習：総合問題にあたる。②
第14回	文章を作ってみる（1）	予習：表現のスキルアップのために単語帳を作る。 復習：総合問題にあたる。③
第15回	文章を作ってみる（2）	表現のスキルアップのために単語帳を作るために熟語帳を作る。

科目名(クラス)	ドイツ語(Konzertfach(演奏専攻))2・4 〔4は異文化コミュニケーションを含む〕	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1・2
担当教員	高橋　幸雄	履修対象・条件	Konzertfach(演奏専攻)のみ履修可				

【授業の概要】

文法知識を確実に定着した上に表現のスキルをアップさせることを主眼に置きます。
文章表現アップのためのツールの習得を目指します。
いろいろな種類の文章を読み、実際のドイツ、オーストリアの事情に触れます。

【授業の到達目標】

基本的な「読解の技術」を身につけ、欧州語学力評価A1～A2の学力を習得する。

【授業の「方法」と「形式」】

演習形式で行います。

【履修時の「留意点」と「心得」】

表現することに力点を置きますから、既習の文法知識の正確な運用が必要です。初級文法を確実に身につけ、使えるように積極的に参加して下さい。

【成績評価の「方法」と「基準」】

課題提出(30%)、小テスト(30%)、定期テスト(40%)

教科書	プリント教材を使います	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	アクセス独和辞典　いずれか	著者等		出版社	三修社
参考文献	新アポロン独和辞典	著者等		出版社	同学社

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	簡単な文章を読む(1) (アニメーション)	予習:既習の練習問題を整理する。 復習:動詞群の問題を解く。
第2回	簡単な文章を読む(2)	予習:既習の練習問題を整理する。 復習:名詞群の問題を解く。
第3回	ドイツ映画を見る(1)	予習:(1)をくり返し聞き文章を発信する練習をする。 復習:代名詞の問題を解く。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	映画を見る（2）	予習：CDを聞いておく。 復習：前置詞の問題を解く。①
第5回	映画を見る（3）	予習：CDを聞いておく。 復習：前置詞の問題を解く。②
第6回	ドイツ人の日常生活	予習：ドイツの日常生活について調べる。 復習：助動詞で独作する。①
第7回	日本とドイツ（1） （文化のとらえ方）	予習：生活の中で見られる日本とドイツの相違をまとめてみる。 復習：助動詞で独作する。②
第8回	独検の問題を解く（1）	予習：基本的語尾変化、格変化の確認をする。 復習：冠詞類の問題を解く。①
第9回	独検の問題を解く（2）	予習：文構造の基本を確認し、プリントで練習する。 復習：冠詞類の問題を解く。②
第10回	独検の問題を解く（3）	予習：CDをくり返し聞く。 復習：総合問題にあたる。①
第11回	オーストリア、スイスについて	予習：オーストリア、スイスについて調べておく。 復習：総合問題にあたる。②
第12回	スポーツと休日	予習：日本又はアジアのスポーツについての考え方をまとめておく。 復習：総合問題にあたる。③
第13回	食事と風俗	予習：知っているドイツの食べ物について調べておく。 復習：ドイツ文化の特徴をまとめる。①
第14回	日本とドイツ（2）	予習：政治形態についてあらかじめ知っていることをまとめる。 復習：ドイツ文化の特徴をまとめる。②
第15回	現実のドイツについてまとめる	最近知ったドイツのことをまとめておく。

科目名(クラス)	ドイツ語【Konzertfach(演奏専攻)】5・7	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	3・4
担当教員	I.K.Lenz	履修対象・条件					

【授業の概要】

専門性を高めるために海外留学を視野に入れて、実践的でアカデミックな文章を読みこなし、その能力を使ってディベート能力を養う授業を展開します。

【授業の到達目標】

欧州語学力評価基準B1－1の習得をめざす。

【授業の「方法」と「形式」】

演習形式で行い、歴史、文化史、評論等の文を読んで行きます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

文法力を用いてさまざまな文章に触れることによって、音楽のバックグラウンドを養ってゆきます。

【成績評価の「方法」と「基準」】

課題提出(授業3回に一題の長文を課します)(50%)、定期試験(50%)

教科書	プリントを使用します。			著者等		出版社	
教科書				著者等		出版社	
参考文献	アクセス独和辞典	いずれか		著者等		出版社	三修社
参考文献	新アポロン独和辞典			著者等		出版社	同学社

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	文法の総復習①	予習:直接法、接続法の体系を身につける。 復習:格変化・時制・態について整理する。
第2回	文法の総復習②	同上
第3回	ウィーンの文化史を読む①	予習:オーストリア文化の特徴を知る。 復習:日本語文献でウィーンの歴史をまとめる。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	ウィーンの文化史を読む②	同上
第5回	ドナウ川はそんなに青いのか？	予習：19世紀の文化の作られ方を知る。 復習：ハプスブルクの歴史と芸術の関係を調べてみる。
第6回	オーストリアの成立を知る	予習：オーストリアの歴史とドイツとの関係を知識として定着させる。 復習：ドイツ史を簡単にまとめてみる。
第7回	フランツ・シューベルト	予習：音楽、文学、絵画を実際のドイツ文で理解する。 復習：それぞれ日本語で読める文献を自分でまとめる。
第8回	ルートヴィヒ・ベートーヴェン	同上
第9回	「野バラ」の読み方	同上
第10回	ドイツ文学とオーストリア文学の相違	同上
第11回	ゲーテとシュティフター	同上
第12回	演劇とオペラ	同上
第13回	ロマン派と世紀末	同上
第14回	詩を読む	同上
第15回	評論を読む	同上

科目名(クラス)	ドイツ語【Konzertfach（演奏専攻）】6・8	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	3・4
担当教員	I.K.Lenz	履修対象・条件					

【授業の概要】

5で扱った文化領域の文章に更に触れながら、現代のドイツ語圏に領域を移し、さまざまなトピックスを読んで行きます。

【授業の到達目標】

欧州語学力評価基準B1－1の習得をめざす。

【授業の「方法」と「形式」】

演習形式で行います。読解を中心とした授業で行います。

【履修時の「留意点」と「心得」】

正確な読解を目指して進めますので、予習がきわめて重要です。

【成績評価の「方法」と「基準」】

課題提出（授業3回に一題の長文を課します）（50%）、定期試験（50%）

教科書	プリントを使用します。		著者等		出版社	
教科書			著者等		出版社	
参考文献	アクセス独和辞典	いずれか	著者等		出版社	三修社
参考文献	新アポロン独和辞典		著者等		出版社	同学社

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	最近の新聞記事から①	予習：ドイツ語圏の今を知る。 復習：素材を日本語文献で読んでみる。
第2回	最近の新聞記事から②	同上
第3回	最近の新聞記事から③	同上

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	音楽評論を読む①	予習：論理的な文を読むことで文法の整理をする。 復習：関連領域を日本語で読んでみる。
第5回	音楽評論を読む②	同上
第6回	音楽評論を読む③	同上
第7回	作品「魔笛」を読んでみる①	予習：実際の原文を自分で読み解く。 復習：特徴のある文を文法的に解読してみる。
第8回	作品「魔笛」を読んでみる②	同上
第9回	作品「魔笛」を読んでみる③	同上
第10回	ワイツゼッカー演説を読む①	予習：演説文の特徴を理解する。 復習：ネイティブスピーカーとしてのドイツ文の習得をプリントを用いて練習する。
第11回	ワイツゼッカー演説を読む②	同上
第12回	ワイツゼッカー演説を読む③	同上
第13回	日本文学をドイツ語で読む①	予習：表現法の違いを発見し、その相違を理解する。 復習：日本語をドイツ語に翻訳するスキルを習得する。
第14回	日本文学をドイツ語で読む②	同上
第15回	日本文学をドイツ語で読む③	同上

科目名(クラス)	英語1－a・b	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	増渕　千幸	履修対象・条件					

【授業の概要】

中・高六年間学んできた基礎をもとに、応用力をつけてゆきましょう。リスニングと読解を中心に授業を進め、
今まで学んできたことを振り返りながら、英語という言語の理解を深めてゆくことを目的とします。
リスニングは、子ども向けの本の朗読を聞きながら書き取り練習をします。同じ作品を読む練習もします。
読解は、村上春樹の短編小説の英訳と日本語原文を用い、和訳をしながら二言語間の言語的・文化的差異を考えて
ゆきます。

【授業の到達目標】

・英語の音に慣れ、リスニング力を高めること。
・英語の文章を読み、文法の確認をすること。
・文章を読むことで、英語の考え方を学ぶこと。

【授業の「方法」と「形式」】

講義・演習混合形式

【履修時の「留意点」と「心得」】

・事前準備の必要はありませんが、授業中の集中と積極的な参加を望みます。
・多くの作業をします。視覚・聴覚を鋭くし集中するために、私語やスマートフォンなどの電子機器の使用は禁止します。

【成績評価の「方法」と「基準」】

1. 定期試験(筆記試験と暗誦試験　※必ず両方受けること)

2. 授業での取り組み方を点数化し、上記の試験結果に加算します。
　試験の点数が足りなければ合格できません。

3. 1.の定期試験は、筆記試験60%、暗誦試験40%で評価します。

教科書	プリントを配布します。	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	(紙の辞書を新たに買うなら)ジーニアス英和辞典	著者等		出版社	大修館書店
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	・オリエンテーション ・小テスト	配布された資料を読んで理解する
第2回	・ウォーミングアップ	予習:前回の資料を読んでおく 復習:リスニング教材の 発音練習
第3回	・リスニング(1) *The Tales of Peter Rabbit* ・読解(1) *Concerning the Sound of a Train Whistle in the Night or On the Efficacy of Fiction* より抜粋	予習:前回の資料を読んでおくし 復習:リスニング教材の音読・ 読解教材の和訳の確認

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	リスニング(2)読解(2)	予習：前回の資料を読んでおく 復習：リスニング教材の音読・ 読解教材の和訳の確認
第5回	リスニング(3)読解(3)	同上
第6回	リスニング(4)読解(4)	同上
第7回	リスニング(5)読解(5)	同上
第8回	リスニング(6)読解(6)	同上
第9回	リスニング(7)読解(7)	同上
第10回	リスニング(8)読解(8)	同上
第11回	リスニング(9)読解(9)	同上
第12回	リスニング(10)読解(10)	同上
第13回	リスニング(11)読解(11)	同上
第14回	総括その1	暗誦試験準備
第15回	総括その2	筆記試験準備

科目名(クラス)	英語2－a・b	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	増渕　千幸	履修対象・条件					

【授業の概要】

中・高六年間学んできた基礎をもとに、応用力をつけてゆきましょう。リスニングと読解を中心に授業を進め、
今まで学んできたことを振り返りながら、英語という言語の理解を深めてゆくことを目的とします。
リスニングは、子ども向けの本の朗読を聞きながら書き取り練習をします。同じ作品を読む練習もします。
読解は、村上春樹の短編小説の英訳と日本語原文を用い、和訳をしながら二言語間の言語的・文化的差異を
考えてゆきます。

【授業の到達目標】

・英語の音に慣れ、リスニング力を高めること。
・英語の文章を読み、文法の確認をすること。
・文章を読むことで、英語の考え方を学ぶこと。

【授業の「方法」と「形式」】

講義・演習混合形式

【履修時の「留意点」と「心得」】

・事前準備の必要はありませんが、授業中の集中と積極的な参加を望みます。
・多くの作業をします。視覚・聴覚を鋭くし集中するために、私語やスマートフォンなどの電子機器の使用は禁止します。

【成績評価の「方法」と「基準」】

1. 定期試験(筆記試験と暗誦試験　※必ず両方受けること)

2. 授業での取り組み方を点数化し、上記の試験結果に加算します。
　試験の点数が足りなければ合格できません。

3. 1.の定期試験は、筆記試験60%、暗誦試験40%で評価します。

教科書	プリントを配布します。	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	(紙の辞書を新たに買うなら)ジーニアス英和辞典	著者等		出版社	大修館書店
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	・オリエンテーション ・ウォーミングアップ	復習:リスニング教材の 発音練習
第2回	・リスニング(12) *The Tales of Peter Rabbit* ・読解(12) *Concerning the Sound of a Train Whistle in the Night or On the Efficacy of Fiction* より抜粋	予習:前回の資料を読んでおく 復習:リスニング教材の音読・ 読解教材の和訳の確認
第3回	リスニング(13)読解(13)	同上

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	リスニング(14)読解(14)	予習：前回の資料を読んでおく 復習：リスニング教材の音読・ 読解教材の和訳の確認
第5回	リスニング(15)読解(15)	同上
第6回	リスニング(16)読解(16)	同上
第7回	リスニング(17)読解(17)	同上
第8回	リスニング(18)読解(18)	同上
第9回	リスニング(19)読解(19)	同上
第10回	リスニング(20)読解(20)	同上
第11回	リスニング(21)読解(21)	同上
第12回	リスニング(22)読解(22)	同上
第13回	リスニング(23)読解(23)	同上
第14回	総括その1	暗誦試験準備
第15回	総括その2	筆記試験準備

科目名(クラス)	英語3	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	増渕　千幸	履修対象・条件					

【授業の概要】

英語1、2で培った基礎力をもとに、応用力をつけてゆきましょう。リスニングと読解を中心に授業を進め、
今まで学んできたことを振り返りながら、英語という言語の理解をさらに深めてゆくことを目的とします。
リスニングは児童向けの物語を聞き、書き取り練習をします。読解は村上春樹の小説の英訳と
日本語原文を用い、和訳をしながら二言語間の言語的・文化的差異を考えてゆきます。

【授業の到達目標】

・英語の音に慣れ、リスニング力を高めること。
・英語の文章を読み、文法の確認をすること。
・文章を読むことで、英語の考え方を学ぶこと。

【授業の「方法」と「形式」】

講義・演習混合形式

【履修時の「留意点」と「心得」】

・事前準備の必要はありませんが、授業中の集中と積極的な参加を望みます。
・多くの作業をします。視覚・聴覚を鋭くし集中するために、私語やスマートフォンなどの電子機器の使用は禁止します。

【成績評価の「方法」と「基準」】

1. 定期試験(筆記試験と暗誦試験　※必ず両方受けること)

2. 授業での取り組み方を点数化し、上記の試験結果に加算します。
　試験の点数が足りなければ合格できません。欠席は減点します。

3. 1.の定期試験は、筆記試験60%、暗誦試験40%で評価します。

教科書	プリントを配布します。	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	(紙の辞書を新たに買うなら)ジーニアス英和辞典	著者等		出版社	大修館書店
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	・オリエンテーション ・小テスト	
第2回	ウォーミングアップ	予習:前回の資料を読んでおく 復習:リスニング教材の 発音練習
第3回	・リスニング(1) *Winnie-the-Pooh* より抜粋 ・読解(1) *On Seeing the 100% Perfect Girl One Beautiful April Morning* より抜粋	予習:前回の資料を読んでおく 復習:リスニング教材の音読・ 読解教材の和訳の確認

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	リスニング(2)読解(2)	予習：前回の資料を読んでおく 復習：リスニング教材の音読・ 読解教材の和訳の確認
第5回	リスニング(3)読解(3)	同上
第6回	リスニング(4)読解(4)	同上
第7回	リスニング(5)読解(5)	同上
第8回	リスニング(6)読解(6)	同上
第9回	リスニング(7)読解(7)	同上
第10回	リスニング(8)読解(8)	同上
第11回	リスニング(9)読解(9)	同上
第12回	リスニング(10)読解(10)	同上
第13回	リスニング(11)読解(11)	同上
第14回	総括その1	暗誦試験準備
第15回	総括その2	筆記試験準備

科目名(クラス)	英語4	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	増渕　千幸	履修対象・条件					

【授業の概要】

英語1、2で培った基礎力をもとに、応用力をつけてゆきましょう。リスニングと読解を中心に授業を進め、
今まで学んできたことを振り返りながら、英語という言語の理解をさらに深めてゆくことを目的とします。
リスニングは児童向けの物語を聞き、書き取り練習をします。読解は村上春樹の小説の英訳と
日本語原文を用い、和訳をしながら二言語間の言語的・文化的差異を考えてゆきます。

【授業の到達目標】

・英語の音に慣れ、リスニング力を高めること。
・英語の文章を読み、文法の確認をすること。
・文章を読むことで、英語の考え方を学ぶこと。

【授業の「方法」と「形式」】

講義・演習混合形式

【履修時の「留意点」と「心得」】

・事前準備の必要はありませんが、授業中の集中と積極的な参加を望みます。
・多くの作業をします。視覚・聴覚を鋭くし集中するために、私語やスマートフォンなどの電子機器の使用は禁止します。

【成績評価の「方法」と「基準」】

1. 定期試験(筆記試験と暗誦試験　※必ず両方受けること)

2. 授業での取り組み方を点数化し、上記の試験結果に加算します。
　試験の点数が足りなければ合格できません。欠席は減点します。

3. 1.の定期試験は、筆記試験60%、暗誦試験40%で評価します。

教科書	プリントを配布します。	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	(紙の辞書を新たに買うなら)ジーニアス英和辞典	著者等		出版社	大修館書店
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	・オリエンテーション ・ウォーミングアップ	復習:リスニング教材の 発音練習
第2回	・リスニング(12) *Winnie-the-Pooh* より抜粋 ・読解(12) *On Seeing the 100% Perfect Girl One Beautiful April Morning* より抜粋	予習:前回の資料を読んでおく 復習:リスニング教材の音読・ 読解教材の和訳の確認
第3回	リスニング(13)読解(13)	同上

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	リスニング(14)読解(14)	予習：前回の資料を読んでおく 復習：リスニング教材の音読・ 読解教材の和訳の確認
第5回	リスニング(15)読解(15)	同上
第6回	リスニング(16)読解(16)	同上
第7回	リスニング(17)読解(17)	同上
第8回	リスニング(18)読解(18)	同上
第9回	リスニング(19)読解(19)	同上
第10回	リスニング(20)読解(20)	同上
第11回	リスニング(21)読解(21)	同上
第12回	リスニング(22)読解(22)	同上
第13回	リスニング(23)読解(23)	同上
第14回	総括その1	暗誦試験準備
第15回	総括その2	筆記試験準備

科目名(クラス)	英語圏異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ1－a・b	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	M.Jeffcoat	履修対象・条件	全専攻				

【授業の概要】

ネイティブの講師による英語の基礎コミュニケーション力を養うコースです。
これまでに習ってきた基本的な文法構文を確認しながら、誤用を減らし、実践的な語彙表現や慣用句を新たに学びます。口頭練習やロールプレイなどを行なう他、相手の意見に賛成・反対したり、質問したり、自分の考えを説明したりするスキルを身につけていきます。会話・聴解以外にも、リーディングやライティングの課題をこなしながら、英語の総合的な運用力を高めていくことを目的とします。

【授業の到達目標】

基本的な文法・構文及び語彙表現・慣用句を使用して、自分の意見をスピーキング及びライティングで発信し、相手の意見を理解した上でコミュニケーションが取れるようになる。

【授業の「方法」と「形式」】

各回の授業ではテキストを中心に、積極的な発話を促しながら各単元の要素を掴んでいきます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・口頭による反復練習やロールプレイ・ペアワークなど、発話の機会が多くあるため、積極的に英語を話す姿勢が求められます。
・遅刻・途中退室は原則として認めません。
・課題以外にも、授業で学んだ語彙や表現はきちんと復習し、自分の中に定着させていくことが求められます。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業への参加態度、課題及び期末試験の素点に基づいて判断する。

・各単元ごとのライティング等の課題・・・20%
・授業中の積極的な言語活動の参加・・・20%
・期末試験・・・60%

教科書	『SIDE by SIDE』 Book2	著者等	Steven J. Molinsky /Bill Bliss	出版社	PEARSON/Longman
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション	自分の普段のスケジュールを表にする。(30分程度)
第2回	Unit 1 現在形／現在完了形／過去形／未来形 "Like and Dislike" going to	※毎回、復習として授業で習った語彙・表現を覚えるようにすること。 自分の普段のスケジュールを基に、今週の出来事を過去・現在・未来に分けて一文ずつ書く。(30分程度)
第3回	Unit 1 時の表現／間接目的語	Journal(Writing)課題① 誕生日の思い出(60分程度)

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	Unit 2 可算・不可算名詞① ″Buying Food″	Reading課題①　（30分程度）
第5回	Unit 2 可算・不可算名詞② a little/a few much/many	Make a List: 家にある食べ物のリストを作ってみよう　（30分程度）
第6回	Unit 3 単位 pt./qt./gal./lb.	Journal（Writing）課題② これまでに食べたご馳走について（60分程度）
第7回	Unit 3 不可算名詞の数詞 ″Describing Food″ a glass of～/a dozen～	Project: お気に入りのレシピを英語で書いてみよう　（60分程度）
第8回	Unit 4 未来形 will／won't	Reading課題②　（30分程度）
第9回	Unit 4 時の表現／可能性／見込み might	Journal（Writing）課題③ 将来の住まいや出来事について（60分程度）
第10回	Unit 5 Shouldの表現／比較 ″Advice″″Expressing Opinion″	Journal（Writing）課題④ 故郷と現在住んでいる場所について（60分程度）
第11回	Unit 5 比較と所有格 ～than/my-mine	自分の持ち物や家族と友達のものを比べる文を5つ書く。比較と所有格を必ず使うこと。（30分程度）
第12回	Unit 6 最上級① ″Describing People, Place, and Things″	Reading課題③　（30分程度）
第13回	Unit 6 最上級② ″Shopping″	Journal（Writing）課題⑤ あなたにとって一番大切な人（60分程度）
第14回	Unit 7 道案内① ″Giving Directions″ ″Transportation″	Journal（Writing）課題⑥ 家から大学までの行き方（60分程度）
第15回	Unit 7 道案内② Unit 1～Unit 7　まとめ	英語学習に興味を持ち続け、自主学習を続ける。

科目名(クラス)	英語圏異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ2-a・b	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	M.Jeffcoat	履修対象・条件	全専攻				

【授業の概要】

ネイティブの講師による英語の基礎コミュニケーション力を養うコースです。
これまでに習ってきた基本的な文法構文を確認しながら、誤用を減らし、実践的な語彙表現や慣用句を新たに学びます。口頭練習やロールプレイなどを行なう他、相手の意見に賛成・反対したり、質問したり、自分の考えを説明したりするスキルを身につけていきます。会話・聴解以外にも、リーディングやライティングの課題をこなしながら、英語の総合的な運用力を高めていくことを目的とします。

【授業の到達目標】

基本的な文法・構文及び語彙表現・慣用句を使用して、自分の意見をスピーキング及びライティングで発信し、相手の意見を理解した上でコミュニケーションが取れるようになる。

【授業の「方法」と「形式」】

各回の授業ではテキストを中心に、積極的な発話を促しながら各単元の要素を掴んでいきます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・口頭による反復練習やロールプレイ・ペアワークなど、発話の機会が多くあるため、積極的に英語を話す姿勢が求められます。
・遅刻・途中退室は原則として認めません。
・課題以外にも、授業で学んだ語彙や表現はきちんと復習し、自分の中に定着させていくことが求められます。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業への参加態度、課題及び期末試験の素点に基づいて判断する。

・各単元ごとのライティング等の課題・・・20%
・授業中の積極的な言語活動の参加・・・20%
・期末試験・・・60%

教科書	『SIDE by SIDE』 Book2	著者等	Steven J. Molinsky /Bill Bliss	出版社	PEARSON/Longman
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	Unit 8 副詞／副詞の比較 "Describing People's Action"	※毎回、復習として授業で習った語彙・表現を覚えるようにすること。
第2回	Unit 8 動作主名詞	Reading課題①　(30分程度)
第3回	Unit 8 If節	Journal(Writing)課題① やってみたいこととそのことをしたらどうなるか(60分程度)

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	Unit 9 過去進行形 was/were doing	Reading課題②　（30分程度）
第5回	Unit 9 再帰代名詞／While節	Journal（Writing）課題② 独りでやりたいこと、友達とやりたいこと（60分程度）
第6回	Unit 10 過去および未来の可能性 could/be able to	Reading課題③　（30分程度）
第7回	Unit 10 過去および未来の義務 have got to	今週の義務を過去と未来に注意して三文ずつ書く（30分程度）
第8回	Unit 10 弁解 too～	Journal（Writing）課題③ イライラしたこと、悔しかったこと（60分程度）
第9回	Unit 11 過去形の復習 ″Medical Examination″	Journal（Writing）課題④ 自分の日常生活のルールについて（60分程度）
第10回	Unit 11 可算・不可算名詞の復習 ″Diet″	Make a List: 健康によい食品、悪い食品（30分程度）
第11回	Unit 11 Must／Shouldの表現の復習 ″Medical Advice″	Reading課題④　（30分程度）
第12回	Unit 12 未来進行形 will be ～ing ″Making Plans by Telephone″	Reading課題⑤　（30分程度）
第13回	Unit 12 時の表現 ″Growing Up″	Journal（Writing）課題④ 自分の家族が毎年祝う特別な日について（60分程度）
第14回	Unit 13 代名詞の復習 ″Offering Help″	Reading課題⑥　（30分程度）
第15回	Unit 13 動詞の時制の復習 ″Friends″ Unit 8～Unit 13　まとめ	英語学習に興味を持ち続け、自主学習を続ける。

科目名(クラス)	英語圏異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ3-a・b	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	M.Jeffcoat	履修対象・条件	全専攻				

【授業の概要】

ネイティブの講師による英語の基礎コミュニケーション力を養うコースです。
これまでに習ってきた基本的な文法構文を確認しながら、誤用を減らし、実践的な語彙表現や慣用句を新たに学びます。口頭練習やロールプレイなどを行なう他、相手の意見に賛成・反対したり、質問したり、自分の考えを説明したりするスキルを身につけていきます。会話・聴解以外にも、リーディングやライティングの課題をこなしながら、英語の総合的な運用力を高めていくことを目的とします。

【授業の到達目標】

基本的な文法・構文及び語彙表現・慣用句を使用して、自分の意見をスピーキング及びライティングで発信し、相手の意見を理解した上でコミュニケーションが取れるようになる。

【授業の「方法」と「形式」】

各回の授業ではテキストを中心に、積極的な発話を促しながら各単元の要素を掴んでいきます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・口頭による反復練習やロールプレイ・ペアワークなど、発話の機会が多くあるため、積極的に英語を話す姿勢が求められます。
・遅刻・途中退室は原則として認めません。
・課題以外にも、授業で学んだ語彙や表現はきちんと復習し、自分の中に定着させていくことが求められます。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業への参加態度、課題及び期末試験の素点に基づいて判断する。

・各単元ごとのライティング等の課題・・・20%
・授業中の積極的な言語活動の参加・・・20%
・期末試験・・・60%

教科書	『SIDE by SIDE』 Book3	著者等	Steven J. Molinsky /Bill Bliss	出版社	PEARSON/Longman
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション	自分の趣味や好きな科目について一文ずつ書く。(30分程度)
第2回	Unit 1 現在形/現在進行形の復習 "How often～?	※毎回、復習として授業で習った語彙・表現を覚えるようにすること。 趣味や好きな科目に取り組む頻度について一文ずつ書く。(30分程度)
第3回	Unit 1 主格・目的格・代名詞・所有形容詞	Reading課題①　(30分程度)

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	Unit 2 過去形の復習①	Reading課題②　（30分程度）
第5回	Unit 2 過去形の復習②／規則・不規則動詞	親友と出会った経緯について三文程度書く。（30分程度）
第6回	Unit 2 過去進行形の復習	Journal（Writing）課題① これまで経験した旅行について（60分程度）
第7回	Unit 3 未来形の復習①／時の表現	Reading課題③　（30分程度）
第8回	Unit 3 未来形の復習② ″Talking on the Phone″	Journal（Writing）課題② これまで経験した別れ／将来の計画（60分程度）
第9回	Unit 3 依頼 ″Asking a Favor″	教科書p.31の例に倣って、友達に依頼をする会話文を書く。（60分程度）
第10回	Unit 4 現在完了形①	Reading課題④　（30分程度）
第11回	Unit 4 現在完了形② ″Making Recommendations″	Reading課題⑤　（30分程度）
第12回	Unit 4 現在完了形③ ″Making Lists″	Journal（Writing）課題③ 現在住んでいる場所でこれまで経験したこと（60分程度）
第13回	Unit 5 Since/forの表現	Reading課題⑥　（30分程度）
第14回	Unit 5 現在完了形と現在形の違い	Journal（Writing）課題③ 自分が続けているスポーツや楽器について（60分程度）
第15回	Unit 5 現在完了形と過去形の違い Unit 1～Unit 5　まとめ	英語学習に興味を持ち続け、自主学習を続ける。

科目名(クラス)	英語圏異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ4−a・b	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	M.Jeffcoat	履修対象・条件	全専攻				

【授業の概要】

ネイティブの講師による英語の基礎コミュニケーション力を養うコースです。
これまでに習ってきた基本的な文法構文を確認しながら、誤用を減らし、実践的な語彙表現や慣用句を新たに学びます。口頭練習やロールプレイなどを行なう他、相手の意見に賛成・反対したり、質問したり、自分の考えを説明したりするスキルを身につけていきます。会話・聴解以外にも、リーディングやライティングの課題をこなしながら、英語の総合的な運用力を高めていくことを目的とします。

【授業の到達目標】

基本的な文法・構文及び語彙表現・慣用句を使用して、自分の意見をスピーキング及びライティングで発信し、相手の意見を理解した上でコミュニケーションが取れるようになる。

【授業の「方法」と「形式」】

各回の授業ではテキストを中心に、積極的な発話を促しながら各単元の要素を掴んでいきます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・口頭による反復練習やロールプレイ・ペアワークなど、発話の機会が多くあるため、積極的に英語を話す姿勢が求められます。
・遅刻・途中退室は原則として認めません。
・課題以外にも、授業で学んだ語彙や表現はきちんと復習し、自分の中に定着させていくことが求められます。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業への参加態度、課題及び期末試験の素点に基づいて判断する。

・各単元ごとのライティング等の課題・・・20%
・授業中の積極的な言語活動の参加・・・20%
・期末試験・・・60%

教科書	『SIDE by SIDE』 Book3	著者等	Steven J. Molinsky /Bill Bliss	出版社	PEARSON/Longman
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	Unit 6 現在完了進行形①	※毎回、復習として授業で習った語彙・表現を覚えるようにすること。
第2回	Unit 6 現在完了進行形② What have you been〜？ How long have you been〜?	Reading課題①　(30分程度)
第3回	Unit 6 現在完了進行形③ ″Job Interview″	Journal(Writing)課題① 現在住んでいる街にどのくらい長く住んでいるか(60分程度)

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	Unit 7 動名詞と不定詞① ～ing/to～	Reading課題②　（30分程度）
第5回	Unit 7 動名詞と不定詞②	Reading課題③　（30分程度）
第6回	Unit 7 現在完了形と現在完了進行形の復習	Journal（Writing）課題② これまで経験した重要な決意について（60分程度）
第7回	Unit 8 過去完了形①	Reading課題④　（30分程度）
第8回	Unit 8 過去完了形② "Describing Consequences of Being Late"	Reading課題⑤　（30分程度）
第9回	Unit 8 過去完了進行形 "Discussing Feelings and Accomplishments"	Journal（Writing）課題③ これまで自分が成し遂げたことについて（60分程度）
第10回	Unit 9 イディオム①　分離系 put on～/put～on	Reading課題⑥　（30分程度）
第11回	Unit 9 イディオム②　不分離系 hear from～	Reading課題⑦　（30分程度）
第12回	Unit 9 イディオム③ "Shopping for clothing"	Journal（Writing）課題③ 返品した経験について（なければ空想でよい）（60分程度）
第13回	Unit 10 接続詞① ～too/so～	Reading課題⑧　（30分程度）
第14回	Unit 10 接続詞② either/neither	Journal（Writing）課題③ 自分と似ている身近な人物について（60分程度）
第15回	Unit 10 接続詞③ "Same and Different" Unit 6～Unit 10　まとめ	英語学習に興味を持ち続け、自主学習を続ける。

科目名(クラス)	イタリア語1	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	Marco Colnago	履修対象・条件					

【授業の概要】

イタリア語の初級文法を習得するコースです。コミュニケーションのアプローチを忘れず、初級文法の基礎を学ぶことができます。
第1課　自己紹介、直接法現在形、不定冠詞
第2課（前半）　好み、定冠詞

【授業の到達目標】

イタリア語未修者が、イタリア語文法の最低限の基礎的知識を習得することを第一の目的とします。履修者が授業を通して、正確な発音、簡単な本文の読書、初級文法の能力を身につけます。初めて学ぶ言語ですから困難は伴いますが、一歩一歩進んでいきましょう。
初めてイタリア語を学ぶ皆さんが、着実にイタリア語を読み、イタリア語で表現する基礎的能力を身につけられるように、丁寧な説明と質問をしやすい環境作りを心がけます。履修者は、分からないことがあれば必ず質問するようにしてください（「どこが分からないのかわからない」場合にも、必ず教員にその旨を伝えてください。分からない項目を一緒に探し、解決していきましょう）。

【授業の「方法」と「形式」】

各回の授業ではテキスト、ＣＤ、先生のオリジナル教材等を使用します。

【履修時の「留意点」と「心得」】

必ず毎回予習や復習などが必要です。（授業が終わる前に予習／復習内容をお伝えします）
宿題もまじめにしてきてください。
遅刻、途中退出は原則として認めません。
積極的な授業参加を望みます。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業科目の成績評価は、100点を満点として評価し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。授業への参加度、小テスト及び授業で学んだ事項の知識定着を確認する定期試験の素点に基づいて判断する。
授業への参加度　２５％
期末試験（筆記試験）　７５％

教科書	Parliamo in italiano 1	著者等	ダンテ・アリギエーリ協会	出版社	ダンテ・アリギエーリ協会
教科書		著者等	ダンテ・アリギエーリ協会	出版社	ダンテ・アリギエーリ協会
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	アルファベット／発音 アクセント、アルファベット、外来語を示す文字、子音の特有の発音、同一二重子音、無声子音	授業中で行われたか活動に応じて、毎回授業が終わる前に予習／復習内容をお伝えします。
第2回	自己紹介 挨拶、名前、国籍、出身、住まい、仕事、年齢	
第3回	国籍 形容詞の変化	

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　　業　　内　　容	準備学習（予習・復習）
第4回	職業／不定冠詞の単数形 名詞の変化 不定冠詞の単数形	
第5回	イタリア語でチャット（書く練習） ネットで知り合うための表現(友達として)	
第6回	動詞の活用① -ARE, -ERE, -IRE 規則動詞の活用	
第7回	動詞の活用② FARE, ANDAREなどの不規則動詞の活用	
第8回	不定冠詞の複数形 不定冠詞の単数形を復習してから複数形も勉強する	
第9回	カフェで知り合う・自己紹介する（聞き取り練習） 自己紹介の最後の復習	
第10回	Mi piace/mi piacciono ① 定冠詞の単数形 好みを表す表現	
第11回	Mi piace/mi piacciono ② 定冠詞の複数形 好みを表す表現	
第12回	助動詞Dovere - Volere - Potere ① 助動詞の使い分け	
第13回	助動詞Dovere - Volere - Potere ② 助動詞の使い分け	
第14回	問題集／まとめ	
第15回	期末試験	

科目名(クラス)	イタリア語2	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	Marco Colnago	履修対象・条件					

【授業の概要】

前期に勉強したことを忘れず、イタリア語の初級文法の勉強が続きます。コミュニケーションのアプローチを忘れず、初級文法の基礎を学ぶことができます。
第2課(後半)　助動詞
第3課　　現在進行形、「私の家」、近過去、関係代名詞

【授業の到達目標】

イタリア語未修者が、イタリア語文法の最低限の基礎的知識を習得することを第一の目的とします。履修者が授業を通して、正確な発音、簡単な本文の読書、初級文法の能力を身につけます。初めて学ぶ言語ですから困難は伴いますが、一歩一歩進んでいきましょう。初めてイタリア語を学ぶ皆さんが、着実にイタリア語を読み、イタリア語で表現する基礎的能力を身につけられるように、丁寧な説明と質問をしやすい環境作りを心がけます。履修者は、分からないことがあれば必ず質問するようにしてください（「どこが分からないのかわからない」場合にも、必ず教員にその旨を伝えてください。分からない項目を一緒に探し、解決していきましょう）。

【授業の「方法」と「形式」】

各回の授業ではテキスト、ＣＤ、先生のオリジナル教材等を使用します。

【履修時の「留意点」と「心得」】

必ず毎回予習や復習などが必要です。（授業が終わる前に予習／復習内容をお伝えします）
宿題もまじめにしてきてください。
遅刻、途中退出は原則として認めません。
積極的な授業参加を望みます。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業科目の成績評価は、100点を満点として評価し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。授業への参加度、小テスト及び授業で学んだ事項の知識定着を確認する定期試験の素点に基づいて判断する。
授業への参加度　25%
期末試験(筆記試験)　75%

教科書	Parliamo in italiano 1	著者等	ダンテ・アリギエーリ協会	出版社	ダンテ・アリギエーリ協会
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	前期の復習	授業中で行われたか活動に応じて、毎回授業が終わる前に予習／復習内容をお伝えします。
第2回	イタリア語学学校に登録する(聞き取り練習) 質問のやり方	
第3回	Volereの条件法 場所を示す代名詞 CI 丁寧に何かを頼むための表現	

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　　業　　内　　容	準備学習（予習・復習）
第4回	機内で会話する（聞き取り練習）	
第5回	所有形容詞① 形容詞の変化	
第6回	所有形容詞② 形容詞の変化	
第7回	現在進行形 規則動詞／不規則動詞の現在進行形	
第8回	頻度副詞 副詞の使い分けを理解してから文章を書く	
第9回	他動詞の近過去①	
第10回	他動詞の近過去②	
第11回	他動詞の近過去③	
第12回	関係代名詞 CHE 写真を説明しながら関係代名詞CHEを勉強する	
第13回	イタリアのクリスマス イタリアのクリスマス伝統／ゲームを経験する	
第14回	問題集／まとめ	
第15回	期末試験	

科目名(クラス)	イタリア語3	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	Marco Colnago	履修対象・条件					

【授業の概要】

イタリア語1～2を完成した学生のための授業になりまして、イタリア語の中級文法を習得するコースです。
第6課　日常生活、時間、再起動詞、指示形容詞など
第7課　レストランの専門用語、イタリアの食文化など
第8課　暇な時間、直説法近過去など
第8課が終わりましたら、先生が作成しました教材を使う予定です（未来形、プリント教材）

【授業の到達目標】

一年目に学んだ文法、コミュニケーションのアプローチを忘れず、中級文法の基礎を学ぶことができます。イタリア語で表現する基礎的能力を身につけられるように、丁寧な説明と質問をしやすい環境作りを心がけます。履修者は、分からないことがあれば必ず質問するようにしてください（「どこが分からないのかわからない」場合にも、必ず教員にその旨を伝えてください。分からない項目を一緒に探し、解決していきましょう）。

【授業の「方法」と「形式」】

各回の授業ではテキスト、ＣＤ、先生のオリジナル教材等を使用します。

【履修時の「留意点」と「心得」】

必ず毎回予習や復習などが必要です。（授業が終わる前に予習／復習内容をお伝えします）
宿題もまじめにしてきてください。
遅刻、途中退出は原則として認めません。
積極的な授業参加を望みます。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業科目の成績評価は、100点を満点として評価し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。授業への参加度、小テスト及び授業で学んだ事項の知識定着を確認する定期試験の素点に基づいて判断する。
授業への参加度　２５％
期末試験（筆記試験）　７５％

教科書	NUOVO RETE! A1	著者等	MEZZADRI,BALBONI	出版社	GUERRA EDIZIONI
教科書	プリント教材	著者等	先生作成、その他	出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	第６課／LA VITA QUOTIDIANA① １）時間を聞くことができる。 ２）時間を教えることができる。 ３）女性の方の一日に関して聞くことができる。	授業中で行われたか活動に応じて、毎回授業が終わる前に予習／復習内容をお伝えします。
第2回	第６課／LA VITA QUOTIDIANA② １）再起動詞の活用をしっかり勉強することができる。 ２）ANDARE＋前置詞を使い分けることができる。 ３）日常に関して中文を作成することができる。	
第3回	第６課／LA VITA QUOTIDIANA③ １）長文を読むことができる。 ２）日付を正しく書くことができる。 ３）指示形容詞QUELLOを勉強することができる。 ４）頻度副詞を使い分けることができる。	

【授業計画・内容・準備学習】	

回数	授　　業　　内　　容	準備学習（予習・復習）
第4回	第６課／LA VITA QUOTIDIANA④ １）家事に関しての会話を聞き取ることができる。 ２）所有形容詞を復習することができる。	
第5回	第７課／IL CIBO, AL RISTORANTE① １）食料品や量などの単語を勉強することができる。 ２）レシピの材料を書くことができる。 ３）不規則名詞を学ぶことができる。	
第6回	第７課／IL CIBO, AL RISTORANTE② １）レストランのメニューを理解することができる。 ２）不定冠詞の複数形を勉強することができる。	
第7回	第７課／IL CIBO, AL RISTORANTE③ １）レストランの会話を聞くことができる。 ２）順番を表す形容詞を勉強することができる。	
第8回	第８課／IL TEMPO LIBERO① １）暇な時について話すことができる。 ２）様々な動詞を学ぶことができる。 ３）前置詞INを復習することができる。	
第9回	第８課／IL TEMPO LIBERO② １）近過去をしっかり学ぶことができる。	
第10回	第８課／IL TEMPO LIBERO③ １）先生として働いている一人の暇な時間に関して聞くことができる。 ２）近過去で作った会話を聞くことができる。	
第11回	直接法未来形①	
第12回	直接法未来形②	
第13回	直接法未来形③	
第14回	問題集／まとめ	
第15回	期末試験	

科目名(クラス)	イタリア語4	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	Marco Colnago	履修対象・条件					

【授業の概要】

イタリア語の中級文法を習得するコースです。
先生が作成しました教材を使う予定です。
非人称／受け身のSI、代名詞NE、直説法半過去などをしっかり把握することができます。
イタリアの歌、観光地なども勉強することができます。

【授業の到達目標】

前期に学んだ文法、コミュニケーションのアプローチを忘れず、中級文法の基礎を学ぶことができます。イタリア語で表現する基礎的能力を身につけられるように、丁寧な説明と質問をしやすい環境作りを心がけます。履修者は、分からないことがあれば必ず質問するようにしてください（「どこが分からないのかわからない」場合にも、必ず教員にその旨を伝えてください。分からない項目を一緒に探し、解決していきましょう）。

【授業の「方法」と「形式」】

各回の授業ではテキスト、ＣＤ、先生のオリジナル教材等を使用します。

【履修時の「留意点」と「心得」】

必ず毎回予習や復習などが必要です。（授業が終わる前に予習／復習内容をお伝えします）
宿題もまじめにしてきてください。
遅刻、途中退出は原則として認めません。
積極的な授業参加を望みます。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業科目の成績評価は、100点を満点として評価し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。授業への参加度、小テスト及び授業で学んだ事項の知識定着を確認する定期試験の素点に基づいて判断する。
授業への参加度　２５％
期末試験（筆記試験）　７５％

教科書	NUOVO RETE! A1	著者等	MEZZADRI, BALBONI	出版社	GUERRA EDIZIONI
教科書	プリント教材	著者等	先生作成、その他	出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	前期の復習	授業中で行われたか活動に応じて、毎回授業が終わる前に予習／復習内容をお伝えします。
第2回	旅行のプランを書く①	
第3回	旅行のプランを書く②	

【授業計画・内容・準備学習】	

回数	授　　業　　内　　容	準備学習（予習・復習）
第4回	非人称のSI	
第5回	受け身のSI	
第6回	数量代名詞NE①＆直説法現在形	
第7回	数量代名詞NE②＆直説法近過去	
第8回	半過去①	
第9回	半過去②	
第10回	半過去③	
第11回	半過去④	
第12回	歌で学ぶイタリア語	
第13回	イタリアのクリスマス イタリアのクリスマス伝統／ゲームを経験する	
第14回	問題集／まとめ	
第15回	期末試験	

科目名(クラス)	イタリア語圏異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ1	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	Marco Colnago	履修対象・条件					

【授業の概要】

イタリア語の日常会話でよく使われる表現を学びながら、会話の基礎を身につける授業です。
CDを聞いて、耳を慣らしましょう。声を出して、正しい発音を身につけましょう。具体的な場面に沿って、日常会話を学びましょう。授業内容が下記の通りになります。
第1課　挨拶、アルファベット、発音、自己紹介、国籍の変化など
第2課　職業、数字、冠詞の変化など
第3課　イタリアのカフェやレストランなどで注文のやり方、テーブルの予約など

【授業の到達目標】

イタリア語未修者が、イタリア語コミュニケーションの最低限の基礎的知識を習得することを第一の目的とします。履修者が授業を通して、日常会話の能力を身につけます。初めて学ぶ言語ですから困難は伴いますが、一歩一歩進んでいきましょう。初めてイタリア語を学ぶ皆さんが、基礎的能力を身につけられるように、丁寧な説明と質問をしやすい環境作りを心がけます。履修者は、分からないことがあれば必ず質問するようにしてください（「どこが分からないのかわからない」場合にも、必ず教員にその旨を伝えてください。分からない項目を一緒に探し、解決していきましょう）。

【授業の「方法」と「形式」】

各回の授業ではテキスト、ＣＤ、VIDEO講座、先生のオリジナル教材等を使用します。

【履修時の「留意点」と「心得」】

必ず毎回予習や復習などが必要です。（授業が終わる前に予習／復習内容をお伝えします）
宿題も真面目にやってきてください。
遅刻、途中退出は原則として認めません。
積極的な授業参加を望みます。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業科目の成績評価は、100点を満点として評価し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。授業への参加度、小テスト及び授業で学んだ事項の知識定着を確認する定期試験の素点に基づいて判断する。
授業への参加度（積極性・貢献度）25%
口頭試験　25%
筆記試験　50%

教科書	NUOVO ESPRESSO 1	著者等	LUCIANA ZIGLIO, GIOVANNA RIZZO	出版社	ALMA EDIZIONI
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	挨拶、名前を聞く、アルファベット、C/Gの発音 イタリア出身の知らない人に会う時に完璧に自己紹介する	授業中で行われたか活動に応じて、毎回授業が終わる前に予習／復習内容をお伝えします。
第2回	自己紹介①、授業中に使える表現 イタリア出身の知らない人に会う時に完璧に自己紹介する	
第3回	国籍、数字（１−２０） 知らない人に国を聞く	

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　　業　　内　　容	準備学習（予習・復習）
第4回	TuとLEIの使い分け、電話番号・住所を聞く 丁寧語の使い方	
第5回	第１章　まとめ 第１章　ビデオ講座（画像／文法）	
第6回	第１章　小テスト 自己紹介②、気分を聞く、他人を紹介する 二人以上が居るときに自己紹介／友達の紹介する	
第7回	話せる言語・国籍・年齢を聞く 数字（２１−１００） 形容詞の変化	
第8回	職業 名詞の変化	
第9回	第２章　まとめ 第２章　ビデオ講座（画像／文法）	
第10回	第２商　小テスト カフェで使える表現、CI/GIの発音 イタリアンバーで注文する 定冠詞／不定冠詞、動詞の変化	
第11回	レストランで使える表現 ① イタリアンレストランで注文する 定冠詞／不定冠詞、動詞の変化	
第12回	レストランで使える表現 ② お会計をお願いする 気に入ったレストランに電話してテーブルを予約する	
第13回	第３章　まとめ 第３章　ビデオ講座（画像／文法）	
第14回	問題集(第1、2、3章) 口頭試験(練習)	
第15回	期末試験(筆記／口頭)	

科目名(クラス)	イタリア語圏異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ2	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	Marco Colnago	履修対象・条件					

【授業の概要】

イタリア語の日常会話でよく使われる表現を学びながら、会話の基礎を身につける授業です。
CDを聞いて、耳を慣らしましょう。声を出して、正しい発音を身につけましょう。具体的な場面に沿って、日常会話を学びましょう。授業内容が下記の通りになります。
第4課　暇な時間について、動詞の直接法現在形、頻度副詞、好き/嫌いなど
第5課　ホテルにて（予約、問題を解決するなど）

【授業の到達目標】

イタリア語未修者が、イタリア語コミュニケーションの最低限の基礎的知識を習得することを第一の目的とします。履修者が授業を通して、日常会話の能力を身につけます。初めて学ぶ言語ですから困難は伴いますが、一歩一歩進んでいきましょう。初めてイタリア語を学ぶ皆さんが、基礎的能力を身につけられるように、丁寧な説明と質問をしやすい環境作りを心がけます。履修者は、分からないことがあれば必ず質問するようにしてください（「どこが分からないのかわからない」場合にも、必ず教員にその旨を伝えてください。分からない項目を一緒に探し、解決していきましょう）。

【授業の「方法」と「形式」】

各回の授業ではテキスト、ＣＤ、VIDEO講座、先生のオリジナル教材等を使用します。

【履修時の「留意点」と「心得」】

必ず毎回予習や復習などが必要です。（授業が終わる前に予習／復習内容をお伝えします）
宿題も真面目にやってきてください。
遅刻、途中退出は原則として認めません。
積極的な授業参加を望みます。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業科目の成績評価は、100点を満点として評価し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。授業への参加度、小テスト及び授業で学んだ事項の知識定着を確認する定期試験の素点に基づいて判断する。
授業への参加度（積極性・貢献度）25%
口頭試験　２５％
筆記試験　５０％

教科書	NUOVO ESPRESSO 1	著者等	LUCIANA ZIGLIO, GIOVANNA RIZZO	出版社	ALMA EDIZIONI
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	前期の復習	授業中で行われたか活動に応じて、毎回授業が終わる前に予習／復習内容をお伝えします。
第2回	暇な時間について① ARE, ERE, IRE 規則動詞の活用 頻度副詞 前置詞	
第3回	暇な時間について② 不規則動詞の活用 頻度副詞 前置詞	

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　　業　　内　　容	準備学習（予習・復習）
第4回	好み 好きな食べ物やスポツなどについて話す 間接目的語代名詞	
第5回	SC/SKの発音 時間を聞く	
第6回	第４章　まとめ 第４章　ビデオ講座（画像／文法）	
第7回	第４章　小テスト ホテルにて①、C/G/CI/GIの発音 イタリアのホテルに電話して予約する	
第8回	ホテルにて② 部屋のこだわりについて話す	
第9回	ホテルで起きた問題を解決する	
第10回	います／ありますの使い分け ホテルの受付に電話で起きた問題を説明する（壊れたもの、足りないものなど）	
第11回	月の言い方 順番を表す形容詞 数字（101-2.000.000.000）	
第12回	第５章　まとめ 第５章　ビデオ講座（画像／文法）	
第13回	第5章　小テスト イタリアのクリスマス イタリアのクリスマス伝統／ゲームを経験する	
第14回	問題集（第4、5章） 口頭試験（練習）	
第15回	期末試験（筆記／口頭）	

科目名(クラス)	イタリア語圏異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ3	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	Marco Colnago	履修対象・条件					

【授業の概要】

イタリア語圏異文化コミュニケーション1～2を完成した学生のための授業になります。一年目に使えるようになった日常表現を忘れずに、様々な新しい表現を学びます。
第6課　イタリア一周旅行（道の説明、位置を表す語彙など）
第7課　バカンスに行きましょう！（近過去、絶対最上級など）
第8課　イタリアの美味（食料品の買い物、食文化の比較、レシピなど）

【授業の到達目標】

目、耳、口を使い、本授業の目標はイタリア語で実践的なコミュニケーションをとることになります。イタリアの文化や生活習慣なども紹介します。
分からないことがあれば必ず質問するようにしてください（「どこが分からないのかわからない」場合にも、必ず教員にその旨を伝えてください。分からない項目を一緒に探し、解決していきましょう）。

【授業の「方法」と「形式」】

各回の授業ではテキスト、ＣＤ、VIDEO講座、先生のオリジナル教材等を使用します。

【履修時の「留意点」と「心得」】

必ず毎回予習や復習などが必要です。（授業が終わる前に予習／復習内容をお伝えします）
宿題も真面目にやってきてください。
遅刻、途中退出は原則として認めません。
積極的な授業参加を望みます。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業科目の成績評価は、100点を満点として評価し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。授業への参加度、小テスト及び授業で学んだ事項の知識定着を確認する定期試験の素点に基づいて判断する。
授業への参加度（積極性・貢献度）25%
口頭試験　25%
筆記試験　50%

教科書	NUOVO ESPRESSO 1	著者等	LUCIANA ZIGLIO, GIOVANNA RIZZO	出版社	ALMA EDIZIONI
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	イタリア旅行① 不定冠詞の複数形 場所代名詞 CI	授業中で行われたか活動に応じて、毎回授業が終わる前に予習／復習内容をお伝えします。
第2回	イタリア旅行② 自分の住んでいる町を説明する バス停で停留場について話す 助動詞 DOVERE	
第3回	イタリア旅行③ SCO-SCHI, SCI-SCHIの発音 道を説明する 疑問詞	

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　　業　　内　　容	準備学習（予習・復習）
第4回	イタリア旅行④ お店の営業時間 第６章　まとめ／ビデオ講座	
第5回	第６章　小テスト バカンスへ行きましょう！① 近過去（自動詞／他動詞） イタリアからの絵はがきを読む	
第6回	バカンスへ行きましょう！② 近過去（自動詞／他動詞） 近過去でBINGO! 週末物語り①	
第7回	バカンスへ行きましょう！③ B-Pの発音 近過去（自動詞／他動詞） 週末物語り②	
第8回	バカンスへ行きましょう！④ 近過去（自動詞／他動詞） お天気 第７章　まとめ／ビデオ講座	
第9回	第７章　小テスト 近過去まとめゲーム イタリアの美味① イタリアでよく使う食料品	
第10回	イタリアの美味② 様々なお店で買物する 入れ物／量	
第11回	イタリアの美味③ スーパーで買物する 間接目的語代名詞	
第12回	イタリアの美味④ 話す練習	
第13回	イタリアの美味⑤ ミートソースの作り方 非人称の SI 第８章　まとめ／ビデオ講座	
第14回	問題集（第6、7、8章） 口頭試験（練習）	
第15回	定期試験（筆記／口頭）	

科目名(クラス)	イタリア語圏異文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ4	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	Marco Colnago	履修対象・条件					

【授業の概要】

第9課　　日常生活について（再起動詞、時間を表す表現など）
第10課　家族について（家系図の説明、所有形容詞など）

【授業の到達目標】

目、耳、口を使い、本授業の目標はイタリア語で実践的なコミュニケーションをとることになります。イタリアの文化や生活習慣なども紹介します。
分からないことがあれば必ず質問するようにしてください（「どこが分からないのかわからない」場合にも、必ず教員にその旨を伝えてください。分からない項目を一緒に探し、解決していきましょう）。

【授業の「方法」と「形式」】

各回の授業ではテキスト、ＣＤ、VIDEO講座、先生のオリジナル教材等を使用します。

【履修時の「留意点」と「心得」】

必ず毎回予習や復習などが必要です。（授業が終わる前に予習／復習内容をお伝えします）
宿題も真面目にやってきてください。
遅刻、途中退出は原則として認めません。
積極的な授業参加を望みます。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業科目の成績評価は、100点を満点として評価し、60点以上を合格、59点以下を不合格とする。授業への参加度、小テスト及び授業で学んだ事項の知識定着を確認する定期試験の素点に基づいて判断する。
授業への参加度（積極性・貢献度）25%
口頭試験　25%
筆記試験　50%

教科書	NUOVO ESPRESSO 1	著者等	LUCIANA ZIGLIO, GIOVANNA RIZZO	出版社	ALMA EDIZIONI
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	前期の復習	授業中で行われたか活動に応じて、毎回授業が終わる前に予習／復習内容をお伝えします。
第2回	日常生活① 勤務時間 終わる／終える＆前置詞 始める／始まる＆前置詞	
第3回	日常生活② 「決勝の日」（聞き取り練習） 時間 再起動詞の直接法現在形	

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　　業　　内　　容	準備学習（予習・復習）
第4回	日常生活③ 平日の一日 時間 再起動詞の直接法現在形	
第5回	日常生活④ Davideの土曜日、Ernestoの一日 再起動詞の直接法現在形	
第6回	日常生活⑤ イタリアの祝日／祝いの表現 第９章　まとめ／ビデオ講座	
第7回	第９章　小テスト グリーティングカードを書く	
第8回	家族① 家族と関係ある語彙を勉強して、自分の家系図を説明する	
第9回	家族② 「まだ家族と住んでいる」（聞き取り練習）	
第10回	家族③ 所有形容詞 形容詞の最上級	
第11回	家族④ 再起動詞の直接法近過去	
第12回	家族⑤ 「結婚式のプレゼント」聞き取り練習 第１０章　まとめ／ビデオ講座	
第13回	第10章　小テスト イタリアのクリスマス伝統／ゲームを経験する	
第14回	問題集（第9、10章） 口頭試験（練習）	
第15回	期末試験（筆記／口頭）	

科目名(クラス)	和声学1－a	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	荻久保　和明	履修対象・条件	音楽創造専攻以外は必修。Konzertfach（演奏専攻）は履修不可。				

【授業の概要】

・ルネッサンスから古典派、ロマン派までのクラシックの根底を成すハーモニーの基本的な法則をわかり易く解説します。
それらは、この時代に属する作曲家の共通言語であり、作品を理解する上で必要不可欠な要素だからです。尚、理解を容易にするためにC dur限定で講義を進める。

【授業の到達目標】

・機能和声と言われる通り、和音の仕組みと働きを理解する。トニック、サブドミナント、ドミナントの役割と連結の法則、連続5度と8度のタブー感覚、第1転回形と第2転回形の使い方及び属7の和音の第3転回形までを理解の目標とする。

【授業の「方法」と「形式」】

・講義形式及び演習形式、大体1：2の割合、演習は基本的に個人レッスン。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・完成した和声を合唱してみたり、管弦打楽器で合奏することもあります。
・遅刻、途中退出は原則として認めません。
・積極的な授業参加を望みます。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・学期末定期試験（80%）
・演習時の理解到達度（20%）

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	用語解説、和声の基本的な考え方、 機能和声という仕組	
第2回	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵという四声体和声の解説、配置（密集と開離）分類方法、カデンツの種類	ローマ数字で表された和声を実際に密集、開離で書いてみること
第3回	共通音のある連結 Ⅰ→Ⅵ、Ⅰ→Ⅳ、Ⅰ→Ⅴ、Ⅳ→Ⅰ、Ⅴ→Ⅰ、Ⅵ→Ⅳ、Ⅵ→Ⅱ、Ⅳ→Ⅱ、Ⅱ→Ⅴ	それぞれの連結をピアノで弾いてみること

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	共通音のある連結の演習	
第5回	共通音のない連結（Ⅰ→Ⅱ、Ⅳ→Ⅴ、Ⅴ→Ⅵ）と 連続5度、連続8度の解説	それぞれの連結をピアノで弾いてみること
第6回	共通音のない連結の演習	
第7回	ソプラノとバスの美しい関係及び定型パターンの解説と演習（Ⅳ→Ⅱ→Ⅴ→Ⅵ）	
第8回	第1転回形の解説 Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴの諸和音の第1転回形の使用方法と定型の解説	それぞれの連結をピアノで弾いてみること
第9回	第1転回形の演習	
第10回	第2転回形の解説 Ⅰ→Ⅳ2→Ⅰ、Ⅰ→Ⅴ2→Ⅰ1、Ⅱ1→Ⅰ2→Ⅴの定型使用方法の理解、説明	それぞれの連結をピアノで弾いてみること
第11回	第2転回形の演習	
第12回	Ⅴ度の7thの和音（属7）の理解と使用方法。第3転回形の解説	それぞれの連結をピアノで弾いてみること
第13回	属7の和音の諸形態の演習	過去問を使用して最終チェック
第14回	総合問題演習	〃
第15回	まとめ	

科目名(クラス)	和声学1－b	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	加茂下　裕	履修対象・条件	音楽創造専攻以外は必修。Konzertfach（演奏専攻）は履修不可。				

【授業の概要】

演奏のための楽曲分析・伴奏付け・編曲などの土台としてクラシック音楽の作曲の基本である和声学を勉強します。
この和声学1ではバロック初期に確立された讃美歌スタイルとも言うべき三和音スタイルによる課題で演習を進めます。

【授業の到達目標】

3和音の基本形・第1転回形・第2転回形の響き・配置・連結法を理解し、3和音のみによるバス課題を解けるようにすると共に、これらの和音の分析ができるようにする。

【授業の「方法」と「形式」】

講義・演習

【履修時の「留意点」と「心得」】

テキスト以外に要点と基本課題をまとめたプリントを配ります。基本課題の内、提出と指定した課題の提出により課題点を算出します。必ず提出して下さい。またテキストから補充問題を指定し提出すれば課題点に加えます。積極的に取り組んで下さい。

【成績評価の「方法」と「基準」】

学期末試験60%・課題点40%

教科書	和声　理論と実習Ⅰ	著者等	島岡譲　他	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	予備知識	復習：和音記号を覚える
第2回	基本形3和音の配置	復習：補充問題の練習
第3回	基本形3和音の連結①	復習：補充問題の練習

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	基本形3和音の連結②	復習：補充問題の練習
第5回	和音設定の原理	復習：覚えておくべきことの確認
第6回	基本形3和音のみによるバス課題	提出課題の提出 復習：補充問題の練習
第7回	各種の調	提出課題の提出 復習：補充問題の練習
第8回	[1転]3和音の配置	復習：補充問題の練習
第9回	[1転]3和音の連結①	復習：補充問題の練習
第10回	[1転]3和音の連結②	復習：補充問題の練習
第11回	[1転]3和音を含むバス課題	復習：覚えておくべきことの確認
第12回	復習	提出課題の提出 復習：補充問題の練習
第13回	[2転]3和音の配置・連結	復習：覚えておくべきことの確認
第14回	[2転]3和音を含むバス課題・総合練習	提出課題の提出 復習：補充問題の練習
第15回	まとめ	予習：総合練習のプリントを確認して置く

科目名(クラス)	和声学1－c	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	井上　淳司	履修対象・条件	音楽創造専攻以外は必修。Konzertfach（演奏専攻）は履修不可。				

【授業の概要】

音楽をより理解し、より良い演奏につなげるためにも和声学の習得は必要です。メロディーを支える和声の響きは理論的にも感覚的にも音楽の流れを作り全体を支配する要因となっています。和声学Ⅰではハイドン・モーツァルト・ベートーヴェンに代表される西洋音楽古典の調性音楽の和声の理論を学習し、実習を通して体感していきます。

【授業の到達目標】

三和音の「基本形」「第1転回形」の基本的な連結の理解と実習

【授業の「方法」と「形式」】

解説と実習。和声の解答は一通りではありません。出来る限り個別に見ます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

和声の解答は、必ずピアノ等で音にしましょう。和声をより効果的に学ぶには、その和音の響きを聴き、感覚的に把握することが大切です。眼で見て、音を出して、耳で聴くことによって、皆さんの和声学習はより確かなものになるでしょう。成果よりも姿勢や過程が大事です。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業中に見る実習ノート50%、筆記試験50%

教科書	和声　理論と実習Ⅰ	著者等	池内友次郎他	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	オリエンテーション	和声法の概略。音楽に置ける和声の意味と重要性。授業のノートの取り方と使い方の注意等。
第2回	構成音と配置	三和音の理解、各音の名称、音域、隣接声部間の距離、配分の理解、構成音の数
第3回	基本的な連結法	進行の名称、制限、共通音の有無による連結法の違い

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	例外的な連結	Ⅱ－Ⅴ、Ⅴ－Ⅵの連結方法
第5回	各和音の機能	T,D,Sの理解と対応する和音
第6回	カデンツと終止	3種のカデンツ、4種の終止
第7回	各調性による連結	和声短音階の理解、短調の連結、G:,F:g:,f:,その他の調
第8回	ここまでのまとめと実習	ここまでのまとめと実習
第9回	ここまでのまとめと実習	ここまでのまとめと実習
第10回	第一転回形の配置	[一転]の理解、構成音の確認、重複音、配置
第11回	第一転回形の連結	連結法の理解、実習の手引き、長い課題の実習
第12回	第一転回形の連結	連結法の理解、実習の手引き、長い課題の実習
第13回	第二転回形の配置	[二転]の理解、構成音の確認、重複音、配置
第14回	第二転回形の連結	連結法の理解、実習の手引き、長い課題の実習
第15回	まとめ	連結法の理解、実習の手引き、長い課題の実習

科目名(クラス)	和声学2－a	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	荻久保　和明	履修対象・条件	音楽創造専攻以外は必修。Konzertfach（演奏専攻）は履修不可。				

【授業の概要】

・和声Ｉで学んだことをもとに、実際の楽曲においてそれがどう生かされているかを実証、検証する。又それぞれの作品に和声による楽曲分析を試みる。それによりハーモニーというものがその作品にどのような力（推進力）を与えているかを考察し、旋律とハーモニーの関係を明らかにするものである。尚、理解を容易にするためにC dur限定で講義を進める。

【授業の到達目標】

・属7及び属9の和音、さらにその根音省略形態を理解し実習する。
・偽終止と変終止の美学的考察及びc mollからの借用和音の使用方法、さらにブルグミュラー、コンコーネ、ソナチネなどの楽曲分析を通して、機能和音の理解を深める。

【授業の「方法」と「形式」】

・講義とディスカッションを中心にする。後半は楽曲分析の演習も行う。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・与えられたテキストを合唱、合奏したりして、講義内容を耳で確認する。
・遅刻、早退は原則として認めません。
・ディスカッションへの積極的な参加を望みます。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・学期末定期試験（80%）
・演習時の理解到達度（20%）

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	Ｖ度の7th根音省略形の解説	それぞれの連結をピアノで良く弾いてみること
第2回	Ｖ度の7th根音省略形の演習	
第3回	Ｖ度の9thの和音及びＶ度の9thの根音省略形の解説	それぞれの連結をピアノで弾いてみること

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	第3回の講義の演習	
第5回	実際の楽曲により偽終止の理解と美学的及び哲学的考察	テキストを歌ったりピアノで弾いて感動の再体験をして欲しい
第6回	実際の楽曲により変終止の理解と美学的及び哲学的考察	〃
第7回	c mollの借用和音（Ⅵ度とⅣ度）の使用方法と実例	〃
第8回	ツェルニーのエチュードによる和音分析	〃
第9回	ブルグミュラーの小品による和音分析	〃
第10回	コンコーネによる和音分析	〃
第11回	ソナチネによる和音分析	〃
第12回	重要定型のチェックとⅤ度の諸和音の確認	それぞれの連結をピアノで弾いてみること
第13回	総合問題演習	過去問を使用して復習
第14回	〃	〃
第15回	まとめ	

科目名(クラス)	和声学2－b	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	加茂下　裕	履修対象・条件	音楽創造専攻以外は必修。Konzertfach（演奏専攻）は履修不可。				

【授業の概要】

演奏のための楽曲分析・伴奏付け・編曲などの土台としてクラシック音楽の作曲の基本である和声学を勉強します。
この和声学2では古典派の音楽によって発展したドミナント和音の諸形態を含む課題で演習を進めます。

【授業の到達目標】

属七・属九の和音の響き・配置・連結法を理解し、これらの和音を含むバス課題を解けるようにすると共に、これらの和音の分析ができるようにする。

【授業の「方法」と「形式」】

講義・演習

【履修時の「留意点」と「心得」】

テキスト以外に要点と基本課題をまとめたプリントを配ります。基本課題の内、提出と指定した課題の提出により課題点を算出します。必ず提出して下さい。またテキストから補充問題を指定し提出すれば課題点に加えます。積極的に取り組んで下さい。

【成績評価の「方法」と「基準」】

学期末試験60%・課題点40%

教科書	和声　理論と実習Ⅰ	著者等	島岡譲　他	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	和声学1－bの復習	復習：覚えておくべきことの確認
第2回	属七の和音①配置・連結	復習：補充問題の練習
第3回	属七の和音②バス課題	復習：覚えておくべきことの確認

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	復習	提出課題の提出 復習：補充問題の練習
第5回	属七の和音③各種の省略形	復習：補充問題の練習
第6回	属九の和音①基本形	復習：覚えておくべきことの確認
第7回	属九の和音②長調の根音省略形	復習：覚えておくべきことの確認
第8回	復習(属九を含む長調のバス課題)	提出課題の提出 復習：補充問題の練習
第9回	属九の和音②短調の根音省略形	復習：覚えておくべきことの確認
第10回	復習(属九を含む短調のバス課題)	提出課題の提出 復習：補充問題の練習
第11回	D諸和音の総括	復習：覚えておくべきことの確認
第12回	復習	提出課題の提出 復習：補充問題の練習
第13回	総合練習（属七・属九を含むバス課題の練習）	復習：補充問題の練習
第14回	総合練習（属七・属九を含むバス課題の練習）	復習：補充問題の練習
第15回	まとめ	予習：総合練習のプリントを確認して置く

科目名(クラス)	和声学2－c	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	井上　淳司	履修対象・条件	音楽創造専攻以外は必修。Konzertfach（演奏専攻）は履修不可。				

【授業の概要】

音楽をより理解し、より良い演奏につなげるためにも和声学の習得は必要です。メロディーを支える和声の響きは理論的にも感覚的にも音楽の流れを作り全体を支配する要因となっています。和声学Ⅰではハイドン・モーツァルト・ベートーヴェンに代表される西洋音楽古典の調性音楽の和声の理論を学習し、実習を通して体感していきます。

【授業の到達目標】

三和音の」「第2転回形」および「属7」「属7」の基本的な連結の理解と実習

【授業の「方法」と「形式」】

解説と実習。和声の解答は一通りではありません。出来る限り個別に見ます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

和声の解答は、必ずピアノ等で音にしましょう。和声をより効果的に学ぶには、その和音の響きを聴き、感覚的に把握することが大切です。眼で見て、音を出して、耳で聴くことによって、皆さんの和声学習はより確かなものになるでしょう。成果よりも姿勢や過程が大事です。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業中に見る実習ノート50%、筆記試験50%

教科書	和声　理論と実習Ⅰ	著者等	池内友次郎他	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	属七の構成音と配置	ドミナントおよび[属七]の理解、構成音の確認、基本形と転回形の重複音、配置等注意事項
第2回	属七の定型および転回形	バス定型の理解、転回形の連結法
第3回	属七―Ⅰの連結	基本形と転回形の連結の違いの理解

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	属七の実習	長い課題の和音設定および和音の違いによる連結法の違いの理解
第5回	属七の根音省略形の配置	Ⅶとの違い、ドミナントの徹底、第７音の意味と進行
第6回	属七の根音省略形の連結	定型の把握、配置による連結の違いの理解
第7回	ここまでの実習	移調の徹底およびC:以外の調での実習に慣れる。
第8回	属九の配置	ドミナントの確認および[属九]の理解、構成音の確認、基本形と転回形の省略音、配置等注意事項
第9回	属九の連結	限定進行音の確認、転回形によっての連結上の注意事項
第10回	属九の根音省略形の配置	配置による限定進行音の扱いの理解
第11回	長調における属九の和音設定および連結	長調の配置制限の理解および実習
第12回	属九の実習	長い課題の和音設定および配置の違いによる連結法の違いの理解
第13回	短調における属九の和音設定および連結	短調の配置制限の理解および実習
第14回	ここまでの実習	移調の徹底、様々な調の属九の連結に慣れる。
第15回	まとめ	基本的な和声法の理解と確実な実習を体得するための理解。

科目名(クラス)	和声学3－a	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	横山　裕美子	履修対象・条件	必修。但し、音楽創造と音楽療法専攻は選択。 Konzertfach（演奏専攻）は履修不可。				

【授業の概要】

音楽の基本構成要素である“和声”の魅力と技法を学ぶことは、西洋音楽への理解を深める上で極めて重要です。
和声学1・2で学んだ和声の基礎技法に加え、和声学3では、美しいサブドミナント諸和音を学びます。

【授業の到達目標】

II7・準固有和音・ドッペルドミナントの3和音形と属七形の和音を使いこなすことができる。

【授業の「方法」と「形式」】

テキストとプリントを使い、講義と課題実習で進めていきます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

必ずピアノで弾いて音を確かめましょう。課題を繰り返し復習することが大事です。1年次からの積み重ねの科目なので1年次のテキストも持参しましょう。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業内課題実習(20%)
学期末定期試験(80%)

教科書	和声理論と実習Ⅱ	著者等	島岡譲　他	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	和声学Ⅰの復習① 基本形の3和音	予習：和声学Ⅰ第5章までを読んでおく。 復習：授業で学習した課題を見直し、ピアノで弾く。
第2回	和声学Ⅰの復習② 第1転回形・第2転回形の3和音	予習：和声学Ⅰ第7章までを読んでおく。 復習：授業で学習した課題を見直し、ピアノで弾く。
第3回	和声学Ⅰの復習③ 属七の和音	予習：和声学Ⅰ第8章までを読んでおく。 復習：授業で学習した課題を見直し、ピアノで弾く。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	和声学Ⅰの復習④ 属七の和音	予習：和声学Ⅰ第9章までを読んでおく。 復習：授業で学習した課題を見直し、ピアノで弾く。
第5回	Ⅱ7の和音①	予習：テキスト第1章を読んでおく。 復習：授業で学習した課題を見直し、ピアノで弾く。
第6回	Ⅱ7の和音②	同上
第7回	Ⅱ7の和音③	同上
第8回	準固有和音①	予習：テキスト第2章を読んでおく。 復習：授業で学習した課題を見直し、ピアノで弾く。
第9回	準固有和音②	同上
第10回	準固有和音③	同上
第11回	ドッペルドミナントの3和音形	予習：テキスト第3章15～19を読んでおく。 復習：授業で学習した課題を見直し、ピアノで弾く。
第12回	ドッペルドミナントの属七形	予習：テキスト第3章20を読んでおく。 復習：授業で学習した課題を見直し、ピアノで弾く。
第13回	ドッペルドミナントの3和音形・属七形の復習	予習：テキスト第３章15～20を読み直す。 復習：授業で学習した課題を見直し、ピアノで弾く。
第14回	総復習	予習：テキストいままでのところを読み直す。 復習：授業で学習した課題を見直し、ピアノで弾く。
第15回	本科目の総括	同上

科目名(クラス)	和声学3－b	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	荻久保　和明	履修対象・条件	必修。但し、音楽創造と音楽療法専攻は選択。 Konzertfach（演奏専攻）は履修不可。				

【授業の概要】

・ルネッサンスから古典派、ロマン派、印象派までのクラシックの根底を成すハーモニーの基本的な法則をわかり易く解説する。それらはこの時代に属する作曲家の共通言語であり、作品を理解する上で必要不可欠な要素だからである。尚、理解を容易にするためにc moll限定で講義を進める。

【授業の到達目標】

・c mollにおける和声の１年次の復習からスタートし、Ⅱ度、Ⅳ度、Ⅵ度の7th形態及びドッペルドミナントの様々な形態の和声の理解と習熟を目標とする。その多様なサブドミナントのひびきの美しさを耳で理解させたい。

【授業の「方法」と「形式」】

・講義形式及び演習形式、大体1：2の割合、演習は基本的に個人レッスン。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・完成した和声を合唱、合奏などの方法により耳で実感する。
・遅刻、早退は原則として認めない。
・講義への積極的な参加を望む。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・学期末定期試験（80%）
・演習時の理解到達度（20%）

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	ソプラノとバスの美しい関係及び定型パターンの解説と演習（c moll ヴァージョン）	完成したものを良くピアノで弾いてみること
第2回	Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ度の第1転回形の解説と演習（c mollヴァージョン）	〃
第3回	Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ度の第2転回形の解説と演習（c mollヴァージョン）	〃

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	Ｖ度の7thの和音（属7）及び第3転回形の解説と演習（c mollヴァージョン）	完成したものを良くピアノで弾いてみること
第5回	Ｖ度の9thの和音（属9）及び7thの根音省略第2転回形、9thの根音省略第1、第2、第3転回形の解説と演習（c mollヴァージョン）	〃
第6回	Ⅱ度の7thの和音の使用方法の理解と解説Ⅰ （基本位置と第1転回形）	
第7回	Ⅱ度の7thの和音の使用方法の理解と解説Ⅱ （第2転回形と第3転回形）	
第8回	Ⅱ度の7thの和音の総合演習	完成したものを良くピアノで弾いてみること
第9回	Ⅳ度の7thの和音の解説と演習（基本位置のみ）	〃
第10回	ドッペルドミナント（Ｖ度Ｖ度）の和音の理解と解説Ⅰ （基本位置と第1転回形）	
第11回	ドッペルドミナント（Ｖ度Ｖ度）の和音の理解と解説Ⅱ （第2転回形と第3転回形）	
第12回	ドッペルドミナント（Ｖ度Ｖ度）の和音9th、及び7th根音省略、9th根音省略の解説	
第13回	ドッペルドミナント（Ｖ度Ｖ度）の和音の総合演習	完成したものを良くピアノで弾いてみること
第14回	総合問題演習	過去問を使用して最終チェック
第15回	まとめ	

科目名(クラス)	和声学3－c	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	加茂下　裕	履修対象・条件	音楽創造と音楽療法専攻以外は必修。Konzertfach（演奏専攻）は履修不可。				

【授業の概要】

演奏のための楽曲分析・伴奏付け・編曲などの土台としてクラシック音楽の作曲の基本である和声学を勉強します。
この和声学3では、和声学2で勉強したドミナント諸和音を軸としつつ、ロマン派の音楽と共に発展した各種のサブドミナント和音を加えて演習を進めます。

【授業の到達目標】

Ⅱ7・準固有和音・ドッペルドミナント等の和音の響き・配置・連結法を理解し、これらの和音を含むバス課題を解けるようにすると共に、これらの和音の分析ができるようにする。

【授業の「方法」と「形式」】

講義・演習

【履修時の「留意点」と「心得」】

テキスト以外に要点と基本課題をまとめたプリントを配ります。基本課題の内、提出と指定した課題の提出により課題点を算出します。必ず提出して下さい。またテキストから補充問題を指定し提出すれば課題点に加えます。積極的に取り組んで下さい。

【成績評価の「方法」と「基準」】

学期末試験60%・課題点40%

教科書	和声　理論と実習Ⅱ	著者等	島岡譲　他	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	和声学1の復習①[基]3和音	復習：補充問題の練習
第2回	和声学1の復習②[1転]・[2転]3和音	復習：補充問題の練習
第3回	和声学2の復習①属七の和音	復習：補充問題の練習

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	和声学2の復習②属九の和音	提出課題の提出
第5回	Ⅱ7の和音①配置・連結	復習：補充問題の練習
第6回	Ⅱ7の和音②バス課題	復習：覚えておくべきことの確認
第7回	復習	提出課題の提出 復習：補充問題の練習
第8回	準固有和音①配置・連結	復習：補充問題の練習
第9回	準固有和音②バス課題	復習：覚えておくべきことの確認
第10回	復習	提出課題の提出 復習：補充問題の練習
第11回	ドッペルドミナント（1）3和音型-配置・連結-	復習：補充問題の練習
第12回	ドッペルドミナント（2）属七型①配置・連結	復習：覚えておくべきことの確認
第13回	ドッペルドミナント（2）属七型②バス課題	提出課題の提出 復習：補充問題の練習
第14回	総合練習（Ⅱ7・準固有和音を含むバス課題）	復習：補充問題の練習
第15回	まとめ	予習：総合練習のプリントを確認して置く

科目名(クラス)	和声学4－a	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	横山　裕美子	履修対象・条件	必修。但し、音楽創造と音楽療法専攻は選択。 Konzertfach（演奏専攻）は履修不可。				

【授業の概要】

音楽の基本構成要素である“和声”の魅力と技法を学ぶことは、西洋音楽への理解を深める上で極めて重要です。
和声学3に引き続き、さらに多くのサブドミナント諸和音を学び、使いこなせるようになることを目指します。

【授業の到達目標】

・ドッペルドミナントの属七の根音省略形・属九形・第5音下方変位形が使いこなせる。
・IV7・ドリア・ナポリの和音が使いこなせる。

【授業の「方法」と「形式」】

テキストとプリントを使い、講義と課題実習で進めていきます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

必ずピアノで弾いて音を確かめましょう。課題を繰り返し復習することが大事です。1年次からの積み重ねの科目なので1年次のテキストも持参しましょう。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業内課題実習(20%)
学期末定期試験(80%)

教科書	和声理論と実習Ⅱ	著者等	島岡譲　他	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	ドッペルドミナントの属七の根音省略形①	予習：テキスト第3章21を読んでおく。 復習：授業で学習した課題を見直す、ピアノで弾く。
第2回	ドッペルドミナントの属七の根音省略形②	同上
第3回	ドッペルドミナントの属九形①	予習：テキスト第3章22を読んでおく。 復習：授業で学習した課題を見直す、ピアノで弾く。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	ドッペルドミナントの属九形②	同上
第5回	ドッペルドミナントの属九形③	同上
第6回	ドッペルドミナントの第５音下方変位形①	予習：テキスト第３章２３を読んでおく。 復習：授業で学習した課題を見直す、ピアノで弾く。
第7回	ドッペルドミナントの第５音下方変位形②	同上
第8回	ドッペルドミナントの第５音下方変位形③	同上
第9回	IV7の和音①	予習：テキスト第４章を読んでおく。 復習：授業で学習した課題を見直す、ピアノで弾く。
第10回	IV7の和音②	同上
第11回	ドリア・ナポリの和音①	同上
第12回	ドリア・ナポリの和音②	同上
第13回	総復習①	予習：テキストいままでのところを読み直す。 復習：授業で学習した課題を見直し、ピアノで弾く。
第14回	総復習②	同上
第15回	本科目の総括	同上

科目名(クラス)	和声学4－b	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	荻久保　和明	履修対象・条件	必修。但し、音楽創造と音楽療法専攻は選択。 Konzertfach（演奏専攻）は履修不可。				

【授業の概要】

・和声3で学んだことをもとに、実際の楽曲においてそれがどう生かされているかを実証、検証する。又それぞれの作品に和声による楽曲分析を試みる。それによりハーモニーというものがその作品にどのような力(表現力)を与えているかを考察し、旋律とハーモニーの関係を明らかにするものである。尚、理解を容易にするためにc moll限定で講義を進める。

【授業の到達目標】

・ドリアの和音とドッペルドミナントの下方変位、ナポリの和音とⅣ度の付加6の諸和音の理解と実習。バッハ、モーツァルト、フォーレ、ショパンの楽曲を通してそれらの和音の音楽的意味とひびきの美しさを体感する。

【授業の「方法」と「形式」】

・講義とディスカッションを中心にする。後半は楽曲分析の演習も行う。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・与えられたテキストを合唱、合奏したりして、講義内容を耳で確認する。
・遅刻、早退は原則として認めない。
・ディスカッションへの積極的な参加を望む。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・学期末定期試験（80%）
・演習時の理解到達度（20%）

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	ドリアの和音の諸形態の機能と解説 （＋Ⅳ度の7th及び9thの和音）	
第2回	ドリアの和音の演習	完成したものを良くピアノで弾くこと
第3回	Ⅵの7thとドッペルドミナント 下方変位の使い方、機能と解説	

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	Ⅵの7th、Ⅴ度Ⅴ度下方変位 和音の演習	完成したものを良くピアノで弾くこと
第5回	ナポリの和音とⅣ度付加6度和音の使い方、機能と解説（－Ⅱの第1転回形とⅣ＋6の和音）	
第6回	ドリア、Ⅵの7th、ドッペルドミナント下方変位、ナポリ、Ⅳ度付加6の諸和音の演習	完成したものを長くピアノで弾くこと
第7回	コンコーネによる和音分析	テキストを歌ったりピアノで弾いて感動の再体験をして欲しい
第8回	バッハ平均律 プレリュードによる和音分析	〃
第9回	モーツァルトのピアノソナタによる和音分析	〃
第10回	フォーレの歌曲による和音分析	〃
第11回	ショパンのピアノ曲による和音分析	〃
第12回	重要定型のチェックとサブドミナント 諸和音の確認	それぞれの連結をピアノで良く弾いてみること
第13回	総合問題演習	過去問を使用して復習
第14回	〃	〃
第15回	まとめ	

科目名(クラス)	和声学4－c	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	加茂下　裕	履修対象・条件	音楽創造と音楽療法専攻以外は必修。Konzertfach（演奏専攻）は履修不可。				

【授業の概要】

演奏のための楽曲分析・伴奏付け・編曲などの土台としてクラシック音楽の作曲の基本である和声学を勉強します。
この和声学4では、和声学3で勉強した内容の延長として、サブドミナント和音のヴァリエーションを更に増やして演習を進めます。

【授業の到達目標】

各種のドッペルドミナント・Ⅳ7・ドリア・ナポリ等の和音の響き・配置・連結法を理解し、これらの和音を含むバス課題を解けるようにすると共に、これらの和音の分析ができるようにする。

【授業の「方法」と「形式」】

講義・演習

【履修時の「留意点」と「心得」】

テキスト以外に要点と基本課題をまとめたプリントを配ります。基本課題の内、提出と指定した課題の提出により課題点を算出します。必ず提出して下さい。またテキストから補充問題を指定し提出すれば課題点に加えます。積極的に取り組んで下さい。

【成績評価の「方法」と「基準」】

学期末試験60%・課題点40%

教科書	和声　理論と実習Ⅱ	著者等	島岡譲　他	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	ドッペルドミナント（3）属九型①配置・連結	復習：覚えておくべきことの確認
第2回	ドッペルドミナント（3）属九型②バス課題	提出課題の提出 復習：補充問題の練習
第3回	ドッペルドミナント（4）準固有和音型①配置・連結	復習：覚えておくべきことの確認

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	ドッペルドミナント（4）準固有和音型②バス課題	提出課題の提出 復習：補充問題の練習
第5回	ドッペルドミナント（5）第5音下方変位型①配置・連結	復習：覚えておくべきことの確認
第6回	ドッペルドミナント（5）第5音下方変位型②バス課題	提出課題の提出 復習：補充問題の練習
第7回	Ⅳ7の和音①配置・連結	復習：覚えておくべきことの確認
第8回	Ⅳ7の和音②バス課題	復習：補充問題の練習
第9回	ドリア・ナポリの和音①配置・連結	復習：覚えておくべきことの確認
第10回	ドリア・ナポリの和音②バス課題	復習：補充問題の練習
第11回	サブドミナント諸和音の総括及び追加	復習：覚えておくべきことの確認
第12回	復習	復習：補充問題の練習
第13回	総合練習（各種のドッペルドミナントの和音を含むバス課題）	復習：補充問題の練習
第14回	総合練習（各種のドッペルドミナントの和音を含むバス課題）	復習：補充問題の練習
第15回	まとめ	予習：総合練習のプリントを確認して置く

科目名(クラス)	対位法 A	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	新井　雅之	履修対象・条件					

【授業の概要】

音楽の縦の関係を研究するのが和声学、すなわちハーモニーの学問であるのに対し、音楽の横の関係を探求するのが対位法、すなわち複数の旋律の学術的規則の解明である。低音部、或は高音部に定められた旋律(定旋律)に、対旋律を書くという2声対旋律法の習得に努める。

【授業の到達目標】

与えられらた定旋律に、二分音符が2つのリズムで、適宜、対旋律を実施できることを目指す。

【授業の「方法」と「形式」】

原理の講義の後、対旋律実施を試みる。各自の実施した対旋律を比較検討し旋律全体の設計の違いを確認してみる。

【履修時の「留意点」と「心得」】

与えられた旋律に新たな旋律を加えるという演習は、和声の学習とは全く違う楽しみと発見をもたらします。旋律制作に、積 極的にチャレンジしてみて下さい。学期末筆記試験のみでの評価に偏らないように、通常授業での理解力、実施能力も評価 の際に加味しますので、授業への積極的参加が望まれます。

【成績評価の「方法」と「基準」】

学期末筆記試験(筆記試験)の採点により評価。(70%) 学期末筆記試験のみでの評価に偏らないように、通常授業での理解力、実施能力も加味。(30%)

教科書	二声対位法	著者等	池内友次郎	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	対位法とポリフォニー音楽について・複旋律をも つ音楽の例を紹介ポリフォニー音楽の創作を可 能にする原理 。ポリフォニー音楽の創作を可能 にする原理を大まかに把握し、 その可能性を知る。	復習として、ポリフォニー音楽の 領域で新たに知った楽曲、或は 再確認をした楽曲等を、鑑賞し てみる。
第2回	全音符による定旋律に、学習過程で実施して行 く対旋律の種類とそのそれぞれがもつ制約の違 いについて。対旋律の実施に先立ち、学習過程 の各段階で、どのようなリズムの対 旋律を習得しようとするのか、それ ぞれの種類の対旋律がどのような 制約と性格を、とくにリズムの上で 持っているのかを知る。	予習として、テキスト全体のコン テンツを確認しつつ、テキストに 掲載されている模範実施例を吟 味してみる。所要時間20分程度。
第3回	2分音符による対旋律実施のための、基本原理 について。もっとも基本的な2分音符による強 拍と弱拍を形成する音の進行の根 底にある原理を知り、旋律創作に際 して、どのように音を進行させて行く のが望ましいかを理解・判断する。	予習として、実施例の定旋律と 対旋律の間に生じる音程を検証 しつつ、旋律全体の動向を確 認してみる。所要時間20分程度。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	2分音符による対旋律の創作⑴(バスの定旋 律に対してのソプラノの対旋律）各小節を、原理に従い上声部の 対旋律を形成させながら繋げら れるよう実施。	予習として、上声部の対旋律動 向が、どのように制約を受ける 事になるか、テキスト模範実施例で吟味する。所要時間20分程度。
第5回	同上	同上
第6回	2分音符による対旋律の創作⑵(ソプラノの定 旋律に対してのバスの対旋律）。上声部において旋律動向の可 能性が複数ある場合、選び得る 音をどのように取捨選択してい けば良いか、数小節先を見通して考える。 。	予習として、下声部の旋律動向 が、どのように制約を受ける事 になるか、テキスト模範実施例で吟味する。所要時間20分程度。
第7回	同上	同上
第8回	2分音符による対旋律の創作⑶(バスの定旋 律に対してのアルトの対旋律）。上声部において旋律動向の可 能性が複数ある場合、選び得る 音をどのように取捨選択していけば良いか、数小節先を見通して考える。	予習・復習として下声部の対旋律動 向が、どのように制約を受ける 事になるか、テキスト模範実施例で吟味する。所要時間20分程度。
第9回	同上	同上
第10回	2分音符による対旋律の創作⑷(ソプラノの定 旋律に対してのテノールの対旋律）。下声部において対旋律動向の 可能性が複数ある場合、選びう る音をどのように取捨選択して いけば良いか、数小節先を見通 して考える。	予習として、下声部の旋律動向 が、どのように制約を受ける事 になるか、テキスト模範実施例で吟味する。所要時間20分程度。
第11回	同上	同上
第12回	2分音符による対旋律の創作⑸(バスの定旋 律に対してのテノールの対旋律）。上声部の対旋律動向の可能性を確 かめながら、全体の旋律曲線を見 通したうえで創作に努める。、選びう る音をどのように取捨選択していけ ば良いか、全体を見通して考えられる。	予習・復習として下声部の対旋律動 向が、どのように制約を受ける 事になるか、テキスト模範実施例で吟味する。所要時間20分程度。
第13回		同上
第14回	2分音符による対旋律の創作⑷(ソプラノの定 旋律に対してのアルトの対旋律）。下声部において対旋律動向の 可能性が複数ある場合、選びう る音をどのように取捨選択して いけば良いか、数小節先を見通 して考える。	予習として、下声部の旋律動向 が、どのように制約を受ける事 になるか、テキスト模範実施例で吟味する。所要時間20分程度。
第15回	同上	同上

科目名(クラス)	対位法 B	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	新井　雅之	履修対象・条件					

【授業の概要】

音楽の縦の関係を研究するのが和声学、すなわちハーモニーの学問であるのに対し、音楽の横の関係を探求するのが対位法、すなわち複数の旋律の学術的規則の解明である。低音部、或は高音部に定められた旋律(定旋律)に、対旋律を書くという2声対旋律法の習得に努める。

【授業の到達目標】

与えられらた定旋律に、4分音符が4つのリズム、2分音符の移勢リズム(シンコペーションリズム)、及び複合リズムで、適宜、対旋律を実施できることを目指す。

【授業の「方法」と「形式」】

原理の講義の後、対旋律実施を試みる。各自の実施した対旋律を比較検討し旋律全体の設計の違いを確認してみる。

【履修時の「留意点」と「心得」】

与えられた旋律に新たな旋律を加えるという演習は、和声の学習とは全く違う楽しみと発見をもたらします。旋律制作に、積 極的にチャレンジしてみて下さい。学期末筆記試験のみでの評価に偏らないように、通常授業での理解力、実施能力も評価 の際に加味しますので、授業への積極的参加が望まれます。

【成績評価の「方法」と「基準」】

学期末筆記試験(筆記試験)の採点により評価。(70%) 学期末筆記試験のみでの評価に偏らないように、通常授業での理解力、実施能力も加味。(30%)

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	4分音符による対旋律の実際の創作(1) (バス の定旋律に対しての上声部の対旋律)・ソプラノの対旋律	予習として、上声部の対旋律動向が、どのように制約を受ける 事になるか、テキスト模範実施例で吟味する。所要時間20分程度。
第2回	4分音符による対旋律の実際の創作(1) (バス の定旋律に対しての上声部の対旋律)・アルトの対旋律	予習として、上声部の対旋律動向が、どのように制約を受ける 事になるか、テキスト模範実施例で吟味する。所要時間20分程度。
第3回	4分音符による対旋律の実際の創作(1) (バス の定旋律に対しての上声部の対旋律)・テノールの対旋律	予習として、上声部の対旋律動向が、どのように制約を受ける 事になるか、テキスト模範実施例で吟味する。所要時間20分程度。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	4分音符による対旋律の実際の創作(1)（ソプラノの定旋律に対しての下声部の対旋律）・バスの定旋律	予習として、下声部の旋律動向 が、どのように制約を受ける事 になるか、テキスト模範実施例で吟味する。所要時間20分程度。
第5回	4分音符による対旋律の実際の創作(1)（ソプラノの定旋律に対しての下声部の対旋律）・テノールの対旋律	予習として、下声部の旋律動向 が、どのように制約を受ける事 になるか、テキスト模範実施例で吟味する。所要時間20分程度。
第6回	4分音符による対旋律の実際の創作(1)（ソプラノの定旋律に対しての下声部の対旋律）・アルトの対旋律	予習として、下声部の旋律動向 が、どのように制約を受ける事 になるか、テキスト模範実施例で吟味する。所要時間20分程度。
第7回	移勢リズムによる対旋律の創作(1)(バスの定 旋律に対しての上声部の対旋律)	予習として、上声部の対旋律動向が、どのように制約を受ける 事になるか、テキスト模範実施例で吟味する。所要時間20分程度。
第8回	同上	同上
第9回	移勢リズムによる対旋律の創作(2)(ソプラノの 定旋律に対しての下声部の対旋律)	予習として、下声部の旋律動向 が、どのように制約を受ける事 になるか、テキスト模範実施例で吟味する。所要時間20分程度。
第10回	同上	同上
第11回	複合リズム、すなわち2分音符、4分音符、移勢 リズムを統合したリズムによる華麗対旋律の創 作(1)(バスの定旋律に対しての上声部の対旋 律)	予習として、上声部の対旋律動向が、どのように制約を受ける 事になるか、テキスト模範実施例で吟味する。所要時間20分程度。
第12回	同上	同上
第13回	複合リズム、すなわち2分音符、4分音符、移勢 リズムを統合したリズムによる華麗対旋律の創 作(2)(ソプラノの定旋律に対しての下声部の対 旋律)	予習として、下声部の旋律動向 が、どのように制約を受ける事 になるか、テキスト模範実施例で吟味する。所要時間20分程度。
第14回	同上	同上
第15回	本科目の総括。2分音部対旋律と4分音符対旋 律による対旋律の動向の違い。移勢対旋律の特 徴。華麗対旋律のリズムについて。	予習として、今までの実施例を、旋律動向やリズムの面から再検証してみる。所要時間30分30分程度

科目名(クラス)	和声学 【Konzertfach(演奏専攻)】1・3	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1又は2
担当教員	白石　茂浩	履修対象・条件	Konzertfach(演奏専攻)のみ履修可。必修 但し、声楽のKonzertfach(演奏専攻)のみ3は選択。				

【授業の概要】

音楽学生にとって和声学を学ぶ最終目的は自らの力で楽曲分析・解釈を行えるようになることであるが、和声学1・3ではこの目的の実現に必要不可欠となる、機能的和声法(和声音楽とされる近代西洋音楽の骨格をなす和声法であり、調的和声法とも呼ばれる)に関する知識の提示を行う。
ただし前述の『最終目的』を視野に入れ、ここでは機能的和声法以外の理論的知識についても簡単な解説を行う。

【授業の到達目標】

この授業は一年生・二年生の合同授業となるため、一年生と二年生では到達目標が異なってくる。
初めてのウィーン研修を控えている『和声学1』の履修生である一年生に関しては理論用語が多用されるウィーンでのレッスンに備え機能的和声法の全体像を把握しその用語を憶えることを、『和声学3』の履修生である二年生関しては前年度の『和声学2』で体験した和声分析の経験に基づき、機能的和声法への理解をより深め自分で考える力をつけることを到達目標とする。

【授業の「方法」と「形式」】

基本的に講義形式を採るが、知識のより深い理解・習得のために課題実習も行う。

【履修時の「留意点」と「心得」】

常に学んだことを復習し自分なりにまとめておくこと、理解が難しい点が出てきた場合や予習・復習を行う中で疑問点が出てきた場合には積極的に質問することを習慣とするよう心がけてもらいたい。一年生にとって初めてのウィーン研修を控えている前期の授業は進み方が早くなるので、この「積極的に質問する」は特に重要になる。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業中に行う試験・課題、予習・復習として与える課題への評価80%。授業への取り組み姿勢(積極性)20%。

教科書	授業内容をまとめたプリントを配布する。	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	大作曲家の和声	著者等	ディーター・デ・ラ・モッテ	出版社	シンフォニア
参考文献	図解 音楽事典	著者等		出版社	白水社

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	授業の進め方の説明／音階・音程の復習 音階・音程に関する知識を確かなものとする。	予習:これまでに楽典で学んできた内容を復習しておく。 復習:不確かであったり、習熟度が低かった部分をさらに復習する。
第2回	和音に関する知識の復習 和音の種類とその表記法に関する知識を確かなものとする。	予習:すでに学んでいる内容の復習をしておく(学んでいなかった点については配布プリントのC『和音』・D10和音の機能表記を読んでおく)。 復習:授業内容の復習
第3回	調(長短調)に関する内容の復習／非和声音 すでに学んでいる調に関する知識を確かなものとし、非和声音について学ぶ。	予習:C『非和声音』及び『調』。余裕があれば『音律』『オーケストラの楽器』にも目を通しておく。 復習:授業内容をよく復習ししっかり憶えておく(特に非和声音)。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	機能的和声法-1（予備知識） 機能的和声法を学ぶにあたって必要な予備知識（用語）を確認する。	予習：D01進行に関する用語・『機能的和声法』D01～音域と和音の配置までを読んでおく。 復習：用語を確実に憶えておく。
第5回	機能的和声法-1（予備知識） 機能的和声法を学ぶにあたって必要な予備知識（用語）を確認する。	予習：D13基本的な和音の連結法（途中『古典対位法』一音符：一音符を参照）～短調のⅢまでを読み、与えられた課題を解いておく。 復習：与えられた課題を解き、理解に不十分な点がないかを確認する。
第6回	機能的和声法-2（基本的な和音の連結法・三和音の第一転回形） 不協和音としての第二転回形と協和音としての第二転回形の区別をできるようにする。	予習：D15三和音の第二転回形～終止。非和声音を読んでおく。 復習：与えられた課題を解き、理解に不十分な点がないかを確認する。
第7回	機能的和声法-4（七の和音・ゼクヴェンツ） 七の和音の成立と用法、ゼクヴェンツ・副属和音とその用法を理解する。	予習：D17七の和音～ゼクヴェンツを読んでおく。 復習：与えられた課題を解き、理解に不十分な点がないかを確認する。
第8回	機能的和声法-5（借用和音Ⅰ） 変化和音の区別を学び、副属和音の用法を理解する。	予習：D21借用和音～副属和音を読み、与えられた課題を解いておく。 復習：与えられた課題を解き、理解に不十分な点がないかを確認する。なおこの課題にはサポリの六の和音が含まれるので、この部分は予習して解いてみる。
第9回	機能的和声法-6（借用和音Ⅱ） 長三和音化された短三和音と短三和音化された長三和音・ナポリの六の和音の用法を理解する。	予習：D24下属調の下属和音～ナポリの六の和音を読んでおく。 復習：与えられた課題を解き、理解に不十分な点がないかを確認する。
第10回	機能的和声法-7（変位和音） 変位和音についてその成立・用法を理解する。	予習：D25変位和音～Dの変異和音を読んでおく。 復習：与えられた課題を解き、理解に不十分な点がないかを確認する。
第11回	機能的和声法-8（和音機能の読み替えによる転調） 和音機能の読み替えという観点から転調についての理解を深める。	予習：D25和音機能の読み替えによる転調～トリトヌスについてのまとめを読んでおく。 復習：機能的和声法の所でこれまでに学んできた内容を復習し、不明・不確かな点を明らかにして次回の授業で質問できるようにしておく。
第12回	機能的和声法-9（まとめ） ここまでに学んできた機能的和声法の内容についてその習得度を確認し、復習する。	予習：与えられた課題を解いておく。 復習：今回の授業内容およびこれまでの授業内容を復習し、しっかりと理解しておく。不明な点を次回に質問できるように準備する。
第13回	和声的対位法の知識 器楽的旋律・単線ポリフォニーなど、和声的対位法の、後期における実作品の和声分析に際して必要となる部分の知識を学ぶ。	予習：D34器楽的旋律・D35二重対位法の項目を読んでおく。 復習：授業内容を復習する。不明な点を次回に質問できるように準備する。
第14回	機能的和声法と楽式 機能的和声法と形式の関係を理解する。	予習：D40『主要形式』を読んでおく。これまでに学んだことを念頭に置き与えられたを解いてみる。 復習：次回の試験に備え、これまでに学んだ内容を復習しておく。知識が確かでない点に気づいた場合は質問をまとめておく。
第15回	『和声学1・3』のまとめ 試験を実施し、前期に学んできた内容の習得度を確認する。	予習：試験に備え、これまでの学習内容を復習しておく。 復習：試験結果を省み、後期に向けて自分の理解度が低いと思われる点について復習する。

科目名(クラス)	和声学 【Konzertfach(演奏専攻)】2・4	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1又は2
担当教員	白石　茂浩	履修対象・条件	Konzertfach(演奏専攻)のみ履修可。必修 但し、声楽のKonzertfach(演奏専攻)のみ4は選択。				

【授業の概要】

和声学2・4では「自らの力で楽曲分析・解釈を行えるようになる」という目標に向けての第一歩として和声分析に取りむみ、これによって前期に学んだ知識をより確かなものとするとともに実践への応用を学ぶ。

【授業の到達目標】

和声学2の履修生、和声学4の履修生ともに知識をより確かなものとすることに加え、和声学2の履修生は基本的な和声分析の方法を身につけること、和声学4の履修生は自力で分析を行いその結果に基づいき「どのように演奏すべきか」について自分なりの考えを持てるようになることを到達目標とする。

【授業の「方法」と「形式」】

基本的に講義形式を採るが、課題実習(特に和声分析)が増える。和声分析では意見発表・討論をさせることもある。

【履修時の「留意点」と「心得」】

「講義形式であっても受講生に意見発表を求めることはあるので、常に学んだことを復習し自分なりにまとめておくこと」「まとめをしている中で出てきた疑問点、授業の中で理解が難しい点があるときは積極的に質問するようにすること」に加え、積極的に自分の意見が述べられるようになることを心がけてもらいたい。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業中に行う試験・課題、予習・復習として与える課題への評価80%。授業への取り組み姿勢(積極性)20%。
具体的な試験の内容については実施直前の授業で通知する。

教科書	授業内容をまとめたプリントを配布する。	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	大作曲家の和声	著者等	ディーター・デ・ラ・モッテ	出版社	シンフォニア
参考文献	図解 音楽事典	著者等		出版社	白水社

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	前期の復習／和声分析A1(ピアノ小品) 質疑応答の形で前期で学んだ内容の確認を行う。 後期授業で行う和声分析の手順を、実際にピアノ小品を使って説明する。	予習:前期に学んだ内容の中で不確かだった点を復習しておく。 復習:前期に学んだ内容の中で不確かだった点を復習し、和製文政期のやり方を確認する。
第2回	和声分析A2(ピアノ小品) 第一回の授業を踏まえ、独力でピアノ小品の和声分析を行わせる。 和声分析の結果について意見発表・討論を行わせる。	予習:指定されたピアノ小品の下見をしておく(ピアノ科の受講生はこの曲を弾けるようにしておく)。 復習:和声分析を行う上で習得が不十分であったと感じられた点についての復習(前期に学んだ内容の復習)をする。意見発表の中で出た意見・検討内容を確認する。
第3回	和声分析A3(ソナタ形式) 独力でソナタ形式(ピアノ)の曲の和声分析を行わせる(和音記号の書き込みまで)。	予習:指定されたソナタ形式の曲に『和音記号の書き込み』をしておく。わからなかった点について質問準備をしておく。 復習:和声分析を行う上で習得が不十分であったと感じられた点についての復習。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	和声分析A4（ソナタ形式） 独力でソナタ形式の曲の和声分析を行わせ（前回の続き）これを完成させる。和声分析の結果について意見発表・討論を行わせる。	予習：和声分析の続きをやり、わからなかった点についての質問を準備する。　復習：和声分析を行う上で習得が不十分であったと感じられた点についての復習。意見発表の中で出た意見・検討内容の確認。
第5回	オーケストラ スコアを読むための知識として、オーケストラの変遷およびオーケストラの基本的な楽器について簡単に学ぶ。	予習：B19オーケストラ・D55オーケストラの楽器を読んでおく。 復習：学んだ内容の確認・復習をする。
第6回	和声分析B1（交響曲） 教材として取り上げる交響曲 第一楽章の和声分析を行う（和音記号の書き込みを終える）。	予習：和声分析Aでの学習を参考に、和声分析Bで教材とする交響曲 第一楽章の『和音記号の書き込み』をし、わからなかった点についての質問準備をする。 復習：独力でできなかった点を復習する。
第7回	和声分析B2（交響曲） 教材として取り上げる交響曲 第一楽章の和声分析を完成させ、意見発表を行わせる。	予習：部分分けをし、わからなかった点についての質問準備をする。　復習：和声分析を行う上で習得が不十分であったと感じられた点についての復習。意見発表の中で出た意見・検討内容の確認。
第8回	和声分析B3（交響曲） 第二楽章の和声分析を完成させ、意見発表を行わせる。	予習：第二楽章の『記号の書き込み』『構成単位分け』をし、わからなかった点についての質問準備をする。 復習：和声分析を行う上で習得が不十分であったと感じられた点についての復習。意見発表の中で出た意見・検討内容の確認。
第9回	和声分析B4（交響曲） 第三楽章の和声分析を完成させ、意見発表を行わせる。	予習：第三楽章の『記号の書き込み』『構成単位分け』をし、わからなかった点についての質問準備をする。 復習：和声分析を行う上で習得が不十分であったと感じられた点についての復習。意見発表の中で出た意見・検討内容の確認。
第10回	和声分析B5（交響曲） 第四楽章の和声分析を完成させる。	予習：第四楽章の『記号の書き込み』『構成単位分け』をし、わからなかった点についての質問準備をする。 復習：和声分析を行う上で習得が不十分であったと感じられた点についての復習。
第11回	和声分析B5（交響曲） 前回完成させた第四楽章の和声分析についての意見発表を行わせる。	予習：第四楽章の意見発表の準備をする。 復習：意見発表の中で出た意見・検討内容の確認。
第12回	和声分析B5（交響曲・総括） 各楽章で行った和声分析を振り返り、これを踏まえて全曲を俯瞰し、この構成について意見発表を行わせる。	予習：各楽章について行った和声雲倩を振り返り、各楽章の集合としての全曲がどのような構成になっているかを考察しておく。　復習：授業で学んだ内容の復習、作品について考察・意見（検討）をした内容の確認を行う。
第13回	和声分析のまとめ 特定の楽器の特性に縛られず音楽の構造を観る目を養うことを目的としてピアノ作品とオーケストラ作品を比較する。	予習：和声分析Aで取り上げたピアノ曲を見直しておく。 復習：授業で学んだ内容をまとめ、復習する。
第14回	後期のまとめ1 これまで学習してきた内容について質問を受け、解説し、その後に学習内容の理解度を測るための試験を実施する（なお、この試験結果から十分な理解が得られていないと判断される和声学4受講生には、別途課題あるいはレポートの提出を求める）。	予習：試験に備え、これまでに学んだ内容を復習しておく。理解が不十分な点についての質問をまとめておく。 復習：試験結果を省み、習得が不十分であったと感じられた点について復習する。
第15回	後期のまとめ2 試験結果を踏まえ、理解が不十分であると思われる点について解説する。	予習：これまでに学んだ内容を復習しておく。理解が不十分な点についての質問をまとめておく。 復習：これまでに学んできた内容を復習し、後期の授業に備え知識をより確かなものとしておく。

科目名(クラス)	対位法【Konzertfach（演奏専攻）】A	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	白石　茂浩	履修対象・条件	Konzertfach（演奏専攻）のみ履修可。				

【授業の概要】

和声学同様、対位法を学ぶ最終目的は自らの力で楽曲分析・解釈を行えるようになることであるが、対位法Aでは主に対位法に関する基礎知識を提示するとともに、これまでに学んできた知識の確認・復習（ことに和声的対位法では和声学の知識は不可欠なもの）を行う。

【授業の到達目標】

対位法に関する知識の習得および既に学んだ機能的和声法と対位法の知識の統合。

【授業の「方法」と「形式」】

対位法Aでは基本的に講義形式を採るが、知識のより深い理解・修得のために課題実習も行う。

【履修時の「留意点」と「心得」】

演奏家コースの学生は『和声学』から2年間、同一教員の授業を受けているので同じ心得をここで繰り返すことはしないが、対位法の授業では能動的に自分がより詳しく学びたいことについて質問し（授業では取り上げていない内容についても可）、課題に取り組むようにすること。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業中に行う試験・課題、予習・復習として与える課題への評価80%。授業への取り組み姿勢（積極性）20%。
具体的な試験の内容については実施直前の授業で通知する。

教科書	授業内容をまとめたプリントを配布する。	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	対位法 － 分析と実習 －	著者等	ウォルター・ピストン	出版社	音楽之友社
参考文献	図解音楽事典	著者等		出版社	白水社

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	対位法の概要 近代西洋音楽成立までの西洋音楽の歩みを簡単に辿り、対位法の学習意義を理解する。	予習：これまでに楽典で学んできた内容を復習しておく。 復習：授業で学んだ内容の復習をする（配布プリントのB04『近代西洋音楽の成立までと成立後』を読む）。
第2回	古典対位法−1 古典対位法における旋律線に関する規則を学び、声楽的旋律への理解を深める。	予習：配布プリントのD『古典対位法』の01『進行に関する用語』から03『二声における和声的音程の扱い』までを予習しておく。 復習：授業で学んだ内容の復習をする。
第3回	古典対位法−2 古典対位法第一種について学ぶ。	予習：D03『二声における和声的音程の扱い』『一音符：一音符』を読んでおく。 復習：授業で学んだ内容を復習し、二声・三声・四声の課題を独力で解いてくる。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	古典対位法-3 古典対位法第二種～第四種について学び、『和声学』で学んだ非和声音と比較し、この違いを確認する。	予習：D04『一音符：二音符・三音符』から『一音符：シンコペーション』までとC43『非和声音』を読んでおく。 復習：授業で学んだ内容を復習し、第二種～第四種までの課題を独力で解く。
第5回	古典対位法-4 古典対位法第五種について学び、リズムの扱いについて理解する。	予習：前回の復習として解いた課題をピアノで弾けるようにしておく。D07『一音符：自由』を読んでおく。 復習：授業で学んだ内容を復習し、第五種の課題を独力で解く。
第6回	これまでに学んできた和声に関する知識の確認 次回の授業に備え（対位法音楽と和声音楽を比較する）『和声学』で学んできた知識を確認するとともに、理解度の低い部分を明らかにし、これを補う。	予習：前回の復習として解いた課題をピアノで弾けるようにしておく。D07『協和音と不協和音』を読んでおく。 復習：授業で学んだ内容の復習。
第7回	対位法音楽と和声音楽 対位法音楽と和声音楽を比較し、その違いを理解する（意見発表を行わせる）。	予習：課題として与えられた曲の和声分析をしておく。 復習：意見発表の中で出た意見を確認し検討する。
第8回	和声的対位法A-1 和声的対位法の概要について学ぶ。	予習：D32『和声的対位法』の『旋律に関する規則』から『一音符：二音符～』までを読み、古典対位法と比較しておく。 復習：授業で学んだ内容の復習。
第9回	和声的対位法A-2 器楽的旋律の説明をし、課題として与えておいた曲の和声分析を完成させる意見発表を行わせる。	予習：D34『器楽的旋律』を読み、課題として与えられた曲の和声分析をしておく。 復習：意見発表の中で出た意見を確認し検討する。
第10回	和声的対位法A-3 二重対位法・カノンについて説明する。	予習：D35『二重対位法』・D40『カノン』を読んでおく。 復習：授業で学んだ内容の復習。
第11回	和声的対位法A-4 受講生が書いてきたカノンを完成させ、バッハのカノンを鑑賞させる。	予習：簡単なカノンを書いてみる。 復習：授業で学んだ内容の復習。
第12回	和声的対位法A-5 フーガ（Bachフーガ）の形式について説明する。	予習：D44『フーガ』を読んでおく。 復習：授業で学んだ内容の復習。
第13回	和声的対位法A-6 様々な性格を有するBachフーガを聴かせ、意見発表を行わせる。	予習：鑑賞予定の曲の楽譜を観ておく。 復習：これまでに学んだ内容を復習しておく。
第14回	和声的対位法A-7 受講生の書いてきた8～16小節程度の対位法手法による簡単な曲を完成させる。	予習：8～16小節程度の対位法手法による簡単な曲を書いてみる。 復習：書くことで気づいた理解不足だった点について復習をする。
第15回	まとめ 学習内容の理解度を測るための試験を実施する。	予習：試験に備え、これまで学んできたことを復習しておく。 復習：試験結果を踏まえ、後期に向けて復習をしておく。

科目名(クラス)	対位法【Konzertfach（演奏専攻）】B	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	白石　茂浩	履修対象・条件	Konzertfach（演奏専攻）のみ履修可。				

【授業の概要】

対位法Bでは対位法Aで学んだ知識に基づいて様々な課題に取り組み、学んだ知識を確かなものにする。

【授業の到達目標】

対位法に関する知識の習得および既に学んだ機能的和声法と対位法の知識の統合。
この知識の統合の目的は当然「自らの力で楽曲文政期・解釈ができるようになるため」であり、前期では知識の習得が主体だったが後期では様々な課題を通して受講生一人一人がこの目標に歩を進めことができるようにすることをも副次的な目標とする。

【授業の「方法」と「形式」】

基本的に講義形式ではあるが、受講生が実施した課題を元に意見発表・討論を行わせることが多くなる。

【履修時の「留意点」と「心得」】

能動的に自分がより詳しく学びたいことについて質問し（授業では取り上げていない内容についても可）、課題に取り組むようにすること。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業中に行う試験・課題、予習・復習として与える課題への評価80%。授業への取り組み姿勢（積極性）20%。
具体的な試験の内容については実施直前の授業で通知する。

教科書	授業内容をまとめたプリントを配布する。	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	対位法 － 分析と実習 －	著者等	ウォルター・ピストン	出版社	音楽之友社
参考文献	図解音楽事典	著者等		出版社	白水社

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	これまでに学んできた内容の確認 質疑応答の形で確認を行い、不確かだった部分について説明・解説を行う。	予習：これまでに学んだ内容を復習しておく。 復習：授業で学んだ内容の復習をする。
第2回	和声的対位法B−1（器楽的旋律） 課題として与えられた曲の和声分析を完成させ、和声法および対位法の観点から作品を観る（器楽的旋律への理解を深める）。	予習：器楽的旋律を復習し、課題として与えられた曲の和声分析をしておく（ピアノ科の受講生は弾けるようにしておく）。 復習：授業で学んだ内容の復習をする。
第3回	和声的対位法B−2（主題・動機1） 課題として与えられた曲の和声分析を完成させ、和声法および対位法の観点から作品を観、意見発表発表をさせる。	予習：B13『主題・動機』を読み、課題として与えられた曲の和声分析をしておく（ピアノ科の受講生は弾けるようにしておく）。 復習：授業中に出た意見発表をまとめ、これを検討する。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	和声的対位法B-3（主題・動機2） 主題・動機の扱いに留意して実作品を鑑賞し、意見発表・討論（発表された意見や解釈の妥当性について）を行わせる。	予習：前回の授業を踏まえB13『主題・動機』を読んでおく。 復習：授業中に出た意見発表をまとめ、これを検討する。時間の関係で授業中に部分しか取り上げられなかったた作品を、主題・動機の扱いに留意しながら全曲聴いておく。
第5回	和声的対位法B-4 課題として与えられた曲の和声分析を完成させ、和声法および対位法の観点から作品を観る（フーガへの理解を深める）。	予習：課題として与えられた曲（Bachフーガ）の和声分析をしておく。 復習：授業中に出た意見発表をまとめ、これを検討する。
第6回	和声的対位法B-5　課題として与えられた曲の和声分析を完成させ、和声法および対位法の観点から作品を観る（フーガへの理解を深める）。	予習：課題として与えられた曲（古典派のフーガ）の和声分析をしておく。 復習：授業中に出た意見発表をまとめ、これを検討する。
第7回	和声的対位法B-6 第5回・第6回授業で取り上げた作品を比較させ、意見発表させる。	予習：第5回・第6回授業で取り上げた作品の比較に備え、両作品について復習しておく。 復習：これまでに和声学・対位法で学んだ知識を復習しておく。
第8回	知識の統合のための課題A1 与えられた旋律に、和声学・対位法で学んだ知識を応用して二声を加え三声体にさせ（受講生全員で）、完成した曲について意見発表を行わせる。	予習：これまでに学んだ内容を復習しておく。 復習：課題実施にあたって説明された内容および意見発表の内容をまとめ、復習・検討する。
第9回	知識の統合のための課題A2 宿題として与えられた課題を完成させ、これについて意見発表を行わせる。	予習：次回に向けての予習：今回の授業で理解度が低かった思われる点について復習し、宿題として与えられた旋律に独力でできるところまで作業を進めておく。 復習：課題実施にあたって説明された内容および意見発表の内容をまとめ、復習・検討する。
第10回	知識の統合のための課題B1 合唱用のスケッチを、混声四部合唱（アカペラ）に編曲する（受講生全員で）。	予習：前回の授業で理解度が低かった思われる点について復習する。 復習：今回の授業で理解度が低かったと思われる点について復習する。
第11回	知識の統合のための課題B2 前回に続き混声四部合唱（アカペラ）編曲を進め、これを完成させ意見発表を行わせる。	予習：自分なりに編曲を進めておく。 復習：課題実施にあたって説明された内容および意見発表の内容をまとめ、復習・検討する。
第12回	知識の統合のための課題B3 宿題として与えられた合唱用スケッチからの混声四部合唱（アカペラ）編曲を発表させ、発表された曲について意見発表をさせる。	予習：前回の授業で理解度が低かったと思われる点について復習し、宿題として与えられたスケッチからの混声支部編曲を独力でやっておく。 復習：課題実施にあたって説明された内容および意見発表の内容をまとめ、復習・検討する。
第13回	劇的表現について 音楽における劇的表現がいかにして実現されているかを和声法・対位法の面から解説する。	予習：配布プリントのB『劇的表現』を読んでおく。 復習：これまで教材として取り上げてきた作品ではどのような形で劇的表現が行われているかを調べる。
第14回	まとめ1 学習内容の理解度を測るための試験を実施する（なお、この試験の結果、十分な理解が得られていないと判断される受講生には課題あるいはレポートの提出をさせる）。	予習：試験に備え、これまでに学んできた内容全般を復習しておく。 復習：試験を受け理解が不完全であると思われる点・疑問点があれば質問をまとめておく。
第15回	まとめ2 試験結果を踏まえ、受講生の理解が不十分であると思われる点について、および受講生からの質問に応えて説明・解説を行う。	予習：試験を受け理解が不完全であると思われる点・疑問点があれば質問をまとめておく。 復習：理解度が低かったと思われる点を復習する。

科目名(クラス)	楽式論(作曲法・編曲法を含む)A－a	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	田村　治美	履修対象・条件	教職課程履修者と音楽療法専攻は「ポピュラーミュージックAB」と「楽式論B」よりいずれか必修。教職実践専攻は必修。				

【授業の概要】

作品を演奏するには、その構造や形式の基本原理を深く理解することが重要です。ここでは、様々な形式について実際の作品を分析します。西洋古典音楽の基本的な楽式構造を学ぶだけでなく、その形式が時代とともに変遷していく様相を把握します。さらに、作曲家による特徴を抽出し、形式の多様性と柔軟性を学びます。異なる編成やジャンル(ジャズ)への編曲を原曲と比較しながら分析し、編曲技法を学びます。

【授業の到達目標】

作品の基本原理を理解します。また、形式が時代と共に変化すること、作曲家によって多様性があること、その柔軟性を理解します。様々な作曲家の様式を理解します。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式。発表形式

【履修時の「留意点」と「心得」】

様々な楽曲に触れるので、興味を持って積極的に参加してください。私語は注意します。

【成績評価の「方法」と「基準」】

提出課題と発表で評価します。各50%です。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	調性音楽のシェンカー分析	著者等	キャドウオーラダー著/角倉一朗訳	出版社	音楽之友社
参考文献	和声法	著者等	ピストン他著/角倉一朗訳	出版社	音楽之友社

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	概論(形式、ジャンル、様式、構造の概念)	
第2回	音楽の最小単位、動機、楽節　動機、楽節について、概念と構造を学びます。	
第3回	2部形式、複合2部形式　　2部形式の原理を学びます。	動機、楽節など、前授業の理解をしておく

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	3部形式、複合3部形式	同上
第5回	舞曲（バロックまで）ルネサンスからバロックまでの舞曲の形式と歴史を学びます。	発表形式となるので、個々の担当部分を調査しておく
第6回	舞曲（18世紀以降） 18世紀以降の舞曲と組曲を分析します。	発表形式となるので、個々の担当部分を調査しておく
第7回	ロンド形式　ロンド形式の歴史と構造を学びます。	同上
第8回	対位法とフーガ　対位法について学び、楽曲を分析します。	同上
第9回	カデンツと終止形　カデンツと終止形の基本原理を学びます。	同上
第10回	ソナタ形式（バロックまで） 初期のソナタ形式を理解します。	同上
第11回	ソナタ形式（古典派からベートーヴェンまで） 古典派のソナタ形式の原理を把握し、分析ができるようにします。	古典派の様々なソナタ形式の作品を見つけておく
第12回	ソナタ形式（19世紀以降） 19世紀以降の様々なソナタの分析ができるようにします。	ロマン派の様々なソナタ形式の作品を見つけておく
第13回	変奏技法　様々な変奏技法を把握します。	
第14回	変奏曲　様々な変奏曲の分析をとおして、ベートーヴェンが達成した形式を理解します。	
第15回	まとめ　前期に学んだ器楽形式の基本原理をまとめ、整理します	

科目名(クラス)	楽式論（作曲法・編曲法を含む）A-b	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	伊藤　制子	履修対象・条件	教職課程履修者と音楽療法専攻は「ポピュラーミュージックAB」と「楽式論B」よりいずれか必修。教職実践専攻は必修。				

【授業の概要】

音楽の基本的形式やジャンルの特徴などを時代ごとに学びます。

【授業の到達目標】

楽曲の特徴や形式を理解し、各自の演奏、研究に役立てることを目標にしています。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式ですが、ディスカッション、小テストも行う予定です。

【履修時の「留意点」と「心得」】

講義中の携帯電話、端末の使用は厳禁です。違反した場合は失格になる場合もあります。

【成績評価の「方法」と「基準」】

講義中の取り組み40パーセント、期末レポート60パーセントで評価します。

教科書	なし	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	講義中に紹介します	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	授業の概要説明と習熟度調査	予習：シバラスの確認 復習：テーマについて調べる
第2回	楽式とは	予習：シバラスの確認 復習：時代様式と個人様式を理解する
第3回	二部形式、三部形式	予習：三部形式いついて調べる 復習：リート形式を確認

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	バロック時代とその形式	予習;バッハについて調べる 復習：バロック様式の確認
第5回	バロックオペラの様式	予習：モンテヴェルディについて調べる 復習：バロックオペラの様式確認
第6回	バロック組曲とは1	予習：組曲について調べる 復習：バッハの組曲について確認
第7回	バロック組曲とは2	予習：バッハのオーケストラ作品を調べる 復習：管弦楽組曲について確認
第8回	バロック時代の協奏曲様式	予習：ヴィヴァディについて調べる 復習：アルビノーニなどの確認
第9回	古典派の音楽理念	予習：古典派時代の概要を調べる 復習：バロック時代との違いを確認
第10回	ソナタ形式とは1	予習：古典派作曲家について調べておく 復習：ソナタ形式の確認
第11回	ソナタ形式とは2	予習：古典派作曲家について調べておく 復習：ソナタ形式の確認
第12回	ソナタ形式とは3	予習：古典派作曲家について調べておく 復習：ソナタ形式の確認
第13回	古典派協奏曲	予習：バロック協奏曲の見直し 復習：協奏曲の特徴の確認
第14回	前期の重要事項のまとめ	予習：前期に聞いて音楽を再度確認する 復習：小テストに備える
第15回	まとめと小テスト	予習：前期の重要事項を覚えておく 復習：小テストの見直し

科目名(クラス)	楽式論(作曲法・編曲法を含む)B－a	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	田村　治美	履修対象・条件	教職課程履修者と音楽療法専攻は「ポピュラーミュージックAB」と「楽式論A」よりいずれか必修。教職実践専攻は必修。				

【授業の概要】

前期に引き続き、古典的な楽曲形式を学びます

【授業の到達目標】

古典派の楽曲形式の理解をさらに深め、応用力を養います。自分で楽曲を分析し、構造を理解し、演奏につなげていくことができるように指導します。編曲技法を学び、自ら、その方法を模倣し、編曲ができることを目標とします。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式。できるだけ多くの視聴覚資料を用いて講義をします。

【履修時の「留意点」と「心得」】

予習はしなくてよいですが、私語は注意します。

【成績評価の「方法」と「基準」】

出席状況と授業態度(50%)、期末試験(50%)で総合評価をします。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	前期と同じ。	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	概論(音楽と自然界の形式)音楽と自然界の様々な現象との関わりを紹介し、音楽形式の原理について考察します。	
第2回	非和声音と旋律学　様々な非和声音の種類を学びます。	全授業の理解をしておくこと
第3回	旋律と和声　旋律と和声のつながりについて楽曲から考察します。	同上

【授業計画・内容・準備学習】		
回数		準備学習（予習・復習）
第4回	有節歌曲　ゲーテの作品を例に、有節歌曲の分析を行ない、作曲家による様式の違いを考察します。	同上
第5回	通作歌曲　通作歌曲の分析から、有節歌曲との違いを明らかにします。	同上
第6回	キリスト教暦と宗教曲　キリスト教暦を学び、宗教曲との関係を理解します。	同上
第7回	印象派の音楽　ドビュッシー、ラヴェルなどのフランス近代の作品を分析します。	同上
第8回	12音技法　シェーンベルグの音楽理論と作品を分析します。	同上
第9回	20世紀の日本の作曲家　武満徹、黛敏郎など、20世紀の日本の作曲家の作品を分析します。	同上
第10回	映像と音楽①　音楽と映画の関わりについて、様々な例を示しながら相乗的な効果について考察します。	同上
第11回	映像と音楽②　現代アートの様々な試みを紹介します。	同上
第12回	編曲技法　バッハの作品の、ケンプやブゾーニ、、ヘスらの編曲を分析し、編曲技法を学びます。	同上
第13回	編曲技法　バッハの作品のジャズへの編曲を例に、編曲技法を学びます。	同上
第14回	編曲の実践　課題を与えて、みなさんに編曲をしていただきます。	同上
第15回	まとめ	

科目名(クラス)	楽式論（作曲法・編曲法を含む）B-b	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	伊藤　制子	履修対象・条件	教職課程履修者と音楽療法専攻は「ポピュラーミュージックAB」と「楽式論A」よりいずれか必修。教職実践専攻は必修。				

【授業の概要】

音楽の形式や作曲語法を時代ごとに学びます。

【授業の到達目標】

楽曲の特徴を理解し、自身の演奏や研究に役立てることを目標にしています。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式ですが、ディスカッションや小テストも行う予定です。

【履修時の「留意点」と「心得」】

講義中の携帯電話、端末の使用は厳禁です。違反した場合は失格になることもありますので、注意しましょう。

【成績評価の「方法」と「基準」】

講義中の取り組み40パーセント、期末レポート60パーセントで評価します。

教科書	なし	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	講義中に紹介します	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	前期の基本事項の確認	予習:バロック時代の重要事項の確認 復習:バロック時代音楽史の再読
第2回	変奏曲とその展開1	予習：古典派音楽史の確認 復習：モーツァルトの特長を理解する
第3回	変奏曲とその展開2	予習：古典派音楽史の確認 復習：ベートーヴェンの特長を理解する

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	ロマン派の性格小品	予習：ロマン音楽史概観 復習；重要事項再確認
第5回	ロマン派交響曲	予習：ロマン音楽史概観 復習；重要事項再確認
第6回	編曲１	予習：編曲の歴史を調べる 復習：重要事項の確認
第7回	編曲２	予習：編曲の歴史を調べる 復習：重要事項の確認
第8回	旋法、無調、12音技法、セリー	予習：調性音楽の確認 復習：重要事項の確認
第9回	20世紀の新しい手法；引用	予習；20世紀音楽史の概観 復習；重要用語の確認
第10回	20世紀の新しい手法:偶然性	予習：20世紀音楽史について調べる 復習；重要用語の確認
第11回	20世紀の新しい手法;ミュージック･コンクレート	予習：電子音楽について調べる 復習；アンリ作品の再確認
第12回	20世紀の新しい手法：音楽劇	予習：アペルギスについて調べる 復習；音楽劇の歴史の再確認
第13回	20世紀の新しい手法；ミニマリズム	予習;20世紀音楽史の概観 復習；ライヒの音楽の再確認
第14回	後期の重要事項の確認	予習:重要項目の確認 復習；全体の見直し
第15回	まとめと小テスト	予習:重要項目の確認 復習；全体の見直し

科目名(クラス)	ポピュラーミュージック (作曲法・編曲法を含む)A	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	桑原　巌	履修対象・条件	教職課程履修者と音楽療法専攻は「楽式論A・B」および「ポピュラーミュージックB」よりいずれか必修。教職実践専攻は履修不可				

【授業の概要】

ワールドミュージックとしてスタンダードと呼ばれている音楽を中心に授業毎に選曲をし、わかりやすく、丁寧にそれぞれの音楽がどのように作曲され、編曲されているかを知る。主にコードネームを理解しながら、ハーモニーの意味や特徴を知り、単純なメロディをオシャレに編曲できるようにする。授業で扱う音楽は特にジャンルを決めず、様々な音楽に触れ、その基礎を体感していく。

【授業の到達目標】

ポピュラーミュージックの歴史や背景、コード進行を理解する。

【授業の「方法」と「形式」】

演習と講義

【履修時の「留意点」と「心得」】

休まずに出席すること。間違いを恐れず積極的に取り組むこと。

【成績評価の「方法」と「基準」】

毎授業でのプリント課題（40%）　オリジナル演奏（60%）

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	コードがわかるピアノ講座	著者等	森本琢朗	出版社	レッスンの友社
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	ハーモニー	オーラリー ジングル・ベル
第2回	実際にハーモニーをつけてみよう	マイボニー 赤い河の谷間 アロハオエ
第3回	D7ってかっこいい！	峠の我が家 ケンタッキーのわが家

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	ドミナントモーション　C7	主人は冷たい土の下に
第5回	サブコードを知ろう	ふるさと きらきら星
第6回	代理コード	サンタルチア モルゲンレーテ
第7回	循環コード	ロッホローモンド
第8回	Emコード	家路 こげよマイケル
第9回	コード進行のいろいろ	おおブレネリ 星の世界
第10回	再びのドミナントモーション	エデンの東 愛しのクレメンタイン 愛の賛歌
第11回	セカンダリードミナント	ロンドンデリーの歌 結婚行進曲
第12回	マイナーキー	愛のロマンス フランスの古い歌
第13回	オーギュメントコード サブドミナントマイナー	家路 深い河 シェリトリンド
第14回	ディミニッシュコード	80日間世界一周 星に願いを
第15回	トゥファイブ	マチルダ この世の果てまで

科目名(クラス)	ポピュラーミュージック (作曲法・編曲法を含む)B	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	桑原　巌	履修対象・条件	教職課程履修者と音楽療法専攻は「楽式論A・B」および「ポピュラーミュージックA」よりいずれか必修。教職実践専攻は履修不可				

【授業の概要】

ワールドミュージックとしてスタンダードと呼ばれている音楽を中心に授業毎に選曲をし、わかりやすく、丁寧にそれぞれの音楽がどのように作曲され、編曲されているかを知る。主にコードネームを理解しながら、ハーモニーの意味や特徴を知り、単純なメロディをオシャレに編曲できるようにする。授業で扱う音楽は特にジャンルを決めず、様々な音楽に触れ、その基礎を体感していく。

【授業の到達目標】

イメージに合わせたメロディを作る。リズム、音程、しりとり、ハーモニー等により様々なきっかけから音楽を想像できるようになる。

【授業の「方法」と「形式」】

演習と講義

【履修時の「留意点」と「心得」】

休まずに出席すること。間違いを恐れず積極的に取り組むこと。

【成績評価の「方法」と「基準」】

毎授業でのプリント課題（40%）　オリジナル演奏（60%）

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	リズムを感じるこころ	
第2回	オーソドックスなリズムの種類	
第3回	リズムの特徴	リズムについてまとめる

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	音域	
第5回	音跳び	
第6回	リズムからメロディをつくる	
第7回	ハーモニーからメロディをつくる	メロディについてまとめる
第8回	テンポ	
第9回	アレンジとは	
第10回	リズム隊　オルタネーティングベース	
第11回	楽器・音色・奏法	
第12回	コード進行のいろいろを活用しよう	
第13回	（ノリ）	アレンジについてまとめる
第14回	制作	
第15回	発表	

科目名(クラス)	指揮法ーa・b	開講学期	a前期 b後期	単位数	2	配当年次	1～4
担当教員	加門　伸行	履修対象・条件	教職課程履修者と教職実践専攻は必修				

【授業の概要】

教職課程履修者を主な対象として、実践的な指揮テクニックの基礎を修得することをめざします。
表情豊かな演奏を引き出すためにはどんな風に指揮すればよいのか、自ら体験することを通じて一人一人に考察してもらい、楽譜に記された様々な音楽的意図を的確に読み取って、実際の演奏に反映させるための読譜力・想像力・表現力などを養います。

【授業の到達目標】

2拍子・3拍子・4拍子・6拍子（2種類）の基本的な振り方をマスターし、曲想に応じた指揮ができる。
強弱の変化や細かいニュアンスなどを指揮で明快に示すことができる。
指揮することによって、正確かつ音楽的に表情豊かな演奏を引き出すことができる。

【授業の「方法」と「形式」】

中学校・高校用の音楽教科書に掲載された歌唱用教材（下記「授業内容」参照）を課題に、毎回数名ずつ交代で指揮する。

【履修時の「留意点」と「心得」】

教職専門科目で使用する中学校・高校用の音楽教科書を必ず毎回持参すること。遅刻（遅延証明書提出の場合を除く）・中抜け・早退は欠席としてカウントする。各回の課題曲について事前に充分予習した上で自ら積極的に取り組み、他の者が指揮している様子も注意深く観察しながら、何がポイントなのか理解しようと努めること。

【成績評価の「方法」と「基準」】

学期末に行う実技試験で評価する。
「客観的に認識され得る基本的な指揮の技術を修得しているか」「適切なテンポ設定で演奏しているか」「楽譜上に記載された事項を忠実に演奏に反映しようと努めているか（強弱やテンポの変化・フェルマータなど）」「主体的な表現意欲が見られるか（指揮する対象を過不足なくリードできているか）」等の諸点を評価基準とし、試験課題は授業で取り扱ったテーマ全てから抽出するものとする。

教科書	「中学生の音楽1」「中学生の音楽2・3上／下」	著者等	小原光一ほか	出版社	教育芸術社
教科書	「高校生の音楽1」	著者等	小原光一ほか	出版社	教育芸術社
参考文献	（多数のため、初回の授業時に一覧を配布）	著者等	（諸家）	出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	単純拍子（2拍子）① 課題曲：「花」	予習：左記課題曲の譜読みを丹念に行い、曲についてのイメージをふくらませる。 復習：どんな点に注意が必要か、自分なりに整理する。
第2回	単純拍子（2拍子）② 課題曲：「花」	予習：前回の内容を振り返って、フィードバックさせる。 復習：授業の中で何がどのように改善されたか、検証する。
第3回	単純拍子（2拍子）③ 課題曲：「花」	予習：課題のポイントとなる点を改めて見直す。 復習：この単元で学習してきたことの再確認を行う。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	単純拍子（3拍子）① 課題曲：「赤とんぼ」	予習：左記課題曲の譜読みを丹念に行い、曲についてのイメージをふくらませる。 復習：どんな点に注意が必要か、自分なりに整理する。
第5回	単純拍子（3拍子）② 課題曲：「赤とんぼ」	予習：前回の内容を振り返って、フィードバックさせる。 復習：授業の中で何がどのように改善されたか、検証する。
第6回	単純拍子（3拍子）③ 課題曲：「赤とんぼ」	予習：課題のポイントとなる点を改めて見直す。 復習：この単元で学習してきたことの再確認を行う。
第7回	複合拍子（4拍子）① 課題曲：「夏の思い出」	予習：左記課題曲の譜読みを丹念に行い、曲についてのイメージをふくらませる。 復習：どんな点に注意が必要か、自分なりに整理する。
第8回	複合拍子（4拍子）② 課題曲：「夏の思い出」	予習：前回の内容を振り返って、フィードバックさせる。 復習：授業の中で何がどのように改善されたか、検証する。
第9回	複合拍子（4拍子）③ 課題曲：「夏の思い出」	予習：課題のポイントとなる点を改めて見直す。 復習：この単元で学習してきたことの再確認を行う。
第10回	複合拍子（6拍子）① 課題曲：「浜辺の歌」	予習：左記課題曲の譜読みを丹念に行い、曲についてのイメージをふくらませる。 復習：どんな点に注意が必要か、自分なりに整理する。
第11回	複合拍子（6拍子）② 課題曲：「浜辺の歌」	予習：前回の内容を振り返ってフィードバックさせ、課題のポイントとなる点を見直す。 復習：授業の中で何がどのように改善されたか検証し、この単元で学習してきたことの再確認を行う。
第12回	複合拍子（6拍子）③ 課題曲：「仰げば尊し」	予習：左記課題曲の譜読みを丹念に行い、曲についてのイメージをふくらませる。 復習：どんな点に注意が必要か、自分なりに整理する。
第13回	複合拍子（6拍子）④ 課題曲：「仰げば尊し」	予習：前回の内容を振り返ってフィードバックさせ、課題のポイントとなる点を見直す。 復習：授業の中で何がどのように改善されたか検証し、この単元で学習してきたことの再確認を行う。
第14回	混合拍子と変拍子 課題曲：「この道」	予習：左記課題曲の譜読みを丹念に行い、曲についてのイメージをふくらませる。 復習：どんな点に注意が必要か、自分なりに整理する。
第15回	まとめ	予習：学習してきた内容を振り返り、それぞれの要点についてもう一度確認する。 復習：成果や今後の課題等について、自己点検する。

科目名(クラス)	音楽文化論A	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	全
担当教員	遠山　菜穂美	履修対象・条件					

【授業の概要】

・私たちが作曲家や作品を深く理解しようとする時、音楽書を読んだり楽譜を分析したりするだけでなく、違った方向から調べてみることが意外なヒントを与えてくれることがあります。音楽を学ぶ者にとって、こうした広い視野をもつことは重要なことといえます。
・この授業では、作曲家や作品を、そのバックグラウンドとなる文化や同時代の芸術・思想など様々な視点からみることを通して、広い視野で音楽を探求する力を身につけます。
・この授業では近代フランスの作曲家、モーリス・ラヴェル(1875-1937)とその作品について、多角的な探求の糸口をつかみます。

【授業の到達目標】

・ラヴェルとその主要な作品について、さまざまな視点から考察し、深く理解することができる。
・その手法をラヴェル以外の作曲家・作品にも活用することができる。

【授業の「方法」と「形式」】

講義が中心ですが、学生間のディスカッションも随時取り入れます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

自らが「考える」ことに重点を置いた授業です。ディスカッション等において自分の考えを明確に述べられるよう、各回のテーマに真剣に取り組むことが求められます。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・授業への積極性(ディスカッション等における発言内容、課題への取り組みなど))50%。
・筆記試験50%

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	はじめに:音楽研究のための視点 ―各回の視点(テーマ)について―	予習:シラバスを読んで各回の視点(テーマ)を押さえておく。 復習:関心を持ったことについて詳しく調べる。
第2回	ラヴェルについて	予習:ラヴェルについて事典で調べる。 復習:関心を持ったことについて詳しく調べる。
第3回	ラヴェルと故郷バスク① 《水の戯れ》	予習:バスクについて事典で調べる。 復習:関心を持ったことについて詳しく調べる。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	ラヴェルと故郷バスク② 《ピアノ協奏曲ト長調》《ピアノ三重奏曲》	同上
第5回	ラヴェルとスペイン① 《スペイン狂詩曲》	予習：スペインについて事典で調べる。 復習；関心を持ったことについて詳しく調べる。
第6回	ラヴェルとスペイン② 《ボレロ》	同上
第7回	ラヴェルと師フォーレ 《弦楽四重奏曲》	予習：フォーレについて事典で調べる。 復習；関心を持ったことについて詳しく調べる。
第8回	ラヴェルとサロン文化① 《亡き王女のためのパヴァーヌ》	予習：サロンについて事典で調べる。 復習：関心を持ったことについて詳しく調べる。
第9回	ラヴェルと異国 《シェエラザード》《パゴダの女王レドロネット》	予習：異国趣味について事典で調べる。 復習：関心を持ったことについて詳しく調べる。
第10回	ラヴェルと古典① 《古風なメヌエット》《ソナチネ》	予習：フランスの古典音楽について事典で調べる。 復習：関心を持ったことについて詳しく調べる。
第11回	ラヴェルと古典② 《クープランの墓》	同上
第12回	ラヴェルと子供 《マ・メール・ロワ》	予習：子供に関係する作品を調べてみる。 復習：関心を持ったことについて詳しく調べる。
第13回	ラヴェルの世界観（ストラヴィンスキー、シェーンベルクへとの交流）① シェーンベルク《月に憑かれたピエロ》	予習：第一次世界大戦前後の歴史を調べる。 復習：関心を持ったことについて詳しく調べる。
第14回	ラヴェルの世界観（ストラヴィンスキー、シェーンベルクへとの交流）② ストラヴィンスキー《日本の3つの叙情詩》	同上
第15回	まとめ	予習：ラヴェルについて様々な視点から理解したことを整理する。 復習：ラヴェルの作品をさらに聴いたり演奏したりする。

科目名(クラス)	音楽文化論B	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	全
担当教員	遠山　菜穂美	履修対象・条件					

【授業の概要】

・私たちが作曲家や作品を深く理解しようとする時、音楽書を読んだり楽譜を分析したりするだけでなく、違った方向から調べてみることが意外なヒントを与えてくれることがあります。音楽を学ぶ者にとって、こうした広い視野をもつことは重要なことといえます。
・この授業では、作曲家や作品を、そのバックグラウンドとなる文化や同時代の芸術・思想など様々な視点からみることを通して、広い視野で音楽を探求する力を身につけます。
・この授業では近代フランスの作曲家、ガブリエル・フォーレ(1845-1924)とその作品について、多角的な探求の糸口をつかみます。

【授業の到達目標】

・フォーレとその主要な作品について、さまざまな視点から考察し、深く理解することができる。
・その手法をフォーレ以外の作曲家・作品にも活用することができる。

【授業の「方法」と「形式」】

講義が中心ですが、学生間のディスカッションも随時取り入れます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

自らが「考える」ことに重点を置いた授業です。ディスカッション等において自分の考えを明確に述べられるよう、各回のテーマに真剣に取り組むことが求められます。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・授業への積極性(ディスカッション等における発言内容、課題への取り組みなど))50%。
・筆記試験50%

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	はじめに:音楽研究のための視点 ―各回の視点(テーマ)について―	予習:シラバスを読んで各回の視点(テーマ)を押さえておく。 復習:関心を持ったことについて詳しく調べる。
第2回	フォーレについて	予習:フォーレについて事典で調べる。 復習:関心を持ったことについて詳しく調べる。
第3回	フォーレとサロン文化① 《ドリー》	予習:サロンについて事典で調べる。 復習:関心を持ったことについて詳しく調べる。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	フォーレとサロン文化② 《ヴァイオリン・ソナタ第１番》	同上
第5回	フォーレとサロン文化③ 《シシリエンヌ》	同上
第6回	フォーレとパリ音楽院① ラヴェル《フォーレの名による子守歌》	予習：パリ音楽院について事典で調べる。 復習：関心を持ったことについて詳しく調べる。
第7回	フォーレとパリ音楽院② 《ペレアスとメリザンド》（ケックラン編曲）	同上
第8回	フォーレと詩人① 歌曲《蝶と花》（ユゴー詩）	予習：ユゴーについて事典で調べる。 復習：関心を持ったことについて詳しく調べる。
第9回	フォーレと詩人② 歌曲《月の光》（ヴェルレーヌ詩）	予習：ヴェルレーヌについて事典で調べる。 復習：関心を持ったことについて詳しく調べる。
第10回	フォーレと古典 《マスクとベルガマスク》	予習：古典にヒントを得た作品を探してみる。 復習：関心を持ったことについて詳しく調べる。
第11回	フォーレと宗教① 《レクイエム》	予習：レクイエムについて事典で調べる。 復習：関心を持ったことについて詳しく調べる。
第12回	フォーレと宗教② 《レクイエム》その２	同上
第13回	フォーレの音楽観① 《ピアノ五重奏曲第２番》	予習：フォーレの伝記などから言葉を拾ってみる。復習：関心を持ったことについて詳しく調べる。
第14回	フォーレの音楽観② 《弦楽四重奏曲》	同上
第15回	まとめ	予習：フォーレについて様々な視点から理解したことを整理する。 復習：フォーレの作品をさらに聴いたり演奏したりする。

科目名(クラス)	日本音楽史概説A	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1～4
担当教員	黒川　真理恵	履修対象・条件	教職履修者と音楽療法専攻はBとのいずれか必修。 教職実践専攻は必修。				

【授業の概要】

・日本の伝統音楽についての基本的な知識を身に付けます。
・伝統音楽の種目ごとに、歴史と理論を学習します。
・唱歌（しょうが）の実践や、箏（こと）の実習を通して、理論と実践の両面から理解を深めます。

【授業の到達目標】

・日本の伝統音楽の歴史を理解し、音楽的な特徴を説明することができる。
・日本の伝統音楽を鑑賞し、自身の言葉で説明することができる。

【授業の「方法」と「形式」】

・講義を基本としますが、唱歌（しょうが）や箏（こと）を実践することもあります。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・授業内ではなるべく多くの映像を用いて説明しますが、できれば実際に演奏会や劇場へ足を運び、パフォーマンスを体感することが望ましいです。希望者には7月に国立劇場の歌舞伎鑑賞教室へ案内します。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・小テスト20%
・レポート30%
・筆記試験50%

教科書	『日本音楽との出会い―日本音楽の歴史と理論』	著者等	月溪　恒子	出版社	東京堂出版
教科書		著者等		出版社	
参考文献	『日本音楽基本用語辞典』	著者等		出版社	音楽之友社
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	オリエンテーション ・教科書参考書紹介　・和楽器紹介 音階① ・三分損益	予習：教科書p.44～46を読む。 復習：日本伝統音楽と自身との関わりについて振り返る。
第2回	音階② ・核音 ・二音音階・三音音階 ・テトラコルド	予習：教科書p.47～48を読む。 復習：わらべうたにおける核音や二音音階、三音音階を理解する。
第3回	リズム ・日本語の特徴 ・八木節様式・追分様式	予習：教科書p.49～51を読む。 復習：わらべうたを五線譜に書き取り、音楽構造を理解する。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	雅楽① ・〈越天楽〉の唱歌の実践（吹きもの） ・雅楽の歴史 ・雅楽の楽器分類	予習：教科書p.64～66を読む。 復習：〈越天楽〉の唱歌をできるようにする。
第5回	雅楽② ・〈越天楽〉の唱歌の実践（打ちもの） ・雅楽の歴史 ・雅楽の種目	予習：教科書p.67～71を読む。 復習：〈越天楽〉の唱歌をできるようにする。
第6回	琵琶 ・平家琵琶の歴史 ・平家琵琶の音楽的特徴	予習：教科書p.86～91を読む。 復習：平家琵琶の歴史について理解する。
第7回	声明 ・仏教音楽の歴史 ・声明の音楽的特徴	予習：教科書p.76～81を読む。 復習：仏教音楽の歴史について調べる。
第8回	能① ・能の舞台構造 ・能の歴史 ・謡のリズム法	予習：教科書p.100～103を読む。 復習：謡のリズム法をできるようにする。
第9回	能② ・能の歴史 ・謡の発声法 ・囃子の特徴	予習：教科書p.104～111を読む。 復習：囃子の唱歌をできるようにする。
第10回	小テスト	予習：これまでに習った単元を振り返る。 復習：小テストでできなかったところを見直す。
第11回	地歌・箏曲 ・箏の基本的な扱い方 ・三味線の歴史	予習：教科書p.114～125を読む。 復習：箏の基本的な扱い方を理解する。
第12回	箏の実習 ・箏の基本的な扱い方・調弦 ・〈さくらさくら〉の実習	予習：授業プリントを読む。 復習：〈さくらさくら〉を弾けるようにする。
第13回	歌舞伎① ・歌舞伎の舞台構造 ・歌舞伎の歴史	予習：教科書p.130～133を読む。 復習：歌舞伎の舞台構造を理解する。
第14回	歌舞伎② ・歌舞伎の歴史 ・歌舞伎の音楽	予習：教科書p.140～144を読む。 復習：歌舞伎の作品を鑑賞し、感想をレポートにまとめる。
第15回	まとめ	予習：これまでに習った単元を振り返る。 復習：授業で学んだことを活用し、日本伝統音楽への理解を深め、幅広い視野で音楽を探求する。

科目名(クラス)	日本音楽史概説B	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1～4
担当教員	黒川　真理恵	履修対象・条件	教職履修者と音楽療法専攻はAとのいずれか必修。 教職実践専攻は必修。				

【授業の概要】

・日本の伝統音楽についての専門的な知識を身に付け、理解を深めます。
・伝統音楽の種目ごとに、歴史と理論を学習します。
・唱歌（しょうが）の実践や、箏（こと）の実習を通して、理論と実践の両面から理解を深めます。

【授業の到達目標】

・日本の伝統音楽の歴史を理解し、音楽的な特徴を説明することができる。
・民謡やわらべうたなどの音楽的な特徴を、自身の言葉で説明することができる。

【授業の「方法」と「形式」】

・講義を基本としますが、唱歌（しょうが）や箏（こと）を実践することもあります。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・授業内で発表の機会を設けます。積極的な発言を望みます。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・小テスト20%
・発表30%
・筆記試験50%

教科書	『日本音楽との出会い―日本音楽の歴史と理論』	著者等	月溪　恒子	出版社	東京堂出版
教科書		著者等		出版社	
参考文献	『日本音楽基本用語辞典』	著者等		出版社	音楽之友社
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	オリエンテーション ・教科書参考書紹介　・和楽器紹介 音階① ・三分損益	予習：教科書p.44～46を読む。 復習：日本伝統音楽と自身との関わりについて振り返る。
第2回	音階② ・核音 ・二音音階・三音音階 ・テトラコルド	予習：教科書p.47～48を読む。 復習：わらべうたにおける核音や二音音階、三音音階を理解する。
第3回	リズム ・日本語の特徴 ・八木節様式・追分様式	予習：教科書p.49～51を読む。 復習：各地域の民謡のリズムについて調べる。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	雅楽① ・〈越天楽〉の唱歌の実践（吹きもの） ・雅楽の歴史 ・雅楽の楽器分類	予習：教科書p.64～66を読む。 復習：〈越天楽〉の唱歌をできるようにする。
第5回	雅楽② ・〈越天楽〉の唱歌の実践（打ちもの） ・雅楽の歴史 ・雅楽の種目	予習：教科書p.67～71を読む。 復習：〈越天楽〉の唱歌をできるようにする。
第6回	琵琶 ・薩摩琵琶の歴史 ・薩摩琵琶の音楽的特徴	予習：教科書p.86～91を読む。 復習：薩摩琵琶の歴史について理解する。
第7回	声明 ・仏教音楽の歴史 ・声明の音楽的特徴	予習：教科書p.76～81を読む。 復習：仏教音楽の映像を見て、歌詞について調べる。
第8回	能① ・能の舞台構造 ・能の歴史 ・謡のリズム法	予習：教科書p.100～103を読む。 復習：謡のリズム法をできるようにする。
第9回	能② ・能の歴史 ・謡の発声法 ・囃子の特徴	予習：教科書p.104～111を読む。 復習：囃子の唱歌をできるようにする。
第10回	小テスト	予習：これまでに習った単元を振り返る。 復習：小テストでできなかったところを見直す。
第11回	地歌・箏曲 ・箏の基本的な扱い方 ・三味線の歴史 ・近代箏曲	予習：教科書p.114～125を読む。 復習：箏の基本的な扱い方を理解する。
第12回	箏の実習 ・箏の基本的な扱い方・調弦 ・〈初夏の小川〉の実習	予習：授業プリントを読む。 復習：〈初夏の小川〉を弾けるようにする。
第13回	歌舞伎 ・歌舞伎の舞台構造 ・歌舞伎の歴史 ・長唄	予習：教科書p.130～133を読む。 復習：歌舞伎の舞台構造を理解する。
第14回	文楽 ・文楽の舞台構造 ・義太夫節	予習：教科書p.134～139を読む。 復習：文楽の舞台構造を理解する。
第15回	まとめ	予習：これまでに習った単元を振り返る。 復習：授業で学んだことを活用し、日本伝統音楽への理解を深め、幅広い視野で音楽を探求する。

科目名(クラス)	民族音楽学A	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	鈴木　良枝	履修対象・条件	教職課程履修者はA・Bいずれか必修。 教職実践専攻はA・Bともに必修。				

【授業の概要】

世界には様々な音楽があり、その価値観や特徴は実に多様です。講義では、世界各地の音楽の諸特徴を理解すると共に、その音楽が生み出された人々の生活や社会、宗教などを通して音楽の多様性について理解を深めることを目的とします。また民族音楽学Aでは、主に地域ごとに音楽や楽器の特徴について言及します。

【授業の到達目標】

諸民族の音楽に関する知識や資料の調べ方を紹介し、自ら興味のある音楽を調べ、音楽教員として知っておくべき知識や能力を身につけることを目的とします。

【授業の「方法」と「形式」】

・講義が中心となりますが、小テストも行います。
・バリの音楽であるケチャのリズムを体験してもらいます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・授業時に行う小テストや、授業の感想等を記入する用紙で、出席を確認します。
・30分以上の遅刻は出席と認めません。不正出席は減点対象とします。
・授業ごとにプリントを配布しますが、音楽の特色などをメモするノートを用意することが望ましい。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・授業への参加度（小テストや感想などの取り組み）50%
・筆記試験50%

教科書	『はじめての世界音楽 ―諸民族の伝統音楽からポップスまで』	著者等	柘植元一・ 塚田健一編	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献	『事典世界音楽の本』	著者等	徳丸吉彦他編	出版社	岩波書店
参考文献	『音楽理論の基礎』	著者等	笠原潔　徳丸吉彦	出版社	放送大学教育振興会

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	オリエンテーション～民族音楽学について～	予習：シラバスを読み、授業のテーマを押さえる。 復習：授業で取り扱った内容を教科書と照らし合わせて読む。
第2回	民族音楽学概論（1） ～世界各地の伝統音楽～	予習：興味のある諸民族の音楽を視聴する。 復習：授業で取り扱った内容を教科書と照らし合わせて読む。
第3回	民族音楽学概論（2） ～伝統音楽とポピュラー音楽～	予習：興味のある諸民族の音楽を視聴する。 復習：諸民族の音楽が用いられているポピュラー音楽を探す。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	・民族音楽学概論（3）～民族音楽学の研究の歴史～ ・東アジアの音楽（1）	予習：興味のある諸民族の音楽を視聴する。 復習：民族音楽学の研究方法について概説書を読み理解を深める。
第5回	・東アジアの音楽（2） ・西アジア・中央アジアの音楽（1）	予習：東アジア地域の音楽を視聴する。 復習：授業で取り扱った内容を教科書と照らし合わせて読む。
第6回	・西アジア・中央アジアの音楽（2） ・南アジアの音楽（1）	予習：西アジア、中央アジア地域の音楽を視聴する。 復習：授業で取り扱った内容を教科書と照らし合わせて読む。
第7回	・南アジアの音楽（2） ・東南アジアの音楽（1）	予習：南アジア地域の音楽を視聴する。 復習：授業で取り扱った内容を教科書と照らし合わせて読む。
第8回	・東南アジアの音楽（2） ・ヨーロッパの音楽（1）	予習：ヨーロッパ地域の音楽を視聴する。 復習：授業で取り扱った内容を教科書と照らし合わせて読む。
第9回	・ヨーロッパの音楽（2） ・オセアニアの音楽（1）	予習：オセアニア地域の音楽を視聴する。 復習：授業で取り扱った内容を教科書と照らし合わせて読む。
第10回	・オセアニアの音楽（2） ・アメリカの音楽（1）	予習：アメリカ地域の音楽を視聴する。 復習：授業で取り扱った内容を教科書と照らし合わせて読む。
第11回	・アメリカの音楽（2） ・アフリカの音楽（1）	予習：アフリカ地域の音楽を視聴する。 復習：授業で取り扱った内容を教科書と照らし合わせて読む。
第12回	・アフリカの音楽（2） ・音楽教材の紹介（1）	予習：諸民族の音楽のCDや文献を探す。 復習：授業で取り扱った内容を教科書と照らし合わせて読む。
第13回	・音楽教材の紹介（2） ・バリのガムラン音楽の実技（ケチャ）	予習：諸民族の音楽のCDや文献を探す。 復習：授業で取り扱った内容に基づき、再度音源や資料を探す。
第14回	総括（1）	予習：諸民族の音楽のCDや文献を探す。 復習：授業で取り扱った地域の音楽文化の内容をノートにまとめる。
第15回	総括（2）	復習：授業の内容をまとめ、テストに備える。

科目名(クラス)	民族音楽学B	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	鈴木　良枝	履修対象・条件	教職課程履修者はA・Bいずれか必修。 教職実践専攻はA・Bともに必修。				

【授業の概要】

世界には様々な音楽があり、その価値観や特徴は実に多様です。講義では、世界各地の音楽の諸特徴を理解すると共に、その音楽が生み出された人々の生活や社会、宗教などを通して音楽の多様性について理解を深めることを目的とします。民族音楽学Bでは、諸民族の音楽を考える上で重要なキーワードを各回ごとに設定し、世界各地の音楽の特色について学ぶことを目的とします。

【授業の到達目標】

諸民族の音楽に関する知識や資料の調べ方を紹介し、自ら興味のある音楽を調べ、音楽教員として知っておくべき知識や能力を身につけることを目的とします。

【授業の「方法」と「形式」】

・講義が中心となりますが、小テストも行います。
・バリの音楽であるケチャのリズムを体験してもらいます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・授業時に行う小テストや、授業の感想等を記入する用紙で、出席を確認します。
・30分以上の遅刻は出席と認めません。不正出席は減点対象とします。
・授業ごとにプリントを配布しますが、音楽の特色などをメモするノートを用意することが望ましい。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・授業への参加度（小テストや感想などの取り組み）50%
・筆記試験50%

教科書	『はじめての世界音楽 ―諸民族の伝統音楽からポップスまで』	著者等	柘植元一・ 塚田健一編	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献	『事典世界音楽の本』	著者等	徳丸吉彦他編	出版社	岩波書店
参考文献	『音楽理論の基礎』	著者等	笠原潔　徳丸吉彦	出版社	放送大学教育振興会

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	オリエンテーション～民族音楽学について～	予習：シラバスを読み、授業のテーマを押さえる。 復習：民族音楽学の研究方法について概説書を読み理解を深める。
第2回	民族音楽学概論（1） 楽器研究①	予習：興味のある諸民族の楽器について調べる。 復習：民族音楽学の研究方法について概説書を読み理解を深める。
第3回	民族音楽学概論（2） 楽器研究② 音律①	予習：興味のある諸民族の楽器について調べる。 復習：民族音楽学の楽器研究について概説書を読み理解を深める。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	民族音楽学概論（3） 音律②	予習：興味のある諸民族の音楽について調べる。 復習：民族音楽学の音階について概説書を読み理解を深める。
第5回	諸民族の音階	予習：日本、インドネシア、インドの音階について調べる。 復習：授業で紹介した音階が用いられている音楽を探す。
第6回	諸民族のリズム①	予習：インドネシア、インドのリズムについて調べる。 復習：授業で紹介したリズムが用いられている音楽を探す。
第7回	諸民族のリズム②	予習：中南米のリズムについて調べる。 復習：授業で紹介したリズムが用いられている音楽を探す。
第8回	諸民族の楽譜	予習：五線譜以外の楽譜を探す。 復習：楽譜と音楽の特徴を考え、授業で紹介した音楽を聴き直す。
第9回	諸民族の音楽とポピュラー音楽①	予習：興味のある諸民族の音楽を視聴する。 復習：諸民族の音楽で用いられているポピュラー音楽を探す。
第10回	諸民族の音楽とポピュラー音楽②	予習：興味のある諸民族の音楽を視聴する。 復習：諸民族の音楽で用いられているポピュラー音楽を探す。
第11回	諸民族の音楽の著作権について	予習：リズムや旋律が似ている音楽を複数探す。 復習：諸民族の音楽で用いられているポピュラー音楽を探す。
第12回	国策と音楽	予習：唱歌の歴史について調べる。 復習：世界各国の国歌を聴く。
第13回	移民と音楽	予習：アメリカの音楽と移民の関係について考える。 復習：授業で紹介した音楽を聴く。
第14回	・音楽教材の紹介 ・バリのガムラン音楽の実技（ケチャ）	予習：諸民族の音楽のCDや文献を探す。 復習：授業で取り扱った地域の音楽文化の内容をノートにまとめる。
第15回	総括	復習：授業で取り扱った地域の音楽文化の内容をノートにまとめる。

科目名(クラス)	音楽の基礎理論A－a	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	田村　治美	履修対象・条件	全専攻必修。但し、Konzertfach（演奏専攻）は履修不可。				

【授業の概要】

西洋音楽の基礎を学び、理解を深めることは、演奏、作曲など実践的に音楽に関わる者にとって極めて重要なことです。ここでは、基本的な読譜からはじめて、楽曲の基本原理を学びます。前期はいわゆる楽典の内容ですが、後期になると楽曲の様々な原理に向き合うことになります。

【授業の到達目標】

西洋音楽の基礎的語法を理解します。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式、演習形式

【履修時の「留意点」と「心得」】

演習問題をたくさんおこなうので、積極的に参加してください。
私語は注意します。

【成績評価の「方法」と「基準」】

出席状況、授業態度、確認テスト、課題提出で総合評価します。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	楽典	著者等	池之内友次郎他	出版社	音楽之友社
参考文献	和声法	著者等	ピストン他	出版社	音楽之友社

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	概論　授業の進め方、整理の仕方、評価法、目的、心得などを把握する。西洋音楽理論の成立の歴史背景など	
第2回	譜表、音部記号、音名　音部記号を理解し、読譜ができる	全授業の理解をしておくこと
第3回	小節、楽節　小節や楽節の意味を把握する	同上

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	音符と休符　音符の種類や休符を理解する	同上
第5回	拍子とリズム　様々な拍子を即座に実践する。	同上
第6回	色々なリズム　変拍子などの多様なリズムがすぐに読めるようにする	同上
第7回	長音階　長音階の理論を把握する	同上
第8回	短音階　短音階の理論を把握する	同上
第9回	旋法　様々な旋法を理解する	同上
第10回	音程1　旋律の音程を即座に理解する	同上
第11回	音程2　ハーモニーの音程をすぐに把握できるようにする	同上
第12回	和音1　3和音の基礎を理解する	同上
第13回	和音2　7の和音を理解する	同上
第14回	まとめと復習　前期の内容の確認	同上
第15回	確認テストと説明　前期の内容の確認	

科目名(クラス)	音楽の基礎理論A－b	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	加茂下　裕	履修対象・条件	全専攻必修。但し、Konzertfach（演奏専攻）は履修不可。				

【授業の概要】

音楽を学んで行くために必要な知識を習得するための授業です。
このA-bクラスでは楽典の基礎（音名・音程・音階・調など）を理解するための演習が主な授業内容となります。

【授業の到達目標】

音名・音程・音階・調などの考え方を理解し、音名・幹音間の音程・調号を確実に覚える。

【授業の「方法」と「形式」】

講義・演習

【履修時の「留意点」と「心得」】

問題練習を中心としたプリントを配って授業を行います。
プリントの内、提出と指定されたものの提出状況で課題点を算出します。

【成績評価の「方法」と「基準」】

課題点50%・学期末試験50%

教科書	各授業時に配布するプリント	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	楽典　理論と実習	著者等	石桁真礼生　他	出版社	音楽之友社
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	譜表と音名①-ドイツ音名を中心に-	復習：ドイツ音名を確実に覚える
第2回	譜表と音名②-楽譜中の音名の判定-	プリント提出
第3回	音符と休符	復習：各種の音符と休符を覚える

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	リズムと拍子	復習；拍子記号を覚える
第5回	音程①-幹音間の音程-	プリント提出 復習：幹音間の音程を確実に覚える
第6回	音程②-派生音を含む音程-	プリント提出
第7回	音程③-複音程と音程の転回-	プリント提出
第8回	音程④-楽譜中の音程の判定-	プリント提出
第9回	音階と調①-長音階と短音階-	プリント提出
第10回	音階と調②-調号-	プリント提出
第11回	音階と調③-調の相互関係-	プリント提出
第12回	音階と調④-音階の判定と作成-	プリント提出 復習：調号を確実に覚える
第13回	総合練習（音名・音程・音階・調に関する問題練習）	復習：間違った問題の見直し
第14回	総合練習（音名・音程・音階・調に関する問題練習）	復習：間違った問題の見直し
第15回	まとめ	予習：総合練習の問題を確認して置く

科目名(クラス)	音楽の基礎理論B－a	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	田村　治美	履修対象・条件	全専攻必修。但し、Konzertfach（演奏専攻）は履修不可。				

【授業の概要】

前期に続き、音楽の基礎を学びます。
さらに発展させて、簡単な楽曲分析を行ないます。

【授業の到達目標】

基礎理論を定着させると共に、簡単な作品の分析、旋法の判別などスコアリーディングなど応用課題を習得します。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式、演習形式

【履修時の「留意点」と「心得」】

私語は注意します
積極的に参加してください。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業態度、出席状況で50%、期末試験で50%とします。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	前期の復習	
第2回	カデンツと終止形　3種のカデンツと様々な終止形を把握する	全授業の理解をしておくこと
第3回	調判定1　調性と変化記号の関係を把握する	同上

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	調判定２　楽曲の断片の調性を判断する	同上
第5回	移調１　速いスピードで移調ができるようにする	同上
第6回	移調２　耳から移調ができるようにする	同上
第7回	旋律リズム　旋律の様々なリズムを把握する	同上
第8回	和声リズム　和声の変化によるリズムを把握し、旋律リズムとのずれを解析できるようにする	同上
第9回	音楽用語１　覚える	同上
第10回	音楽用語２　覚える	同上
第11回	ソナチネの分析　和声、楽曲構造の理解をする	同上
第12回	ソナチネの分析　和声、楽曲構造の理解をする	同上
第13回	歌曲の分析　言葉と音楽の関わり方を理解する	同上
第14回	まとめ　後期の内容を整理する	同上
第15回	期末テストと説明　後期の内容を応用確認する	

科目名(クラス)	音楽の基礎理論B－b	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	加茂下　裕	履修対象・条件	全専攻必修。但し、Konzertfach（演奏専攻）は履修不可。				

【授業の概要】

音楽を学んで行くために必要な知識を習得するための授業です。
このA-bクラスでは楽典の基礎（楽語・移調・調判定・和音など）を理解するための演習が主な授業内容となります。

【授業の到達目標】

移調・調判定・和音などの考え方を理解し、基本的な楽語を確実に覚える。

【授業の「方法」と「形式」】

講義・演習

【履修時の「留意点」と「心得」】

問題練習を中心としたプリントを配って授業を行います。
プリントの内、提出と指定されたものの提出状況で課題点を算出します。

【成績評価の「方法」と「基準」】

課題点50%・学期末試験50%

教科書	各授業時に配布するプリント	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	楽典　理論と実習	著者等	石桁真礼生　他	出版社	音楽之友社
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	音楽の基礎A-bの復習	復習：覚えておくべきことを確認して置く
第2回	楽語①-速度・強弱に関するもの-	プリント提出 復習：プリント内の楽語を確実に覚える
第3回	楽語②-曲想・奏法に関するもの-	プリント提出 復習：プリント内の楽語を確実に覚える

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	移調①-♯系の旋律の移調-	プリント提出
第5回	移調②-♭系の旋律の移調-	プリント提出
第6回	調判定①-旋律の調判定の考え方-	プリント提出
第7回	調判定②-旋律の調判定の問題練習-	プリント提出
第8回	和音①-和音の構成-	プリント提出 復習：各種の和音の構成のされ方を確実に覚える
第9回	和音②-楽譜中の和音の判定-	プリント提出
第10回	調と和音の分析①-ソナチネの分析-	プリント提出
第11回	調と和音の分析②-ソナチネの分析-	プリント提出
第12回	総合練習-コンコーネの分析- （楽語・移調・調判定・和音に関する問題練習）	復習：間違った問題の見直し
第13回	総合練習-コンコーネの分析- （楽語・移調・調判定・和音に関する問題練習）	復習：間違った問題の見直し
第14回	総合練習-コンコーネの分析- （楽語・移調・調判定・和音に関する問題練習）	復習：間違った問題の見直し
第15回	まとめ	予習：総合練習の問題を確認して置く

科目名(クラス)	音楽の基礎理論【Konzertfach（演奏専攻）】A	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	横山　裕美子	履修対象・条件	Konzertfach（演奏専攻）のみ履修可。必修				

【授業の概要】

音楽の基礎理論の勉強は、楽譜の中に込められた作曲家の意図や思いを深く理解するのに必要不可欠です。
演奏家として必要な音楽の基礎理論を実際の楽曲を使って学び、楽曲を分析していく力を養います。

【授業の到達目標】

・学習した基礎理論の内容を説明することができる。
・さまざまな楽曲を、基礎理論の視点から、作曲者の意図や思いを理解することができる。

【授業の「方法」と「形式」】

講義と演習、ディスカッション、CD、DVDなど

【履修時の「留意点」と「心得」】

授業で学習した課題は見直し、常に自分の専攻の楽曲分析に応用していきましょう。
皆さんに実際に音を出していただくことも考えています。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業内課題実習（20%）
学期末定期試験（筆記試験）（80%）

教科書	プリント	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	音階の種類（旋法も含む）①	予習：シラバスを読み、授業内容を確認し調べておく。 復習：授業で学習した課題・楽譜・CD演奏をもう一度復習し、知識を定着させる。
第2回	音階の種類（旋法も含む）②	予習：プリントを読み、課題を解いておく。実例をピアノで弾いておく。 復習：授業で学習した課題・楽譜・CD演奏をもう一度復習し、知識を定着させる。
第3回	音階の種類（旋法も含む）③	同上

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	音程①	同上
第5回	音程②	同上
第6回	和音の種類（コードネームも含む）①	同上
第7回	和音の種類（コードネームも含む）②	同上
第8回	和音の種類（コードネームも含む）③	同上
第9回	非和声和音と偶成和音①	同上
第10回	非和声和音と偶成和音②	同上
第11回	音楽表現のための用語と記号①	同上
第12回	音楽表現のための用語と記号②	同上
第13回	音楽表現のための用語と記号③	同上
第14回	音楽表現のための用語と記号④	同上
第15回	前期で学習した内容を振り返る。	同上

科目名(クラス)	音楽の基礎理論【Konzertfach（演奏専攻）】B	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	横山　裕美子	履修対象・条件	Konzertfach（演奏専攻）のみ履修可。必修				

【授業の概要】

音楽の基礎理論の勉強は、楽譜の中に込められた作曲家の意図や思いを深く理解するのに必要不可欠です。
演奏家として必要な音楽の基礎理論を実際の楽曲を使って学び、楽曲を分析していく力を養います。
Bでは器楽曲はベートーヴェンの楽曲を、歌はシューマン・シューベルトの歌曲集を使って分析力を磨いていきます。
演奏家として必要な音楽の基礎理論を実際の楽曲を使って学び、楽曲を分析していく力を養います。

【授業の到達目標】

・学習した基礎理論を使って、ピアノ曲や室内楽曲などの分析ができる。
・その手法を様々な作曲家の作品にも応用し、演奏に生かすことができる。

【授業の「方法」と「形式」】

講義と演習、ディスカッション、CD、DVDなど

【履修時の「留意点」と「心得」】

授業で学習した課題は見直し、常に自分の専攻の楽曲分析に応用していきましょう。
皆さんに実際に音を出していただくことも考えています。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業内課題実習（20%）
レポート提出（80%）

教科書	プリント	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	音楽の最小限のまとまり 音楽の始まり方	予習：シラバスを読み、授業内容を確認し調べておく。 復習：授業で学習した課題・楽譜・CD演奏をもう一度復習し、知識を定着させる。
第2回	フレーズのまとまり方 抑揚①	予習：プリントを読み、課題を解いておく。実例をピアノで弾いておく。 復習：授業で学習した課題・楽譜・CD演奏をもう一度復習し、知識を定着させる。
第3回	抑揚② 音楽の終止	同上

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	ピアノ独奏曲の分析① （ベートーヴェン）	予習：指定された楽曲を聴き、自分なりに分析を試みる。 復習：授業内容を確認しながら楽曲を聴き、演奏してみる。
第5回	ピアノ独奏曲の分析② （ベートーヴェン）	同上
第6回	ピアノ独奏曲の分析③ （ベートーヴェン）	同上
第7回	室内楽の名曲の分析（二重奏）① （ベートーヴェン）	同上
第8回	室内楽の名曲の分析（二重奏）② （ベートーヴェン）	同上
第9回	室内楽の名曲の分析（二重奏）③ （ベートーヴェン）	同上
第10回	室内楽の名曲の分析（三重奏以上）① （ベートーヴェン）	同上
第11回	室内楽の名曲の分析（三重奏以上）② （ベートーヴェン）	同上
第12回	室内楽の名曲の分析（三重奏以上）③ （ベートーヴェン）	同上
第13回	歌曲集の分析① （シューマン・シューベルト）	同上
第14回	歌曲集の分析② （シューマン・シューベルト）	同上
第15回	本科目の総括	同上

科目名(クラス)	音楽音響メディア論A	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	全
担当教員	佐倉　繁	履修対象・条件	全専攻（但し、教職実践専攻は履修不可）				

【授業の概要】

【授業の到達目標】

【授業の「方法」と「形式」】

【履修時の「留意点」と「心得」】

【成績評価の「方法」と「基準」】

教科書	指定教科書なし、必要に応じてプリント配布	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	講義毎に提示	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
イントロダクション　現代の音楽活動のキーワード ～ 2つの視点 ： 受信者と発信者 ～	普段の音楽の聴き方、注意の向け方、音楽との接し方について振り返り「自分のリスニング姿勢」の特性を具体化する。
音の原理・音の増幅	日常生活の中で「自分の接している様々な音」がどのように発生しているのか？について自分の言葉で説明する準備を行う。
音と響き1　～振動周期～	音とはどのように発生しているのか？響きとは何なのか？自分の言葉で説明する準備を行う。

【授業計画・内容・準備学習】	
授　　業　　内　　容	準備学習（予習・復習）
音と響き2　～「音楽理論」とは？～	音楽理論と自分の音楽活動の位置づけについて、自分の言葉で説明する準備を行う。
時間軸と倍音　～音色、リズム～	「時間軸表現とは何か？」にういて、自分の言葉で説明する準備を行う。
生活習慣と音　1 好きな音嫌いな音・音の判断基準・音の原体験について考える	音に対する「好き、嫌い」をリスナーの視点から自分の言葉で説明する準備を行う。自分の音に対する嗜好や判断基準がどの時点から今の状況に至るのか？を振り返り、自分の言葉で説明する準備を行う。
生活習慣と音　2 良い音とは？	良い音とは？の質問に対して、自分の言葉で説明する準備を行う。
楽器について1　acousticとは？　～物理振動と構造～	専攻楽器について発音の構造をこれまで自分が理解しているの情報の中で説明する準備を行う。
楽器について2　音の電気的増幅　～自然音響楽器の発音から増幅～	日常の音楽活動に置いて「増幅」「電気的増幅」を活用している場面について思い起こしてみる。
楽器について3　電気的発音からサンプリングへ ～電子楽器の発音～	普段リスナーとして耳にしている電子楽器の音色に注目してみる。実際にどのようなスタイルの音楽でどういった音色が用いられているのか？を身近な例から考えてみる。
音、音楽の記録について　1　紙媒体・音声記録・映像記録	電子楽器と自分との接点の有無、興味の有る無し、について自分の言葉で説明する準備を行う。
音、音楽の記録について　2　アナログデータ・デジタルデータ	音の記録をどのように行っているか？自分の言葉で説明する準備を行う。コレから先の音、音楽の記録は堂有るべきなのか？これまでの情報の中で、自分の言葉で説明する準備を行う。
現代コンテンツのキーワード　～アーカイヴとネットワーク～	音楽、そして音楽以外の領域との連携によって成立している現代のコンテンツとその頒布・流通について現代のキーワードに当てはめながら音楽環境を観察してみる。
まとめ・学期末試験に向けて	授業ノートの内容確認
学期末　試験	

科目名(クラス)	音楽音響メディア論B	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	全
担当教員	佐倉　繁	履修対象・条件	全専攻（但し、教職実践専攻は履修不可）				

【授業の概要】

【授業の到達目標】

【授業の「方法」と「形式」】

【履修時の「留意点」と「心得」】

【成績評価の「方法」と「基準」】

教科書	指定教科書なし、必要に応じてプリント配布	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	講義毎に提示	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
ネットワークと著作物	音、音楽に関する「著作物の権利」について日々の自分の理解と意見を自分の言葉で説明する準備を行う。
媒体の変遷1　～メディアとコンテンツ～	自分の言葉でメディア、コンテンツ、それぞれをこれまでの情報の中から説明する準備を行う。
媒体の変遷2 ～メディアの位置づけ～	日常生活での記録メディア活用について自分の言葉で説明する準備を行う。

【授業計画・内容・準備学習】	
授　　業　　内　　容	準備学習（予習・復習）
音の変換処理　～信号化・符号化～	デジタルとは？に対して、これまでの情報に基づいて自分の言葉で説明する準備を行う。
デジタル処理の利点と問題点	デジタルであることは利点か？普段の生活の中での自分の体験を説明する準備を行う。
テクノロジー機器の活用	得手不得手を越えて、テクノロジーは日常生活を豊かにする上での手助けとなるのか？について自分の言葉で説明する準備を行う。
表現力とは？　～音楽の即興性と記録～	表現、表現力に触れた過去経験について振り返り、自分の言葉で説明する準備を行う。
表現力と理解力	表現力と音楽の関連性について自分の言葉で説明する準備を行う
コミュニケーションの必要性	音楽活動におけるコミュニケーションの必要性について、自分の言葉で説明する準備を行う。
これからの音楽活動 ・ 音楽環境	自分の目指す音楽活動とは何なのか？具体的な展望とその活動を実現するために必要な要因を自分の言葉で説明する準備を行う。
メディアと音楽表現	音楽表現のためにどの様にメディアを活用する事が可能であるか？これまでの情報を基に、自分の言葉で説明する準備を行う。
テクノロジーの音楽的な応用とは？	得手不得手を越えて、テクノロジーは音楽活動の手助けとなるのか？について自分の言葉で説明する準備を行う。
変わるもの、かわらないもの	これまでの情報の中で「変わって来たもの、変わらずに在り続けるもの」を自分の考えて分類する。
まとめ・学期末試験に向けて	授業ノートの内容確認
学期末 試験	

科目名(クラス)	音楽史A	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	遠山　菜穂美	履修対象・条件	音楽療法専攻と教職課程履修者はBとのいずれか必修。 教職実践専攻はABともに必修。				

【授業の概要】

私たちがふだん親しんでいる西洋音楽の歴史をたどり、各時代の音楽の特徴、および音楽家たちの活動や作風について、社会、文化、芸術全般などと関連づけながら理解を深めます。歴史を知ることは、演奏上の作品解釈を深めることにつながります。また、絶えることなく続いてきた西洋音楽の歴史は、私たち自身の音楽の未来を考える上でも多くのヒントを与えてくれることでしょう。

【授業の到達目標】

・西洋音楽史の大きな流れをつかみ、各時代の音楽の特徴、音楽家たちの活動や作風を説明することができる。
・歴史で学んだことが、演奏などの実践に生かせることを知る。

【授業の「方法」と「形式」】

講義。CD,DVD,ピアノなどをフルに活用しながら解説します。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・配布プリント用を整理するファイル（A4版）を用意すること。
・音楽史Bと合わせて受講することが望ましい。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業への積極性50%、筆記試験50%

教科書	増補改訂版「はじめての音楽史」	著者等	久保田慶一　他	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	なぜ音楽史を学ぶのか	予習：教科書に目を通しておく。 復習：関心をもったことについて詳しく調べる。
第2回	西洋音楽の源流：古代ギリシャ・ローマ	予習：教科書第１章を読んでおく。 復習：関心を持ったことについて詳しく調べる。
第3回	中世の音楽：グレゴリオ聖歌から多声音楽へ	予習：教科書第２章を読んでおく。 復習：関心を持ったことについて詳しく調べる。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	ルネサンスの音楽	予習：教科書第3章・第4章を読んでおく。 復習：同時代の美術などを図書館で調べる。
第5回	バロックの音楽（声楽・オペラ）①	予習：教科書第5章を読んでおく。 復習：授業で取り上げたオペラを全篇観る。
第6回	バロックの音楽（声楽・オペラ）②	同上
第7回	バロックの音楽（器楽）	予習：教科書第6章を読んでおく。 復習：関心を持ったことについて詳しく調べる。
第8回	バロックの音楽（J.S.バッハ）①	予習：バッハについて事典で調べる。 復習：関心を持ったことについて詳しく調べる。
第9回	バロックの音楽（J.S.バッハ）②	同上
第10回	前古典派から古典派へ（J.S.バッハの息子達）	予習：教科書第7章を読んでおく。 復習：関心を持ったことについて詳しく調べる。
第11回	古典派の音楽（ハイドン、モーツァルト）	予習：教科書第8章を読んでおく。 復習：関心を持ったことについて調べる。
第12回	古典派の音楽（ハイドン、モーツァルト）①	予習：教科書第8章を読んでおく。 復習：関心を持ったことについて詳しく調べる。
第13回	古典派の音楽（ハイドン、モーツァルト）②	同上
第14回	古典派の音楽（ベートーヴェン初期）	予習：ベートーヴェンについて事典で調べる。　復習：関心を持ったことについて詳しく調べる。
第15回	まとめ	予習：授業で理解したことを整理する。 復習：音楽史で学んだことを演奏に生かしていく。

科目名(クラス)	音楽史B	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	遠山　菜穂美	履修対象・条件	音楽療法専攻と教職課程履修者はAとのいずれか必修。 教職実践専攻はABともに必修。				

【授業の概要】

私たちがふだん親しんでいる西洋音楽の歴史をたどり、各時代の音楽の特徴、および音楽家たちの活動や作風について、社会、文化、芸術全般などと関連づけながら理解を深めます。歴史を知ることは、演奏上の作品解釈を深めることにつながります。また、絶えることなく続いてきた西洋音楽の歴史は、私たち自身の音楽の未来を考える上でも多くのヒントを与えてくれることでしょう。

【授業の到達目標】

・西洋音楽史の大きな流れをつかみ、各時代の音楽の特徴、音楽家たちの活動や作風を説明することができる。
・歴史で学んだことが、演奏などの実践に生かせることを知る。

【授業の「方法」と「形式」】

講義。CD,DVD,ピアノなどをフルに活用しながら解説します。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・配布プリント用を整理するファイル(A4版)を用意すること。
・音楽史Aと合わせて受講することが望ましい。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業への積極性50%、筆記試験50%

教科書	増補改訂版　はじめての音楽史	著者等	久保田慶一　他	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	古典派からロマン派へ(ベートーヴェン)①	予習:ベートーヴェンについて事典で調べる。 復習:関心を持ったことについて詳しく調べる。
第2回	古典派からロマン派へ(ベートーヴェン)②	同上
第3回	ロマン派の音楽(ピアノ曲、室内楽、歌曲)①	予習:教科書第9章・第10章を読んでおく。 復習:関心を持ったことについて詳しく調べる。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	ロマン派の音楽（ピアノ曲、室内楽、歌曲）②	同上
第5回	ロマン派の音楽（管弦楽）①	同上
第6回	ロマン派の音楽（管弦楽）②	同上
第7回	ロマン派の音楽（オペラ）	同上
第8回	国民主義の音楽	予習：国民主義について事典で調べる。 復習：関心を持ったことについて詳しく調べる。
第9回	フランス近代の音楽①	予習：フランス近代の音楽について調べる。 復習：関心を持ったことについて詳しく調べる。
第10回	フランス近代の音楽②	同上
第11回	20世紀の音楽①	予習：教科書第11章を読んでおく。 復習：関心を持ったことについて詳しく調べる。
第12回	20世紀の音楽②	同上
第13回	20世紀の音楽③	予習：教科書第12章を読んでおく。 復習：関心を持ったことについて詳しく調べる。
第14回	20世紀の音楽④	同上
第15回	まとめ	予習：授業で理解したことを整理する。 復習：音楽史から学んだことを演奏に生かしていく。

科目名(クラス)	音楽療法概論a	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	平田　紀子	履修対象・条件	音楽療法専攻は必修				

【授業の概要】

音楽療法とは、音楽が心身に及ぼす働きを効果的に用い、人々の健康に役立てるもので、医療・福祉・地域で活用されている。
この授業では、音楽療法の定義・目的・歴史や音楽の作用について、基礎知識を身につける。
また、主な対象領域（児童・成人・精神・高齢者他）への実践、さらには音楽療法士の専門性への理解を深める。

【授業の到達目標】

音楽療法の基礎知識を身につけ、概要を解説することができる。
また音楽の作用について理解し、実技の活用に繋げる。
音楽療法の実践現場について知り、各領域の疾患・障害・療法・支援の知識が得られる。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式。毎回の授業で教材のプリントを配布する。

【履修時の「留意点」と「心得」】

欠席や遅刻、退席をしないことを原則とする。
課題提出等の期限を厳守する。
口述した付加解説や板書に関しては、ノートを必ず取るように。

【成績評価の「方法」と「基準」】

期末筆記試験を行う。
評価率は、筆記試験70%、授業への積極的参加など取り組みの姿勢を30%とする。

教科書	音楽療法の基礎	著者等	村井靖児	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献	毎回の授業でプリント配布	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	音楽療法とは何か	予習：シラバスを読んで各回のテーマをおさえておく。 復習：音楽療法の定義、目的、対象について配布プリントや各自のノートを再読する。
第2回	受動的音楽療法と能動的音楽療法	「聴く」音楽療法と「する」音楽療法について、プリントや各自のノートを読み、まとめる。
第3回	音楽療法の歴史と近代音楽療法の歩み	古代や歴史的エピソードにおける音楽と癒し、国内外の近代的音楽療法の発展について、教科書(第2章)を読む。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	音楽の作用　1. 生理的働き	音楽が及ぼす生理的な働きについて、教科書(第3章)を読む。
第5回	音楽の作用　2. 心理的働き	音楽が及ぼす心理的な働きについて教科書(第3章)を読む。またプリントを再読し、まとめる。
第6回	音楽の作用　3. 社会的働き	音楽が及ぼす社会的な働きについて、教科書(第3章)を読む。またプリントを再読し、まとめる。
第7回	音楽の作用　4. 身体活動への働き、その他	音楽が身体活動を誘発する働きや、その他の作用について、教科書(第3章)を読む。またプリントを再読し、まとめる。
第8回	音楽療法の原理	音楽療法の手法に用いられる原理について、教科書(第4章)を読む。
第9回	音楽療法の実際・・・実践においての、目的、手順、流れなどについて	実践においての目的、手順、流れなどについて、配布プリントや各自のノートを元にまとめる。
第10回	音楽療法の実際　各論1. 精神科領域	精神科領域の疾患・障害・療法・支援など、配布プリントや各自のノートを読み、まとめる。また教科書(第5章)を読む。
第11回	音楽療法の実際　各論2. 高齢者領域	高齢者領域の疾患・障害・療法・支援など、配布プリントや各自のノートを読み、まとめる。また教科書(第5章)を読む。
第12回	音楽療法の実際　各論3. 児童領域	児童領域の疾患・障害・療法・支援など、配布プリントや各自のノートを読み、まとめる。また教科書(第5章)を読む。
第13回	音楽療法の実際　各論4. その他の領域	その他の領域の実践に関し、配布プリントや各自のノートを読み、まとめる。また教科書(第5章・6章)を読む。
第14回	職業としての音楽療法	音楽療法士の仕事、資格制度など職業的側面の情報を調べる。教科書(第7章)を読む。
第15回	まとめ	予習：各回のテーマを振り返る。 復習：配布プリントや各自のノート、教科書を再読する。

科目名(クラス)	音楽療法概論 b	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	田村　治美	履修対象・条件	音楽療法専攻は必修				

【授業の概要】

音楽療法の基礎となる音・音楽の構造、認知システム、音楽療法の実践と役割、諸領域の音楽療法などについて学びます。また、音楽の効果が生かされた周辺領域に関しても紹介します。さらに、医療現場だけでなく、地域で支えあう様々な活動の中で、音楽が果たす役割について、考察します。

【授業の到達目標】

音楽の基礎知識を学びます。また、音楽療法の諸領域、実践、役割について知識を得ます。また、現代社会の諸問題における音楽の役割と意義を考察していきます。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式、発表形式

【履修時の「留意点」と「心得」】

音楽療法の基礎知識とともに、現代社会の抱える問題に対する音楽の役割について、問題意識をもち、意見を述べてください。

【成績評価の「方法」と「基準」】

課題レポート、出席状況、授業態度で総合評価します。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	音楽療法の基礎	著者等	村井靖児	出版社	音楽之友社
参考文献	標準　音楽療法入門(上)(下)	著者等	篠田知璋	出版社	春秋社

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション　自己紹介、授業への期待、問題提起など	
第2回	音楽療法の定義と実施　世界の音楽療法の定義と意味、日本音楽療法学会の定義と意味、専門用語、対象、治療目的、治療過程、評価などを学びます。	
第3回	音楽療法の歴史　古代、中世、18世紀、アメリカ、近代的音楽療法の出現、日本における音楽療法の展開を学びます。	全授業の理解をしておく

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	聞こえと認知のシステム　耳の構造と脳による情報処理を学びます。	同上
第5回	音と音楽のしくみ　音色、音高、リズム、旋律、調性、ハーモニー、音楽の構造と形式について学びます。	同上
第6回	音楽の療法的意味と実践　身体的・心理的・社会的意義、発声、歌、楽器、身体運動、認知と統制、情緒と記憶など、身体と音楽の関係を学びます。	同上
第7回	高齢者領域とQOLとしての音楽療法　加齢、高齢化社会の問題、認知症について学びます。	同上
第8回	児童の音楽療法　胎児と音楽、発達障害、学校教育について学びます。	同上
第9回	成人と精神科領域　精神疾患の分類と音楽療法に関して学びます。	同上
第10回	ホスピスと緩和ケア　海外の緩和ケア、死生観と音楽、家族・友人への援助、配慮などについて学びます。	同上
第11回	健康管理及び医療現場における音楽療法　日常における音楽の役割と様々な医療現場における音楽療法の実践例を学びます。	同上
第12回	文化に根差した音楽療法・日本における音楽療法　日本の音、古典にみられる音・音楽療法を学びます。	同上
第13回	音楽療法士の役割　職業としての心構え、資格について、伴奏の方法を学びます。	同上
第14回	音楽効果に関する応用　サウンドスケープ、様々なサイン音、バリアフリーと音楽を学びます。	同上
第15回	まとめ　今学期の内容の振り返りと発展課題について討論します。	

科目名(クラス)	音楽療法的音楽論	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1～4
担当教員	平田　紀子	履修対象・条件	音楽療法専攻は必修				

【授業の概要】

音楽療法の実践現場で用いられる様々な音楽ジャンルや、そのルーツとなる芸能について、幅広く理解する。
明治・大正・昭和・平成の日本の大衆音楽（唱歌・流行歌・ポップス、民謡・邦楽など）について知識を習得する。
紹介する楽曲は、すべて当時の音源を実際に聴きながら進めていく。

【授業の到達目標】

日本の流行歌史の流れを理解し、時代背景や、作者・演者について知識が得られる。
当時の音源を聴くことから伴奏の技法に繋げられる。
またこれらを音楽療法の実習に活かすことができる。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式。実際の音源をCDなどで聴きながら解説をする。また毎回の授業で教材のプリントを配布する。

【履修時の「留意点」と「心得」】

欠席や遅刻、退席をしないことを原則とする。課題提出等の期限を厳守する。
口述した付加解説や板書に関しては、ノートを必ず取るように。
欠席すると内容の理解・継続に影響するので、出席者に内容を聞く、配布プリントをコピーするなどで次回に備えること。

【成績評価の「方法」と「基準」】

期末筆記試験を行う。
評価率は、筆記試験70%、授業への積極的参加など取り組みの姿勢を30%とする。

教科書	決定版　平田紀子のちょっと嬉しい伴奏が弾きたい	著者等	平田紀子	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献	毎回の授業でプリント配布	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	音楽療法に用いられる音楽について	予習：シラバスを読んで各回のテーマをおさえる。 復習：音楽療法に用いられる様々なジャンルの音楽に関して、各自のノートを再読する。
第2回	受容的音楽療法	履修生各自が好きな音楽を紹介・鑑賞し分かち合う。一人一曲ずつ曲を持参、コメントを用意する。
第3回	日本の唱歌	明治・大正・昭和の日本の唱歌について、配布プリントを読み、興味を持った曲について調べる。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	流行歌の歴史とその背景　1・・・明治・大正・昭和初期	この時代の流行歌について、プリントや各自のノートを読み、興味を持った曲について調べる。
第5回	流行歌の歴史とその背景　2・・・昭和10～20年代	この時代の流行歌について、プリントや各自のノートを読み、興味を持った曲について調べる。
第6回	流行歌の歴史とその背景　3・・・昭和20年代	この時代の流行歌について、プリントや各自のノートを読み、興味を持った曲について調べる。
第7回	流行歌の歴史とその背景　4・・・昭和20～30年代	この時代の流行歌について、プリントや各自のノートを読み、興味を持った曲について調べる。
第8回	流行歌の歴史とその背景　5・・・昭和30年代	この時代の流行歌について、プリントや各自のノートを読み、興味を持った曲について調べる。
第9回	流行歌の歴史とその背景　6・・・昭和30～40年代	この時代の流行歌について、プリントや各自のノートを読み、興味を持った曲について調べる。
第10回	流行歌の歴史とその背景　7・・・昭和40年代	この時代の流行歌について、プリントや各自のノートを読み、興味を持った曲について調べる。
第11回	流行歌の歴史とその背景　8・・・昭和50年代	この時代の流行歌について、プリントや各自のノートを読み、興味を持った曲について調べる。
第12回	流行歌の歴史とその背景　9・・・昭和50年代以降	この時代の流行歌について、プリントや各自のノートを読み、興味を持った曲について調べる。
第13回	古典大衆芸能と邦楽	古典大衆芸能における楽曲や楽器について、プリントや各自のノートを読む。
第14回	日本の民謡	よく知られる日本各地の民謡について、プリントを読み、興味を持った曲について調べる。
第15回	まとめ	年代ごとの楽曲について、作・演者や時代背景などをまとめる。配布プリントや各自のノート、教科書を再読する。

科目名(クラス)	日本の伝統音楽概説A	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1～4
担当教員	黒川　真理恵	履修対象・条件	教職実践専攻は必修。(3年修了までに履修)				

【授業の概要】

・日本の伝統音楽を用いた実践的な授業を行います。
・新学習指導要領にもとづき、表現(歌唱、器楽)と鑑賞のそれぞれについて、適宜、口唱歌(くちしょうが)を用いながら行います。
・和楽器(箏(こと))の基本的な奏法を学びます。
・地域の伝統芸能である川越まつりについて、調べ学習やフィールド調査を行います。(川越まつり本番:平成29年10月14日(土)15日(日))

【授業の到達目標】

・日本の伝統音楽を用いた実践的な指導法を身に付ける。
・箏の基本的な奏法を身に付ける。
・地域の伝統芸能について理解を深める。アクティブ・ラーニングによって、みずから学び取る姿勢を身に付ける。

【授業の「方法」と「形式」】

演習

【履修時の「留意点」と「心得」】

・十分な予習・復習が求められます。
・教科書は使用しません。適宜、プリントを配布します。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・授業内での積極的な取り組み(楽器の実習、フィールド調査、グループ活動)50%
・試験(箏(こと)演奏)50%

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	『小学校でチャレンジする！伝統音楽の授業プラン』	著者等	川口明子・猶原和子	出版社	明治図書出版
参考文献	『授業のための日本の音楽・世界の音楽』	著者等	島崎篤子・加藤富美子	出版社	音楽之友社

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	ガイダンス ・参考文献 ・小中高教科書 ・新学習指導要領	予習:高校までの音楽科教科書を振り返る。 復習:新学習指導要領を読む。
第2回	【表現(歌唱・器楽)・鑑賞】 雅楽〈越天楽〉① ・唱歌(しょうが)でアンサンブル	予習:雅楽について調べてくる。 復習:〈越天楽〉の唱歌をできるようにする。
第3回	【表現(歌唱・器楽)・鑑賞】 雅楽〈越天楽〉② ・楽器でアンサンブル(リコーダー、鍵盤ハーモニカ、大太鼓などの代替楽器を含む)	予習:〈越天楽〉の唱歌をできるようにする。 復習:代替楽器で演奏できるようにする。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	【表現（歌唱・器楽）・鑑賞】 雅楽〈越天楽〉③ ・楽器でアンサンブル（リコーダー、鍵盤ハーモニカ、大太鼓などの代替楽器を含む）	予習：〈越天楽〉の唱歌をできるようにする。 復習：代替楽器で演奏できるようにする。
第5回	【表現（歌唱・器楽）・鑑賞】 雅楽〈越天楽〉④ ・〈越天楽今様〉を歌う	予習：唱歌と楽器で〈越天楽〉を演奏できるようにする。 復習：〈越天楽今様〉を歌い、演奏できるようにする。
第6回	【郷土の伝統音楽】 川越まつり① ・映像で紹介 ・歴史・概要	予習：川越まつりについて調べてくる。 復習：川越まつりの概要を理解する。
第7回	【郷土の伝統芸能】 川越まつり② ・壁新聞作り ・グループ分け・担当決め	予習：壁新聞のテーマを考えてくる。 復習：壁新聞の記事内容を考える。
第8回	【郷土の伝統芸能】 川越まつり③ ・事前学習 ・川越まつり会館見学	予習：質問事項を考えてくる。 復習：調査メモをまとめる。
第9回	【表現（器楽）】 箏（こと）① ・箏の構造・基本的な扱い方・調弦法	予習：〈さくらさくら〉の歌詞を調べてくる。 復習：箏の基本的な扱い方を理解する。
第10回	【表現（器楽）】 箏② ・〈さくらさくら〉の実習	予習：箏の基本的な扱い方を理解する。 復習：〈さくらさくら〉を演奏できるようにする。
第11回	【表現（器楽）】 箏③ ・〈初夏の小川〉の実習 ・右手（合わせ爪）・左手（押し手）	予習：〈さくらさくら〉を演奏できるようにする。 復習：習ったところまで演奏できるようにする。右手と左手のそれぞれの奏法をできるようにする。
第12回	【表現（器楽）】 箏④ ・〈初夏の小川〉の実習 ・右手（すくい爪）	予習：〈初夏の小川〉を練習する。 復習：習ったところまで弾けるようにする。
第13回	【表現（器楽）】 箏⑤ ・〈初夏の小川〉の実習 ・左手（弱押し・強押し）	予習：〈初夏の小川〉を練習する。 復習：習ったところまで弾けるようにする。
第14回	【表現（器楽）】 箏⑥ ・〈初夏の小川〉の実習 ・左手（後押し）	予習：〈初夏の小川〉を練習する。 復習：習ったところまで弾けるようにする。
第15回	【表現（器楽）】 箏⑦ ・〈さくらさくら〉〈初夏の小川〉まとめ	予習：〈さくらさくら〉〈初夏の小川〉を練習する。 復習：箏の基本的な扱い方、調弦法、演奏法を身に付けている。

科目名(クラス)	日本の伝統音楽概説B	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1～4
担当教員	黒川　真理恵	履修対象・条件	教職実践専攻は必修。(3年修了までに履修)				

【授業の概要】

・日本の伝統音楽を用いた実践的な授業を行います。
・新学習指導要領にもとづき、表現(歌唱、器楽)、鑑賞のそれぞれについて、適宜、口唱歌(くちしょうが)を用いながら行います。
・和楽器(箏(こと))の基本的な奏法を学びます。
・地域の伝統芸能である川越まつりについて、調べ学習やフィールド調査を行います。(川越まつり本番:平成29年10月14日(土)15日(日))

【授業の到達目標】

・日本の伝統音楽を用いた実践的な指導法を身に付ける。
・箏の基本的な奏法を身に付ける。
・地域の伝統芸能について理解を深める。アクティブ・ラーニングによって、みずから学び取る姿勢を身に付ける。

【授業の「方法」と「形式」】

演習

【履修時の「留意点」と「心得」】

・十分な予習・復習が求められます。
・教科書は使用しません。適宜、プリントを配布します。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・授業内での積極的な取り組み(楽器の実習、フィールド調査、グループ活動)50%
・試験(箏(こと)演奏)50%

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	『小学校でチャレンジする！伝統音楽の授業プラン』	著者等	川口明子・猶原和子	出版社	明治図書出版
参考文献	『授業のための日本の音楽・世界の音楽』	著者等	島崎篤子・加藤富美子	出版社	音楽之友社

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	【表現(歌唱・創作)】 わらべうた・あそびうた ・替歌作り	予習:自身が歌ってきた、わらべうたを振り返る。 復習:替歌を作って歌えるようにする。
第2回	【表現(器楽)】 囃子(はやし)① ・能管(のうかん)の唱歌(しょうが)	予習:能の映像を見てくる。 復習:能管の唱歌をできるようにする。
第3回	【表現(器楽)】 囃子① ・大鼓(おおつづみ)・小鼓(こつづみ)の唱歌(しょうが)	予習:能管の唱歌をできるようにする。 復習:大鼓・小鼓の唱歌をできるようにする。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	【郷土の伝統音楽】 川越まつり① ・直前指導	予習：前期で調べた内容を振り返る。 復習：現地調査の準備をする。
第5回	【郷土の伝統音楽】 川越まつり② ・現地調査	予習：現地調査の準備をする。 復習：調査メモをまとめる。
第6回	【郷土の伝統音楽】 川越まつり③ ・調査報告 ・壁新聞作り	予習：調査メモをまとめる。 復習：壁新聞にまとめる。
第7回	【表現（器楽）・鑑賞】 歌舞伎「勧進帳」① ・長唄　寄せの合方（あいかた）　三味線の唱歌（しょうが）	予習：歌舞伎について調べてくる。 復習：三味線の唱歌をできるようにする。
第8回	【表現（器楽）・鑑賞】 歌舞伎「勧進帳」② ・長唄寄せの合方　三味線の唱歌	予習：長唄について調べてくる。 復習：三味線の唱歌をできるようにする。
第9回	【表現（器楽）・鑑賞】 歌舞伎「勧進帳」③ ・鑑賞	予習：「勧進帳」について調べてくる。 復習：鑑賞のポイントをまとめる。
第10回	【表現（器楽）】 箏（こと）① ・箏指導法 ・調弦法	予習：前期で習った〈さくらさくら〉〈初夏の小川〉を練習する。 復習：クラス授業での箏の調弦をできるようにする。
第11回	【表現（器楽）】 箏② ・〈六段の調べ〉初段 ・左手（引き色）	予習：〈さくらさくら〉〈初夏の小川〉を練習する。 復習：〈六段の調べ〉初段を習ったところまで弾けるようにする。右手と左手のそれぞれの奏法をできるようにする。
第12回	【表現（器楽）】 箏③ ・〈六段の調べ〉初段 ・右手（割り爪）	予習：〈六段の調べ〉初段を練習する。 復習：習ったところまで弾けるようにする。
第13回	【表現（器楽）】 箏④ ・〈六段の調べ〉初段 ・左手（弱押し・強押し）	予習：〈六段の調べ〉初段を練習する。 復習：習ったところまで弾けるようにする。
第14回	【表現（器楽）】 箏⑤ ・〈六段の調べ〉初段 ・左手（突き色）	予習：〈六段の調べ〉初段を練習する。 復習：習ったところまで弾けるようにする。
第15回	【表現（器楽）】 箏⑥ ・〈六段の調べ〉初段まとめ	予習：〈六段の調べ〉初段を練習する。 復習：箏の基本的な扱い方、調弦法、演奏法を身に付けている。

科目名(クラス)	音楽心理学A	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1～4
担当教員	徳富　政樹	履修対象・条件	音楽療法専攻はBとのいずれか必修				

【授業の概要】

音楽の歴史や演奏技術、思想などを学ぶ機会はたくさんあると思いますが、科学的に音楽を検証するという機会はあまりないことと思います。この授業では心理学の観点から音楽について考察をしていき、皆さんの知っている音楽を違う側面から見てもらおうと思います。できるだけ最新の研究を取り上げて、わかりやすく解説していきます。

【授業の到達目標】

音楽を研究素材とした心理学の研究手法の事例を理解して、自分なりに音楽に対して科学的にアプローチできるようになること。

【授業の「方法」と「形式」】

基本的に講義形式です。

【履修時の「留意点」と「心得」】

この授業では板書をたくさんするのできちんとノートをとる必要があります。ただ書き写すだけではなく自分なりの説明を加えてわかりやすいノートを作成するようにしてください。当たり前のことですが、遅刻、無断早退、私語は厳禁です。

【成績評価の「方法」と「基準」】

テスト(70%)+授業への取り組み方(授業終了後の小レポート、授業時の積極性)(30%)で成績評価を行います。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	音は心のなかで音楽になる－音楽心理学への招待	著者等	谷口高士	出版社	北大路書房
参考文献	音の世界の心理学	著者等	重野純	出版社	ナカニシヤ出版

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	「なぜ音楽大学へ進学したのか」	予習:自分が音大に進学した理由を予め考えておく 復習:進学理由と進学後の学校への満足度の関係をまとめてみる
第2回	音楽心理学の方法	予習:理科などでどんな観察・実験を行ってきたのか予めリストアップしてみる 復習:観察法、質問紙法、実験法の特徴をまとめてみる
第3回	記憶研究の基礎	予習:「記憶」とはどのようなものか自分なりのイメージをまとめておく 復習:記憶の種類についてその特徴をまとめてみる

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	音楽の記憶について	予習:自分が一番最初に覚えた曲と、その曲に関するエピソードをまとめておく 復習:記憶をテストする方法についてまとめてみる
第5回	和音の記憶	予習:和音についてまとめておく 復習:自らの経験と記憶研究の成果の類似点と相違点をまとめてみる
第6回	共感覚	予習:「共感覚」という言葉について調べておく 復習:共感覚の特徴をまとめてみる
第7回	音感	予習:「絶対音感」という言葉について調べておく 復習:絶対音感と相対音感の違いについてまとめてみる
第8回	絶対音感の研究例	予習:絶対音感を研究する意義について考えておく 復習:心理学では絶対音感をどのようにとらえているかまとめてみる
第9回	やる気について その1	予習:「やる気」とは何か自分なりの考えをまとめておく 復習:統制感についてまとめてみる
第10回	やる気について その2	予習:努力と能力に対するイメージをまとめておく 復習:原因帰属の考え方をまとめてみる
第11回	やる気について その3	予習:他者に助けを求めやすい、求めにくいシチュエーションをまとめてみる 復習:援助要請行動についてまとめてみる
第12回	やる気について その4	予習:なぜ音楽を勉強するのか自分なりの考え方をまとめておく 復習:学習に対する目標の特徴をまとめてみる
第13回	演奏者の動きについて	予習:演奏者の動きと聴取者が受ける印象について自分なりの考え方をまとめておく 復習:実際に自分が演奏している姿を動画撮影して、その動きを分析してみる
第14回	まとめ その1	予習:これまでの授業内容について振り返っておく 復習:重要だと考えるポイントを自分なりの言葉でまとめなおしてみる
第15回	まとめ その2	予習:これまでの授業内容の全般について振り返っておく 復習:理解が足りなかったところをピックアップして、もう一度調べなおしてみる

科目名(クラス)	音楽心理学B	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1～4
担当教員	徳富　政樹	履修対象・条件	音楽療法専攻はAとのいずれか必修				

【授業の概要】

音楽の歴史や演奏技術、思想などを学ぶ機会はたくさんあると思いますが、科学的に音楽を検証するという機会はあまりないことと思います。この授業では心理学の観点から音楽について考察をしていき、皆さんの知っている音楽を違う側面から見てもらおうと思います。できるだけ最新の研究を取り上げて、わかりやすく解説していきます。後期の授業では自分の性格と音楽との関連について考察してもらうのがメインとなります。

【授業の到達目標】

音楽を演奏すること、作曲すること、聞くことなどと自分自身の性格との関連について考察してレポートにまとめること。

【授業の「方法」と「形式」】

基本的に講義形式です。

【履修時の「留意点」と「心得」】

この授業では板書をたくさんするのできちんとノートをとる必要があります。ただ書き写すだけではなく自分なりの説明を加えてわかりやすいノートを作成するようにしてください。当たり前のことですが、遅刻、無断早退、私語は厳禁です。

【成績評価の「方法」と「基準」】

レポート(70%)+授業への取り組み方(授業終了後の小レポート、授業時の積極性)(30%)で成績評価を行います。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	音は心のなかで音楽になる－音楽心理学への招待	著者等	谷口高士	出版社	北大路書房
参考文献	音の世界の心理学	著者等	重野純	出版社	ナカニシヤ出版

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	心理テスト実習 その1	予習:自分の性格特徴を列挙しておく 復習:内向・外向のそれぞれの概念についてまとめてみる
第2回	心理テスト実習 その2	予習:他者から聞いた自分の性格についてまとめておく 復習:心理テストの結果と自分で考える自分の性格のイメージとの相違点について考察する
第3回	音楽の聴取 その1	予習:音楽を聞くことで心理的、身体的な効果があるか自分なりに考えてみる 復習:音楽を用いてどのような実験が行われているのかまとめてみる

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	音楽の聴取 その2	予習:様々な楽器の音色から得られるイメージを予めまとめておく 復習:相関の概念についてまとめてみる
第5回	音楽の聴取 その3	予習:気分の違いによって聞きたい音楽が違うか考察しておく 復習:最適複雑性モデルについてまとめてみる
第6回	心理テスト実習 その3	予習:自分自身の無意識にあるものをイメージしてまとめておく 復習:質問紙法と投影法の違いについてまとめてみる
第7回	心理テスト実習 その4	予習:前回の心理テストで作成したものを完成させる 復習:心理テストから見た自分の正確について自分なりの考えかたをまとめてみる
第8回	錯聴について	予習:耳の錯覚が生じた経験をまとめておく 復習:錯聴現象が起こるメカニズムについてまとめてみる
第9回	ビッグファイブ理論について その1	予習:ビッグファイブ理論という言葉について予め調べておく 復習:愛着性と分離性の次元についてまとめてみる
第10回	ビッグファイブ理論について その2	予習:前期に学習した達成動機について振り返っておく 復習:「まじめな人」の特徴をまとめてみる
第11回	ビッグファイブ理論について その3	予習:頭がいいとはどういうことがまとめておく 復習:ビッグファイブ理論について最終的なまとめをする
第12回	背景音楽について	予習:店舗などのBGMの特徴について予めまとめておく 復習:BGMの効果をまとめてみる
第13回	レポート作成のための準備作業	予習:授業内で実施した心理テストの結果を振り返っておく 復習:レポート作成に向けて授業内で提示した課題を完成させる
第14回	自己実現について	予習:なぜ自分は音楽を求めているのか予めまとめておく 復習:自己実現をするにはなにが必要なのかまとめてみる
第15回	まとめ	予習:後期の授業内容をもう一度振り返っておく 復習:授業ノートの完成をさせる

科目名(クラス)	作品研究〔鍵盤〕A	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	全
担当教員	遠山　菜穂美	履修対象・条件	Konzertfach（演奏専攻）は履修不可				

【授業の概要】

フランスのピアノ音楽をテーマに、作曲家と作品について学ぶ授業です。楽曲分析を通して音楽の特徴をつかむとともに、同時代の文化や芸術全般にも視野を広げながら深く理解することを目的とします。

【授業の到達目標】

フランスのピアノ音楽について、同時代の文化や芸術全般と関連づけながら理解する。

【授業の「方法」と「形式」】

講義

【履修時の「留意点」と「心得」】

・楽曲分析に備えて、基礎的な音楽理論を理解しておくこと。
・配布プリントを整理するファイル（A4版）を用意すること。
・作品研究〔鍵盤〕Bと合わせて履修することが望ましい。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業への積極性（楽曲分析への取り組み等）50%、筆記試験50%

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	フランス・ピアノ音楽の楽しみ	予習：フランスのピアノ音楽にどんなものがあるか調べる。 復習：関心を持ったことについて詳しく調べる。
第2回	フォーレのピアノ音楽① フォーレとサロン	予習：フォーレについて事典で調べる。 復習：授業で取り上げた曲を聴く、演奏する。
第3回	フォーレのピアノ音楽② 《即興曲》《バラード》	同上

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	フォーレのピアノ音楽③ 《夜想曲》《舟歌》	同上
第5回	フォーレのピアノ音楽④ 《主題と変奏》《ドリー》	同上
第6回	フォーレのピアノ音楽⑤ 室内楽	同上
第7回	ラヴェルのピアノ音楽① 《古風なメヌエット》《水の戯れ》	予習：ラヴェルについて事典で調べる。 復習：授業で取り上げた曲を聴く、演奏する。
第8回	ラヴェルのピアノ音楽② 《夜のガスパール》《鏡》	同上
第9回	ラヴェルのピアノ音楽③ 《クープランの墓》	同上
第10回	ラヴェルのピアノ音楽④ 《ピアノ三重奏曲》《ピアノ協奏曲ト長調》	同上
第11回	ドビュッシーのピアノ音楽① 《ベルガマスク組曲》	予習：ドビュッシーについて事典で調べる。 復習：授業で取り上げた曲を聴く、演奏する。
第12回	ドビュッシーのピアノ音楽② 《版画》	同上
第13回	ドビュッシーのピアノ音楽③ 《映像第1・2集》《前奏曲集第1・2集》	同上
第14回	ドビュッシーのピアノ音楽④ 《練習曲集》	同上
第15回	まとめ	予習：授業で学んだ作曲家、作品を整理する。 復習：授業で学んだことを演奏などの実践に生かす。

科目名(クラス)	作品研究〔鍵盤〕B	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	全
担当教員	遠山　菜穂美	履修対象・条件	Konzertfach（演奏専攻）は履修不可				

【授業の概要】

フランスのピアノ音楽をテーマに、作曲家と作品について学ぶ授業です。楽曲分析を通して音楽の特徴をつかむとともに、同時代の文化や芸術全般にも視野を広げながら深く理解することを目的とします。

【授業の到達目標】

フランスのピアノ音楽について、同時代の文化や芸術全般と関連づけながら理解する。

【授業の「方法」と「形式」】

講義

【履修時の「留意点」と「心得」】

・楽曲分析に備えて、基礎的な音楽理論を理解しておくこと。
・配布プリントを整理するファイル（A4版）を用意すること。
・作品研究〔鍵盤〕Aと合わせて履修することが望ましい。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業への積極性（楽曲分析への取り組み等）50%、筆記試験50%

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	フランス・ピアノ音楽の楽しみ	予習：フランスのピアノ曲にどんなものがあるか調べる。 復習：関心を持ったことについて詳しく調べる。
第2回	フランクのピアノ音楽 《前奏曲、コラールとフーガ》	予習：フランクについて事典で調べる。 復習：授業で取り上げた曲を聴く、演奏する。
第3回	シャブリエのピアノ音楽 《絵画的な小品集》	予習：シャブリエについて事典で調べる。 復習：授業で取り上げた曲を聴く、演奏する。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	サティのピアノ音楽 《3つのジムノペディ》《官僚的なソナチネ》	予習：サティについて事典で調べる。 復習：授業で取り上げた曲を聴く、演奏する。
第5回	六人組のピアノ音楽① ミヨー《ブラジルの郷愁》	予習：ミヨーについて事典で調べる。 復習：授業で取り上げた曲を聴く、演奏する。
第6回	六人組のピアノ音楽② ミヨー《スカラムーシュ》	同上
第7回	六人組のピアノ音楽③ プーランク《3つの常道曲》	予習：プーランクについて事典で調べる。 復習：授業で取り上げた曲を聴く、演奏する。
第8回	六人組のピアノ音楽④ プーランク《夜想曲》《即興曲》	同上
第9回	六人組のピアノ音楽⑤ プーランク《2台のピアノのための協奏曲》《ピアノ協奏曲》	同上
第10回	六人組のピアノ音楽⑥ プーランク《田園のコンセール》	同上
第11回	六人組のピアノ音楽⑦ その他のピアノ音楽	予習：六人組のその他の作曲家について事典で調べる。 復習：授業で取り上げた曲を聴く、演奏する。
第12回	六人組以降のピアノ音楽① メシアン《4つのリズムの練習曲》	予習：メシアンについて事典で調べる。 復習：授業で取り上げた曲を聴く、演奏する。
第13回	六人組以降のピアノ音楽② デュティユー《ピアノ・ソナタ》	予習：デュティユーについて事典で調べる。 復習：授業で取り上げた曲を聴く、演奏する。
第14回	六人組以降のピアノ音楽③ ブーレーズ《ピアノ・ソナタ第2番》	予習：ブーレーズについて事典で調べる。 復習：授業で取り上げた曲を聴く、演奏する。
第15回	まとめ	予習：授業で学んだ作曲家、作品を整理する。 復習：授業で学んだことを演奏などの実践に生かす。

科目名(クラス)	作品研究〔管弦楽〕A	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	全
担当教員	遠山　菜穂美	履修対象・条件	Konzertfach（演奏専攻）は履修不可				

【授業の概要】

フランスのオーケストラ曲をテーマに、作曲家と作品について学ぶ授業です。楽曲分析を通して音楽の特徴をつかむとともに、同時代の文化や芸術全般にも視野を広げながら理解を深めることを目的とします。

【授業の到達目標】

フランスのオーケストラ曲について、楽曲分析の力を身につけるとともに、同時代の文化や芸術全般と関連づけて理解を深める。

【授業の「方法」と「形式」】

講義

【履修時の「留意点」と「心得」】

・楽曲分析に備えて、基礎的な音楽理論を理解しておくこと。
・配布プリントを整理するファイル（A4版）を用意すること。
・作品研究〔管弦楽〕Bと合わせて履修することが望ましい。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業への積極性（楽曲分析への取り組み等）50%、筆記試験50%

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	フランス・オーケストラ音楽の楽しみ	予習：フランスのオーケストラ曲にどんなものがあるか調べる。 復習：関心を持ったことについて詳しく調べる。
第2回	サン=サーンスのオーケストラ曲① 《動物の謝肉祭》　交響詩《死の舞踏》	予習：サン・サーンスについて事典で調べる。 復習：関心を持ったことについて詳しく調べる。
第3回	サン=サーンスのオーケストラ曲② 《交響曲第3番「オルガン付き」》《ピアノ協奏曲第5番　エジプト風》	同上

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	フォーレのオーケスト曲① 《ペレアスとメリザンド》（ケックラン編曲）	予習：フォーレについて事典で調べる。 復習：関心を持ったことについて詳しく調べる。
第5回	フォーレのオーケストラ曲② 《マスクとベルガマスク》	同上
第6回	ラヴェルのオーケストラ曲① 《亡き王女のためのパヴァーヌ》	予習：ラヴェルについて事典で調べる。 復習：関心を持ったことについて詳しく調べる。
第7回	ラヴェルのオーケストラ曲② 《スペイン狂詩曲》	同上
第8回	ラヴェルのオーケストラ曲③ 《ラ・ヴァルス》	同上
第9回	ラヴェルのオーケストラ曲④ 《クープランの墓》	同上
第10回	ラヴェルのオーケストラ曲⑤ 《ピアノ協奏曲ト長調》	同上
第11回	フランクのオーケストラ曲 《交響曲ニ短調》	予習：フランクについて事典で調べる。 復習：関心を持ったことについて詳しく調べる。
第12回	ショーソンのオーケストラ曲 《交響曲変ロ長調》	予習：ショーソンについて事典で調べる。 復習：関心を持ったことについて詳しく調べる。
第13回	ダンディのオーケストラ曲 《フランスの山人の主題による協奏曲》	予習：ダンディについて事典で調べる。 復習：関心を持ったことについて詳しく調べる。
第14回	シャブリエのオーケストラ曲 《田園組曲》《狂詩曲「スペイン》	予習：シャブリエについて事典で調べる。 復習：関心を持ったことについて詳しく調べる。
第15回	まとめ	予習：授業で学んだ作曲家、作品を整理する。 復習：授業で学んだことを演奏などの実践に生かす。

科目名(クラス)	作品研究〔管弦楽〕B	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	全
担当教員	遠山　菜穂美	履修対象・条件	Konzertfach（演奏専攻）は履修不可				

【授業の概要】（360文字以内）

フランスの作品を中心とした20世紀前半のオーケストラ音楽について、作曲家と作品について学ぶ授業です。楽曲分析を通して音楽の特徴をつかむとともに、同時代の文化や芸術全般にも視野を広げながら理解を深めることを目的とします。

【授業の到達目標】（360文字以内）

フランスの作品を中心とした20世紀前半のオーケストラ曲について、楽曲分析の力を身につけるとともに、同時代の文化や芸術全般と関連づけて理解を深める。

【授業の「方法」と「形式」】（55文字以内）

講義

【履修時の「留意点」と「心得」】（160文字以内）

・楽曲分析に備えて、基礎的な音楽理論を理解しておくこと。
・配布プリントを整理するファイル（A4版）を用意すること。
・作品研究〔管弦楽〕A　と合わせて履修することが望ましい。

【成績評価の「方法」と「基準」】（380文字以内）

授業への積極性（楽曲分析への取り組み等）50%、筆記試験50%

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	フランスを中心とした20世紀オーケストラ音楽の楽しみ	予習：20世紀フランスのオーケストラ曲にどんなものがあるか調べる。 復習：関心を持ったことについて詳しく調べる。
第2回	ドビュッシーのオーケストラ曲① 《牧神の午後への前奏曲》	予習：ドビュッシーについて事典で調べる。 復習：関心を持ったことについて詳しく調べる。
第3回	ドビュッシーのオーケストラ曲② 《海》	同上

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	ドビュッシーのオーケストラ曲③ 《夜想曲》	同上
第5回	ストラヴィンスキーのオーケストラ曲① 《春の祭典》	予習：ストラビンスキーについて事典で調べる。 復習：関心を持ったことについて詳しく調べる。
第6回	ストラヴィンスキーのオーケストラ曲② 《春の祭典》その２	同上
第7回	ストラヴィンスキーのオーケストラ曲③ 《プルチネッラ》その１	同上
第8回	ストラヴィンスキーのオーケストラ曲④ 《プルチネッラ》その２	同上
第9回	六人組のオーケストラ曲① ミヨー《世界の創造》	予習：ミヨーについて事典で調べる。 復習：関心を持ったことについて詳しく調べる。
第10回	六人組のオーケストラ曲② オネゲル《夏の牧歌》	予習：オネゲルについて事典で調べる。 復習：関心を持ったことについて詳しく調べる。
第11回	六人組のオーケストラ曲③ プーランク《コカルド》	予習：プーランクについて事典で調べる。 復習：関心を持ったことについて詳しく調べる。
第12回	六人組のオーケストラ曲④ プーランク《牝鹿》	同上
第13回	六人組のオーケストラ曲⑤ その他の楽曲	予習：六人組のその他の作曲家について事典で調べる。 復習：関心を持ったことについて詳しく調べる。
第14回	六人組のオーケストラ曲⑤ その他の楽曲　その２	同上
第15回	まとめ	予習：授業で学んだ作曲家、作品を整理する。 復習：授業で学んだことを演奏などの実践に生かす。

科目名(クラス)	作品研究〔オペラ〕A	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	全
担当教員	伊藤　制子	履修対象・条件	声楽の【Konzertfach（演奏専攻）】は2年必修。				

【授業の概要】

オペラの誕生からベルカントオペラまでの歴史と音楽的特徴について学びます

【授業の到達目標】

それぞれのオペラの特徴や歌唱のスタイルについて学び、各自の演奏や研究に役立てることを目標にします。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式ですが、ディスカッション、小テストなども予定しています。

【履修時の「留意点」と「心得」】

講義中の携帯電話、端末の使用は厳禁ですので、注意しましょう。

【成績評価の「方法」と「基準」】

講義中の取り組み40パーセント、期末レポート60パーセントで評価します。

教科書	なし	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	講義中に紹介します	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	講義概要説明とアンケート調査	予習：シバラスの確認 復習：テーマについて調べる
第2回	オペラの誕生	予習：中世ルネサンス音楽史の概観 復習：カメラ-タの用語確認
第3回	モンテヴェルディとその周辺	予習;モンテヴェルディの生涯をしらべる 復習：「オルフェオ』の再確認

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	バロック時代の劇場と社会	予習：バロック音楽史の確認 復習：劇場文化をさらに調べる
第5回	モーツァルト1	予習：モーツアルトの生涯を調べる 復習：初期のオペラの確認
第6回	モーツァルト2	予習：3大オペラの筋の確認 復習：3大オペラの特徴の確認
第7回	モーツァルトと古典派オペラ	予習：古典派音楽史を調べる 復習：ベートーヴェン、ハイドンらの活動を再確認
第8回	ベルカントとその歌唱スタイル	予習：バロック歌唱の再確認 復習：ベルカントの歴史を再確認
第9回	ベッリーニとそのオペラ	予習：ベッリーニの生涯を調べる 復習：「愛の妙薬」の特徴を再度確認
第10回	ドニゼッティとそのオペラ	予習：ドニゼッティの生涯を調べる 復習：主要作品の確認
第11回	ベルカントオペラとマリア・カラス	予習：マリア・カラスの生涯を調べる 復習：マリア・カラスの出演作品の特徴を再確認
第12回	ロッシーニのオペラ1	予習：ロッシーニの生涯を調べる 復習：授業で取り上げた作品を再確認
第13回	ロッシーニのオペラ2	予習：新聞、イタリアのトルコ人の筋を調べる 復習：ロッシーニの歌唱様式を確認
第14回	音楽祭とオペラ	予習：音楽祭について調べる 復習：音楽祭の役割を再確認
第15回	小テストとまとめ	予習：テスト対策 復習：重要事項の確認

科目名(クラス)	作品研究〔オペラ〕B	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	全
担当教員	伊藤　制子	履修対象・条件	声楽の【Konzertfach（演奏専攻）】は2年必修。				

【授業の概要】

19世紀以後のオペラについて、その音楽的特徴について学びます。また現代のオペラ界の現況などについても学びます。

【授業の到達目標】

オペラの特徴を理解し、自身の歌唱や研究に役立てることを目標にしています。

【授業の「方法」と「形式」】

講義が中心ですが、ディスカッション、小テストも予定しています。

【履修時の「留意点」と「心得」】

講義中の携帯電話、端末の使用は厳禁ですので、注意してください。

【成績評価の「方法」と「基準」】

講義中の取り組み40パーセント、期末レポート60パーセントで評価します。

教科書	なし	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	講義中に紹介します	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	後期のガイダンス	予習：シバラスの確認 復習：テーマについて調べる
第2回	ヴェルディ1	予習:ヴェルディの生涯を調べる 復習：歌唱様式を確認しておく
第3回	ヴェルディ2	予習:主要オペラのあらすじを調べ 復習：中期のオペラの再確認

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	ヴァーグナーとその周辺	予習：ヴァーグナーの生涯を調べておく 復習：ヴァーグナーの影響を確認しておく
第5回	近代の仏オペラ	予習：近代仏音楽史再確認 復習：グノ-、ドビュッシーらのオペラを再確認
第6回	プッチーニ１	予習：プッチーニの生涯を調べる 復習：歌唱様式を再確認しておく
第7回	プッチーニ２	予習：「ボエーム」「トスカ」の再確認 復習：「蝶々夫人」の特徴を理解する
第8回	オペラとバレエ	予習：バレエの歴史を調べておく 復習：仏オペラでのバレエの役割を再確認
第9回	ロシアオペラ	予習：チャイコフスキーの生涯を調べる 復習：「金鶏」「スペードの女王」の特徴を確認
第10回	ブリテンとイギリスオペラ	予習：20世紀イギリス音楽史を調べる 復習：「ピーター・グライムズ」の特徴を確認
第11回	リヒャルト・シュトラウス	予習：シュトラウスの生涯を調べる 復習：「ばらの騎士」の様式の確認
第12回	ベルクとその周辺	予習：ベルクの生涯を調べておく 復習：「ルル」「ヴォツェック」の確認
第13回	現代のオペラと劇場	予習：20世紀音楽史の概観 復習：アダムズ、デュサパンのオペラの確認
第14回	後期のまとめ	予習：前期に聞いて音楽を再度確認する 復習：小テストに備える
第15回	総括と小テスト	予習：前期に聞いて音楽を再度確認する 復習：小テストの再確認

科目名(クラス)	作品研究〔歌曲〕A	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	全
担当教員	伊藤　制子	履修対象・条件	声楽の【Konzertfach（演奏専攻）】は3年必修				

【授業の概要】

日本歌曲とフランス歌曲について、その特徴を学びます。

【授業の到達目標】

主要なレパートリーについての知識を身につけ、それぞれの演奏に役立てることを目標にしています。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式ですが、ディスカッション、小テストも含まれます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

講義中に携帯電話、端末を使用することはできませんので、注意してください。

【成績評価の「方法」と「基準」】

講義中の取り組み40パーセント、期末レポート60パーセントで評価します。

教科書	なし	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	講義中に紹介します。	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	講義概要の説明と習熟度調査	予習：シバラスの確認 復習：テーマについて調べる
第2回	洋楽の黎明期と滝廉太郎	予習：滝廉太郎の生涯を調べる 復習：洋楽黎明期の歴史を確認しておく
第3回	山田耕筰とその周辺1	予習：山田耕筰の生涯を調べる 復習：山田の主要作を確認

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	山田耕筰とその周辺2	予習：山田の管弦楽作品について調べる 復習：山田作品の歌唱について再度確認する
第5回	山田耕筰とその周辺3	予習：童謡運動について調べる 復習：歌詞を再度読んで見る
第6回	小松耕輔、清水脩	予習：小松、清水の生涯を調べる 復習：小松、清水作品を再度聞く
第7回	中田喜直、別宮貞夫ほか	予習：中田、別宮の生涯を調べる 復習：詩人との関係を復習する
第8回	20世紀後半以後の日本歌曲	予習：戦後の創作史を調べる 復習：詩人との関係を復習する
第9回	フランス歌曲とその黎明期	予習：近代フランス音楽史を調べる 復習：フォーレの生涯を再度見直す
第10回	フォーレとのその周辺	予習：ヴェルレーヌ、ユゴーについて調べる 復習：フランス語の発音を復習しておく
第11回	ドビュッシー、ラヴェル	予習：シバラスの確認 復習：テーマについて調べる
第12回	アーン、ショーソン、デュパルクほか	予習：アーン、ショーソン、デュパルクについて調べる 復習：詩人と歌曲の関係を見直す
第13回	プーランク、メシアンほか	予習：プーランク、メシアンについて調べる 復習：詩人と歌曲との関係を見直す
第14回	現代フランスの歌曲	予習：シャンソンについて調べる 復習：フランス語の発音を見直す
第15回	まとめと小テスト	予習：重要な歌曲を見直す 復習：主要な詩人を復習しておく

科目名(クラス)	作品研究〔歌曲〕B	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	全
担当教員	伊藤　制子	履修対象・条件	声楽の【Konzertfach（演奏専攻）】は3年必修				

【授業の概要】

ドイツ歌曲とイタリア歌曲の歴史、主要作品の特徴について学びます。

【授業の到達目標】

主要なレパートリーについての知識を深め、それぞれの演奏、研究に役立てることを目標にしています。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式ですが、ディスカッション、小テストも含まれます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

講義中は携帯電話、端末は使用できませんので、注意してください。

【成績評価の「方法」と「基準」】

講義中の取り組み40パーセント、期末レポート60パーセントで評価します。

教科書	なし	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	講義中に紹介します	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	講義概要の説明と習熟度調査	予習：シバラスの確認 復習：テーマについて調べる
第2回	ドイツ歌曲の起源	予習：ドイツ語の発音の確認 復習：ドイツ詩の朗読をしてみる
第3回	シューベルト1	予習：シューベルトの生涯を調べる 復習：「冬の旅」の特徴を理解する

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	シューベルト2	予習：ミュラーについて調べる 復習：「美しき水車小屋の娘」を再度聞いておく
第5回	シューマン1	予習：シューマンの生涯について調べる 復習：「詩人の恋」の特徴を確認する
第6回	シューマン2	予習：ゲーテ、ハイネについて調べる 復習：「女の愛と生涯」を再度聞いておく
第7回	ヴォルフ、ブラームス、マーラー	予習：ヴォルフ、ブラームスについて調べる 復習：主要作品を再度聞いておく
第8回	シュトラウス、ベルク	予習：シュトラウス、ベルクについて調べる 復習：和声の特徴を理解しておく
第9回	イタリア歌曲の起源	予習：イタリア語の発音の確認 復習：イタリア詩の特徴を理解する
第10回	19世紀前半のイタリア歌曲	予習：19世紀イタリア音楽史を確認 復習：主要作品の特徴を確認しておく
第11回	ヴェルディ、プッチーニ	予習：ヴェルディ、プッチーニの生涯を調べる 復習：主要作の特徴を理解しておく
第12回	レオンカヴァッロ、マスカーニほか	予習：20世紀イタリア音楽史を理解しておく 復習：主要作を再度聞いておく
第13回	トスティ	予習：トスティの生涯を理解しておく 復習：主要作を再度聞いておく
第14回	レスピーギ、チマーラ、ベリオ	予習：レスピーギの生涯を調べる 復習：各作品について特徴を理解しておく
第15回	まとめと小テスト	予習：重要な歌曲を見直す 復習：主要な詩人を復習しておく

科目名	作品研究〔様式学〕【Konzertfach（演奏専攻）】Ⅰ・ⅡA・B　各1単位 Konzertfach（演奏専攻）のみ履修可。必修 【声楽のKonzertfach（演奏専攻）は選択】

【授業計画の概要】

優れた演奏家となる為には、「音楽的な響き」、それを支える「技術」、「音楽文法に基づく表現」と共に「様式学」の知識と感性も求められます。

目的） 各時代や場所に共通した演奏法、表現法の実際を検証し、各様式に属する作品の楽想、響き、表現の原点を知り、それを現代の自己の演奏にどう取り入れたら良いかを考える。
方法） 各様式別に歴史的な時代背景とその精神を探る。同時代のその地域の他の芸術との比較によりその感覚を理解し、当時の生活を垣間見る。それと同時に、同時代、同地域に共通する「記譜法の規則」、書かれていない「演奏上の約束」とその意図する事を知る事によって、知性と感覚の両面からアプローチする。更に現代の楽器との比較により現時点での演奏への裁量の生かし方 を考察する。

【授業の到達目標】

各時代の歴史的背景およびその精神を意識し、その曲の生まれた環境等を知性と感性の両面からアプローチする。

【成績評価の方法】

ウィーン研修時（9月）に実施（1・2年合同）

【授業計画の内容】

月	内　　容
4	
5	
6	
7	バロック、古典、ロマン派、印象派とその時代から近現代に至るまでの様式学の基礎。
8	
9	
10	
11	
12	
1	様式学の歴史的演奏法の文献にも参考にしながら、作品例を基に実際の演奏と様式学がどう結び付くか、又はその事がいかに大切であるかを考察する。
2	
3	

科目名(クラス)	合唱ＩA	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	荻久保和明	履修対象・条件	全専攻選択必修				

【授業の概要】

・合唱という音楽表現形態の中で音楽する喜びを追求する。正しいヴォイストレーニングによってハーモニーし得る声という楽器を作り、音取り、パート練習、アンサンブルという流れの中で合唱でなければ表現できない音楽的美しさを体験する。（今年度は、ドイツレクイエムのⅠ・Ⅱ・Ⅲを演奏する）

【授業の到達目標】

・ひびきの高いポジションでかがやかしいハーモニーを作り、パート間とエレクトーンの間でバランスを取り、さらに音色を変化させることにより、音楽のあるべき姿を追求する。

【授業の「方法」と「形式」】

・体操、ヴォイストレーニング、音取り、パート練習、アンサンブル、これにつきる。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・指揮者がひとたび“表現する”というゾーンに入った時には異常な緊張をもって指揮をみること。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・合唱完成への努力目標達成度（40%）
・声作りの努力目標達成度（30%）
・アンサンブル能力の向上達成度（30%）

教科書	ドイツレクイエム	著者等	ブラームス	出版社	全音
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	パート分け、体操の仕方、ヴォイストレーニングの方法、その他のオリエンテーション	
第2回	ヴォイストレーニングと音取り・アンサンブル	各自、できるだけ自分のパートを良く歌ってくること
第3回	〃	〃

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	〃	〃
第5回	〃	〃
第6回	〃	〃
第7回	〃	〃
第8回	〃	〃
第9回	〃	〃
第10回	〃	〃
第11回	ピアノ伴奏とのアンサンブル	〃
第12回	〃	〃
第13回	〃	〃
第14回	〃	〃
第15回	まとめ、全体を通して授業をふり返る	〃

科目名(クラス)	合唱ＩB	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	荻久保和明	履修対象・条件	全専攻選択必修				

【授業の概要】

・合唱Ⅰ・ⅡA(前期)の練習を踏まえて定期演奏会での研究成果発表に臨む。つまる所、合唱表現とは指揮者の内面にどれだけ大きく強い何かがあり、それを正しく歌う者に伝え、聞く者に届け、そこに感動という形で確かなものを実らせることができるかということにつきる。
（今年度は、ドイツレクイエムのⅠ・Ⅱ・Ⅲを演奏する）

【授業の到達目標】

・各自、自分のパートを歌いながら、エレクトーンやピアノの音に耳を聞き、音楽を立体的に捉えることを心がけたい。レクイエムとしての宗教的表現を意識しつつ、指揮者の求める表現するものの大きさを理解し、共に音楽する喜びをわかち合いたい。

【授業の「方法」と「形式」】

・アンサンブルの精度をひたすら高め、ピアノ、エレクトーンとの共同作業を進めて行く。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・演奏会本番に向けて緊張感を高めて行く過程を、音楽の高みを目指すプロセスを楽しんで欲しい。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・ピアノ、エレクトーンとの共同作業達成度(30%)
・表現のための声作り達成度(30%)
・演奏会へ向けて合唱完成への達成度(40%)

教科書	ドイツレクイエム	著者等	ブラームス	出版社	全音
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	ヴォイストレーニング、ドイツ語の発音、アンサンブルの精度を高め、ピアノ・エレクトーンとの共同作業を意識させる	自分のパートの音取りとイメージを作ること
第2回	〃	〃
第3回	〃	〃

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	〃	〃
第5回	〃	〃
第6回	〃	〃
第7回	〃	〃
第8回	〃	〃
第9回	〃	〃
第10回	定期演奏会での発表	〃
第11回	反省会	１人１人感想を発表する
第12回	次年度に向けての練習	自分のパートの音取りをしてくること
第13回	〃	〃
第14回	〃	〃
第15回	まとめ、今年度の授業をふり返る	

科目名(クラス)	合唱ⅡA（混声）	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	荻久保和明	履修対象・条件	全専攻選択必修				

【授業の概要】

・合唱という音楽表現形態の中で音楽する喜びを追求する。正しいヴォイストレーニングによってハーモニーし得る声という楽器を作り、音取り、パート練習、アンサンブルという流れの中で合唱でなければ表現できない音楽的美しさを体験する。（今年度は、ドイツレクイエムのⅠ・Ⅱ・Ⅲを演奏する）

【授業の到達目標】

・ひびきの高いポジションでかがやかしいハーモニーを作り、パート間とエレクトーンの間でバランスを取り、さらに音色を変化させることにより、音楽のあるべき姿を追求する。

【授業の「方法」と「形式」】

・体操、ヴォイストレーニング、音取り、パート練習、アンサンブル、これにつきる。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・指揮者がひとたび“表現する”というゾーンに入った時には異常な緊張をもって指揮をみること。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・合唱完成への努力目標達成度（40%）
・声作りの努力目標達成度（30%）
・アンサンブル能力の向上達成度（30%）

教科書	ドイツレクイエム	著者等	ブラームス	出版社	全音
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	パート分け、体操の仕方、ヴォイストレーニングの方法、その他のオリエンテーション	
第2回	ヴォイストレーニングと音取り・アンサンブル	各自、できるだけ自分のパートを良く歌ってくること
第3回	〃	〃

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	〃	〃
第5回	〃	〃
第6回	〃	〃
第7回	〃	〃
第8回	〃	〃
第9回	〃	〃
第10回	〃	〃
第11回	ピアノ伴奏とのアンサンブル	〃
第12回	〃	〃
第13回	〃	〃
第14回	〃	〃
第15回	まとめ、全体を通して授業をふり返る	〃

科目名(クラス)	合唱ⅡB （混声）	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	荻久保和明	履修対象・条件	全専攻選択必修				

【授業の概要】

・合唱Ⅰ・ⅡA(前期)の練習を踏まえて定期演奏会での研究成果発表に臨む。つまる所、合唱表現とは指揮者の内面にどれだけ大きく強い何かがあり、それを正しく歌う者に伝え、聞く者に届け、そこに感動という形で確かなものを実らせることができるかということにつきる。
（今年度は、ドイツレクイエムのⅠ・Ⅱ・Ⅲを演奏する）

【授業の到達目標】

・各自、自分のパートを歌いながら、エレクトーンやピアノの音に耳を聞き、音楽を立体的に捉えることを心がけたい。レクイエムとしての宗教的表現を意識しつつ、指揮者の求める表現するものの大きさを理解し、共に音楽する喜びをわかち合いたい。

【授業の「方法」と「形式」】

・アンサンブルの精度をひたすら高め、ピアノ、エレクトーンとの共同作業を進めて行く。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・演奏会本番に向けて緊張感を高めて行く過程を、音楽の高みを目指すプロセスを楽しんで欲しい。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・ピアノ、エレクトーンとの共同作業達成度（30%）
・表現のための声作り達成度（30%）
・演奏会へ向けて合唱完成への達成度（40%）

教科書	ドイツレクイエム	著者等	ブラームス	出版社	全音
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	ヴォイストレーニング、ドイツ語の発音、アンサンブルの精度を高め、ピアノ・エレクトーンとの共同作業を意識させる	自分のパートの音取りとイメージを作ること
第2回	〃	〃
第3回	〃	〃

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	〃	〃
第5回	〃	〃
第6回	〃	〃
第7回	〃	〃
第8回	〃	〃
第9回	〃	〃
第10回	定期演奏会での発表	〃
第11回	反省会	１人１人感想を発表する
第12回	次年度に向けての練習	自分のパートの音取りをしてくること
第13回	〃	〃
第14回	〃	〃
第15回	まとめ、今年度の授業をふり返る	

科目名(クラス)	合唱ⅢA(日本の伝統的歌唱を含む)	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	4
担当教員	粕谷宏美	履修対象・条件	教職課程履修者必修科目				

【授業の概要】

本科目は、3年生教職履修者の必修科目であり、教育現場での活動及び指導を想定して行います。
・アカペラ合唱曲を含めて、中学校・高等学校で歌われている合唱曲に取り組みます。
・小人数で歌うことを多く取り入れ、ソルミゼーションとハンドサインを駆使して質の高いアンサンブルを目指します。
・日本の伝統音楽の歌唱及び、民謡を基にした合唱作品に取り組みます。
授業の進行は予定であり、作品や完成度によって変更することがあります。

【授業の到達目標】

・発声の基礎基本を身に付け、豊かな表現力を身に付けている。
・よいアンサンブルを作るために、他者の声をよく聴き、協調性を大切にして練習に取り組むことができる。
・ソルミゼーションとハンドサインを身に付け、ハーモニーを大切にして歌うことができる。
・小人数で質の高い声楽アンサンブルができる。

【授業の「方法」と「形式」】

合唱練習(パート練習、アンサンブル練習、発表等)。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・質の高い合唱団を目指して、歌唱力・表現力を高めてください。
・私語や携帯電話などは厳禁です。
・チームワークこそ演奏力です。主体的に参加してください。遅刻は認めません。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・発声の基礎基本を身に付け、豊かな表現力を身に付けている。
・ソルミゼーションとハンドサインを身に付け、ハーモニーを大切にして歌うことができる。
・小人数で質の高い声楽アンサンブルができる。
・授業への取り組みの姿勢(積極性・協調性など)

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	必要に応じて配付します。	著者等		出版社	
参考文献	購入については第1回の授業で指示します。	著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	授業ガイダンス (定期演奏会までの練習計画・パート分け・役割分担)	予習:自分の声域を把握し、所属するパートを考えておく。 復習:合唱Ⅲのねらいを十分に理解しておく。
第2回	アンサンブルの基礎基本について	・予習:♯・♭4つまでの移動度読みに慣れておく。 ・復習:移動度で歌うことに慣れておく。
第3回	ソルミゼーションとハンドサイン	・予習:夏の思い出(ニ長調)を移動度で歌えるようにしておく。 ・復習:ハンドサインができるように練習しておく。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	発表に向けてよく練習しておく。	準備学習（予習・復習）
第4回	邦人合唱作品①「アカペラ」	予習：音取りをしておく。 復習：不安定な部分を確認しておく。
第5回	邦人合唱作品①「アカペラ」	予習：歌詞をつけてしっかりと謳えるようにしておく。 復習：音程、ハーモニーの不安定な部分を確認しておく。
第6回	小アンサンブル練習	予習：お互いによく聴い、豊かな表現力で歌えるようにしておく。 復習：アンサンブルの質を高めておく。
第7回	小アンサンブル（発表①）	予習：アンサンブルの質を高めておく。 復習：個人及びグループ演奏の成果と課題を把握する。
第8回	邦人合唱作品③	予習：課題作品の音取りをしておく。 復習：自分のパートがしっかりと歌えるようにしておく。
第9回	邦人合唱作品④	予習：課題作品の音取りをしておく。 復習：自分のパートがしっかりと歌えるようにしておく。
第10回	邦人合唱作品⑤	予習：暗譜するよう努力する。 復習：すべてのパートを歌えるようにしておく。
第11回	邦人合唱作品⑥	予習：暗譜するよう努力する。 復習：ハーモニーに配慮して歌えるようにしておく。
第12回	邦人合唱作品⑦	予習：余裕をもって歌えるよう努力する。 復習：ハーモニーに配慮して歌えるようにしておく。
第13回	日本の伝統音楽研究発表及び演習	予習：日本の伝統音楽の歌唱について調べておく。。 復習：作品にふさわしい声、表現ができるようにする。
第14回	アンサンブルグループ練習	予習：余裕をもって歌えるようにしておく。 復習：アンサンブルの質を高めておく。
第15回	小アンサンブル（発表②）	予習：余裕をもって歌えるようにしておく。 復習：アンサンブルの質を高めておく。

科目名(クラス)	合唱ⅢB(日本の伝統的歌唱を含む)	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	4
担当教員	粕谷宏美	履修対象・条件	教職課程履修者必修科目				

【授業の概要】

本科目は、3年生教職履修者の必修科目であり、教育現場での活動及び指導を想定して行います。
・アカペラ合唱曲を含めて、中学校・高等学校で歌われている合唱曲に取り組みます。
・小人数で歌うことを多く取り入れ、ソルミゼーションとハンドサインを駆使して質の高いアンサンブルを目指します。
・日本の伝統音楽の歌唱及び、民謡を基にした合唱作品に取り組みます。
授業の進行は予定であり、作品や完成度によって変更することがあります。

【授業の到達目標】

・発声の基礎基本を身に付け、豊かな表現力を身に付けている。
・よいアンサンブルを作るために、他者の声をよく聴き、協調性を大切にして練習に取り組むことができる。
・ソルミゼーションとハンドサインを身に付けて、ハーモニーを大切にして歌うことができる。
・小人数で質の高い声楽アンサンブルができる。

【授業の「方法」と「形式」】

合唱練習(パート練習、アンサンブル練習、発表等)。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・質の高い合唱団を目指して、歌唱力・表現力を高めてください。
・私語や携帯電話などは厳禁です。
・チームワークこそ演奏力です。主体的に参加してください。遅刻は認めません。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・発声の基礎基本を身に付け、豊かな表現力を身に付けている。
・ソルミゼーションとハンドサインを身に付け、ハーモニーを大切にして歌うことができる。
・小人数で質の高い声楽アンサンブルができる。
・授業への取り組みの姿勢(積極性・協調性など)

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	必要に応じて配付します。	著者等		出版社	
参考文献	購入については第1回の授業で指示します。	著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	定期演奏会に向けての邦人作品練習①	・予習:譜読みに慣れておく。 ・復習:移動度で歌うことに慣れておく。
第2回	定期演奏会に向けての邦人作品練習②	・予習:譜読みに慣れておく。 ・復習:移動度で歌うことに慣れておく。
第3回	定期演奏会に向けての邦人作品練習③	・予習:譜読みに慣れておく。 ・復習:移動度で歌うことに慣れておく。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	定期演奏会に向けての邦人作品練習④	予習：音取りをしておく。 復習：不安定な部分を確認しておく。
第5回	定期演奏会に向けての邦人作品練習⑤	予習：歌詞をつけてしっかりと謳えるようにしておく。 復習：音程、ハーモニーの不安定な部分を確認しておく。
第6回	邦人作品小アンサンブル練習	予習：暗譜で歌えるようにしておく。 復習：音程、ハーモニーの不安定な部分を確認しておく。
第7回	邦人作品小アンサンブル（発表①）	予習：アンサンブルの質を高めておく。 復習：小人数で質の高い演奏ができるようにしておく。
第8回	邦人合唱作品の仕上げ①	予習：小人数アンサンブルの質を高めておく。 復習：既習曲については暗譜で歌えるようにする。
第9回	邦人合唱作品の仕上げ②	予習：小人数アンサンブルの質を高めておく。 復習：既習曲については暗譜で歌えるようにする。
第10回	定期演奏会リハーサル	予習：暗譜を完璧にしておく。 復習：ゆとりをもって歌えるようにしておく。
第11回	定期演奏会の総括	予習：定期演奏会の成果と課題をまとめておく。 復習：課題解決のための目標を設定する。
第12回	邦人合唱作品⑦	予習：音取を丁寧に行っておく。 復習：ハーモニーに配慮して歌えるようにしておく。
第13回	日本の伝統音楽研究発表及び演習	予習：日本の伝統音楽の歌唱について調べておく。 復習：作品にふさわしい声、表現ができるようにする。
第14回	アンサンブルグループ練習	予習：余裕をもって歌えるようにしておく。 復習：アンサンブルの質を高めておく。
第15回	小アンサンブル（発表②）	予習：余裕をもって歌えるようにしておく。 復習：個人およびグループ演奏の成果と課題を把握し、レベルアップを図る。

科目名(クラス)	合唱ⅣA(日本の伝統的歌唱を含む)	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	4
担当教員	粕谷宏美	履修対象・条件	選択科目				

【授業の概要】

本科目は、3年生教職履修者の必修科目であり、教育現場での活動及び指導を想定して行います。
・アカペラ合唱曲を含めて、中学校・高等学校で歌われている合唱曲に取り組みます。
・小人数で歌うことを多く取り入れ、ソルミゼーションとハンドサインを駆使して質の高いアンサンブルを目指します。
・日本の伝統音楽の歌唱及び、民謡を基にした合唱作品に取り組みます。
授業の進行は予定であり、作品や完成度によって変更することがあります。

【授業の到達目標】

・発声の基礎基本を身に付け、豊かな表現力を身に付けている。
・よいアンサンブルを作るために、他者の声をよく聴き、協調性を大切にして練習に取り組むことができる。
・ソルミゼーションとハンドサインを身に付けて、ハーモニーを大切にして歌うことができる。
・小人数で質の高い声楽アンサンブルができる。

【授業の「方法」と「形式」】

合唱練習(パート練習、アンサンブル練習、発表等)。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・質の高い合唱団を目指して、歌唱力・表現力を高めてください。
・私語や携帯電話などは厳禁です。
・チームワークこそ演奏力です。主体的に参加してください。遅刻は認めません。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・発声の基礎基本を身に付け、豊かな表現力を身に付けている。
・ソルミゼーションとハンドサインを身に付けて、ハーモニーを大切にして歌うことができる。
・小人数で質の高い声楽アンサンブルができる。
・授業への取り組みの姿勢(積極性・協調性など)

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	必要に応じて配付します。	著者等		出版社	
参考文献	購入については第1回の授業で指示します。	著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	授業ガイダンス (定期演奏会までの練習計画・パート分け・役割分担)	予習:自分の声域を把握し、所属するパートを考えておく。 復習:合唱Ⅲのねらいを十分に理解しておく。
第2回	アンサンブルの基礎基本について	・予習:♯・♭4つまでの移動度読みに慣れておく。 ・復習:移動度で歌うことに慣れておく。
第3回	ソルミゼーションとハンドサイン	・予習:夏の思い出(ニ長調)を移動度で歌えるようにしておく。 ・復習:ハンドサインができるように練習しておく。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	発表に向けてよく練習しておく。	準備学習（予習・復習）
第4回	邦人合唱作品①「アカペラ」	予習：音取りをしておく。 復習：不安定な部分を確認しておく。
第5回	邦人合唱作品①「アカペラ」	予習：歌詞をつけてしっかりと謳えるようにしておく。 復習：音程、ハーモニーの不安定な部分を確認しておく。
第6回	小アンサンブル練習	予習：お互いによく聴い、豊かな表現力で歌えるようにしておく。 復習：アンサンブルの質を高めておく。
第7回	小アンサンブル（発表①）	予習：アンサンブルの質を高めておく。 復習：個人及びグループ演奏の成果と課題を把握する。
第8回	邦人合唱作品③	予習：課題作品の音取りをしておく。 復習：自分のパートがしっかりと歌えるようにしておく。
第9回	邦人合唱作品④	予習：課題作品の音取りをしておく。 復習：自分のパートがしっかりと歌えるようにしておく。
第10回	邦人合唱作品⑤	予習：暗譜するよう努力する。 復習：すべてのパートを歌えるようにしておく。
第11回	邦人合唱作品⑥	予習：暗譜するよう努力する。 復習：ハーモニーに配慮して歌えるようにしておく。
第12回	邦人合唱作品⑦	予習：余裕をもって歌えるよう努力する。 復習：ハーモニーに配慮して歌えるようにしておく。
第13回	日本の伝統音楽研究発表及び演習	予習：日本の伝統音楽の歌唱について調べておく。。 復習：作品にふさわしい声、表現ができるようにする。
第14回	アンサンブルグループ練習	予習：余裕をもって歌えるようにしておく。 復習：アンサンブルの質を高めておく。
第15回	小アンサンブル（発表②）	予習：余裕をもって歌えるようにしておく。 復習：アンサンブルの質を高めておく。

科目名(クラス)	合唱ⅣB（日本の伝統的歌唱を含む）	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	4
担当教員	粕谷宏美	履修対象・条件	選択科目				

【授業の概要】

本科目は、3年生教職履修者の必修科目であり、教育現場での活動及び指導を想定して行います。
・アカペラ合唱曲を含めて、中学校・高等学校で歌われている合唱曲に取り組みます。
・小人数で歌うことを多く取り入れ、ソルミゼーションとハンドサインを駆使して質の高いアンサンブルを目指します。
・日本の伝統音楽の歌唱及び、民謡を基にした合唱作品に取り組みます。
授業の進行は予定であり、作品や完成度によって変更することがあります。

【授業の到達目標】

・発声の基礎基本を身に付け、豊かな表現力を身に付けている。
・よいアンサンブルを作るために、他者の声をよく聴き、協調性を大切にして練習に取り組むことができる。
・ソルミゼーションとハンドサインを身に付けて、ハーモニーを大切にして歌うことができる。
・小人数で質の高い声楽アンサンブルができる。

【授業の「方法」と「形式」】

合唱練習（パート練習、アンサンブル練習、発表等）。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・質の高い合唱団を目指して、歌唱力・表現力を高めてください。
・私語や携帯電話などは厳禁です。
・チームワークこそ演奏力です。主体的に参加してください。遅刻は認めません。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・発声の基礎基本を身に付け、豊かな表現力を身に付けている。
・ソルミゼーションとハンドサインを身に付け、ハーモニーを大切にして歌うことができる。
・小人数で質の高い声楽アンサンブルができる。
・授業への取り組の姿勢（積極性・協調性など）

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	必要に応じて配付します。	著者等		出版社	
参考文献	購入については第１回の授業で指示します。	著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	定期演奏会に向けての邦人作品練習①	・予習：譜読みに慣れておく。 ・復習：移動度で歌うことに慣れておく。
第2回	定期演奏会に向けての邦人作品練習②	・予習：譜読みに慣れておく。 ・復習：移動度で歌うことに慣れておく。
第3回	定期演奏会に向けての邦人作品練習③	・予習：譜読みに慣れておく。 ・復習：移動度で歌うことに慣れておく。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	定期演奏会に向けての邦人作品練習④	予習：音取りをしておく。 復習：不安定な部分を確認しておく。
第5回	定期演奏会に向けての邦人作品練習⑤	予習：歌詞をつけてしっかりと謳えるようにしておく。 復習：音程、ハーモニーの不安定な部分を確認しておく。
第6回	邦人作品小アンサンブル練習	予習：暗譜で歌えるようにしておく。 復習：音程、ハーモニーの不安定な部分を確認しておく。
第7回	邦人作品小アンサンブル（発表①）	予習：アンサンブルの質を高めておく。 復習：小人数で質の高い演奏ができるようにしておく。
第8回	邦人合唱作品の仕上げ①	予習：小人数アンサンブルの質を高めておく。 復習：既習曲については暗譜で歌えるようにする。
第9回	邦人合唱作品の仕上げ②	予習：小人数アンサンブルの質を高めておく。 復習：既習曲については暗譜で歌えるようにする。
第10回	定期演奏会リハーサル	予習：完全に暗譜しておく。 復習：ゆとりをもって歌えるようにしておく。
第11回	定期演奏会の総括	予習：定期演奏会の成果と課題をまとめておく。 復習：課題解決のための目標を設定する。
第12回	邦人合唱作品⑦	予習：余裕をもって歌えるよう努力する。 復習：ハーモニーに配慮して歌えるようにしておく。
第13回	日本の伝統音楽研究発表及び演習	予習：指示された作品について調べておく。 復習：日本の伝統音楽への理解を深めておく。
第14回	アンサンブルグループ練習	予習：余裕をもって歌えるようにしておく。 復習：アンサンブルの質を高めておく。
第15回	小アンサンブル（発表②）	予習：余裕をもって歌えるようにしておく。 復習：アンサンブルの質を高めておく。

科目名(クラス)	同族楽器アンサンブル (含オーケストラ・スタディ) Ⅰ～Ⅳ〔弦楽器〕	開講学期	前期	単位数	各 1	配当年次	1～4
担当教員	白井　英治	履修対象・条件	ピアノと声楽のKonzertfach(演奏専攻)・教職実践専攻は履修不可。音楽療法とメディアデザインはⅠ・Ⅱのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)				

【授業の概要】

アンサンブルをする為に必要な要素を知り、その為の技術的な面の基礎を学んで頂く。

【授業の到達目標】

主に古典のハイドン・モーツァルトの室内楽を取りあげ、アンサンブルの基礎を学び、同時にオーケストラスタディも取りあげ、より巾広い表現方法を身につける。

【授業の「方法」と「形式」】

二重奏から四重奏までを実際に演奏しながら学ぶ。

【履修時の「留意点」と「心得」】

濃いくて消しやすい鉛筆(2B～4B)と消しゴムは必ず用意する事。

【成績評価の「方法」と「基準」】

受講態度等を総合的に評価する。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	音楽を演奏する上で必要な要素を学ぶ	
第2回	同上	
第3回	演奏面での基礎技術を学ぶ	

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	アンサンブルをする為の基礎技術を習得する為、古典の作曲家（ハイドン・モーツァルト等）の室内楽曲を取りあげて勉強する	古典派の室内楽について調べておく
第5回	同上	同上
第6回	同上	同上
第7回	同上	同上
第8回	同上で学んだ事をオーケストラ演奏にも結びつけられるよう、オーケストラスタディを取りあげる	同上
第9回	同上	同上
第10回	同上	同上
第11回	同上	同上
第12回	今まで学んできた上に、ロマン派の作曲家の曲も取りあげていく	ロマン派以降の室内楽について調べておくこと
第13回	同上	同上
第14回	今まで学んできた上に、民族的な作曲家や近代フランスの作曲家の曲も取りあげて、より広い表現を学ぶ	同上
第15回	同上	

科目名(クラス)	室内楽(異種楽器) Ⅰ ～Ⅳ 〔弦楽器〕	開講学期	後期	単位数	各 1	配当年次	1～4
担当教員	白井　英治	履修対象・条件	ピアノと声楽のKonzertfach(演奏専攻)・教職実践専攻は履修不可。音楽療法とメディアデザインはⅠ・Ⅱのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)				

【授業の概要】

前期で学んだアンサンブルをする為に習得した要素や技術を用い、弦楽四重奏でより密度の高い演奏表現を目ざす。

【授業の到達目標】

ベートーベン以降、現に至る作曲家の室内楽曲を取りあげ、スケールの大きいアンサンブルが出来る事を目標とする。

【授業の「方法」と「形式」】

授業内容の活性化を図る為、出来るだけ予習をお願いします。

【履修時の「留意点」と「心得」】

筆記用具は必ず持参する事。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業内評価とします。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	ベートーベンの弦楽四重奏曲 その1(初期)	譜読みをしておく
第2回	同上	同上
第3回	同上	同上

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	ベートーベンの弦楽四重奏曲 その2（中期）	同上
第5回	同上	同上
第6回	同上	同上
第7回	ベートーベンの弦楽四重奏曲 その3（後期）	同上
第8回	同上	同上
第9回	シューベルト・シューマン・ブラームス・メンデルスゾーンの室内楽	同上
第10回	同上	同上
第11回	同上	同上
第12回	同上	同上
第13回	ドヴォルザークはじめ民族的作曲家の室内楽	同上
第14回	同上	同上
第15回	ドビュッシー・ラヴェルをはじめ近現代の作曲家の室内楽	

科目名(クラス)	同族楽器アンサンブル （含オーケストラ・スタディ）Ⅰ～Ⅳ〔フルート〕	開講学期	前期	単位数	各 1	配当年次	1～4
担当教員	岩間　丈正	履修対象・条件	ピアノと声楽のKonzertfach（演奏専攻）・教職実践専攻は履修不可。音楽療法とメディアデザインはⅠ・Ⅱのみ履修可。（相応の演奏技能が必要）				

【授業の概要】

小編成のアンサンブル及び特殊フルートが含まれるフルートアンサンブルを行い、将来フルートオーケストラで演奏するための基礎を習得する。最後の授業で各アンサンブルの発表を行う。
また、オーケストラ等のオーディションに備えて、オーケストラスタディも行う。

【授業の到達目標】

アンサンブル能力を身につける。全ての特殊フルートに精通する。

【授業の「方法」と「形式」】

アンサンブル形式。オーケストラスタディはグループレッスン形式。

【履修時の「留意点」と「心得」】

欠席、遅刻厳禁。各自が全体の一員である事を自覚し、必ず事前練習をして授業に臨む事。
音源が入手できる曲は授業前に必ず聴いておく事。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業への積極的な参加、アンサンブル能力、事前練習、合奏に対する意欲等を考慮し、また、オーケストラスタディの習得度により評価する。

教科書	教員側で準備する	著者等		出版社	
教科書	教員側で準備する	著者等		出版社	
参考文献	教員側で準備する	著者等		出版社	
参考文献	教員側で準備する	著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	東邦祭練習。	各自事前練習の徹底。
第2回	東邦祭練習。	各自事前練習の徹底。
第3回	アンサンブル組み分け及び曲決め。オーケストラスタディの課題発表。	演奏希望曲を事前に確認する。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回	小編成のアンサンブルをいくつかのグループに分かれて行う。 オーケストラやウィンドオーケストラの音楽教室等の公欠により、授業計画が変更になる場合がある。 オーケストラスタディについては事前に課題を与える。	アンサンブルについては、各自個人練習及び各グループの自主練習の徹底。オーケストラスタディについては、グループレッスン形式を取るが、実際には一人ずつ演奏させるため、アンサンブル同様、事前に個人練習をしっかり行うこと。
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回	各グループごとに授業内で発表する。	アンサンブル能力の確認。

科目名(クラス)	同族楽器アンサンブル (含オーケストラ・スタディ) Ⅰ～Ⅳ〔オーボエ〕	開講学期	前期	単位数	各 1	配当年次	1～4
担当教員	松岡　裕雅	履修対象・条件	ピアノと声楽のKonzertfach(演奏専攻)・教職実践専攻は履修不可。音楽療法とメディアデザインはⅠ・Ⅱのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)				

【授業の概要】

オーボエの長所、短所を理解しながら、アンサンブルの技術を学んでいきます。オーボエのみのアンサンブルの可能性もふくらませていきます。

【授業の到達目標】

少ないオーボエのみの作品を研究するにとどまらず、新しく自分たちのレパートリーになりうる作品の開拓もしていきます。
知識の上に演奏上の技術も習得していきます。

【授業の「方法」と「形式」】

演奏及び作品研究

【履修時の「留意点」と「心得」】

自分から疑問を解決していく習慣を作る。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業における積極性　75%
オーボエの知識の習熟度　25%

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	既存の作品の研究①(アンサンブル) ベートーヴェン、トリオなど	予習、復習について説明します
第2回	既存の作品の研究②	準備に対する考え方のチェック
第3回	既存の作品の研究③	新しいテーマを創造していきます

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	既存の作品の研究④ オーケストラ・スタディ①	オーケストラ等の代表的な課題を学んでいきます
第5回	既存の作品の研究⑤ オーケストラ・スタディ②	平行して新しいレパートリーの創造も進めます
第6回	既存の作品の研究⑥ オーケストラ・スタディ③	新しいレパートリーの楽譜を作っていきます
第7回	既存の作品の研究⑦ オーケストラ・スタディ④	楽譜を作っていくにあたって狭い音域の中でのアレンジにおける配置を学びます
第8回	既存の作品の研究⑧ オーケストラ・スタディ⑤ 新譜の作成（アンサンブル）	既存のアンサンブル作品と自分たちで想像していく作品との比較
第9回	既存の作品の研究⑨ オーケストラ・スタディ⑥ 新譜の作成（アンサンブル）	実際の演奏上おこる問題の認識
第10回	同上	問題の認識及び解決法
第11回	同上	解決法及びその考え方
第12回	同上	オーボエ、アンサンブルにおけるメリット、デメリットの整理
第13回	同上	オーケストラ・スタディのレパートリーの充実
第14回	同上	新しいアンサンブルの創造の実演
第15回	まとめ	演奏上の留意点は、たくさんありますが、それに自ら気づける様になっていくこと

科目名(クラス)	同族楽器アンサンブル (含オーケストラ・スタディ) Ⅰ～Ⅳ〔クラリネット〕	開講学期	前期	単位数	各 1	配当年次	1～4
担当教員	松尾　賢一郎	履修対象・条件	ピアノと声楽のKonzertfach(演奏専攻)・教職実践専攻は履修不可。音楽療法とメディアデザインはⅠ・Ⅱのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)				

【授業の概要】

・最も小さな室内楽の形式から音程や音量のバランスを学ぶことによって、最も大きな演奏形態であるオーケストラでの演奏感覚を学ぶ。
・クラリネットは移調楽器である為、オーケストラ譜にあるin C表記が出てきても演奏できるようにする。
・移調の学習には弦楽四重奏の楽曲を用い、ト音記号のみならずヘ音記号やハ音記号も読替えて演奏できるようトレーニングする。

【授業の到達目標】

・二重奏を中心とした小さい室内楽の形式の中で演奏者同士のバランス感覚を身に付けることが出来る。
・オーケストラの中での移調楽器としての認識と移調方法を身に付けることが出来る。

【授業の「方法」と「形式」】

・聴講生を意識したレッスン形式で行う。
・入手が困難な曲の音源は授業時に聴かせることがある。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・与えられた楽曲は譜読みし授業に差し支えないようにすること。
・音源がある曲は聴いてくること。
・曲によってA管やバスクラリネットが必要になることがある。
・パートが決まっているアンサンブルレッスンでの欠席は原則厳禁とする。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・授業への積極性(楽曲への取り組みなど)50%。
・発表会50%。

教科書	Mozart/Kegelduette KV487	著者等		出版社	Edition Schott
教科書	Bach/6 Fugen für Streichquartett	著者等		出版社	Edition Massonneau
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	・シラバスを使い授業の概要と到達目標等を解説 ・Mozart/Kegelduetteを楽譜を読みながら聴く ・Mozart/Kegelduetteを用いin C読替の練習(ト音記号)をする	予習:Mozart/Kegelduette全曲を学習してくる。 復習:移調の練習に使った曲以外も読替が出来るように練習する。
第2回	・Mozart/Kegelduette Nr.1-3	予習:各回任意にペアを組んで演奏する為、1st、2nd共に練習してくる。 復習:ペアを決めて発表会の準備をする。
第3回	・Mozart/Kegelduette Nr.4-6	予習:各回任意にペアを組んで演奏する為、1st、2nd共に練習してくる。 復習:ペアを決めて発表会の準備をする。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	・Mozart/Kegelduette Nr.7-9	予習：各回任意にペアを組んで演奏する為、1st、2nd共に練習してくる。 復習：ペアを決めて発表会の準備をする。
第5回	・Mozart/Kegelduette Nr.10-12	予習：各回任意にペアを組んで演奏する為、1st、2nd共に練習してくる。 復習：ペアを決めて発表会の準備をする。
第6回	・Mozart/Kegelduette KV487発表会	予習：十分な譜読みと合わせを各自行う。またチラシとプログラムの作成をし発表会の準備の仕方も学ぶ。 復習：終演後各学生への講評を行うので次回での演奏に応用する。
第7回	・Bach/6 Fugen für Streichquartett BWV876, BWV892を用いてヘ音記号とハ音記号の読替のトレーニングを行う。	予習：元の曲である平均律クラヴィアⅡをスコアを見て学習する。 復習：予め決められたメンバーで発表会の準備をする。
第8回	・Bach/6 Fugen für Streichquartett BWV871, BWV874	予習：決められたアンサンブルメンバーで合わせをしてくる。 復習：発表会の準備をする。
第9回	・Bach/6 Fugen für Streichquartett BWV891, BWV878	予習：決められたアンサンブルメンバーで合わせをしてくる。 復習：発表会の準備をする。
第10回	・Bach/6 Fugen für Streichquartett発表会	予習：十分な譜読みと合わせを各自行う。またチラシとプログラムの作成をし発表会の準備の仕方も学ぶ。 復習：終演後各学生への講評を行うので次回での演奏に応用する。
第11回	・オーケストラスタディー/Beethoven(二重奏)	予習：初回授業時に楽譜及び曲目リストを配布するので、パート譜のみではなくスコアも学習する。 復習：取り上げた曲を再度音源で確認する。
第12回	・オーケストラスタディー/Smetana(読替を伴う楽曲)	予習：初回授業時に楽譜及び曲目リストを配布するので、パート譜のみではなくスコアも学習する。 復習：取り上げた曲を再度音源で確認する。
第13回	・オーケストラスタディー/Rossini(二重奏/読替を伴う楽曲)	予習：初回授業時に楽譜及び曲目リストを配布するので、パート譜のみではなくスコアも学習する。 復習：取り上げた曲を再度音源で確認する。
第14回	・オーケストラスタディー/Mussorgsky(三重奏)	予習：初回授業時に楽譜及び曲目リストを配布するので、パート譜のみではなくスコアも学習する。 復習：取り上げた曲を再度音源で確認する。
第15回	・まとめ	予習：各回の自分の演奏を振り返る。 復習：2本のクラリネットでの完璧な演奏を目指し、大型のアンサンブルやオーケストラでの演奏に役立てる。

科目名(クラス)	同族楽器アンサンブル (含オーケストラ・スタディ) Ⅰ ～Ⅳ〔ファゴット〕	開講学期	前期	単位数	各 1	配当年次	1～4
担当教員	鈴木　一志	履修対象・条件	ピアノと声楽のKonzertfach(演奏専攻)・教職実践専攻は履修不可。音楽療法とメディアデザインはⅠ・Ⅱのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)				

【授業の概要】

・ファゴット2重奏・3重奏・4重奏を中心に進める。
・オーケストラ授業の曲を中心にオーケストラ・スタディを進める。

【授業の到達目標】

・ファゴットアンサンブルで演奏技術と表現能力を向上させる。
・オーケストラ・スタディをオーケストラの合奏に生かす。

【授業の「方法」と「形式」】

・学生の人数によってファゴットアンサンブルの編成を決める。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・各パート責任を持って練習し、曲に対する研究をする。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・授業への積極性(平常点)

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	ガイダンス ファゴットアンサンブルの学び方・楽しみ方	
第2回	アンサンブル選曲　2重奏～4重奏 東邦祭オケの曲のオーケストラ・スタディ	東邦祭オケの曲を練習する
第3回	実技演習・作品について 前期オケ曲のオーケストラ・スタディ	選曲した曲を練習する 前期オケの曲を練習する

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	実技演習　曲想（表現） 前期オケ曲のオーケストラ・スタディ	パート譜で他の動きを理解する 前期オケ曲のスコアリーディング
第5回	同上	同上
第6回	曲の仕上げと研究 古典派のオーケストラ・スタディ	各パートの復習練習 古典派曲のスコアリーディング
第7回	同上	同上
第8回	新作品の実技演習・作品について ロマン派のオーケストラ・スタディ	新作品を練習する ロマン派曲のスコアリーディング
第9回	実技演習　曲想（表現） ロマン派のオーケストラ・スタディ	パート譜で他の動きを理解する ロマン派のスコアリーディング
第10回	同上	同上
第11回	曲の仕上げと研究 近現代のオーケストラ・スタディ	各パートの復習練習 近現代のスコアリーディング
第12回	同上	同上
第13回	新作品の実技演習・作品について 東邦オケ定期のオーケストラ・スタディ	新作品を練習する オケ定期曲のスコアリーディング
第14回	実技演習　曲想（表現） 東邦オケ定期のオーケストラ・スタディ	パート譜で他の動きを理解する オケ定期曲のスコアリーディング
第15回	曲の仕上げと研究 東邦オケ定期のオーケストラ・スタディ	各パートの復習練習 オケ定期曲のスコアリーディング

科目名(クラス)	同族楽器アンサンブル （含オーケストラ・スタディ）Ⅰ～Ⅳ［サクソフォン］	開講学期	前期	単位数	各 1	配当年次	1～4
担当教員	佐々木　雄二	履修対象・条件	ピアノと声楽のKonzertfach（演奏専攻）・教職実践専攻は履修不可。音楽療法とメディアデザインはⅠ・Ⅱのみ履修可。（相応の演奏技能が必要）				

【授業の概要】

サクソフォンアンサンブル（主に四重奏）の授業を通して、演奏技術・表現能力・各演奏者間のコミュニケーション能力を強化し向上させることが目的です。
サクソフォンアンサンブルのためには、四重奏をはじめ数多くの曲が作られ、またアレンジされています。新作の発掘と演奏会でよく取り上げられる作品を勉強します。4月中は東邦祭に向け10名以上で編成されるラージアンサンブルも研究し演奏します。

授業の到達目標

ソプラニーノ、ソプラノ、アルト、テナー、バリトン、バスと各パートの音の動きを聴きながら、各奏者間でコミュニケーションを取り、曲作りをすることができる。

【授業の「方法」と「形式」】

サクソフォンだけのアンサンブル授業になります。東邦祭までは全てのサクソフォン、それ以降はソプラノ、アルト、テナー、バリトンで四重奏の演奏研究をします。

【履修時の「留意点」と「心得」】

受け持つパート譜、楽譜はしっかりと読み練習して授業に臨んで下さい。スコアを読んで曲の構成を理解しましょう。
作曲家や時代背景も研究し、より芸術性を高めた演奏を目指します。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業への取り組み（40%）、授業内容の理解度（30%）、実践力・応用力〔30%〕等、総合的に評価します。

教科書	その都度こちらで準備します。	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	オリエンテーション 9月までの授業内容の説明 東邦祭までの各アンサンブルパート決め	事前準備として、パート譜の譜読みをしっかり行って来ること。
第2回	バロック時代の合奏協奏曲 コレルリやビバルディの作品より選曲し、合奏練習1回目	スコアを見ながらオリジナル曲の音源を聴き、曲全体のイメージを知ること。
第3回	バロック時代の合奏協奏曲 第2回目で選曲した作品の合奏練習2回目	他パートについても理解し、連動できるように準備する。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	四重奏団体決め、曲決め 各自の受け持つパート決め	各自が受け持つパート譜を読みながら音源を聴くこと。
第5回	四重奏演奏表現研究 主にSopとBariの外声部の音の流れを理解する	各自スコアを読む。 外声部であるSopとBariの合わせ練習をしておくこと。
第6回	四重奏演奏表現研究 主にAltとTenの内声部の音の流れを理解する	各自スコアを読む。 AltとTenの合わせ練習をしておくこと。
第7回	四重奏演奏表現研究 主にSopとAltの組み合わせでの音色やハーモニーを演奏しながら聴き取る	各自スコアを読む。 SopとAltの合わせ練習をしておくこと。
第8回	四重奏演奏表現研究 主にSopとTenの組み合わせで音色やハーモニーを演奏しながら聴き取る	各自スコアを読む。 SopとTenの合わせ練習をしておくこと。
第9回	四重奏演奏表現研究 主にAltとBaliの組み合わせでの音色やハーモニーを演奏しながら聴き取る	各自スコアを読む。 AltとBariの合わせ練習をしておくこと。
第10回	四重奏演奏表現研究 主にTenとBariの組み合わせでの音色やハーモニーを演奏しながら聴き取る。	各自スコアを読む。 TenとBariの合わせ練習をしておくこと。 第５回から第１０回は順不動可。
第11回	四重奏演奏表現研究 主にSopとBariの外声部の音とAltの音を重ねた響きを演奏しながら聴く	各自スコアを読む。 Sop,Alt,Bariの合わせ練習をしておくこと。
第12回	四重奏演奏表現研究 主にSopとBariの外声部の音とTenの音を重ねた響きを演奏しながら聴く	各自スコアを読む。 Sop,Ten,Bariの合わせ練習をしておくこと。 第１１回から第１２回は順不動可。
第13回	四重奏演奏表現研究 各パートが他パートの動きと響きを理解した上での合奏練習	四人の奏者がそれぞれ他パートの音や動きを理解していること。
第14回	同上	同上
第15回	四重奏演奏表現の研究 発表会、各団体評価・反省 まとめ	同上

科目名(クラス)	室内楽(異種楽器)Ⅰ～Ⅳ 〔木管楽器〕	開講学期	後期	単位数	各 1	配当年次	1～4
担当教員	岩間　丈正 鈴木　一志	履修対象・条件	ピアノと声楽のKonzertfach(演奏専攻)・教職実践専攻は履修不可。音楽療法とメディアデザインはⅠ・Ⅱのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)				

【授業の概要】

木管楽器を中心とした異種楽器によるアンサンブル。ホルンやサックス、曲によっては他の金管楽器が入る場合もある。

【授業の到達目標】

アンサンブル能力を身につける。

【授業の「方法」と「形式」】

アンサンブル形式。アンサンブル形態については履修登録が確定後決定し、掲示でメンバーと一緒に発表する。

【履修時の「留意点」と「心得」】

欠席、遅刻厳禁。
この授業は担当教員2名で、それぞれ1コマずつ担当する。履修登録が確定した時点で、履修学生の人数、楽器編成により、管弦打部会でアンサンブルチームを作成、担当教員を配置、履修クラスを割り当てる。したがって、履修希望学生は、2コマある授業の内、どちらかを希望して履修することはできない。ただし、他の授業と重なった場合の変更は認められる。アンサンブルチームを作成する際、学生のレベルを把握するため、担当教員以外の教員にも相談することがある。
使用教材(楽曲)は教員側で用意するが、楽譜を配布されたら、各自が全体の一員である事を自覚し、他の学生の迷惑にならないよう、各自事前練習を十分に行ってから授業に参加すること。音源が入手できる曲は授業前に必ず聴いておくこと。

【成績評価の「方法」と「基準」】

期末に授業内で発表を行い成績とする。

教科書	教員側で準備する	著者等		出版社	
教科書	教員側で準備する	著者等		出版社	
参考文献	教員側で準備する	著者等		出版社	
参考文献	教員側で準備する	著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	異種楽器によるアンサンブルを行う。 教材及びアンサンブルの形態については、履修学生の人数、楽器編成で決定する。 技術的、音楽的な観点から授業を進める。担当教員の要請により、担当教員以外の教員が指導に入ることもある。	他の学生に迷惑にならないよう、事前練習を十分に行ってから授業に参加すること。授業で上手く演奏できなかった箇所は、次回の授業までに各自改善しておくこと。一人の教員が複数のアンサンブルチームを担当す場合は、他のチームの授業を見学すること。授業時間内の退出は不可。
第2回		
第3回		

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回		
第5回		
第6回		
第7回		
第8回		
第9回	異種楽器によるアンサンブルを行う。 教材及びアンサンブルの形態については、履修学生の人数、楽器編成で決定する。 技術的、音楽的な観点から授業を進める。担当教員の要請により、担当教員以外の教員が指導に入ることもある。	他の学生に迷惑にならないよう、事前練習を十分に行ってから授業に参加すること。授業で上手く演奏できなかった箇所は、次回の授業までに各自改善しておくこと。一人の教員が複数のアンサンブルチームを担当す場合は、他のチームの授業を見学すること。授業時間内の退出は不可。
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回	まとめ。 授業内発表。	発表に向けて各チーム準備をすること。

科目名(クラス)	室内楽(異種楽器)Ⅰ～Ⅳ〔木管楽器〕(サックスアンサンブル)	開講学期	後期	単位数	各1	配当年次	1～4
担当教員	佐々木　雄二	履修対象・条件	ピアノと声楽のKonzertfach(演奏専攻)・教職実践専攻は履修不可。音楽療法とメディアデザインはⅠ・Ⅱのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)				

【授業の概要】

サクソフォンアンサンブル(主にラージアンサンブル「四重奏も含む」)を通して、演奏技術・表現能力・各奏者間のコミュニケーション能力を強化し向上させることが目的です。
サクソフォンアンサンブルのためには様々な編成で数多くの曲が作られ、またアレンジされています。新作の発掘と演奏会でよく取り上げられる作品を勉強します。

授業の到達目標

ソプラニーノ、ソプラノ、アルト、テナー、バリトン、バスと各パートの音や動きを聴きながら、各奏者間でコミュニケーションを取りながら曲作りをすることができる。

【授業の「方法」と「形式」】

サクソフォンだけのアンサンブルの授業になります。ソプラニーノからバスまでのサクソフォンを使用した演奏研究になります。

【履修時の「留意点」と「心得」】

受け持つパート譜、楽譜はしっかりと読み練習してから授業に臨んで下さい。スコアを読んで曲の構成を考えましょう。
作曲家や時代背景も研究し、より芸術性を高めた演奏を目指します。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業への取り組み(40%)、授業内容の理解度(30%)、実践力・応用力〔30%〕等、総合的に評価します。
欠席、遅刻をしないこと。

教科書	その都度こちらで準備します。	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	四重奏からラージアンサンブル、楽曲決め 各奏者のパート決め	パート譜の譜読みをしっかり行ってくること。
第2回	ポピュラー音楽、ジャズ音楽、四重奏練習	スコアを読みながら音源を聴き曲全体の構成を考える。
第3回	同上	他パートについても理解し連動して曲を仕上げる。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	ラージアンサンブル演奏表現研究１（一曲目）	原曲の音源を聴き曲のイメージをつかむ。
第5回	ラージアンサンブル演奏表現研究２（一曲目）	各自スコアを読みながら音源を聴きパート練習をする。
第6回	ラージアンサンブル演奏表現研究３（一曲目）	同上
第7回	ラージアンサンブル演奏表現研究４（二曲目）	原曲の音源を聴き曲のイメージをつかむ。
第8回	ラージアンサンブル演奏表現研究５（二曲目）	各自スコアを読みながら音源を聴きパート練習をする。
第9回	ラージアンサンブル演奏表現研究６（二曲目）	同上
第10回	ラージアンサンブル演奏表現研究７（三曲目・四曲目）	各自スコアを読みながら音源を聴きパート練習をする。
第11回	ラージアンサンブル演奏表現研究８（三曲目・四曲目）	同上
第12回	ラージアンサンブル演奏表現研究９（三曲目・四曲目）	同上
第13回	ラージアンサンブル演奏表現研究１０（四曲仕上げる）	同上
第14回	ラージアンサンブル演奏表現研究１１	同上
第15回	ラージアンサンブル演奏表現研究１２ 発表会、講評、反省会 まとめ	同上

科目名(クラス)	同族楽器アンサンブル (含オーケストラ・スタディ) Ⅰ～Ⅳ〔ホルン〕	開講学期	前期	単位数	各 1	配当年次	1～4
担当教員	澤　　敦	履修対象・条件	ピアノと声楽のKonzertfach(演奏専攻)・教職実践専攻は履修不可。音楽療法とメディアデザインはⅠ・Ⅱのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)				

【授業の概要】

アンサンブルの楽しさを感じるとともに、各自の合奏能力を向上させる。

【授業の到達目標】

アンサンブルの現場で求められる能力をしっかり身に付ける。
また、効果的な様々な「コツ」や「芸」を覚える。

【授業の「方法」と「形式」】

基本的に合奏形態で行う。

【履修時の「留意点」と「心得」】

常に自分の目標や意欲をしっかり保って参加して欲しい。

【成績評価の「方法」と「基準」】

各自の参加意欲と学習成果などを総合的に見て評価する。

教科書	全てこちらで準備します。	著者等		出版社	
教科書	全てこちらで準備します。	著者等		出版社	
参考文献	全てこちらで準備します。	著者等		出版社	
参考文献	全てこちらで準備します。	著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	顔合わせ(チーム作り)	
第2回	全体合奏(基本)1	・今回の見直し ・次回の譜読み
第3回	全体合奏(基本)2	・今回の見直し ・次回の譜読み

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	小編成　1	・今回の見直し ・次回の譜読み
第5回	小編成　2	・今回の見直し ・次回の譜読み
第6回	小編成　3	・今回の見直し ・次回の譜読み
第7回	小編成発表会と全体合奏	・今回の見直し ・次回の譜読み
第8回	全体合奏　3	・今回の見直し ・次回の譜読み
第9回	全体合奏　4	・今回の見直し ・次回の譜読み
第10回	発表会の曲決め　1	・今回の見直し ・次回の譜読み
第11回	発表会の曲決め　2	・今回の見直し ・次回の譜読み
第12回	発表会へ向けての準備　1	・今回の見直し ・次回の譜読み
第13回	発表会へ向けての準備　2	・今回の見直し ・次回の譜読み
第14回	発表会へ向けての準備　3	・今回の見直し ・次回の譜読み
第15回	発表会	・今回の見直し ・次回の譜読み

科目名(クラス)	同族楽器アンサンブル (含オーケストラ・スタディ) Ⅰ～Ⅳ〔トランペット〕	開講学期	前期	単位数	各 1	配当年次	1～4
担当教員	藤井　完	履修対象・条件	ピアノと声楽のKonzertfach(演奏専攻)・教職実践専攻は履修不可。音楽療法とメディアデザインはⅠ・Ⅱのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)				

【授業の概要】

息、耳、心を使って「合わせる」事は、一人でソロを吹くよりも楽しく感じたりします。リズム、ユニゾン、ハーモニーを合わせるという事は「響き」を合わせる、「響いた瞬間」を合わせる事です。楽しさと共に「合わせる」事を学んで下さい。

【授業の到達目標】

「響きのある音」で合わせる技術を会得する。
楽譜の意味をすばやく読み取り、楽しさと共に演奏する。

【授業の「方法」と「形式」】

デュエットからはじめて、大きな編成もオーケストラ・スタディまで含みます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

調号、拍子、アーティキュレーション、フレージングを素早く読み取って表現する。
1st、2ndを交替します。予習が必要です。

【成績評価の「方法」と「基準」】

意欲、態度、音楽表現達成度等、総合的に評価します。
発表会の演奏だけでなく、毎週の授業への取り組みも大切です。

教科書	アーバンのデュエット集	著者等	アーバン	出版社	全音
教科書	Selected Duets Ⅰ	著者等	Voxman	出版社	Rubank
参考文献	Selected Duets Ⅱ	著者等	Voxman	出版社	Rubank
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション 授業の進め方、内容について	
第2回	合わせることの意味と楽しさを知る 「響きを合わせる」	各授業内容の準備学習が大切です
第3回	二重奏実習	同上

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	二重奏実習	各授業内容の準備学習が大切です
第5回	二重奏実習	同上
第6回	二重奏実習	同上
第7回	二重奏実習	同上
第8回	二重奏実習	同上
第9回	三重奏以上も含む実習	同上
第10回	三重奏以上も含む実習	同上
第11回	三重奏以上も含む実習	同上
第12回	三重奏以上も含む実習	同上
第13回	三重奏以上とオケスタも含む実習	同上
第14回	三重奏以上とオケスタも含む実習	同上
第15回	三重奏以上とオケスタも含む実習 まとめ	学んだことを振り返る

科目名(クラス)	同族楽器アンサンブル （含オーケストラ・スタディ）Ⅰ～Ⅳ〔トロンボーン〕	開講学期	前期	単位数	各 1	配当年次	1～4
担当教員	吉川　武典	履修対象・条件	ピアノと声楽のKonzertfach（演奏専攻）・教職実践専攻は履修不可。音楽療法とメディアデザインはⅠ・Ⅱのみ履修可。（相応の演奏技能が必要）				

【授業の概要】

・トロンボーン四重奏、またそれ以上の編成のアンサンブルを用い、技術と音楽性を高める。
・イメージだけではない実践的オーケストラ奏法を習得する。

【授業の到達目標】

・感動を生むぐらいの調和、自発性、総合的音楽性、その技術、知識メンタルを身に付ける。

【授業の「方法」と「形式」】

・演奏及び研究

【履修時の「留意点」と「心得」】

・準備、意欲、受身にならない姿勢

【成績評価の「方法」と「基準」】

・授業への積極性（平常点）

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	ガイダンス ドイツ曲集を使った入門	予習、復習について説明
第2回	既存の作品の研究、アンサンブル	準備に対する考え方のチェック
第3回	ブラームス、チャイコフスキー、マーラ、ブルックナー等選曲した オーケストラスタディの研究	様々な録音、録画と共に

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	既存の作品の研究、アンサンブル	時代背景と共に
第5回	オーケストラスタディの研究	作曲家の個性の理解
第6回	既存の作品の研究、アンサンブル	様々な声部を体験
第7回	オーケストラスタディの研究	ホールにおける音量の考察
第8回	既存の作品の研究、アンサンブル	スコア・リーディング
第9回	オーケストラスタディの研究	スコア・リーディング
第10回	同上	古典へのアプローチ
第11回	同上	ルネッサンスからバロックへの理解
第12回	同上	ロマン派の演奏法
第13回	同上	近代へのアプローチ
第14回	同上	編曲含むバックグランドへの興味
第15回	まとめ	演奏家としてのメンタリズム含め総合的に

科目名(クラス)	同族楽器アンサンブル (含オーケストラ・スタディ) Ⅰ～Ⅳ 〔ユーフォニアム・テューバ〕	開講学期	前期	単位数	各 1	配当年次	1～4
担当教員	庄司　恵子 大塚　哲也	履修対象・条件	ピアノと声楽のKonzertfach(演奏専攻)・教職実践専攻は履修不可。音楽療法とメディアデザインはⅠ・Ⅱのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)				

【授業の概要】

ユーフォニアム・テューバアンサンブルの演奏を通して、アンサンブル能力の向上と幅広い音楽の様式やジャンルの研究・体験を目的とする。

【授業の到達目標】

・美しいハーモニーを奏でる為のイントネーションの調整・フレージングの統一・ダイナミクスのバランス感覚等の基本的な能力を養うことができる。
・様々な楽曲の研究・体験ができる。

【授業の「方法」と「形式」】

レッスン形式

【履修時の「留意点」と「心得」】

授業で取り上げる楽曲・編成については、その都度指示を出しながら進めていく。
事前準備(練習)・研究にも力を入れ授業に臨むことが大切。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業への参加度、能力、技術の達成度などを総合的に評価する。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション	
第2回	二重奏・三重奏・四重奏と編成を拡げていく 主な教材 ・Melodious etudes(J.Rochut)　・12Melodious duets(O.Blume) ・Advances duets Vol.1・2(W.Sears)　・11duets for tuba(V.Nelhybel) ・Qartet for low Brass Vol.1～3(S.Bulla)　・コラール集	授業で取り上げる楽曲の練習・研究
第3回	同上	同上

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	同上	同上
第5回	同上	同上
第6回	同上	同上
第7回	同上	同上
第8回	オリジナル作品や大編成の作品も研究対象に加え、応用力を高め、幅広いレパートリーを体験・研究し、作品を仕上げる	同上
第9回	同上	同上
第10回	同上	同上
第11回	同上	同上
第12回	同上	同上
第13回	同上	同上
第14回	同上	同上
第15回	同上	同上

科目名(クラス)	室内楽(異種楽器) Ⅰ ～Ⅳ 〔金管楽器〕	開講学期	後期	単位数	各 1	配当年次	1～4
担当教員	澤　敦 藤井　完	履修対象・条件	ピアノと声楽のKonzertfach(演奏専攻)・教職実践専攻は履修不可。音楽療法とメディアデザインはⅠ・Ⅱのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)				

【授業の概要】

金管アンサンブル(異種楽器による)打楽器、他楽器も含む場合がある。

【授業の到達目標】

金管アンサンブルを通して、各自の合奏能力を向上させるとともに、個々の演奏レベルの向上も目標とする。

【授業の「方法」と「形式」】

アンサンブル形式。各グループのメンバーについては、こちらで調整し掲示にて発表する。

【履修時の「留意点」と「心得」】

この授業は2名の教員で担当する。また、担当教員の要請により、担当教員以外の教員が指導に入ることもある。授業に臨むにあたり、各自のパート譜をしっかり練習しておくことと、曲全体もよく勉強しておくこと。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業態度、取り組み意欲等を中心に成績を出す。

教科書	こちらで準備します	著者等		出版社	
教科書	こちらで準備します	著者等		出版社	
参考文献	こちらで準備します	著者等		出版社	
参考文献	こちらで準備します	著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	各グループのメンバーとも意見を交換し、曲目決めをしたり授業の内容を考えながら毎回進めていく。	
第2回		・今回の見直し ・次回の見直し
第3回		同上

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回		同上
第5回		同上
第6回		同上
第7回		同上
第8回		同上
第9回		同上
第10回		同上
第11回		同上
第12回		同上
第13回		同上
第14回		同上
第15回	まとめ	

科目名(クラス)	同族楽器アンサンブル (含オーケストラ・スタディ) Ⅰ～Ⅳ〔打楽器〕	開講学期	前期	単位数	各1	配当年次	1～4
担当教員	安藤　芳広	履修対象・条件	ピアノと声楽のKonzertfach(演奏専攻)・教職実践専攻は履修不可。音楽療法とメディアデザインはⅠ・Ⅱのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)				

【授業の概要】

打楽器アンサンブルを作り上げる中で、一人ひとりのアンサンブル能力を向上させることを目的とする。特に前期では、比較的簡易な楽曲を主な教材とし、演奏への取り組みの第一歩であり基本である「読譜」について掘り下げ、かつ演奏における呼吸感、テンポ感について感覚的に理解することを目標に、アンサンブル演奏の実践を行なう。また、吹奏楽、オーケストラの定期演奏会で取り上げる楽曲について打楽器パートのオーケストラ・スタディも本クラスで取り上げる。

授業の到達目標

〇各人のアンサンブル能力の向上(呼吸感、テンポ感について感覚的に理解し実践に活かす力を身につける)
〇「アンサンブル」楽曲(オーケストラ・スタディ含む)における読譜力の強化

【授業の「方法」と「形式」】

複数名での実技レッスン／目的やタイミングに応じた選曲を教材に実際に演奏、音楽作りをしながら授業を行ないます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

各自の事前準備なしに「アンサンブル」は成立しません。受講する皆さんには、あらゆる場面での能動的な取り組み姿勢を期待します。

【成績評価の「方法」と「基準」】

アンサンブル演奏に向けての音楽的な事前準備、より適切な演奏環境実現への取り組み等、本授業全般への取り組み姿勢(30%)　　取り組む楽曲ごとの音楽的、技術的達成度(50%)～毎回の授業の中で見えてくる各自の課題が、次回にどれだけ達成されているかという点を重視します。
前期最終授業で実施する演奏発表における実践(20%)

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション	
第2回	読譜について①(個々の実力をはかりつつ、教材＝取り上げる楽曲について検討する)	予習；興味のある楽曲を提案できるよう準備する
第3回	読譜について②(①で決定した楽曲の主に前半部分について、実際に音を出しながら「読譜」の重要性について体感、理解する)	予習；取り上げる楽曲について、各自一通りの譜読みをしておく

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	読譜について③（①で決定した楽曲の主に後半部分について、実際に音を出しながら「読譜」の重要性について体感する。→正しい読譜が、演奏上の余裕、余力を生むことを実感→楽曲に取り組む際、必ずしっかりと楽譜を読み込むことを習慣づける）	予習＆復習；②で得た課題について、より理解を深めるため、実演の音があれば視聴するなどして研究する
第5回	打楽器演奏における呼吸感について①（正しい読譜のなされた楽曲を実演することにより、「呼吸感」という概念についての認識を促し、学ぶ場とする）	予習；正しい読譜により理解した音楽を実際の音にできるよう、特に技術面について練習をしておく
第6回	打楽器における呼吸感について②（①のつづき）	予習；「呼吸感」という観点で今一度楽曲を読み込み、実演と結びつくよう練習する
第7回	テンポ感について①（打楽器演奏における呼吸感とテンポ感の密接な関係について、実演を交え提示し、「テンポ感」という感覚について認識を促す）	復習；「テンポ感」という観点で楽曲と向き合い、実演と結びつくよう練習する
第8回	テンポ感について②（様々なテンポをもつ楽曲に接し、自分たちで演奏しながら実感し理解を深める）	復習；「テンポ感」を意識して、様々なジャンルの音楽を聴いてみる
第9回	小編成楽曲　アンサンブル実践①（規模、内容共に比較的簡易な楽曲を実演しながら、ここまでの学びを復習し、さらなる理解を深める）	授業で即アンサンブルができるよう、各自の担当パートについては演奏準備を怠らないこと！
第10回	小編成楽曲　アンサンブル実践②（前回と同じ楽曲を取り上げ、個々の役割を自覚し、かつ全体を見渡しながらの演奏を心がけることによりアンサンブルする力を身に付ける）	同上
第11回	オーケストラ・スタディ アンサンブル実践①（吹奏楽、オーケストラ演奏会で取り上げる楽曲の打楽器パートを題材に、個々のパートの演奏のみならず、全体の中でのアンサンブルについて学ぶ）	予習；取り上げる吹奏楽、オーケストラ楽曲についての読譜含めた演奏準備及び実演や音資料の視聴
第12回	オーケストラ・スタディ　アンサンブル実践②（①のつづき）	同上
第13回	中編成楽曲　アンサンブル実践①（アンサンブル楽曲の規模を拡大し、さらにアンサンブルする力を高める）	授業で即アンサンブルができるよう、各自の担当パートについては演奏準備を怠らないこと！
第14回	中編成楽曲　アンサンブル実践②（①のつづき）	同上
第15回	演奏発表（発表形式でこれまで取り上げた楽曲の演奏を行ない、前期の総括とする）	復習；後期授業に活かせるよう、演奏発表で得た課題をしっかり認識すること

科目名(クラス)	室内楽(異種楽器) Ⅰ ～Ⅳ 〔打楽器〕	開講学期	後期	単位数	各1	配当年次	1～4
担当教員	安藤　芳広	履修対象・条件	ピアノと声楽のKonzertfach(演奏専攻)・教職実践専攻は履修不可。音楽療法とメディアデザインはⅠ・Ⅱのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)				

【授業の概要】

前期に引き続き、打楽器アンサンブルを作り上げる中で、一人ひとりのアンサンブル能力を向上させることを目的とし、特に後期では、楽曲のもつ音楽の流れやビート感を共有し、お互い聞き合うことで複数名での演奏に一体感が生まれることを感覚的に理解できるよう、幅広いジャンル、様式の楽曲を教材として取り上げる。
尚、科目名に(異種楽器)とありますが、本クラスは打楽器によるアンサンブル演奏が基本形態となります。(異種楽器とのアンサンブルについては、希望や必要に応じて編成が可能となります。)

授業の到達目標

○前期に引き続き、打楽器アンサンブルを作り上げる中で、一人ひとりのアンサンブル能力をさらに向上させる
○最終的には複数名での演奏に一体感が生まれることが感覚的に理解できる状態を到達目標としたい

【授業の「方法」と「形式」】

複数名での実技レッスン形式／目的やタイミングに応じた選曲を教材に実際に演奏、音楽作りをしながら授業を行ないます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

各自の事前準備なしに「アンサンブル」は成立しません。受講する皆さんには、あらゆる場面での能動的な取り組み姿勢を期待します。

【成績評価の「方法」と「基準」】

アンサンブル演奏に向けての音楽的な事前準備、より適切な演奏環境実現への取り組み等、本授業全般への取り組み姿勢(30%)　　取り組む楽曲ごとの音楽的、技術的達成度(50%)～毎回の授業の中で見えてくる各自の課題が、次回にどれだけ達成されているかという点を重視します。
後期末に実施する室内楽発表会における実践(20%)

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	楽曲分析①(正確な読譜の先にあるもの→楽曲を感覚的に理解する力を養う)	予習；読譜は終えた状態で受講できるよう準備する
第2回	楽曲分析②(「ビート感」→クラシックのみならず、民族音楽、ポップスのリズムの特徴をつかむ)	同上
第3回	楽曲分析③(「グルーヴ感」→同上)	同上

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	アンサンブル実践①（楽曲分析の実践の場として幅広いジャンル、様式の楽曲、音楽と接する）	予習；クラシック以外のジャンルから興味のある楽曲の演奏を提案できるよう準備する
第5回	アンサンブル実践②（①のつづき）	
第6回	アンサンブル実践③（①②のつづき）	
第7回	大編成楽曲　アンサンブル実践①（ここまでの学びの実践、応用の場として、規模、内容を拡大した楽曲に取り組む）	予習；室内楽発表会で取り上げるに相応しい楽曲について提案できるよう準備する
第8回	大編成楽曲　アンサンブル実践②（①のつづき）	
第9回	大編成楽曲　アンサンブル実践③（①②のつづき）	
第10回	大編成楽曲　アンサンブル実践④（①②③のつづき）	
第11回	アンサンブル実践（室内楽演奏会を視野にいれた音楽作りの場とする）	発表会＝演奏会という場を音楽面のみならず、作り上げるという意識で捉え、あらゆる角度からの準備を心がける
第12回	アンサンブル実践（前回のつづき）	同上
第13回	アンサンブル実践（前回のつづき）	同上
第14回	室内楽発表会	復習；「演奏会」として成立していたか、総合的な視点で振り返り、今後へ活かす
第15回	総括	

履修対象・条件	合奏A（和楽器を含む）	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	3
担当教員	金子　健治	履修対象・条件	教職課程履修者は必修				

【授業の概要】

合奏は教職の単位として必修科目です。教育実習や実際の教育現場において必要なアルトリコーダーの基本奏法を確認し、教科書の楽曲を練習していく中で、様々な演奏技術を習得していきます。そして、そこにソプラノ、テナー、バスを重ねた簡単な合奏を体験し、直ぐに授業で役立つ合奏法を学びます。また、単に中学・高校の授業内容にとどまらず、リコーダーを通して世界の様々なジャンルの名曲に触れ、様式による表現方法の違いを体験していきます。

【授業の到達目標】

・アルトリコーダーの基本的な奏法(息遣い、タンギング、運指 他)をマスターし、それぞれの留意点を説明することができる。
・ソプラノリコーダーの運指への切り替えがスムーズにでき、教科書の楽曲を余裕を持って範奏することができる。
・日本の笛の奏法との相違点を理解することができる。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式による・・・教科書・教則本に掲載されている楽曲を、パート割をし、仕上げていきます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

合奏を指導するための授業ではありますが、最低限必要なソプラノ・アルトリコーダーの基本奏法は各々マスターしなければなりません。ソプラノリコーダー(バロック式)、アルトリコーダーを各自用意し、十分な準備・予習をして臨んでください。最終的には4種類のリコーダーを体験することになります。初めての楽器でも積極的に取り組んでください。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・各項目毎に担当楽器・パートを決め、合奏を仕上げていく形式を取り、その中での理解度・完成度をチェックし評価する。
・前期末試験は、指定した数曲のアルトリコーダーの楽曲の中から、独奏曲1曲と二重奏曲1曲を選び、受講生の前で演奏する(発表会形式)。
【各項目毎の完成度70%、前期末試験30%】

教科書	New Recorder Library	著者等	金子 健治	出版社	教育出版社
教科書	いきいきリコーダー　アンサンブル編	著者等	金子 健治	出版社	全音楽譜出版社
参考文献	中学器楽　音楽のおくりもの	著者等	金子 健治　他	出版社	教育出版社
参考文献	中学生の器楽	著者等	吉澤　実　他	出版社	教育芸術社

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	学校教育におけるリコーダーの50年	予習:「音楽のおくりもの」～リコーダーを楽しもう～を読む。 復習:リコーダーが学校教育に使われるようになった理由を簡単にまとめる。
第2回	リコーダーの基礎知識Ⅰ・・・・歴史、種類、発音原理、名曲の鑑賞	予習:「New Recorder Library」～リコーダーについて～を熟読する。 復習:音楽史におけるリコーダーの変遷をまとめる。
第3回	アルトリコーダーの基本奏法Ⅰ・・・・中学生のアルトリコーダー導入指導を想定した模擬授業。(「カノン」)	予習:「New Recorder Library」～リコーダーの奏法～を熟読する。 復習:口頭で伝えた「カノン」を楽譜にしておく。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第4回	アルトリコーダーの基本奏法Ⅱ・・・・左手の音域ド～ソの運指、正しい息遣い、タンギングの種類を確認する。(「しりとり歌」「喜びの歌」)	予習:「音楽のおくりもの」～姿勢とかまえ方～　～タンギング～を確認する。 復習:「New Recorder Library」P10～ レミファソの練習～を支えを意識しながら練習する。
第5回	アルトリコーダーの合奏Ⅰ・・・・左手の音域で様々な楽曲に挑戦する。 (「聖者の行進」「オーラリー」)	予習:「「New Recorder Library」P7～アーティキレーション～を確認する。 復習:練習した楽曲をいろいろなアーティキレーションで試奏する。
第6回	ソプラノリコーダーを加えた合奏Ⅰ・・・・左手の音域を使って、ソプラノ(テナー)とアルト(バス)の合奏に挑戦する。(「ガヴォット」「マーチ」)	予習:ソプラノの運指を確認する。 復習:これまでの楽曲をソプラノリコーダーで練習する。
第7回	アルトリコーダーの基本奏法Ⅲ・・・・右手の音域シラソの運指。 低音域においての息圧、タンギングの留意点。(「アメイジング・グレイス」「バロック・ホウダウン」)	予習:低音域シラソの運指を確認し「New Recorder Library」P12～ LESSON 4～を練習する。 復習:「New Recorder Library」P13 ～低いシの練習1～を練習する。
第8回	アルトリコーダーの合奏Ⅱ・・・・・右手の音域を使った合奏曲の練習。 (「カスタネットの歌」「あの丘につづく道」)	予習:シbの運指の確認。「カスタネットの歌」と「あの丘につづく道」第2パートの譜読みをする。 復習:テンポ・アーティキレーションを工夫し、様々な表情の変化を確認する。
第9回	リコーダーの基礎知識Ⅱ・・・・運指の歴史。他の管楽器との比較。 ジャーマン式とバロック式の違い。	予習:ソプラノリコーダーの運指「ジャーマン式」「バロック式」の違いを、運指表で確認する。 復習:ソプラノリコーダーのバロック式運指に慣れる。
第10回	アルトリコーダーの基本奏法Ⅳ・・・・高音域の練習。サミングの方法と種類。アンブシュアによる音色の変化。(「エーデルワイス」「てんさぐの花」「メヌエット」)	予習:2種類のサミングの仕方を確認する。復習:「New Recorder Library」P15～高いラの練習1～で2種類のサミングを使い分ける練習をする。
第11回	アルトリコーダーの基本奏法Ⅴ・・・・派生音の練習。クロスフィンガリングによる全ての派生音に挑戦する。(「星に願いを」「風の通り道」)	予習:運指表から派生音の運指の規則性を探る。 復習:楽曲で使われるクロスフィンガリングの練習をする。
第12回	ソプラノリコーダーを加えた合奏Ⅱ・・・・テナーリコーダーを用いてソプラノのバロック式運指を確認。ソプラノ(テナー)とアルト(バス)の編成の楽曲を練習する。(「聖アントニー・コラール」)	予習:「聖アントニー・コラール」をソプラノ、アルト両方の運指で譜読みをする。 復習:クロスフィンガリングにとらわれて息遣い、タンギングなどの基本奏法が乱れていないか確認する。
第13回	アルトリコーダーの合奏Ⅲ・・・・アルトリコーダーのみの様々な編成の楽曲に挑戦する。(「風のとおり道」「キエフの大門」「大きな古時計」)	予習:多くの楽曲を演奏するため、譜読みを徹底する。 復習:楽曲内に出てきた派生音を抜き出し、運指を確認する。
第14回	発表会課題曲の演奏上のポイント・・・・強弱の表現方法、適切なアーティキュレーション等、試験曲の評価ポイントの確認。	予習:発表会課題曲を選択し練習する。 復習:選択した楽曲の演奏上のポイントを書き出し、繰り返し練習する。
第15回	発表会	予習:発表会課題曲の演奏上のポイントを確認し、余裕を持って表現できるように練習する。 復習:様々なジャンルの音楽にアルトリコーダーで挑戦してみる。

履修対象・条件	合奏B（和楽器を含む）	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	3
担当教員	金子　健治	履修対象・条件	教職課程履修者は必修				

【授業の概要】

合奏は教職の単位として必修科目です。教育実習や実際の教育現場において必要なアルトリコーダーの基本奏法を確認し、そこにソプラノ、テナー、バスを重ねた簡単な合奏から、ソプラニーノ、コントラバスを加えた本格的なリコーダー・オーケストラのスタイル、また和楽器・打楽器を加えて出来る簡単な合奏まで、直ぐに授業で役立つ合奏法を体験していきます。そして、単に中学・高校の授業内容にとどまらず、世界の様々なジャンルの名曲に触れることにより、リコーダーを通して様式による表現方法の相違点を学習していきます。

【授業の到達目標】

・リコーダーの基本的な奏法(息遣い、タンギング、運指 他)をマスターし、それぞれの留意点を説明することができる。
・各リコーダーの運指の切り替えがスムーズにでき、教科書の楽曲を余裕を持って合奏することができる。
・日本の笛の奏法との相違点を吹き分けることができる。
・簡単な打楽器を効果的に合奏に取り入れることができる。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式による・・・教科書・教則本に掲載されている楽曲を、パート割をし、仕上げていきます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

合奏を指導するための授業ではありますが、最低限必要なソプラノ・アルトリコーダーの基本奏法は各々マスターしなければなりません。ソプラノリコーダー(バロック式)、アルトリコーダーを各自用意し、十分な準備・予習をして臨んでください。最終的には8種類のリコーダーを、また様々な打楽器、和楽器を体験することになります。初めての楽器でも積極的に取り組んでください。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・各項目毎に担当楽器・パートを決め、合奏を仕上げていく形式を取り、その中での理解度・完成度をチェックし評価する。
・試験は、4名のアンサンブルを組み、指定した数曲の四重奏の中から1曲を選び、受講生の前で演奏する(発表会形式)。
【各項目毎の完成度70%、前期末試験30%】

教科書	New Recorder Library	著者等	金子 健治	出版社	教育出版社
教科書	いきいきリコーダー　アンサンブル編	著者等	金子 健治	出版社	全音楽譜出版社
参考文献	中学器楽　音楽のおくりもの	著者等	金子 健治　他	出版社	教育出版社
参考文献	中学生の器楽	著者等	吉澤　実　他	出版社	教育芸術社

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	アルトリコーダーの基本奏法の確認・・・・前期の基本奏法の復習。(前期試験曲、名曲旋律集)	予習：一通り運指(派生音も含めて)を確認する。 復習：試験曲(選択していない曲も含めて)を練習し、基本奏法を確認する。
第2回	四声の合奏の基礎Ⅰ・・・・左手の音域を使った合奏。テナー、バスに慣れる。(「マーチ」「ファンファーレ」「さすらい」)	予習：「マーチ」「ファンファーレ」「さすらい」の譜読みをソプラノ・アルトを使ってする。 復習：4種類の運指を整理する。
第3回	四声の合奏の基礎Ⅱ・・・・右手の低音域を使った合奏。(「月あかりの道」「思い出のクルーズ」)	予習：「New Recorder Library」p18～LESSON 8～を練習し、低音域に慣れておく。 復習：難易度の高い運指部分をピックアップし、練習する。。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第4回	四声の合奏の基礎Ⅲ・・・・高音域まで使った合奏。(「ピタゴラスイッチ」「めぐり逢い」「メロデイーズ・オブ・ライフ」)	予習:「めぐり逢い」「メロデイーズ・オブ・ライフ」の譜読みをする。 復習:苦手な運指をチェックする。
第5回	ルネッサンス時代の舞曲・歌曲・・・・名曲の紹介。当時の管楽器の紹介。(「スザートの舞曲」「バレット」「今こそ別れ」)	予習:ルネッサンス時代に生まれた楽器を調べる。 復習:練習した楽曲をいろいろなアーティキレーションで試奏する。
第6回	バロック時代の合奏曲Ⅰ・・・・時代による装飾法の違い。(「メヌエット」「四季より春」「ブランデンブルグ協奏曲」)	予習:「New Recorder Library」p78～装飾法～を熟読し、「メヌエット」「四季より春」「ブランデンブルグ協奏曲」で簡単な装飾を試してみる。 復習:トリルに必要な替え指を確認する。
第7回	バロック時代の合奏曲Ⅱ・・・・合奏協奏曲、組曲等、典型的なバロック時代の合奏音楽を体験する。(「水上の音楽」)	予習:「水上の音楽」の原曲を聴く。 復習:音楽表現に装飾、アーティキレーションの工夫がどれだけ反映されるかを、整理し、箇条書きにまとめる。
第8回	授業で使えるクラシック名曲集Ⅰ・・・・簡単にできる学年合奏、全校合奏のレパートリー。(「威風堂々」「木星」「カヴァレリア・ルスティカーナ～前奏曲」)	予習:原曲を聴き、大編成での音楽作りを想定し、表現方法をまとめておく。 復習:授業に向く名曲の候補をあげる。
第9回	授業で使えるクラシック名曲集Ⅱ・・・・簡単にできる学年合奏、全校合奏のレパートリー。(「ブラームス・交響曲第一番より」)	予習:「New Recorder Library」裏表紙を参考に、スコアから理想的なパート配分、パート配置を推測する。 復習:大編成の合奏において、使用する音域による演奏効果の違いをまとめる。
第10回	リコーダーによる世界の民族音楽・・・・世界の民族による管楽器の演奏方法の違い。タンギングに焦点を集めて、様々な表現方法を体験する。(「風たちの会話」「サリーガーデン」)	予習:「New Recorder Library」の～てんさぐの花～をタンギングを使わないで練習する。復習:タンギングを使わないことによる表現方法の違いを様々な様式の楽曲で試してみる。
第11回	打楽器を加えた合奏・・・・音楽室にある小物打楽器。授業に使える民族打楽器の紹介。(「さすらい」「ロンド」「ジーグ」)	予習:教材のそれぞれの曲想に合うリズム・パターンを考える。 復習:身近にあるもので、リズムを作り出すことを工夫する。
第12回	和楽器の基礎知識・・・・尺八、篠笛、石笛、三味線、櫓太鼓、締太鼓など、授業で使える和楽器の紹介。西洋と東洋の奏法の違い。(「こきりこ節」「ソーラン節」「八木節」)	予習:「音楽のおくりもの」P30からの和楽器の解説を熟読する。 復習:日本の旋律をタンギングを使わずに、指を打って練習する。
第13回	和楽器を加えた合奏・・・・三味線、締太鼓、櫓太鼓、リコーダーによる合奏。(「からくり絵巻」)	予習:「からくり絵巻」の譜読みを徹底する。 復習:「からくり絵巻」で自分の担当していなかったパートも、他の楽曲に生かせるようにリコーダーや手拍子などで演奏してみる。
第14回	発表会課題曲の演奏上のポイント・・・・強弱の表現方法、適切なアーティキュレーション等、試験曲の評価ポイントの確認。	予習:発表会課題曲を選択し練習する。 復習:選択した楽曲の演奏上のポイントを書き出し、繰り返し練習する。
第15回	発表会	予習:発表会課題曲の演奏上のポイントを確認し、余裕を持って表現できるように練習する。 復習:様々なジャンルの音楽にリコーダーで挑戦してみる。

科目名(クラス)	オペラ研究Ⅰ・ⅡA	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	3・4
担当教員	大島　洋子	履修対象・条件	声楽のKonzertfachは必修。声楽専攻のみ履修可。				

【授業の概要】

オペラの重唱を課題として個々に登場人物の役を振り分け重唱の勉強をする。必ずレチタティーヴォを含みます。独唱と違いパートに分かれて歌うので自分のパートだけでなく相手役のレチタティーヴォも学習します。題材はイタリア語、又はドイツ語なので必ず単語を調べその意味を良く理解しておいて下さい。自分に割り振られた個所だけでなくオペラ全体の筋書きも学習しましょう。

【授業の到達目標】

オペラ研究の授業ではレチタティーヴォと重唱の勉強をします。レチタチーヴォは音符にイタリア語を付けて、喋る様に歌います。最初は慣れなくてスムーズに出来なくても、何度もイタリア語を読み自由にしゃべれる様にする事で、スムーズに歌える様にしましょう。また、これまでの勉強ではほとんど一人で歌う勉強でしたが、オペラ研究では二重唱、三重唱、四重唱と役ごとの歌を重ねてアンサンブルの稽古をします。役ごとの表情、表現を意識して全体の声のバランスを考えて歌える様にしましょう。

【授業の「方法」と「形式」】

少人数に分かれて指揮者、声楽教員と楽譜を読み歌います。また演出が動きをつけ、演技の勉強をします。

【履修時の「留意点」と「心得」】

アンサンブルなので遅刻、欠席をして相手役に迷惑を掛ける事の無い様にして下さい。第一回目の授業はオペラの役柄を決める為の試聴会です。各自で自選の曲を一曲用意して下さい。演技の基礎講座では動きやすい服装で臨んで下さい。

【成績評価の「方法」と「基準」】

前期は音楽のみの試演会。試演会の点数60%、平常の授業に向ける取り組み20%、出席20%を成績評価とします。

教科書	フィガロの結婚	著者等	モーツァルト	出版社	ベーレンライター版
教科書	COSI　FAN　TUTTE	著者等	モーツアルト	出版社	ベーレンライター版
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	試聴会を行い、今後の授業における配役を決める	各自、任意に一曲を選び、予習して臨む
第2回	音楽稽古の開始　イタリア語のレチタチーヴォ（朗唱）を読む	正しくイタリア語を発音する
第3回	音楽稽古の開始　イタリア語のレチタチーヴォ（朗唱）を読む	正しくイタリア語を発音する

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	音楽稽古の開始　イタリア語のレチタチーヴォ（朗唱）を読む	正しくイタリア語を発音する
第5回	音楽稽古　旋律を歌う	正確なリズムを刻み音程を意識して正しくイタリア語で歌う。 与えられた曲を含むオペラ全体を良く理解する
第6回	音楽稽古 旋律を歌う	正確なリズムを刻み音程を意識して正しくイタリア語で歌う
第7回	音楽稽古 旋律を歌う	正確なリズムを刻み音程を意識して正しくイタリア語で歌う
第8回	音楽稽古 レチタティーヴォと重唱を歌う	発声に注意して正しいイタリア語の発語、自分の旋律を意識しながらアンサンブルが出来る様にする
第9回	音楽稽古 レチタティーヴォと重唱を歌う	発音に注意して正しいイタリア語の発語、自分の旋律を意識しながらアンサンブルが出来る様にする レチタチーヴォが音、リズムに束縛され過ぎずに会話として流れる様に家庭で学習
第10回	音楽稽古 レチタティーヴォと重唱を歌う	発声に注意して正しいイタリア語の発語、自分の旋律を意識しながら相手役とアンサンブルが出来ているか、レチタチーヴォのタイミングが会話として成り立っているか確認する
第11回	音楽稽古 レチタティーヴォと重唱を歌う	オペラ全体の筋 を知りその中で与えられた場面の役柄を理解。言葉の意味を良く理解して歌う
第12回	音楽稽古 レチタティーヴォと重唱を歌う	オペラ全体の筋 を知りその中で与えられた場面の役柄を理解。言葉の意味を良く理解して歌う
第13回	音楽稽古 レチタティーヴォと重唱を歌う	オペラ全体の筋 を知りその中で与えられた場面の役柄を理解。言葉の意味を良く理解して歌う
第14回	音楽稽古（レチタティーヴォを歌う）	オペラ全体の筋 を知りその中で与えられた場面の役柄を理解。言葉の意味を良く理解して歌う
第15回	音楽のみの試演会	レチタティーヴォと旋律を暗譜してこれまで学習して来たオペラの場面の状況を踏まえ表情豊かに歌う

科目名(クラス)	オペラ研究Ⅰ・ⅡB	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	3・4
担当教員	大島　洋子	履修対象・条件	声楽のKonzertfachは必修。声楽専攻のみ履修可。				

【授業の概要】

オペラの重唱を課題として役を割り振り、重唱の勉強をします。(必ずレチタティーヴォを含む) 独唱と違いパートに分かれて歌うので、自分のパートだけでなく相手役のパートのレチタティーヴォと旋律も学習します。題材がイタリア語あるいはドイツ語という事も有りますので、単語を調べて意味を理解します。自分に割り振られた部分だけでなくオペラ全体のストーリーも勉強します。立ち稽古に入ってからは歌いながら演じるので演じる事が初めての場合、すぐにスムーズに動く事は出来ないかもしれません。時間を掛けてその役の特徴を掴み安定した歌唱と自然な演技を目指します。

【授業の到達目標】

後期は立稽古が始まります。立稽古は歌いながら演技を付けますが、最初は歌も演技も充分に出来ないかもしれません。前期に引き続き音楽稽古も行いますので、さらに音楽を充実させて、歌う事を意識せずに無理の無い演技が出来る様に稽古を重ねます。後期はグランツ・ザールでの試験となります。ホールでの声の充実とともに舞台の空間を意識して縦横に動けるように稽古を重ねます。

【授業の「方法」と「形式」】

後期には演出家の指示を受けて基礎となる動きを学びオペラの演技に繋げます

【履修時の「留意点」と「心得」】

アンサンブルなので遅刻、欠席をして相手に迷惑を掛けない様に出席して下さい。演技の基礎講座では動きやすい服装、靴で臨んで下さい。また、演技の試演会のGPまでに自分の役柄に相応しい服装を用意します。

【成績評価の「方法」と「基準」】

後期は衣装を付けて、グランツ・ザールで演技付の試演会を行います・ 試演会の点数60%、平常の授業に向ける取り組み20%、出席20%を成績評価とします。

教科書	フィガロの結婚	著者等	モーツァルト	出版社	ベーレンライター版
教科書	COSI　FAN　TUTTE	著者等	モーツアルト	出版社	ベーレンライター版
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	立ち稽古（立ち稽古に当たらない組は音楽稽古）	大まかな立ち位置を確認 与えられた役について理解 相手役のキャラクターについて考察
第2回	立ち稽古（立ち稽古に当たらない組は音楽稽古）	大まかな立ち位置を確認
第3回	立ち稽古（立ち稽古に当たらない組は音楽稽古）	大まかな立ち位置を確認

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	立ち稽古（立ち稽古に当たらない組は音楽稽古）	音楽の見直し 音と言葉を再確認 立ち位置を決め、音楽のタイミングに合わせて細かい演技を決めて行く
第5回	立ち稽古（立ち稽古に当たらない組は音楽稽古）	立ち位置を決め、音楽のタイミングに合わせて細かい演技を決めて行く
第6回	立ち稽古（立ち稽古に当たらない組は音楽稽古）	立ち位置を決め、音楽のタイミングに合わせて細かい演技を決めて行く
第7回	立ち稽古（立ち稽古に当たらない組は音楽稽古）	さらに楽譜を見直し役の性格を掘り下げる 正しい発音を意識、正確な言葉と音程で歌える。キャラクターを自然体で演じる事が出来る
第8回	立ち稽古（立ち稽古に当たらない組は音楽稽古）	正しい発音を意識、正確な言葉と音程で歌える。キャラクターを自然体で演じる事が出来る
第9回	立ち稽古（立ち稽古に当たらない組は音楽稽古）	正しい発音を意識、正確な言葉と音程で歌える。キャラクターを自然体で演じる事が出来る
第10回	立ち稽古（立ち稽古に当たらない組は音楽稽古）	立ち稽古に併せてまだ改善されていない音楽部分を拾い出し学習する
第11回	立ち稽古（立ち稽古に当たらない組は音楽稽古）	ハウフトプローベ、ゲネラルプローベ、本番に向けて自分の役に相応しい衣装を用意する 正しい発声を認識、正確な言葉と音程で歌う。 自分の演じるキャラクターが相手役と噛み合っているか、また全体の流れに添っているか考察
第12回	試演会のHP	大道具、小道具を用意。 衣装を付けてグランツ・ザールで本番の様に演じる ハウプトプローベで使った大道後、小道具、衣装等の見直しをしてゲネラルプローベに臨む
第13回	試演会のGP	大道具、小道具を用意。 衣装を付けてグランツ・ザールで本番の様に演じる ゲネラルプローベで使った大道後、小道具、衣装等の見直しをして本番に臨む
第14回	試演会	大道具、小道具を用意。衣装を着け、メークをしてグランツ・ザールで本番を行う
第15回	纏め	時に応じて立ち振る舞いの稽古、メークの講習、オペラ全般の講義を行う

科目名(クラス)	朗読法A[ドイツ語]	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	山崎　明美	履修対象・条件	声楽専攻のみ履修可。必修。但し、Konzertfach（演奏専攻）は履修不可。				

【授業の概要】

ドイツ語歌唱の基礎、舞台発音としての母音の形成、子音発音を繰り返し演習する。
更に、言葉の明確な表現、詩への深い理解を得ることを演習する。
ドイツ歌曲歌唱の際の「言葉への感性」すなわち、言葉の意味を正しく捉え、適確なイメージをつかみ、情感豊かに表現する能力を養うため演習を中心として講義する。

【授業の到達目標】

ドイツ語歌唱の際に必要となる美しい発音・言葉の明確な表現・詩への深い理解を得る事、
ドイツ語発音の基礎、ドイツ語歌唱の際の基本練習法、歌唱法の基礎を習得することを目標とする。
詩の内容を理解し、詩を暗記して表現することをこの講義の到達目標とする。

【授業の「方法」と「形式」】

講義は演習形式にて行う。また、必要に応じて、DVD，CD等視聴覚機器を使用する。

【履修時の「留意点」と「心得」】

講義である。各自そのことを踏まえて授業に臨むことが必要である。
・各自が課題をこなし、常に積極的に取り組む事が必要である。
・復習を確実に行う事。

【成績評価の「方法」と「基準」】

1．提出されたレポート（35%）{レポートは採点します。}
2．授業への取り組み（35%）{同上
3．学期末の試験（30%）{同上}
・上記1．2．3．全ての要素がそろっていること。

教科書	・教科書は用いない。適宜、資料を授業内で配布	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	・参考文献は授業の中で紹介する。	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	ドイツ語発音の基礎　1 ・母音発音の基礎、特徴的発音の習得	復習：ドイツ語歌唱の際に重要となる、ドイツ語の母音を確立させること。変母音の習得。舞台語としての発音。
第2回	ドイツ語発音の基礎　2 ・子音発音の基礎、特徴的発音の習得	復習：ドイツ語子音発音の調音点を理解すること。特徴的子音の発音の理解すること。
第3回	ドイツ語発音の基礎　3　綴り字と発音	復習：ドイツ語の綴り字と発音の理解・習得する。 予習：詩人ゲーテについてのレポートをまとめる。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	ゲーテの詩を読む ・ゲーテについて基本知識を得る。詩の朗読。	復習:ドイツ歌曲の分野においても重要な詩人ゲーテの基本的知識を得る。 予習:Nur wer die Sehnsucht kenntの楽譜を用意する。
第5回	Nur wer die Sehnsucht kennt	復習：多くの作曲家によって作曲されてきた「ミニョンの歌」の一つであることを理解し、正しく発音できるようにする。 予習:Das Veilchenの楽譜を用意する。
第6回	Das Veilchen	復習：正しく発音する事はもちろん、言葉の内容を理解し、情景をイメージしながら朗読することを目標とする。 予習:Erlkönigの楽譜を用意する。
第7回	Erlkönig	復習：正しく発音する事はもちろん、言葉の内容を理解し、情景をイメージしながら朗読することを目標とする。 登場人物の心情を表現する。 予習:日本語の詩を選択する。
第8回	日本語の詩を朗読 ・日本語の詩を朗読する事を通して、朗読表現とは何かを探る。	復習：第6回、第7回の講義で目標とした内容の理解、情景のイメージ、心情のイメージを母国語である日本語の朗読を通して把握することを目標とする。 予習：ハイネについてのレポートをまとめる。
第9回	ハイネの詩を読む ・ハイネについて基本知識を得る。詩の朗読	復習：多くの作曲家によって作曲されているハイネについての基礎知識を得る。 予習:Dichterliebeの楽譜を用意する。
第10回	“Dichterliebe” より	復習：連作歌曲集「詩人の恋」を取り上げ、美しく的確な発音、内容を理解して表現する事を演習する。
第11回	“Dichterliebe” より	復習：第１０回の講義の内容をさらに進める。
第12回	“Die Myrten” より	復習：歌曲集「ミルテの花」を取り上げ、美しく的確な発音、内容を理解して表現する事を演習する。 予習:各自朗読する詩を用意する。
第13回	各自詩を朗読　1 ・まとめに向けて各自2編を選び朗読。	復習：本科目の目的であるドイツ語の美しい発音、情感豊かに表現すすることを繰り返し演習する。
第14回	各自詩を朗読　1 ・まとめに向けて各自2編を選び朗読。	復習：・内容を理解して朗読できているか確認しながら、いかに朗読するかを工夫する。
第15回	本科目の総括	復習：本科目の到達目的であるドイツ語の美しい発音、情感豊かに表現する事を達成出来たかを確認する。

科目名(クラス)	朗読法B〔イタリア語〕	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	伊藤　和広	履修対象・条件	声楽専攻のみ履修可。必修。【Konzertfach(演奏専攻)は履修不可】				

【授業の概要】

歌唱の際、言葉の意味や詩の内容を充分に理解していることは当然だが、それらをその言語の持つ独自のリズムや正しい発音で表現することは極めて重要なことである。この授業では、歌曲とオペラを題材に、イタリア語の持つ言葉の流れの感覚を養い、7つの母音、様々な子音、音節、アクセントを正しく習得する。更には、文法も正しく理解することにより、的確な感情表現が出来るよう、舞台発音法を用いた朗読を繰り返し実践していく。

授業の到達目標

イタリア語の詩を、正しく的確な発音と感情表現で朗読が出来る。授業で学んだ以外の詩でも応用し、歌唱の際に実践出来る。

【授業の「方法」と「形式」】

各回の授業では、説明や実演に加え、CD等機器を使用することもありますが、可能な限り朗読を実践していきます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

毎回新しいことを学びますので、遅刻・欠席・早退をしないようにして下さい。朗読ですから感情が伴わなければなりませんので、常に積極的に取り組んでください。教材に関しては、印刷物を毎回配布します。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業への積極性(発言内容、課題への取り組みなど)及び各回の授業内での理解度・習得度を50%、最終回での試験を50%とします。

教科書	イタリア歌曲集、トスティ歌曲集	著者等		出版社	全音楽譜出版社
教科書	歌劇「フィガロの結婚」ヴォーカルスコア	著者等		出版社	ベーレンライター
参考文献	Linea diretta 1	著者等		出版社	Guerra出版社
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	イタリア語発音の基礎、イタリア語の持つリズム、発音の実践	予習:これまでに学んできたイタリア語の教科書や詩を読み返しておく。 復習:イタリア語発音の基礎を理解し、イタリア語の持つリズムで発音する。
第2回	le vocali(母音)7種類と　le consonanti(子音)の基礎　特に難しいものを繰り返し実践	予習:イタリアについて辞典で調べ、前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。 復習:授業で学んだ難しい発音等を各々試す。
第3回	e の閉口音と開口音、o の閉口音と開口音、u 母音、様々な子音　特に難しいものを繰り返し実践	予習:前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。 復習:日本人にとって難しい母音と子音を各々試し、習得する。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	長母音と短母音、troncamento（語尾切断）、sillaba（音節）、accento（アクセント）　特に難しいものを繰り返し実践	予習：前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。 復習：授業で学んだ難しい発音等を各々試し、アクセントの感覚を身につける。
第5回	i dittonghi（二重母音）と iato（分離母音）、難しい子音の徹底　特に難しいものを繰り返し実践	予習：前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。 復習：授業で学んだ難しい発音等を各々試し、母音、子音の細やかな違いを理解する。
第6回	Caro mio ben　基本文法のおさらい　特に難しい部分を繰り返し実践	予習：前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。 復習：授業で学んだ詩を各々読み、正しい発音、言葉の流れで朗読する。
第7回	Nel piu non mi sento　大切な言葉を明確に　特に難しい部分を繰り返し実践	予習：前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。　復習：授業で学んだ詩を各々読み、正しい発音、言葉の流れで朗読する。
第8回	L'ultima canzone　日本語訳でも朗読　特に難しい部分を繰り返し実践	予習：前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。 復習：授業で学んだ詩を各々読み、正しい発音、言葉の流れで朗読する。
第9回	Voi che sapete～“Le nozze di Figaro”　日本語訳でも朗読　特に難しい部分を繰り返し実践	予習：前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。 復習：授業で学んだ詩を各々読み、正しい発音、言葉の流れで朗読する。
第10回	la metrica（韻律法）、表現する発音へ、古語や方言　特に難しい部分を繰り返し実践	予習：前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。 復習：授業で学んだ詩を各々読み、la metrica（韻律法）を理解した上で表現する。
第11回	文法を理解しながらオペラのrecitativo secco “Le nozze di Figaro”より　特に難しい部分を繰り返し実践	予習：“Le nozze di Figaro”のrecitativo seccoを聴く。 復習：学んだ文法を理解し、感情を込めて朗読する。
第12回	“Le nozze di Figaro”より　特に難しい部分を繰り返し、言葉のキャッチボールを実践	予習：“Le nozze di Figaro”のrecitativo seccoを聴く。 復習：繰り返し実践する。
第13回	“Le nozze di Figaro”より　特に難しい部分を繰り返し実践	予習：前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。 復習：繰り返し実践する。
第14回	“Le nozze di Figaro”より　特に難しい部分を繰り返し実践	予習：前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。 復習：繰り返し実践する。
第15回	まとめ　試験	予習：前回の授業で学んだ内容の要点をまとめ、繰り返し実践する。 復習：授業で学んだ以外の詩でも応用し、歌唱の際に実践する。

科目名(クラス)	朗読法ＩＡ (Konzertfach(演奏専攻)・イタリア語)	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	伊藤　和広	履修対象・条件	声楽のKonzertfach(演奏専攻)のみ履修可。必修。				

【授業の概要】

歌唱の際、言葉の意味や詩の内容を充分に理解していることは当然だが、それらをその言語の持つ独自のリズムや正しい発音で表現することは極めて重要なことである。この授業では、歌曲とオペラを題材に、イタリア語の持つ言葉の流れの感覚を養い、7つの母音、様々な子音、音節、アクセントを正しく習得する。更には、文法も正しく理解することにより、的確な感情表現が出来るよう、舞台発音法を用いた朗読を繰り返し実践していく。

授業の到達目標

イタリア語の詩を、正しく的確な発音と感情表現で朗読が出来る。授業で学んだ以外の詩でも応用し、歌唱の際に実践出来る。

【授業の「方法」と「形式」】

各回の授業では、説明や実演に加え、CD等機器を使用することもありますが、可能な限り朗読を実践していきます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

毎回新しいことを学びますので、遅刻・欠席・早退をしないようにして下さい。朗読ですから感情が伴わなければなりませんので、常に積極的に取り組んでください。教材に関しては、印刷物を毎回配布します。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業への積極性(発言内容、課題への取り組みなど)及び各回の授業内での理解度・習得度を50%、最終回での試験を50%とします。

教科書	イタリア歌曲集、トスティ歌曲集	著者等		出版社	全音楽譜出版社
教科書	歌劇「フィガロの結婚」ヴォーカルスコア	著者等		出版社	ベーレンラーター
参考文献	Linea diretta 1	著者等		出版社	Guerra出版社
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	イタリア語発音の基礎、イタリア語の持つリズム、発音の実践	予習:これまでに学んできたイタリア語の教科書や詩を読み返しておく。 復習:イタリア語発音の基礎を理解し、イタリア語の持つリズムで発音する。
第2回	同上	同上
第3回	le vocali(母音)7種類と　le consonanti(子音)の基礎　特に難しいものを繰り返し実践	予習:イタリアについて辞典で調べ、前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。 復習:授業で学んだ難しい発音等を各々試す。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	同上	同上
第5回	e の閉口音と開口音、o の閉口音と開口音、u 母音、様々な子音　特に難しいものを繰り返し実践	予習：前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。 復習：日本人にとって難しい母音と子音を各々試し、習得する。
第6回	同上	同上
第7回	長母音と短母音、troncamento（語尾切断）、sillaba（音節）、accento（アクセント）　特に難しいものを繰り返し実践	予習：前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。 復習：授業で学んだ難しい発音等を各々試し、アクセントの感覚を身につける。
第8回	同上	同上
第9回	i dittonghi（二重母音）と iato（分離母音）、難しい子音の徹底　特に難しいものを繰り返し実践	予習：前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。 復習：授業で学んだ難しい発音等を各々試し、母音、子音の細やかな違いを理解する。
第10回	同上	同上
第11回	Caro mio ben　基本文法のおさらい　特に難しい部分を繰り返し実践	予習：前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。 復習：授業で学んだ詩を各々読み、正しい発音、言葉の流れで朗読する。
第12回	同上	同上
第13回	Nel piu non mi sento　大切な言葉を明確に　特に難しい部分を繰り返し実践	予習：前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。 復習：授業で学んだ詩を各々読み、正しい発音、言葉の流れで朗読する。
第14回	同上	同上
第15回	まとめ　試験	予習：前回の授業で学んだ内容の要点をまとめ、繰り返し実践する。 復習：授業で学んだ以外の詩でも応用し、歌唱の際に実践する。

科目名(クラス)	朗読法ＩＢ (Konzertfach(演奏専攻)・イタリア語)	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	伊藤　和広	履修対象・条件	声楽のKonzertfach(演奏専攻)のみ履修可。必修。				

【授業の概要】

歌唱の際、言葉の意味や詩の内容を充分に理解していることは当然だが、それらをその言語の持つ独自のリズムや正しい発音で表現することは極めて重要なことである。この授業では、歌曲とオペラを題材に、イタリア語の持つ言葉の流れの感覚を養い、7つの母音、様々な子音、音節、アクセントを正しく習得する。更には、文法も正しく理解することにより、的確な感情表現が出来るよう、舞台発音法を用いた朗読を繰り返し実践していく。

授業の到達目標

イタリア語の詩を、正しく的確な発音と感情表現で朗読が出来る。授業で学んだ以外の詩でも応用し、歌唱の際に実践出来る。

【授業の「方法」と「形式」】

各回の授業では、説明や実演に加え、CD等機器を使用することもありますが、可能な限り朗読を実践していきます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

毎回新しいことを学びますので、遅刻・欠席・早退をしないようにして下さい。朗読ですから感情が伴わなければなりませんので、常に積極的に取り組んでください。教材に関しては、印刷物を毎回配布します。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業への積極性(発言内容、課題への取り組みなど)及び各回の授業内での理解度・習得度を50%、最終回での試験を50%とします。

教科書	イタリア歌曲集、トスティ歌曲集	著者等		出版社	全音楽譜出版社
教科書	歌劇「フィガロの結婚」ヴォーカルスコア	著者等		出版社	ベーレンライター
参考文献	Linea diretta 1	著者等		出版社	Guerra出版社
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	L'ultima canzone　日本語訳でも朗読　特に難しい部分を繰り返し実践	予習:朗読法1Aで学んだ内容の要点をまとめる。 復習:授業で学んだ詩を各々読み、正しい発音、言葉の流れで朗読する。
第2回	同上	同上
第3回	Voi che sapete～“Le nozze di Figaro”　日本語訳でも朗読　特に難しい部分を繰り返し実践	予習:前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。 復習:授業で学んだ詩を各々読み、正しい発音、言葉の流れで朗読する。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	同上	同上
第5回	la metrica（韻律法）、表現する発音へ、古語や方言　特に難しい部分を繰り返し実践	予習：前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。 復習：授業で学んだ詩を各々読み、la metrica（韻律法）を理解した上で表現する。
第6回	同上	同上
第7回	文法を理解しながらオペラのrecitativo secco “Le nozze di Figaro”より　特に難しい部分を繰り返し実践	予習：“Le nozze di Figaro”のrecitativo seccoを聴く。 復習：学んだ文法を理解し、感情を込めて朗読する。
第8回	同上	同上
第9回	“Le nozze di Figaro”より　特に難しい部分を繰り返し、言葉のキャッチボールを実践	予習：“Le nozze di Figaro”のrecitativo seccoを聴く。 復習：繰り返し実践する。
第10回	同上	同上
第11回	“Le nozze di Figaro”より　特に難しい部分を繰り返し実践	予習：前回の授業で学んだ内容の要点をまとめる。 復習：繰り返し実践する。
第12回	同上	同上
第13回	同上	同上
第14回	まとめ	同上
第15回	試験	予習：前回の授業で学んだ内容の要点をまとめ、繰り返し実践する。 復習：授業で学んだ以外の詩でも応用し、歌唱の際に実践する。

科目名(クラス)	朗読法ⅡA 【Konzertfach(演奏専攻)・ドイツ語】	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	武藤　直美	履修対象・条件	声楽のKonzertfach(演奏専攻)のみ履修可。必修。				

【授業の概要】

如何にして舞台から明瞭な言語を届けることができるかは声楽を学ぶにあたり必須のテーマである。芸術歌曲を題材に、詩の持つ美しさを理解し、歌うためのドイツ語の正しい発音を身につける。詩と音楽の融合、詩人と作曲家についても勉強する。

【授業の到達目標】

歌うためのドイツ語の発音を確実に身につける。 詩の持つ美しさを理解し朗読できる。 詩人と作曲家についての知識を高める。

【授業の「方法」と「形式」】

授業は演習形式で行う。

【履修時の「留意点」と「心得」】

遅刻、欠席はせず、積極的に授業に取り組むこと。予習、復習は行うこと。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業における発音能力の進歩具合50%　期末試験50%とする。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	ドイツ語発音の基礎、Vokale　母音ー長(短)母音	復習-授業で演習したことを繰り返し練習する
第2回	ドイツ語発音の基礎、Konsonanten　子音	復習-授業で演習したことを繰り返し練習する
第3回	同上	同上

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	ドイツ語発音の基礎、Rhythmus　韻律と　Dynamik　強弱法	復習-授業で演習したことを繰り返し練習する
第5回	同上	予習-次回の授業で行うテキストの単語の意味、発音記号を調べる 復習−授業で演習したことを繰り返し練習する
第6回	Heidenroeslein	予習-次回の授業で行うテキストの単語の意味、発音記号を調べる 復習−授業で演習したことを繰り返し練習する
第7回	Gretchen　am　Spinnrade	予習−ゲーテとシューベルトについて調べる 復習−授業で演習したことを繰り返し練習する
第8回	Gretchen　am　Spinnrade　　ゲーテとシューベルト	予習-次回の授業で行うテキストの単語の意味、発音記号を調べる 復習−授業で演習したことを繰り返し練習する
第9回	Ganymed	復習-授業で演習したことを繰り返し練習する
第10回	同上	予習-次回の授業で行うテキストの単語の意味、発音記号を調べる 復習−授業で演習したことを繰り返し練習する
第11回	Die　Lotusblume	予習-次回の授業で行うテキストの単語の意味、発音記号を調べるハイネについて調べる 復習−授業で演習したことを繰り返し練習する
第12回	Die　Lotusblume　　Du　bist　wie　eine　Blme　　ハイネ	予習-次回の授業で行うテキストの単語の意味、発音記号を調べる　シューマンについて調べる 復習−授業で演習したことを繰り返し練習する
第13回	Widmung　　シューマン	予習-次回の授業で行うテキストの単語の意味、発音記号を調べる　リュッケルトについて調べる 復習−授業で演習したことを繰り返し練習する
第14回	Aus　den　oestlichen　Rosen　　リュッケルト	
第15回	まとめ	

科目名(クラス)	朗読法ⅡB 【Konzertfach(演奏専攻)・ドイツ語】	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	武藤　直美	履修対象・条件	声楽のKonzertfach(演奏専攻)のみ履修可。必修。				

【授業の概要】

如何にして舞台から明瞭な言語を届けることができるかは声楽を学ぶにあたり必須のテーマである。芸術歌曲では詩の持つ美しさを理解し、オペラでは登場人物の心情をイメージしながら台詞を自然に美しく発音できるようにする。

【授業の到達目標】

歌うためのドイツ語の発音を確実に身につける。 詩の持つ美しさを理解し朗読できる。 舞台から明瞭なドイツ語を届けることができるよう、内容を理解したうえで表現できる。

【授業の「方法」と「形式」】

授業は演習形式で行う。DVDなどの視聴覚器を必要時に用いる。

【履修時の「留意点」と「心得」】

遅刻、欠席はせず、積極的に授業に取り組むこと。予習、復習は行うこと。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業における発音能力の進歩具合50%　期末試験50%とする。

教科書	オペラ「魔笛」ヴォーカルスコア	著者等		出版社	ベーレンライター
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	「Liederkreis」Op. 39　より	予習-次回の授業で行うテキストの発音記号と内容を調べる リーダクライスとアイヒェンドルフについて調べる
第2回	「Liederkreis」Op. 39　より　　アイヒェンドルフ	予習-次回の授業で行うテキストの単語の意味、発音記号を調べる 復習-授業で演習したことを繰り返し練習する
第3回	「Liederkreis」Op. 39　より	予習-次回の授業で行うテキストの単語の意味、発音記号を調べる 復習-授業で演習したことを繰り返し練習する

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	「Liederkreis」Op. 39　より	予習-次回の授業で行うテキストの単語の意味、発音記号を調べる 復習-授業で演習したことを繰り返し練習する
第5回	同上	同上
第6回	「Liederkreis」Op. 39　より	予習-次回の授業で行うテキストの単語の意味、発音記号を調べる 復習-授業で演習したことを繰り返し練習する
第7回	同上	復習-第一回の授業より演習したことを繰り返し練習する
第8回	第1回からのまとめ	予習-オペラ「魔笛」の内容、モーツァルトについて調べる
第9回	「Die　Zauberfloete」　　モーツァルト	復習-授業で演習したことを繰り返し練習する
第10回	「Die　Zauberfloete」より登場人物の台詞を抜粋し演習	復習-授業で演習したことを繰り返し練習する
第11回	同上	同上
第12回	「Die　Zauberfloete」より日本語での台詞演習	予習-授業での演習を生かし言語で繰り返し練習する
第13回	「Die　Zauberfloete」より　言語での台詞を暗記	
第14回	同上	
第15回	第9回からのまとめ	

科目名(クラス)	ピアノアンサンブルA	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	田中　梢	履修対象・条件	ピアノ専攻のみ履修可				

【授業の概要】

ピアノアンサンブルの演奏を通じて、共演者と呼吸を合わせること、お互いの音を聴き合い音楽を作り上げることを学ぶ。
シューベルト・ブラームス・ドヴォルザークの楽曲を通じて室内楽演奏を基礎を学ぶ。

【授業の到達目標】

シューベルト・ブラームス・ドヴォルザークからそれぞれの課題曲を弾けるようになること。
作曲家のそれぞれの特性を知る。
パートナーとアンサンブルするテクニックを身に着ける。

【授業の「方法」と「形式」】

二人一組でパートナーを作り、与えられた課題をこなしてゆく。組ごとの到達度によってより多くの課題曲をこなしてゆく。

【履修時の「留意点」と「心得」】

パートナーがいなければ成り立たない授業であるので、お互いを思いやる心を忘れずに。
各々が欠席せずに必ず練習してくること。
又各組の力量と到達度によって、シラバスは流動的になります。

【成績評価の「方法」と「基準」】

前期の試演会の演奏評価30%。
出席率と授業への積極性70%。

教科書	その都度用意、又はその都度指示します。	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	アンサンブルの心得を学習する 音楽を使った自己紹介とパートナー決め	復習:アンサンブルの心得を読む
第2回	小品によるアンサンブル演習	予習:選んだ課題曲の音取りとパートナー合わせ 復習:アンサンブルの基本を身に着ける
第3回	シューベルトの連弾曲	予習:音源を聴く、課題曲をさらう、パートナーと合わせる 復習:シューベルトについて理解する

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	ブラームスの「ワルツ集」より	予習:音源を聴く、課題曲をさらう、パートナーと合わせる 復習：ブラームスの音楽、ワルツについて理解する
第5回	同上	同上
第6回	ブラームスの「ハンガリア舞曲集」より	予習：音源を聴き、曲を選び譜読みしてパートナーと合わせる 復習：ブラームスについてさらに理解してハンガリア音楽についても学ぶ
第7回	同上	同上
第8回	同上	同上
第9回	ドヴォルザークの「スラブ舞曲」	予習:音源を聴いて曲を選び、譜読みをしてパートナーと合わせる 復習:ドヴォルザークについて、スラブ音楽について理解する
第10回	同上	同上
第11回	自由課題曲	予習：パートナーと演奏したい曲を探して譜読みしパートナーと合わせる 復習：音源を聴く
第12回	同上	予習:パートナーと合わせる 復習：楽曲をさらに理解する
第13回	同上	予習：パートナーと合わせ楽曲を深める 復習：楽曲を完成させる
第14回	前期試演会ゲネプロ	予習：前期にやった楽曲の中から試演会の曲を選ぶ 復習：試演会に向けて完成させる
第15回	前期試演会	予習：試演会に向けて完成させる 復習：批評を熟読して次に生かす

科目名(クラス)	ピアノアンサンブルB	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	田中　梢	履修対象・条件	ピアノ専攻のみ履修可				

【授業の概要】

ピアノアンサンブルの演奏を通じて共演者と呼吸を合わせること、お互いの音を聴き合い音楽を作り上げることを学ぶ。
サンサーンス・ドビュッシー・フォーレ・ラヴェル・プーランクなどのフランス音楽家のアンサンブル曲を学び、フランス音楽への理解とそれぞれの作曲家への理解を深める

【授業の到達目標】

それぞれの組で選んだ課題曲を完成させる
自由課題では2台ピアノも演奏できるようになる

【授業の「方法」と「形式」】

お互いにパートナーを選んで組を作り与えられた課題をこなしてゆく
組ごとの到達度によってそれぞれに合った課題を選ぶ

【履修時の「留意点」と「心得」】

パートナーがいなければ成り立たない授業であるので、お互いを思いやる心を忘れずに。
各々が欠席せずに必ず練習してくること。
又各組の力量と到達度によって、シラバスは流動的になります。

【成績評価の「方法」と「基準」】

前期の試演会の演奏評価30%。
出席率と授業への積極性70%。

教科書	その都度指示	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	パートナーを決める サン＝サーンス「動物の謝肉祭」の音源を聴く	復習：演奏する楽曲を選び音源を聴く
第2回	サン＝サーンス「動物の謝肉祭」	予習：選んだ楽曲の譜読みとパートナー合わせ 復習：サン＝サーンスの音楽を理解する
第3回	同上	同上

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	同上	同上
第5回	ドビュッシー・フォーレ・ラヴェル・プーランクなどのフランスの作曲家の連弾曲あるいは2台ピアノ	予習：フランスの作曲家のアンサンブル曲を知り楽曲を選び譜読みをしてパートナーと合わせる 復習：選んだ作曲家について理解する
第6回	同上	予習：選んだ楽曲の譜読みをしてパートナーと合わせる 復習：選んだ作曲家について楽曲について理解する
第7回	同上	同上
第8回	同上	同上
第9回	自由課題	予習：やりたい楽曲を選び音源を聴く 復習：選んだ楽曲への理解を深める
第10回	同上	予習：選んだ楽曲への理解を深めパートナーと合わせる 復習：選んだ楽曲への理解を深める
第11回	同上	同上
第12回	クリスマスのアンサンブル曲	予習：クリスマスのアンサンブル曲を選び譜読みをしてパートナーと合わせる 復習：クリスマスの音楽への理解を深める
第13回	ぐるぐるピアノなど	予習：課題を譜読みする 復習：様々なアンサンブルの楽しさに対して理解を深める
第14回	後期試演会ゲネプロ	予習：試演会で弾く曲を選びパートナーと合わせる 復習：注意されたことを反省する
第15回	後期試演会	予習：パートナーと合わせる 復習：批評を読み反省する

科目名(クラス)	チェンバロ研究ＩA	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	3
担当教員	梶山　希代	履修対象・条件	ピアノ専攻科目				

【授業の概要】

・西洋音楽を学ぶ者にとって特に器楽音楽が発展したバロック時代を識ることは重要である。音楽は各時代の歴史的背景や美学と強く結びついているものであり、その音楽が生まれた源泉を識ることは演奏実践の知的裏付けにもつながる。よってこの授業では16世紀後半から18世紀末(ルネサンス～バロック時代)、およそ250年にわたりヨーロッパ各地で愛好された撥弦楽器チェンバロについて、構造・様式・歴史的背景等多角的な面から取り上げる。
・講義に加えて、撥弦楽器のタッチに親しむための実技演習も行う。またバロック時代の鍵盤作品へのアプローチの仕方、そのバックグラウンドとなる同時代の美学についても考察する。
・今年度は主にF.クープラン、J.S.バッハ他18世紀の簡易な鍵盤作品を課題に取り上げる。

【授業の到達目標】

・ピアノとの奏法および鍵盤語法の違いを理解し、チェンバロのタッチに親しむ。
・チェンバロ作品の時代に即した様式感を身につける。

【授業の「方法」と「形式」】

講義と演習形式。可能な限り楽器に触れる時間を取りながら、学生間のディスカッションも行う。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・受講者の積極性と任意性を最重要視。
・実技課題は毎回充分な準備の上、授業に臨むこと。
・質問・意見は活発に。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・実技試験50%。
・授業への積極性(実技課題への取り組み方、質問や感想等の自発的発言の有無、教師からの問いかけに対する反応)50%。
・発言および反応無しの受身の姿勢が目立つ者は評価されない。

教科書	使用しない。	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	必要に応じ資料配布	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	チェンバロという楽器に関する予備知識調査。授業の全貌についての説明、楽器の取り扱い方の注意	予習:シラバスを読み各回の内容を把握した上で、意識調査のため自分が特に興味があり知りたい点について発言できるよう準備しておく。 復習:チェンバロの取り扱い方の注意点を理解する。
第2回	チェンバロとは何か、そのルーツと楽器の構造	予習:鍵盤楽器の簡単な歴史について調べる。 復習:チェンバロの構造についてまとめる。
第3回	チェンバロの発音原理	予習:楽器の構造について、前回説明した必要最低限の名称と機能をまとめておく。 復習:チェンバロの発音アクションを把握する。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	チェンバロのタッチとアーティキュレイション	予習：アーティキュレイションとフレージングの違いについて調べる。 復習：チェンバロにおけるアーティキュレイションの意味と必要性をまとめる。
第5回	バロック時代のチェンバロ以外の撥弦鍵盤楽器	予習：バロック時代、チェンバロの他にどのような鍵盤楽器があったか調べる。 復習：授業で取り上げた各鍵盤楽器の形状の違いと、その特徴をまとめる。
第6回	楽器の変遷とピリオド楽器の復興	予習：現代の音楽界におけるピリオド楽器の位置付けについて調べる。 復習：ピリオド楽器の主な特徴を把握する。
第7回	チェンバロの様式①初期イタリア	予習：音楽史上におけるイタリアの重要なトピックを調べる。 復習：初期イタリアのチェンバロの音色、イメージをまとめる。
第8回	チェンバロの様式②初期フランドル	予習：フランドルとはどの地域を指すか調べる。 復習：初期イタリアのチェンバロとの音色の違いを把握する。
第9回	チェンバロの様式③後期フランドル	予習：フランドル地方の文化的特徴を調べる。 復習：チェンバロ製作の歴史上、二大様式であるイタリアとフランドルの特徴をまとめる。
第10回	チェンバロの様式④フランス	予習：フランス革命前後の歴史を調べる。 復習：オリジナル楽器の音を通して、フランスのチェンバロの音色のイメージと特徴をまとめる。
第11回	チェンバロの様式⑤ドイツ	予習：前回までに取り上げた各楽器の特徴をまとめておく。 復習：授業で紹介したドイツのチェンバロの特徴を把握する。
第12回	チェンバロの様式⑥イギリス	予習：産業革命までのイギリスの大まかな歴史を調べる。 復習：様式について取り上げた①～⑥までの内容をまとめる。
第13回	実技演習①主に18世紀の簡易な鍵盤作品を弾く	予習：バロック時代の主な作曲家と代表的な鍵盤作品について調べる。 復習：授業で弾いた作品の適切なタッチと相応しいアーティキュレイションを把握。
第14回	実技演習②J.S.バッハ「アンナ・マグダレーナ・バッハの音楽帳」よりメヌエット他	予習：「アンナ・マグダレーナ・バッハの音楽帳」の成立過程を調べる。 復習：課題として取り上げた各舞曲のビート感を把握。
第15回	まとめ	予習：各回のテーマを振り返る。 復習：授業で弾いた作品の語法、アーティキュレイションを基に、他の作品においても各自の表現で応用できるよう実践していく。

科目名(クラス)	チェンバロ研究ＩＢ	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	3
担当教員	梶山　希代	履修対象・条件	ピアノ専攻科目				

【授業の概要】

・チェンバロ演奏においては様式感に基づいた装飾や即興の実践が必要不可欠となる。そのための最低限の装飾の種類と名称を理解し、実技演習の中で実践する。
・チェンバロは奏者が自分で調律をする楽器であるため、簡単な調律実習を行う。
・バロック音楽を学ぶ上で、その土台となる通奏低音の知識が欠かせないことから、数字付き低音による伴奏法の基礎を学ぶ。

【授業の到達目標】

・チェンバロのタッチに慣れ、バロック音楽の語法について理解を深める。
・簡単な数字付き低音課題のリアリゼイションを実践できるようになる。

【授業の「方法」と「形式」】

講義と実技演習形式。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・課題の難易度も上がるため、充分な準備を必要とする。
・各回のテーマに真剣に取り組むことを求める。準備不足の者は出席を認めない。

【成績評価の「方法」と「基準」】

学年末定期試験
・実技70%
・授業への参加度(積極性)30% 判断基準はチェンバロ研究ＩＡに準じる。

教科書	使用しない。	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	必要に応じ資料配布。	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	後期授業の概要について。前期授業のテーマに関する意識調査	予習：前期授業の内容についての感想や疑問点等を整理しておく。 復習：後期授業でさらに知りたい点などをまとめる。
第2回	チェンバロ音楽における装飾の種類と名称	予習：バロック期の鍵盤作品を弾く際の、既習の装飾音について調べる。 復習：授業で取り上げた17世紀と18世紀の装飾の違いを把握。
第3回	装飾の実践①18世紀フランスの実例	予習：前回紹介した作曲家ごとの装飾表にある表記の違いと奏法を確認しておく。 復習：フランスの作曲家が用いた装飾音を整理し、正しく弾く。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	装飾の実践②ドイツの実例	予習：J.S.バッハの作品で使用される装飾音を調べる。 復習：J.S.バッハ「クライネプレリュード」の装飾表の把握。
第5回	装飾の実践③イギリスの実例	予習：ルネサンス末～バロック期のイギリスの作曲家について調べる。 復習：イギリス・ヴァージナル楽派およびH.パーセルの作品で使用される装飾をまとめる。
第6回	装飾の実践④イタリア風の任意な装飾の実例	予習：第二回で紹介した任意な装飾の例を把握しておく。 復習：記号として表記されない即興的な装飾の実例についてまとめる。
第7回	調律実習①不等分律と等分律の違い	予習：現在のピアノに主に用いられる調律法について調べる。 復習：バロック期に用いられた代表的な不等分律を把握。
第8回	調律実習②二音間に生じるうなり	予習：ピタゴラスコンマについて調べる。 復習：二音間のうなりが聴き取れるかを確認。
第9回	調律実習③17世紀と18世紀の調律の実例	予習：シントニックコンマについて調べる。 復習：調律によって作り出される響きの違いを把握。
第10回	通奏低音奏法①数字付き低音とは何か、その機能と室内楽における役割	予習：バロック期の代表的な室内楽作品について調べる。 復習：現代譜とファクシミリ譜の違いを確認。
第11回	通奏低音奏法②機能和声と終止形の種類	予習：二年次までの必修和声学で学習した内容をまとめ、終止形について調べる。 復習：♯ ♭ 三つまでの長・短調の終止形を正しく弾く。
第12回	通奏低音奏法③基本形による和音の連結	予習：前回弾いた終止形の配置を変えて弾いておく。 復習：和音連結における基本的な規則(正しい進行と禁則等)を把握。
第13回	通奏低音奏法④第一転回形の和音を含む低音課題	予習：和声学で学習した第一転回形の和音についてまとめておく。 復習：バロック期の通奏低音独自の表記の仕方を把握。
第14回	通奏低音奏法⑤第二転回形と繋留を含む低音課題	予習：前回までに課題として取り上げた和音進行において、留意すべきことをまとめておく。 復習：第二転回の和音と繋留を含む進行を正しい連結で弾く。
第15回	まとめ	予習：通奏低音奏法における各数字の意味を一通り把握しておく。 復習：簡単な通奏低音課題を初見で弾く。

科目名(クラス)	チェンバロ研究ⅡA	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	4
担当教員	梶山　希代	履修対象・条件	ピアノ専攻科目				

【授業の概要】

・チェンバロ研究Ⅰで学んだ奏法の基本を踏まえた上で、より撥弦楽器のタッチに習熟する。
・通奏低音による伴奏の理解を深め、各自がリアリゼイションした譜面を用いてアンサンブル実習を行う。
・初期・盛期バロックのレパートリーからチェンバロ独自の語法を活かした作品を取り上げ、各時代の様式感を理解し身につける。

【授業の到達目標】

・特に初期バロックの音楽はより即興的且つ実験的であるため、強い任意性に基づく演奏を目指す。
・実技の習熟度のみならず探究心と創造性、演奏解釈の土台となる知的アプローチによる裏付け(知識・感覚両面のバランス)、このような視点で音楽に接する姿勢を身につける。

【授業の「方法」と「形式」】

・講義と実技演習形式。学生間のより活発なディスカッションも取り入れる。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・実技課題、アンサンブル実習課題は充分な準備の上授業に臨むこと。準備不足の者は出席を認めない。
・演習ではお互いに感想や意見を率直に伝え合うよう心がける。
・少人数クラスの演習では、一人一人の受講姿勢が授業内容の充実に著しく影響することを心得ておくこと。

【成績評価の「方法」と「基準」】

教科書	使用しない。	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	必要に応じ資料配布。	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	前期授業の概要について。受講者の意識調査。	予習:チェンバロ研究Ⅰで学んだ内容について、疑問点があれば整理しておく。 復習:前期授業の概要を聞いた上で、興味の対象を整理。
第2回	通奏低音による伴奏法①7の和音を含む低音課題	予習:チェンバロ研究Ⅰで扱った和音とその進行についてまとめておく。 復習:7の和音の機能について把握。
第3回	通奏低音による伴奏法②7の和音の転回形 第一転回形を含む低音課題	予習:和声学で学習した7の和音とその転回形について調べる。 復習:7の和音の第一転回形についてまとめ、課題を正しい連結で弾く。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	通奏低音による伴奏法③7の和音の転回形 第二転回形を含む低音課題	予習：前回の課題について注意点をまとめる。 復習：7の和音の第二転回形についてまとめ、課題を正しい連結で弾く。
第5回	通奏低音による伴奏法④7の和音の転回形 第三転回形を含む低音課題	予習：前回の課題の注意点をまとめる。 復習：7の和音の第三転回形についてまとめ、課題を正しい連結で弾く。
第6回	通奏低音による伴奏法⑤ より実践的なリアリゼイション	予習：前回までの課題で取り上げた全ての数字とその進行について、留意すべきことをまとめる。 復習：7の和音とその転回形を含む課題について一通りまとめる。
第7回	通奏低音による伴奏法⑥ 多様な作品への応用	予習：バッハ、ヘンデル、ヴィヴァルディ等代表的なバロック期の室内楽作品(いずれか一曲でよい)の現代譜に目を通しておく。 復習：通奏低音における様々なアフェクト表現について把握。
第8回	通奏低音による伴奏法⑦ 作品の音楽的構成と和声感への理解	予習：前回紹介したアフェクト表現についてまとめる。 復習：通奏低音の役割をまとめ、よりアフェクトに即した表現と和声感の違いを把握。
第9回	アンサンブル実習① 各自の課題決定	予習：バロック期の室内楽作品について調べる。 復習：選択した課題について、作品の調性、楽章等大まかな構成を把握。
第10回	アンサンブル実習② 課題の和音付け	予習：選択した課題で使われる数字に目を通しておく。 復習：各自の課題でリアリゼイションした部分の確認。
第11回	アンサンブル実習③ 課題の和音付けの続き	予習：前回までのリアリゼイションで修正箇所があれば訂正。 復習：訂正箇所を含め、リアリゼイションの確認。
第12回	アンサンブル実習④ 課題のリアリゼイション譜を完成させる	予習：課題を一通り確認しておく。 復習：各自のリアリゼイション譜のまとめ。
第13回	アンサンブル実習⑤ ソリスト合わせ前の準備	予習：リアリゼイション譜を一通り弾いておく。 復習：選択した課題ごとに、作品のアフェクトに即した表現と和声感の違いを把握。
第14回	アンサンブル実習⑥ ソリスト合わせ	予習：各自前回の授業で課題となった表現(それを実践するための奏法等)についてまとめておく。 復習：低音の役割を理解しながら、ソリストと共に課題を一通り弾く。
第15回	まとめ アンサンブル実習課題の仕上げとディスカッション	予習：ソリスト合わせで上手くいかなかった部分などを確認しておく。 復習：各自課題を通して弾き、問題点等をまとめる。

科目名(クラス)	チェンバロ研究ⅡB	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	4
担当教員	梶山　希代	履修対象・条件	ピアノ専攻科目				

【授業の概要】

・後期ルネサンスおよび17世紀初期バロックのレパートリーを中心に、チェンバロ独自の語法を活かした作品を取り上げ、バロック音楽の重要な諸形式とその様式への理解を深める。
・装飾法の種類や即興演奏の技術、18世紀初頭まで使われたフィンガリング等、19世紀以降とは異なる美学に基づいた音楽表現を学ぶ。
・当時の文献(作曲者による序文等)にも当り、作品が生まれた源泉を識る。

【授業の到達目標】

・チェンバロ奏法のさらなる習熟と自発的、意欲的な表現を目指す。
・初期・盛期・後期バロックの鍵盤作品における様式の変遷を理解し、相応しい奏法を身につける。

【授業の「方法」と「形式」】

・講義と演習形式。可能な限り学生間のディスカッションも行う。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・毎回の実技演習は各自の演奏解釈発表の場と捉え、常に自分の言葉で意見や感想を述べるよう心がける。
・表現に対するエネルギーは節約せず、尚且つ批判に晒されることにも慣れること。
・課題の準備を怠る者は他の受講者の妨げになるので出席を認めない。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・実技50%
・授業への積極性50%(判断基準はチェンバロ研究ⅡAに準じる)

教科書	使用しない。				
教科書					
参考文献	必要に応じ資料配布。				
参考文献					

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授業内容	準備学習(予習・復習)
第1回	後期授業の概要 受講者の意識調査	予習:前期授業の内容について疑問点等整理しておく。 復習:後期授業の概要を聞いた上で興味の対象を整理。
第2回	ルネサンス～バロック期の鍵盤作品における諸形式	予習:バロック期の鍵盤音楽の形式について、主にどのようなものがあるか調べる。 復習:ルネサンスの反動としてのバロックの美学を把握。
第3回	①プレリュード	予習:バロック期のプレリュードについて簡単に調べておく。 復習:バロック期における代表的な形式として授業で紹介した「自由なフォルム」による形式をについてまとめる。

【授業計画・内容・準備学習】		
第4回	②トッカータ(ルネサンス末期)	予習:トッカータについて簡単に調べる。 復習:授業で紹介した作品についてルネサンス期のトッカータの特徴をまとめる。
第5回	③トッカータ(初期・中期バロック)	予習:前回取り上げた作品を一通り弾いておく。 復習:バロックの美学を代表する17世紀のトッカータ形式(ルネサンスとの違い)の把握。
第6回	④カンツォーナ	予習:カンツォーナの語源について調べる。 復習:「自由なフォルム」と対照を成す「厳格なフォルム」による形式についてまとめる。
第7回	⑤ファンタジア	予習:ファンタジアの語源について調べる。 復習:自由な形式と厳格な形式について、様式の違いを把握。
第8回	⑥舞曲	予習:J.S.バッハ「フランス組曲」等に含まれる舞曲について調べる。 復習:器楽曲として様式化された様々な舞曲のビート感を把握。
第9回	⑦組曲	予習:バロック期の組曲と19世紀以降ピアノ作品における組曲の違いを調べる。 復習:課題として取り上げた組曲作品を通して弾く。
第10回	⑧標題付きおよび描写的作品	予習:バロック期の描写的作品について、どのようなものがあるか調べる。 復習:標題の意味、描写の対象となるものに即したアフェクトについて把握。
第11回	実技演習①	予習:前回までの授業で取り上げた諸形式の特徴をまとめておく。 復習:授業で紹介した作品を通して弾く。
第12回	実技演習②	予習:課題として取り上げた楽曲の中で、特に興味を持ったものについて等見解をまとめておく。 復習:課題を通して弾く。
第13回	実技演習③	予習:課題について自分の解釈をまとめておく。 復習:授業内で弾いた課題について、各自演奏上の問題等をまとめる。
第14回	実技演習④	予習:前回の問題点を踏まえ、課題について自分の解釈をまとめておく。 復習:授業内で弾いた楽曲を振り返り、チェンバロ音楽に顕れたバロックの特質についてまとめる。
第15回	まとめ	本科目の総括として、17～18世紀の鍵盤音楽の様式について、具体的な作品名を挙げて特徴をまとめてみる。興味を持った点やテーマについてのディスカッション。

科目名(クラス)	オーケストラA(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・ⅣA)	開講学期	前期	単位数	各1	配当年次	1～4
担当教員	上野　正博	履修対象・条件	管弦打楽器専攻は「ウィンドオーケストラⅠ・Ⅱ・Ⅲ・ⅣA」とのいずれか必修。管弦打楽器専攻以外はⅠ・ⅡABのみ履修可。教職実践専攻はⅠABのみ履修可。Konzertfach(演奏専攻)は履修不可。					

【授業の概要】

合奏を通し、オーケストラ奏者としてアンサンブル能力を鍛え、向上させ、公開演奏会の場で成果を披露し、オーケストラ合奏の難しさの中から、音楽の素晴らしさを共有する。

【授業の到達目標】

専門教育を受ける音大生として、アマチュアオケとは次元の違う合奏能力を会得する。すなわち、よく聴き、よく見て、よく数える、という合奏・アンサンブルの3大原則を、特別なことではなく、当たり前の事として身につける。

【授業の「方法」と「形式」】

オーケストラのリハーサル、及び演奏会

【履修時の「留意点」と「心得」】

・リハーサルの開始時間厳守
・合奏前の、事前準備(あらかじめさらっておく。また、曲に関しての予習)
・演奏する作品のスコア持参
・指揮者や楽器の指導教官への質問大歓迎

【成績評価の「方法」と「基準」】

出席率、演奏姿勢、演奏技術、事前準備度等を総合的に評価

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	東邦祭リハーサル:シベリウス「フィンランディア」、「カレリア」組曲、ヴァイオリン協奏曲	スコアに目を通しておく
第2回	同上	同上
第3回	未定(オーケストラ運営委員会にて、進度、選曲バランス、合奏能力等を協議の上決定)	同上

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	同上	同上
第5回	同上	同上
第6回	同上	同上
第7回	同上	同上
第8回	同上	同上
第9回	同上	同上
第10回	同上	同上
第11回	同上	同上
第12回	同上	同上
第13回	同上	同上
第14回	同上	同上
第15回	まとめ	

科目名(クラス)	オーケストラB(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・ⅣB)	開講学期	後期	単位数	各1	配当年次	1～4
担当教員	上野　正博	履修対象・条件	管弦打楽器専攻は「ウィンドオーケストラⅠ・Ⅱ・Ⅲ・ⅣB」とのいずれか必修。管弦打楽器専攻以外はⅠ・ⅡABのみ履修可。教職実践専攻はⅠABのみ履修可。Konzertfach(演奏専攻)は履修不可。					

【授業の概要】

前期の合奏、演奏経験を生かし、より高度なアンサンブル能力、音楽性の獲得を目指す。その成果を公開演奏会で披露。

【授業の到達目標】

前期に習得した合奏能力を、より一層高め、維持する習慣の獲得。

【授業の「方法」と「形式」】

オーケストラのリハーサル、及び演奏会

【履修時の「留意点」と「心得」】

・リハーサルの開始時間厳守
・合奏前の、事前準備(あらかじめさらっておく。また、曲に関しての予習)
・演奏する作品のスコア持参
・指揮者や楽器の指導教官への質問大歓迎

【成績評価の「方法」と「基準」】

出席率、演奏姿勢、演奏能力、準備度等を総合的に評価

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	定期演奏会、トライアルコンサート、オーケストラフェスティバル等への楽曲を練習	スコアに目を通しておく
第2回	同上	同上
第3回	同上	同上

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	同上	同上
第5回	同上	同上
第6回	同上	同上
第7回	同上	同上
第8回	同上	同上
第9回	同上	同上
第10回	同上	同上
第11回	同上	同上
第12回	同上	同上
第13回	同上	同上
第14回	同上	同上
第15回	まとめ	

科目名(クラス)	ウインドオーケストラⅠ・Ⅱ・Ⅲ・ⅣA	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1～4
担当教員	福田　洋介	履修対象・条件	管弦打楽器専攻はオーケストラⅠ～Ⅳとのいずれか必修。他専攻はⅠⅡの履修可。Konzertfach(演奏専攻)は履修不可。教職実践専攻(声楽・ピアノ)はⅠのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)				

【授業の概要】

この授業では、吹奏楽を通じて、主に以下のことを学びます。
・基本的な合奏能力の向上
・個人・セクション・合奏における表現能力の向上
・多岐にわたるコンセプトを持つ吹奏楽作品のアナリーゼや演奏方法の研究
・公演発表に向けたリハーサル能力の向上

【授業の到達目標】

・より優れた表現力、よく優れたアンサンブル能力が身につく
・吹奏楽という多様な楽器編成による合奏と、多様なコンセプトの楽曲に取り組むことで、音楽を演奏する際に多角的な視野と判断能力が身につく

【授業の「方法」と「形式」】

合奏演習、講義を中心としますが、ディスカッションの機会も随時取り入れます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・各自に与えられたパート譜を事前にしっかりと練習して、授業に臨みましょう。
・セクション(パート)の演奏の資質を上げるために、トップ奏者のリーダーシップと、柔軟な協力体制も学びましょう。
・音楽の多角的なとらえ方を学ぶために、「ひとつだけの答えではない」柔軟な発想を持つようにしましょう。

【成績評価の「方法」と「基準」】

演奏に取り組む姿勢、積極的な授業へ取り組みを総合的に評価します。

教科書	その都度準備します	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	東邦祭オープニングコンサートのための楽曲練習	パート譜の個人練習、セクション練習
第2回	〃	〃
第3回	〃	〃

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	音楽鑑賞教室のための楽曲練習	パート譜の個人練習、セクション練習
第5回	〃	〃
第6回	〃	〃
第7回	〃	〃
第8回	〃	〃
第9回	作曲専攻作品の試奏	パート譜の個人練習、セクション練習
第10回	〃	〃
第11回	指導法ワークショップ 初見能力強化 その他	〃
第12回	〃	〃
第13回	〃	〃
第14回	〃	〃
第15回	まとめ	

科目名(クラス)	ウインドオーケストラⅠ・Ⅱ・Ⅲ・ⅣB	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1～4
担当教員	福田　洋介	履修対象・条件	管弦打楽器専攻はオーケストラⅠ～Ⅳとのいずれか必修。他専攻はⅠⅡの履修可。Konzertfach(演奏専攻)は履修不可。教職実践専攻(声楽・ピアノ)はⅠのみ履修可。(相応の演奏技能が必要)				

【授業の概要】

この授業では、吹奏楽を通じて、主に以下のことを学びます。
・基本的な合奏能力の向上
・個人・セクション・合奏における表現能力の向上
・多岐にわたるコンセプトを持つ吹奏楽作品のアナリーゼや演奏方法の研究
・公演発表に向けたリハーサル能力の向上

【授業の到達目標】

・より優れた表現力、よく優れたアンサンブル能力が身につく
・吹奏楽という多様な楽器編成による合奏と、多様なコンセプトの楽曲に取り組むことで、音楽を演奏する際に多角的な視野と判断能力が身につく

【授業の「方法」と「形式」】

合奏演習、講義を中心としますが、ディスカッションの機会も随時取り入れます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・各自に与えられたパート譜を事前にしっかりと練習して、授業に臨みましょう。
・セクション(パート)の演奏の資質を上げるために、トップ奏者のリーダーシップと、柔軟な協力体制も学びましょう。
・音楽の多角的なとらえ方を学ぶために、「ひとつだけの答えではない」柔軟な発想を持つようにしましょう。

【成績評価の「方法」と「基準」】

演奏に取り組む姿勢、積極的な授業へ取り組みを総合的に評価します。

教科書	その都度準備します	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	定期演奏会のための楽曲練習	パート譜の個人練習、セクション練習
第2回	〃	〃
第3回	〃	〃

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	〃	〃
第5回	〃	〃
第6回	〃	〃
第7回	〃	〃
第8回	〃	〃
第9回	〃	〃
第10回	レパートリー研究 初見能力強化 その他	〃
第11回	〃	〃
第12回	TOHOコンサートのための楽曲練習	〃
第13回	〃	〃
第14回	〃	〃
第15回	まとめ	

科目名(クラス)	総合作曲演習ＩＡ	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1～4
担当教員	井上　淳司	履修対象・条件	音楽創造専攻生				

【授業の概要】

作曲の実践を行うことを前提に、歴史的変遷を踏まえた過去の作曲技法を現代に生かすため、あらゆる角度の視点から考察する訓練を行いたい。

【授業の到達目標】

既知の作曲家たちの書法を明らかにしその後への影響等を研究する。

【授業の「方法」と「形式」】

学生個々の技術に結びつけて議論を進めながら、作曲に対する意識も高めて行きたい。

【履修時の「留意点」と「心得」】

各自の自由な発想、さまざまな視点による考察を持って切磋琢磨する場を作って欲しい。そのための準備を怠らないよう積極的な授業態度を希望する。

【成績評価の「方法」と「基準」】

平常研究50%、レポート50%。

教科書	特になし	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	必要な時はその都度譜面等を用意すること	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	1年次生ー　音楽の書法ー動機　2年次生以降ー　ロンド形式	扱う曲のアナリーゼをすること。
第2回	1年次生ー　音楽の書法ー動機　2年次生以降ー　ロンド形式	扱う曲のアナリーゼをすること。
第3回	1年次生ー　音楽の書法ー動機　2年次生以降ー　ロンド形式	扱う曲のアナリーゼをすること。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	1年次生ー　音楽の書法ー小楽節　2年次生以降ー　ロンド形式	扱う曲のアナリーゼをすること。
第5回	1年次生ー　音楽の書法ー小楽節　2年次生以降ー　変奏曲形式	扱う曲のアナリーゼをすること。
第6回	1年次生ー　音楽の書法ー大楽節　2年次生以降ー　変奏曲形式	扱う曲のアナリーゼをすること。
第7回	1年次生ー　音楽の書法ー大楽節　2年次生以降ー　変奏曲形式	扱う曲のアナリーゼをすること。
第8回	1年次生ー　音楽の書法ー大楽節　2年次生以降ー　変奏曲形式	扱う曲のアナリーゼをすること。
第9回	1年次生ー　音楽の書法ーー部形式　2年次生以降ー　変奏曲形式	扱う曲のアナリーゼをすること。
第10回	1年次生ー　音楽の書法ーー部形式　2年次生以降ー　変奏曲形式	扱う曲のアナリーゼをすること。
第11回	1年次生ー　音楽の書法ー2部形式　2年次生以降ー　変奏曲形式	扱う曲のアナリーゼをすること。
第12回	1年次生ー　音楽の書法ー2部形式　2年次生以降ー　変奏曲形式	扱う曲のアナリーゼをすること。
第13回	1年次生ー　音楽の書法ー3部形式　2年次生以降ー　変奏曲形式	扱う曲のアナリーゼをすること。
第14回	1年次生ー　音楽の書法ー3部形式　2年次生以降ー　変奏曲形式	扱う曲のアナリーゼをすること。
第15回	1年次生ー　音楽の書法ー3部形式　2年次生以降ー　変奏曲形式	扱う曲のアナリーゼをすること。

科目名(クラス)	総合作曲演習ＩＢ	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1～4
担当教員	井上　淳司	履修対象・条件	音楽創造専攻生				

【授業の概要】

作曲の実践を行うことを前提に、歴史的変遷を踏まえた過去の作曲技法を現代に生かすため、あらゆる角度の視点から考察する訓練を行いたい。

【授業の到達目標】

既知の作曲家たちの書法を明らかにしその後への影響等を研究する。

【授業の「方法」と「形式」】

学生個々の技術に結びつけて議論を進めながら、作曲に対する意識も高めて行きたい。

【履修時の「留意点」と「心得」】

各自の自由な発想、さまざまな視点による考察を持って切磋琢磨する場を作って欲しい。そのための準備を怠らないよう積極的な授業態度を希望する。

【成績評価の「方法」と「基準」】

平常研究50%、レポート50%。

教科書	特になし	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	必要な時はその都度譜面等を用意すること	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	1年次生ー　音楽の書法ー3部形式　2年次生以降ー　変奏曲形式	扱う曲のアナリーゼをすること。
第2回	1年次生ー　音楽の書法ー3部形式　2年次生以降ー　変奏曲形式	扱う曲のアナリーゼをすること。
第3回	1年次生ー　音楽の書法ー3部形式　2年次生以降ー　変奏曲形式	扱う曲のアナリーゼをすること。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	1年次生ー　音楽の書法ー複合3部形式　2年次生以降ー　ソナタ形式	扱う曲のアナリーゼをすること。
第5回	1年次生ー　音楽の書法ー複合3部形式　2年次生以降ー　ソナタ形式	扱う曲のアナリーゼをすること。
第6回	1年次生ー　音楽の書法ー複合3部形式　2年次生以降ー　ソナタ形式	扱う曲のアナリーゼをすること。
第7回	1年次生ー　音楽の書法ー複合3部形式　2年次生以降ー　ソナタ形式	扱う曲のアナリーゼをすること。
第8回	1年次生ー　音楽の書法ー複合3部形式　2年次生以降ー　ソナタ形式	扱う曲のアナリーゼをすること。
第9回	1年次生ー　音楽の書法ー複合3部形式　2年次生以降ー　ソナタ形式	扱う曲のアナリーゼをすること。
第10回	1年次生ー　音楽の書法ー複合3部形式　2年次生以降ー　ソナタ形式	扱う曲のアナリーゼをすること。
第11回	1年次生ー　音楽の書法ー複合3部形式　2年次生以降ー　ソナタ形式	扱う曲のアナリーゼをすること。
第12回	1年次生ー　音楽の書法ー複合3部形式　2年次生以降ー　ソナタ形式	扱う曲のアナリーゼをすること。
第13回	1年次生ー　音楽の書法ー複合3部形式　2年次生以降ー　ソナタ形式	扱う曲のアナリーゼをすること。
第14回	1年次生ー　音楽の書法ー複合3部形式　2年次生以降ー　ソナタ形式	扱う曲のアナリーゼをすること。
第15回	1年次生ー　音楽の書法ー複合3部形式　2年次生以降ー　ソナタ形式	扱う曲のアナリーゼをすること。

科目名	ソフトウェア演習ＩA･B

【授業計画の概要】

作編曲を行う者にとって必要な「アイディアを実現するために必要なものは何か」を学ぶ。
「自己のアイディアを具現化するための手法」「より明確に表現するため･伝達するために用いる方法」について考え、譜面作成とソフトウエアの基本操作を通じて実践的なスキルを修得する。

【授業の到達目標】

「自身の楽曲を伝える」ための、基本的な譜面作成ができること。
音楽制作ソフトウエアの基本操作ができること。

【成績評価の方法】

･授業への参加度（積極性･演習課題への取り組み）50%
･授業内提出物、制作課題50%

【授業計画の内容】

月	内　　容
4	アイディアを具現化するための方法について 　譜面の役割／ソフトウエアの役割
5	譜面の書き方（1） 　譜面に書かれる情報／五線譜／音の高さ／音の長さ
6	Macコンピュータの基本操作 音楽制作ソフトウエアの基本操作（1）
7	譜面の書き方（2） 　細かな譜面情報 装飾音
8	音楽制作ソフトウエアの基本操作（2）
9	
10	譜面の書き方（3） 　Score／Part譜／Lead Sheetの作成 　Rhythm sectionの譜面
11	
12	音楽制作ソフトウエアの基本操作（3）
1	
2	まとめ　作品提出に向けて
3	

科目名	ソフトウエア演習 II　A･B

【授業計画の概要】

本演習では「ソフトウエア演習 I」で修得した内容に基づいて、さらにその次のステップへ進み「日常生活の中での“音への注意力”を向上させることを目的とし「音を用いた作品表現」を学ぶ。「音の採集・編集・加工」についてソフトウエアを活用しながら作業を進め、楽音との共存を試みる。さらに、音楽と関連メディアをどのように連携させるか？についての基礎を構築することを目的とする。

【授業の到達目標】

楽音以外の「音」に対する注意力の育成、音の応用に対する創意工夫、
コンテンツ制作（Audio Collective）企画立案のソフトウエア上での実現。

【成績評価の方法】

平常出席点（50%）、課題提出（25%）、最終楽曲課題提出（25%）
「制作中間発表（前期）」･「制作最終提出（発表展示）」の内容を交えて成績評定を行う。

【授業計画の内容】

月	内　　容
4	“音” を 使った表現手法 Sound Collage, Music Concrete、Ambient Music, Electronica についての概観
5	音声データの編集作業について
6	ソフトウエア上でのMix作業について
7	音の採集（非楽音の活用） 全体の構成をデザインする
8	ソフトウエアを使った録音について （準備すべき事、ハードウエアの設定、録音後のデータ管理）
9	編集とレイアウト （間合いの取り方、「小節線を越える」には ） 音色の加工、距離感、（plug-inソフトウエアを用いて）
10	楽音（楽器）を加える 楽器録音への準備
11	全体の再構成
12	編集とMixの最終確認
1	課題から作品へ コンテンツの展示、発表　形式についてデザインする
2	作品展示に向けての準備
3	

科目名	ソフトウエア演習 III　A・B

【授業計画の概要】

ソフトウエアを活用する演習の最終形として「自分がイメージするコンテンツを創作する、実現するには？」に向けての、企画立案から完成までを学ぶ。ソフトウエア活用を実践的に修得し、自らの創作表現活動の拡大を目標とする。

【授業の到達目標】

専攻生自らが選択したコンテンツ制作テーマに必要なソフトウエアスキルの修得及び、段階の進行スケジュール設計と管理力（タイムラインの明示、作業内容の具体化）、中間発表・最終発表・作品展示においてのプレゼンテーションスキルの育成。

【成績評価の方法】

平常出席点（50%）、課題提出（25%）、最終楽曲課題提出（25%）
「制作中間発表（前期）」・「制作最終提出（発表展示）」の内容を交えて成績評定を行う

【授業計画の内容】

月	内　　容
4	どのようなコンテンツを目指すのか？ コンテンツ作品の概観 作品のオーディオ録音 実演作品の映像記録 高解像度記録 映像作品（Streaming、Networkの活用） アイディアの具体化、スケージュール管理、準備事項リスト化
5	
6	
7	コンテンツ制作 1 コンセプトの立案
8	Pre-Producitionの設定
9	録音・撮影、他の作業、 スケジュール管理、制作データ管理
10	コンテンツ制作 2 Post-Productionの中での設定可能な表現
11	記録後の発展展開について
12	コンセプトと表現の確認
1	課題から作品へ 最終形の完成と試聴、第三者からのフィードバックをいかに反映させるか？
2	発表・作品展示に向けての準備
3	

科目名(クラス)	子供のためのピアノ指導法A	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1又は3
担当教員	桑原　巌	履修対象・条件	声楽のKonzertfach(演奏専攻)と管弦打楽器専攻と音楽療法専攻は履修不可。ピアノ専攻のみ1年次配当科目。他は3年次配当科目				

【授業の概要】

地域に根ざした自宅ピアノ教室の先生、大手楽器会社の先生、出張先生とは？
先生としてのサービス(動き方)のありかたや、ピアノの指導方法についてMOGノートを中心に心理的に考えていく。
キーワードは「エナジャイズ」だ。

【授業の到達目標】

指導者としての心構え、心理的な事柄を見据えて、指導を受ける側から指導をする側への意識をしっかりと持つこと。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式　学生との対話、自分自身のMOGノートを作り上げる。

【履修時の「留意点」と「心得」】

疑問をそのままにしないこと。いつも問題意識をもち発言を積極的に。

【成績評価の「方法」と「基準」】

適時におけるノート提出(30%)
各学期末、課題によるレポート提出(70%)

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	授業オリエンテーション	
第2回	MOGノート　ミッション　なんのために	
第3回	MOGノート　行動力と実行力	MOGノート閲覧

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	MOGノート　最終目標って？	
第5回	MOGノート　付加価値　発表会	
第6回	MOGノート　人間のもつ表情とは	
第7回	MOGノート　レッスンのかたち　居心地	MOGノート閲覧
第8回	MOGノート　良い生徒　変な注文	
第9回	MOGノート　感動　日本人は勉強家	
第10回	MOGノート　いろいろなド　8分音符	
第11回	MOGノート　強み　リゾート業	MOGノート閲覧
第12回	MOGノート　作曲家スタイル解釈	
第13回	MOGノート　ドロップとロール	
第14回	MOGノート　天から仕事を降らせよう	
第15回	まとめ	

科目名(クラス)	子供のためのピアノ指導法B	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1又は3
担当教員	桑原　巌	履修対象・条件	声楽のKonzertfach(演奏専攻)と管弦打楽器専攻と音楽療法専攻は履修不可。ピアノ専攻のみ1年次配当科目。他は3年次配当科目				

【授業の概要】

地域に根ざした自宅ピアノ教室の先生、大手楽器会社の先生、出張先生とは？
先生としてのサービス(動き方)のありかたや、ピアノの指導方法についてMOGノートを中心に心理的に考えていく。
キーワードは「エナジャイズ」だ。

【授業の到達目標】

実際に子供のためのピアノ導入に適した本を使い、模擬レッスンや分析をし、自分でも意見を持ち、発表できるようになる。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式　学生との対話、自分自身のMOGノートを作り上げる。

【履修時の「留意点」と「心得」】

疑問をそのままにしないこと。いつも問題意識をもち発言を積極的に。

【成績評価の「方法」と「基準」】

適時におけるノート提出(30%)
各学期末、課題によるレポート提出(70%)

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	授業オリエンテーション	
第2回	MOGノート　暗記と記憶	
第3回	MOGノート　教育と学習	

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	MOGノート　怒る　どなる　叱る	MOGノート閲覧
第5回	MOGノート　ホームコンサート	
第6回	MOGノート　魔法のえんぴつ	
第7回	MOGノート　楽しさを持続させよう	
第8回	MOGノート　休み　ずる休み　トラブル	MOGノート閲覧
第9回	MOGノート　ベトナム時間	
第10回	MOGノート　ピアノを続ける中高生	
第11回	MOGノート　ピアノコンプレックス	
第12回	MOGノート　継続と両立	MOGノート閲覧
第13回	MOGノート　言葉掛け	
第14回	MOGノート　自分で動いて作り出す仕事	
第15回	まとめ	

科目名(クラス)	教材伴奏法ＩＡ－abc	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1又は2
担当教員	中島裕紀・久邇之宜 平田紀子	履修対象・条件	教職課程履修者、教職実践専攻は必修				

【授業の概要】

本授業は、「教材伴奏法ＩB」と共に教職必修科目であり、学校教育の授業に必要なピアノ伴奏のスキルを高めることを目的としている。授業形態は、講義と少人数制のグループレッスン方式をとっており、集中的な学習が可能である。「教材伴奏法ＩA」においては、伴奏の基礎的な知識を習得すると共に、コードネームを用いた伴奏付け、楽譜作成など、平易なアレンジ法を学び、ピアノを弾きながら歌う「弾き歌い」ができるようになるための基礎を習得する。

【授業の概要】

・歌唱曲の伴奏の基礎的な知識と技能を習得し、ピアノを使った歌唱曲の伴奏ができる。
・コードネームを理解し、それを用いて伴奏付けをすることができる。
・コードの知識を生かし、平易なアレンジをすることができる。
・ピアノ伴奏と共に弾き歌いをすることができる。
・楽曲への理解をし、それを授業で伝えるスキルを身につける。

【授業の「方法」と「形式」】

授業の方法は、基礎知識の講義とその実践であるピアノ伴奏演習からなり、グループレッスン形式をとる。

【履修時の「留意点」と「心得」】

「教材伴奏法ＩB」と共に教職必修であるため、教材伴奏法ＩA・B共に連続して履修することが望ましい。また、授業の趣旨から、毎回の授業において、全員がピアノ演奏及び歌唱の演習を行うため、受講に対しては、課題の予習復習など十分な準備が不可欠である。

【成績評価の「方法」と「基準」】

セメスター終了時に「弾き歌い」課題の実技試験を行う。また、演奏演習を含む授業であることと、教職のための授業であるという趣旨から、実技試験を70%、毎回の授業への取り組みを30%として総合的な評価を行う。

教科書	音楽Ｉ 改訂版 Tutti［17 教出　音Ｉ307］	著者等	共著	出版社	教育出版
教科書	中学生の音楽1、中学生の音楽2・3上/2・3下	著者等	共著	出版社	教育芸術社
参考文献	プリント配布資料あり	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	授業ガイダンスと課題提示 ・授業趣旨・シラバス・授業内容解説 ・課題の提示と理解	伴奏の重要性についてまとめ、次回への準備をする。
第2回	伴奏課題研究演習１ 「ふるさと」 ・作詞者、作曲者、時代背景からみた歌詞の理解 ・文部省唱歌について	提示課題に対して調べまとめる。 伴奏の予習をする。
第3回	伴奏課題研究演習2「ふるさと」 ・教材内容の理解と伴奏演奏演習 ・ハーモニー理解	実技課題の予習復習。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	弾き歌い演習１ ・弾き歌いの方法 ・伴奏＋歌の試奏	実技課題の予習復習。
第5回	弾き歌い演習２ ・弾き歌いの留意点	実技課題の予習復習。
第6回	弾き歌い演習３ ・弾き歌いと音楽表現	実技課題の予習復習。
第7回	弾き歌い演習４ ・発声法 ・授業を意識した弾き歌い	実技課題の予習復習。
第8回	弾き歌い演習５ ・指揮法のイメージと弾き歌い	実技課題の予習復習。
第9回	コードネームの基礎 ・コードネームのしくみと使い方	コードネームの復習
第10回	コードネームを使った演奏演習１ ・コードネームを使った平易な和音の伴奏付け	実技課題の予習復習
第11回	コードネームを使った演奏演習２ ・コードネームを基に和音にリズムを加えたアレンジ	実技課題の予習復習
第12回	コードネームを使った演奏演習３ ・コードネームを生かした伴奏のアレンジ	実技課題の予習復習
第13回	コードネームを使った伴奏譜作成 ・伴奏アレンジと記譜	伴奏譜完成と弾き歌い課題の予習
第14回	弾き歌い演習６ ・各自の課題の完成度を上げる	実技課題の予習復習
第15回	まとめ 弾き歌い演習７ ・本セメスターにおけるまとめ	授業内容を振り返る。

科目名(クラス)	教材伴奏法ＩＢ－abc	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1又は2
担当教員	中島裕紀・久邇之宜 平田紀子	履修対象・条件	教職課程履修者、教職実践専攻は必修				

【授業の概要】

本授業は、「教材伴奏法ＩA」と共に教職必修科目であり、学校教育の授業に必要なピアノ伴奏のスキルを高めることを目的としている。授業形態は、少人数制のグループレッスン方式をとっており、集中的な学習が可能である。「教材伴奏法ＩB」においては、中学校の共通教材の弾き歌いを中心課題としながら、実際の歌唱指導に結びつく指揮法や、呼吸法などのスキルを高める。また、メロディーへの和声付け、高校の教科書にある日本と世界の音楽の演奏法について学び、教育実習に必要な知識とスキルを習得する。

【授業の到達目標】

・中学校共通教材7曲の弾き歌いができる。
・楽曲の理解を深め、多角的なアプローチができる。
・プレゼンテーション力を高め、教材の内容を伝えることができる。
・世界の音楽に触れ、表現の可能性を広げることができる。
・歌唱法、指揮法など授業に必要な周辺領域を必要に応じて使うことができる。

【授業の「方法」と「形式」】

授業の方法は、基礎知識の講義とその実践であるピアノ伴奏演習とからなり、グループレッスン形式を取る。

【履修時の「留意点」と「心得」】

「教材伴奏法ＩA」と共に教職必修であるため、教材伴奏法ＩA・B共に連続して履修することが望ましい。また、授業の趣旨から、毎回の授業において、全員がピアノ演奏及び歌唱の演習を行うため、受講に対しては、課題の予習復習など十分な準備が不可欠である。

【成績評価の「方法」と「基準」】

セメスター終了時に「弾き歌い」課題の実技試験を行う。また、演奏演習を含む授業であることと、教職のための授業であるという趣旨から、実技試験を70%、通常の授業への取り組みを30%として総合的な評価を行う。

教科書	音楽Ｉ 改訂版 Tutti［17 教出　音Ｉ307］	著者等	共著	出版社	教育出版
教科書	中学生の音楽1、中学生の音楽2・3上/2・3下	著者等	共著	出版社	教育芸術社
参考文献	プリント配布資料あり	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	授業ガイダンスと課題提示 ・授業趣旨・シラバス・授業内容解説 ・課題の提示と理解	次回の個々の課題への準備。
第2回	メロディーへの和声付け演習1	メロディー、コードを意識した伴奏の復習。 共通教材の予習。
第3回	メロディーへの和声付け演習2	メロディー、コードを意識した伴奏の復習。 共通教材の予習。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	中学共通教材弾き歌い演習１ 「夏の思い出」	授業課題の実技復習と次回実技課題の予習。
第5回	中学共通教材弾き歌い演習２ 「赤とんぼ」	授業課題の実技復習と次回実技課題の予習。
第6回	中学共通教材弾き歌い演習３ 「浜辺の歌」	授業課題の実技復習と次回実技課題の予習。
第7回	中学共通教材弾き歌い演習４ 「花の街」	授業課題の実技復習と次回実技課題の予習。
第8回	中学共通教材弾き歌い演習５ 「早春賦」	授業課題の実技復習と次回実技課題の予習。
第9回	中学共通教材弾き歌い演習６ 「花」	授業課題の実技復習と次回実技課題の予習。
第10回	中学共通教材弾き歌い演習7 「荒城の月」	授業課題の実技復習と次回実技課題の予習。
第11回	日本と世界の音楽１ 「フランス・イタリアの音楽」	授業課題の実技復習と次回実技課題の予習。
第12回	日本と世界の音楽２ 「ドイツオーストリアの音楽」	授業課題の実技復習と次回実技課題の予習。
第13回	日本と世界の音楽３ 「日本・アジアの音楽」	授業課題の実技復習と次回実技課題の予習。
第14回	中学共通教材の総合的演習	共通教材全曲の復習。
第15回	まとめ 弾き歌い演習	授業内容を振り返る。

科目名(クラス)	教材伴奏法ⅡA	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2又は3
担当教員	金井良次	履修対象・条件	全専攻(声楽と管弦打の演奏家コースは履修不可) 教職実践専攻は2単位必修				

【授業の概要】

伴奏は、用途、曲趣、相手の演奏の仕方や力量等、様々な要素によって必ず変化を伴います。教材を多角的に捉え、変化に即応した伴奏を心掛けることは教師にとって不可欠な要素です。本授業は、学校教育現場で扱われることの多い曲を学生が選択し、輪番により教材伴奏を体験し、現場で必要とされる伴奏技術を高め合うことを目指します。一方で、音楽の教科書をどのように活用して適切に授業を進めるかという観点から、「コードネーム」「コード進行」「コードによる伴奏付け」「メロディーのコード付け」「弾き歌い」などに関する様々な知識を深め、教材伴奏への応用技術を学びます。

【授業の到達目標】

・主要三和音と三種のカデンツ、コード進行の可能性、終止形などについて、コードネームで理解している。
・コードネームでコードや適切な伴奏が弾ける。
・適切なコード伴奏を付けながら、平易なメロディーを弾いたり歌ったりすることが出来る。
・斉唱や合唱などの教材伴奏において、生徒(役)の表現に添った、適切で音楽的な伴奏を心掛けている。

【授業の「方法」と「形式」】

コードネーム等の知識を深め、同時に伴奏力向上の様々な課題(教科書教材)に習熟します。

【履修時の「留意点」と「心得」】

「コードを分析する」「コードを弾く」「コードを付ける」「コードに基づいて伴奏を即興的に弾く」「初見演奏する」「弾き歌いする」等の演習や、課題の実施を伴うため、各回の準備・練習、予習・復習等を充分に行うことが求められます。なお、資料や課題を保存するため、フラットファイル(A4版縦型)を各自用意してください。(課題実施のための五線紙はこちらで用意します)

【成績評価の「方法」と「基準」】

評価の方法は、主に次の2つの観点によります。
①コードネーム課題(毎回授業の課題、単元テスト、期末テスト等)の結果や取り組み状況(50%)
②教材伴奏課題への取り組み状況(50%)

①②とも、向上心を加味して総合的に判断します。

教科書	中学生の音楽1，同2・3上，同2・3下	著者等	小原光一　他	出版社	教育芸術社
教科書		著者等		出版社	
参考文献	和声　理論と実習　Ⅰ	著者等	島岡　譲　他	出版社	音楽之友社
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	・授業の概要説明 ・伴奏体験者の順番及び曲決め ・コードネーム／予備知識 ・教材のコード分析、及びコードによる伴奏演習①	・シラバスに目を通しておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第2回	・伴奏体験A(A，B，C・・・は、受講人数により変わる) ・コードネーム／三和音と調との関係 ・教材のコード分析、及びコードによる伴奏演習②	・教材の伴奏担当者は自分に割り当てられた伴奏をさらっておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第3回	・伴奏体験B ・コードネーム／主要三和音と三種のカデンツ ・コードネーム付き教材の、適切な伴奏形による伴奏演習①	・教材の伴奏担当者は自分に割り当てられた伴奏をさらっておく ・復習により、配布資料の理解に努める

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	・伴奏体験C ・コードネーム／セブンスのコード ・コードネーム付き教材の、適切な伴奏形による伴奏演習②	・教材の伴奏担当者は自分に割り当てられた伴奏をさらっておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第5回	・伴奏体験D ・コードネーム／コード進行の可能性 ・コードネーム付けの演習で付けたコードに基づく、メロディーの即興的弾き歌い演習①	・教材の伴奏担当者は自分に割り当てられた伴奏をさらっておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第6回	・伴奏体験E ・コードネーム／終止について ・コードネーム付けの演習で付けたコードに基づく、メロディーの即興的弾き歌い演習②	・教材の伴奏担当者は自分に割り当てられた伴奏をさらっておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第7回	・伴奏体験F ・コードネーム／これまでの復習および単元テスト	・教材の伴奏担当者は自分に割り当てられた伴奏をさらっておく ・復習により、これまでの配布資料の理解に努める
第8回	・伴奏体験A ・メロディーのコード付け／固有和音① ・コードネーム付けの演習で付けたコードに基づく、メロディーの即興的弾き歌い演習③	・教材の伴奏担当者は自分に割り当てられた伴奏をさらっておく ・課題を実施しておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第9回	・メロディーのコード付け／固有和音② ・コードネーム付けの演習で付けたコードに基づく、メロディーの即興的弾き歌い演習④	・教材の伴奏担当者は自分に割り当てられた伴奏をさらっておく ・課題を実施しておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第10回	・伴奏体験B ・メロディーのコード付け／固有和音③ ・コードネーム付けの演習で付けたコードに基づく、メロディーの即興的弾き歌い演習⑤	・教材の伴奏担当者は自分に割り当てられた伴奏をさらっておく ・課題を実施しておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第11回	・伴奏体験C ・メロディーのコード付け／固有和音④ ・コードネーム付けの演習で付けたコードに基づく、メロディーの即興的弾き歌い演習⑥	・教材の伴奏担当者は自分に割り当てられた伴奏をさらっておく ・課題を実施しておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第12回	・伴奏体験D ・非和声音について ・メロディーのコード付け／固有和音⑤ ・コードネーム付けの演習で付けたコードに基づく、メロディーの即興的弾き歌い演習⑦	・教材の伴奏担当者は自分に割り当てられた伴奏をさらっておく ・課題を実施しておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第13回	・伴奏体験E ・メロディーのコード付け／固有和音⑥ ・コードネーム付けの演習で付けたコードに基づく、メロディーの即興的弾き歌い演習⑧	・教材の伴奏担当者は自分に割り当てられた伴奏をさらっておく ・課題を実施しておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第14回	・伴奏体験F ・メロディーのコード付け／これまでの復習および単元テスト	・教材の伴奏担当者は自分に割り当てられた伴奏をさらっておく ・課題を実施しておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第15回	まとめ（実技テスト） ・教材伴奏テスト ・メロディーのコード付け課題演習 ・弾き歌いテスト	

科目名(クラス)	教材伴奏法ⅡB	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2又は3
担当教員	金井良次	履修対象・条件	全専攻(声楽と管弦打の演奏家コースは履修不可) 教職実践専攻は2単位必修				

【授業の概要】

伴奏は、用途、曲趣、相手の演奏の仕方や力量等、様々な要素によって必ず変化を伴います。教材を多角的に捉え、変化に即応した伴奏を心掛けることは教師にとって不可欠な要素です。本授業は、学校教育現場で扱われることの多い曲を学生が選択し、輪番により教材伴奏を体験し、現場で必要とされる伴奏技術を高め合うことを目指します。
一方で、音楽の教科書をどのように活用して適切に授業を進めるかという観点から、「コード進行」「コードによる伴奏付け」「メロディーのコード付け」「弾き歌い」などに関する様々な知識をいっそう深め、教材伴奏への応用技術を学びます。

【授業の到達目標】

・主要三和音と三種のカデンツ、コード進行の可能性、終止形などについて、コードネームで理解している。
・借用和音をコードネームで理解している。
・借用和音を用いて、メロディーのコード付けや、適切な伴奏が弾ける。
・適切なコード伴奏を付けながら、平易なメロディーを弾いたり歌ったりすることが出来る。
・斉唱や合唱などの教材伴奏において、生徒(役)の表現に添った、適切で音楽的な伴奏が出来る。

【授業の「方法」と「形式」】

コードネーム等の知識を深め、同時に伴奏力向上の様々な課題(教科書教材)に習熟します。

【履修時の「留意点」と「心得」】

「コードを分析する」「コードを弾く」「コードを付ける」「コードに基づいて伴奏を即興的に弾く」「初見演奏する」「弾き歌いする」等の演習や、課題の実施を伴うため、各回の準備・練習、予習・復習等を充分に行うことが求められます。なお、資料や課題を保存するため、フラットファイル(A4版縦型)を各自用意してください。(課題実施のための五線紙はこちらで用意します)

【成績評価の「方法」と「基準」】

評価の方法は、主に次の2つの観点によります。
①、コードネーム課題(毎回授業の課題、単元テスト、期末テスト等)の結果や取り組み状況(50%)
②教材伴奏課題への取り組み状況(50%)

①②とも、向上心を加味して総合的に判断します。

教科書	中学生の音楽1，同2・3上，同2・3下	著者等	小原光一　他	出版社	教育芸術社
教科書		著者等		出版社	
参考文献	和声　理論と実習　Ⅰ	著者等	島岡　譲　他	出版社	音楽之友社
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	・伴奏体験A(A，B，C・・・は、受講人数により変わる) ・借用和音と副属七の和音について ・メロディーのコード付け／借用和音を含む①	・教材の伴奏担当者は自分に割り当てられた伴奏をさらっておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第2回	・伴奏体験B ・メロディーのコード付け／借用和音を含む②	・教材の伴奏担当者は自分に割り当てられた伴奏をさらっておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第3回	・伴奏体験C ・メロディーのコード付け／借用和音を含む③	・教材の伴奏担当者は自分に割り当てられた伴奏をさらっておく ・復習により、配布資料の理解に努める

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	・伴奏体験D メロディーのコード付け／借用和音を含む④ ・非和声音の種類について ・メロディーのコード付けに関するこれまでの復習および単元テスト	・教材の伴奏担当者は自分に割り当てられた伴奏をさらっておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第5回	・伴奏体験E ・メロディーのコード付け／借用和音を含む⑤	・教材の伴奏担当者は自分に割り当てられた伴奏をさらっておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第6回	・伴奏体験F ・準固有和音 ・メロディーのコード付け／借用和音を含む⑥	・教材の伴奏担当者は自分に割り当てられた伴奏をさらっておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第7回	・伴奏体験A ・メロディーのコード付け／借用和音を含む⑦	・教材の伴奏担当者は自分に割り当てられた伴奏をさらっておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第8回	・伴奏体験B ・メロディーのコード付け／借用和音を含む⑧	・教材の伴奏担当者は自分に割り当てられた伴奏をさらっておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第9回	・伴奏体験C ・メロディーのコード付け／借用和音を含む⑨	・教材の伴奏担当者は自分に割り当てられた伴奏をさらっておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第10回	・伴奏体験D ・ナポリの和音、ドリアの和音、その他の和音	・教材の伴奏担当者は自分に割り当てられた伴奏をさらっておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第11回	・伴奏体験E ・メロディーのコード付け／これまでの復習および単元テスト	・課題を実施しておく ・指導案（簡略版）作成と配布の準備をしておく ・用意するものを予告しておく
第12回	・伴奏体験F ・ヤマハグレードシステムの簡単な紹介①	・課題を実施しておく ・指導案（簡略版）作成と配布の準備をしておく ・用意するものを予告しておく
第13回	・伴奏体験（模擬授業） ・ヤマハグレードシステムの簡単な紹介②カウンターライン	・教材の伴奏担当者は自分に割り当てられた伴奏をさらっておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第14回	・伴奏体験（模擬授業） ・ヤマハグレードシステムの簡単な紹介③問題演習	・教材の伴奏担当者は自分に割り当てられた伴奏をさらっておく ・復習により、配布資料の理解に努める
第15回	まとめ（実技テスト） ・教材伴奏テスト ・メロディーのコード付け課題演習 ・弾き歌いテスト	

科目名(クラス)	ピアノ伴奏法ＩＡ	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	大場　文恵	履修対象・条件	ピアノ専攻のみ履修可				

【授業の概要】

伴奏はピアノ演奏の重要な分野です。声楽あるいは器楽とのアンサンブルであることから、ソロを弾く時に加えて多くのことを心がけなければなりません。
初めの2回は伴奏を弾く時に心がけることを考え、ポイントを探っていきます。第3回からはイタリア歌曲やドイツ歌曲を題材に、演奏を通して具体的に考えながらピアノパートを作り上げ、ソリストと共演することで完成を目指します。
ピアノ伴奏法ＩＢを履修することにより、さらに幅広く学ぶことができます。

【授業の到達目標】

伴奏の果たす役割の重要性を理解し、共演する上での基本を身につけている。

【授業の「方法」と「形式」】

実技(受講生の演奏)、講義、ディスカッションを取り混ぜながら行います。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・演奏をもとに授業を進めますので、演奏が割り当てられた受講生は十分に準備をしてください。
・遅刻、途中退室は原則として認めません。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業への積極性(演奏、ディスカッションの発言内容、課題への取り組みなど)50%
試験(実技とレポート)50%

教科書	ドイツ歌曲名歌集Ⅰ(原典版)	著者等		出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	伴奏について考えよう	
第2回	伴奏の基礎1 (完璧な譜読みと適切な運指)	予習:課題の譜読みをする。 復習:授業で学んだことを踏まえて練習をする。
第3回	伴奏の基礎2 (演奏を客観的にとらえ、音色・バランスなど音に対する意識を高める)	予習:課題の練習をする。 復習:授業で学んだことを踏まえて練習をする。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	イタリア古典歌曲1 （楽譜から読み取れることを考える。イタリア語の詩を理解する）	予習：課題の譜読みをする。歌詞の意味、対訳を楽譜に書く。 復習：授業で学んだことを踏まえて練習をする。
第5回	イタリア古典歌曲2 （共演者と合わせることを意識して演奏を組み立てる）	予習：弾きながら歌詞を目で追えるようにする。 復習：授業で学んだことを踏まえて練習をする。
第6回	イタリア古典歌曲3 （共演者と合わせることによって完成させる）	予習：歌詞を言いながら弾けるようにする。 復習：3回の授業をふり返る。
第7回	ドイツ古典派の歌曲1 （楽譜から読み取れることを考える。ドイツ語の詩を理解する。）	予習：課題の譜読みをする。詩の意味、対訳を楽譜に書く。 復習：授業で学んだことを踏まえて練習をする。
第8回	ドイツ古典派の歌曲2 （共演者と合わせることを意識して演奏を組み立てる）	予習：作曲家と時代背景について調べる。 復習：授業で学んだことを踏まえて練習をする。
第9回	ドイツ古典派の歌曲3 （共演者と合わせることによって完成させる）	予習：歌詞を言いながら弾けるようにする。 復習：3回の授業をふり返る。
第10回	ドイツロマン派の歌曲1 （曲や詩を解釈することからロマン派の豊かな世界を感じる）	予習：課題の譜読みをする。詩の意味、対訳を楽譜に書く。 復習：授業で学んだことを踏まえて練習をする。
第11回	ドイツロマン派の歌曲2 （共演者と合わせることを意識して演奏を組み立てる）	予習：作曲家と時代背景について調べる。 復習：授業で学んだことを踏まえて練習をする。
第12回	ドイツロマン派の歌曲3 （共演者と合わせることによって完成させる）	予習：歌詞を言いながら弾けるようにする。 復習：3回の授業をふり返る。
第13回	実技試験で共演する曲1 （9月の定期試験で演奏する曲を取り上げる）	予習：各自の演奏のレベルアップを目指す。 復習：授業で学んだことを踏まえて練習をする。
第14回	実技試験で共演する曲2 （9月の定期試験で演奏する曲を取り上げる）	予習：各自の演奏のレベルアップを目指す。 復習：授業で学んだことを踏まえて練習をする。
第15回	まとめ	予習：与えられた課題の準備をする。 復習：授業で学んだことをふり返る。

科目名(クラス)	ピアノ伴奏法ＩＢ	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	大場　文恵	履修対象・条件	ピアノ専攻のみ履修可				

【授業の概要】

ピアノ伴奏法ＩＡで学んだことをさらに発展させます。ドイツ後期ロマン派の歌曲、日本歌曲、そしてオーケストラの代わりを務めるオペラアリアやコンチェルトの伴奏など、さまざまな形態の伴奏について学びます。

【授業の到達目標】

演奏全体のアンサンブルを考えた上で、どのようにサポートし演奏を作り上げていけばよいか判断し実践できる。
オーケストラのそれぞれの楽器と全体の響きを理解し、演奏に生かすことができる。

【授業の「方法」と「形式」】

実技（受講生の演奏）、講義、ディスカッションを取り混ぜながら行います。

【履修時の「留意点」と「心得」】

演奏をもとに授業を進めますので、割り当てられた受講生は十分に準備をしてください。
遅刻、途中退室は原則として認めません。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業への積極性（演奏、ディスカッションの発言内容、課題への取り組みなど）50%
試験（実技、レポート）50%

教科書	ドイツ歌曲名歌集Ⅰ（原典版）	著者等		出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	ドイツ後期ロマン派の歌曲１ （オーケストラ的な厚みのある響きを表現する）	予習：課題の譜読みをする。歌詞の意味、対訳を楽譜に書く。 復習：授業で学んだことを踏まえて練習をする。
第2回	ドイツ後期ロマン派の歌曲2 （共演者と合わせることを意識して演奏を組み立てる）	予習：作曲家と時代背景について調べる。 復習：授業で学んだことを踏まえて練習をする。
第3回	ドイツ後期ロマン派の歌曲３ （共演者と合わせることによって演奏を完成させる）	予習：歌詞を言いながら弾けるようにする。 復習：授業で学んだことを踏まえて練習をする。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	オペラのアリア1 （オーケストラの響きを感じる）	予習：課題の譜読みをする。歌詞の意味、対訳を楽譜に書く。 復習：授業で学んだことを踏まえて練習をする。
第5回	オペラのアリア2 （指揮者的な役割）	予習：歌詞と内容を確認する。音源を聴き、オーケストラの響きをイメージする。 復習：授業で学んだことを踏まえて練習をする。
第6回	オペラのアリア3 （共演者と合わせることで完成させる）	予習：オペラの全体像をつかむ。 復習：授業で学んだことを踏まえて練習をする。
第7回	日本歌曲1 （日本の情緒を理解する）	予習：課題の譜読みをし、詩を理解する。 復習：授業で学んだことを踏まえて練習をする。
第8回	日本歌曲2 （共演者と合わせることを意識して演奏を組み立てる）	予習：言葉を言いながら弾けるようにする。 復習：授業で学んだことを踏まえて練習をする。
第9回	日本歌曲3 （共演者と合わせることで完成させる）	予習：詩とのかかわりを理解し、合わせることをイメージする。 復習：授業で学んだことを踏まえて練習をする。
第10回	器楽曲1 （それぞれの楽器の特性と響きを知る）	予習：課題の譜読みをする。 復習：授業で学んだことを踏まえて練習をする。
第11回	器楽曲2 （共演者と合わせることを意識して演奏を組み立てる）	予習：ソロパートを目で追えるようにする。 復習：授業で学んだことを踏まえて練習をする。
第12回	器楽曲3 （共演者と合わせることで完成させる）	予習：響きと音楽のイメージを明確にする。 復習：授業で学んだことを踏まえて練習をする。
第13回	実技試験で共演する曲1 （2月の定期試験で演奏する曲を取り上げる）	予習：各自の演奏のレベルアップを目指す。 復習：授業で学んだことを踏まえて練習をする。
第14回	実技試験で共演する曲2 （2月の定期試験で演奏する曲を取り上げる）	予習：各自の演奏のレベルアップを目指す。 復習：授業で学んだことを踏まえて練習をする。
第15回	まとめ	予習：与えられた課題の準備をする。 復習：授業で学んだことをふり返る。

科目名(クラス)	ピアノ伴奏法ⅡA	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	3
担当教員	田中　梢	履修対象・条件	ピアノ専攻のみ履修可				

【授業の概要】

伴奏について学ぶ。ピアノを使って仕事をするとき求められる実践的技術を学ぶ。
その為に必要な技術を基礎から学び、様々な分野で必要とされる技術を身に着ける。
パートナーの譜面を読める目、パートナーの演奏を聴ける耳を養う。

【授業の到達目標】

伴奏者としての基礎を身に着ける
合唱の伴奏・イタリア歌曲・ドイツ歌曲の楽譜にかかれていることを読み取りエッセンスを理解する

【授業の「方法」と「形式」】

各回ごとに与えられた演目を全員が演奏する。
伴奏される側に立って歌ったり指揮をしたりすることも求められる。

【履修時の「留意点」と「心得」】

伴奏の分野は非常に幅広いです。毎回課題が出ますができる範囲で予習をしてきてください。
毎回新しいことを学習するので出来る限り欠席しないでください。

【成績評価の「方法」と「基準」】

平常授業内での実技評価30%
平常授業への積極性評価70%
実技能力よりも各々が課題に対してどれだけ意欲的に参加し達成したかを評価する

教科書	その都度渡す	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	音楽での自己紹介とガイダンス	復習:伴奏について理解する
第2回	合唱曲「花」「大地讃頌」	予習:課題曲を譜読みする 復習:合唱の伴奏について理解する。指揮について理解する。
第3回	合唱曲「落葉松」	予習:課題曲をさらう 復習:伴奏の基本を理解する

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	同上	予習：課題曲をさらう 復習：6段譜面を読む力をつける
第5回	イタリア古典歌曲①	予習：課題曲をさらう 復讐：イタリア古典歌曲について理解を深める
第6回	イタリア古典歌曲②（チェンバロでの演習）	予習：課題曲をさらう 復習：通奏低音による音楽を理解する
第7回	イタリア歌曲③（ベルカントとロマン派）	予習：課題曲をさらう 復習：ベルカントについて理解を深める
第8回	イタリア音楽④（カンツォーネ）	予習：課題曲をさらう 復習：カンツォーネについて理解を深める
第9回	ドイツ歌曲①（モーツァルト）	予習：課題曲をさらう 復習：モーツァルトについて理解を深める
第10回	ドイツ歌曲②（シューベルト）	予習：課題曲をさらう 復習：シューベルトの音楽に対して理解を深める
第11回	ドイツ歌曲③（シューマン）	予習：課題曲をさらう 復習：シューマンの音楽に対して理解を深める
第12回	日本歌曲	予習：課題曲をさらう 復習：日本歌曲に対して理解を深める
第13回	歌曲伴奏の総括	予習：試演会に弾く曲をえらぶ 復習：注意されたことをもとにさらいなおす
第14回	前期試演会ゲネプロ	同上
第15回	前期試演会	予習：試演会に向けて完成させる 復習：批評をもとに反省する

科目名(クラス)	ピアノ伴奏法ⅡB	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	3
担当教員	田中　梢	履修対象・条件	ピアノ専攻のみ履修可				

【授業の概要】

伴奏について学ぶ。ピアノを使って仕事をするとき求められる実践的技術を学ぶ。
その為に必要な技術を基礎から学び、様々な分野で必要とされる技術を身に着ける。
パートナーの譜面を読める目、パートナーの演奏を聴ける耳を養う。
後期はオーケストラで伴奏される演目を中心に、楽譜に書かれていない音も弾ける技術を身に着ける

【授業の到達目標】

オーケストラ的なピアノが弾けるようになること
即興伴奏が出来るようになること

【授業の「方法」と「形式」】

課題ごとに全員が演奏します。ヴィデオ鑑賞やミュージックベル他の楽器も補助として使います。

【履修時の「留意点」と「心得」】

伴奏の分野は非常に幅広いです。毎回課題が出ますができる範囲で予習をしてきてください。
毎回新しいことを学習するので出来る限り欠席しないでください。

【成績評価の「方法」と「基準」】

平常授業内での実技評価30%
平常授業への積極性評価70%
実技能力よりも各々が課題に対してどれだけ意欲的に参加し達成したかを評価する

教科書	その都度渡す	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	コード奏①(基礎)	予習:コード表を覚える、コード基礎練習をする 復習:コードで曲を弾いてみる
第2回	コード奏②(移調と即興)	予習:課題曲をさらう 復習:色々な曲をコードで伴奏する
第3回	オーケストラを弾く	予習:音源を聴く 復習:課題曲をさらう

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	オペラ①	予習：課題曲をさらう 復習：オペラを理解する
第5回	オペラ②	予習：課題曲をさらう 復習：課題曲をさらう
第6回	ワルツ	予習：ワルツの曲を探す 復習：ワルツを理解する
第7回	オペレッタ	予習：課題曲をさらう 復習：オペレッタを理解する
第8回	ミュージカル①	予習：課題曲をさらう 復習：ミュージカルを理解する
第9回	ミュージカル②	予習：課題曲をさらう 復習：ミュージカルを聴く
第10回	クリスマス曲	予習：課題曲をさらう 復習：クリスマス曲を理解する
第11回	ミュージックベルと即興伴奏	予習：課題曲をさらう 復習：即興伴奏に慣れる
第12回	器楽の伴奏①	予習：課題曲をさらう 復習：課題曲に慣れる
第13回	器楽の伴奏②	予習：課題曲をさらう 復習：器楽の伴奏を理解する
第14回	後期試演会ゲネプロ	予習：課題曲をさらう 復習：課題曲をさらう
第15回	後期試演会	予習：課題曲をさらう

科目名(クラス)	音楽療法の理論と技法A	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	二俣　泉	履修対象・条件	音楽療法専攻、教職実践専攻のみ履修可。 音楽療法専攻生については必修。				

【授業の概要】

音楽療法実践では、対象者の問題の要因の分析とそれに基づく合理的な介入方法の選択が必要である。その前提となるのが「理論」である。音楽療法において、理論なき実践はありえない。音楽療法には複数の理論があり、対象者のニーズに応じて、理論を使い分ける必要もある。理論を知らずして、音楽療法の専門家になることはできない。本授業は、音楽療法における様々な支援方法と背景理論についての基礎的な理解を深めることを目的とする。本授業では、理論・アプローチのうち、神経学的音楽療法、精神分析とそれに影響を受けて発展した分析的音楽療法、また行動主義心理学と認知・行動療法および認知・行動療法に基づく音楽療法について学ぶ。

【授業の到達目標】

音楽療法の定義、音楽療法の多様なアプローチの原則を理解すること。
神経学的音楽療法の代表的手法、精神分析理論の治療理論と代表的概念およびその音楽療法の応用である分析的音楽療法の方法、行動主義心理学の考え方と代表的概念とその音楽療法への応用の具体例について理解すること。

【授業の「方法」と「形式」】

講師による講義、ビデオ等による音楽療法の実践場面の紹介、および学生相互の討議で進行する。

【履修時の「留意点」と「心得」】

ほぼ毎回、授業の最初に小テストを実施する。この小テストも成績評価に反映される。復習を徹底すること。原則として欠席、遅刻、早退をしないこと。順序だてて講義を進めるので、出席しない授業があると、内容の理解に甚だしく影響する可能性が高いので、そのつもりで授業に臨んでもらいたい。大学外で行われる学会、講習会への参加、およびその感想文の提出も課題とする。

【成績評価の「方法」と「基準」】

毎授業冒頭で実施される小テストの平均点(50%)、学期末で実施される授業全体に関するテスト(50%)の合計点。

教科書	音楽療法を学ぶ 第2版	著者等	二俣泉	出版社	音楽療法研究会
教科書	音楽療法を知る	著者等	宮本啓子 ほか	出版社	杏林書院
参考文献	音楽療法入門　上巻　および　下巻	著者等	デイビス他	出版社	一麦出版
参考文献	標準音楽療法入門　上巻　および　下巻	著者等	篠田知璋 ほか	出版社	春秋社

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	音楽療法とは何か(1):音楽療法には、広い意味での音楽療法と、より厳密な意味での音楽療法があると言える。両者の違いを認識し、専門的な介入としての音楽療法に求められる条件について学ぶ。	予習・復習:教科書と配布資料の当該箇所を熟読し、次回冒頭に実施される小テストに備える。
第2回	音楽療法とは何か(2)音楽療法の対象領域:音楽療法の多様な対象領域、およびその実践の様相を学ぶ。	予習・復習:教科書と配布資料の当該箇所を熟読し、次回冒頭に実施される小テストに備える。
第3回	音楽療法とは何か(3)音楽療法の目的:音楽療法は、健康に関する目的を達成するものである。健康の諸次元(身体・心理・社会・スピリチュアル)を学ぶ。また、音楽教育と音楽療法の相違についても検討する。	予習・復習:教科書と配布資料の当該箇所を熟読し、次回冒頭に実施される小テストに備える。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	音楽療法とは何か（4）音楽療法実践の流れ：音楽療法は、アセスメント、目標設定、実践、記録、評価という流れをもつ体系的な営みである。実践の流れにおける諸要素とその意義について学ぶ。	予習：音楽療法の事例研究を2つ読み、「アセスメント―目標設定・実践―評価」という観点から分析し、レポートにまとめる。 復習：教科書と配布資料の当該箇所を熟読する。
第5回	音楽療法における音楽体験（1）聴取：音楽療法における聴取体験（リラクゼーション、GIM、RMT、随伴的聴取等）	予習・復習：教科書と配布資料を熟読し、次回冒頭に実施される小テストに備える。
第6回	音楽療法における音楽体験（2）歌唱：失語症の訓練、自己表現、その他	予習・復習：教科書と配布資料を熟読し、次回冒頭に実施される小テストに備える。
第7回	音楽療法における音楽体験（3）楽器演奏・即興・創作・その他	予習・復習：教科書と配布資料を熟読し、次回冒頭に実施される小テストに備える。
第8回	音楽療法における身体へのアプローチ：音楽療法における「身体」の健康への貢献について説明する。また、身体リハビリテーションを目的とした音楽療法の代表的な方法である神経学的音楽療法について学ぶ。	予習・復習：教科書と配布資料を熟読し、次回冒頭に実施される小テストに備える。
第9回	精神分析と音楽療法（1）：精神分析の歴史・理論の概要・治療の方法について説明すると共に、音楽療法にこの理論を応用するときの考え方について学ぶ。	予習・復習：教科書と配布資料を熟読し、次回冒頭に実施される小テストに備える。
第10回	精神分析と音楽療法（2）：精神分析に強く影響を受けた音楽療法の方法「分析的音楽療法」について学ぶ。加えて、精神分析において重要な「転移」および「逆転移」についても学ぶ。	予習：自分が過去に経験した「転移感情」についてレポートを書く。 復習：教科書と配布資料を熟読し、次回冒頭に実施される小テストに備える。
第11回	精神分析と音楽療法（3）：「分析的音楽療法」の事例を検討し、音楽とこころの深層との関係についてより深く学ぶ。	予習：主要な防衛機制について、必要な文献を読んでまとめたレポートを書く。 復習：教科書と配布資料を熟読し、次回冒頭に実施される小テストに備える。
第12回	認知・行動療法と音楽療法（1）：心理学の重要な学派の一つである行動主義心理学の歴史と概要、基本的な概念等を学ぶ。また、その臨床への応用である認知・行動療法の概要を把握する。	予習：自分が過去に経験した「強化・弱化」の例を書いたレポートを作成する。 復習：教科書と配布資料の当該箇所を熟読する。
第13回	認知・行動療法と音楽療法（2）：認知・行動療法の歴史と特徴を学ぶと共に、それを音楽療法にどう応用するのかについて、学ぶ。	予習：認知・行動療法に関する、理解が難しい概念（負の強化、負の罰）について文献を読んでまとめたレポートを作成する。 復習：教科書と配布資料の当該箇所を熟読する。
第14回	認知・行動療法と音楽療法（3）：認知・行動療法に基づく音楽療法の事例を検討する。また、行動主義心理学・認知行動療法の諸概念が、音楽療法実践にどう活用しうるかを実例を通して紹介する。	予習：神経学的音楽療法、分析的音楽療法、認知・行動療法に基づく音楽療法の特徴を簡潔にまとめ、レポートを作成する。 復習：教科書と配布資料の当該箇所を熟読する。
第15回	授業まとめ・試験	

科目名(クラス)	音楽療法の理論と技法B	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	二俣　泉	履修対象・条件	音楽療法専攻、教職実践専攻のみ履修可。 音楽療法専攻のみ必修。				

【授業の概要】

音楽療法には複数の理論があり、対象者のニーズに応じて、理論を使い分ける必要もある。理論を知らずして、音楽療法の専門家になることはできない。本授業は、音楽療法における様々な支援方法と背景理論についての基礎的な理解を深めることを目的とする。本授業では、音楽療法の理論・アプローチのうち、人間性心理学とそれに影響を受けて発展したノードフ・ロビンズ音楽療法、トランスパーソナル心理学とGIM(音楽によるイメージ誘導法)、折衷主義、RMT(調整的音楽療法)、スピリチュアリティと音楽療法との関係等について学ぶ。

【授業の到達目標】

人間性心理学論の治療理論と代表的概念およびそれに影響を受けているノードフ・ロビンズ音楽療法の歴史と方法、トランスパーソナル心理学とGIM、および音楽療法のその他の方法について理解する。
また、音楽療法の歴史の概要を把握するとともに、音楽療法における研究活動の意義についても理解する。

【授業の「方法」と「形式」】

講師による講義、ビデオ等による音楽療法の実践場面の紹介、および学生相互の討議で進行する。

【履修時の「留意点」と「心得」】

ほぼ毎回、授業の最初に小テストを実施する。この小テストも成績評価に反映される。復習を徹底すること。原則として欠席、遅刻、早退をしないこと。順序だてて講義を進めるので、出席しない授業があると、内容の理解に甚だしく影響する可能性が高いので、そのつもりで授業に臨んでもらいたい。大学外で行われる学会、講習会への参加、およびその感想文の提出も課題とする。

【成績評価の「方法」と「基準」】

毎授業冒頭で実施される小テストの平均点(50%)、学期末で実施される授業全体に関するテスト(50%)の合計点。

教科書	音楽療法をまなぶ 第2版	著者等	二俣泉	出版社	音楽療法研究会
教科書	音楽療法を知る	著者等	宮本啓子 ほか	出版社	杏林書院
参考文献	トランスパーソナル心理学入門	著者等	諸富祥彦	出版社	講談社
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	「音楽療法理論と技法A」の概要および本授業の概要説明	予習・復習:教科書と配布資料を熟読し、次回冒頭に実施される小テストに備える。
第2回	人間性心理学と音楽療法(1):マズローの欲求階層説およびロジャーズのパーソン・センタード・アプローチについて学ぶ。加えて、これらの理論の音楽療法への応用について検討する。	予習:ロジャーズの「治療的変化の必要十分条件」について、自ら文献を調べてレポートにまとめる。 復習:教科書と配布資料の当該箇所を熟読する。
第3回	人間性心理学と音楽療法(2):人間性心理学に影響を受けているノードフ・ロビンズ音楽療法の概要について学ぶ。	予習:ノードフ・ロビンズ音楽療法の症例ビデオを見ておく。 復習:教科書と配布資料の当該箇所を熟読する。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	人間性心理学と音楽療法（3）：ノードフ・ロビンズ療法の多様な対象領域の実践を学ぶ	予習・復習：教科書と配布資料の当該箇所を熟読する。
第5回	トランスパーソナル心理学と音楽療法（1）	予習・復習：教科書と配布資料の当該箇所を熟読する。
第6回	トランスパーソナル心理学と音楽療法（2）	予習・復習：教科書と配布資料の当該箇所を熟読する。
第7回	トランスパーソナル心理学と音楽療法（3）：トランスパーソナル心理学の代表的理論である「意識のスペクトル理論」と、その理論に基づく音楽療法の症例を検討する。	予習：GIMの症例を読み、感想を書く。 復習：教科書と配布資料の当該箇所を熟読する。
第8回	音楽療法とスピリチュアリティ（1）：音楽は、古代から宗教と深い関係があった。スピリチュアリティ・宗教、および人間のもつスピリチュアルなニーズについて考える。	予習・復習：教科書と配布資料の当該箇所を熟読する。
第9回	音楽療法とスピリチュアリティ（2）：近年、心理療法の世界で注目を集めているマインドフルネスについて説明する。加えて、マインドフルネスを活用した音楽療法であるRMTについても説明する。	予習・復習：教科書と配布資料の当該箇所を熟読する。
第10回	社会へのアプローチ：ここ10年ほどで研究・実践が進んできた「コミュニティ音楽療法」の理論と実践例について検討する。加えて、WHOの国際生活機能分類を紹介し、環境要因の改善の意義についても学ぶ。	予習・復習：教科書と配布資料の当該箇所を熟読する。
第11回	音楽療法と効果：音楽療法は効果をもたらすために行うものであるが、何をもって効果とするか、またその効果が音楽療法によるものと言い切るには、様々の問題がある。音楽療法の効果に関する諸問題について検討する。	予習・復習：教科書と配布資料の当該箇所を熟読する。
第12回	音楽療法と研究活動	予習・復習：教科書と配布資料の当該箇所を熟読する。
第13回	音楽療法の歴史（1）：諸外国	予習：参考文献をもとに、音楽療法の歴史年表を書いてくる。 復習：教科書と配布資料の当該箇所を熟読する。
第14回	音楽療法の歴史（2）：日本	予習：参考文献をもとに、音楽療法の歴史年表を書いてくる。 復習：教科書と配布資料の当該箇所を熟読する。
第15回	授業まとめ・試験	

科目名(クラス)	音楽療法各論〔児童〕	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	3・4
担当教員	二俣　泉	履修対象・条件	音楽療法専攻、教職実践専攻のみ履修可。 音楽療法専攻のみ必修。				

【授業の概要】

神経発達障害の子どもへの音楽療法の理論、実践の具体的方法、活動の例、対象児の保護者への対応等について学ぶ。
この領域への音楽療法を実施するにあたっての知識を得ることを目的とする。

【授業の到達目標】

神経発達障害の種別とそれらの特徴を知る。子どもの必要性に応じて、音楽をどう使って介入すべきかを理論的に把握する。子どもの音楽療法の複数のアプローチ（応用行動分析学、ノードフ・ロビンズ音楽療法、発達論）の概要を知り、各アプローチの長所と短所を理解する。

【授業の「方法」と「形式」】

講師による講義、ビデオ等による音楽療法の実践場面の紹介、および学生相互の討議で進行する。

【履修時の「留意点」と「心得」】

毎回、授業の最初に小テストを実施する。この小テストも成績評価に反映される。復習を徹底すること。原則として欠席、遅刻、早退をしないこと。順序だてて講義を進めるので、出席しない授業があると、内容の理解に甚だしく影響する可能性が高いので、そのつもりで授業に臨んでもらいたい。大学外で行われる学会、講習会への参加、およびその感想文の提出も課題とする。

【成績評価の「方法」と「基準」】

毎授業冒頭で実施される小テストの平均点（50%）、学期末で実施される授業全体に関するテスト（50%）の合計点。

教科書	音楽で育てよう子どものコミュニケーション・スキル	著者等	二俣泉　他	出版社	春秋社
教科書	発達障害の子どもたち	著者等	杉山登志郎	出版社	講談社
参考文献	音楽療法士サバイバル・ブック	著者等	二俣泉	出版社	杏林書院
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	授業全体の概要の説明および子どもの発達について考える。ヒトという種と他の動物との相違（環境からの影響を大きく受ける、環境に適応する能力が高い）について説明する。	予習：教科書「発達障害の子どもたち」を読み、その前半部分に関するレポートを作成する。 復習：教科書と配布資料の当該箇所を熟読し、次回冒頭に実施される小テストに備える。
第2回	神経発達障害の子どもの特徴：発達障害とは何か、その種類（知的障害、自閉症スペクトラム障害、学習障害、注意欠陥多動性障害）、およびその支援方法について学ぶ。	予習・復習：教科書と配布資料の当該箇所を熟読し、次回冒頭に実施される小テストに備える。
第3回	神経発達障害の子どもへの音楽療法の「流れ」（アセスメント、目標設定、主要な介入方法、評価）について学ぶ。	予習：神経発達障害児のためのアセスメント法（知能検査、発達検査等）のうちの一つを選び、それについてのレポートを作成する。 復習：教科書と配布資料の当該箇所を熟読し、次回冒頭に実施される小テストに備える。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	神経発達障害の子どもへの音楽療法の目的の3つの方向性（社会性・コミュニケーション、アカデミック・スキル、美的体験）について学ぶ。	予習・復習：教科書と配布資料の当該箇所を熟読し、次回冒頭に実施される小テストに備える。
第5回	応用行動分析学に基づく音楽療法（1）	予習・復習：教科書と配布資料の当該箇所を熟読し、次回冒頭に実施される小テストに備える。
第6回	応用行動分析学に基づく音楽療法（2）	予習・復習：教科書と配布資料の当該箇所を熟読し、次回冒頭に実施される小テストに備える。
第7回	応用行動分析学に基づく音楽療法（3）	予習・復習：教科書と配布資料の当該箇所を熟読し、次回冒頭に実施される小テストに備える。
第8回	ノードフ・ロビンズ音楽療法（1）：歴史・方法・基本概念を学ぶ	予習：Youtubeにあるノードフ・ロビンズの臨床例のビデオを見て、その分析レポートをまとめる。 復習：教科書と配布資料の当該箇所を熟読する。
第9回	ノードフ・ロビンズ音楽療法（2）：エドワードの症例その他、実際の例を知る。	予習：ノードフとロビンズ作曲の「プレイソング」から任意の曲のピアノ伴奏を練習する。または、音楽ゲーム「ピフ・パフ・ポールトリー」のピアノ伴奏を練習する。 復習：教科書と配布資料の当該箇所を熟読する。
第10回	ノードフ・ロビンズ音楽療法（3）：プレイソング、ピフ・パフ・ポールトリーの体験	予習・復習：教科書と配布資料の当該箇所を熟読し、次回冒頭に実施される小テストに備える。
第11回	発達論に基づく音楽療法（1）：子どもの支援において不可欠な「発達論」に関する学説を学ぶ。	予習・復習：教科書と配布資料の当該箇所を熟読し、次回冒頭に実施される小テストに備える。
第12回	発達論に基づく音楽療法（2）：音楽療法実践に大きな影響を与えてきた、宇佐川浩の「感覚と運動の高次化理論」について学ぶ。	予習・復習：教科書と配布資料の当該箇所を熟読し、次回冒頭に実施される小テストに備える。
第13回	発達論に基づく音楽療法（3）：宇佐川浩の「感覚と運動の高次化理論」に基づく音楽療法実践の方法について学ぶ。	予習・復習：教科書と配布資料の当該箇所を熟読し、次回冒頭に実施される小テストに備える。
第14回	折衷主義	予習・復習：教科書と配布資料の当該箇所を熟読する。
第15回	授業まとめ・試験	

科目名(クラス)	音楽療法各論〔精神科〕	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	3・4
担当教員	馬場　存	履修対象・条件	音楽療法専攻のみ履修可。必修				

【授業の概要】

精神科領域の音楽療法の理論と実践を理解する。精神障害全般を、音楽療法を施行することを念頭に置いて概観し、次に音楽療法の歴史を精神医学的観点を踏まえて復習する。それらを踏まえて音楽療法の実践の際の考え方、技法等について説明する。健常者から神経症圏の音楽療法と、統合失調症圏の音楽療法に分けて解説する。また、音楽療法理論の全体象を、主に心理療法的観点から再確認する。その理解のために、即興的体験や心理療法的体験も随時盛り込む。

【授業の到達目標】

最終的には、上記概要にある項目を統合して、精神症状全般と音楽療法の関連について有機的に理解し、実習等臨床活動の基盤となる知識を習得する事を目標とする。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式で行い、時に即興的体験等を交える。

【履修時の「留意点」と「心得」】

2年次の「人間と医療I」で履修した範囲を復習し、概略を念頭に置いておくこと。この領域の音楽療法の理解はそのまま人間理解、心理理解、そして自分自身の理解に繋がりを持つので、常に自分の心を振り返る心構えをどこかに持っておくこと。

【成績評価の「方法」と「基準」】

講義であるので、概念の正確な理解とその応用力が必要である。そのため、試験は筆記試験で行う。すべて記憶できればそれに越したことはないが、学生時代においては、内容を細部にわたり記憶することよりも、全体の大枠を頭の中に定着させることが重要である。そのため、試験は、教科書、参考書、自筆ノート、講義プリントを持ち込み可とし、選択肢形式ではなく文章を筆記する形で行う。問われていることが何かが理解できれば解答可能の形になる。したがって、全体を良く理解し、何が本質であるのか、しっかり理解し問いに答えられるようにすることが望まれる。講義終了時の、その日の内容についての質問に対する返答の正確性(授業への積極性の反映とみなす)(15%)と、筆記試験の点数(85%)を合算する。

教科書	音楽療法の基礎	著者等	村井靖児	出版社	音楽之友社
教科書	精神医学エッセンス	著者等	濱田秀伯	出版社	弘文堂
参考文献	医学的音楽療法　基礎と臨床	著者等	呉東進(編著)	出版社	北大路書房
参考文献	精神科領域における音楽療法ハンドブック	著者等	久保田牧子	出版社	音楽之友社

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	精神障害の概略と音楽療法(エヴィデンスを中心に)1 統合失調症	予習:「人間と医療I」の復習をしてくること。 復習:講義の内容が理解できているか確認すること。
第2回	精神障害の概略と音楽療法(エヴィデンスを中心に)2 感情障害	予習:前回までの講義の理解。 復習:講義の内容が理解できているか確認すること。
第3回	精神障害の概略と音楽療法(エヴィデンスを中心に)3 不安・強迫性障害	予習:前回までの講義の理解。 復習:講義の内容が理解できているか確認すること。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	精神障害の概略と音楽療法(エヴィデンスを中心に)4 パーソナリティ障害	予習：前回までの講義の理解。 復習：講義の内容が理解できているか確認すること。
第5回	音楽療法の歴史1 音楽の起源と心理学的側面	予習：前回までの講義の理解。 復習：講義の内容が理解できているか確認すること。
第6回	音楽療法の歴史2 心への音楽の影響と逆療法・カタルシス	予習：前回までの講義の理解。 復習：講義の内容が理解できているか確認すること。
第7回	音楽療法の歴史３ 同質の原理と補償の原理	予習：前回までの講義の理解。復習：講義の内容が理解できているか確認すること。
第8回	音楽療法の歴史４ 近代精神医学の誕生と精神科病院の興隆	予習：前回までの講義の理解。 復習：講義の内容が理解できているか確認すること。
第9回	音楽の生理的作用１ 音楽による生理的反応の誘起	予習：前回までの講義の理解。 復習：講義の内容が理解できているか確認すること。
第10回	音楽の生理的作用2 健常者における音楽への反応	予習：前回までの講義の理解。 復習：講義の内容が理解できているか確認すること。
第11回	音楽の心理的作用１ 気分の転導と音楽・心理学的理論	予習：前回までの講義の理解。 復習：講義の内容が理解できているか確認すること。
第12回	音楽の心理的作用２ 精神療法の枠組みと音楽、即興体験	予習：前回までの講義の理解。 復習：講義の内容が理解できているか確認すること。
第13回	音楽療法の原理	予習：前回までの講義の理解。 復習：講義の内容が理解できているか確認すること。
第14回	統合失調症圏の音楽療法	予習：前回までの講義の理解。 復習：講義の内容が理解できているか確認すること。
第15回	授業内試験	第1～14回の講義及び即興体験の意義を理解し、それらを問われた際に必要な情報に当たり言語的に的確に記述・表現できることが求められる。

科目名(クラス)	音楽療法各論〔高齢者〕	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	3・4
担当教員	平田　紀子	履修対象・条件	音楽療法専攻のみ履修可。必修				

【授業の概要】

高齢者領域の音楽療法について、基礎的知識を習得し、理解を深める。
この授業では、高齢者の心理や疾患、障害、支援の方法、実践の手順、他職種との連携など、実習や社会で役に立つ知識や心得を身につける。

【授業の到達目標】

高齢者の心理や生活行動を理解し、支援について考えることができる。
高齢者にみられる疾患、症状、障害に関する知識を身につけることができる。
また治療や介入方法について具体的に学び、音楽療法の実践へと活かすことができる。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式。毎回の授業で教材のプリントを配布する。

【履修時の「留意点」と「心得」】

欠席や遅刻、退席をしないことを原則とする。課題提出等の期限を厳守する。
口述した付加解説や板書に関しては、ノートを必ず取るように。
欠席すると内容の理解・継続に影響するので、出席者に内容を聞く、配布プリントをコピーするなどで次回に備えること。

【成績評価の「方法」と「基準」】

期末筆記試験を行う。
評価率は、筆記試験70%、授業への積極的参加など取り組みの姿勢を30%とする。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	毎回の授業でプリント配布	著者等		出版社	
参考文献	授業内で参考文献紹介	著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	高齢者の支援について 1	予習：シラバスを読んで各回のテーマをおさえる。 復習：高齢者の生活機能・行動情報に着目し、配布プリントと各自のノートを再読する。
第2回	高齢者の支援について　2	高齢者の活動の発展を踏まえた支援について配布プリントや各自のノートを読む。また支援の方法、可能性について調べる。
第3回	加齢について	加齢による心身機能の変化と心理についてプリントを読み、再考する。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	主な疾患と障害　1. 認知症	認知症について病態生理、症状など、プリントを読み、調べる。
第5回	主な疾患と障害　2. 認知症	認知症の治療、ケアについてプリントを読み、調べる。改善を目指した介入方法について考察する。
第6回	主な疾患と障害　3. 脳卒中	脳卒中について病態生理、症状など、プリントを読み、調べる。
第7回	主な疾患と障害　4. 脳卒中	脳卒中のケア、リハビリテーションについてプリントを読み、調べる。介入方法について考察する。
第8回	主な疾患と障害　5. 神経難病、他	パーキンソン病などの神経難病について、病態生理、症状、ケアなどプリントを読み、調べる。
第9回	主な疾患と障害　6. 廃用症候群	廃用症候群における機能低下ついて、プリントを読み、調べる。また予防、改善の方法を考察する。
第10回	実践の目的、手順	音楽療法の実際における目的や流れについて、プリントを読む。各自のノートを再読する。
第11回	実践の進め方　1	音楽療法の実践における流れ、技能、留意点に関してプリントを読む。各自のノートを再読する。
第12回	実践の進め方　2	音楽療法の実践における流れ、技能、留意点に関してプリントを読み、考察する。
第13回	記録と評価	実践の記録、評価法、スケールについて、資料を読む。
第14回	新しい分野の実践現場	予防的音楽療法、コミュニティ音楽療法など、近年発展する実践現場について、資料を読む。
第15回	まとめ	予習:各回のテーマを振り返る。 復習：配布プリントや各自のノート、教科書を再読する。

科目名(クラス)	ソルフェージュ1－a	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	井上　淳司	履修対象・条件	全専攻必修				

【授業の概要】

音楽に必要な専門技術を補完するあらゆる実技トレーニング、すなわち音楽の基本的な「読み」「書き」を踏まえて迅速、かつ正確に出来るようにするための訓練と、さらにそれを応用して表現に結びつけるための力を養う。
新曲視唱、新曲リズム、聴音（単旋律、複旋律、3～4声和音および和声、音や表現の違い等）、伴奏付旋律の弾き歌い、リズムアンサンブル、読譜（和声進行、コードネームの理解、楽譜の解釈、演奏法等）、カデンツの理解（特にドミナント進行）、移調訓練等その他。

【授業の到達目標】

基本的なリズム、また順次進行から6度跳躍進行で調号二つまでの旋律、主要三和音中心の三～四声の書き取り、読み取り、視唱。

【授業の「方法」と「形式」】

ソルフェージュに該当する総ての訓練を実技中心にクラス全体および個別に行う。

【履修時の「留意点」と「心得」】

積み重ねが重要。毎回必ず出席すること。

【成績評価の「方法」と「基準」】

聴音、弾き歌い、新曲視唱の実技試験有り。（100%）原則としてクラス毎に行う。

教科書	美しい新曲課題集	著者等	井上淳司、荻久保和明、片柳英男、加茂下裕、小島佳男、松岡俊克 共著	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	聴音（単旋律、二声、三和音、四声体等）、美しい新曲課題集（No.1～4）、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第2回	聴音（単旋律、二声、三和音、四声体等）、美しい新曲課題集（No.5～7）、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第3回	聴音（単旋律、二声、三和音、四声体等）、美しい新曲課題集（No8～10）、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	聴音（単旋律、二声、三和音、四声体等）、美しい新曲課題集（No.11～13）、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第5回	聴音（単旋律、二声、三和音、四声体等）、美しい新曲課題集（No.14～17）、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第6回	聴音（単旋律、二声、三和音、四声体等）、美しい新曲課題集（No.18～21）、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第7回	聴音（単旋律、二声、三和音、四声体等）、美しい新曲課題集（No.22～25）、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第8回	聴音（単旋律、二声、三和音、四声体等）、美しい新曲課題集（No.26～29）、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第9回	聴音（単旋律、二声、三和音、四声体等）、美しい新曲課題集（No30～33）、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第10回	聴音（単旋律、二声、三和音、四声体等）、美しい新曲課題集（No34～37）、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第11回	聴音（単旋律、二声、三和音、四声体等）、美しい新曲課題集（No38～41）、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第12回	聴音（単旋律、二声、三和音、四声体等）、美しい新曲課題集（No.42～45）、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第13回	まとめ	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第14回	まとめ	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第15回	まとめ	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。

科目名(クラス)	ソルフェージュ1－b	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	松岡　俊克	履修対象・条件	全専攻必修				

【授業の概要】

・新曲視唱、新曲リズム、聴音（単旋律、複旋律、3～4声和音、および和声、音や表現の違い等）、伴奏付旋律の弾きうたい、リズムアンサンブル、読譜（和声進行、コードネームの理解、楽譜の解釈、演奏法等）、カデンツの理解（特にドミナント進行）、移調訓練等、その他。
・各専攻の専門技術を補完する、あらゆる実技トレーニング。すなわち音楽の基本的な「読み」「書き」が迅速、かつ正確に出来るようにするための訓練とさらにそれを応用して表現に結びつける力を養う。

【授業の到達目標】

・2度音程（長2度・短2度）から6度音程（長6度・短6度）までの音程を歌ったり、聞きとったり、譜面に書いたりする事が出来るようにする。
・基礎的な事から、順序をおって、積み重ねていけるようにする。

【授業の「方法」と「形式」】

・実技トレーニング

【履修時の「留意点」と「心得」】

・毎日、単元ごとのプリントを配布するので、必ず出席すること。
・積み重ねが重要。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・聴音、新曲視唱、弾きうたいの実技試験。
・授業への積極的な参加及び課題への取り組みを毎時間行う。

教科書	美しい新曲課題集	著者等	井上淳司、荻久保和明、片柳英男、加茂下裕、小島佳男、松岡俊克 共著	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	・オリエンテーション ・2度音程の練習① ・4分、2分（音符、休符）、ト音記号、ハ長調	
第2回	・2度音程の練習② ・3度音程の練習① ・2・3度音程の練習①、シンコペーション	・前回のプリントの復習
第3回	・2・3度音程の練習② ・付点音符の練習 ・3連符の練習（リズム打ち）①ハ長調	・新曲課題集「1番～15番」までをみてくる（弾き歌い）

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	・2・3度音程の練習③（ト音、ヘ音記号） ・ハ長調、リズム打ち（3連符）の練習② ・リズムアンサンブル（8分、16分音符による）	・前回のプリントの復習
第5回	・4度音程の練習① ・イ短調 ・8分の6拍子、4分の3拍子のリズムパターンその①	・新曲課題集「19番～25番」までをみてくる
第6回	・2・3・4度音程の練習① ・ト長調の導入（4/4、3/4、6/8） ・8分の6拍子、4分の3拍子のリズムパターンその②	・前回のプリントの復習
第7回	・2・3・4度音程の練習② ・ヘ長調の導入（6/4、3/4、6/8） ・8分の6拍子、4分の3拍子のリズムパターンその③	・前回のプリントの復習 ・新曲課題集「25番～35番」までをみてくる
第8回	・2・3・4度音程の練習③ ・ト音、ヘ音記号の練習（ハ長調、イ短調、ヘ長調）	・前回のプリントの復習 ・新曲課題集「35番～」
第9回	・5度音程の練習① ・シンコペーション、タイの練習 ・ト音、ヘ音記号の練習	・個人ごとに2曲を選び弾き歌いの練習
第10回	・5度音程の練習② ・長調と短調の正しい音程の取り方（臨時記号） ・旋律短音階の練習（ハ短調、イ短調、・・・etc）	同上
第11回	・6度音程の練習① ・2度～6度音程までの新曲視唱の練習 ・♯、♭1つまでの新曲視唱及び聴音（単旋律、2声、和音）	同上
第12回	・7度音程の練習① ・2度～7度音程までの新曲視唱の聴音 ・ハ長調、イ短調、ト長調、ヘ長調、ニ短調	同上
第13回	・まとめ①	
第14回	・まとめ②	
第15回	・まとめ③	

科目名(クラス)	ソルフェージュ1－c	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	加茂下　裕	履修対象・条件	全専攻必修				

【授業の概要】

音楽に必要な専門技術を補完するあらゆる実技トレーニング、すなわち音楽の基本的な「読み」「書き」を踏まえて迅速、かつ正確に出来るようにするための訓練と、さらにそれを応用して表現に結びつけるための力を養う。
新曲視唱、新曲リズム、聴音（単旋律、複旋律、3～4声和音および和声、音や表現の違い等）、伴奏付旋律の弾き歌い、リズムアンサンブル、読譜（和声進行、コードネームの理解、楽譜の解釈、演奏法等）、カデンツの理解（特にドミナント進行）、移調訓練等その他。

【授業の到達目標】

①C durの平易な旋律・和音を聞き取って正しく記譜することができる。
②♯・♭1つまでの調の平易な旋律の楽譜を読んで正しく歌うことができる。
③各自の能力に合った弾き歌い曲の演奏ができる。

【授業の「方法」と「形式」】

主に演習

【履修時の「留意点」と「心得」】

積み重ねが重要。毎回必ず出席すること。

【成績評価の「方法」と「基準」】

聴音、弾き歌い、新曲視唱の実技試験有り。（100%）原則としてクラス毎に行う。

教科書	美しい新曲課題集	著者等	井上淳司、荻久保和明、片柳英男、加茂下裕、小島佳男、松岡俊克 共著	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1週	①聴音（C durによる基礎トレーニング1.2） ②新曲視唱（2°　音程：C dur） ③弾き歌い（テキストNo.1～4）	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習
第2週	①聴音（C durによる基礎トレーニング3.4） ②新曲視唱（2°　音程：C dur） ③弾き歌い（テキストNo.5～8）	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習
第3週	①聴音（C durによる基礎トレーニング5.6） ②新曲視唱（2°　音程：a moll） ③弾き歌い（テキストNo.9～12）	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4週	①聴音（C durによる基礎トレーニング7.8） ②新曲視唱（2° 音程：a moll） ③弾き歌い（テキストNo.13～17）	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習
第5週	①聴音（C durによる基礎トレーニング9.10） ②新曲視唱（3° 音程：C dur） ③弾き歌い（テキストNo.18～21）	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習
第6週	①聴音（C durによる基礎トレーニング11.12） ②新曲視唱（3° 音程：C dur） ③弾き歌い（テキストNo.22～25）	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習
第7週	①聴音（C durによる基礎トレーニング13.14） ②新曲視唱（3° 音程：G dur） ③弾き歌い（テキストNo.26～29）	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習
第8週	①聴音（C durによる基礎トレーニング15.16） ②新曲視唱（3° 音程：e moll） ③弾き歌い（テキストNo.30～33）	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習
第9週	①聴音（旋律・2声：C durで2° ～5° までの音程による基本的なもの、和声：C durで3声密集タイプ） ②新曲視唱（4° 音程：C dur） ③弾き歌い（テキストNo.34～37）	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習
第10週	①聴音（第9週の続き） ②新曲視唱（4° 音程：C dur） ③弾き歌い（テキストNo.38～41）	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習
第11週	①聴音（第10週の続き） ②新曲視唱（4° 音程：F dur） ③弾き歌い（テキストNo.42～44）	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習
第12週	①聴音（第11週の続き） ②新曲視唱（4° 音程：d moll） ③弾き歌い（復習）	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習
第13週	総合練習	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習
第14週	まとめ	予習：総合練習の課題の見直し、弾き歌いの練習
第15週	まとめ	予習：総合練習の課題の見直し、弾き歌いの練習

科目名(クラス)	ソルフェージュ2－a	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	井上　淳司	履修対象・条件	全専攻必修				

【授業の概要】

音楽に必要な専門技術を補完するあらゆる実技トレーニング、すなわち音楽の基本的な「読み」「書き」を踏まえて迅速、かつ正確に出来るようにするための訓練と、さらにそれを応用して表現に結びつけるための力を養う。
新曲視唱、新曲リズム、聴音（単旋律、複旋律、3～4声和音および和声、音や表現の違い等）、伴奏付旋律の弾き歌い、リズムアンサンブル、読譜（和声進行、コードネームの理解、楽譜の解釈、演奏法等）、カデンツの理解（特にドミナント進行）、移調訓練等その他。

【授業の到達目標】

基本的なリズム、また順次進行から6度跳躍進行で調号二つまでの旋律、主要三和音中心の書き取り、読み取り、視唱。

【授業の「方法」と「形式」】

ソルフェージュに該当する総ての訓練を実技中心にクラス全体および個別に行う。

【履修時の「留意点」と「心得」】

積み重ねが重要。毎回必ず出席すること。

【成績評価の「方法」と「基準」】

聴音、弾き歌い、新曲視唱の実技試験有り。（100%）原則としてクラス毎に行う。

教科書	美しい新曲課題集	著者等	井上淳司、荻久保和明、片柳英男、加茂下裕、小島佳男、松岡俊克 共著	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	聴音（単旋律、二声、三和音、四声体等）、美しい新曲課題集（抜粋）、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第2回	聴音（単旋律、二声、三和音、四声体等）、美しい新曲課題集（抜粋）、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第3回	聴音（単旋律、二声、三和音、四声体等）、美しい新曲課題集（抜粋）、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	聴音（単旋律、二声、三和音、四声体等）、美しい新曲課題集（抜粋）、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第5回	聴音（単旋律、二声、三和音、四声体等）、美しい新曲課題集（抜粋）、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第6回	聴音（単旋律、二声、三和音、四声体等）、美しい新曲課題集（抜粋）、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第7回	聴音（単旋律、二声、三和音、四声体等）、美しい新曲課題集（抜粋）、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第8回	聴音（単旋律、二声、三和音、四声体等）、美しい新曲課題集（抜粋）、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第9回	聴音（単旋律、二声、三和音、四声体等）、美しい新曲課題集（抜粋）、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第10回	聴音（単旋律、二声、三和音、四声体等）、美しい新曲課題集（抜粋）、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第11回	聴音（単旋律、二声、三和音、四声体等）、美しい新曲課題集（抜粋）、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第12回	聴音（単旋律、二声、三和音、四声体等）、美しい新曲課題集（抜粋）、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第13回	まとめ	
第14回	まとめ	
第15回	まとめ	

科目名(クラス)	ソルフェージュ2－b	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	松岡　俊克	履修対象・条件	全専攻必修				

【授業の概要】

・新曲視唱、新曲リズム、聴音（単旋律、複旋律、3～4声和音、および和声、音や表現の違い等）、伴奏付旋律の弾きうたい、リズムアンサンブル、読譜（和声進行、コードネームの理解、楽譜の解釈、演奏法等）、カデンツの理解（特にドミナント進行）、移調訓練等、その他。
・各専攻の専門技術を補完する、あらゆる実技トレーニング。すなわち音楽の基本的な「読み」「書き」が迅速、かつ正確に出来るようにするための訓練とさらにそれを応用して表現に結びつける力を養う。

【授業の到達目標】

・ソルフェージュ①より、さらに高度に発展させ、なおかつ様々なリズムパターンの練習を何度もくりかえししていくことでマスターしていく。

【授業の「方法」と「形式」】

・実技トレーニング

【履修時の「留意点」と「心得」】

・毎日、単元ごとのプリントを配布するので、必ず出席すること。
・積み重ねが重要。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・聴音、新曲リズム、弾きうたいの実技試験。
・授業への積極的な参加及び課題への取り組みを毎時間行なう。

教科書	美しい新曲課題集	著者等	井上淳司、荻久保和明、片柳英男、加茂下裕、小島佳男、松岡俊克 共著	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	・後期授業の展開方法 ・5度音程の練習①（シンコペーション、付点音符） ・ハ長調、ト長調、ヘ長調	
第2回	・6度音程の練習① ・ヘ音記号の練習① ・ハ長調、イ短調、ト長調	・前回のプリントの復習
第3回	・5・6度音程の練習① ・ヘ音記号の練習② ・ト長調	・前回のプリントの復習 ・新曲課題集「31番～44番」

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	・7度音程の練習① ・ヘ音記号の練習③ ・ニ短調、ト長調、ト短調	・前回のプリントの復習
第5回	・5・6・7度音程の練習① ・ヘ音記号の練習④ ・ニ短調、ト長調、ヘ長調	・新曲課題集「45番～50番」
第6回	・5・6・7・8度音程の練習① ・ヘ音記号の練習⑤ ・ニ短調、ヘ長調	
第7回	・3・4・5度音程の練習① ・リズムの練習① ・ニ長調、変ロ長調、ト長調	・新曲課題集「51番～60番」
第8回	・2・3・4・5度音程の練習① ・リズムの練習② ・ト長調、ヘ長調、ホ短調	・新曲課題集「61番～68番」
第9回	・2・3・4・5度音程の練習② ・リズムの練習③ ・ホ短調、ニ短調、変ロ長調（ト短調）	・新曲課題集「69番～」
第10回	・2・3・4・5・6度音程の練習① ・リズムの練習④ ・イ短調、ニ短調、ニ長調	・新曲課題集「74番～」
第11回	・2・3・4・5・6度音程の練習② ・♯、♭2つまでの聴音（過去問題の実施と対策）①	同上
第12回	・2度～7度音程までの練習 ・♯、♭2つまでの聴音（過去問題の実施と対策）②	同上
第13回	・まとめ①	
第14回	・まとめ②	
第15回	・まとめ③	

科目名(クラス)	ソルフェージュ2－c	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	加茂下　裕	履修対象・条件	全専攻必修				

【授業の概要】

音楽に必要な専門技術を補完するあらゆる実技トレーニング、すなわち音楽の基本的な「読み」「書き」を踏まえて迅速、かつ正確に出来るようにするための訓練と、さらにそれを応用して表現に結びつけるための力を養う。
新曲視唱、新曲リズム、聴音（単旋律、複旋律、3～4声和音および和声、音や表現の違い等）、伴奏付旋律の弾き歌い、リズムアンサンブル、読譜（和声進行、コードネームの理解、楽譜の解釈、演奏法等）、カデンツの理解（特にドミナント進行）、移調訓練等その他。

【授業の到達目標】

①♯・♭１つまでの調の平易な旋律・2声曲・和声を聞き取って正しく記譜することができる。
②各種の拍子の基本的なリズム形によるリズム譜を読んで正しく叩くことができる。
③各自の能力に合った弾き歌い曲の演奏ができる。

【授業の「方法」と「形式」】

主に演習

【履修時の「留意点」と「心得」】

積み重ねが重要。毎回必ず出席すること。

【成績評価の「方法」と「基準」】

聴音、弾き歌い、新曲視唱の実技試験有り。（100%）原則としてクラス毎に行う。

教科書	美しい新曲課題集	著者等	井上淳司、荻久保和明、片柳英男、加茂下裕、小島佳男、松岡俊克 共著	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1週	①聴音（旋律・2声：C durで2°～8°までの音程による基本的なもの、和声：C durで3声密集タイプ） ②リズム打ち（3/4で八分音符まで） ③弾き歌い（テキストNo.45～48） ④新曲視唱（5°　音程：C dur）	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習
第2週	①聴音（第１週の続き） ②リズム打ち（4/4で八分音符まで） ③弾き歌い（テキストNo.49～52） ④新曲視唱（5°　音程：C dur）	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習
第3週	①聴音（第２週の続き） ②リズム打ち（3/4で十六分音符まで） ③弾き歌い（テキストNo.53～56） ④新曲視唱（5°　音程：♯♭１つまでの調）	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4週	①聴音（旋律・2声：C durで各種の臨時記号を含むものを加える、和声：引き続きC durで3声密集タイプ） ②リズム打ち（4/4で十六分音符まで） ③弾き歌い（テキストNo.57～60） ④新曲視唱（5°　音程：♯ ♭ 1つまでの調）	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習
第5週	①聴音（第4週の続き） ②リズム打ち（3/4でシンコペーションを含む） ③弾き歌い（テキストNo.61～64） ④新曲視唱（6°　音程：♯ ♭ 1つまでの調）	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習
第6週	①聴音（第5週の続き） ②リズム打ち（4/4でシンコペーションを含む） ③弾き歌い（テキストNo.65～69） ④新曲視唱（7°　音程：♯ ♭ 1つまでの調）	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習
第7週	①聴音（旋律・2声：a mollで基本的なものを加える、和声：a mollで3声密集タイプ） ②リズム打ち（4/4で3連符を含む） ③弾き歌い（テキストNo.70～73） ④新曲視唱（8°　音程：♯ ♭ 1つまでの調）	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習
第8週	①聴音（第7週の続き） ②リズム打ち（3/4で3連符を含む） ③弾き歌い（テキストNo.74～78） ④新曲視唱（総合練習）	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習
第9週	①聴音（第8週の続き） ②リズム打ち（6/8で基本的なもの） ③弾き歌い（テキストNo.79～83）	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習
第10週	①聴音（旋律・2声：G durで基本的なものを加える、和声：C durで4声密集タイプ） ②リズム打ち（6/8でシンコペーションを含むもの） ③弾き歌い（テキストNo.84～86）	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習
第11週	①聴音（第10週の続き） ②リズム打ち（総合練習） ③弾き歌い（復習）	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習
第12週	①聴音（第11週の続き） ②リズム打ち（総合練習） ③弾き歌い（復習）	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習
第13週	総合練習	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習
第14週	まとめ	予習：総合練習の課題の見直し、弾き歌いの練習
第15週	まとめ	予習：総合練習の課題の見直し、弾き歌いの練習

科目名(クラス)	ソルフェージュ3－a	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	加茂下　裕	履修対象・条件	音楽療法専攻以外は必修。				

【授業の概要】

音楽に必要な専門技術を補完するあらゆる実技トレーニング、すなわち音楽の基本的な「読み」「書き」を踏まえて迅速、かつ正確に出来るようにするための訓練と、さらにそれを応用して表現に結びつけるための力を養う。
新曲視唱、新曲リズム、聴音（単旋律、複旋律、3～4声和音および和声、音や表現の違い等）、伴奏付旋律の弾き歌い、リズムアンサンブル、読譜（和声進行、コードネームの理解、楽譜の解釈、演奏法等）、カデンツの理解（特にドミナント進行）、移調訓練等その他。

【授業の到達目標】

①♯・♭2つ位までの調のやや高度な旋律・2声曲・和声等を聞き取り、各課題の構造を考えて正しく記譜することができる。
②♯・♭2つ位までの調のやや高度な旋律の楽譜を読み、ニュアンスやアーティキュレーション等の表現も意識して正しく歌うことができる。
③各自の能力に合った弾き歌い曲の演奏ができる。

【授業の「方法」と「形式」】

主に演習

【履修時の「留意点」と「心得」】

積み重ねが重要。毎回必ず出席すること。

【成績評価の「方法」と「基準」】

聴音、弾き歌い、新曲視唱の実技試験有り。（100%）原則としてクラス毎に行う。

教科書	美しい新曲課題集	著者等	井上淳司、荻久保和明、片柳英男、加茂下裕、小島佳男、松岡俊克 共著	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	①聴音（旋律・2声：H28年度ソル2aクラスの内容にD durのやや高度な課題を加える、和声：CdurでⅣ7の和音を加える） ②新曲視唱（♯・♭2個までの調のやや高度な課題） ③弾き歌い（テキストNo.1～4）	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習
第2回	①聴音（前回の続き） ②新曲視唱（前回の続き） ③弾き歌い（テキストNo.5～8）	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習
第3回	①聴音（旋律・2声：B durのやや高度な課題を加える、和声：c mollでⅣ7の和音を加える）） ②新曲視唱（前回の続き） ③弾き歌い（テキストNo.9～12）	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	①聴音（前回の続き） ②新曲視唱（（前回の続き） ③弾き歌い（テキストNo.13～17）	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習
第5回	①聴音（旋律・2声：h mollのやや高度な課題を加える、和声：ドリア・ナポリの和音を加える） ②新曲視唱（前回の続き） ③弾き歌い（テキストNo.18～21）	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習
第6回	①聴音（前回の続き） ②新曲視唱（前回の続き） ③弾き歌い（テキストNo.22～25）	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習
第7回	①聴音（旋律・2声：g mollのやや高度な課題を加える、和声：前回の続き） ②新曲視唱（前回の続き） ③弾き歌い（テキストNo.26～29）	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習
第8回	①聴音（前回の続き） ②新曲視唱（前回の続き） ③弾き歌い（テキストNo.30～33）	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習
第9回	①聴音（旋律・2声：A durのやや高度な課題を加える、和声：これまでの和音のまとめ） ②新曲視唱（前回の続き） ③弾き歌い（テキストNo.34～37）	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習
第10回	①聴音（前回の続き） ②新曲視唱（前回の続き） ③弾き歌い（テキストNo.38～41）	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習
第11回	①聴音（旋律・2声：Es durのやや高度な課題を加える、和声：前回の続き） ②新曲視唱（前回の続き） ③弾き歌い（テキストNo.42～44）	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習
第12回	①聴音（前回の続き） ②新曲視唱（前回の続き） ③弾き歌い（復習）	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習
第13回	総合練習	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習
第14回	まとめ	予習：総合練習の課題の見直し、弾き歌いの練習
第15回	まとめ	予習：総合練習の課題の見直し、弾き歌いの練習

科目名(クラス)	ソルフェージュ3－b	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	井上　淳司	履修対象・条件	音楽療法専攻以外は必修				

【授業の概要】

音楽に必要な専門技術を補完するあらゆる実技トレーニング、すなわち音楽の基本的な「読み」「書き」を踏まえて迅速、かつ正確に出来るようにするための訓練と、さらにそれを応用して表現に結びつけるための力を養う。
新曲視唱、新曲リズム、聴音（単旋律、複旋律、3～4声和音および和声、音や表現の違い等）、伴奏付旋律の弾き歌い、リズムアンサンブル、読譜（和声進行、コードネームの理解、楽譜の解釈、演奏法等）、カデンツの理解（特にドミナント進行）、移調訓練等その他。

【授業の到達目標】

基本的なリズム、また順次進行から6度跳躍進行で調号二つまでの旋律、主要三和音中心の書き取り、読み取り、視唱。

【授業の「方法」と「形式」】

ソルフェージュに該当する総ての訓練を実技中心にクラス全体および個別に行う。

【履修時の「留意点」と「心得」】

積み重ねが重要。毎回必ず出席すること。

【成績評価の「方法」と「基準」】

聴音、弾き歌い、新曲視唱の実技試験有り。（100%）原則としてクラス毎に行う。

教科書	美しい新曲課題集	著者等	井上淳司、荻久保和明、片柳英男、加茂下裕、小島佳男、松岡俊克 共著	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	聴音（単旋律、二声、三和音、四声体等）、美しい新曲課題集（抜粋）、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第2回	聴音（単旋律、二声、三和音、四声体等）、美しい新曲課題集（抜粋）、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第3回	聴音（単旋律、二声、三和音、四声体等）、美しい新曲課題集（抜粋）、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	聴音（単旋律、二声、三和音、四声体等）、美しい新曲課題集（抜粋）、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第5回	聴音（単旋律、二声、三和音、四声体等）、美しい新曲課題集（抜粋）、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第6回	聴音（単旋律、二声、三和音、四声体等）、美しい新曲課題集（抜粋）、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第7回	聴音（単旋律、二声、三和音、四声体等）、美しい新曲課題集（抜粋）、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第8回	聴音（単旋律、二声、三和音、四声体等）、美しい新曲課題集（抜粋）、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第9回	聴音（単旋律、二声、三和音、四声体等）、美しい新曲課題集（抜粋）、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第10回	聴音（単旋律、二声、三和音、四声体等）、美しい新曲課題集（抜粋）、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第11回	聴音（単旋律、二声、三和音、四声体等）、美しい新曲課題集（抜粋）、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第12回	聴音（単旋律、二声、三和音、四声体等）、美しい新曲課題集（抜粋）、コールユーブンゲン等歌唱、新曲視唱の実技	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第13回	まとめ	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第14回	まとめ	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。
第15回	まとめ	学習した旋律は聴音も複数回大きな声で歌う。二声、三和音は一声部で。次回学習の譜読み。

科目名(クラス)	ソルフェージュ3－c	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	松岡　俊克	履修対象・条件	音楽療法専攻以外は必修				

【授業の概要】

・新曲視唱、新曲リズム、聴音（単旋律、複旋律、3～4声和音、および和声、音や表現の違い等）、伴奏付旋律の弾きうたい、リズムアンサンブル、読譜（和声進行、コードネームの理解、楽譜の解釈、演奏法等）、カデンツの理解（特にドミナント進行）、移調訓練等、その他。
・各専攻の専門技術を補完する、あらゆる実技トレーニング。すなわち音楽の基本的な「読み」「書き」が迅速、かつ正確に出来るようにするための訓練とさらにそれを応用して表現に結びつける力を養う。

【授業の到達目標】

・2度音程(長2度、短2度）から6度音程（長6度、短6度）までの音程を歌ったり、聞きとることが出来るようにする。

【授業の「方法」と「形式」】

・実技トレーニング

【履修時の「留意点」と「心得」】

・毎日、単元ごとのプリントを配布するので、必ず出席すること。
・積み重ねが重要。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・聴音、新曲視唱、弾きうたいの実技試験。
・授業への積極的な参加及び課題への取り組みを毎時間行う。

教科書	美しい新曲課題集	著者等	井上淳司、荻久保和明、片柳英男、加茂下裕、小島佳男、松岡俊克 共著	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	・オリエンテーション ・5度音程の練習①（シンコペーション） ・4分、2分（音符、休符）、ハ長調、イ短調	
第2回	・5度音程の練習②（タイ） ・ヘ音記号の練習① ・シンコペーション、付点音符の練習	・前回のプリントの復習
第3回	・6度音程の練習① ・ヘ音記号の練習② ・ト長調	・前回のプリントの復習 ・新曲課題集「2番～15番」

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	・5・6度音程の練習② ・リズム練習(2拍3連etc) ・ヘ長調、ニ短調	・新曲課題集「45番～50番」
第5回	・5・6度音程の練習③ ・8分の6拍子の練習(リズム) ・ヘ長調、ニ短調	・新曲課題集「45番～50番」
第6回	・5・6度音程の練習④ ・リズム練習(3連符、細かい動き) ・ト長調	・新曲課題集「51番～55番」
第7回	・3・4・5・6度音程の練習① ・リズム練習（3連符、細かい動き） ・ト長調	・新曲課題集「55番～60番」
第8回	・3・4・5・6度音程の練習② ・リズム練習 ・ト・ヘ音記号、イ短調、ヘ長調、ホ短調	・新曲課題集「61番～68番」
第9回	・2・3・4・5・6度音程の練習① ・リズム練習 ・ト・ヘ音記号、ト長調、ヘ長調（ニ短調）	・新曲課題集「69番～」
第10回	・2・3・4・5・6度音程の練習② ・リズム練習 ・ト・ヘ音記号、ハ長調、ニ短調、ニ長調	・個人ごとに2曲を選び弾き歌いの練習
第11回	・過去問題の実施と対策①(新曲リズム、聴音) ・♯、♭1つまでの聴音課題（単旋律、二声、リズム、三和音etc）	同上
第12回	・過去問題の実施と対策②(新曲リズム、聴音) ・ハ長調、イ短調、ト長調、ヘ長調、ニ短調	同上
第13回	・まとめ①	
第14回	・まとめ②	
第15回	・まとめ③	

科目名(クラス)	ソルフェージュ3－d･e(大場クラス)	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	大場　文恵	履修対象･条件	音楽療法専攻以外は必修				

【授業の概要】

ソルフェージュ3－d･eは、ピアノに特化した授業を行います。ピアノの演奏は時間をかけて丁寧に積み重ねて作り上げることが大切です。しかし、初めての曲を即座に理解し演奏できる、つまり初見視奏の能力も必要です。初見視奏の力がつくと譜読みが早くなるだけでなく、その曲をどのように演奏すればよいか、短時間で判断できるようになります。これは、指導者として活動する場合にも大いに役に立つでしょう。この授業では、初見視奏を中心に聴く力(音、リズムの違いなど)も養います。

【授業の到達目標】

基本的な初見視奏の力を身につけている

【授業の「方法」と「形式」】

演奏(グループレッスン形式)とディスカッションを中心に進めます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

演奏をして頂きますので、ピアノ専攻生及びある程度ピアノの演奏力のある方が対象です。
遅刻･途中退室は原則として認めません。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業への積極性(課題への取り組み方、ディスカッションの発言内容など)50%
実技試験　50%

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画･内容･準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習･復習)
第1回	はじめに　～初見視奏とは～	復習:授業のポイントをふり返る
第2回	音符を速く読もう(1)	復習:授業のポイントをふり返る
第3回	音符を速く読もう(2)	予習:身近な楽譜で速く読む練習をする 復習:授業のポイントをふり返る

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	音符を速く読もう（3）	予習：身近な楽譜で速く読む練習をする 復習：授業のポイントをふり返る
第5回	適切な運指を考えよう（1）	予習：運指を意識してみる 復習：授業のポイントをふり返る
第6回	適切な運指を考えよう（2）	予習：自分の運指をふり返る 復習：授業のポイントをふり返る
第7回	適切な運指を考えよう（3）	予習：運指を考えて初見視奏をしてみる 復習：授業のポイントをふり返る
第8回	聴く力を養う（1）	復習：授業のポイントをふり返る
第9回	聴く力を養う（2）	予習：自分の演奏をよく聴く 復習：授業のポイントをふり返る
第10回	曲の特徴をつかむ（1）	復習：授業のポイントをふり返る
第11回	曲の特徴をつかむ（2）	予習：自分が現在取り組んでいる曲についても考える 復習：授業のポイントをふり返る
第12回	曲の特徴をつかむ（3）	予習：さまざまな楽譜を見る 復習：授業のポイントをふり返る
第13回	初見視奏をする（1）	予習：教材を見つけ積極的に初見視奏をする 復習：授業のポイントをふり返る
第14回	初見視奏をする（2）	予習：教材を見つけ積極的に初見視奏をする 復習：授業のポイントをふり返る
第15回	まとめ	予習：積極的に初見視奏をする

科目名(クラス)	ソルフェージュ3－d･e(小林クラス)	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	小林　律子	履修対象･条件	音楽療法専攻以外は必修				

【授業の概要】

この授業では、移調奏の理論と具体的な方法を学ぶ。移調奏は、実際の音楽の現場において大変実践的な、且つ有効なスキルであると言える。各授業、課題を提示するが、受講生は、その課題を実施することにより移調の方法を会得し、技術を身につける。また、移調において大変重要な要素である「調性」の把握を理解。以上、2点が授業の大きな柱である。

授業の到達目標

明確な調性感覚の下、移調奏を行う。

【授業の「方法」と「形式」】

演奏(グループレッスン形式)とディスカッションを中心に進めます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

演奏をして頂きますので、ピアノ専攻生及びある程度ピアノの演奏力のある方が対象です。
遅刻･途中退室は原則として認めません。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業への積極性(課題への取り組み方、ディスカッションの発言内容など)50%
実技試験　50%

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	授業中に資料を配布する	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画･内容･準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習･復習)
第1回	はじめに:音楽の現場における移調奏	予習:シラバスを読んでおく 復習:要点の整理
第2回	移調とは？ ―　イメージを作る　―	予習:移調についてイメージを持つ 復習:配布資料の見直し
第3回	課題演習(1)	予習:課題を実施しておく 復習:全ての課題の復習

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	調性の感覚① ―　五度圏 ―	予習：「五度圏」について調べる 復習：実演しながら要点をまとめる
第5回	調性の感覚② ―　durとmoll ―	予習：全調性の確認 復習：全調性の実演
第6回	課題演習（2）	予習：課題の予見 復習：全ての課題の実演
第7回	課題演習（3）	予習：課題の予見 復習：全ての課題の実演
第8回	移調の実施① ―　横の方法 ―	予習：課題の予見 復習：実演しながら要点をまとめる
第9回	課題演習（4）	予習：課題の予見 復習：全ての課題の実演
第10回	課題演習（5）	予習：課題の予見 復習：全ての課題の実演
第11回	移調の実施② ―　縦の方法 ―	第8回と同様
第12回	課題演習（6）	予習：課題の予見。 ふさわしい方法について考える 復習：全ての課題の実演
第13回	課題演習（7）	予習：課題の予見。 ふさわしい方法について考える 復習：全ての課題の実演
第14回	課題演習（8）	予習：課題の予見。 ふさわしい方法について考える 復習：全ての課題の実演
第15回	まとめ	・移調奏について具体的なイメージを 掴めたか？ ・調性感を身につけることが出来たか？

科目名(クラス)	ソルフェージュ4－a	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	加茂下　裕	履修対象・条件	音楽療法専攻以外は必修。				

【授業の概要】

音楽に必要な専門技術を補完するあらゆる実技トレーニング、すなわち音楽の基本的な「読み」「書き」を踏まえて迅速、かつ正確に出来るようにするための訓練と、さらにそれを応用して表現に結びつけるための力を養う。
新曲視唱、新曲リズム、聴音（単旋律、複旋律、3～4声和音および和声、音や表現の違い等）、伴奏付旋律の弾き歌い、リズムアンサンブル、読譜（和声進行、コードネームの理解、楽譜の解釈、演奏法等）、カデンツの理解（特にドミナント進行）、移調訓練等その他。

【授業の到達目標】

①♯・♭4つ位までの調のやや高度な旋律・2声曲・和声等を聞き取り、各課題の構造を考えて正しく記譜することができる。
②種々の拍子のやや高度なリズム譜（部分的に現代的なリズム形も含む）を読み、正しく叩くことができる。
③各自の能力に合った弾き歌い曲の演奏ができる。

【授業の「方法」と「形式」】

主に演習

【履修時の「留意点」と「心得」】

積み重ねが重要。毎回必ず出席すること。

【成績評価の「方法」と「基準」】

聴音、弾き歌い、新曲視唱の実技試験有り。（100%）原則としてクラス毎に行う。

教科書	美しい新曲課題集	著者等	井上淳司、荻久保和明、片柳英男、加茂下裕、小島佳男、松岡俊克 共著	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	①聴音（旋律・2声：ソル3aクラスの内容にfis mollのやや高度な課題を加える、和声：各種の副属和音を加える） ②リズム打ち（2/4） ③弾き歌い（テキストNo.45～48）	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習
第2回	①聴音（前回の続き） ②リズム打ち（2/2） ③弾き歌い（テキストNo.49～52）	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習
第3回	①聴音（旋律・2声：c mollのやや高度な課題を加える、和声：前回の続き） ②リズム打ち（遅い3/4） ③弾き歌い（テキストNo.53～56）	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	①聴音（前回の続き） ②リズム打ち（速い3/4） ③弾き歌い（テキストNo.57～60）	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習
第5回	①聴音（旋律・2声：E durのやや高度な課題を加える、和声：前回の続き） ②リズム打ち（遅い4/4） ③弾き歌い（テキストNo.61～64）	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習
第6回	①聴音（前回の続き） ②リズム打ち（速い4/4） ③弾き歌い（テキストNo.65～69）	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習
第7回	①聴音（旋律・2声：As durのやや高度な課題を加える、和声：前回の続き） ②リズム打ち（遅い6/8） ③弾き歌い（テキストNo.70～73）	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習
第8回	①聴音（前回の続き） ②リズム打ち（速い6/8） ③弾き歌い（テキストNo.74～78）	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習
第9回	①聴音（旋律・2声：cis mollのやや高度な課題を加える、和声：前回の続き） ②リズム打ち（混合拍子①） ③弾き歌い（テキストNo.79～83）	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習
第10回	①聴音（前回の続き） ②リズム打ち（混合拍子②） ③弾き歌い（テキストNo.84～86）	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習
第11回	①聴音（旋律・2声：f mollのやや高度な課題を加える、和声：前回の続き） ②リズム打ち（総合練習） ③弾き歌い（復習）	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習
第12回	①聴音（前回の続き） ②リズム打ち（総合練習） ③弾き歌い（復習）	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習
第13回	総合練習	復習：難しかった課題の見直し、弾き歌いの練習
第14回	まとめ	予習：総合練習の課題の見直し、弾き歌いの練習
第15回	まとめ	予習：総合練習の課題の見直し、弾き歌いの練習

科目名(クラス)	ソルフェージュ4－b	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	井上　淳司	履修対象・条件	音楽療法専攻以外は必修				

【授業の概要】

音楽に必要な専門技術を補完するあらゆる実技トレーニング、すなわち音楽の基本的な「読み」「書き」を踏まえて迅速、かつ正確に出来るようにするための訓練と、さらにそれを応用して表現に結びつけるための力を養う。
新曲視唱、新曲リズム、聴音（単旋律、複旋律、3～4声和音および和声、音や表現の違い等）、伴奏付旋律の弾き歌い、リズムアンサンブル、読譜（和声進行、コードネームの理解、楽譜の解釈、演奏法等）、カデンツの理解（特にドミナント進行）、移調訓練等その他。

【授業の到達目標】

基本的なリズム、また順次進行から6度跳躍進行で調号二つまでの旋律、主要三和音中心の書き取り、読み取り、視唱。

【授業の「方法」と「形式」】

ソルフェージュに該当する総ての訓練を実技中心にクラス全体および個別に行う。

【履修時の「留意点」と「心得」】

積み重ねが重要。毎回必ず出席すること。

【成績評価の「方法」と「基準」】

聴音、弾き歌い、新曲視唱の実技試験有り。（100%）原則としてクラス毎に行う。

教科書	美しい新曲課題集	著者等	井上淳司、荻久保和明、片柳英男、加茂下裕、小島佳男、松岡俊克 共著	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	聴音（単旋律、二声、三和音、四声体等）、美しい新曲課題集（抜粋）、コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第2回	聴音（単旋律、二声、三和音、四声体等）、美しい新曲課題集（抜粋）、コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第3回	聴音（単旋律、二声、三和音、四声体等）、美しい新曲課題集（抜粋）、コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	聴音（単旋律、二声、三和音、四声体等）、美しい新曲課題集（抜粋）、コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第5回	聴音（単旋律、二声、三和音、四声体等）、美しい新曲課題集（抜粋）、コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第6回	聴音（単旋律、二声、三和音、四声体等）、美しい新曲課題集（抜粋）、コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第7回	聴音（単旋律、二声、三和音、四声体等）、美しい新曲課題集（抜粋）、コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第8回	聴音（単旋律、二声、三和音、四声体等）、美しい新曲課題集（抜粋）、コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第9回	聴音（単旋律、二声、三和音、四声体等）、美しい新曲課題集（抜粋）、コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第10回	聴音（単旋律、二声、三和音、四声体等）、美しい新曲課題集（抜粋）、コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第11回	聴音（単旋律、二声、三和音、四声体等）、美しい新曲課題集（抜粋）、コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第12回	聴音（単旋律、二声、三和音、四声体等）、美しい新曲課題集（抜粋）、コールユーブンゲン等歌唱、新曲リズム打ちの実技	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第13回	まとめ	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第14回	まとめ	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。
第15回	まとめ	学習した聴音の旋律は声を出して歌う。もう一度書き出す。リズム打ちは複数回ゆっくりな速さから練習。部分練習も。

科目名(クラス)	ソルフェージュ4－c	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	松岡　俊克	履修対象・条件	音楽療法専攻以外は必修				

【授業の概要】

・新曲視唱、新曲リズム、聴音（単旋律、複旋律、3～4声和音、および和声、音や表現の違い等）、伴奏付旋律の弾きうたい、リズムアンサンブル、読譜（和声進行、コードネームの理解、楽譜の解釈、演奏法等）、カデンツの理解（特にドミナント進行）、移調訓練等、その他。
・各専攻の専門技術を補完する、あらゆる実技トレーニング。すなわち音楽の基本的な「読み」「書き」が迅速、かつ正確に出来るようにするための訓練とさらにそれを応用して表現に結びつける力を養う。

【授業の到達目標】

・正確なリズム、音程を把握して音楽をより美しく、かつより自由な表現が出来ることをめざしていく。

【授業の「方法」と「形式」】

・実技トレーニング

【履修時の「留意点」と「心得」】

・毎日、単元ごとのプリントを配布するので、必ず出席すること。
・積み重ねが重要。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・聴音、新曲リズム、弾きうたいの実技試験。
・授業への積極的な参加及び課題への取り組みを毎時間行う。

教科書	美しい新曲課題集	著者等	井上淳司、荻久保和明、片柳英男、加茂下裕、小島佳男、松岡俊克 共著	出版社	音楽之友社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	・後期授業の展開方法 ・5度音程の練習① ・ハ長調、イ短調、ト長調	
第2回	・6度音程の練習① ・ヘ音記号の練習①	・前回のプリント及び授業内で歌ったり、書きとった旋律を各楽器で練習してくる
第3回	・5・6度音程の練習① ・ヘ音記号の練習② ・ヘ長調	・新曲課題集「31番～44番」

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	・5・6度音程の練習② ・ヘ音記号の練習③ ・ヘ長調	・前回のプリントの復習 ・新曲課題集「15番～30番」
第5回	・5・6・7度音程の練習① ・ヘ音記号の練習④ ・8分の6拍子、4分の3拍子のリズムパターン①	・前回のプリントの復習
第6回	・5・6・7度音程の練習② ・ヘ音記号の練習⑤ ・8分の6拍子、4分の3拍子のリズムパターン②	・前回のプリントの復習 ・新曲課題集「31番～50番」
第7回	・3・4・5度音程の練習① ・8分の6拍子、4分の3拍子のリズムパターン③	・前回のプリントの復習
第8回	・3・4・5度音程の練習② ・ト音、ヘ音記号の練習（ハ長調、ト長調、ヘ長調）	・前回のプリントの復習 ・新曲課題集「51番～」
第9回	・2・3・4・5度音程の練習① ・シンコペーション、タイの練習 ・ト音、ヘ音記号の練習（ハ長調、イ短調）	・個人ごとに2曲を選び弾き歌いの練習
第10回	・2・3・4・5度音程の練習② ・旋律的短音階の練習（イ短調、ニ短調、ホ短調）	同上
第11回	・2・3・4・5・6度音程の練習③ ・♯、♭2つまでの新曲視唱及び聴音（過去問題の実施と対策①）	同上
第12回	・過去問題の実施と対策②（新曲視唱、聴音②） ・ハ長調、ト長調（ト短調）、ヘ長調、イ短調、ニ短調（ニ長調）	
第13回	・まとめ①	
第14回	・まとめ②	
第15回	・まとめ③	

科目名(クラス)	ソルフェージュ4－d･e(大場クラス)	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	大場　文恵	履修対象･条件	音楽療法専攻以外は必修				

【授業の概要】

ソルフェージュ3を発展させ、初見視奏を中心におこないます。バロック期、古典期、ロマン期、近現代と四期に亘る作品を題材に進めます。初見視奏ではありますが、それぞれの時代様式を捉え音楽的にも高い完成度を目指します。また、より複雑な音やリズムを聴き分ける耳も養います。

【授業の到達目標】

初見視奏で、それぞれの作品の特徴を理解し演奏することができる。

【授業の「方法」と「形式」】

演奏(グループレッスン形式)とディスカッションを中心に進めます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

日頃より、楽譜を注意深く見る(読む)習慣をつけてください。
遅刻、途中退室は原則として認めません。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業への積極性(課題への取り組み方、ディスカッションの発言内容など) 50%
実技試験　50%

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画･内容･準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習･復習)
第1回	バロック期の作品(1)	予習:積極的に初見視奏をおこなう 復習:授業のポイントをふり返る
第2回	バロック期の作品(2)	予習:積極的に初見視奏をおこなう 復習:授業のポイントをふり返る
第3回	バロック期の作品(3)	予習:積極的に初見視奏をおこなう 復習:授業のポイントをふり返る

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	古典期の作品（1）	予習：積極的に初見視奏をおこなう 復習：授業のポイントをふり返る
第5回	古典期の作品（2）	予習：積極的に初見視奏をおこなう 復習：授業のポイントをふり返る
第6回	古典期の作品（3）	予習：積極的に初見視奏をおこなう 復習：授業のポイントをふり返る
第7回	ロマン期の作品（1）	予習：積極的に初見視奏をおこなう 復習：授業のポイントをふり返る
第8回	ロマン期の作品（2）	予習：積極的に初見視奏をおこなう 復習：授業のポイントをふり返る
第9回	ロマン期の作品（3）	予習：積極的に初見視奏をおこなう 復習：授業のポイントをふり返る
第10回	聴く力を養う（1）	予習：積極的に初見視奏をおこなう 復習：授業のポイントをふり返る
第11回	聴く力を養う（2）	予習：積極的に初見視奏をおこなう 復習：授業のポイントをふり返る
第12回	近現代の作品（1）	予習：積極的に初見視奏をおこなう 復習：授業のポイントをふり返る
第13回	近現代の作品（2）	予習：積極的に初見視奏をおこなう 復習：授業のポイントをふり返る
第14回	近現代の作品（3）	予習：積極的に初見視奏をおこなう 復習：授業のポイントをふり返る
第15回	まとめ	予習：積極的に初見視奏をおこなう

科目名(クラス)	ソルフェージュ4－d･e(小林クラス)	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	小林　律子	履修対象･条件	音楽療法専攻以外は必修				

【授業の概要】

ソルフェージュ3に引き続き、移調奏を行う。移調の更なるスキルアップと調性感覚のグレード･アップを目指し、演奏の現場で実際に登場する機会が多いのであろうと思われる歌曲での移調奏に挑戦する。極めて実践実践的な内容となる為、授業では課題の演習に集中して取り組むこととなる。

授業の到達目標

･移調奏をマスターする。
･調性感覚を身につける。

【授業の「方法」と「形式」】

演奏(グループレッスン形式)とディスカッションを中心に進めます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

日頃より、楽譜を注意深く見る(読む)習慣をつけてください。
遅刻、途中退室は原則として認めません。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業への積極性(課題への取り組み方、ディスカッションの発言内容など) 50%
実技試験　50%

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	授業中に資料を配布する	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画･内容･準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習･復習)
第1回	はじめに:移調の再確認	予習:ソルフェージュ3で学んだことを確認しておく 復習:要点の整理
第2回	調性感覚 ―　ふりかえり ―	予習:調性について再確認しておく 復習:実演しながら要点を整理する
第3回	課題演習 ―　日本の歌① ―	予習:課題の予見 復習:課題を実演、方法を把握

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	課題演習 ― 日本の歌② ―	予習：課題の予見 復習：課題を実演、方法を把握
第5回	課題演習 ― 日本の歌③ ―	予習：課題の予見 復習：課題を実演、方法を把握
第6回	課題演習 ― 日本の歌④ ―	予習：課題の予見 復習：課題を実演、方法を把握
第7回	課題演習 ― イタリア歌曲① ―	予習：課題の予見 復習：課題を実演、方法を把握
第8回	課題演習 ― イタリア歌曲② ―	予習：課題の予見 復習：課題を実演、方法を把握
第9回	課題演習 ― イタリア歌曲③ ―	予習：課題の予見 復習：課題を実演、方法を把握
第10回	課題演習 ― ドイツ歌曲① ―	予習：課題の予見 復習：課題を実演、方法を把握
第11回	課題演習 ― ドイツ歌曲② ―	予習：課題の予見 復習：課題を実演、方法を把握
第12回	課題演習 ― ドイツ歌曲③ ―	予習：課題の予見 復習：課題を実演、方法を把握
第13回	課題演習 ― フランス歌曲、その他① ―	予習：課題の予見 復習：課題を実演、方法を把握
第14回	課題演習 ― フランス歌曲、その他② ―	予習：課題の予見 復習：課題を実演、方法を把握
第15回	まとめ	・調性が自在に扱えるか？ ・移調の技術が身についたか？

科目名(クラス)	キーボードハーモニーA	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	3
担当教員	新井 雅之	履修対象・条件	全専攻				

【授業の概要】

与えられたメロディーやモチーフへ、伴奏、即興を施す手法を知り、かつ実際にピアノを弾き、技術を習得していきます。

【授業の到達目標】

基本的な伴奏形態、和音進行をまず身につけ、次第にそれを鍵盤楽器の奏法らしいで応用していけること目指します。

【授業の「方法」と「形式」】

基本的には、テキストに従い、基礎的な事項を弾き、または楽譜に書きながら基本と応用を試みて行きます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

積極的に鍵盤で音をならしつつ、響きを確かめましょう。慣れるつもりで取り組んで下さい。

【成績評価の「方法」と「基準」】

学期末筆記試験(筆記試験)の採点により評価。(70%) 学期末筆記試験のみでの評価に偏らないように、通常授業での理解力、実施能力も加味。(30%)

教科書	ピアノ即興演奏法	著者等	岩田 稔	出版社	ヤマハ音楽振興会
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	キーボードハーモニーの意義とその実施につい て（旋律を支える、鍵盤楽器奏法に おける伴奏の実際の例を、幅広 く観察しその原理を知る）	予習として、テキスト、6ページ にあらかじめ目を通しておく。所与時間10分程度。学習した例を繰り返し弾いて復習。
第2回	基本的な和音の配置と連結(1)比較的、調号が 少ない場合（トニックコードとドミナントコード の、もっとも基本的な連結を左手で実施）	予習として、テキスト、7ページ にあらかじめ目を通しておく。所与時間10分程度。習した例を繰り返し弾いて復習。
第3回	基本的な和音の配置と連結(2)比較的、調号が 多い場合（ トニックコードとドミナントコード の、最も基本的な連結による伴 奏と共に、メロディーを弾く）	予習として、テキスト、8ページ にあらかじめ目を通しておく。所与時間10分程度。学習した例を繰り返し弾いて復習。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	完全終止カデンツの習得、及び半終止の習得。（フレーズを完結させるコードパ ターンすなわち完全終止の定 型、およびフレーズの半終止を 左手で弾く）	予習として、テキスト、9~11ページ にあらかじめ目を通しておく。所与時間15分程度。学習した例を繰り返し弾いて復習。
第5回	完全終止と半終止の、メロディーへの応用。（完全終止と半終止を使った伴奏 とともに、メロディーを弾く）	予習として、テキスト、12ページ にあらかじめ目を通しておく。所与時間10分程度。学習した例を繰り返し弾いて復習。
第6回	完全終止の定型のヴァリアンテについて（完全終止の変形応用パターン を知り、メロディーに活用）	予習として、テキスト、13ページ にあらかじめ目を通しておく。所与時間10分程度。学習した例を繰り返し弾いて復習。
第7回	同上	予習として、前回の例を再び繰り返し弾いておく。所要時間20分程度。
第8回	属和音の第3、第7音の扱い方について（限定進行音と呼ばれる属和音 の第3、第7の的確な処理）	予習として、テキスト、15～18ページ にあらかじめ目を通しておく。所与時間15分程度。学習した例を繰り返し弾いて復習。
第9回	属和音の第3、第7音の扱い方について（和音の1オクターブより広い音 域での配置すなわち開離配置の理解と鍵盤上で具現化）	予習として、テキスト、19～21ページ にあらかじめ目を通しておく。所与時間15分程度。学習した例を繰り返し弾いて復習。
第10回	中間楽節と服属和音について（2部形式について理解し、中間 楽節でよく用いられる副属和音 の使用例を知る。及び、それを メロディーの伴奏として応用 ）	予習として、テキスト、22～27ページ にあらかじめ目を通しておく。所与時間15分程度。学習した例を繰り返し弾いて復習。
第11回	同上	予習として、前回の例を再び繰り返し弾いておく。所要時間20分程度。
第12回	同上	予習として、前回の例を再び繰り返し弾いておく。所要時間20分程度。
第13回	変奏について（旋律とリズムという要素に対し て、変奏を施す手法を知り、実 施）	予習として、テキスト、28~32ページ にあらかじめ目を通しておく。所与時間15分程度。学習した例を繰り返し弾いて復習。
第14回	同上	予習として、前回の例を再び繰り返し弾いておく。所要時間20分程度。
第15回	同上	予習として、前回の例を再び繰り返し弾いておく。所要時間20分程度。

科目名(クラス)	キーボードハーモニーB	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	3
担当教員	新井 雅之	履修対象・条件	全専攻				

【授業の概要】

与えられたメロディーやモチーフへ、伴奏、即興を施す手法を知り、かつ実際にピアノを弾き、技術を習得していきます。

【授業の到達目標】

基本的な伴奏形態、和音進行をまず身につけ、次第にそれを鍵盤楽器の奏法らしい演奏で応用していけること目指します。

【授業の「方法」と「形式」】

基本的な伴奏形態、和音進行をまず身につけ、次第にそれを鍵盤楽器の奏法らしい方法で応用していけること目指します。

【履修時の「留意点」と「心得」】

積極的に鍵盤で音をならしつつ、響きを確かめましょう。慣れるつもりで取り組んで下さい。

【成績評価の「方法」と「基準」】

学期末筆記試験(筆記試験)の採点により評価。(70%) 学期末筆記試験のみでの評価に偏らないように、通常授業での理解力、実施能力も加味。(30%)

教科書	ピアノ即興演奏法	著者等	岩田 稔	出版社	ヤマハ音楽振興会
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	変奏について (さらに変奏即興の応用力を身に つける)	予習として、テキスト、35~38ページにあらかじめ目を通しておく。所与時間15分程度。学習した例を繰り返し弾いて復習。
第2回	同上	予習として、前回の例を再び繰り返し弾いておく。所要時間20分程度。
第3回	同上	予習として、前回の例を再び繰り返し弾いておく。所要時間20分程度。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	同上	予習として、前回の例を再び繰り返し弾いておく。所要時間20分程度。
第5回	モチーフを使う即興演奏について（モチーフを発展させて、まとまった形式に仕上げる手法を知り、得た手法により実施 ）	予習として、テキスト、39~50ページにあらかじめ目を通しておく。所与時間15分程度。学習した例を繰り返し弾いて復習。
第6回	同上	予習として、前回の例を再び繰り返し弾いておく。所要時間20分程度。
第7回	同上	予習として、前回の例を再び繰り返し弾いておく。所要時間20分程度。
第8回	同上	予習として、前回の例を再び繰り返し弾いておく。所要時間20分程度。
第9回	同上	予習として、前回の例を再び繰り返し弾いておく。所要時間20分程度。
第10回	同上	予習として、前回の例を再び繰り返し弾いておく。所要時間20分程度。
第11回	和音の転回形とバスの順次進行について（和音の転回形を応用しつつ、バ スに順次進行を使う）	予習として、テキスト、52~54ページにあらかじめ目を通しておく。所与時間15分程度。学習した例を繰り返し弾いて復習。
第12回	右手に厚みを重ねる和音重音について（右手に旋律に重音を施し厚みを加えて弾く）	予習として、テキスト、55~56ページにあらかじめ目を通しておく。所与時間15分程度。学習した例を繰り返し弾いて復習。
第13回	前回、前々回の手法での伴奏による応用実施（和音転回形と、右手重音奏の応用）	予習として、テキスト、57~58ページにあらかじめ目を通しておく。所与時間15分程度。学習した例を繰り返し弾いて復習。
第14回	ピアニスティックな奏法、Fill in、移旋について（よりピアノらしいパッセージ、フ レーズからフレーズへの流れを円滑にするための穴埋めにるつなぎ、同主短調、同主長調へ の転調「移旋」について理解し、 応用）	予習として、テキスト、59~69ページ にあらかじめ目を通しておく。所与時間15分程度。学習した例を繰り返し弾いて復習。
第15回	まとめ	予習として、これまでの例を再び繰り返し弾いておく。所要時間30分程度。

科目名	学内演奏

【授業計画の概要】

学修の成果を発表し、また他の学生の演奏を聴くことにより、音楽内容、技術の向上を目指す。
学内演奏会は皆さんが将来幅広く多彩な音楽活動をしていくための貴重な実践科目であり、この授業を通じて豊かな感性の育成と演奏力の伸長を目指す。
また「自分の音楽」を「創造」する有意義で充実した「音楽体験」にしたい。

【授業の到達目標】

演奏者としての知識・技術・態度を身に付ける。

【成績評価の方法】

授業内容を総合的に評価する。

【授業計画の内容】

月	内　　容
4	1）要出演学生及び出演日 ・「主専攻Ⅲ」履修中の学生全員（ﾋﾟｱﾉ・声楽・管弦打・作曲専攻生のみ）指定された出演日に1回必ず出演すること。 ・出演日の変更は原則として認めない 2）要出席の学生 / 出席のとり方 ・14時30分開場時に、ホール入り口にて出席カードを配布し、終演後出口でカードを回収する。 ・演奏会途中入退場者のカードは無効（遅刻・途中退場厳禁） ・出演日の出席については、出演することにより出席扱いとなるのでカードの提出は必要なし（伴奏者も含む） ・ウィーン研修中は公欠扱いとなる。 3）伴奏者 ・他学年の学生が伴奏をする場合、出演日当日のリハーサルは公欠にならないので注意のこと。 （本番は公欠になる） 4）役員（係り） ・全員1回あたる。主な仕事は、ステージ係・アナウンス係・受付係・会場整理係等。役員については事前に提示するので各自で確認の事。役員の集合時間は14時15分ステージ下手。また、係りについては当日指定。また、役員学生の出席については、集合時に出欠をとり、終演後片付けが終わった時点でカードを配布。 （3限目に授業がある役員は公欠にならないので、授業が終わり次第来る事） 5）リハーサル ・出演日当日午前中グランツザールで一人当たり15分程度のリハーサルを組む予定。時間については教務に提出する「履修時間割表」をもとに空いている時間に組むので、提出していない学生はどの時間帯もリハーサル可能と判断し、時間を組むので要注意。また、自分が出演する1週間前よりグランツザール以外の大教室やレッスン室を貸出（有料）ですので利用する場合。庶務担当まで申し出ること。 6）出演者控室：グランツザール内「楽屋1」または「楽屋2・3」当日確認の事 7）服装 8）座席 ・3年次生はある程度座席が決まっているので、会場係の指示に従うこと。 9）録音CD配付 ・学生会が演奏会の録画を行い、自分が出演をした日のDVDが配付される。 11）来聴 ・一般の方や卒業生など誰でも来聴できる。但し、他学年の学生が来聴する場合「公欠」にはなりません。
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
1	
2	
3	

科目名	学内演奏/学内作品発表（作曲コース）

【授業計画の概要】

学修の成果を発表し、また他の学生の演奏を聴くことにより、音楽内容、技術の向上を目指す。
学内演奏会は皆さんが将来幅広く多彩な音楽活動をしていくための貴重な実践科目であり、この授業を通じて豊かな感性の育成と演奏力の伸長を目指す。また「自分の音楽」を「創造」する有意義で充実した「音楽体験」にしたい。

【授業の到達目標】

自作品の室内楽を実際に音にするにあたり、自分の考えていることや作品の意図をどれだけ演奏者に伝えられるか、コミュニケーション能力を学んで欲しい。

【成績評価の方法】

作品発表等を総合的に評価する

【授業計画の内容】

内　　容

1）要出演学生及び出演日
・「主専攻5・6履修中の学生全員（ピアノ・声楽・管弦打・作曲専攻生のみ）指定された出演日に1回必ず出演すること。
・出演日の変更は原則として認めない。
2）要出席の学生 / 出席のとり方
・14時30分開場時に、ホール入り口にて出席カードを配布し、終演後出口でカードを回収する。
・演奏会途中入退場者のカードは無効（遅刻・途中退場厳禁）
・出演日の出席については、出演することにより出席扱いとなるのでカードの提出は必要なし（伴奏者も含む）
・ウィーン研修中は公欠扱いとなる。
3）伴奏者
・他学年の学生が伴奏をする場合、出演日当日のリハーサルは公欠にならないので注意のこと。
（本番は公欠になる）
4）役員（係り）
・全員1回あたる。主な仕事は、ステージ係・アナウンス係・受付係・会場整理係等。役員については事前に提示するので各自で確認の事。役員の集合時間は14時15分ステージ下手。また、係りについては当日指定。
また、役員学生の出席については、集合時に出欠をとり、終演後片付けが終わった時点でカードを配布。
（3限目に授業がある役員は公欠にならないので、授業が終わり次第来る事）
5）リハーサル
・出演日当日午前中グランツザールで一人当たり15分程度のリハーサルを組む予定。時間については教務に提出する「履修時間割表」をもとに空いている時間に組むので、提出していない学生はどの時間帯もリハーサル可能と判断し、時間を組むので要注意。また、自分が出演する1週間前よりグランツザール以外の大教室やレッスン室を貸出（有料）ですので利用する場合。庶務担当まで申し出ること。
6）出演者控室：グランツザール内「楽屋1」または「楽屋2・3」当日確認のこと。
7）服装
8）座席
・3年次生はある程度座席が決まっているので、会場係の指示に従うこと。
9）録音CD配付
・学生会が演奏会の録画を行い、自分が出演をした日のDVDが配付される。
10）来聴
・一般の方や卒業生など誰でも来聴できる。但し、他学年の学生が来聴する場合「公欠」にはなりません。

科目名(クラス)	学内実習発表（音楽療法コース）	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	馬場　存	履修対象・条件	音楽療法専攻のみ履修可。必修				

【授業の概要】

「研究とは何か」を学ぶ。その基盤にあるコンセプトは、「自らの考えを言語的に表現できなければ、それは考えていることにならない」ということ、すなわち、人間の成熟途上によくみられる「言わなくてもわかってもらえる」「言葉では上手く言えないが、こんな感じ」といった、概念を明確に言語的に表現できない状況から脱し、自らの考えを的確に言語で表現できる力を養うことを目指す。

【授業の到達目標】

優れた学術発表を行うための学術的思考や言語的能力を身につけ、正確で客観的な学術的情報収集とその咀嚼・理解の出来る力を獲得することを目標とする。

【授業の「方法」と「形式」】

研究の途中経過の各自による発表と、研究とは何かについて種々の側面から解説する講義形式を交えて進行する。

【履修時の「留意点」と「心得」】

社会では、言語で説明できない場合には、理解していない、考えていないとみなされる。通常会話であるならば、聞く側が「こういう意味ですね」と助け船を出すような場合でも、自らの思考により適切に言語化できることを目指すために、あえて助け船を出さない場面が多くなる。そのような心構えを持って臨むこと。

【成績評価の「方法」と「基準」】

講義で解説する部分については、概念の正確な理解とその応用力が必要である。また、各自のプレゼンテーションにおいては、必要十分な、正確な情報収集と適切な言語表現がなされていることが前提となる。評価に関しては、まず講義については、その日の内容についての質問に対する返答の正確性および随時行われる経過発表時の内容・質・言語表現（15%）および、年度末に行われる、「学内実習発表」のプレゼンテーションにおける、各自の研究の、情報収集の度合い、研究の内容・質、発表時の言語表現を音楽療法教員全員で評価した点数（85%）を合算する。

教科書	（講義内でプリントを配布する。）	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	カウンセリング／リサーチ入門	著者等	国分康孝	出版社	誠信書房
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	この段階での、各自の研究テーマ、そのテーマを選んだ理由、調査経過を一人ずつ順に発表してもらい、全員でディスカッションする（2回にわたり一人ずつ）。	予習：自らの興味と研究に値するか否かの両観点から研究テーマを選び発表の準備をする。 復習：当日の議論を踏まえ、研究をどう発展させるかを考える。
第2回	引き続き、この段階での、各自の研究テーマ、なぜそのテーマを選んだか、調査経過、を一人ずつ順に発表してもらい、全員でディスカッションする。	予習：自らの興味と研究に値するか否かの両観点から研究テーマを選び発表の準備をする。 復習：当日の議論を踏まえ、研究をどう発展させるかを考える。
第3回	国分康孝著「カウンセリング・リサーチ入門」を基に、「リサーチとは何か」「リサーチに値するトピックをどのように選ぶか」「理論化するリサーチと事実発見のリサーチ」等について解説する。	予習：事前に配布するプリント、及び資料に目を通しておく。 復習：プリント及び資料に目を通し概念の理解を確認する。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	引き続き、国分康孝著「カウンセリング・リサーチ入門」を基に、「リサーチとは何か」「リサーチに値するトピックをどのように選ぶか」「理論化するリサーチと事実発見のリサーチ」等について解説する。	予習：配布プリント、及び資料に目を通しておく。 復習：プリント及び資料に目を通し概念の理解を確認する。
第5回	引き続き、国分康孝著「カウンセリング・リサーチ入門」を基に、「リサーチとは何か」「リサーチに値するトピックをどのように選ぶか」「理論化するリサーチと事実発見のリサーチ」等について学ぶ。	予習：配布プリント、及び資料に目を通しておく。 復習：プリント及び資料に目を通し概念の理解を確認する。
第6回	この段階での、（変更がある場合には）各自の研究テーマ、そのテーマを選んだ理由、調査経過を一人ずつ順に発表してもらい、全員でディスカッションする。	予習：質疑応答を想定し、必要な情報を揃えて発表の準備を行う。 復習：当日の議論を踏まえ、研究をどう発展させるかを考える。
第7回	引き続き、この段階での、（変更がある場合には）各自の研究テーマ、そのテーマを選んだ理由、調査経過を一人ずつ順に発表してもらい、全員でディスカッションする。	予習：質疑応答を想定し、必要な情報を揃えて発表の準備を行う。 復習：当日の議論を踏まえ、研究をどう発展させるかを考える。
第8回	国分康孝著「カウンセリング・リサーチ入門」を基に、リサーチの意義と、価値観との関連、トピックの設定と操作的定義とは何かについて解説する。	予習：配布プリント、及び資料に目を通しておく。 復習：プリント及び資料に目を通し概念の理解を確認する。
第9回	引き続き、国分康孝著「カウンセリング・リサーチ入門」を基に、リサーチの意義と、価値観との関連、トピックの設定と操作的定義について解説する。	予習：配布プリント、及び資料に目を通しておく。 復習：プリント及び資料に目を通し概念の理解を確認する。
第10回	国分康孝著「カウンセリング・リサーチ入門」を基に、母集団の考え方とサンプリングの手法、研究における測定方法について解説する。	予習：配布プリント、及び資料に目を通しておく。 復習：プリント及び資料に目を通し概念の理解を確認する。
第11回	国分康孝著「カウンセリング・リサーチ入門」を基に、得られた資料の分析方法及び入門的な統計学について解説する。	予習：配布プリント、及び資料に目を通しておく。 復習：プリント及び資料に目を通し概念の理解を確認する。
第12回	引き続き、国分康孝著「カウンセリング・リサーチ入門」を基に、得られた資料の分析方法及び入門的な統計学について解説する。	予習：配布プリント、及び資料に目を通しておく。 復習：プリント及び資料に目を通し概念の理解を確認する。
第13回	国分康孝著「カウンセリング・リサーチ入門」を基に、リサーチ・レベルと研究における考察の仕方について解説する。	予習：配布プリント、及び資料に目を通しておく。 復習：プリント及び資料に目を通し概念の理解を確認する。
第14回	後期末に行われる「学内実習発表」（学会発表に準じた形で行う）の予行演習を兼ね、可能な限り完成型に近づけて、自らの研究発表を2回にわたり一人ずつ行う。	予習：質疑応答を想定し、必要な情報を揃えて発表の準備を行う。 復習：当日の議論を踏まえ、本番に向けさらに研究をどう発展させるかを考える。
第15回	引き続き、後期末に行われる「学内実習発表」（学会発表に準じた形で行う）の予行演習を兼ね、可能な限り完成型に近づけて、自らの研究発表を一人ずつ行う。	予習：質疑応答を想定し、必要な情報を揃えて発表の準備を行う。 復習：当日の議論を踏まえ、本番に向けさらに研究をどう発展させるかを考える。

科目名	声楽1・2【教職実践専攻の音楽実技を含】

【授業計画の概要】

声楽は音楽全般の中でも特異性を持っています。自分が楽器で有ると言う事、また、言葉を伴い歌うと言う事です。まずは自分の身体を楽器として認識しましょう。一年次にはイタリア歌曲を中心に学んで行きます。

【授業の到達目標】

一年次は無理のない呼吸法、発声法、発語法を身に付けて行きます。イタリア歌曲を中心に勉強をして、イタリア語の発音をしっかりと身に付けます。

【成績評価の方法】

実技試験による成績評価

【授業計画の内容】

月	内　　容
4 5 6	【主要課題】母音の作り方が初期の学習に適しているイタリア歌曲を選び、呼吸法、発声法、発語方を身に付けると共に、練習曲(コンコーネ等)を併用してソルフェージュ力を高める。 ・声楽を学ぶに必要な要点を伝え、学習法、レッスンの進め方を説明 ・声楽には欠かせない言葉の大切さを伝え、イタリア語、ドイツ語等の履修を促す。 ・一年次は特にイタリア語発音の徹底 ・授業で与えられた曲目の　単語、意味調べをしてレッスンに臨む
7 8 9	【主要課題】:前期試験の準備と仕上げ ・能力に応じた曲を選び学習する。学んで来た曲目から5分以内で纏められるものを前期試験曲に決める ・伴奏者と合わせる事で共演と言う演奏の基本的なテクニックを学んで行く ・夏休みの計画を立てる ☆夏休みには4月から学んで来た曲目を見直して、前回出来なかった箇所を復習、他の曲にも応用出来る様にする 【前期試験】 ☆試験までの学習で得た事を確認、試験の反省と共に先の学習に繋げて行く
10 11 12	【主要課題】:前期で学んだ呼吸法、発声法、発語法を充実させる ・前期に引き続き呼吸法、発声法、発語法の学習を進めて行く ・詩の意味を良く理解して音に表して行く。曲の持つ情緒的な意味を感じ、細やかな変化を表現する ・自分に合った曲を見極め、後期の試験を決める
1 2 3	【主要課題】:呼吸法、発声法、発語法を身に付けて、レガート唱法に繋いで行く ☆10月から学習して来た曲目を見直し、学習成果を確認 【後期試験】 ・試験の反省と一年の総括 ・春休みの学習計画を立てる ☆春休みにはこの一年学習して来た事を再度見直して前回出来なかった箇所を復習する

科目名	声楽3・4【教職実践専攻の音楽実技を含】

【授業計画の概要】

一年次で学んだ事を継続。正しい呼吸法、発声法、発語法を身に付けて多くの曲に活かして行きましょう。二年次から四年次の前期までに行われる試験の間に日本語、ドイツ語の歌曲を必ず歌います。何をどの時期に歌うかは担当教員とよく話し合い取り組んで行きましょう。

【授業の到達目標】

一年間学んで来た事を更に継続して安定した歌唱法を身に付ける。歌の基本はレガート唱法なので二年次には更にレガート唱法を身に付ける。ドイツ語を正しく発音出来る(特にUmlaut)する。

【成績評価の方法】

実技試験による成績評価

【授業計画の内容】

月	内　　容
4 5 6	【主要課題】:一年間の計画を立てる ・1年次で学んだ事を振り返り、今後取り組んで行くべき方向を担当教員と相談して学習の計画を立てる ・日本歌曲の学習に向け、母音の作り方、子音の捌き方、鼻濁音等の認識を深める ・ドイツ語の発音練習、殊に子音の発音と日本語には無いウムラウトの発音を念入りにレッスンに組み入れる事が望ましい
7 8 9	【主要課題】:前期試験の準備と仕上げ ・前期試験に向けて自分の力に適した曲を選び学習する ☆試験は制限時間6分以内ならば同一分野から複数曲を歌う事が可能 ・夏休みの学習計画を立てる ☆4月から学習して来た曲目をここで再度見直し、前回出来なかった箇所を復習し他の曲にも応用出来ようにするする
10 11 12	【主要課題】:レパートリーを広げる ・これまで学習して来た事を土台としてレパートリーを広げて行く ・オペラアリア等を学習する時には声帯に負担が掛からない様に注意が必要 ・後期試験に向けて曲を選ぶ
1 2 3	【主要課題】:後期試験の準備と仕上げ ・二年間学んで来た内容を確認して後期試験に向けて問題点を改善して行く 【後期試験 】 ・試験の反省と一年の総括 ・春休みにはこの一年間学習して来た事を再度見直して、前回出来なかった箇所を復習、他の曲にも応用出来る様にする

科目名	声楽5・6【教職実践専攻の音楽実技を含】

【授業計画の概要】

三年次で特記する事はウイーン研修、学内演奏会です。これまで重ねて来た発声の勉強をさらに充実させ、楽譜からそこに書かれた意図をくみ取り音楽の表現を広げて行きましょう。また、三年次からオペラ研究の授業が履修出来ます。ソロだけでなくアンサンブルを身に付ける為にも履修する事が望ましい

【授業の到達目標】

一年次、二年次とイタリア語、ドイツ語について歌に適した発語の学習をして来ました。三年次はその学習を更に継続、安定した歌唱法を身につけて行きます。

【成績評価の方法】

実技試験による成績評価

【授業計画の内容】

月	内　　容
4 5 6	【主要課題】:学内演奏会、ウイーン研修への準備 ・早いグループではこの時期からウイーン研修、学内演奏会が行われるので、曲を決め学習に励む ☆後期になる場合もある ・三年次からオペラ研究が履修出来るので、オペラを理解しアンサンブルを身につける為にも積極的に取り組む事が望ましい
7 8 9	【主要課題】:前期試験の準備と仕上げ ・しっかりとした発声に裏付けられた豊かな音楽表現を目指す ☆前期試験として6分以内で曲を決める。同じ分野であれば複数曲を歌う事も可 ・自主的に夏休みの学習計画を立てる ☆夏休みには4月から学習して来た曲目をここで再度見直して、前回出来なかった箇所を復習し応用出来る様にする 【前期試験】 試験から得られた課題に取り組んで行く
10 11 12	【主要課題】:レパートリーのさらなる拡大 ・自分の声質や感性に合う曲を探す ☆後期試験として6分以内で曲を選ぶ。同じ分野であれば複数曲も可 ・試験に選んだ曲を研究し、表現の充実に努める
1 2 3	【主要課題】:後期試験の準備と仕上げ ・三年次に学んだ事を振り返り、自分の持つ課題を改善して行く 【後期試験】 ・最終学年に向けて後期試験の課題を掘り下げて改善、次年度に繋いで行く ・春休みの学習計画を立てる ☆春休みにこの一年間学習して来た事を再度見直して前回出来なかった箇所を応用出来る様にする

科目名	声楽7・8【教職実践専攻の音楽実技を含】

【授業計画の概要】

身体が楽器である声楽はその身体が充分に成育して行かなければ真の完成には近付きません。大学の四年間はその道程で有り、卒業までに技術、音楽性、豊かな人間性を磨きその先へと繋げて行かなければなりません。四年次はこれまでの学習の総点検です。問題点を改め卒業試験に向けて研鑽を積み、四年間の成果を充分に発揮しましょう。

【授業の到達目標】

四年次は三年間重ねて来た学習の総まとめ。呼吸法、発声法を見直して更に自由に表現出来る様にします。これまで学習して来た様々な言語を声楽的な表現を持って演奏に表して行く。

【成績評価の方法】

実技試験による成績評価

【授業計画の内容】

月	内　　容
4 5 6	【主要課題】:これまでの学習内容を見直してレパートリーを広げて行く ・発声法、歌唱法について現在の方向を点検する ・技術面だけでなく音楽の内容も再確認する ・これまで学んでいない分野も積極的に取り組んで行く
7 8 9	【主要課題】:前期試験の準備と仕上げ ・これまで学習して来た中で自分の長所を生かせるものを選び完成度を高めて行く ・ 夏休みの学習計画を立てる ☆夏休みには四月から学習して来た曲目を再度見直し、前回出来なかった箇所を復習し他の曲にも応用出来る様にする 【前期試験】 ☆6分以内で同じ分野なら複数曲も可能 ・試験での反省点と後期で取り組むべき課題の検討
10 11 12	【主要課題】:卒業試験に向けての準備 ・日本歌曲一曲、外国歌曲一曲、オペラ、オラトリオのアリアから一曲、計三曲を選び演奏に向けて取り組んで行く。12分以内に纏める。 ・卒業試験ついて曲の内容、解説、構成、分析、創作の過程、作詞者及び作曲家また歴史的、文化的背景について調べ、作品ノートを完成する
1 2 3	【主要課題】:卒業試験 【卒業試験】 ・演奏する各曲の言葉の意味を掴み、美しく正しい発声を持って表現を深めて行く ・各々の曲の持つスタイルを考察し、表現を充実させる ・演奏にあたり、会場の空間と響きを考えて曲の力配分を計る ・四年間の学習内容の総括及び卒業後の課題の展望

科目名	ピアノ1・2【教職実践専攻の音楽実技を含】

【授業計画の概要】

演奏をする際の姿勢及び肩・腕・手首・指などの体の使い方を確認し、無理のない自然な奏法を目指す。
ピアノ1では古典期、ピアノ2ではロマン期を中心に学ぶ。
上記課題のほか、エチュードやバロック作品の継続的学習をする。

【授業の到達目標】

ピアノ1では、古典期の作品の形式・和声などの楽曲分析をすることにより、適切な表現で演奏することができる。
ピアノ2では多様な音色、息の長いフレーズ、テンポルバートなど、ロマン期の作品の特徴を理解して演奏することができる。

【成績評価の方法】

実技試験による

【授業計画の内容】

月	内　　容
4	楽器の特性及び身体運動と音色の関係を理解し、演奏技術の向上を図る。 ピアノ1の試験課題である古典期の作品を学ぶ。 楽曲表現を豊かにするために、理論的なことにも目を向ける。
5	
6	
7	古典期の作品の形式及び和声進行などへの理解を深める。 作曲家や楽曲の背景などについての理解を深め、演奏に反映させる。 ピアノ1の実技試験
8	
9	
10	ピアノ2の試験課題であるロマン期の作品を学ぶ。 ロマン期の和声・表現法・奏法への理解を深める。 ピアノの構造と特性を理解し、楽器の変遷と楽曲の関わりについて考察する。
11	
12	
1	ピアノ2の実技試験 ポリフォニー音楽への関心を高め、理解を深める。 レパートリーを広げる
2	
3	

科目名	ピアノ3･4【教職実践専攻の音楽実技を含】

【授業計画の概要】

音色に対する感覚を敏感にし、奏法との関係を考える。ピアノ3では、バロック期のポリフォニックな作品や舞曲を学ぶことにより、指の独立、声部を聴き分ける力、さまざまなリズム感等を養う。ピアノ4ではロマン期～近現代期の作品を通して、それぞれの特徴的な和声やリズム、表現法を学ぶ。コンチェルトの演奏法も学習する。

【授業の到達目標】

ピアノ3ではバロック期の作品を学び、ポリフォニックな作品や古典的な舞曲を理解して演奏することができる。
ピアノ4では、ロマン期から近現代へと幅を広げ、さらに多彩な表現法を用いて演奏することができる。。

【成績評価の方法】

実技試験による

【授業計画の内容】

月	内　　容
4	ピアノ3の試験課題であるバロック期の作品を学ぶ。 楽曲理解のために、鍵盤楽器以外の作品や文献等を通じた考察をする。 楽曲分析を通して曲の構造の理解を深める。 エチュードも継続して学習する。
5	
6	
7	ポリフォニックな作品の演奏における技術的聴覚的コントロールを高める。 バロックダンスへの理解を深め、演奏に反映させる。 楽曲の特性を見極め、完成を目指す。 ピアノ3の実技試験
8	
9	
10	ピアノ4の試験曲の選定にあたり、多様な曲に触れる。 ロマン期から近現代への時代的変遷と音楽の多様性について理解をする。 ピアノ1～3における学習内容を基礎として、表現の拡大を図る。
11	
12	
1	ピアノ4の実技試験 3年次における定期試験、ウィーン研修、学内演奏会等に向けた演奏の計画を立て、 学習を進める。
2	
3	

科目名	ピアノ5･6【教職実践専攻の音楽実技を含】

【授業計画の概要】

定期試験、学内演奏会、ウィーン研修等の演奏機会を生かし、レパートリーを拡大すると共に、より専門的な技術及び表現法の修得を目指す。コンチェルトの演奏法も学ぶ。

【授業の到達目標】

ピアノ5では、ウィーンの研修の成果を踏まえ、さらに広い視野を持って演奏を客観的にとらえられるようにする。
ピアノ6では学内演奏会に於いての演奏を通して、聴衆とコミュニケーションをとることの意味を理解する。

【成績評価の方法】

実技試験による。

【授業計画の内容】

月	内　　容
4	定期試験及びウィーン研修に向けた準備に取り組む。 ウィーン研修において、有意義なレッスンを受けることができるよう十分に準備する。
5	
6	
7	ピアノ5の試験曲に対し理論的な視点からも理解を深め、演奏に反映させる。 演奏技術の向上とともに、表現の拡大を目指し学習をすすめる。 ピアノ5の実技試験
8	
9	
10	学内演奏会に向けて準備をする ホールでの演奏を経験するとともに、ステージマナーも身につける。
11	
12	
1	ウィーン研修や学内演奏会の学習成果を反映させ、より完成度の高い演奏を目指す。 ピアノ6の実技試験 最終学年への準備のため、レパートリーの拡大を図る
2	
3	

科目名	ピアノ7・8【教職実践専攻の音楽実技を含】

【授業計画の概要】

ピアノ1～6の学習内容を基に、さらに豊かな表現力と演奏技術の向上を目指し、レパートリーの拡大を図る。
ピアノ8においては実技試験と併せて作品ノートが課せられるため、年間を通じた計画に基づいた多角的な学習が必要である。コンチェルトの演奏法も学ぶ。

【授業の到達目標】

ピアノ7では、3年間で学んだ多様な技術と表現法を的確に演奏に生かすことができる。
ピアノ8では、作品ノートの作成を通して楽曲を深く理解し、演奏に反映することができる。

【成績評価の方法】

実技試験による

【授業計画の内容】

月	内　　容
4	技術の向上、レパートリーの拡大とともに、各時代様式に基づいた演奏法を修得する。 作品ノート作成のための準備をする。
5	
6	
7	ピアノ7の試験曲を多角的に考察し、理解を深めると共に演奏に反映する。 ピアノ7の実技試験
8	
9	
10	ピアノ8の試験曲と作品ノート作成に取り組む。 作品ノートの内容を踏まえ、ピアノ8の試験曲における演奏の完成度を高める。
11	
12	
1	ピアノ8の実技試験
2	
3	

科目名	管弦打楽器1・2〔弦楽器〕【教職実践専攻の音楽実技を含】

【授業計画の概要】

専門的な弦楽器の演奏を目指す上で必要な、基本的奏法を確立する。
スケール・エチュードの課題を、毎日欠かさず練習する習慣を身に着ける。
楽譜に書かれていることを忠実に音に表す技術を習得する。
オーケストラやアンサンブルでは、自分の音だけでなく、周囲の音も聴きながら演奏することを心がける。

【授業の到達目標】

正しい奏法を身に付けることによって、美しい音色になり、テクニックも向上する。
毎日の基礎練習が身に付く。

【成績評価の方法】

実技試験による。

【授業計画の内容】

月	内　　容
4 5 6	・自分の奏法を見直し楽器の構え方や、姿勢、弓の持ち方、ボーイングなどで問題点があれば改善する。 ・スケール、エチュードを中心にした練習、また練習方法を学ぶ。 ・オーケストラでのマナー、また演奏する時の心得を学ぶ。
7 8 9	・前期試験の課題である、古典期作品の選曲。 ・古典期のアーティキュレーション、フレーズの特徴を理解し、演奏法を学ぶ。 ・ピアノ（伴奏）と合せる時の心得。 ・前期実技試験。
10 11 12	・デダッシュやスピッカート、全弓を使う運弓など、右手の基本的奏法の見直し。 ・ポジション移動、ヴィブラートなど、左手の基本的奏法の見直し。 ・後期試験の選曲。改善点の達成を目標として取り組む。 ・オーケストラ定期演奏会に向けて。
1 2 3	・後期実技試験。 ・試験での演奏の反省。 ・一年間の練習方法（時間の使い方を含む）の反省。 ・来年度の目標を具体的に考える。

科目名	管弦打楽器3・4〔弦楽器〕【教職実践専攻の音楽実技を含】

【授業計画の概要】

1年次で身に付けてきた奏法で、まだ足りない部分を習得する。
より高度なスケールやエチュードに取り組む。
楽譜に書かれている、細かい指示や表示を読み取る。
アンサンブルでは、他のパートの音を聴きながら、自分のパートの役割を理解する。

【授業の到達目標】

スケールやエチュードの練習が、楽曲を演奏する上で、どのように役に立つかを理解できるようになる。
楽譜に書かれている指示から、どのような表現をすればよいか、自分で考えて演奏できるようになる。

【成績評価の方法】

実技試験による。

【授業計画の内容】

月	内　　容
4	・基本的な奏法でまだ問題点があれば、引き続き改善していく。 ・スケールやエチュードを用いて、より高い技術を身に付ける。 ・表現の幅を広げる。表現方法の習得。
5	
6	
7	・前期試験の選曲（ヴァイオリンは、エチュードと小品） ・曲を演奏する際に、習得した技術、表現方法をよりよく実践する。 ・弦楽器特有の音色、表現力を意識して仕上げる。 ・室内楽（弦楽四重奏）に積極的に参加する。 ・前期実技試験。
8	
9	
10	・後期試験の選曲。協奏曲やソナタなど、より大きな曲に挑戦していく。 ・楽譜の読み取り方を学ぶ。作曲家の指示を注意深く読み、音にする。
11	
12	
1	・後期実技試験。 ・試験での演奏の反省。 ・自分の良点、欠点の認識。 ・来年度の計画（ウィーン研修、学内演奏会）
2	
3	

科目名	管弦打楽器5･6〔弦楽器〕【教職実践専攻の音楽実技を含】

【授業計画の概要】

学内演奏会、ウィーン研修に向け、より専門的な演奏技術を習得する。学内演奏会では、聴衆の前で自分の音楽を演奏（表現）するという自覚を持って取り組む。
ウィーン研修の経験を生かし、西洋音楽を演奏する際に、ヨーロッパの歴史、文化を意識するよう心掛ける。
オーケストラ、弦楽合奏では、自分のテンポ感、音程、音質が全体の音に溶け込んでいるか意識し、更にアンサンブル能力を高める。

【授業の到達目標】

ウィーンでの実体験を通して得た、感覚や知識を、演奏にも反映させることができる。
楽曲の時代背景や、様式についての考察を、演奏に反映することができる。

【成績評価の方法】

実技試験による。

【授業計画の内容】

月	内　　容
4 5 6	･ウィーン研修、学内演奏会の時期を考慮し、計画的に準備を進める。 ･グランツザールで演奏することを意識し、大きなホールで演奏する際の演奏スタイル、舞台上でのマナーを学ぶ。 ･自分の好みに片寄らず、様々な時代、様式の楽曲に挑戦する。
7 8 9	･ウィーン滞在をきっかっけに、ヨーロッパの歴史や文化に興味を持ち、曲の時代背景を学んだ上で、楽曲を理解する姿勢を身に付ける。 ･ウィーンで聴いた音楽、音を思い出し、自分の演奏に反映できるよう努力する。 ･コンクール、オーディションへの挑戦。 ･前期実技試験。
10 11 12	･前期試験や学内演奏会の反省を踏まえ、自分に足りない技術や表現力を身に付ける努力をする。 ･近現代の楽曲にも取り組むとよい。 ･表現の幅を広げるために、音楽以外の分野にも目を向け、幅広い教養を身に付ける。
1 2 3	･後期実技試験。 ･試験での演奏の反省。 ･オーケストラ、室内楽での演奏の反省。 ･学生時代に経験できることを考え、最終学年での学びに備える。 ･卒業後の進路につて考える。

科目名	管弦打楽器7・8〔弦楽器〕【教職実践専攻の音楽実技を含】

【授業計画の概要】

卒業前にもう一度、基本的な奏法を見直す。
卒業試験に向けて、より技術・表現力を磨き、4年間の集大成となる演奏を目指す。
豊かな人間性こそ、豊かな表現が出来ることを覚え、社会へ出る前に自己の在り方について深く考える。
4年間で学んだ学術的な要素も、作品ノートに反映できるように作成する。

【授業の到達目標】

楽譜から読み取った情報をもとに、自分の個性を生かした表現を生み出すことができる。
その表現を音に表すことの出来る技術が身に付いている。

【成績評価の方法】

実技試験による。

【授業計画の内容】

月	内　　容
4 5 6	・基本的奏法が身に付いているかを点検する。 ・前期試験曲、卒業試験曲を選曲する。 （卒業試験の曲は多少難しくても、自分の弾きたい曲を選ぶのもよい。） ・卒業後の進路について、計画的に行動する。
7 8 9	・技術的な内容にばかりとらわれず、音楽的内容についてよく考察する。 ・自分の思いや、感情を自由に音に表すことができるように、更に研鑽を積む。 ・曲全体の音楽の流れを意識し、完成度の高い演奏を目指す。 ・前期実技試験。
10 11 12	・4年間の総まとめとして、学んできたこと1つ1つを演奏する際に、実践することを心掛ける。 ・作品ノートを作成する。 作曲家、時代背景、楽曲分析などについて詳しく調べる。
1 2 3	・後期実技試験。 ・卒業試験での演奏の講評と反省。 ・卒業後の演奏活動、指導活動について。 ・演奏技術を維持する方法。

科目名	管弦打楽器1・2〔木管楽器〕【教職実践専攻の音楽実技を含】

【授業計画の概要】

管弦打楽器1・2〔木管楽器〕（1年）においては、木管楽器の専門的演奏を目指す上での基本的奏法の訓練を中心にしたレッスンを行います。
ロングトーンを含めたスケールとエチュードを柱にした練習方法を確立します。
「音質、音色、音程」を整えながら「姿勢と呼吸」「フィンガリングと指の形」「アンブッシュア」「タンギング」「スラー」「ビブラート」等、演奏の土台となる基本的技術を身に付け基本的感覚を養うことが目的です。

【授業の到達目標】

管弦打楽器1・2〔木管楽器〕（1年）では、演奏するための基本的な「技術」「感覚」を身に付け、養うことができるようにします。

【成績評価の方法】

実技試験によります

【授業計画の内容】

月	内　　容
4	・オリエンテーション（今後4年間の概要、レッスン内容の説明、レッスン心得、練習方法） ・教材、参考資料の説明（スケール教本、エチュード、楽曲等の案内） ・管弦打楽器1・2〔木管楽器〕（1年）における実技試験についての説明と伴奏者についての説明 ・基本的奏法「姿勢と呼吸」「フィンガリング」「ロングトーン」「タンギング」「スラー」「ビブラート」 ・基礎知識、楽器の種類、構造、歴史、楽器によってリードの選び方、調整法
5	
6	
7	・楽器の「メンテナンス」楽器によってマウスピース選定 ・木管楽器1の実技試験課題楽曲研究と伴奏合わせ ・夏期休業中実技試験の準備と仕上げ（伴奏合わせを含む） ・木管楽器1の実技試験講評、反省会、今後の課題検討 ・木管楽器2授業開始、基本奏法の整理
8	
9	
10	・「スケール練習」の発展　例　メトロノームを使いスラーとタンギングで3度音程、アルペジオを含む練習を少しずつテンポを上げて練習 ・楽器によって「ビブラート」の研究、同属楽器奏法の研究 ・木管楽器2の実技試験課題楽曲研究と伴奏合わせ
11	
12	
1	・木管楽器2実技試験の講評、反省会、グループ討論 ・1年間の点検と評価 ・今後の課題を検討し、来年度に向け計画を立てる
2	
3	

科目名	管弦打楽器3・4〔木管楽器〕【教職実践専攻の音楽実技を含】

【授業計画の概要】

管弦打楽器3・4〔木管楽器〕(2年)では、1年次で勉強した基本的奏法の訓練と応用技術の研究を更に発展させたレッスンを行います。
演奏に対する意識を高め、楽曲の理解を深めます。それぞれの学生の個性を大切にしつつ、良い部分は伸ばし欠点をチェックしていきます。
楽曲、エチュードは中級上級へとレベルアップします。

【授業の到達目標】

管弦打楽器3・4〔木管楽器〕(2年)では、1・2を通して身に付け養った演奏するための基本的「技術」「感覚」を更に発展させ中級上級レベルの楽曲、エチュードを演奏できる力を身に付けることができる。

【成績評価の方法】

実技試験にる

【授業計画の内容】

月	内　　容
4 5 6	・アンブッシュアの点検、スラー、タンギング技術の点検 ・日々のスケール練習方法の確立、楽器によってはアーティキュレーションを工夫した3度、4度、アルペジオ練習 ・表現方法の研究・エチュード、楽曲の研究 ・吹奏感の充実と安定を目指し、、音質音色を磨く ・幅広い演奏家達の演奏研究
7 8 9	・木管楽器3の実技試験課題楽曲研究と伴奏合わせ ・夏期休業中、実技試験課題の準備と仕上げ ・実技試験課題伴奏合わせ ・木管楽器3実技試験課題の講評、反省会、今後の課題検討 ・木管楽器4授業開始、木管楽器4実技試験課題の研究
10 11 12	・楽器によって同属楽器の奏法研究 ・楽器によって古楽器の知識と奏法研究 ・木管楽器4実技試験課題の楽曲研究と伴奏合わせ ・個人練習方法の確立、アンブッシュアの点検
1 2 3	・木管楽器4実技試験の講評、反省会、グループ討論 ・1年間の点検と評価 ・今後の課題を検討し、来年度の計画を立てる

科目名	管弦打楽器5・6〔木管楽器〕【教職実践専攻の音楽実技を含】

【授業計画の概要】

管弦打楽器5・6〔木管楽器〕(3年)においては、1・2年次に進められてきた(基本奏法と応用技術)を更に発展させてレッスンを行います。
学内演奏会やウィーン研修に向けての準備を大切にし、ウィーン研修の経験を後の学習に役立てて下さい。又楽器によっては「ジャズ」「ポピュラー」の演奏表現も取り入れて行きます。

【授業の到達目標】

管弦打楽器1・2・3・4〔木管楽器〕1・2年において身に付け養ってきた演奏技術や基本奏法を発展させ、学年演奏会やウィーン研修において実践することができる。

【成績評価の方法】

実技試験による

【授業計画の内容】

月	内　　容
4	・基本奏法と応用技術を更に発展させるための練習方法の確立 ・学内演奏会、ウィーン研修のための楽曲研究 ・楽器によって同属楽器演奏技術の研究
5	
6	
7	・木管楽器5の実技試験課題の楽曲研究と伴奏合わせ ・夏期休業中の実技試験準備と仕上げ ・木管楽器5の実技試験の講評、反省会 ・木管楽器6の授業開始、木管楽器6の課題検討と課題曲研究
8	
9	
10	・楽器によってジャズ、ポピュラー音楽奏法研究 ・楽器によって特殊奏法の研究 ・木管楽器6の実技試験課題楽曲研究と伴奏合わせ
11	
12	
1	・木管楽器6の実技試験講評、反省会、グループ討論 ・学内演奏会、ウィーン研修等を含めた1年間の点検と評価 ・今後の課題を検討し、来年度の計画を立てる
2	
3	

科目名	管弦打楽器7・8〔木管楽器〕【教職実践専攻の音楽実技を含】

【授業計画の概要】

54

【授業の到達目標】

これまで1年から4年まで身に付け養ってきた演奏するための総合力を確立し、卒業試験を含む演奏の場で実践することができる。

【成績評価の方法】

実技試験による

【授業計画の内容】

月	内　　容
4 5 6	・奏法全般の総点検 ・指導法研究（Ⅰ期） ・コンクール、オーディション対策 ・木管楽器7の実技試験課題の楽曲研究
7 8 9	・木管楽器7の課題曲、伴奏合わせ ・木管楽器8の卒業試験課題楽曲を決め、「作品ノート」作成準備 ・夏期休業中の木管楽器7の課題曲仕上げ、伴奏合わせ ・木管楽器7の実技試験講評、反省会 ・木管楽器8の授業開始、指導法研究（Ⅱ期）
10 11 12	・コンクール・オーディション対策 ・「作品ノート」作成状況チェック ・木管楽器8（卒業試験）の課題楽曲研究と伴奏合わせ ・指導法研究（Ⅲ期）
1 2 3	・木管楽器8（卒業試験）の講評、反省会、グループ討論 ・4年間の点検と評価 ・卒業後の演奏活動と指導活動に対する考え方と心構え ・卒業後の課題を検討する

科目名	管弦打楽器1・2〔金管楽器〕【教職実践専攻の音楽実技を含】

【授業計画の概要】

1年次においては、基礎奏法、及び応用技術の修得を中心にレッスンを行います。
「姿勢」「呼吸法」「リラクセーション」「アンブシュア」「フィンガリング」「スロート・コントロール」「リップ・フレキシビリティー」「レンジ」「エンデュアランス」「アーティキレーション」など、演奏の土台となる基本テクニックを確実に身につけることが最大の目的です。

【授業の到達目標】

授業内容を深く修得し、演奏能力を更に向上させる。

【成績評価の方法】

実技試験による

【授業計画の内容】

月	内　　容
4 5 6	・ガイダンス （概要説明、レッスン内容説明、レッスン心得、教材・参考資料の説明・案内等） ・基礎奏法 （姿勢、呼吸法、楽器の構え方、ロングトーン、リップ・スラー、タンギング等） ・基礎知識（楽曲、教本、楽器、楽器の歴史等）
7 8 9	・前期実技試験のための楽曲研究 ・　　〃　　の講評、反省会、グループ討論 ・名演奏家の演奏研究（Ⅰ期） ・前期実技試験
10 11 12	・基礎奏法（アンブシュア、フィンガリング、フレキシビリティー、インターヴァル、 グルペット、リラクセーション、スロート・コントロール、エンデュアランス等） ・基礎知識（楽曲研究、楽器のメンテナンス等） ・学年末実技試験のための楽曲研究
1 2 3	・後期実技試験の講評、反省会、グループ討論 ・1年間の点検と評価 ・今後の課題検討、及び来年度の計画作成

科目名	管弦打楽器3・4〔金管楽器〕【教職実践専攻の音楽実技を含】

【授業計画の概要】

2年次においては、1年次に引き続き、基礎奏法に修得を中心にレッスンを行います。
そして、それを更に発展させた「応用技術」の修得にも目を向けていきます。
「インターバル」「レンジ」「エンデュランス」「アーティキレーション」などのレヴェル・アップを目指します。3年次生になったとき、コンチェルトなどの演奏が可能になっていることが、目標の目安です。

【授業の到達目標】

授業内容を深く修得し、演奏能力を更に向上させる。

【成績評価の方法】

実技試験による

【授業計画の内容】

月	内　　容
4 5 6	・響き、音色、音質等の研究 ・名演奏家の演奏研究（Ⅱ期） ・表現様式の研究 ・アンサンブル。スタディー（Ⅰ期） ・スケール・アルペジオの総点検 ・トランスポジションの修得（Ⅰ期）
7 8 9	・前期実技試験のための楽曲研究 ・　　〃　　の講評、反省会、グループ討論 ・メソード、エチュード研究（Ⅰ期） ・前期実技試験
10 11 12	・オーケストラ・スタディ（Ⅰ期） ・古楽器の知識と奏法研究（Ⅰ期） ・吹奏楽スタディー（Ⅰ期） ・特殊奏法の研究（Ⅰ期） ・デイリー・トレーニングの確立 ・学年末実技試験のための楽曲研究
1 2 3	・後期実技試験の講評、反省会、グループ討論 ・2年間の点検と評価 ・今後の課題検討、及び来年度の計画作成

科目名	管弦打楽器5・6〔金管楽器〕【教職実践専攻の音楽実技を含】

【授業計画の概要】

3年次においては、「基礎・応用技術」の更なる修得に加え、「トランスポジション」「オーケストラ・スタディー」などの項目も更に強化していきます。
また、「チャーチ・モード」を加え、スケール枠を広げていきたいと考えています。
更に、この楽器の演奏カテゴリーを考慮し、「ジャズ」「ポピュラー」の演奏表現方法も、希望する学生には取り入れていきたいと思っています。

【授業の到達目標】

授業内容を深く修得し、演奏能力を更に向上させる。

【成績評価の方法】

実技試験による

【授業計画の内容】

月	内　　容
4 5 6	・学内演奏会、ウィーン研修のための楽曲研究 ・チャーチ・モードの修得と和声への対応 ・アンサンブル・スタディー（Ⅱ期） ・オーケストラ・スタディー（Ⅱ期） ・トランスポジションの修得（Ⅱ期）
7 8 9	・前期実技試験のための楽曲研究 ・　　〃　　の講評、反省会、グループ討論 ・指導法研究（Ⅰ期） ・コンクール、オーディション対策（Ⅰ期） ・前期実技試験
10 11 12	・吹奏楽スタディー（Ⅱ期） ・ジャズ、ポピュラー音楽、基礎奏法研究 ・特殊楽器の基礎奏法の研究（Ⅰ期） ・特殊奏法の研究（Ⅱ期） ・オーケストラ・スタディー（Ⅲ期）及び、トランスポジションの修得（Ⅲ期） ・学年末実技試験のための楽曲研究
1 2 3	・後期実技試験の講評、反省会、グループ討論 ・3年間の点検と評価 ・今後の課題検討、及び来年度の計画作成

科目名	管弦打楽器7・8〔金管楽器〕【教職実践専攻の音楽実技を含】

【授業計画の概要】

最終年次においては、これまで培ってきたものを確実に修得し、国内で開催されているコンクールやオーディションにチャレンジできるようなレヴェルを目指します。
又、演奏能力の向上とは別に、指導者としての能力も修得することを期待しています。

【授業の到達目標】

授業内容を深く修得し、演奏能力を更に向上させる。

【成績評価の方法】

実技試験による

【授業計画の内容】

月	内　　容
4 5 6	・オーケストラ・スタディー（Ⅳ期） ・吹奏楽スタディー（Ⅲ期） ・アンサンブル・スタディー（Ⅲ期） ・指導法研究（Ⅱ期） ・コンクール・オーディション対策（Ⅱ期） ・メソード・エチュード研究
7 8 9	・前期実技試験のための楽曲研究 ・　　〃　　の講評、反省会、グループ討論 ・特殊楽器の基礎奏法研究（Ⅱ期） ・古楽器の知識と奏法研究（Ⅱ期） ・前期実技試験
10 11 12	・指導法研究（Ⅲ期） ・コンクール・オーディション対策（Ⅲ期） ・オーケストラ・スタディー（Ⅴ期） ・吹奏楽スタディー（Ⅳ期） ・アンサンブル・スタディー（Ⅳ期） ・卒業実技試験のための楽曲研究
1 2 3	・卒業実技試験の講評、反省会、グループ討論 ・4年間の点検と評価 ・卒業後の演奏活動、指導活動に対する基本的コンセプトの確立

科目名	管弦打楽器1・2〔打楽器〕【教職実践専攻の音楽実技を含】

【授業計画の概要】

基本的な奏法や演奏技術を確実に身に付けるため、各人のレベル、状況に即したレッスンを段階的に行なっていく。

【授業の到達目標】

「音楽を自らの言葉で語る（語れるようになる）」ことを目標とし、その目標達成の第一歩として、基本奏法や演奏技術を確実に身につける。

【成績評価の方法】

実技定期試験による評価を主なものとするが、その際、日頃のレッスン、実技試験へ向けての取り組み姿勢についても考慮の対象とする。

【授業計画の内容】

月	内　　容
4	
5	○ガイダンス ○脱力と演奏時の体の使い方について習得する ○小太鼓、鍵盤楽器の基本奏法の習得（初級エチュードを使って正しいフォームを学ぶ）
6	
7	
8	○基本奏法の確立と楽曲への応用①（初級エチュードに加え、楽曲演奏の中での基本奏法の応用について学ぶ） ○前期試験曲の決定、指導
9	
10	
11	○前期試験の講評及び課題提示 ○基本奏法の確立と楽曲への応用②（自らの課題をふまえた選曲を行ない、その楽曲への取り組みの中で基本奏法の確立、応用についてさらに追求し、音楽表現を深める） ○後期試験曲の決定、指導
12	
1	
2	○後期試験の講評と課題提示 ○次年度への目標提示 ○1年間の総括
3	

科目名	管弦打楽器3・4〔打楽器〕【教職実践専攻の音楽実技を含】

【授業計画の概要】

「いかに音楽的に奏するか」をテーマに、個々の楽器の奏法を習得、同時にオーケストラ・スタディを教材に用いて、楽曲の一部である打楽器パートが、いかにして楽曲全体を音楽的に拡大し彩ることができるのか、打楽器の音質的な可能性について学ぶ。

【授業の到達目標】

〇様々な打楽器についての基本奏法を習得し、かつそれらが音楽的な演奏となるような技術を身につける。
〇楽曲全体の中での打楽器の役割について、音楽やその楽曲の場面ごとに求められるものを楽譜から読み取り、音楽から感じ取れるようになる。

【成績評価の方法】

実技定期試験による評価を主なものとするが、その際、日頃のレッスン、実技試験へ向けての取り組み姿勢についても考慮の対象とする。

【授業計画の内容】

月	内　　容
4	
5	〇ガイダンス 〇小太鼓・鍵盤楽器の基本奏法の充実（各自の実力に応じたエチュード、楽曲を使用） 〇ティンパニを含む打楽器全般に関する知識と奏法の習得（初級エチュードを使用）
6	
7	〇小太鼓・鍵盤楽器にいついて、より自由な音楽表現を目指す＝基本奏法、技術習得の追求 〇ティンパニを含む打楽器全般の音楽表現について学ぶ＝オーケストラ・スタディを使用して奏法、技術を習得する 〇前期試験曲の決定、指導
8	
9	
10	
11	〇前期試験の講評及び後期の方針検討 〇前述の楽器レッスンに加え、マルチパーカッション楽曲について学ぶ 〇後期試験曲の決定、指導
12	
1	
2	〇後期試験の講評と次年度への目標、課題提示 〇1年間の総括
3	

科目名	管弦打楽器5･6〔打楽器〕【教職実践専攻の音楽実技を含】

【授業計画の概要】

音楽表現の手段として扱える楽器の幅を広げることで(ラテン楽器･特殊楽器etc)レパートリーを増やし(マルチパーカッション楽曲、アンサンブル楽曲)自分の言葉で音楽することへの更なる追求の1年とする。

【授業の到達目標】

〇扱える楽器の幅を広げ、レパートリーを増やす。
〇自分の言葉で音楽するための研鑽を継続する。

【成績評価の方法】

実技定期試験による評価を主なものとするが、その際、日頃のレッスン、実技試験へ向けての取り組み姿勢についても考慮の対象とする。

【授業計画の内容】

月	内　　容
4 5 6	〇ガイダンス 〇多種楽器を使用したマルチパーカッション楽曲を題材に、難易度の高い楽譜の読み方を学び、効率的なセッテイング、奏法等を研究しながら、より広い視野をもって曲に取り組む機会をもつ
7 8 9	〇オーケストラ･スタディ(Percussion)に取り組むことで、より高い技術習得がより深い音楽表現を生み出すことを学ぶ 〇前期試験への取り組み(試験曲の決定、指導) 〇ミニ･コンサートを実施し、演奏者、舞台人としての意識をもった演奏を経験する
10 11 12	〇前期試験の講評と課題提示 〇定期公演での発表、魅力あるプログラミングの実現を目標に、 ①複数名での演奏について学びながら、アンサンブル技術の向上を目指す ②各種打楽器(ラテン楽器･特殊楽器等)の知識と奏法を習得する 〇後期試験曲の決定、指導
1 2 3	〇後期試験の講評と次年度への目標、課題提示 〇1年間の総括

科目名	管弦打楽器7・8〔打楽器〕【教職実践専攻の音楽実技を含】

【授業計画の概要】

入学時に掲げた目標であり、この授業（レッスン）の継続的なテーマともいえる「音楽を自らの言葉で語ること」を、今一度あらゆる方向から深め、充実させるためのまとめの１年とする。同時に大学最終学年ということで、各自の卒業後の進路をも見据えたレッスン内容を検討しつつ進行する。

【授業の到達目標】

〇音楽を自らの言葉で語るためのあらゆる方策を醸成する。
〇卒業後の進路について、ある程度の方針決定がなされる。

【成績評価の方法】

実技定期試験及び卒業試験による評価を主なものとするが、その際、日頃のレッスン、実技試験での演奏への取り組み姿勢についても考慮の対象とする。

【授業計画の内容】

月	内　　容
4	
5	〇ガイダンス 〇内外コンクール、オーディションへ向けた指導（希望者） 〇各自の将来検討に即した情報提供及び指導
6	
7	〇オーケストラ・スタディ習得の充実 〇将来に向けてのより具体的な検討を意識し、客観的な実力の認識を深めることを目的とした試みとして、プロ・オーケストラのリハーサルや本番を見学した上でのレポート提出または面談形式の口頭報告を課す 〇前期試験曲の決定（内外コンクール、オーディション情報を参考に、相応のレベルの選曲とする）
8	
9	
10	
11	〇前期試験の講評 〇卒業試験にむけての課題提示、曲目検討、指導 〇各自の進路を意識した取り組み
12	
1	
2	〇卒業試験 〇卒業後の進路全般に対するアドヴァイス 〇4年間の総括
3	

科目名	作曲1・2【教職実践専攻の音楽実技を含】

【授業計画の概要】

和声学の能力を向上させ、理解を深める。
ピアノによる小品あるいは形式に沿った楽曲を創作する。
内容的には特に指定はしないが、個性を充分生かして創作することが望ましい。

【授業の到達目標】

和声と形式の研究を通して、ピアノ曲を制作する。
簡単な3部形式からソナタ形式までを理解し実習させたい。

【成績評価の方法】

実技試験による

【授業計画の内容】

月	内　　容
4	
5	・和声能力の確認と課題の実習 ・形式の研究（年間通して） ・ピアノ曲の研究
6	
7	
8	・和声学課題の実習
9	
10	
11	・和声学課題の実習 ・ピアノ曲の制作（提出作品）
12	
1	
2	・出作品の制作及び提出、演奏試験
3	

科目名	作曲3・4【教職実践専攻の音楽実技を含】

【授業計画の概要】

和声学の能力を高める。
実践的な対位法を学び、制作する室内楽への応用を試みる。
ピアノと管楽器または弦楽器または打楽器との二重奏の制作。

【授業の到達目標】

和声の実習及び対位法の研究を通して、ピアノとソロ楽器によるデュオ作品の制作を目的とする。
場合によってはトリオから弦楽四重奏まで拡張しても良い。

【成績評価の方法】

実技試験による

【授業計画の内容】

月	内　　容
4	・和声課題の実習 ・室内楽の研究（1） ・対位法楽曲の研究（1）
5	
6	
7	・和声課題の実習 ・室内楽の研究（2） ・対位法楽曲の研究（2）
8	
9	
10	・和声課題の実習 ・提出作品の制作（ピアノとのデュオ） ・対位法楽曲の研究（3）
11	
12	
1	・提出作品の制作および提出
2	
3	

科目名	作曲5・6【教職実践専攻の音楽実技を含】

【授業計画の概要】

ピアノ伴奏による歌曲の制作。
それに向けた歌曲の研究をさまざまな視点から行なう。
ピアノ曲をオーケストラに編曲する管弦楽法、楽器法を研究する。

【授業の到達目標】

歌曲というスタイルの特性を理解し、人の声の持つ魅力をいかに引き出す力を習得させたい。
後期はひたすらアレンジとオーケストレーションの実習あるのみ。

【成績評価の方法】

実技試験による

【授業計画の内容】

月	内　　容
4	・より高度な和声学課題の実習（1） ・歌曲の研究（1）
5	
6	
7	・より高度な和声学課題の実習（2） ・歌曲の研究（2） ・歌曲の制作、提出および演奏試験
8	
9	
10	・スコアリーディングとオーケストレーション実習
11	
12	
1	・オーケストレーション実習および提出
2	
3	

科目名	作曲7・8【教職実践専攻の音楽実技を含】

【授業計画の概要】

曲の形態、編成などに制限はないが、オーケストラを伴う作品が望ましい。
4年間の集大成ともいうべき作品であるから、作曲家としての自覚、力量を充分に発揮することが求められる。

【授業の到達目標】

オーケストラ、あるいは吹奏楽の大規模な作品へのチャレンジ。
どれだけ自分のイメージをスコアに反映させられるか、4年間の思いをぶつけて欲しい。

【成績評価の方法】

実技試験による

【授業計画の内容】

月	内　　容
4	和声学、対位法の総合的課題の実習
5	卒業作品の検討及び制作開始
6	現代音楽の研究
7	卒業作品の制作開始
8	
9	
10	卒業作品の制作
11	
12	
1	卒業作品の提出
2	
3	

科目名	メディアデザイン演習1・2

【授業計画の概要】

《創り方を作るために》
本演習では、旋律、リズム，ハーモニー、の「音楽の基本構造」を作曲の過程を通じて修得する。
演習内でのディスカッションや学生作品を全員で試聴し、意見交換を交えながら作品の精度を高める。

【授業の到達目標】

音楽の過去経験、これまでの知識だけに依存しない「新しい情報･考え方」の取り込みと整理。
それらの情報を実践してみる事で具体的なスキルを修得することを1年次の目標とする。

【成績評価の方法】

平常出席点（50%）、課題提出（25%）、最終楽曲課題提出（25%）
基本事項の修得に必要な「ノート作成と情報の整理」（中間チェックと学年末提出）、「音楽資料の拡張と独自の類別」

【授業計画の内容】

月	内　　容
4	「倍音と時間軸」　〇点と線を使ったコントロールについて基本原理の習得と実践 「点と線を用いた楽曲」制作
5	〇点の配置（時間軸）とdynamics
6	〇点の音色と滲み 〇点の響き
7	「旋律の作成」　〇最小限の音程移動を用いて旋律を作る
8	〇Scaleに関する考察　音程の移動 〇音価（duration）
9	〇音の切れ目（休符の意味）
10	「楽器に関する分析と考察」　音色と編成、アンサンブルについての解析手法と考察
11	〇アンサンブルのMaster Rhythm 〇低音の制御
12	〇低音の多様性について
1	「楽曲の構成」に関する考察
2	〇構成力の要素を分解する　古典的様式 〇全体と部分の考察
3	〇構成をどう表すか

科目名	メディアデザイン演習3・4

【授業計画の概要】

《創り方を作る−1》
本演習では、1年次の修得事項をさらに拡張し「機能和声」の範囲内でのhamonic leveをコントロールする作・編曲課題に取り組む。完成形の「課題から作品へのステップアップ」を行い作品発表に備える。

【授業の到達目標】

基本事項を理解し実践した上で、自らの独自のアイディアを盛り込む為の創意工夫の具体的な実践に基づく課題提出から作品完成への課程を学ぶ。

【成績評価の方法】

平常出席点（50%）、課題提出（25%）、最終楽曲課題提出（25%）
基本事項の修得に必要な「ノート作成と情報の整理」（中間チェックと学年末提出）、「音楽資料の拡張と独自の類別」

【授業計画の内容】

月	内　　容
4	「1年次修得事項の確認」 機能和声の確認
5	dominant chord　→　解 決 (resolution) を基本とする考え方 楽曲の構成（ 提 示・展 開のための変奏・その他の手法　）
6	「春期課題」 II − V 楽曲のメロディー制作　確認から修正
7	第2課題の制作　harmonic levelの制御 − 1 作曲 :　与えられたharmonyを読み取り旋律を描く
8	旋律の構成　→　楽 曲 の 構 成 編曲 :　4rhythm section で構成する
9	beat pules rhythm 低音の連動性 Master Rhythmの生成 と 多様なアンサンブルへの応用
10	第3課題の制作　harmonic levelの制御 − 2 作曲 :　与えられたharmonyを読み取り旋律を描く
11	旋律の構成　→　楽 曲 の 構 成 編曲 :　4rhythm section ー percussionアンサンブル
12	（応 用 編 : beat pules rhythm 低音の連動性） Master Rhythmの生成 と 多様なアンサンブルへの応用
1	楽曲の構成に関する考察と最終作業 作品の最終チェック　全体のチェック
2	録音に向けて・・・譜面準備・録音データ準備　（「スタジオ実習」2・3・4 年 生 必 修 ）
3	課題から作品へ（作品展示または実演に向けての準備）

科目名	メディアデザイン演習5・6（実習を含む）

【授業計画の概要】

《創り方を作る−2》
本演習では、1～2年次に修得した項目を基本としながら、さらに具体的「創り方を作る」を学ぶことを目的とする。
「イメージする楽曲を作り上げる」に始まり「企画意図を反映した作品を完成する」までの一連の過程を修得する。

【授業の到達目標】

専攻生自らが選択する「専攻テーマ」に関するリサーチ研究、情報整理、制作計画の立案とそれに沿った制作進行（タイムラインの明示、作業内容の具体化）を実践する。

【成績評価の方法】

平常出席点（50%）、課題提出（25%）、最終楽曲課題提出（25%）
専攻生自らが計画した制作に内容に応じて、
−コンテツの進行スケジュール進捗状況、予定された到達点への達成度合い、今後の制作進行への具体的なプラン
「制作中間発表（研究発表会）」の内容を交えて成績評定を行う。

【授業計画の内容】

月	内　　容
4	1～2年次の修得事項確認 ･･･ 制作楽曲の概映像･音声データを用いて これまでの制作コンテツの振り返り 何を作品として生み出し、未だ何が実現出来ていないのか？
5	今年度の楽曲制作の方向性について 「専攻テーマの設定」
6	
7	＜制 作 進 行 − 1＞ 各自の「専攻テーマ」に沿ったコンテンツ制作 （基本情報リサーチ、企画書作成･スケジューリング 、他 ）
8	制 作 準 備 作 業（Pre−Production） → 「中 間 発 表 会」に向けての資料作成
9	※ 学内演奏発表曲の制作 （楽曲コンセプトの立案～コンセプトの置き換え作業～楽曲制作）
10	＜制 作 進 行 − 2＞ コンテンツ制作の進行状況確認
11	制作の最終段階作業（Post−Production）についての手順確認
12	「スタジオ実習」（2・3・4 年 生 必 修 ） へ の 準 備 （譜面、録音データ）
1	＜制 作 進 行 − 3＞ 作品の最終チェック 全体のチェック
2	課題から作品へ（作品展示または実演に向けての準備） 発表･展示 への最終準備
3	

科目名	メディアデザイン演習7・8（実習を含む）

【授業計画の概要】

《創り方の応用》
本演習では、これまでに学んで来た「創り方を作る」を実践的に応用し、自己の制作表現（卒業制作）を完成させる為にさらに必要となる実践的、ディレクション力、コミュニケーションスキルを習得することを目的とする。

【授業の到達目標】

専攻生自らが企画立案するコンテンツの最終形までの制作を行う。
企画立案・制作段階の進行スケジュールを明確にする（タイムラインの明示、作業内容の具体化）

【成績評価の方法】

平常出席点（50%）、課題提出（25%）、最終楽曲課題提出（25%）
専攻生自らが計画した制作に内容に応じて、
―コンテツの進行スケジュール進捗状況、予定された到達点への達成度合い、今後の制作進行への具体的なプラン
「卒業制作中間発表」・「卒業制作最終提出（発表展示）」の内容を交えて成績評定を行う。

【授業計画の内容】

月	内　　容
4	卒業コンテンツ制作に向けての制作手順の確認 ＜制 作 準 備 ： Pre-Production ＞ ストリーを音・音楽を用いた表現で構成する「卒業制作」
5	コンテンツ制作に向けての準備事項（素材準備、企画概要の書面化、スケジュール管理） 企画立案・ストーリー（脚本素材）の確認・キャスティング
6	音 ・ 音 楽 の 方 向 性･構 成･編 成 の明 確 化
7	＜制 作 進 行 － 1＞ 企 画 書 の 作 成 （プロデューサーの役割り）　「 中 間 発 表 会 」に向けての 資 料 作 成
8	制 作 とディレクションについて 音 楽 制 作 項 目 の 再 確 認
9	
10	＜制 作 進 行 － 2＞ 音 楽 制 作 進 行 （音楽録音に向けての準備、演奏者手配、データ管理と準備、）
11	音楽の音声データ化 Post-Productionに向けて Mixバランス、距離感、間合いの取り方
12	最終形に向けての「メディアの統合作業」
1	＜制 作 進 行 － 3＞ コンテンツ作品 全体のチェック
2	課題から作品へ（作品展示または実演に向けての準備）
3	「スタジオ実習」（2・3・4 年 生 必 修 ） へ の 準 備 （譜面、録音データ）

科目名	音楽療法1・2－1（a・b）

【授業計画の概要】

ゼミ形式で、2クラス同時進行で進められる。各々の教官から音楽療法の実践に必要なピアノ、歌唱、即興を含む器楽演奏、読譜の技術（例：初見演奏、コード伴奏）など等の基本を習得し、実技の基礎能力の向上を目指す。同時に、臨床現場で多く使われる音楽や曲のレパートリーを知っていく。

【授業の到達目標】

コードチェンジがそれほど頻繁でない曲については、コードネーム（メジャーコード、マイナーコード、7th)を即座に読み、その楽曲に合った伴奏パターンをピアノで演奏することができるようになる。対象者の即興的な楽器演奏に対して、ペンタトニック、教会旋法を用いて適切に即興演奏ができるようになる。

【成績評価の方法】

学期末に行う実技試験（音楽療法で使用する歌唱のための曲の伴奏の演奏、音楽療法の実践場面を想定した即興演奏）、および音楽療法用の楽曲を創作・編曲した作品の提出したものの平均点を算出し、成績評価を行なう。

【授業計画の内容】

月	内　　容
4	
5	・オリエンテーション、クラス分け ・コードネームの読み方 ・コード進行の平易な歌から始め、基礎的伴奏パターンを学習する。
6	
7	
8	・コード進行のより複雑な楽曲へと、徐々に枠を広げていく。 ・音楽療法のセッションで必須のレパートリーを重点的に取り上げ、演奏可能にする。 ・先読み、リードの技術を学ぶ。
9	
10	
11	・自由即興演奏の体験 ・ペンタトニックを用いた即興 ・教会旋法を用いた即興 ・音楽療法用に創られた楽曲の体験、および指揮の技術を学ぶ
12	
1	
2	・無調による即興 ・音楽療法で用いるための楽曲の創作
3	

科目名	音楽療法1・2－2

【授業計画の概要】

ギターの基礎的な演奏法を習得し、ギターを用いた音楽療法の実践に向けた基盤を確立する。個別指導においては授業時間には要点を指摘し助言をすることが主となるので、それを踏まえて自宅で充分に練習をすること。そうでないと向上は望めない。教科書：フォークギター初歩の初歩入門(ドレミ楽譜出版社)、上達への近道・ギターテキスト(現代ギター社)

【授業の到達目標】

平易な曲におけるアルペジオまたはストロークによる歌唱の伴奏と、やはり平易な曲の独奏（メロディーと和音を同時に奏でる）の技術を身につける。

【成績評価の方法】

毎回の授業の積極性、および個人レッスンにおいては都度指摘する課題の克服の度合い（15%）、学年末試験による演奏技能（85%）。

【授業計画の内容】

月	内　　容
4	ギターに関する基礎知識と、基礎的な奏法を学ぶ。
5	
6	
7	コードとコード進行の基礎を学び、アルペジオを中心とした奏法を習得する。状況に応じて個別指導を開始する。
8	
9	
10	課題曲を設定し、基礎的な技法を用いて簡単な曲を演奏できる技術を習得する。個別指導に比重を移す。
11	
12	
1	個別指導を継続し、各自の技術向上を援助する。
2	
3	

科目名	音楽療法3・4－1

【授業計画の概要】

ピアノ・キーボードによる歌唱伴奏の技術、即興演奏の技術、および音楽療法で用いられる様々楽曲（合奏、身体運動、あいさつ、発声・発語・数概念・コミュニケーション技能を学ぶために創られたもの）を体験し、また創作することを学ぶ。くわえて、音楽を介して対象者とのかかわりを築き、深めるためのコミュニケーション技能（視線の使い方、声の出し方、必要に応じたプロンプトの使用など）についても体験的に学ぶ。

【授業の到達目標】

コードチェンジが頻繁な曲でも、その楽曲に合った伴奏パターンをピアノで演奏することができるようになる。対象者の即興的な楽器演奏に対して、長調・短調、ブルース、スペイン風、無調の即興演奏ができるようになる。また、対象者のニーズや特徴に合わせたオリジナルの曲が創作できるようになる。

【成績評価の方法】

学期末に行う実技試験（音楽療法で使用する歌唱のための曲の伴奏の演奏、音楽療法の実践場面を想定した即興演奏）、および音楽療法用の楽曲を創作・編曲した作品の提出したものを、複数の教員で採点し、その平均点を算出し、成績評価を行なう。

【授業計画の内容】

月	内　　容
4	・長調・短調の音楽による即興 ・スペイン風の音楽による即興 ・複雑なコード進行のポピュラー音楽の伴奏技術 ・多様なリズム・パターン（8ビート、3連ロック等）による伴奏
5	
6	
7	・全音音階による即興 ・ジャズ・ブルース風の音楽による即興 ・ラテン風（タンゴ、サンバ等）の音楽による即興 ・対象者の状態、グループ・サイズに合わせた伴奏法
8	
9	
10	・音楽療法用のあいさつの曲の体験と創作 ・音楽療法の合奏の曲の体験・指揮の技術の学習・創作 ・身体運動を促すための曲の体験・創作
11	
12	
1	・発声・発語・数概念・コミュニケーションを促進するための楽曲の体験・創作
2	
3	

科目名	音楽療法3・4－2

【授業計画の概要】

1年次で習得したギターの基礎技能を基に、、コード理論を基にした、ポピュラーミュージックの有機的・効率的な把握の方法を身に付け、音楽療法の臨床場面を想定して、自在にギターを扱える演奏技能と音楽的な応用力を習得することを目的とする。またその一環として、簡単な曲ならばメロディを伴った演奏を即時的に行えるようになる技能の獲得も目指す。教科書：音楽療法1・2-2で使用したものに加え、「JAZZ理論講座 初級編」(武蔵野音楽院)を使用する。個別指導においては授業時間には要点を指摘し助言をすることが主となるので、それを踏まえて自宅で充分に練習をすること。そうでないと向上は望めない。

【授業の到達目標】

やや複雑な、スタンダードなポピュラー歌曲のアルペジオまたはストロークによる弾き語りと、自己表現の道具として自分なりにギターを演奏できるスキルを身につける。

【成績評価の方法】

毎回の授業の積極性、および個人レッスンにおいては都度指摘する課題の克服の度合い（15%）、学年末試験による演奏技能（85%）。

【授業計画の内容】

月	内　　容
4	ジャズ理論をベースに、ポピュラーミュージックの音楽理論を概観し、それらのギター演奏への応用について解説と実技指導を行う。
5	
6	
7	音楽療法の臨床場面を想定し、ポピュラーミュージックの既成曲を呈示して、可能な限り迅速に当該曲の伴奏や弾き語りができるよう、解説と実技指導を行う。
8	
9	
10	メロディを伴った演奏を即時的に行えるようになることを目指し、各自の課題曲を設定して実技指導を行う。適宜前期の復習も交える。
11	
12	
1	個別指導を継続し、各自の技術向上を援助する。
2	
3	

科目名	音楽療法5・6－a･b

【授業計画の概要】

学内実習発表に向けての研究に取り組む。また、講義の時間外に実施される音楽療法実習（主に大学外）に取り組む。講義においては、理論・技術を実践にどう生かすかについて、ディスカッションを通して検討する。毎回の実習では、実習前後に現場のスーパーバイザーからの指導があり、講義内でも実習についての指導が行われる。

【授業の到達目標】

学内実習発表のための研究を通して、研究活動の意義を知り、データ収集・分析・説得力ある記述のための基礎技術を身につける。音楽療法の実習では、対象者の理解、伴奏・対象者のリード・即興・対象者との関係の構築など、音楽療法実践に関わる基礎技術を身につける。

【成績評価の方法】

学生が行なう現場での実習について、各実習場所の複数の指導教員・現場指導者による採点の平均点をもって成績評価とする。

【授業計画の内容】

月	内　　容
4	
5	・実習での問題を洗いだす（自身の心理的課題、チームワークなど人間関係の問題、音楽技術、対人技術、必要な知識の不足等） ・問題の解決に向けての方策を教員、クラスメイトとのディスカッションを通じて見出す
6	
7	
8	・学内実習発表のテーマの選定 ・対象者のニーズとその解決のための介入方法の選択について
9	
10	
11	・学内実習発表レポートの作成 ・チームワークを高めるための配慮について ・伴奏、即興、楽曲創作、リードの技術を高める
12	
1	
2	・学内実習発表レポート仕上げ ・プレゼンテーション準備 ・実習で学んだことをまとめる
3	

科目名	音楽療法7・8（実習を含む）

【授業計画の概要】

卒業論文発表に向けての研究に取り組む。また、講義の時間外に実施される音楽療法実習（主に大学外）に取り組む。
講義においては、理論・技術を実践にどう生かすかについて、ディスカッションを通して検討する。
毎回の実習では、実習前後に現場のスーパーバイザーからの指導があり、講義内でも実習についての指導が行われる。

【授業の到達目標】

各自の研究テーマを確立し、卒業論文を仕上げる。
実習では、前年度までに体験し学んだ臨床知識、技術をさらに高めることができる。
またそれらを社会生活に活かせる展望が得られる。

【成績評価の方法】

各課題やレポート、授業や実習への積極的な取り組みの姿勢、実習点数を総合して評価する。

【授業計画の内容】

月	内　　容
4	
5	・これまで学んだ知識や技術を振り返り、不足の部分を確認、再学習する。 ・卒業研究のテーマを模索する。 ・研究テーマに関連する先行研究を調べる。
6	
7	
8	・卒業研究に関する文献を整理し、構成を考える。研究の序論を完成させる。 ・実習における、対象者のニーズに応じた介入方法、音楽的技術を磨く。
9	
10	
11	・卒業研究中間発表の準備をし、まとめる。 ・実習技能の研鑽を引き続き行う。
12	
1	
2	・卒療研究を完成させ、発表する。 ・実習に関してのまとめ、振り返りをする。
3	

科目名	副科ピアノＩA/B

【授業計画の概要】

ピアノは広い音域と豊かな響きを持ち、オーケストラもイメージ可能な楽器であるため、副科ピアノは各自の専門分野において総合的に音楽を構築するために学習するものである。副科ピアノＩは基礎的な奏法を中心に学習する。
試験に備え、日頃より暗譜で演奏することを心がける。

【授業の到達目標】

ＩAは、ピアノを弾く正しい姿勢と体・手の使い方を確認し実践できるようにする。
ＩBは、ピアノの構造を理解した上で基礎的な奏法を身につける。

【成績評価の方法】

実技試験による

【授業計画の内容】

月	内　　容
4	ピアノを演奏するために、正しい姿勢などの基礎を学ぶ。 正確な譜読みと適切な運指を学習する。
5	
6	
7	基礎的な演奏技術を学ぶ。 副科ピアノＩAの実技試験
8	
9	
10	ピアノの構造を理解し、ペダルの使い方を学ぶ。 さらに演奏技術を向上させる。
11	
12	
1	副科ピアノＩの実技試験
2	
3	

科目名	副科ピアノⅡA/B

【授業計画の概要】

副科ピアノⅠで学んだことを基にさらに発展させた学習をする。
ピアノの演奏技術の基本を確認し、定着させる。
試験に備え、日頃より暗譜で演奏することを心がける。

【授業の到達目標】

ⅡAでは、ピアノを演奏する基本的な技術を身につけている
ⅡBでは、ⅡAで学んだ演奏技術をさらに発展させている。

【成績評価の方法】

実技試験による

【授業計画の内容】

月	内　　容
4	副科ピアノⅠをふり返る。 正確な譜読みと適切な運指を学習する。 技術的問題点を抽出し、克服する。
5	
6	
7	演奏表現に必要な技術を習得する。 副科ピアノⅡAの実技試験
8	
9	
10	正確な譜読みと適切な運指を学習する。 技術的問題点を抽出し、克服する。
11	
12	
1	副科ピアノⅡBの実技試験
2	
3	

科目名	副科ピアノⅢA/B

【授業計画の概要】

副科ピアノⅡで学んだことを踏まえて、更に発展させる。
フレージング、アーティキュレーション、和声進行などに留意し、高度な演奏表現を目指す。

【授業の到達目標】

ⅢAでは、Ⅰ・Ⅱで学んだ演奏技術を生かせるようにする。
ⅢBでは、時代様式を踏まえた的確な演奏ができるようにする。

【成績評価の方法】

実技試験による

【授業計画の内容】

月	内　　容
4	副科ピアノⅠ・Ⅱをふり返る 正確な譜読みと適切な運指を学ぶ。
5	
6	
7	時代様式を踏まえた表現法を学習し、演奏の質を高める。 副科ピアノAの実技試験
8	
9	
10	正確な譜読みと適切な運指を学習する。 さまざまな時代様式を学ぶ。
11	
12	
1	副科ピアノⅢBの実技試験
2	
3	

科目名	副科ピアノⅣA/B

【授業計画の概要】

副科ピアノⅠ・Ⅱ・Ⅲで学んだことを、さらに発展させる。
音楽を総合的な観点から捉え、バランスの良い完成度の高い演奏を目指す。

【授業の到達目標】

副科ピアノⅣAでは、さまざまな時代の表現法を理解している。
副科ピアノⅣBでは、専攻実技やアンサンブルにピアノ演奏で学んだことを生かすことができる。

【成績評価の方法】

実技試験による

【授業計画の内容】

月	内　　容
4	ピアノⅠ・Ⅱ・Ⅲの学習内容をふり返る。 基本の技術を定着させる。
5	
6	
7	学んだことを整理し、演奏に反映させる。。 副科ピアノⅣAの実技試験
8	
9	
10	作品を分析及び作曲家・時代背景などから多面的にとらえ、演奏に反映させる。 さらに技術の向上に努める。
11	
12	
1	副科ピアノⅣBの実技試験
2	
3	

科目名	副科声楽ⅠA/B

【授業計画の概要】

自分自身が楽器である認識を持ち、基礎的な体の使い方、呼吸法また発声に伴う口の使い方の学習を目指します。練習曲としてコンコーネ等を用いる事が望ましい。言葉を伴う声楽の特質性を知り、詩の意味を深め、歌唱に活かせる様に取り組みます。教職課程履修者は指導現場で必要となる教材への取り組みを実践しましょう。

【授業の到達目標】

一年間を通じてイタリア歌曲、コンコーネを教材として学んで行きます。まずは歌うのに適した立ち方を身につける。また、子音と母音を綺麗に発語出来る様にする。イタリア語の読み方を身に付ける。

【成績評価の方法】

平常授業に向ける受講姿勢40%　出席30%　授業に向ける家庭学習30%

【授業計画の内容】

月	内　　容
4	【主要課題】発声練習で姿勢、腹式呼吸、口の使い方を確認 ・練習曲（コンコーネ等）を中心に体の使い方、声の出し方の確認をしながら歌う
5	
6	
7	【主要課題】重ねて練習して来た発声の基礎を充実させる ・イタリア歌曲を学び、詩への理解とイタリア歌曲の発音に取り組む ・夏休みの学習計画を立てる ☆４月から学んで来た発声、練習曲、イタリア歌曲を再度見直しておく
8	
9	
10	【主要課題】:前期で学んだ呼吸法、発声法をさらに深める ・旋律と詩を融合させレガートに歌う事を学ぶ
11	
12	
1	【主要課題】一年間の纏め ・この一年間学んで来たイタリア歌曲を復習、表現力の幅を広げる ・春休みの学習計画を立てる
2	
3	

科目名	副科声楽ⅡA/B

【授業計画の概要】

副科声楽Ⅰで学んだ事を継続し、呼吸法、発声法の学習を進め表現力を習得。イタリア歌曲だけでなくドイツ語、日本歌曲等、個人のレベルに合わせて取り組んで行く事も望ましい。引き続きコンコーネ等の練習曲も積極的に学習に取り入れて行く。

【授業の到達目標】

一年間学んで来た事を更に継続して安定した歌唱法を身に付ける。歌う事に慣れて来たらレガート唱法を意識して表現する。言葉の持つ意味合いを意識して歌える様にする。

【成績評価の方法】

平常授業に向ける受講姿勢40%　出席30%　授業に向ける家庭学習30%

【授業計画の内容】

月	内　　容
4	【主要課題】レガート唱法を身に付ける ・練習曲の母音唱法をイタリア歌曲に活かしレガート唱法を学習する
5	
6	
7	【主要課題】イタリア歌曲以外の外国歌曲また日本歌曲の学習により多くの曲を知る ・個々の力に応じてイタリア歌曲以外の外国歌曲や日本歌曲の学習により多くの曲を知る ・夏休みの学習計画を立てる ☆夏休みにはこれまで学んで来た発声、練習曲、歌曲を見直しておく
8	
9	
10	【主要課題】詩の意味を汲み取り歌唱力を高めて行く ・声楽に不可欠な詩の意味を租借して歌唱に表して行く
11	
12	
1	【主要課題】二年間の纏めをする ・二年間学んで来た作品の復習 ・声楽をこの二年間で終わらせるのでなく、平生から歌う事を続けて行く
2	
3	

科目名	副科管弦打楽器ＩA･B〔弦楽器〕
【授業計画の概要】	＊該当者が出ない可能性があります。

弦楽器の音色は大変美しく、多くの人に愛されている。
美しい音色を鳴らすためには、正しい奏法を身に付けなければならない。
基本的奏法を学び、きれいな音、正しい音程を作れるようにする。
「音を作る、音程を作る」という行為は、音を注意深く聴く習慣ができ、専門楽器の演奏の向上にもつながる。

【授業の到達目標】

正しい楽器の構え方、正しい弓の持ち方を身に付ける。

【成績評価の方法】

実技試験による。

【授業計画の内容】

月	内　　容
4	
5	･初心者　　基本的な奏法の習得 ･経験者　　基本的奏法の見直し ･各自　　それぞれの能力にあった楽曲を学習する。
6	
7	
8	･教則本に沿って、練習を進める。 ･楽器の特性を理解する。 ･前期実技試験。
9	
10	
11	･ピアノ伴奏と合わせ、基本的なアンサンブルを経験する。 ･後期実技試験。 ･試験の結果を踏まえ、改善点を確認する。
12	
1	
2	･ピアノ伴奏と合わせ、基本的なアンサンブルを経験する。 ･後期実技試験。 ･試験の結果を踏まえ、改善点を確認する。
3	

科目名	副科管弦打楽器ⅡA･B〔弦楽器〕
【授業計画の概要】	＊該当者が出ない可能性があります。
副科Ⅰに引き続き、更に基本的奏法の習得に重点を置く。	
【授業の到達目標】	
美しい音程感覚が身に付いている。	
【成績評価の方法】	
実技試験による。	
【授業計画の内容】	

月	内　　容
4	・悪い癖が付いていないか点検し、正しい姿勢、フォームを身に付ける。 ・それぞれの能力にあった楽曲を学習する。
5	
6	
7	・弦楽器特有の音程のとり方、作り方を学ぶ。 ・前期実技試験。
8	
9	
10	・教則本に従い、更に技術を高める。 ・学習したことを基に、試験曲を決め、練習する。
11	
12	
1	・後期実技試験。 ・試験結果を踏まえ、改善点を確認する。
2	
3	

科目名	副科管弦打楽器ⅢA・B〔弦楽器〕
【授業計画の概要】	＊該当者が出ない可能性があります。
強弱をはじめ、楽譜に書いてある表現が、出来るようになる方法（技術）を学習する。	
【授業の到達目標】	
楽譜に書いてある指示を、音に表すことが出来るようになる。	
【成績評価の方法】	
実技試験による。	
【授業計画の内容】	

月	内　　容
4	・自分の欠点を認識して、改善に努める。 ・それぞれの進度に応じて、ポジション移動、ヴィブラートを学ぶ。
5	
6	
7	・自分の専門楽器と、弦楽器の表現方法の違いを認識する。 ・前期実技試験。
8	
9	
10	・教則本に従い、更に技術を高める。 ・学習したことを基に、試験曲を決め、練習する。 ・学習してきた様々な表現方法を実践する。
11	
12	
1	・後期実技試験。 ・試験結果を踏まえ、改善点を確認する。
2	
3	

科目名	副科管弦打楽器ⅣA・B〔弦楽器〕
【授業計画の概要】	＊該当者が出ない可能性があります。
更に難しい曲に挑戦していく。 弦楽器は、室内楽・弦楽合奏・オーケストラなどの合奏を楽しむことができる。 副科履修生達とのアンサンブルの機会を設けたい。	
【授業の到達目標】	
アンサンブルをする時に、他の人の音を聴くことが出来る。	
【成績評価の方法】	
実技試験による。	
【授業計画の内容】	

月	内　　容
4	・自分の欠点を認識して、改善に努める。 ・それぞれの進度に応じて、ポジション移動、ヴィブラートを学ぶ。
5	
6	
7	・様々な表現方法を学習する。 ・難しい楽曲へ挑戦していく。 ・前期実技試験。
8	
9	
10	・最後の試験に向けて、試験曲を選択する。 以前から弾いてみたいと思っていた曲を選ぶのもよい。
11	
12	
1	・後期実技試験。 ・4年間で身に付けた楽器の演奏技術を、卒業後も生かすことが出来る環境を作る。
2	
3	

科目名	副科管弦打楽器〔木管楽器〕ＩA/B

【授業計画の概要】

副科管弦打楽器〔木管楽器〕ＩA/Bは、フルート・クラリネット・オーボエ・ファゴット・サクソフォンの中から任意の楽器一種類を選び、基礎的奏法を学習します。

【授業の到達目標】

ＩAでは任意の曲（演奏時間5分程度）が演奏できることとします。
ＩBでは更に発展させた演奏能力を身に付けることとします。

【成績評価の方法】

実技試験によります

【授業計画の内容】

月	内　　容
4	・副科管弦打楽器〔木管楽器〕ＩA ・オリエンテーション（今後1年間の概要、レッスン内容説明、教材説明、心構え） ・基本的奏法「楽器の構え方」「姿勢と呼吸」「アンブッシュア」「フィンガリングと指の形」 ・基礎的知識「楽器の歴史」「楽器の種類」 ・楽器のメンテナンス ・副科木管楽器ＩA実技試験楽曲決め
5	
6	
7	・各学生それぞれの能力ごとにエチュード、楽曲を学習する
8	
9	・副科管弦打楽器〔木管楽器〕ＩB授業開始
10	・副科木管楽器ＩAで学習したことを更に進めて行く ・副科木管楽器ＩB実技試験楽曲決め ・学生それぞれの能力ごとに選曲し学習する
11	
12	
1	同上
2	
3	

科目名	副科管弦打楽器〔木管楽器〕ⅡA/B

【授業計画の概要】

副科管弦打楽器〔木管楽器〕ⅡA/Bは、フルート・クラリネット・オーボエ・ファゴット・サクソフォンの中から任意の楽器一種類を選び、基礎的奏法を学習します。ⅠA/Bで学んだ事を発展させます。

【授業の到達目標】

ⅡAでは、スケール練習を♯、♭、2つまでの長音階、短音階が吹けるようになることと、
ⅡBでは、初級から中級のエチュードを練習できる能力を身に付けることとします。

【成績評価の方法】

実技試験によります

【授業計画の内容】

月	内　　容
4	・副科管弦打楽器〔木管楽器〕ⅡA ・オリエンテーション（今後1年間の概要、レッスン内容の説明、教材説明、心構え） ・ⅠA/Bで学習した事項の確認と発展 ・副科木管楽器ⅡA実技試験楽曲決め
5	
6	
7	・各学生それぞれの能力ごとにエチュード、楽曲を学習する
8	
9	・副科管弦打楽器〔木管楽器〕ⅡB授業開始
10	・副科管弦打楽器〔木管楽器〕ⅠA/B、ⅡAで学習したことを更に先に進めて行く ・副科木管楽器ⅡB実技試験楽曲決め
11	
12	
1	同上
2	
3	

科目名	副科管弦打楽器〔木管楽器〕ⅢA/B

【授業計画の概要】

副科管弦打楽器〔木管楽器〕ⅢA/Bは、フルート・クラリネット・オーボエ・ファゴット・サクソフォンの中から任意の楽器一種類を選び、基礎的奏法を学習します。ⅠA/B、ⅡA/Bで学んだ事を発展させます。

【授業の到達目標】

ⅢAでは、スケール練習を♯、♭、3つまでの長音階、短音階が吹けるようになることと、
ⅢBでは、中級のエチュードが練習でき簡単なオリジナル楽曲が演奏できる能力を身に付けることとします。

【成績評価の方法】

実技試験によります

【授業計画の内容】

月	内　　容
4	・副科管弦打楽器〔木管楽器〕ⅢA ・オリエンテーション（今後1年間の概要、レッスン内容の説明、教材説明、心構え） ・スケール練習を取り入れた練習方法の確立 ・副科木管楽器ⅢA実技試験楽曲決め
5	
6	
7	・各学生それぞれの能力ごとにエチュード、楽曲を学習する
8	
9	・副科管弦打楽器〔木管楽器〕ⅢB授業開始
10	・副科管弦打楽器〔木管楽器〕ⅠA/B、ⅡA/B、ⅢAで学習したことを更に先に進めて行く ・副科木管楽器ⅢB実技試験楽曲決め
11	
12	
1	同上
2	
3	

科目名	副科管弦打楽器〔木管楽器〕ⅣA/B

【授業計画の概要】

副科管弦打楽器〔木管楽器〕ⅣA/Bは、フルート・クラリネット・オーボエ・ファゴット・サクソフォンの中から任意の楽器一種類を選び、奏法を学習します。ⅠA/B、ⅡA/B、ⅢA/Bで学んだ事を発展させます。

【授業の到達目標】

ⅣAでは、スケール練習を♯、♭、4つ以上の長音階、短音階が吹けるようになることと、
ⅣBでは、中級以上のエチュードが練習できオリジナル楽曲が演奏できる能力を身に付けることとします。

【成績評価の方法】

実技試験によります

【授業計画の内容】

月	内　　容
4	・副科管弦打楽器〔木管楽器〕ⅣA ・オリエンテーション（今後1年間の概要、レッスン内容の説明、教材説明、心構え） ・スケール練習を取り入れた練習方法の確立 ・副科木管楽器ⅣA実技試験楽曲決め
5	
6	
7	・各学生それぞれの能力ごとにエチュード、楽曲を学習する
8	
9	・副科管弦打楽器〔木管楽器〕ⅣB授業開始
10	・副科管弦打楽器〔木管楽器〕ⅠA/B、ⅡA/B、ⅢA/B、ⅣAで学習したことの集大成として、副科管弦打楽器〔木管楽器〕ⅣBの実技試験楽曲決め
11	
12	
1	同上
2	
3	

科目名	副科管弦打楽器〔金管楽器〕Ⅰ～ⅣA/B

【授業計画の概要】

Ⅰ:管弦打の各楽器は、ソロ楽器としては言うまでもなく、オーケストラ・吹奏楽・室内楽など、様々な合奏グループの一貫として活躍している。
副科とはいえ、上達のためには第2の専攻というぐらいの意識を持ち、日々の練習を重ねることが、重要且つ不可欠である。
レッスンでは基本奏法・基礎知識の修得が中心となる。
Ⅱ～Ⅳ:前年度の学習を基に、引き続き基本奏法・基礎知識の修得が中心となる。

【授業の到達目標】

授業内容を深く修得し、演奏能力を更に向上させる。

【成績評価の方法】

実技試験による

【授業計画の内容】

月	内　　容
4	・基本奏法の修得 ・基礎知識の修得 ・実技試験のための楽曲、又は練習曲の研究
5	
6	
7	
8	
9	
10	・基本奏法の修得 ・基礎知識の修得 ・実技試験のための楽曲、又は練習曲の研究 ・1年間の点検と評価 ・今後の課題検討、及び来年度の計画作成 Ⅳ:卒業後の課題検討、及び計画作成
11	
12	
1	
2	
3	

科目名(クラス)	障害学A	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	高畑　敦子	履修対象・条件	音楽療法専攻のみ履修可。必修				

【授業の概要】

・音楽療法を行うために、対象者を理解することはもっとも大切なことです。
・この授業では、幼児・児童領域を中心に「障害とは何か」「障害者の福祉理念」「障害児教育」「さまざまな障害の特徴と支援方法」等、実際の音楽療法場面で活かせる知識を習得していきます。

【授業の到達目標】

・授業内で学んだ知識を、実習先の対象者理解に役立てることができる。

【授業の「方法」と「形式」】

・講義形式

【履修時の「留意点」と「心得」】

・新聞、テレビ、インターネットなどで「障害」「障害児教育」「福祉」に関連するニュースや番組を意識して見ておくようにしてください。
・ディスカッションがある場合は、積極的な発言を望みます。
・遅刻、途中退出は原則として認めません。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・学期末定期試験【4択問題と筆記】70%
・授業内レポートおよび小テスト30%

教科書	指定なし(毎回資料配布)	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	「障害について」 ・ビデオ鑑賞から障害について考える	予習:シラバスを読んで各回のテーマを押さえておく。 復習:授業についての要約記述。
第2回	「障害について」 ・ICF(国際生活機能分類)について	予習:前回配布資料を読んでおく。 復習:今回配布資料の再読および要約記述。
第3回	障害児教育の歴史① ・アメリカ・欧州における障害児教育の歴史を概観する	予習:前回配布資料を読んでおく。 復習:今回配布資料の再読および要約記述。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	障害児教育の歴史② ・日本の障害児教育の歴史を概観する ・ノーマライゼーション、インクルーシブ教育について	予習：前回配布資料を読んでおく。 復習：今回配布資料の再読および要約記述。
第5回	障害児教育の諸制度 ・日本の障害児教育の構造 ・特別支援教育について	予習：前回配布資料を読んでおく。 復習：今回配布資料の再読および要約記述。
第6回	福祉と障害児・者 ・障害児・者に対する福祉システム ・総合支援法について	予習：前回配布資料を読んでおく。 復習：今回配布資料の再読および要約記述。
第7回	小テスト（ノート持ち込み可） ・第１回～第６回までの授業内容について、記述式のテストを実施	予習：第１回～６回までに配布された資料および、授業内で板書したものを再読、理解しておく。 復習：テスト内容で理解できなかった部分を確認し、資料を再読する。
第8回	視覚障害① ・定義、原因、分類、心理・行動特性について	予習：前回配布資料を読んでおく。 復習：今回配布資料の再読および要約記述。
第9回	視覚障害② ・教育支援、療育について	予習：前回配布資料を読んでおく。 復習：今回配布資料の再読および要約記述。
第10回	聴覚障害① ・定義、原因、分類、心理・行動特性について	予習：前回配布資料を読んでおく。 復習：今回配布資料の再読および要約記述。
第11回	聴覚障害② ・教育支援、療育について	予習：前回配布資料を読んでおく。 復習：今回配布資料の再読および要約記述。
第12回	病弱・身体虚弱児① ・定義、原因、分類、心理・行動特性について	予習：前回配布資料を読んでおく。 復習：今回配布資料の再読および要約記述。
第13回	病弱・身体虚弱児② ・教育支援、療育について	予習：前回配布資料を読んでおく。 復習：今回配布資料の再読および要約記述。
第14回	小テスト（ノート持ち込み可） ・第８回～第１３回までの授業内容について、記述式のテストを実施	予習：第８回～１３回までに配布された資料および、授業内で板書したものを再読、理解しておく。 復習：テスト内容で理解できなかった部分を確認し、資料を再読する。
第15回	まとめ	予習：各回に配布された資料および、授業内で板書したものを再読、理解しておく。 復習：授業で学んだことを、実習と関連づけながら対象者の理解をより深めていく。

科目名(クラス)	障害学B	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	高畑　敦子	履修対象・条件	音楽療法専攻のみ履修可。必修				

【授業の概要】

・音楽療法を行うために、対象者を理解することはもっとも大切なことです。
・この授業では、幼児・児童領域を中心に「障害とは何か」「障害者の福祉理念」「障害児教育」「さまざまな障害の特徴と支援方法」等、実際の音楽療法場面で活かせる知識を習得していきます。

【授業の到達目標】

・授業内で学んだ知識を、実習先の対象者理解に役立てることができる。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式

【履修時の「留意点」と「心得」】

・新聞、テレビ、インターネットなどで「障害」「障害児教育」「福祉」に関連するニュースや番組を意識して見ておくようにしてください。
・ディスカッションがある場合は、積極的な発言を望みます。
・遅刻、途中退出は原則として認めません。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・学期末定期試験【4択問題と筆記】70%
・授業内レポートおよび小テスト30%

教科書	指定なし(毎回資料配布)	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	知的障害① ・定義、原因、分類、心理・行動特性について	予習:シラバスを読んで各回のテーマを押さえておく。 復習:授業についての要約記述。
第2回	知的障害② ・教育支援、療育について	予習:前回配布資料を読んでおく。 復習:今回配布資料の再読および要約記述。
第3回	知的障害～ダウン症～① ・定義、原因、分類、心理・行動特性について	予習:前回配布資料を読んでおく。 復習:今回配布資料の再読および要約記述。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	知的障害～ダウン症～② ・教育支援、療育について	予習：前回配布資料を読んでおく。 復習：今回配布資料の再読および要約記述。
第5回	小テスト（ノート持ち込み可） ・第１回～第４回までの授業内容について、記述式のテストを実施	予習：第１回～４回までに配布された資料および、授業内で板書したものを再読、理解しておく。 復習：テスト内容で理解できなかった部分を確認し、資料を再読する。
第6回	発達障害～自閉症～① ・定義、原因、分類、心理・行動特性について	予習：前回配布資料を読んでおく。 復習：今回配布資料の再読および要約記述。
第7回	発達障害～自閉症～② ・教育支援、療育について	予習：前回配布資料を読んでおく。 復習：今回配布資料の再読および要約記述。
第8回	発達障害～AD/HD、学習障害～① ・定義、原因、分類、心理・行動特性について	予習：前回配布資料を読んでおく。 復習：今回配布資料の再読および要約記述。
第9回	発達障害～AD/HD、学習障害～② ・教育支援、療育について	予習：前回配布資料を読んでおく。 復習：今回配布資料の再読および要約記述。
第10回	運動障害～重度重複障害～① ・定義、原因、分類、心理・行動特性について	予習：前回配布資料を読んでおく。 復習：今回配布資料の再読および要約記述。
第11回	運動障害～重度重複障害～② ・教育支援、療育について	予習：前回配布資料を読んでおく。 復習：今回配布資料の再読および要約記述。
第12回	小テスト（ノート持ち込み可） ・第６回～第１１回までの授業内容について、記述式のテストを実施	予習：第６回～１１回までに配布された資料および、授業内で板書したものを再読、理解しておく。 復習：テスト内容で理解できなかった部分を確認し、資料を再読する。
第13回	診断と検査について（おもに知能検査）	予習：前回配布資料を読んでおく。 復習：今回配布資料の再読および要約記述。
第14回	指導技法について	予習：前回配布資料を読んでおく。 復習：今回配布資料の再読および要約記述。
第15回	まとめ	予習：各回に配布された資料および、授業内で板書したものを再読、理解しておく。 復習：授業で学んだことを、実習と関連づけながら対象者の理解をより深めていく。

科目名(クラス)	臨床心理学ＩＡ	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	植松　芳信	履修対象・条件	音楽療法専攻のみ履修可				

【授業の概要】

臨床心理学は、心理的課題を持った人を対象とした場面に限らず、「人間」を対象とした多様な活動場面において重要な視点を提供できると考えられます。臨床心理学を(心理学的に)「人を知る」「人に関わる」「成果をまとめる」という過程に分けて捉えた上で、この科目では背景となる理論や臨床心理学自体についての理解を深め、「人を知る」過程に関して検討します。

【授業の到達目標】

・臨床心理学やその実践の中で背景となる理論や、そこで生じる過程を説明できるようになること
・心理学の応用分野である臨床心理学の考え方に沿って、自分を第一の対象とし実践可能な考え方を身に付けること
・「人を知る」ために前提となる知識の獲得

【授業の「方法」と「形式」】

授業では教科書や参考文献等を基に知識を整理するとともに、自分自身や身近な例を取り上げた演習も実施します。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・ほとんどの回において、指定された箇所の教科書の予習と自分自身を対象とした実践を求めます。
・インタラクティブな授業を目指します。授業進度や反応によって授業予定は適宜変更する可能性があります。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・授業参加において、常によく考えること、考えたことを発表すること、他者の意見に耳を傾けるなどの姿勢:40%
・授業中に指示する課題への取り組み姿勢・内容:40%
・定期試験時に行う評価授業における姿勢・内容:20%

教科書	臨床心理学とは何だろうか　基礎を学び考える	著者等	園田雅代・無藤清子	出版社	新曜社
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	オリエンテーション 臨床心理学とは？ 臨床心理学の定義、目的、方法、対象等についての概説	予習:心理学等の関連授業内容を確認しておく 復習:臨床心理学と他の心理学との共通点・差異について整理する
第2回	臨床心理学から見た「健康な心」	予習:他の授業などで取り扱われて来た「健康」概念の確認 復習:自分自身の「心」が臨床心理学の視点からはどのように捉えられるかを検討
第3回	臨床心理学の役割(不適応と適応・自立と依存)	予習:他の授業などで取り扱われて来た「適応・不適応」「依存」等の概念の確認 復習:自分自身の「適応」「依存」の検討

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	臨床心理学の役割（方法論の整理①）	予習：ここまでの3回分授業内容の整理 復習：家族・コミュニティ・グループなどの場面を軸とした方法論の整理
第5回	臨床心理学の役割（方法論の整理②）	予習：前回授業の復習に同じ 復習：具体的方法論の共通点・相違点の検討
第6回	臨床心理学・心理療法の過程（はじまり）	予習：必要としない 復習：心理療法が始まる際の留意点を検討
第7回	臨床心理学・心理療法の過程（心理療法による影響）	予習：どのような心理療法があるかを心理学等の教科書・書籍で調べる 復習：心理療法の影響について自分自身をケースとして捉え、検討する
第8回	様々な心理療法（精神分析）	予習：フロイトやユングについて調べておく 復習：精神分析の優れた点や課題について整理する
第9回	様々な心理療法（来談者中心療法）	予習：ロジャースについて調べておく 復習：来談者中心療法の優れた点や課題について整理する
第10回	様々な心理療法（行動・認知アプローチ）	予習：スキナーやアイゼンクについて調べておく 復習：行動・認知アプローチの優れた点や課題について整理する
第11回	臨床心理学・心理療法の過程（心理療法の終わり方）	予習：ここまでの授業内容を振り返り、一連の流れを確認しておく 復習：改めて臨床心理学・心理療法の目的からその過程について整理する
第12回	臨床心理学におけるアセスメント概論①（面接・観察・調査）	予習：これまでに心理学等の授業で取り上げた「人を知る方法」について整理する 復習：面接・観察・調査のアセスメント手法のそれぞれの目的や相違点について整理する
第13回	臨床心理学におけるアセスメント概論②（心理検査）	予習：これまでに心理学等の授業で取り上げた「心理検査」について整理する 復習：面接・観察・調査・検査の各手法のそれぞれの目的や相違点について整理する
第14回	様々な心理検査①	予習：心理検査の種類について調べておく 復習：様々な心理検査の目的・方法について整理する
第15回	様々な心理検査② まとめ・評価授業	予習：前期の授業内容を振り返り、疑問点を整理しておく

科目名(クラス)	臨床心理学ＩＢ	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	植松　芳信	履修対象・条件	音楽療法専攻のみ履修可				

【授業の概要】

臨床心理学は、心理的課題を持った人を対象とした場面に限らず、「人間」を対象とした多様な活動場面において重要な視点を提供できると考えられます。臨床心理学を（心理学的に）「人を知る」「人に関わる」「成果をまとめる」という過程に分けて捉えた上で、この科目では「人を知る」ためのアセスメントと、「人に関わる」際にも共通する面接法について取り上げます。

【授業の到達目標】

・多様な心理検査について実習を通し体験的に理解し、それぞれの有効性や課題について理解する
・「心理面接」の基礎を理解し、実践可能なスキルとする

【授業の「方法」と「形式」】

主に心理検査とその所見作成の実践的学習、ロールプレイを含む面接の実習的学習、これらに関する議論、補足的な講義

【履修時の「留意点」と「心得」】

・実習を中心に進めます。出席をしないとその後の課題にも取り組むことができなくなります。
・実習や課題をこなすだけではなく、主体的に考えたことを言語化し、積極的に議論することも求めます。
・実習の進度によって授業予定は適宜変更する可能性があります。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・授業参加において、実習に他者と協力し真摯に取り組み、考えたことを議論することなどの姿勢：40%
・授業中に指示する課題への取り組み姿勢・内容：40%
・定期試験時に行う評価授業における姿勢・内容：20%

教科書	臨床心理アセスメント	著者等	松原達哉 編	出版社	丸善出版
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	心理検査①　（質問紙検査の実施と集計①）	予習：実施予定検査について教科書他で調べておく 復習：集計法に基づき、結果集計を行い、必要の応じてレポート作成をする
第2回	心理検査②　（質問紙検査の実施と集計②）	予習：実施予定検査について教科書他で調べておく 復習：集計法に基づき、結果集計を行い、必要の応じてレポート作成をする
第3回	心理検査③　（知能検査・発達検査の実施①）	予習：実施予定検査について教科書他で調べておく 復習：集計法に基づき、結果集計を行い、必要の応じてレポート作成をする

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	心理検査④（知能検査・発達検査の実施②）	予習：実施予定検査について教科書他で調べておく 復習：集計法に基づき、結果集計を行い、必要の応じてレポート作成をする
第5回	心理検査⑤（知能検査・発達検査の結果評価）	予習：実施予定検査について教科書他で調べておく 復習：集計法に基づき、結果集計を行い、必要の応じてレポート作成をする
第6回	心理検査⑥（投影法検査の実施①）	予習：実施予定検査について教科書他で調べておく 復習：集計法に基づき、結果集計を行い、必要の応じてレポート作成をする
第7回	心理検査⑦（投影法検査の実施②）	予習：実施予定検査について教科書他で調べておく 復習：集計法に基づき、結果集計を行い、必要の応じてレポート作成をする
第8回	心理検査⑧（投影法検査の実施①）	予習：実施予定検査について教科書他で調べておく 復習：集計法に基づき、結果集計を行い、必要の応じてレポート作成をする
第9回	心理検査⑨（投影法検査の実施②）	予習：実施予定検査について教科書他で調べておく 復習：集計法に基づき、結果集計を行い、必要の応じてレポート作成をする
第10回	心理検査⑨（投影法検査の結果評価）	予習：実施予定検査について教科書他で調べておく 復習：集計法に基づき、結果集計を行い、必要の応じてレポート作成をする
第11回	心理検査所見の作成	予習：心理検査所見について教科書で確認をしておく 復習：実施済み検査の総合所見を作成する
第12回	面接法の基礎	予習：心理面接について前期授業で触れた内容を確認しておく 復習：面接の際の留意点について整理しておく
第13回	面接法の基礎と実習①	予習：取り上げる予定のスキルについて配布物を中心に確認をしておく 復習：実施したスキルの機能や気づきについて整理しておく
第14回	面接法の基礎と実習②	予習：取り上げる予定のスキルについて配布物を中心に確認をしておく 復習：実施したスキルの機能や気づきについて整理しておく
第15回	面接法の基礎と実習③ まとめ・評価授業	予習：心理検査と面接法について振り返り、整理をする

科目名(クラス)	臨床心理学Ⅱ	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	4
担当教員	植松　芳信	履修対象・条件	音楽療法専攻のみ履修可				

【授業の概要】

臨床心理学は、心理的課題を持った人を対象とした場面に限らず、「人間」を対象とした多様な活動場面において重要な視点を提供できると考えられます。臨床心理学を(心理学的に)「人を知る」「人に関わる」「成果をまとめる」という過程に分けて捉えた上で、この科目では「人に関わる」「成果をまとめる」過程について取り上げます。

【授業の到達目標】

・人に関わる際の「面接法」について実践的なスキルを身につけること
・様々な心理療法を参考に、実際の課題への介入計画を立て、実践し、まとめるという一連の流れを理解すること

【授業の「方法」と「形式」】

ロールプレイを含む実習形式と、文献講読・発表、および自分自身を対象とした介入の実施とまとめの作成

【履修時の「留意点」と「心得」】

・実習など積極的な参加を要する授業です。
・実習や課題をこなすだけではなく、主体的に考えたことを言語化し、積極的に議論することも求めます。
・実習の進度によって授業予定は適宜変更する可能性があります。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・授業参加において、実習に他者と協力し真摯に取り組み、考えたことを議論することなどの姿勢:40%
・授業中に指示する課題への取り組み姿勢・内容:40%
・定期試験時に行う評価授業における姿勢・内容:20%

教科書	臨床心理学序説	著者等	高橋雅春・高橋依子	出版社	ナカニシヤ出版
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	面接法の基礎	予習:心理面接について昨年度触れた内容を確認しておく 復習:面接の際の留意点について整理しておく
第2回	面接法の基礎と実習①	予習:取り上げる予定のスキルについて配布物を中心に確認をしておく 復習:実施したスキルの機能や気づきについて整理しておく
第3回	面接法の基礎と実習②	予習:取り上げる予定のスキルについて配布物を中心に確認をしておく 復習:実施したスキルの機能や気づきについて整理しておく

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	面接法の基礎と実習③	予習：取り上げる予定のスキルについて配布物を中心に確認をしておく 復習：実施したスキルの機能や気づきについて整理しておく
第5回	面接法の基礎と実習④	予習：取り上げる予定のスキルについて配布物を中心に確認をしておく 復習：一連の面接場面での気づきについて整理しておく
第6回	様々な心理療法の実際 文献の紹介	予習：心理療法について昨年度触れた内容を確認しておく 復習：割り当てられた文献を熟読する
第7回	文献講読①	予習：割り当てられた文献の要点をまとめプレゼン資料を作成する 復習：それぞれの文献にみる心理療法の特徴をまとめる
第8回	文献講読② 課題の整理・アセスメントから介入の選択	予習：割り当てられた文献の要点をまとめプレゼン資料を作成する 復習：それぞれの文献にみる心理療法の特徴をまとめ、自分を対象として課題を検討する
第9回	介入の実施場面の留意点 介入計画の決定	予習：自分を対象とした介入計画を立てる 復習：介入計画の見直し・検討
第10回	介入的な面接場面の実際① 介入計画の経過報告①	予習：指定された面接技法について調べる、介入計画の進捗状況の整理 復習：取り上げた介入・面接場面の振り返り
第11回	介入的な面接場面の実際② 介入計画の経過報告②	予習：指定された面接技法について調べる、介入計画の進捗状況の整理 復習：取り上げた介入・面接場面の振り返り
第12回	介入的な面接場面の実際③ 介入計画の経過報告③	予習：指定された面接技法について調べる、介入計画の進捗状況の整理 復習：取り上げた介入・面接場面の振り返り
第13回	介入的な面接場面の実際④ 介入計画の経過報告④	予習：指定された面接技法について調べる、介入計画の進捗状況の整理 復習：これまで取り上げた介入・面接場面の振り返り
第14回	介入計画に基づいた取り組みの結果報告	予習：自分が行った介入の経過について発表資料を作成する 復習：自分が行った介入の改善点を整理する
第15回	まとめ・評価授業	予習：今期授業全体を振り返り、整理しておく

科目名(クラス)	人間と医療ＩＡ	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	馬場　存	履修対象・条件	音楽療法専攻のみ履修可。必修				

【授業の概要】

精神医学を学ぶには大変長い期間と膨大な量の知識・理解・洞察力が必要だが、そのためには、当科目AとBを合わせて1年間という期間は十分ではない。したがって、なるべく広く、情報を取捨選択しながら、精神医学全般を学ぶ。具体的には、精神現象の基盤となる脳のしくみ、そしてこころのしくみ、精神医学の歴史、精神症状と症候群等について、順次講義形式で学んでいく。教科書及び講義内配布のプリントを用いる。

【授業の到達目標】

音楽療法においては、精神科領域は重要な実践分野の一つである。その実践のためには、むろん精神医学を一定程度理解する必要がある。実習及び卒後の実践の基礎となる精神医学の基礎知識を修得することが目標である。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式で行うが、適宜質問と議論を交える予定である。

【履修時の「留意点」と「心得」】

2年生の時点で精神医学を学ぶのは、比較的ハードルが高いと思われるので、根気が必要である。精神医学の理解はそのまま人間理解、心理の理解、そして自分自身の理解に繋がりを持つので、常に自分の心を振り返る心構えをどこかに持っておくこと。

【成績評価の「方法」と「基準」】

講義であるので、概念の正確な理解とその応用力が必要である。そのため、試験は筆記試験で行う。すべて記憶できればそれに越したことはないが、学生時代においては、内容を細部にわたり記憶することよりも、全体の大枠を頭の中に定着させることが重要である。そのため、試験は、教科書、自筆ノート、講義プリントを持ち込み可とし、選択肢形式ではなく文章を筆記する形で行う。問われていることが何かが理解できれば解答可能の形になる。したがって、全体を良く理解し、何が本質であるのか、しっかり理解し問いに答えられるようにすることが望ましい。講義終了時の、その日の内容についての質問に対する返答の正確性(授業への積極性の反映とみなす)(15%)と、筆記試験の点数(85%)を合算する。

教科書	精神医学エッセンス	著者等	濱田秀伯	出版社	弘文堂
教科書		著者等		出版社	
参考文献	精神病理学臨床講義	著者等	濱田秀伯	出版社	弘文堂
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	精神医学とは何かについて、その入門として全体のアウトラインを示す。	予習:教科書の序章「1. 精神医学とは」を読んでおく。 復習:再度読み直し理解を確認する。
第2回	脳の仕組みについて、3回にわたり、教科書を中心に適宜スライドと資料を用いて解説する。	予習:教科書の序章「2. 脳のしくみ」を読んでおく。 復習:再度読み直し理解を確認する。
第3回	引き続き、脳の仕組みについて、教科書を中心に適宜スライドと資料を用いて解説する。	予習:教科書の序章「2. 脳のしくみ」を読んでおく。 復習:再度読み直し理解を確認する。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	引き続き、脳の仕組みについて、教科書を中心に適宜スライドと資料を用いて解説する。	予習：教科書の序章「2. 脳のしくみ」を読んでおく。 復習：再度読み直し理解を確認する。
第5回	2回にわたり、こころのしくみについて、精神医学の成果を踏まえながら臨床心理学を視野に入れ、解説する。	予習：教科書の序章「3. こころのしくみ」を読んでおく。 復習：再度読み直し理解を確認する。
第6回	引き続き、こころのしくみについて、精神医学の成果を踏まえながら臨床心理学を視野に入れ、解説する。	予習：教科書の序章「3. こころのしくみ」を読んでおく。 復習：再度読み直し理解を確認する。
第7回	2回にわたり、精神医学の歴史について、様々なエピソードをたどりながら解説していく。	予習：教科書の序章「4. 精神医学の歴史」を読んでおく。 復習：再度読み直し理解を確認する。
第8回	引き続き、精神医学の歴史について、様々なエピソードをたどりながら解説していく。	予習：教科書の序章「4. 精神医学の歴史」を読んでおく。 復習：再度読み直し理解を確認する。
第9回	5回にわたり精神症状について解説する。まず、主症状と基本症状、経過、および病像の形成過程について解説する。	予習：教科書の「II. いろいろな症状　1. 症状と症候群」を読んでおく。 復習：再度読み直し理解を確認する。
第10回	引き続き、精神症状についての解説を続ける。この回では、意識症状及び無意識について解説する。	予習：教科書の「II. いろいろな症状　2. 意識の症状」を読んでおく。 復習：再度読み直し理解を確認する。
第11回	引き続き、精神症状についての解説を続ける。この回では、人格と自我に関連した症状について解説する。	予習：教科書の「II. いろいろな症状　3. 人格と自我の症状」を読んでおく。 復習：再度読み直し理解を確認する。
第12回	引き続き、精神症状についての解説を続ける。この回では、知覚と感情に関連した症状について解説する。	予習：教科書の「II. いろいろな症状　4. 知覚の症状　5. 感情の症状」を読んでおく。 復習：再度読み直し理解を確認する。
第13回	引き続き、精神症状についての解説を続ける。この回では、意欲と思考に関連した症状について解説する。	予習：教科書の「II. いろいろな症状　6. 意欲の症状　7. 思考の症状」を読んでおく。 復習：再度読み直し理解を確認する。
第14回	引き続き、精神症状についての解説を続ける。この回では、記憶と知能に関連した症状について解説する。	予習：教科書の「II. いろいろな症状　8. 記憶の症状　9. 知能の症状」を読んでおく。 復習：再度読み直し理解を確認する。
第15回	授業内試験。	第1～14回の講義内容を理解し、それらを問われた際に必要な情報に当たり言語的に的確に記述・表現できることが求められる。

科目名(クラス)	人間と医療ＩＢ	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	馬場　存	履修対象・条件	音楽療法専攻のみ履修可。必修				

【授業の概要】

精神医学を学ぶには大変長い期間と膨大な量の知識・理解・洞察力が必要だが、そのためには、当科目AとBを合わせて1年間という期間は十分ではない。したがって、なるべく広く、情報を取捨選択しながら、精神医学全般を学ぶ。。具体的には、病気の分類と器質性精神障害、機能性精神障害などの疾患各論、心理療法と薬物療法等について、順次講義形式で学んでいく。教科書及び講義内配布のプリントを用いる。

【授業の到達目標】

音楽療法においては、精神科領域は重要な実践分野の一つである。その実践のためには、むろん精神医学を一定程度理解する必要がある。実習及び卒後の実践の基礎となる精神医学の基礎知識を修得することが目標である。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式で行うが、適宜質問と議論を交える予定である。

【履修時の「留意点」と「心得」】

2年生の時点で精神医学を学ぶのは、比較的ハードルが高いと思われるので、根気が必要である。精神医学の理解はそのまま人間理解、心理の理解、そして自分自身の理解に繋がりを持つので、常に自分の心を振り返る心構えをどこかに持っておくこと。

【成績評価の「方法」と「基準」】

講義であるので、概念の正確な理解とその応用力が必要である。そのため、試験は筆記試験で行う。すべて記憶できればそれに越したことはないが、学生時代においては、内容を細部にわたり記憶することよりも、全体の大枠を頭の中に定着させることが重要である。そのため、試験は、教科書、自筆ノート、講義プリントを持ち込み可とし、選択肢形式ではなく文章を筆記する形で行う。問われていることが何かが理解できれば解答可能の形になる。したがって、全体を良く理解し、何が本質であるのか、しっかり理解し問いに答えられるようにすることが望ましい。講義終了時の、その日の内容についての質問に対する返答の正確性(授業への積極性の反映とみなす)(15%)と、筆記試験の点数(85%)を合算する。

教科書	精神医学エッセンス	著者等	濱田秀伯	出版社	弘文堂
教科書		著者等		出版社	
参考文献	精神病理学臨床講義	著者等	濱田秀伯	出版社	弘文堂
参考文献	精神医学ハンドブック	著者等	山下格	出版社	日本評論社

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	精神医学領域の疾患を、一つ一つ学んで行く。この回では、まず病気の分類について、解説する。	予習:教科書の「III. いろいろな病気　1. 病気の分類」を読んでおく。 復習:再度読み直し理解を確認する。
第2回	主に、器質性・症候性精神障害について解説する。	予習:教科書の「III. いろいろな病気　2. 器質性・症候性精神障害」を読んでおく。 復習:再度読み直し理解を確認する。
第3回	認知症性疾患について解説する。	予習:教科書の「III. いろいろな病気　3. 認知症(痴呆)性疾患」を読んでおく。 復習:再度読み直し理解を確認する。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	主に、依存と嗜癖に関連した精神障害について解説する。	予習：教科書の「III. いろいろな病気　4. 依存と嗜癖」を読んでおく。 復習：再度読み直し理解を確認する。
第5回	主に、統合失調症について解説する。	予習：教科書の「III. いろいろな病気　5. 統合失調症」を読んでおく。 復習：再度読み直し理解を確認する。
第6回	主に、妄想性障害について解説する。	予習：教科書の「III. いろいろな病気　6. 妄想性障害」を読んでおく。 復習：再度読み直し理解を確認する。
第7回	主に、感情（気分）障害について解説する。	予習：教科書の「III. いろいろな病気　7. 感情（気分）障害」を読んでおく。 復習：再度読み直し理解を確認する。
第8回	主に、不安・強迫性障害について解説する。	予習：教科書の「III. いろいろな病気　8. 不安・強迫性障害」を読んでおく。 復習：再度読み直し理解を確認する。
第9回	主に、身体表現性障害について解説する。	予習：教科書の「III. いろいろな病気　9. 身体表現性障害」を読んでおく。 復習：再度読み直し理解を確認する。
第10回	主に、生理機能に関連する精神障害について解説する。	予習：教科書の「III. いろいろな病気　10. 生理機能に関連する精神障害」を読んでおく。 復習：再度読み直し理解を確認する。
第11回	主に、パーソナリティ障害について解説する。	予習：教科書の「III. いろいろな病気　11. パーソナリティ（人格）障害」を読んでおく。 復習：再度読み直し理解を確認する。
第12回	主に、小児および高齢者の精神障害について解説する。	予習：教科書の「IV. 診察と検査」を読んでおく。 復習：再度読み直し理解を確認する。
第13回	精神科の診察と検査について、どのようなものがどのように行われているかを解説する。	予習：教科書の「IV. 診察と検査」を読んでおく。 復習：再度読み直し理解を確認する。
第14回	精神科の治療について、その身体（薬物を中心とする）治療と精神療法について解説する。	予習：教科書の「V. 治療」を読んでおく。 復習：再度読み直し理解を確認する。
第15回	授業内試験。	第1～14回の講義内容を理解し、それらを問われた際に必要な情報に当たり言語的に的確に記述・表現できることが求められる。

科目名(クラス)	人間と医療ⅡA	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	馬場　存	履修対象・条件	音楽療法専攻のみ履修可。必修				

【授業の概要】

音楽療法は、医療や福祉との関わりを強く持つ分野であることは言うまでもない。その実践の現場も様々で、病院等で音楽療法を担当することも稀ではない。そこでは他の医療職と対等に議論する必要が生じることもある。そのことを想定するとむろん基礎及び身体医学を一定程度理解する必要がある。基礎及び身体医学を学ぶには大変長い期間と膨大な量の知識・理解・洞察力が必要だが、そのためには、当科目AとBを合わせて1年間という期間は十分ではない。したがって、なるべく広く、情報を取捨選択し主に神経学に比重を置いて、基礎・身体医学を学ぶ。具体的には、健康と病気、神経生理学(入門程度)について、順次講義形式で学んでいく。講義内配布のプリントを用いる。

【授業の到達目標】

音楽療法は、医療や福祉との関わりを強く持つ分野であることは言うまでもない。その実践の現場も様々で、病院等で音楽療法を担当することも稀ではない。そこでは他の医療職と対等に議論する必要が生じることもある。そのことを想定した際に身に着けておくべき基礎及び身体医学を理解する。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式で行うが、適宜質問と議論を交える予定である。

【履修時の「留意点」と「心得」】

これまであまり生物学系の科目に接する機会が少なかったと推測される音大生の立場で基礎・身体医学を学ぶのは、比較的ハードルが高いと思われるので、根気が必要である。医学の理解は健康や人間の理解、そして自分自身の理解に繋がりを持つので、常に自分の健康を振り返る心構えをどこかに持っておくこと。

【成績評価の「方法」と「基準」】

講義であるので、概念の正確な理解とその応用力が必要である。そのため、試験は筆記試験で行う。すべて記憶できればそれに越したことはないが、学生時代においては、内容を細部にわたり記憶することよりも、全体の大枠を頭の中に定着させることが重要である。そのため、試験は、自筆ノート、講義プリントを持ち込み可とし、選択肢形式ではなく文章を筆記する形で行う。問われていることが何かが理解できれば解答可能の形になる。したがって、全体を良く理解し、何が本質であるのか、しっかり理解し問いに答えられるようにして欲しい。講義終了時の、その日の内容についての質問に対する返答の正確性(授業への積極性の反映とみなす)(15%)と、筆記試験の点数(85%)を合算する。

教科書	(既成の教科書は用いず、講義内プリントを用意する)	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	医学概論	著者等	北村諭	出版社	中外医学社
参考文献	神経内科学	著者等	川平和美(編)	出版社	医学書院

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	基礎及び身体医学への入門に際し、生命の誕生、生命の特性、人命の特性について解説する。	当日にプリントを配るので、特に予習の必要はないが、常日頃医学に関する最新のニュース等に目を配っておくのが望ましい。
第2回	基礎及び身体医学への入門に際し、医学の定義、病気の診断・治療・予防、リハビリテーション、健康増進 全人的医療について解説する。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。
第3回	医学の歴史について、紀元前の太古の時代から中世にかけて、解説する。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	医学の歴史について、紀元前のルネサンスの時代から現代にかけて、解説する。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。
第5回	「健康と病気」と題し、文字通り「健康」と「病気」について、それらがどのようなものであるかを種々の側面から解説する。特に健康について重点を置く。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。
第6回	引き続き「健康と病気」を巡り、文字通り「健康」と「病気」について、それらがどのようなものであるかを種々の側面から解説する。特に、健康及び病気の定義と分類について重点を置く。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。
第7回	引き続き「健康と病気」を巡り、文字通り「健康」と「病気」について、それらがどのようなものであるかを種々の側面から解説する。特に、病因と免疫に重点を置く。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。
第8回	引き続き「健康と病気」を巡り、文字通り「健康」と「病気」について、それらがどのようなものであるかを種々の側面から解説する。特に、病理学の入門程度の内容に触れる。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。
第9回	引き続き「健康と病気」を巡り、文字通り「健康」と「病気」について、それらがどのようなものであるかを種々の側面から解説する。特に、診断と治療について、入門程度の概要に言及する。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。
第10回	神経生理学入門と題し、まず、ニューロンとはどのようなものか、興奮性細胞の原理と神経伝達の基礎について学ぶ。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。
第11回	神経生理学入門その2と題し、興奮性細胞である筋肉細胞にも触れ、さらに感覚機能、特に聴覚を中心に解説する。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。
第12回	神経生理学入門その3と題し、聴覚及び音の物理的性質、および内耳レベルでのフーリエ解析と1/fゆらぎについて解説する。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。
第13回	神経生理学入門その4と題し、聴覚伝導路、および脳の各部についての解剖学的な解説を行う。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。
第14回	神経生理学入門その5と題し、前頭葉機能、側頭葉機能、後頭葉機能、頭頂葉機能、失語および失音楽について解説する。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。
第15回	授業内試験。	第1～14回の講義内容を理解し、それらを問われた際に必要な情報に当たり言語的に的確に記述・表現できることが求められる。

科目名(クラス)	人間と医療ⅡB	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	馬場　存	履修対象・条件	音楽療法専攻のみ履修可。必修				

【授業の概要】

基礎及び身体医学を学ぶには大変長い期間と膨大な量の知識・理解・洞察力が必要だが、そのためには、当科目AとBを合わせて1年間という期間は十分ではない。したがって、なるべく広く、情報を取捨選択し主に神経学に比重を置いて、基礎・身体医学を学ぶ。具体的には、神経内科学（入門程度）、小児の疾患、および緩和ケアについて、順次講義形式で学んでいく。講義内配布のプリントを用いる。

【授業の到達目標】

音楽療法は、医療や福祉との関わりを強く持つ分野であることは言うまでもない。その実践の現場も様々で、病院等で音楽療法を担当することも稀ではない。そこでは他の医療職と対等に議論する必要が生じることもある。そのことを想定した際に身に着けておくべき基礎及び身体医学を理解する。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式で行うが、適宜質問と議論を交える予定である。

【履修時の「留意点」と「心得」】

これまであまり生物学系の科目に接する機会が少なかったと推測される音大生の立場で基礎・身体医学を学ぶのは、比較的ハードルが高いと思われるので、根気が必要である。医学の理解は健康や人間の理解、そして自分自身の理解に繋がりを持つので、常に自分の健康を振り返る心構えをどこかに持っておくこと。

【成績評価の「方法」と「基準」】

講義であるので、概念の正確な理解とその応用力が必要である。そのため、試験は筆記試験で行う。すべて記憶できればそれに越したことはないが、学生時代においては、内容を細部にわたり記憶することよりも、全体の大枠を頭の中に定着させることが重要である。そのため、試験は、自筆ノート、講義プリントを持ち込み可とし、選択肢形式ではなく文章を筆記する形で行う。問われていることが何かが理解できれば解答可能の形になる。したがって、全体を良く理解し、何が本質であるのか、しっかり理解し問いに答えられるようにして欲しい。講義終了時の、その日の内容についての質問に対する返答の正確性（授業への積極性の反映とみなす）（15%）と、筆記試験の点数（85%）を合算する。

教科書	（既成の教科書は用いず、講義内プリントを用意する）	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	医学概論	著者等	北村諭	出版社	中外医学社
参考文献	神経内科学	著者等	川平和美（編）	出版社	医学書院

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	神経内科学入門1と題し、先ずこの領域でのリハビリテーションおよび、機能評価について解説する。	人間と医療IAの講義から連続性があるため前期科目全体を振り返ることが予習であり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。
第2回	神経内科学入門2と題し、意識障害（特に上行性網様体賦活系）、脳死と植物状態について解説する。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。
第3回	神経内科学入門3と題し、運動麻痺と筋萎縮、Manual Muscle TestやBrunnstormステージについて解説する。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	神経内科学入門4と題し、失語症の種類と症状の生じる機序について解説する。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。
第5回	神経内科学入門5と題し、失語症の治療を、状況に応じてビデオを交えて解説する。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。
第6回	神経内科学入門6と題し、脳血管を中心とした解剖学と、主に脳梗塞、脳出血、くも膜下出血等の脳血管障害について解説する。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。
第7回	神経内科学入門7と題し、引き続き脳血管障害について解説を加える。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。
第8回	神経内科学入門8と題し、記憶の機序、認知症、および関連した記憶障害について解説する。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。
第9回	神経内科学入門9と題し、認知症の治療とリハビリテーションについて解説する。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。
第10回	神経内科学入門10と題し、主に変性疾患と筋疾患について解説する。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。
第11回	小児の疾患入門1と題し、小児の成長と発達、および原始反射について解説する。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。
第12回	小児の疾患入門2と題し、てんかん、精神遅滞、および脳性麻痺について解説する。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。
第13回	小児の疾患入門3と題し、学習障害、注意欠陥多動性障害、重症心身障害等について解説する。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。
第14回	緩和ケアについて、論文で報告された症例を紹介し、基に緩和ケアの現状と課題、インフォームドコンセント等について解説する。	講義に連続性があるので、予習は前回の講義内容の復習をすることであり、復習は当日の講義内容の理解の確認である。
第15回	授業内試験。	第1～14回の講義内容を理解し、それらを問われた際に必要な情報に当たり言語的に的確に記述・表現できることが求められる。

科目名	ウィーンアカデミー

【授業計画の概要】

音楽の都ウィーンの空気と雰囲気に触れることによって、参加者自身の音楽観を深めること。

【授業の到達目標】

音楽の都と言われるウィーンの自然、風土、環境を理解し、音楽文化の育ってきた情景を理解する。

【成績評価の方法】

研修期間中にレポート提出

【授業計画の内容】

月	内　　容
4	
5	1. A. 専攻実技レッスン ウィーン特有の感性に触れると同時に伝統的表現方法を学ぶ。 B. 音楽療法 a.音楽療法における人類学：様々な文化と時代による音楽的療法 b.身体医学入門：身体医学の仮説と行動計画 c.グループによる音楽療法：精神療法的音楽療法理論と実践、即興演奏、楽器での表現、コミュニケーション d.楽器としての身体：主観的構造と生理学、理論と実践、声と響き、身体表現 e.現場ビデオによる現場紹介、又は施設訪問 2. オーストリア事情 歴史的背景をもとに、ハプスブルグ家を中心としたヨーロッパ文化の中心としてのウィーン音楽の意義 3. ピアノ教育法（ピアノ専攻） （Ⅰ）絵入り楽譜でピアノ教育法を実践的に学ぶ（子供・初心者への教育） （Ⅱ）各時代による表現方法の違い等（大人・すでに弾ける人への教育） 4. 朗読法（声楽専攻）：テキストはその都度決められる 5. 楽曲分析（声楽専攻）：ソロ・コロペティツィオン：専門家による歌唱指導 6. 楽曲解釈（全員）：時代別スタイルと表現法 7. 音楽史跡研究：主として大作曲家の史跡等を訪れる 8. 文化史体験：美術館を訪れ、音楽と美術等、他の文化との関係を探る 9. 音楽鑑賞（2回）：国立歌劇場、ﾌｫﾙｸｽｵﾊﾟｰ、ﾑｼﾞｰｸﾌｪﾗｲﾝ（楽友協会）、ｺﾝﾂｪﾙﾄﾊｳｽ等の公演鑑賞 10. 自由研修 11. 修了演奏会（基本的に全員参加） 12. レポート：その都度出されたテーマについて作成し提出する。
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
1	
2	その他、ザルツブルグ研修も行われる
3	

科目名	ヒューマンコミュニケーション1・2・3・4

【授業計画の概要】

本学の学生は、建学の精神である「音楽芸術の研鑽の一貫教育を通じ、情操豊かな人格の形成を目途とする」を学び、更に幅広く、深い教養を身につけることにより現代社会の中で、音楽に関わる者として知的創造性を高め、人間への深い理解を持ってコミュニケーションを図ることが重要である。それによって形成される広い視野の中で、音楽表現の実践や音楽教育は生きたものになると考える。
このような理念の実践の場として下記の通り必修科目〔各学年1単位〕を設定する。

【授業の到達目標】

音楽を学ぶ者として広い視野を修得し、自分の音楽活動を更に高めることが出来る。

【成績評価の方法】

授業内容を総合的に評価する。

【授業計画の内容】

月	内　　容
4	【目標】 1）行事に参加する中から責任を持って成し遂げたよろこびを体験する ・行事の意義を十分に理解し、積極的に参加し、協力し、本学学生として参加したことに喜びを見出す。 ・計画段階、事前準備段階、実施段階、事後処理段階までそれぞれにおいて創意工夫し、責任を持って遂行することの大切さを自覚し、友人とのコミュニケーションをはかる中において、社会人としての自覚を養う。 2）音楽活動等の体験を通したボランティア活動を実施することによって、社会に貢献し、人間形成の育成をはかる。 ・本学で学んだ音楽的感性、豊かな情操を学園の内外において一人一人の学生が自ら参加し、ボランティア活動等の奉仕にかかわる体験活動を通して社会性を身につける。 【単位】 ポイント制により年間15ポイント以上取得することで1単位認定する。〔尚、余剰ポイントは次年度には、繰り越さない〕単位履修のためのポイント項目東邦祭・定期研究発表演奏会・公開講座・大学短大の認めた演奏会・大学短大の認めたコンクール・大学短大の認めたボランティア活動、及び大学短大の認めた上記項目に類するもの。 〔各項目のポイント数は、別途定め告示する。〕
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
1	
2	
3	

科目名(クラス)	インターンシップⅠ	開講学期		単位数	2	配当年次	2
担当教員	キャリア支援センター	履修対象・条件	選択				

【授業の概要】

夏季休暇期間を利用して、行政機関や一般企業において実際に就業実務を体験してみることで、現実に働くとはどういうことなのかを知り、卒業後の自分を考える機会としてほしい。
2週間の就業体験を通して社会を知り、己を知ることで就職活動への心構えを養うことができる。

【授業の到達目標】

学生が就業体験を通して、企業や社会の実情を知ることで、仕事に対する興味や関心を高め、自らの適性や適職を考え、職業選択につなげることを目的とする。
実際の体験を自ら多くの人前で発表することで、プレゼンテーション能力育成にもつながる。

【授業の「方法」と「形式」】

事前の研修・セミナー出席と現場での実習、事後のレポート提出と学内発表会での成果発表を要件とする。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・参加希望者はキャリア支援センターに参加申込書を提出すること。
・インターンシップの受入先が限られており、希望者が多い場合は、選考のうえ受入先が決定した時点で登録となります。
・独自に希望する研修先の場合も学校指定同様の形式・基準に従い、事前申請するものとする。

【成績評価の「方法」と「基準」】

インターンシップを実際に体験することが大前提となります。且つ以下の条件を満たした者に単位を認定する。
※指定の事前研修に出席すること。
※2週間（実質10日間以上）の実習をおこなうこと。
※体験レポートを提出すること。
※インターンシップ体験先の外部評価が著しく低くない事。
※学内発表会で成果を発表すること。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	ガイダンスにて、インターンシップ実施の目的、意義、手続き、スケジュールなどの説明。	予習：インターンシップに対しての自分の目的を明確にする。 復習：配布資料を読み返し、内容を理解し、スケジュールを確認する。
第2回	募集開始：希望学生は参加申込書を提出。 「自分の目的と研修先の整合性を考える。」	予習：参加した先輩などから行先の情報を入手する。 復習：研修先について自分なりに企業について調べてみる。
第3回	事前研修①インターンシップ参加の心構え、就業活動全般について 「就職活動の中でのインターンシップの位置づけを理解する。」	予習：就活スタートを意識する。 復習：自分なりのスケジュールを作成する。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	事前研修②マナー講座受講 「社会人としてのルール・マナーを身につける。」	予習：参加にあたっての心構えを考えておく。 復習：配布された資料・マニュアルを読み返す。
第5回	事前研修③：具体的活動にむけた準備。 「実習先のことを知る。注意事項伝達など」	予習：研修の目的を考えておく。 復習：配布された資料・マニュアルを読み返す。
第6回	インターンシップ実習（2週間） 「1日を振り返り、日報を作成する」	予習：実習先からの案内・指示を再確認し、日葡作成と翌日の準備をする。 復習：実習をふり返り、レポート作成に向け準備をする。
第7回	体験レポート提出 「実習を振り返り、自分の活動をまとめる。」	予習：日報を読み返す。 復習：発表に向けた準備をする。
第8回	学内成果発表会での発表 「プレゼンテーション能力を強化を図る。」	予習：発表内容を確認し、資料の準備と台本を作成しリハーサルをする。 復習：発表について自己評価し、他人からの意見をもらう。
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

科目名(クラス)	インターンシップⅡ	開講学期		単位数	2	配当年次	3
担当教員	キャリア支援センター	履修対象・条件	選択				

【授業の概要】

夏季休暇期間を利用して、行政機関や一般企業において実際に就業実務を体験してみることで、現実に働くとはどういうことなのかを知り、卒業後の自分を考える機会としてほしい。
2週間の就業体験を通して社会を知り、己を知ることで就職活動への心構えを養うことができる。

【授業の到達目標】

学生が就業体験を通して、企業や社会の実情を知ることで、仕事に対する興味や関心を高め、自らの適性や適職を考え、職業選択につなげることを目的とする。
実際の体験を自ら多くの人前で発表することで、プレゼンテーション能力育成にもつながる。

【授業の「方法」と「形式」】

事前の研修・セミナー出席と現場での実習、事後のレポート提出と学内発表会での成果発表を要件とする。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・参加希望者はキャリア支援センターに参加申込書を提出すること。
・インターンシップの受入先が限られており、希望者が多い場合は、選考のうえ受入先が決定した時点で登録となります。
・独自に希望する研修先の場合も学校指定同様の形式・基準に従い、事前申請するものとする。

【成績評価の「方法」と「基準」】

インターンシップを実際に体験することが大前提となります。且つ以下の条件を満たした者に単位を認定する。
※指定の事前研修に出席すること。
※2週間（実質10日間以上）の実習をおこなうこと。
※体験レポートを提出すること。
※インターンシップ体験先の外部評価が著しく低くない事。
※学内発表会で成果を発表すること。

教科書		著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	ガイダンスにて、インターンシップ実施の目的、意義、手続き、スケジュールなどの説明。	予習：インターンシップに対しての自分の目的を明確にする。 復習：配布資料を読み返し、内容を理解し、スケジュールを確認する。
第2回	募集開始：希望学生は参加申込書を提出。 「自分の目的と研修先の整合性を考える。」	予習：参加した先輩などから行先の情報を入手する。 復習：研修先について自分なりに企業について調べてみる。
第3回	事前研修①インターンシップ参加の心構え、就業活動全般について 「就職活動の中でのインターンシップの位置づけを理解する。」	予習：就活スタートを意識する。 復習：自分なりのスケジュールを作成する。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	事前研修②マナー講座受講 「社会人としてのルール・マナーを身につける。」	習：参加にあたっての心構えを考えておく。 復習：配布された資料・マニュアルを 読み返す。
第5回	事前研修③：具体的活動にむけた準備。 「実習先のことを知る。注意事項伝達など」	予習：研修の目的を考えておく。 復習：配布された資料・マニュアルを 読み返す。
第6回	インターンシップ実習（2週間） 「1日を振り返り、日報を作成する」	予習：実習先からの案内・指示を再確認し、 日報作成と翌日の準備をする。 復習：実習をふり返り、レポート作成にむけ 準備をする。
第7回	体験レポート提出 「実習を振り返り、自分の活動をまとめる。」	予習：日報を読み返す。 復習：発表にむけた準備をする。
第8回	学内成果発表会での発表 「プレゼンテーション能力を強化を図る。」	予習：発表内容を確認し、資料の準備と 台本を作成しリハーサルをする。 復習：発表について自己評価し、他人から の意見をもらう。
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

科目名	地域創造①ＩＡ･Ｂ（地域貢献として、オーケストラ等を指導）大学1～3年、各1単位

【授業計画の概要】

南古谷ウィンドオーケストラを通して、主として地域中学生に初歩からの楽器の手ほどき等指導、演奏法、演奏の楽しさを教えるとともに、あいさつ等の礼儀を教え、共に演奏を行う。

【授業の到達目標】

指導活動を通して指導力を高める。

【成績評価の方法】

学期ごとに、指導に対する取組む姿勢及び指導実績により評価する。

【授業計画の内容】

月	内　　容
4	・基礎練習方法を学ぶ ・楽器の知識の修得 ・楽曲の知識の修得 ・アンサンブルの指導法、知識の修得
5	
6	
7	
8	
9	
10	・基礎練習方法を学ぶ ・楽器の知識の修得 ・楽曲の知識の修得 ・アンサンブルの指導法、知識の修得
11	
12	
1	
2	
3	

科目名	地域創造①ⅡA･B（地域貢献として、オーケストラ等を指導）大学2～4年、各1単位

【授業計画の概要】

南古谷ウィンドオーケストラを通して、主として地域中学生に初歩からの楽器の手ほどき等指導、演奏法、演奏の楽しさを教えるとともに、あいさつ等の礼儀を教え、共に演奏を行う。

【授業の到達目標】

指導活動を通して指導力を高める。

【成績評価の方法】

学期ごとに、指導に対する取組む姿勢及び指導実績により評価する。

【授業計画の内容】

月	内　　容
4	・基礎練習方法を学ぶ ・楽器の知識の修得 ・楽曲の知識の修得 ・アンサンブルの指導法、知識の修得
5	
6	
7	
8	
9	
10	・基礎練習方法を学ぶ ・楽器の知識の修得 ・楽曲の知識の修得 ・アンサンブルの指導法、知識の修得
11	
12	
1	
2	
3	

科目名	地域創造②ＩＡ･Ｂ（地域の学校等の授業等補助）大学2･3年、各1単位

【授業計画の概要】

地域の学校等教育現場において、教科指導･学校行事指導･校外活動等引率･部活動等の課外活動等学校等行事全般にわたり補助活動を行い、地域児童･生徒等とのふれあい体験を行う。

【授業の到達目標】

地域及び学校等を理解し、音楽指導者としての資質を高める。

【成績評価の方法】

現場教師等の評価と成果の発表等を総合的に判断して評価する。

【授業計画の内容】

月	内　　容
4	･現場に対応した事前指導 ･教育等現場の事前知識の取得 ･現場教員(指導者)とのコミュニケーションの確立 ･児童、生徒とのコミュニケーション力の修得 ･成果の発表
5	
6	
7	
8	
9	
10	･現場に対応した事前指導 ･教育等現場の事前知識の取得 ･現場教員(指導者)とのコミュニケーションの確立 ･児童、生徒とのコミュニケーション力の修得 ･成果の発表
11	
12	
1	
2	
3	

科目名	地域創造②ⅡA・B（地域の学校等の授業等補助）大学3・4年、各1単位

【授業計画の概要】

地域の学校等教育現場において、教科指導・学校行事指導・校外活動等引率・部活動等の課外活動等学校等行事全般にわたり補助活動を行い、地域児童・生徒等とのふれあい体験を行う。

【授業の到達目標】

地域及び学校等を理解し、音楽指導者としての資質を高める。

【成績評価の方法】

現場教師等の評価と成果の発表等を総合的に判断して評価する。

【授業計画の内容】

月	内　　容
4	・現場に対応した事前指導 ・教育等現場の事前知識の取得 ・現場教員(指導者)とのコミュニケーションの確立 ・児童、生徒とのコミュニケーション力の修得 ・成果の発表
5	
6	
7	
8	
9	
10	・現場に対応した事前指導 ・教育等現場の事前知識の取得 ・現場教員(指導者)とのコミュニケーションの確立 ・児童、生徒とのコミュニケーション力の修得 ・成果の発表
11	
12	
1	
2	
3	

科目名(クラス)	コンピュータミュージック演習ＩＡ	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1～4
担当教員	湯浅　恭子	履修対象・条件					

【授業の概要】

・「コンピュータを利用して音楽を創る」ということを通じて、音楽を様々な視点から観て、聴いていきます。
・コンピュータを活用しながら、「情報を整理する」「いろいろな視点で音楽を観る」「考え方を身につける」を学びます。
・近年では、身近なスマートフォンを用いても音楽をつくることができるようになりました。講義ではMacコンピュータを中心に使い、基本操作から順に進めていきます。自分で音楽を作ってみたい人はもちろん、コンピュータを自分の生活・音楽活動でより有効に活用したいと思っている人、何か自分の中にあるものを形にしたい人は一緒に学んでいきましょう。

【授業の到達目標】

・Macコンピュータ、音楽制作ソフトウエアの基本操作ができる。
・コンピュータを用いて情報整理ができる。
・その考え方をコンピュータ以外でも活用することができる。

【授業の「方法」と「形式」】

演習形式・講義形式

【履修時の「留意点」と「心得」】

・遅刻、途中退出は原則として認めません。
・プリント資料（A4サイズ）を配布しますので、それを管理できるファイルを必ず用意してください。形式は初回授業時に指示します。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・授業への参加度（積極性・演習課題への取り組み）40%
・講義時提出課題30%
・学期末課題制作30%

教科書	授業内でプリントを配布	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	演習室システムについて Mac OSとソフトウェア・ハードウェア	予習：シラバスを読んで各回のテーマを押さえておく。 復習：身近な情報機器のOSについて調べる。
第2回	Mac OSの基本動作（1） ・起動と終了／入力と保存 ・テキストエディット 情報の整理：フォルダの活用、階層について	予習：配布テキストで前回の内容の確認を行い整理する。 復習：身近な情報機器に階層構造がどのように用いられているか調べる。
第3回	Mac OSの基本動作（2） ・音楽再生ソフトウェア（iTunes） ・写真編集ソフトウェア（iPhoto）	予習：配布テキストで前回の内容の確認を行い整理する。 復習：身近な情報機器を用いて情報の整理を行う（フォルダの活用）。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	Digital Performerに関する基本動作（1） ・基本レイアウト画面 ・MIDI音源の音色①	予習：配布テキストで前回の内容の確認を行い整理する。 復習：MIDI音源の音色に関する資料をまとめる。
第5回	Digital Performerに関する基本動作（2） ・トラックについて ・MIDI音源の音色②	予習：配布テキストで前回の内容の確認を行い整理する。 復習：MIDI音源の音色に関する資料をまとめる。
第6回	Motif（Melody）とMotif Development（1）	予習：配布テキストで前回の内容の確認を行い整理する。 復習：与えられたMotifを、学習した手法を用いて展開して譜面におこす。
第7回	Digital Performerに関する基本動作（3） ・音色の選択／MIDIデータの入力 Motif（Melody）とMotif Development（2） ー与えられたMotifを使って	予習：配布テキストで前回の内容の確認を行い整理する。 復習：Motifの発展のさまざまな手法を試す。
第8回	Digital Performerに関する基本動作（4） ・拍子、テンポのコントロール Motif（Melody）とMotif Development（3） ー自身のMotifを使って	予習：Motif（2～4小節程度）を作成する。譜面におこす。 復習：自身でMotifを作成し、学習した手法を用いて展開する。
第9回	Digital Performerに関する基本動作（5） ・「tics」の概念 ・イベントリスト	予習：配布テキストで前回の内容の確認を行い整理する。 復習：Motifの発展のさまざまな手法を試す。
第10回	Motif（Melody）とMotif Development（4） ー2つのパートを用いて	予習：配布テキストで前回の内容の確認を行い整理する。 復習：授業内で学んだ展開方法を確認する。配布プリントに準じて譜面を作成する。
第11回	Digital Performerに関する基本動作（6） ・音の修正変更① Motif（Melody）とMotif Development（5） ー2つのパートを用いて	予習：与えられた楽曲を授業内で学んだ手法で2パートに展開する。譜面を作成する。 復習：配布プリントに準じて譜面を作成する。
第12回	Digital Performerに関する基本動作（7） ・音の修正変更② Motif（Melody）とMotif Development（6） ー2つのパートを用いて	予習：与えられた楽曲を授業内で学んだ手法で2パートに展開する。譜面を作成する。 復習：配布プリントに準じて譜面を作成する。
第13回	期末課題制作-1	予習：自身でMotifを作成し、前回までの授業で学んだ手法を用いて展開する。 復習：配布テキストの確認と整理。
第14回	期末課題制作-2	予習：自身でMotifを作成し、前回までの授業で学んだ手法を用いて展開する。 復習：配布テキストの確認と整理。
第15回	まとめと課題提出	予習：自身でMotifを作成し、前回までの授業で学んだ手法を用いて展開する。 復習：この学期で配布されたテキスト内容の確認と整理。

科目名(クラス)	コンピュータミュージック演習ＩＢ	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1～4
担当教員	湯浅　恭子	履修対象・条件					

【授業の概要】

・コンピューターミュージックＩＡで修得したDigital Performerの基本操作をふまえ、細かな編集を学びながら楽曲を制作します。
・「コンピュータだからできること」「コンピュータではできないこと」を理解し、その有効活用について考察します。
・本講義で修得した「考え方」を、他のOSやソフトウェア、コンピュータ以外のことに応用できるよう理解を深めます。

【授業の到達目標】

・音楽制作ソフトウエアの基本操作、編集作業ができる。
・コンピュータを用いて音楽情報の分解・統合・再構築ができる。
・情報整理のしかたをコンピュータ以外の場面にも活用することができる。

【授業の「方法」と「形式」】

演習形式・講義形式

【履修時の「留意点」と「心得」】

・遅刻、途中退出は原則として認めません。
・プリント資料（A4サイズ）を配布しますので、それを管理できるファイルを必ず用意してください。形式は初回授業時に指示します。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・授業への参加度（積極性・演習課題への取り組み）40%
・講義時提出課題30%
・学期末課題制作30%

教科書	授業内でプリントを配布	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	Digital Performerの基本動作の確認 リズムセクション（1） ーポピュラーミュージックにおけるリズムセクション ーアクセントについて	予習：シラバスを読んで各回のテーマを押さえておく。 復習：授業で紹介された参考音源を聴く。 さまざまなスタイルの特徴をつかむ。
第2回	Digital Performerに関する基本動作（8） ・音の修正変更③ リズムセクション（2） ーリズムパートについて	予習：参考音源のリズムパートに着目して聴く。 復習：配布音源のリズムパートを再現する、 または譜面におこす。
第3回	Digital Performerに関する基本動作（9） ・便利な機能の活用① リズムセクション（3） ーベースパートについて	予習：参考音源のベースパートに着目して聴く。 復習：配布音源のベースパートを再現する、 または譜面におこす。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	リズムセクション（4） 　ーリズムパートとベースパートの関係性	予習：参考音源のリズムパートとベースパートに着目して聴く。関係性を見つける。 復習：授業で取り扱った「関係性」を意識して、参考音源を聴く。
第5回	Digital Performerに関する基本動作（10） 　・便利な機能の活用② リズムセクション（5） 　ーChordについて	予習：参考音源のハーモニーパートに着目して聴く。 復習：Chordに関するプリント課題を行う。 配布テキストの整理と確認をする。
第6回	リズムセクション（6） 　ーChord進行について①	予習：前回の授業で扱ったChordの構成と響きをピアノなどを用いて確認する。 復習：Chord進行に関するプリント課題を行う。
第7回	リズムセクション（7） 　ーChord進行について② リズムセクションを活用した楽曲制作−1	予習：前回の授業で扱ったChord進行の響きをピアノなどを用いて確認する。 復習：Chord進行に関するプリント課題を行う。
第8回	リズムセクションを活用した楽曲制作−2	予習：課題に用いる楽器の特性を調べる。 復習：必要に応じて譜面での準備をする。
第9回	リズムセクションを活用した楽曲制作−3	予習：課題に用いる楽器の特性を調べる。 復習：リズムセクションの役割と、楽曲制作への応用を、テキストと制作した課題で確認する。
第10回	期末提出課題の提示 課題制作−1	予習：これまでに学んだ作曲の手法を、テキスト・制作した課題で確認する。 復習：提示された期末課題の構成を考える。
第11回	課題制作−2	予習：制作する曲の制作手順と編成を考える。用いる楽器の特性を調べる。 復習：今回の授業での制作進行をふまえ、制作手順と編成を再確認する。
第12回	課題制作−3	予習：必要に応じて譜面での準備をする。 復習：今回の授業までの制作進行を、「全体」と「細部」の両面から振り返り、修正を行う。
第13回	課題制作−4	予習：必要に応じて譜面での準備をする。 復習：今回の授業までで制作した音源を持ち帰り次回の授業での進行計画を立てる。
第14回	課題制作−5	予習：課題提出に向け作品レポートを作成する。 復習：今回の授業までで制作した音源を持ち帰り次回の授業での進行計画を立てる。
第15回	まとめと課題提出	予習：課題提出に向け作品レポートを作成する。 復習：授業で学んだことを振り返り、自分の音楽表現や伝え方への活用を考察する。

科目名(クラス)	コンピュータミュージック演習ⅡA	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1～4
担当教員	湯浅　恭子	履修対象・条件					

【授業の概要】

・コンピュータミュージック演習Ⅰを通じて習得した「音楽を観る視点」を広げていきます。「楽器」「楽音」以外の「音」を取り扱うこと、また「画像」「映像」などの他メディアと音楽との関わりについて考察し実践します。
・コンピュータを利用して「情報を分解する」「情報を統合する」ことを学び、それらを音楽活動や日常生活などに応用する思考を身につけます。

【授業の到達目標】

・楽器、楽音以外の「音」への視点を広げ、音楽表現へ活用できる。
・音楽と「画像」「映像」などのメディアとの関わりを理解する。

【授業の「方法」と「形式」】

演習形式・講義形式

【履修時の「留意点」と「心得」】

・遅刻、途中退出は原則として認めません。
・プリント資料（A4サイズ）を配布しますので、それを管理できるファイルを必ず用意してください。形式は初回授業時に指示します。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・授業への参加度（積極性・演習課題への取り組み）40%
・講義時提出課題30%
・学期末課題制作30%

教科書	授業内でプリントを配布	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授業内容	準備学習（予習・復習）
第1回	Digital Performerの基本動作の復習と確認	予習：シラバスを読んで各回のテーマを押さえておく。 復習：コンピュータミュージック演習Ⅰで使用したテキストを再読し基本操作の確認をする。
第2回	音とディジタル オーディオデータの編集（1）	予習：「ディジタル化」について調べる。 復習：音のディジタル化のしくみと手順をまとめ、自分の持っている機器で試す。
第3回	オーディオデータの編集（2）	予習：前回の授業をもとに、オーディオデータを用いる作品の全体像を考える。 復習：テキストを用いて音声編集の手順を確認する。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	オーディオデータの編集（3）	予習：作品に取り込む音素材を機器で録音収集する。 復習：音の素材の取り込み方を確認する。収集してきた素材の活用方法を考察する。
第5回	オーディオデータの編集（4）	予習：必要に応じて作品に取り込む音素材を機器で録音収集する。 復習：オーディオ編集と作品制作を振り返り、楽音以外での「音表現」の可能性を考える。
第6回	マルチメディアについて（1） ータブレット端末、スマートフォンの活用	予習：自分の持っている情報機器で利用できる「音楽に関わるソフトウエア」を調べる。 復習：授業で取り上げたソフトウエア、またはそれに類似したものを利用し考察する。
第7回	マルチメディアについて（2） ー音・音楽と画像・動画の関係	予習：身近な映像を、音楽の役割や効果に着目して観る。気づいたことをまとめる①。 復習：授業で紹介された映像を観る。音・音楽の効果について考えを文章にまとめる。
第8回	マルチメディアについて（3） ー音・音楽と画像・動画の関係	予習：身近な映像を、音楽の役割や効果に着目して観る。気づいたことをまとめる②。 復習：自分の好きな映像作品を1つ取り上げ、映像と音・音楽の関わりを文章にまとめる。
第9回	音楽制作ソフトウェアでの映像同期について	予習：前回の授業で紹介された映像を観る。 復習：テキストを用いてソフトウエアへの映像同期の手順を確認する。
第10回	期末提出課題の提示 課題制作−1	予習：課題制作で利用する映像をよく観て選択肢から選ぶ。 復習：制作する作品の全体像を整理する。次回の授業での進行計画を立てる。
第11回	課題制作−2	予習：授業で紹介された映像を参考に、課題作品に取り入れる素材を考える。 復習：次回の授業での進行計画を立てる。
第12回	課題制作−3	予習：必要に応じて、音の素材を録音収集する。 復習：次回の授業での進行計画を立てる。
第13回	課題制作−4	予習：必要に応じて、音の素材を録音収集する。 復習：制作中間段階での、作品の全体像を整理する。
第14回	課題制作−5	予習：課題提出に向け作品レポートを作成する。 復習：次回の授業での進行計画を立てる。
第15回	まとめと課題提出	予習：課題提出に向け作品レポートを作成する。 復習：授業で学んだことを活用し、「音と映像」の関係を意識した映像の見方を取り入れる。「音」の役割や効果について考察する。

科目名(クラス)	コンピュータミュージック演習ⅡB	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	1～4
担当教員	湯浅　恭子	履修対象・条件					

【授業の概要】

・「画像」「映像」を取り扱い、その表現方法を学びます。そのうえで「音楽の表現」について見つめ直し、「曲をつくる」「演奏する」といった自己の音楽表現や、音楽の聴き方の視点を広げます。
・表現したいこと(テーマ)を明確にして、どのように表現すれば自身が考えるように伝わるのかを考察します。
・「制作の計画を立てる→実行する→確認する→修正する」を通じて、企画の進め方の基本について学びます。

【授業の到達目標】

・音楽を伝える、コンテンツとして形にすることについて考察し、自身の表現方法に活用できる。
・表現したいこと(テーマ)を明確にして、音と言葉で伝えることができる。
・評価と改善を繰り返し、計画の修正を行いながらよりよい実践につなげることができる。

【授業の「方法」と「形式」】

演習形式・講義形式

【履修時の「留意点」と「心得」】

・遅刻、途中退出は原則として認めません。
・プリント資料(A4サイズ)を配布しますので、それを管理できるファイルを必ず用意してください。形式は初回授業時に指示します。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・授業への参加度(積極性・演習課題への取り組み)40%
・講義時提出課題30%
・学期末課題制作30%

教科書	授業内でプリントを配布	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	はじめに:本講義で制作するコンテンツ(スライドショー)の概説	予習:シラバスを読んで各回のテーマを押さえておく。 復習:作成するコンテンツの内容を考え、必要な素材を集める。
第2回	写真編集ソフトウェアについて 作品制作計画の立案①　スライドショー	予習:作成するコンテンツの内容を考え、必要な素材を集める。 復習:作品制作の計画を立てる。
第3回	写真データの取り込みと編集 作品レポートについて① スライドショー作成-1	予習:作成するコンテンツの内容を考え、必要な素材を集める。 復習:作品レポートを作成する。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	スライドショー作成-2	予習：作品制作の計画を立てる。 復習：制作計画と授業内での進度を確認し、 必要に応じて修正する。
第5回	スライドショー作成-3	予習：制作計画の確認をする。 復習：制作計画と授業内での進度を確認し、 必要に応じて修正する。
第6回	スライドショー作成-4	予習：制作計画の確認をする。 復習：制作計画と授業内での進度を確認し、 必要に応じて修正する。
第7回	スライドショー作成-5	予習：制作計画の確認をする。 復習：制作計画と授業内での進度を確認し、 必要に応じて修正する。
第8回	作品制作計画の立案②　作成したスライドショーに合わせて曲をつくる。 作品レポートについて② 楽曲作成-1	予習：作品制作の計画を立てる。 復習：制作計画と授業内での進度を確認し、 必要に応じて修正する。
第9回	楽曲作成-2	予習：作品制作計画の確認。必要に応じて 譜面を書く。 復習：制作計画と授業内での進度を確認し、 必要に応じて修正する。
第10回	楽曲作成-3	予習：作品制作計画の確認。必要に応じて 譜面を書く。 復習：制作計画と授業内での進度を確認し、 必要に応じて修正する。
第11回	楽曲作成-4	予習：作品制作計画の確認。必要に応じて 譜面を書く。 復習：制作計画と授業内での進度を確認し、 必要に応じて修正する。
第12回	楽曲作成-5	予習：作品制作計画の確認。必要に応じて 譜面を書く。 復習：制作計画と授業内での進度を確認し、 必要に応じて修正する。
第13回	楽曲作成-6	予習：作品制作計画の確認。必要に応じて 譜面を書く。 復習：制作計画と授業内での進度を確認し、 必要に応じて修正する。
第14回	楽曲作成-7 〈オーディオトラックへの書き出し〉	予習：作品提出に向けてのレポートを整理する。 作品制作計画の確認。 復習：制作計画と授業内での進度を確認し、 必要に応じて修正する。
第15回	まとめと課題提出	予習：作品提出に向けてのレポートを整理する。 復習：最終課題の制作計画と進度を見直し、 適切な計画を立てるための考察をする。 自身の音楽表現の方法を探求する。

科目名(クラス)	日本事情ＩＡ	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	高岸美代子	履修対象・条件	外国人留学生のみ履修可				

【授業の概要】

本科目は日本語を学習する者を対象にして、日本語の背景としての日本事情を紹介し、日本についての理解を得るものである。そのため、日本の地理的な条件から、そこでの産業、人々の生活の様子、日本の社会の現状等、日本社会の輪郭を紹介する。

【授業の到達目標】

本科目は日本語能力初級レベルの学生を対象として、日本語の知識、運用能力を養いながら日本社会への理解を深めることを目的とする

【授業の「方法」と「形式」】

テキストや資料を読み合わせしながら、語彙、文法指導をした後、話し合い形式で学習者主体で進める

【履修時の「留意点」と「心得」】

日本語の知識、運用能力の向上と日本社会、日本文化への理解を深める

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業への取り組みや課題提出や期末レポート提出を点数化して、総合的に判断する。

教科書	日本の地理と社会	著者等	豊田豊子	出版社	凡人社
教科書		著者等		出版社	
参考文献	新聞、その他参考資料等	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	オリエンテーション：本科目の教育目的、教育内容、授業方法、評価等授業の紹介、授業を受けるための心得等	テキストの読み：語彙の意味調べ、疑問点の設定
第2回	日本の都市と人口：日本の位置	同上
第3回	日本の都市と人口：大都市	同上

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	日本の都市と人口：都道府県と9地方	同上
第5回	日本の都市と人口：人口密度	同上
第6回	日本の都市と人口：高齢化	同上
第7回	日本の都市と人口：首都圏	同上
第8回	日本の気候：四季	同上
第9回	日本の気候：季節風	同上
第10回	日本の気候：梅雨	同上
第11回	日本の気候：台風	同上
第12回	日本列島：日本列島	同上
第13回	日本列島：富士山	同上
第14回	日本列島：日本の川	同上
第15回	日本列島：過密地帯関東平野	同上

科目名(クラス)	日本事情ＩＢ	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	高岸美代子	履修対象・条件	外国人留学生のみ履修可				

【授業の概要】

本科目は日本語を学習する者を対象にして、日本語の背景としての日本事情を紹介し、日本についての理解を得るものである。そのため、日本の地理的な条件から、そこでの産業、人々の生活の様子、日本の社会の現状等、日本社会の輪郭を紹介する。

【授業の到達目標】

本科目は日本語能力初級レベルの学生を対象として、日本語の知識、運用能力を養いながら日本社会への理解を深めることを目的とする

【授業の「方法」と「形式」】

テキストや資料を読み合わせしながら、語彙、文法指導をした後、話し合い形式で学習者主体で進める

【履修時の「留意点」と「心得」】

日本語の知識、運用能力の向上と日本社会、日本文化への理解を深める

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業への取り組みや課題提出や期末レポート提出を点数化して、総合的に判断する。

教科書	日本の地理と社会	著者等	豊田豊子	出版社	凡人社
教科書		著者等		出版社	
参考文献	新聞、その他参考資料等	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	日本的経営	テキストの読み：語句調べ、資料収集、疑問点の設定
第2回	日本人の労働観	同上
第3回	日本人の労働観	同上

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	集団意識と肩書き	同上
第5回	集団意識と肩書き	同上
第6回	小集団活動	同上
第7回	小集団活動	同上
第8回	年中行事	同上
第9回	年中行事	同上
第10回	政治のしくみ	同上
第11回	政治のしくみ	同上
第12回	日本の歴史１	同上
第13回	日本の歴史１	同上
第14回	日本の歴史２	同上
第15回	日本の社会：まとめ	テキストの読み：語彙の意味調べ、疑問点の設定

科目名(クラス)	日本事情ⅡA	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	高岸美代子	履修対象・条件	外国人留学生のみ履修可				

【授業の概要】

本科目は日本語を学習する者を対象にして、日本語の背景としての日本の文化、現代の日本社会と日本人の実態を幅広く紹介し、日本についての理解を得るものである。

【授業の到達目標】

本科目は日本語能力中上級レベルの学生を対象として、日本語の運用能力を高め、日本社会への理解を深めることを目的とする

【授業の「方法」と「形式」】

テキストや資料を読みながら、話し合い形式で学習者主体で進める

【履修時の「留意点」と「心得」】

日本語の運用能力を高め、日本社会、日本文化への理解を深める

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業への取り組みや課題提出や期末レポート提出を点数化して、総合的に判断する。

教科書	日本を話そう＝15のテーマで学ぶ日本事情＝	著者等	日本外国語専門学校	出版社	TheJspanTimes
教科書		著者等		出版社	
参考文献	新聞、その他参考資料等	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	住宅事情	テキストの読み：語句調べ、資料収集、疑問点の設定
第2回	住宅事情	同上
第3回	結婚と女性の社会進出	同上

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	結婚と女性の社会進出	同上
第5回	高齢化社会	同上
第6回	高齢化社会	同上
第7回	日本料理	同上
第8回	日本料理	同上
第9回	平等社会と中流意識	同上
第10回	平等社会と中流意識	同上
第11回	教育	同上
第12回	教育	同上
第13回	伝統芸術	同上
第14回	伝統芸術	同上
第15回	日本的経営	同上

科目名(クラス)	日本事情ⅡB	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	高岸美代子	履修対象・条件	外国人留学生のみ履修可				

【授業の概要】

本科目は日本語を学習する者を対象にして、日本語の背景としての日本の文化、現代の日本社会と日本人の実態を幅広く紹介し、日本についての理解を得るものである。

【授業の到達目標】

本科目は日本語能力中上級レベルの学生を対象として、日本語の運用能力を高め、日本社会への理解を深めることを目的とする

【授業の「方法」と「形式」】

テキストや資料を読みながら、話し合い形式で学習者主体で進める

【履修時の「留意点」と「心得」】

日本語の運用能力を高め、日本社会、日本文化への理解を深める

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業への取り組みや課題提出や期末レポート提出を点数化して、総合的に判断する。

教科書	日本を話そう＝15のテーマで学ぶ日本事情＝	著者等	日本外国語専門学校	出版社	TheJspanTimes
教科書		著者等		出版社	
参考文献	新聞、その他参考資料等	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	日本的経営	テキストの読み：語句調べ、資料収集、疑問点の設定
第2回	日本人の労働観	同上
第3回	日本人の労働観	同上

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	集団意識と肩書き	同上
第5回	集団意識と肩書き	同上
第6回	小集団活動	同上
第7回	小集団活動	同上
第8回	年中行事	同上
第9回	年中行事	同上
第10回	政治のしくみ	同上
第11回	政治のしくみ	同上
第12回	日本の歴史１	同上
第13回	日本の歴史１	同上
第14回	日本の歴史２	同上
第15回	日本の歴史２	同上

科目名(クラス)	日本事情ⅢA	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	高岸美代子	履修対象・条件	外国人留学生のみ履修可				

【授業の概要】

本科目は日本語を学習する者を対象にして、日本語の背景としての日本の文化、現代の日本社会と日本人の実態を幅広く紹介し、日本についての理解を得るものである。

【授業の到達目標】

本科目は日本語能力中上級レベルの学生を対象として、日本語の運用能力を高め、日本社会への理解を深めることを目的とする

【授業の「方法」と「形式」】

テキストや資料を読みながら、話し合い形式で学習者主体で進める

【履修時の「留意点」と「心得」】

日本語の運用能力を高め、日本社会、日本文化への理解を深める

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業への取り組みや課題提出や期末レポート提出を点数化して、総合的に判断する。

教科書	日本を話そう＝15のテーマで学ぶ日本事情＝	著者等	日本外国語専門学校	出版社	TheJspanTimes
教科書		著者等		出版社	
参考文献	新聞、その他参考資料等	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	住宅事情	テキストの読み：語句調べ、資料収集、疑問点の設定
第2回	住宅事情	同上
第3回	結婚と女性の社会進出	同上

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	結婚と女性の社会進出	同上
第5回	高齢化社会	同上
第6回	高齢化社会	同上
第7回	日本料理	同上
第8回	日本料理	同上
第9回	平等社会と中流意識	同上
第10回	平等社会と中流意識	同上
第11回	教育	同上
第12回	教育	同上
第13回	伝統芸術	同上
第14回	伝統芸術	同上
第15回	日本的経営	同上

科目名(クラス)	日本事情ⅢB	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	高岸美代子	履修対象・条件	外国人留学生のみ履修可				

【授業の概要】

本科目は日本語を学習する者を対象にして、日本語の背景としての日本の文化、現代の日本社会と日本人の実態を幅広く紹介し、日本についての理解を得るものである。

【授業の到達目標】

本科目は日本語能力中上級レベルの学生を対象として、日本語の運用能力を高め、日本社会への理解を深めることを目的とする

【授業の「方法」と「形式」】

テキストや資料を読みながら、話し合い形式で学習者主体で進める

【履修時の「留意点」と「心得」】

日本語の運用能力を高め、日本社会、日本文化への理解を深める

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業への取り組みや課題提出や期末レポート提出を点数化して、総合的に判断する。

教科書	日本を話そう＝15のテーマで学ぶ日本事情＝	著者等	日本外国語専門学校	出版社	TheJspanTimes
教科書		著者等		出版社	
参考文献	新聞、その他参考資料等	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	日本的経営	テキストの読み：語句調べ、資料収集、疑問点の設定
第2回	日本人の労働観	同上
第3回	日本人の労働観	同上

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	集団意識と肩書き	同上
第5回	集団意識と肩書き	同上
第6回	小集団活動	同上
第7回	小集団活動	同上
第8回	年中行事	同上
第9回	年中行事	同上
第10回	政治のしくみ	同上
第11回	政治のしくみ	同上
第12回	日本の歴史１	同上
第13回	日本の歴史１	同上
第14回	日本の歴史２	同上
第15回	日本の歴史２	同上

科目名(クラス)	日本事情ⅣA	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	4
担当教員	高岸美代子	履修対象・条件	外国人留学生のみ履修可				

【授業の概要】

本科目は日本語を学習する者を対象にして、日本語の背景としての日本の文化、現代の日本社会と日本人の実態を幅広く紹介し、日本についての理解を得るものである。

【授業の到達目標】

本科目は日本語能力中上級レベルの学生を対象として、日本語の運用能力を高め、日本社会への理解を深めることを目的とする

【授業の「方法」と「形式」】

テキストや資料を読みながら、話し合い形式で学習者主体で進める

【履修時の「留意点」と「心得」】

日本語の運用能力を高め、日本社会、日本文化への理解を深める

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業への取り組みや課題提出や期末レポート提出を点数化して、総合的に判断する。

教科書	日本を話そう＝15のテーマで学ぶ日本事情＝	著者等	日本外国語専門学校	出版社	TheJspanTimes
教科書		著者等		出版社	
参考文献	新聞、その他参考資料等	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	住宅事情	テキストの読み：語句調べ、資料収集、疑問点の設定
第2回	住宅事情	同上
第3回	結婚と女性の社会進出	同上

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	結婚と女性の社会進出	同上
第5回	高齢化社会	同上
第6回	高齢化社会	同上
第7回	日本料理	同上
第8回	日本料理	同上
第9回	平等社会と中流意識	同上
第10回	平等社会と中流意識	同上
第11回	教育	同上
第12回	教育	同上
第13回	伝統芸術	同上
第14回	伝統芸術	同上
第15回	日本的経営	同上

科目名(クラス)	日本事情ⅣB	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	4
担当教員	高岸美代子	履修対象・条件	外国人留学生のみ履修可				

【授業の概要】

本科目は日本語を学習する者を対象にして、日本語の背景としての日本の文化、現代の日本社会と日本人の実態を幅広く紹介し、日本についての理解を得るものである。

【授業の到達目標】

本科目は日本語能力中上級レベルの学生を対象として、日本語の運用能力を高め、日本社会への理解を深めることを目的とする

【授業の「方法」と「形式」】

テキストや資料を読みながら、話し合い形式で学習者主体で進める

【履修時の「留意点」と「心得」】

日本語の運用能力を高め、日本社会、日本文化への理解を深める

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業への取り組みや課題提出や期末レポート提出を点数化して、総合的に判断する。

教科書	日本を話そう＝15のテーマで学ぶ日本事情＝	著者等	日本外国語専門学校	出版社	TheJspanTimes
教科書		著者等		出版社	
参考文献	新聞、その他参考資料等	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	日本的経営	テキストの読み：語句調べ、資料収集、疑問点の設定
第2回	日本人の労働観	同上
第3回	日本人の労働観	同上

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	集団意識と肩書き	同上
第5回	集団意識と肩書き	同上
第6回	小集団活動	同上
第7回	小集団活動	同上
第8回	年中行事	同上
第9回	年中行事	同上
第10回	政治のしくみ	同上
第11回	政治のしくみ	同上
第12回	日本の歴史１	同上
第13回	日本の歴史１	同上
第14回	日本の歴史２	同上
第15回	日本の歴史２	同上

科目名(クラス)	日本語1	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	一林　久美子	履修対象・条件	留学生のみ履修可				

【授業の概要】

・この授業では、日常生活で使われている日本語のことばや言い方を学習していく。
・コミュニケーションに必要なことばや自分のことを話すための表現を学習し、問題を解きながら定着を図る。

【授業の到達目標】

・日常生活で使われている日本語が理解でき、更に使えるようになる。
・日本人との日常的なコミュニケーションに自信が持てる。

【授業の「方法」と「形式」】

・各単元ごとに、問題を解くことや文を作ることで定着を計る。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・積極的に授業に参加することを望む。
・予習・復習をして理解すること。問題を解いて疑問点を明らかにしておくこと。
・授業の際には、日本語と母語の辞書を持参すること。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・授業への参加度　20%
・筆記試験（小テストと期末テスト）80%

教科書	日本語能力試験対策にほんごチャレンジ3級	著者等	吉田聖子他	出版社	アスク
教科書	留学生のための漢字の教科書 700	著者等	佐藤尚子	出版社	国書刊行会
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	オリエンテーション	予習：シラバスを読み視点を押さえておく。 復習：教科書全体の視点を読み取る。
第2回	世界と日本／日本の一年／時間と数	予習：教科書にある語彙を調べる。 復習：数や数詞の言い方を理解する。小テストに備える。
第3回	小テスト 一日／一週間	予習：教科書にある語彙を調べる。 復習：一日の行動を伝えられるようにする。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	形・色の表現／人の体の表現／食べ物・飲み物	予習：教科書にある語彙を調べる。 復習：好きな色、食べ物などについて話せるようにする。小テストに備える。
第5回	小テスト 家庭／夢を語る	予習：教科書にある語彙を調べる。 復習：家族や自分の夢について話せるようにする。これまでのまとめとしての中間テストに備える。
第6回	中間まとめ	予習：まとめの中間テストに備える。 復習：テストでできなかったところを学びなおす。
第7回	買い物／部屋にあるもの	予習：教科書にある語彙を調べる。 復習：学んで語彙を使って買い物をしてみる。
第8回	小テスト 料理と食事／町	予習：教科書にある語彙を調べる。 復習：前に食べた物について話す。料理の説明をする。
第9回	交通／趣味／学校	予習：教科書にある語彙を調べる。 復習：大学までの道筋を語る。趣味や学歴について話す。小テストに備える。
第10回	小テスト 公共物の利用／感情・体調	予習：教科書にある語彙を調べる。 復習：公共施設を利用してみる。自分の感情を表現してみる。
第11回	行動表現／人物表現／パーティ	予習：教科書にある語彙を調べる。 復習：一日やったことを書く。小テストに備える
第12回	小テスト 役所の書類／自己紹介	予習：教科書にある語彙を調べる。 復習：自分の家族について話せるようにする。
第13回	会社の語彙／挨拶	予習：教科書にある語彙を調べる。 復習：会社に関する語彙の理解を深める。自己紹介をする。
第14回	まとめ1	予習：これまでの表現を使って自己紹介や自分のしたことを話せるようにする。 復習：うまく表現できなかったことを復習する。来週の期末テストに備える
第15回	まとめ2	予習：各回のテーマを振り返る。 復習：これまで十分な理解ができなかったところを学び理解を進める。

科目名(クラス)	日本語2	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	1
担当教員	一林　久美子	履修対象・条件	留学生のみ履修可				

【授業の概要】

・この授業では、実社会で使われている日本語の語彙や表現を学習していく。
・背景知識として日本の文化や商慣習なども考えながら、必要な語彙や表現を学習していく。

【授業の到達目標】

・日常生活で使われている日本語が理解でき、更に使えるようになる。
・日本人との日常的なコミュニケーションに自信が持てる。

【授業の「方法」と「形式」】

・各単元ごとにCDを聴き、問題を解くことや文を作ることで表現の定着を計る。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・積極的に授業に参加することを望む。
・それには予習をし、問題を解いて疑問点を明らかにしておくこと。
・授業の際には、日本語と母語の辞書を持参すること。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・授業への参加度　20%
・筆記試験（小テストと期末テスト）80%

教科書	中級からはじめるニュースの日本語　聴解40	著者等	瀬川由美他	出版社	スリーエーネットワーク
教科書		著者等		出版社	
参考文献	外来語言い換え手引き	著者等	国研「外来語」委員会	出版社	ぎょうせい
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	オリエンテーション	予習：シラバスを読み視点を押さえておく。 復習：教科書全体の視点を読み取る。
第2回	ニュース1：「ペンギン逃げ出す」	予習：教科書にある語彙を調べる。 復習：授業で学んだ語彙の理解を深める。 まとめて伝えられるようにする。
第3回	ニュース2：「心を持つ掃除機」	予習：教科書にある語彙を調べる。 復習：授業で学んだ語彙の理解を深める。 まとめて伝えられるようにする。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	ニュース３:「避難訓練」	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:授業で学んだ語彙の理解を深める。 まとめて伝えられるようにする。
第5回	ニュース４:「眠い日本人」	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:授業で学んだ語彙の理解を深める。 まとめて伝えられるようにする。
第6回	ニュース５:「ネットにいじめの動画」	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:授業で学んだ語彙の理解を深める。 まとめて伝えられるようにする。
第7回	ニュース６:「優先席２倍に増設」	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:授業で学んだ語彙の理解を深める。 まとめて伝えられるようにする。
第8回	ニュース７:「意外と少ないジューンブライト」	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:授業で学んだ語彙の理解を深める。 まとめて伝えられるようにする。
第9回	ニュース８:「一足先に夏」	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:授業で学んだ語彙の理解を深める。 まとめて伝えられるようにする。
第10回	ニュース９:「大手ビールメーカー」	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:授業で学んだ語彙の理解を深める。まとめて伝えられるようにする。
第11回	ニュース１０:「日本は安全な国」	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:授業で学んだ語彙の理解を深める。 まとめて伝えられるようにする。
第12回	ニュース１１:「北海道で激しい雷雨」	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:授業で学んだ語彙の理解を深める。 まとめて伝えられるようにする。
第13回	ニュース１２:「駅のホームでの事故」	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:授業で学んだ語彙の理解を深める。 まとめて伝えられるようにする。
第14回	ニュース１３:「お盆の帰省ラッシュ」	予習:教科書にある語彙を調べる。 復習:授業で学んだ語彙の理解を深める。 まとめて伝えられるようにする。
第15回	まとめ	予習:各回のテーマを振り返る。 復習:これまで十分な理解ができなかったところを学び理解を進める。

科目名(クラス)	日本語3	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	一林　久美子	履修対象・条件	留学生のみ履修可				

【授業の概要】

・この授業では、実社会で使われている日本語の語彙や表現を学習していく。
・背景知識として日本の文化や商慣習なども考えながら、必要な語彙や表現を学習していく。

【授業の到達目標】

・日常生活で使われている日本語が理解でき、更に使えるようになる。
・日本人との日常的なコミュニケーションに自信が持てる。

【授業の「方法」と「形式」】

・各単元ごとに、問題を解くことや文を作ることで定着を計る。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・積極的に授業に参加することを望む。
・それには予習をし、問題を解いて疑問点を明らかにしておくこと。
・授業の際には、日本語と母語の辞書を持参すること。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・授業への参加度　20%
・筆記試験（小テストと期末テスト）80%

教科書	絵でわかる日本語使い分け辞典1000	著者等	萩原稚佳子	出版社	アルク
教科書		著者等		出版社	
参考文献	外来語言い換え手引き	著者等	外来語言い換え手引き	出版社	ぎょうせい
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	オリエンテーション	予習：シラバスを読み視点を押さえておく。 復習：教科書全体の視点を読み取る。
第2回	4月の語彙	予習：教科書にある4月の語彙を調べる。 復習：授業で学んだ電車に関する語彙の理解を深める。
第3回	4月の擬声語・擬態語	予習：教科書にある擬声語・擬態語を押さえる。 復習：授業で学んだ飲食に関する語彙の理解を深める。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	5月の語彙	予習：教科書にある5月の語彙を調べる。 復習：授業で学んだ黄金週間に関する語彙の理解を深める。
第5回	5月の擬声語・擬態語	予習：教科書にある擬声語・擬態語を押さえる。 復習：授業で学んだ気持ちに関する語彙の理解を深める。
第6回	4・5月の語彙の復習	予習：4・5月の語彙を再び調べる。 復習：テストでできなかったところを学びなおす。
第7回	6月の語彙	予習：教科書にある6月の語彙を調べる。 復習：授業で学んだ天気に関する語彙の理解を深める。
第8回	6月の擬声語・擬態語	予習：教科書にある擬声語・擬態語を押さえる。 復習：授業で学んだ壊れることに関する語彙の理解を深める。
第9回	7月の語彙	予習：教科書にある7月の語彙を調べる。 復習：授業で学んだ海水浴に関する語彙の理解を深める。
第10回	7月の擬声語・擬態語	予習：教科書にある擬声語・擬態語を押さえる。 復習：授業で学んだ視線に関する語彙の理解を深める。
第11回	6・7月の復習	予習：6・7月の語彙を再び調べる。 復習：テストでできなかったところを学びなおす。
第12回	8月の語彙	予習：教科書にある8月の語彙を調べる。 復習：授業で学んだ夏休みに関する語彙の理解を深める。
第13回	8月の擬声語・擬態語	予習：教科書にある擬声語・擬態語を押さえる。 復習：授業で学んだ祭りに関する語彙の理解を深める。
第14回	9月の語彙	予習：教科書にある9月の語彙を調べる。 復習：授業で学んだ眠りに関する語彙の理解を深める。
第15回	まとめ	予習：各回のテーマを振り返る。 復習：これまで十分な理解ができなかったところを学び理解を進める。

科目名(クラス)	日本語4	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	2
担当教員	一林　久美子	履修対象・条件	留学生のみ履修可				

【授業の概要】

・背景知識として日本の文化や商慣習なども考えながら、必要な語彙や表現を学習していく。
・日本の社会で使われている日本語が理解でき、更に使えるようになることが、この授業の目的である。

【授業の到達目標】

・日常生活で使われている日本語が理解でき、更に使えるようになる。
・日本人との日常的なコミュニケーションに自信が持てる。

【授業の「方法」と「形式」】

・各単元ごとに、問題を解くことや文を作ることで定着を計る。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・積極的に授業に参加することを望む。
・それには予習をし、問題を解いて疑問点を明らかにしておくこと。
・授業の際には、日本語と母語の辞書を持参すること。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・授業への参加度　20%
・筆記試験（小テストと期末テスト）80%

教科書	絵でわかる日本語使い分け辞典1000	著者等	萩原稚佳子	出版社	アルク
教科書		著者等		出版社	
参考文献	外来語言い換え手引き	著者等	国研「外来語」委員会	出版社	ぎょうせい
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	オリエンテーション	予習：シラバスを読み視点を押さえておく。 復習：教科書全体の視点を読み取る。
第2回	9月の擬声語・擬態語	予習：教科書にある擬声語・擬態語を調べる。 復習：授業で学んだ体型に関する語彙の理解を深める。
第3回	10月の語彙	予習：教科書にある語彙を押さえる。 復習：授業で学んだ泣き方に関する語彙の理解を深める。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	10月の擬声語・擬態語	予習：教科書にある擬声語・擬態語を押さえる。 復習：授業で学んだ泣き声に関する語彙の理解を深める。
第5回	9・10月の語彙の復習	予習：9・10月の語彙を再び調べる。 復習：テストでできなかったところを学びなおす。
第6回	11月の語彙	予習：教科書にある11月の語彙を調べる。 復習：授業で学んだ剥がし方に関する語彙の理解を深める。
第7回	11月の擬声語・擬態語	予習：教科書にある擬声語・擬態語を押さえる。 復習：授業で学んだ働き方に関する語彙の理解を深める。
第8回	12月の語彙	予習：教科書にある12月の語彙を調べる。 復習：授業で学んだ「つく」「立てる」に関する語彙の理解を深める。
第9回	12月の擬声語・擬態語	予習：教科書にある擬声語・擬態語を押さえる。 復習：授業で学んだ動きに関する語彙の理解を深める。
第10回	11・12月の復習	予習：11・12月の語彙を再び調べる。 復習：テストでできなかったところを学びなおす。
第11回	1月の語彙	予習：教科書にある1月の語彙を調べる。 復習：授業で学んだ正月に関する語彙の理解を深める。
第12回	1月の擬声語・擬態語	予習：教科書にある擬声語・擬態語を押さえる。 復習：授業で学んだ立ち方に関する語彙の理解を深める。
第13回	2月の語彙	予習：教科書にある2月の語彙を調べる。 復習：授業で学んだ覆うことに関する語彙の理解を深める。
第14回	2月の擬声語・擬態語	予習：教科書にある擬声語・擬態語を押さえる。 復習：授業で学んだ感触に関する語彙の理解を深める。
第15回	まとめ	予習：各回のテーマを振り返る。 復習：これまで十分な理解ができなかったところを学び理解を進める。

科目名(クラス)	日本語5	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	3
担当教員	一林　久美子	履修対象・条件	留学生のみ履修可				

【授業の概要】

・ある課題が与えられた時に、その課題を遂行するために必要な日本語によるコミュニケーション能力を高めていくようにする。
・文型練習と読解を組み合わせた問題を解きながら、日本語の語彙や文法を習得し使用できるようになる。

【授業の到達目標】

・日本語能力試験１級に合格できる程度の日本語能力を身につける。
・日本での社会生活に不自由なく順応できるストラテジーに身につける。

【授業の「方法」と「形式」】

・各単元ごとに、問題を解くことや文を作ることで定着を計る。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・積極的に授業に参加することを望む。
・それには予習をし、問題を解いて疑問点を明らかにしておくこと。
・授業の際には、日本語と母語の辞書を持参すること。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・授業への参加度　　20%
・筆記試験（小テストと期末テスト）80%

教科書	日本能力試験レベルアップトレーニング 文法	著者等	坂本勝信	出版社	アルク
教科書		著者等		出版社	
参考文献	留学生のための漢字の教科書　中級700	著者等	佐藤尚子	出版社	国書刊行会
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	オリエンテーション	予習：シラバスを読み視点を押さえておく。 復習：教科書全体の視点を読み取る。
第2回	第１部　文の文法１ ことがらを説明する：「時間関係」「範囲の始まり・限度」	予習：語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習：できなかった問題を整理し、理解を進める。
第3回	ことがらを説明する：限定」「非限定・付加」「例示」	予習：語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習：できなかった問題を整理し、理解を進める。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	ことがらを説明する:「関連・無関係」「様子」	予習:語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習:できなかった問題を整理し、理解を進める。
第5回	ことがらを説明する:「付随行動」 主観を含めて説明する:「逆説」	予習:語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習:できなかった問題を整理し、理解を進める。
第6回	主観を含めて説明する:「条件」「逆説条件」	予習:語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習:できなかった問題を整理し、理解を進める。
第7回	主観を含めて説明する:「目的・手段」「原因・理由」	予習:語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習:できなかった問題を整理し、理解を進める。
第8回	中間まとめ	予習:まとめの中間テストに備える。 復習:テストでできなかったところを学びなおす。
第9回	主観を含めて説明する:「可能・不可能・禁止」「話題・評価の基準」	予習:語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習:できなかった問題を整理し、理解を進める。
第10回	主観を含めて説明する:「比較対象」「結末・最終の状態」	予習:語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習:できなかった問題を整理し、理解を進める。
第11回	主観を含めて説明する:「強調」 主観を述べる:「主張・断定」	予習:語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習:できなかった問題を整理し、理解を進める。
第12回	主観を述べる:「評価・感想」「心情・強制的思い」	予習:語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習:できなかった問題を整理し、理解を進める。
第13回	第2部　文の文法2 「文の組み立て」	予習:語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習:できなかった問題を整理し、理解を進める。
第14回	第3部　文章の文法	予習:語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習:できなかった問題を整理し、理解を進める。
第15回	まとめ	予習:各回のテーマを振り返る。 復習:これまで十分な理解ができなかったところを学び理解を進める。

科目名(クラス)	日本語6	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	3
担当教員	一林　久美子	履修対象・条件	留学生のみ履修可				

【授業の概要】

・ある課題が与えられた時に、その課題を遂行するために必要な日本語によるコミュニケーション能力を高めていくようにする。
・文型練習と読解を組み合わせた問題を解きながら、日本語の語彙や文法を習得し使用できるようになる。

【授業の到達目標】

・日本語能力試験１級に合格できる程度の日本語能力を身につける。
・日本での社会生活に不自由なく順応できるストラテジーに身につける。

【授業の「方法」と「形式」】

・各単元ごとに、問題を解くことや文を作ることで定着を計る。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・積極的に授業に参加することを望む。
・それには予習をし、問題を解いて疑問点を明らかにしておくこと。
・授業の際には、日本語と母語の辞書を持参すること。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・授業への参加度　　20%
・筆記試験（小テストと期末テスト）80%

教科書	留学生のための読解トレーニング	著者等	石黒圭	出版社	凡人社
教科書		著者等		出版社	
参考文献	留学生のための漢字の教科書　中級700	著者等	佐藤尚子	出版社	国書刊行会
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	オリエンテーション	予習：シラバスを読み視点を押さえておく。 復習：教科書全体の視点を読み取る。
第2回	文を理解するために １　語のまとまり	予習：語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習：できなかった問題を整理し、理解を進める。
第3回	文を理解するために ２ 「する／される」の関	予習：語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習：できなかった問題を整理し、理解を進める。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	文を理解するために３　文の構造	予習：語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習：できなかった問題を整理し、理解を進める。
第5回	文を理解するために４　前件と後件	予習：語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習：できなかった問題を整理し、理解を進める。
第6回	文の連続を理解する１　指示詞がさすもの	予習：語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習：できなかった問題を整理し、理解を進める。
第7回	文の連続を理解する２　省略されているものを考える	予習：語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習：できなかった問題を整理し、理解を進める。
第8回	中間まとめ	予習：まとめの中間テストに備える。 復習：テストでできなかったところを学びなおす。
第9回	文の連続を理解する３　関連のある言葉を探す	予習：語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習：できなかった問題を整理し、理解を進める。
第10回	文章の展開を理解する１　文末に注目する	予習：語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習：できなかった問題を整理し、理解を進める。
第11回	文章の展開を理解する２　大切なことを伝えるサイン	予習：語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習：できなかった問題を整理し、理解を進める。
第12回	知識を使って理解する１　素早く理解する	予習：語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習：できなかった問題を整理し、理解を進める。
第13回	知識を使って理解する２　話題を見抜く	予習：語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習：できなかった問題を整理し、理解を進める。
第14回	知識を使って理解する３　ストーリーの読み方 ４　読み間違い	予習：語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習：できなかった問題を整理し、理解を進める。
第15回	まとめ	予習：各回のテーマを振り返る。 復習：これまで十分な理解ができなかったところを学び理解を進める。

科目名(クラス)	日本語7	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	4
担当教員	一林　久美子	履修対象・条件	留学生のみ履修可				

【授業の概要】

・ある課題が与えられた時に、その課題を遂行するために必要な日本語によるコミュニケーション能力を高めていくようにする。
・文型練習と読解を組み合わせた問題を解きながら、日本語の語彙や文法を習得し使用できるようになる。

【授業の到達目標】

・日本語能力試験１級に合格できる程度の日本語能力を身につける。
・日本での社会生活に不自由なく順応できるストラテジーを身につける。

【授業の「方法」と「形式」】

・各単元ごとに、問題を解くことや文を作ることで定着を計る。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・積極的に授業に参加することを望む。
・それには予習をし、問題を解いて疑問点を明らかにしておくこと。
・授業の際には、日本語と母語の辞書を持参すること。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・授業への参加度　　20%
・筆記試験（小テストと期末テスト）80%

教科書	読む力　中上級	著者等	奥田純子	出版社	くろしお出版
教科書		著者等		出版社	
参考文献	留学生のための漢字の教科書　上級1000	著者等	佐藤尚子	出版社	国書刊行会
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	オリエンテーション	予習：シラバスを読み視点を押さえておく。 復習：教科書全体の視点を読み取る。
第2回	クリティカルリーディング	予習：語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習：できなかった問題を整理し、理解を進める。
第3回	ニュースの読み方	予習：語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習：できなかった問題を整理し、理解を進める。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	価値の一様性	予習：語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習：できなかった問題を整理し、理解を進める。
第5回	言葉の起源を求めて	予習：語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習：できなかった問題を整理し、理解を進める。
第6回	経済学とは何か	予習：語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習：できなかった問題を整理し、理解を進める。
第7回	思いやり	予習：語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習：できなかった問題を整理し、理解を進める。
第8回	中間まとめ	予習：まとめの中間テストに備える。 復習：テストでできなかったところを学びなおす。
第9回	住まい方の思想	予習：語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習：できなかった問題を整理し、理解を進める。
第10回	行き先があるのみ	予習：語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習：できなかった問題を整理し、理解を進める。
第11回	環境変容に関する意識調査	予習：語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習：できなかった問題を整理し、理解を進める。
第12回	介護概論	予習：語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習：できなかった問題を整理し、理解を進める。
第13回	言葉の構造	予習：語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習：できなかった問題を整理し、理解を進める。
第14回	化粧する脳	予習：語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習：できなかった問題を整理し、理解を進める。
第15回	まとめ	予習：各回のテーマを振り返る。 復習：これまで十分な理解ができなかったところを学び理解を進める。

科目名(クラス)	日本語8	開講学期	後期	単位数	1	配当年次	4
担当教員	一林　久美子	履修対象・条件	留学生のみ履修可				

【授業の概要】

・日本語でビジネス活動が行えるように、実践的な会話を通してビジネス用語や立ち居ふるまいなどを習得する。
・実際にロールプレイを行いながら、戦略会話に沿ってスムーズに話せるようにしていく。

【授業の到達目標】

・日本社会で働けるような日本語の敬語やマナーを理解し使えるようになる。
・日本での社会生活に不自由なく順応できるストラテジーに身につける。

【授業の「方法」と「形式」】

・各単元ごとに、問題を解くことや文を作ることで定着を計る。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・積極的に授業に参加することを望む。
・それには予習をし、問題を解いて疑問点を明らかにしておくこと。
・授業の際には、日本語と母語の辞書を持参すること。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・授業への参加度　20%
・筆記試験（小テストと期末テスト）80%

教科書	人を動かす実践ビジネス日本語会話【上級】	著者等	宮崎道子	出版社	スリーエーネットワーク
教科書		著者等		出版社	
参考文献	外来語言い換え手引き	著者等	国研「外来語」委員会	出版社	ぎょうせい
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	オリエンテーション	予習：シラバスを読み視点を押さえておく。 復習：教科書全体の視点を読み取る。
第2回	第１課　アポイントメント	予習：語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習：できなかった問題を整理し、理解を進める。
第3回	第２課　業務引き継ぎ	予習：語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習：できなかった問題を整理し、理解を進める。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	第3課　面会して交渉する	予習：語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習：できなかった問題を整理し、理解を進める。
第5回	第4課　個人客からの苦情	予習：語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習：できなかった問題を整理し、理解を進める。
第6回	第5課　個人客からの苦情（2）上司に引き継ぐ	予習：語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習：できなかった問題を整理し、理解を進める。
第7回	第6課　トラブル処理（1）	予習：語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習：できなかった問題を整理し、理解を進める。
第8回	中間まとめ	予習：まとめの中間テストに備える。 復習：テストでできなかったところを学びなおす。
第9回	第7課　トラブル処理（2）上司への報告	予習：語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習：できなかった問題を整理し、理解を進める。
第10回	第8課　謝罪する	予習：語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習：できなかった問題を整理し、理解を進める。
第11回	第9課　インタビュー・取材	予習：語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習：できなかった問題を整理し、理解を進める。
第12回	第10課　議論する	予習：語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習：できなかった問題を整理し、理解を進める。
第13回	調査の仕方、グラフや表の書き方	予習：語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習：できなかった問題を整理し、理解を進める。
第14回	第11課　プレゼンテーション	予習：語彙を調べ、理解できるようにしておく。 復習：できなかった問題を整理し、理解を進める。
第15回	まとめ	予習：各回のテーマを振り返る。 復習：これまで十分な理解ができなかったところを学び理解を進める。

科目名(クラス)	教職入門	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	粕谷　宏美 西田　康子	履修対象・条件	教職課程履修者及び教職実践専攻のみ履修可。必修。				

【授業の概要】

本科目では教員志望者に対して、教職とは何か、教員の役割とは何かについて考察するための視点を育てる科目です。
・教職の意義を考え、職務内容等に関する基本的な知識の習得を通して、教職についての理解を深めます。
・レタリングや他者とのディスカッションを通して教職について考察し、教員になることへの動機づけを図ります。
授業のテーマは予定であり、進行状況によって変更することがあります。

【授業の到達目標】

・自らが体験してきた教育環境を思い出し、出会った教師の姿などを想像して教師の役割を理解することができる。
・今日の教育課題を理解し、将来教職に就くことを視野に入れて自らの考えをまとめ、発表することができる。
・基本的な教育法規を理解し、教育公務員としての教師の立場を理解することができる。

【授業の「方法」と「形式」】

・講義形式だけでなく、レタリングやグループワークを積極的に取り入れます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・新聞や教育雑誌、インターネット等を活用し、日頃から教育問題についての理解を深めてください。
・教師とは何かについて真剣に考え、授業でのテーマについて積極的に議論に参加できるよう準備してください。
・配布したプリントはポートフォリオとしてまとめておいてください。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・各テーマにおけるプレゼンテーション力及び小テスト（30%）
・課題レポートの提出及び内容（20%）
・学期末に行う筆記試験（30%）
・積極性・貢献度などの授業への参加度（20%）

教科書	中学校学習指導要領総則編	著者等	文部科学省	出版社	教育芸術社
教科書		著者等		出版社	
参考文献	必要に応じて資料を配布します。	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	授業概要の説明（履修動機について）	予習：シラバスをよく読んでおく。 復習：教師を目指す動機についてまとめておく。
第2回	コミュニケーション力	予習：人前で発表できるよう準備しておく。 復習：教師が生徒に与える影響について理解し、自らの課題を把握する。
第3回	教職の理解①（教師の一日）	予習：教師の勤務内容について、事前に調査してまとめ、ディスカッションができるようにしておく。 復習：教師の仕事と職責を理解する。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	教職の理解②（各自治体が求める教師）	予習：各自治体が求める教師像について、インターネットなどを活用して調べておく。 復習：教師の資質として何が大切かを理解する。
第5回	教職の理解④（理想の教師像）	予習：自分が描く理想の教師像について、記述、発表できるようにしておく。 復習：理想の教師を目指して努力する点を明らかにする。
第6回	教職の理解⑤（教育は人なり）	予習：教師が子供や社会に与える影響について考えておくこと。 復習：豊かな人間性について考察する。
第7回	前半のまとめ（ブックレポートの発表と提出）	予習：日頃から教育関連図書を購読し、重要な点を書き留めておく。 復習：他者の発表を参考にして、教職への視点を深める。
第8回	教師の待遇と勤務条件①	予習・復習：テーマについては、文献や資料、インターネット等を活用し、必要な知識を得ておく。
第9回	教師の待遇と勤務条件②	予習・復習：テーマについては、文献や資料、インターネット等を活用し、必要な知識を得ておく。
第10回	教師の待遇と勤務条件③	予習・復習：テーマについては、文献や資料、インターネット等を活用し、必要な知識を得ておく。
第11回	教員の研修	予習・復習：テーマについては、文献や資料、インターネット等を活用し、必要な知識を得ておく。
第12回	今日の教育課題	予習・復習：テーマについては、文献や資料、インターネット等を活用し、必要な知識を得ておく。
第13回	特別支援教育	予習・復習：テーマについては、文献や資料、インターネット等を活用し、必要な知識を得ておく。
第14回	障碍者の理解	予習・復習：テーマについては、文献や資料、インターネット等を活用し、必要な知識を得ておく。
第15回	本科目の総括（最終試験）	本授業で学んだ知識をまとめ、理解しておく。

科目名(クラス)	教育学概説	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	石橋　裕	履修対象・条件	教職課程履修者と教職実践専攻および音楽療法専攻は必修				

【授業の概要】

西洋と日本の教育思想史の概観を捉えた上で、学校教育、家庭教育、社会教育それぞれの特徴や課題について学ぶ。特に公教育としての学校教育に視点をあて、学習指導要領の変遷や内容の概要を理解するとともに、教員として必要な基礎的知識を身に付けていく。

【授業の到達目標】

・現代教育の概観について学習し、学習指導要領の内容から体系的に学校教育の概要をつかむことができる。
・学校教育をめぐる諸課題について多面的・多角的に考察することができる。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式及び主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の体験的な学習形式

【履修時の「留意点」と「心得」】

学習の履歴としてノートに授業内容を整理して記述し、講義で学んだ概念等について発展的に調べる姿勢が大切です。授業中は、協働的な学習や発表を行っていきますので、意欲的に取り組んで下さい。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・ノートからの学習の履歴による評価…30%
・授業参加の積極性、発言内容…10%
・筆記試験…60%

教科書	中学校学習指導要領解説ー総則編	著者等	文部科学省	出版社	ぎょうせい
教科書	教職六法（2018年版）	著者等	若井　彌一他	出版社	協同出版
参考文献	教育思想史	著者等	今井　康雄	出版社	有斐閣アルマ
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	ガイダンス ・教育とは ・授業計画について	予習：シラバスを読んで、興味・関心がある授業内容を選び、その理由を考える。 復習：教育の概念について整理する。 ※大学ノート1冊を用意する。
第2回	家庭教育 ・教育の基盤としての家庭教育 ・家庭における音楽教育	予習：自分が家庭教育で学んだこと及び音楽と家庭教育との関連について考えておく。 復習：幼児期からの家庭教育の内容と意義について整理する。
第3回	社会教育 ・社会教育の目的、内容 ・学校・家庭・地域との連携	予習：身近な社会教育の例を1つあげ、調べてくる。 復習：生涯学習時代の社会教育と音楽との関連をまとめる。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	学校教育 ・学校教育の目的、内容 ・学校における音楽教育	予習：中学校、高等学校で影響を受けた教師を一人上げ、その理由を考える。 復習：学校教育の目的・目標・内容と音楽教育との関連を整理する。
第5回	西洋教育史 ・教育思想史からつかむ現代の教育	予習：ルソー、ペスタロッチ、デューイについて簡略に調べる。 復習：教育思想史の流れと現代の教育との関連をつかむ。
第6回	日本の教育思想と学校教育制度 ・近世、近代における日本の教育思想 ・学校教育制度の変遷	予習：中等教育学校、学校選択制について調べる。 復習：戦前・戦後の教育思想及び学校教育制度の違いおよび今後の学校教育制度の方向性についてまとめる。
第7回	学習指導要領の変遷からとらえた現代学校教育（1） ・ゆとり教育前後から現行の学習指導要領	予習：現行の中学校学習指導要領における音楽の授業時数を調べる。 復習：ゆとり教育と現行の学習指導要領の違いを整理する。
第8回	学習指導要領の変遷からとらえた現代学校教育（2） ・現行の学習指導要領から改訂新学習指導要領（案） ・主体的・対話的で深い学びとは	予習：文部科学省が定義する「確かな学力」とはどのような内容か調べる。 復習：改訂学習指導要領（案）の特徴とアクティブ・ラーニングの具体についてまとめる。
第9回	現代の子どもをめぐる諸問題 ・いじめ問題 ・不登校 ・学習環境の格差	予習：「SNS」の利点、欠点について考える。 復習：子どもをめぐる諸問題を考察して、自分の考えをまとめる。
第10回	教員の服務と仕事 ・教員の服務 ・音楽科教員と校務分掌	予習：学校教育における音楽科教員の果たす役割について考える。 復習：「教員の一日」として、服務と仕事についてまとめる。
第11回	特別支援教育 ・障害の種別と支援体制 ・インクルーシブ教育の現状と音楽教育の果たす役割	予習：「ユニバーサルデザイン」について調べる。 復習：特別支援教育の概要を整理し、発達障害等の障害のある生徒の指導方法について音楽教育を中心にまとめる。
第12回	人権教育 ・様々な人権課題 ・人権感覚の育成と音楽教育	予習：人権課題にはどのようなものがあるのか調べる。 復習：人権問題の実態を整理し、人権感覚の育成に果たす音楽教育の役割を考える。
第13回	防災教育 ・実践的防災教育の実際 ・災害における学校の役割	予習：災害の種類について調べる。 復習：実践的防災訓練の実態と災害時の学校、教職員の役割をまとめる。
第14回	進路指導・キャリア教育 ・特別活動、総合的な学習の時間におけるキャリア教育 ・生徒指導の一環としての進路指導・キャリア教育	予習：自分自身が音楽大学を目指した時期とその理由をまとめてくる。 復習：社会的・職業的自立に必要な能力や発達を促す視点で、授業内容をまとめる。
第15回	本科目の総括 ・学校における音楽科教師の役割	予習：今までの授業を振り返り、内容を整理する。 復習：教育の概要について体系的に整理する。

科目名(クラス)	教育心理学a・b	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	中島実穂	履修対象・条件	教職課程履修者・教職実践専攻は必修				

【授業の概要】

教育心理学とは、学校教育や家庭、社会において人がどのように学んでいるかを、心理学的な知見から理解しようとする学問です。この授業では、教育心理学における基礎的な知見を紹介し、教育現場における方針のもととなっている心理学的な知識を身に付けることを目標としています。

【授業の到達目標】

教育心理学において基礎的な考え方や概念を理解できている。
教育心理学において提唱されている概念を基に、自分の意見を述べたり、議論することができる。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式

【履修時の「留意点」と「心得」】

心理学的な概念をただ理解するだけではなく、それを基に自分の意見を考え、まとめるということも求められます。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業態度（授業内課題、小テストなど）　30%
筆記試験 70%

教科書	やさしい教育心理学	著者等	鎌原雅彦・竹網誠一郎	出版社	有斐閣
教科書		著者等		出版社	
参考文献	教育心理学ルックアラウンド ーわかりたいあなたのための教育心理学ー	著者等	山崎史郎	出版社	おうふう
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	オリエンテーション 教育心理学とは何か	予習：教科書の該当箇所を読む。 復習：授業でとったノートを おさらいする。
第2回	発達Ⅰ 認知的発達段階	同上
第3回	発達Ⅱ 心理性的発達段階	同上

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	発達Ⅲ 社会的発達段階	同上
第5回	学習Ⅰ 学習のメカニズム	同上
第6回	学習Ⅱ 記憶のメカニズム	同上
第7回	学習Ⅲ 学習意欲と学習指導	同上
第8回	パーソナリティⅠ 性格の捉え方	同上
第9回	パーソナリティⅡ アイデンティティの確立	同上
第10回	知能Ⅰ	同上
第11回	知能Ⅱ	同上
第12回	集団心理	同上
第13回	不適応的行動	同上
第14回	障害の理解、カウンセリング	同上
第15回	総括	同上

科目名(クラス)	教育方法ーa・b	開講学期	a前期 b後期	単位数	2	配当年次	3
担当教員	石橋　裕	履修対象・条件	教職課程履修者と教職実践専攻は必修				

【授業の概要】

学校教育における教師の役割と求められる資質・能力について学び、教育方法の基礎的な知識・技能を身に付ける。また、現在の教育課題である学力向上をはじめとする諸課題に対応した指導方法及び評価方法について、体験しながら考察していく。また、教育課程の内容について、その概要を理解していく。

【授業の到達目標】

・教育方法の基礎的な知識を身に付けるとともに、現在求められている学力向上をはじめとする諸課題に対応した多様な指導方法及び評価方法について意欲的に考察していくことができる。
・学校教育における教育課程実施上の配慮事項について理解できる。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式及び主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の体験的な学習形式

【履修時の「留意点」と「心得」】

学習の履歴としてノートに授業内容を整理して記述し、講義で学んだ概念等について発展的に調べる姿勢が大切です。授業中は、協働的な学習や発表を行っていきますので、意欲的に取り組んで下さい。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・ノートの学習の履歴による評価…30%
・授業参加の積極性、発言内容…10%
・筆記試験…60%

教科書	新しい教育の方法と技術	著者等	篠原正典・宮寺晃夫	出版社	
教科書	中学校学習指導要領解説ー総則編	著者等		出版社	
参考文献	中学校学習指導要領解説ー音楽	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	ガイダンス ・シラバス、授業計画について ・今求められている授業改善の目的と方向性	予習:教育基本法第1条、2条、学校教育法第21条を読んでくる。 復習:シラバスの内容から、詳しく調べたい項目をノート に書き出す。 ※大学ノートを1冊用意する。
第2回	教師の役割と理想の教師像 ・教育史から考える ・理想の教師像、教師に求められる資質	予習:生徒の目線から見た「よい教師」について自分の経験をもとに考え、簡略にまとめる。 復習:教師に求められる資質や能力をまとめる。
第3回	教員の職務と技量(1) ・学力向上施策で求められる教育 ・音楽科教員の役割	予習:PISA調査について調べる。 復習:学力向上施策の実態と非認知能力の内容についてまとめる。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	教員の職務と技量（2） ・よくわかる授業とは ・学習意欲を高めるとは	予習：中学校学習指導要領－音楽から目標をノートに書き写してくる。 復習：授業デザインのポイントを整理する。
第5回	学習指導要領から求められる教育方法（1） ・学力観 ・多様な指導方法	予習：「知識基盤社会」「生きる力」について調べる。 復習：習得型、活用型、探求型の授業形態、アティブ・ラーニングの意義についてまとめる。
第6回	学習指導要領から求められる教育方法（2） ・具体的なICTの活用 ・主体的・対話的で深い学び－協調学習を事例として	予習：授業におけるICTの活用例を調べる。 復習：授業におけるICTの活用方法、協調学習 の進め方についてまとめる。
第7回	学習指導要領から求められる教育方法（3） ・音楽教育における言語活動 ・創作活動を通した深い学び	予習：中学校学習指導要領－音楽を読み、言語と関連する記述をノートに書き写す。 復習：音楽教育における言語活動や協働の学びについて整理する。
第8回	学習指導要領から求められる教育方法（4） ・道徳の時間、特別活動の指導方法 ・道徳、特別活動に関わる音楽科の指導内容	予習：音楽教育と関わる学校行事を調べる。 復習：特別活動、道徳の内容と関連する音楽教育の指導内容をまとめる。
第9回	教育における評価（1） ・相対評価と絶対評価 ・メタ認知 ・目標に準拠した評価	予習：中学校音楽の観点別評価の内容を調べる。 復習：目標に準拠した評価、メタ認知について発展的に調べる。
第10回	教育における評価（2） ・多様な評価方法 ・指導と評価の一体化 ・音楽科における評価の実際	予習：「形成的評価」について調べる。 復習：評価方法の種類と特徴をまとめる。
第11回	障害のある子どもの理解と支援（1） ・障害の種別 ・発達障害、学習障害の特徴 ・交流教育の意義	予習：発達障害の種類について調べる。 復習：発達障害、学習障害の特徴と支援方法についてまとめる。
第12回	障害のある子どもの理解と支援（2） ・ユニバーサルデザインに基づく教育 ・インクルーシブ教育	予習：ノーマライゼーションの具体例を調べる。 復習：学校におけるユニバーサルデザインやインクルーシブ教育の意義と具体例をまとめる。
第13回	学校・家庭・地域の連携方法 ・保護者との連携 ・地域住民との連携 ・学校支援地域本部事業	予習：教育基本法第10条、13条を読んでくる。 復習：学校、家庭、地域それぞれの教育の特徴と具体的な連携の実態についてまとめる。
第14回	学級活動・部活動 ・学級経営における生徒理解 ・音楽系部活動における指導の実際	予習：中学校の学級活動の内容について調べる。 復習：生徒指導と関連させて学級経営、部活動指導についてまとめる。
第15回	本科目の総括 ・類型化して授業を振り返る	予習：今までの授業を振り返り、内容を整理する。 復習：学び続ける教師を目指すという自覚を持つ。

科目名(クラス)	教育相談・進路指導a・b	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1
担当教員	森　正樹	履修対象・条件	教職課程履修者・教職実践専攻は必修				

【授業の概要】

授業では、児童思春期の心理的葛藤、いじめ・不登校の問題、発達障害・精神疾患、コミュニケーション不安など、児童・生徒が抱えやすい問題をテーマに講義を展開していきます。さらに教育・進路相談を行う上での基礎理論・技術についても、臨床心理学の知見を参考に教育します。

【授業の到達目標】

児童・生徒の教育相談・進路相談をする上で参考になる心理学的知識・技術を理解する。

【授業の「方法」と「形式」】

パワーポイントを用いた講義に加え、小テストやレポート課題などを行っていきます

【履修時の「留意点」と「心得」】

・遅刻、途中退出は原則として認めません。
・積極的な授業参加を望みます。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・各単元ごとの小テストおよびレポート課題（30%）
・学期末定期試験（筆記試験）（70%）

教科書	毎回、レジュメを配布します	著者等		出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	「教師のための教育相談の基礎」	著者等	久芳美恵子	出版社	三省堂
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	ガイダンス、教育相談とは	予習：シラバスに目を通しておく。 復習：レジュメを振り返る。
第2回	人間の発達と発達課題	予習：「アイデンティティ」について調べる。 復習：レジュメを振り返る。
第3回	性格心理学	予習：「性格心理学」について調べる。 復習：レジュメを振り返る。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	児童・生徒の不安について	予習：「不安の認知理論」について調べる。 復習：レジュメを振り返る。
第5回	児童・生徒の抑うつについて	予習：「抑うつの認知理論」について調べる。 復習：レジュメを振り返る。
第6回	発達障害の対応	予習：「発達障害」について調べる。 復習：レジュメを振り返る。
第7回	コミュニケーションの心理学	予習：「コミュニケーションの心理学」について調べる。 復習：レジュメを振り返る。
第8回	コミュニケーション不安の教育相談	予習：「コミュニケーション不安」について調べる。 復習：レジュメを振り返る。
第9回	いじめ	予習：「同調行動」について調べる。 復習：レジュメを振り返る。
第10回	不登校	予習：「不登校問題の現状」について調べる。 復習：レジュメを振り返る。
第11回	少年非行	予習：「少年非行の現状」について調べる。 復習：レジュメを振り返る。
第12回	教育相談の理論と実技①	予習：「教育相談とカウンセリング」について調べる。 復習：レジュメを振り返る。
第13回	教育相談の理論と実技②	予習：「進路指導」について調べる。 復習：レジュメを振り返る。
第14回	教育相談の理論と実技③	予習：12回、13回の内容をもとに「進路指導」について調べる。 復習：レジュメを振り返る。
第15回	まとめ	予習：これまでのレジュメを振り返る。 復習：レジュメを振り返る。

科目名(クラス)	音楽科教材研究A－a・b	開講学期	前・後	単位数	2	配当年次	3
担当教員	金井良次	履修対象・条件	教職課程履修者で中学校免許状取得希望者のみ必修 教職実践専攻は2単位必修				

【授業の概要】

現場の音楽教師は、専門の如何に関わらず音楽の全ての領域に亘って精通していることが求められます。この科目は、模擬授業やグループワークを通して一人ひとりが音楽教師に必要な知識を深め、指導技術を磨き、実践的技能を高め、総合的な指導力を向上させることを目的としています。授業では、4年次の教育実習を見据え、学習指導要領の内容を改めて学び、2年次に培った知識や理解をより深めます。また、中・高校の音楽教科書に掲載されている教材を分担し、教材研究と模擬授業を行います。さらに、模擬授業を検証するため、グループワークや全体による研究協議会も積極的に実施します。なお、ピアノ弾き歌いテストも適宜実施します。

【授業の到達目標】

・学習指導要領に準拠し、評価規準を盛り込んだ、完成度のより高い学習指導案を作成することができる。
・事前準備から事後レポートなどに至るまで、模擬授業に積極的に取り組むことができる。
・実践的な指導力や技能に優れ、生徒(役)に対し誠意と熱意と愛情をもって接することができる。
・研究協議への高い参加意識や深い思考を持ち、自己の信念に基づいた建設的な発言をすることができる。

【授業の「方法」と「形式」】

講義の他、主に模擬授業、グループワーク、研究協議会等を実施します。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・模擬授業実施者は、準備段階から指導教員と打ち合わせを行い、綿密に計画を練ることが必要です。(実施日は、事前に希望調査を行い、調整しながら決定します)
・作成した指導案は模擬授業の際全員に配布してください。また、資料保存のため、フラットファイルを各自用意してください。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・以下の内容について総合的に判断し、評価します。
①模擬授業への取り組み状況〈事前準備，指導案の完成度，実践状況など〉
②模擬授業の内容(実践的な技能を含む)
③研究協議などへの参加意識，思考，発言状況など
④ピアノ弾き歌い実技テスト
⑤まとめ(筆記テスト)
⑥模擬授業コメント用紙などの提出状況
⑦授業への積極性、向上心、貢献度など

教科書	中学生の音楽1,同2・3上,同2・3下,中学生の器楽	著者等	小原光一　他	出版社	教育芸術社
教科書	2012年改訂版 中学校・高等学校教職課程「音楽科教育法」	著者等	石澤眞紀夫	出版社	教育芸術社
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	・諸確認(授業概要、日程、教科書、授業規律、禁止事項、模擬授業、シラバス等) ・自己紹介(プレゼン) ・教科目標、共通教材に関する復習	・教育目標、及び発達段階における共通教材(7曲)について復習をしておく
第2回	・教科目標〈中・高〉の確認 ・今後の学習指針の確認 ・講義／生徒への接し方、授業心得、留意点、教師の仕事、教師の一日等の理解	・教育目標、及び発達段階における共通教材(7曲)について復習をしておく
第3回	・学習指導要領に関する確認 ・学年の目標の確認 ・共通教材による演習の実施 ・共通教材に関する知識の深化	・学習指導要領について復習、及び予習をしておく ・共通教材の弾き歌いをひととおり実施しておく

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	・中学校各学年の目標に関する確認 ・模擬授業希望調査の実施 ・演習／教材性の検証①	・中学校各学年の目標について復習、及び予習をしておく ・予め示す教材の、教材性についてよく調べておく
第5回	・中学校の表現教材に関する確認 ・[共通事項]に関する確認 ・模擬授業の順番決定 ・演習／教材性の検証②	・中学校の表現教材や[共通事項]について復習、及び予習をしておく ・予め示す教材の、教材性についてよく調べておく
第6回	・指導計画の作成に関する学習 ・指導案の作成方法の確認① ・演習／教材性の検証③	・教科書、指導案作成のためのプリント、評価基準に盛り込むべき事項のプリント等用意すること ・予め示す教材の、教材性についてよく調べておく
第7回	・指導案の作成方法の確認② ・演習／教材性の検証④	・指導案の作成方法について復習をしておく ・予め示す教材の、教材性についてよく調べておく
第8回	・模擬授業の実施① ・研究協議会の実施① ・演習／鑑賞の指導事例研究	・プレゼン者は、教材及び準備するものを前時に予告する ・内容を練り音とりや伴奏等の充分な準備をしておく（要資料） ・教材について生徒側も下調べをしておく
第9回	・模擬授業の実施② ・研究協議会の実施② ・演習／創作の指導事例研究	・プレゼン者は、教材及び準備するものを前時に予告する ・内容を練り音とりや伴奏等の充分な準備をしておく（要資料） ・教材について生徒側も下調べをしておく
第10回	・模擬授業の実施③ ・研究協議会の実施③ ・指導案作成課題提示及び期末テストの連絡	・プレゼン者は、教材及び準備するものを前時に予告する ・内容を練り音とりや伴奏等の充分な準備をしておく（要資料） ・教材について生徒側も下調べをしておく
第11回	・模擬授業の実施④ ・研究協議会の実施④	・プレゼン者は、教材及び準備するものを前時に予告する ・内容を練り音とりや伴奏等の充分な準備をしておく（要資料） ・教材について生徒側も下調べをしておく
第12回	・模擬授業の実施⑤ ・研究協議会の実施⑤	・プレゼン者は、教材及び準備するものを前時に予告する ・内容を練り音とりや伴奏等の充分な準備をしておく（要資料） ・教材について生徒側も下調べをしておく
第13回	・模擬授業の実施⑥ ・研究協議会の実施⑥ ・ピアノ弾き歌い発表（全員）	・プレゼン者は、教材及び準備するものを前時に予告する ・内容を練り音とりや伴奏等の充分な準備をしておく（要資料） ・教材について生徒側も下調べをしておく
第14回	・邦楽器（箏）の実技講習 ・指導案課題、及び期末テストの再連絡	・楽器等の事前準備
第15回	・まとめ（筆記テスト） ・指導案課題の提出	

科目名(クラス)	音楽科教材研究B－a・b	開講学期	前・後	単位数	2	配当年次	3
担当教員	金井良次	履修対象・条件	教職課程履修者で中学校免許状取得希望者のみ必修 教職実践専攻は2単位必修				

【授業の概要】

現場の音楽教師は、専門の如何に関わらず音楽の全ての領域に亘って精通していることが求められます。この科目は、模擬授業やグループワークを通して一人ひとりが音楽教師に必要な知識を深め、指導技術を磨き、実践的技能を高め、総合的な指導力を向上させることを目的としています。授業では、4年次の教育実習を見据え、2年次及び本年度前学期に培った知識や理解をより深めます。また、中・高校の音楽教科書に掲載されている教材を分担し、教材研究と模擬授業を行います。さらに、模擬授業を検証するため、グループワークや全体による研究協議会も積極的に実施します。なお、ピアノ弾き歌いテストも適宜実施します。

【授業の到達目標】

・学習指導要領に準拠し、評価規準を盛り込んだ、完成度のより高い学習指導案を作成することができる。
・事前準備から事後レポートなどに至るまで、模擬授業に積極的に取り組むことができる。
・実践的な指導力や技能に優れ、生徒(役)に対し誠意と熱意と愛情をもって接することができる。
・研究協議への高い参加意識や深い思考を持ち、自己の信念に基づいた建設的な発言をすることができる。

【授業の「方法」と「形式」】

主に模擬授業、グループワーク、研究協議会等を実施します。また、近隣の中高等の授業見学機会を持ちます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・模擬授業実施者は、準備段階から指導教員と打ち合わせを行い、綿密に計画を練ることが必要です。(実施日は、事前に希望調査を行い、調整しながら決定します)。作成した指導案は模擬授業の際全員に配布してください。
・中高の音楽教科書を隅々まで掘り下げて読む機会はあまりないので、出来るだけ自己学習で熟読に努めてください。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・以下の内容について総合的に判断し、評価します。
①模擬授業への取り組み状況〈事前準備，指導案の完成度，実践状況など〉
②模擬授業の内容(実践的な技能を含む)
③研究協議などへの参加意識，思考，発言状況など
④ピアノ弾き歌い実技テスト
⑤まとめ(筆記テスト)
⑥授業見学等レポートや模擬授業コメント用紙などの提出状況
⑦授業への積極性、向上心、貢献度など

教科書	中学生の音楽1,同2・3上,同2・3下,中学生の器楽	著者等	小原光一　他	出版社	教育芸術社
教科書	2012年改訂版 中学校・高等学校教職課程「音楽科教育法」	著者等	石澤眞紀夫	出版社	教育芸術社
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	・ピアノ弾き歌いテスト(教科書より1曲を選定、1番のみ) ・講義／4年生の教育実習実践報告(まとめ)閲読	・ピアノ弾き歌いテストのための充分な準備をしておくこと
第2回	・模擬授業の実施① ・研究協議会の実施①	・プレゼン者は、教材及び準備するものを前時に予告する ・内容を練り音とりや伴奏等の充分な準備をしておく(要資料) ・教材について生徒側も下調べをしておく
第3回	・模擬授業の実施② ・研究協議会の実施②	・プレゼン者は、教材及び準備するものを前時に予告する ・内容を練り音とりや伴奏等の充分な準備をしておく(要資料) ・教材について生徒側も下調べをしておく

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	・模擬授業の実施③ ・研究協議会の実施③ ・現場授業参観等の希望調査実施	・プレゼン者は、教材及び準備するものを前時に予告する ・内容を練り音とりや伴奏等の充分な準備をしておく（要資料） ・教材について生徒側も下調べをしておく
第5回	・模擬授業の実施④ ・研究協議会の実施④ ・演習／現場授業参観等の事前注意確認	・プレゼン者は、教材及び準備するものを前時に予告する ・内容を練り音とりや伴奏等の充分な準備をしておく（要資料） ・教材について生徒側も下調べをしておく
第6回	・教育現場の授業参観 ・教育現場の校内合唱コンクール参観	・参観する学校等についてホームページなどで下調べをしておく
第7回	・模擬授業の実施⑤ ・研究協議会の実施⑤ ・演習／現場授業等参観の総括	・プレゼン者は、教材及び準備するものを前時に予告する ・内容を練り音とりや伴奏等の充分な準備をしておく（要資料） ・教材について生徒側も下調べをしておく
第8回	・模擬授業の実施⑥ ・研究協議会の実施⑥	・プレゼン者は、教材及び準備するものを前時に予告する ・内容を練り音とりや伴奏等の充分な準備をしておく（要資料） ・教材について生徒側も下調べをしておく
第9回	・模擬授業の実施⑦ ・研究協議会の実施⑦	・プレゼン者は、教材及び準備するものを前時に予告する ・内容を練り音とりや伴奏等の充分な準備をしておく（要資料） ・教材について生徒側も下調べをしておく
第10回	・模擬授業の実施⑧ ・研究協議会の実施⑧	・プレゼン者は、教材及び準備するものを前時に予告する ・内容を練り音とりや伴奏等の充分な準備をしておく（要資料） ・教材について生徒側も下調べをしておく
第11回	・模擬授業の実施⑨ ・研究協議会の実施⑨	・プレゼン者は、教材及び準備するものを前時に予告する ・内容を練り音とりや伴奏等の充分な準備をしておく（要資料） ・教材について生徒側も下調べをしておく
第12回	・模擬授業の実施⑩ ・研究協議会の実施⑩ ・講義／「よい授業」の特徴	・プレゼン者は、教材及び準備するものを前時に予告する ・内容を練り音とりや伴奏等の充分な準備をしておく（要資料） ・教材について生徒側も下調べをしておく
第13回	・模擬授業の実施⑪ ・研究協議会の実施⑪ ・講義／新時代の音楽教育とリズム	・プレゼン者は、教材及び準備するものを前時に予告する ・内容を練り音とりや伴奏等の充分な準備をしておく（要資料） ・教材について生徒側も下調べをしておく
第14回	・模擬授業の実施⑫ ・研究協議会の実施⑫	・プレゼン者は、教材及び準備するものを前時に予告する ・内容を練り音とりや伴奏等の充分な準備をしておく（要資料） ・教材について生徒側も下調べをしておく
第15回	・まとめ（筆記テスト） ・指導案課題の提出	

科目名(クラス)	教育行政ーa・b	開講学期	a前期 b後期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	石橋　裕	履修対象・条件	教職課程履修者と教職実践専攻は必修				

【授業の概要】

法的な根拠をもとに我が国の教育行政を大観し、学校教育制度、教育行政基本構造、社会教育行政、保育行政、学校教育行政等の特色を学び、その意義と課題について考察していく。また、教育行政の視点から学習指導要領の概要及び、教員研修の目的と内容を理解する。

【授業の到達目標】

・法的根拠をもとに教育行政の概要について理解することができる。
・具体的な教育行政について、その意義と課題を考察することができる。
・学習指導要領及び教員研修の目的、内容等について追究することができる。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式及び主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の体験的な学習形式

【履修時の「留意点」と「心得」】

学習の履歴としてノートに授業内容を整理して記述し、講義で学んだ概念等について発展的に調べる姿勢が大切です。授業中は、協働的な学習や発表を行っていきますので、意欲的に取り組んで下さい。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・ノートの学習の履歴による評価…30%
・授業参加の積極性、発言内容…10%
・筆記試験…60%

教科書	新しい教育行政学	著者等	河野　和清	出版社	ミネルヴァ書房
教科書	教職六法(すでに持っているものでもよい)	著者等	若井　彌一他	出版社	協同出版
参考文献	中学校学習指導要領解説ー総則編	著者等	文部科学省	出版社	ぎょうせい
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	ガイダンス ・シラバス、授業計画について ・公教育とは	予習:シラバスを読んで、興味関心がある授業内容を選び、その理由を考えておく。 復習:公教育の概念について整理する。 ※大学ノート1冊を用意する。
第2回	我が国の学校教育制度 ・学校体系 ・学校制度と制度改革	予習:学校教育法第1条、6条を読む。 復習:戦前、戦後の学校制度の概要及び現代における制度改革の方向性を整理する。
第3回	教育行政と根拠法 ・日本国憲法と教育基本法 ・地方教育行政の組織及び運営に関する法律	予習:憲法26条、教育基本法16条を読む。 復習:教育基本法，地教行法の改正による教育行政の変化を整理する。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	教育行政の概念及び基本構造 ・文部科学省と教育委員会	予習：地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条を読む。 復習：文部科学省、教育委員会の職務権限の概要について整理する。
第5回	教育振興計画と施策 ・地方公共団体・教育振興計画 ・地方公共団体・教育行政重点施策例	予習：教育に関して推進してほしい内容を考えて発表できるようにしておく。 復習：教育振興計画から現代の教育行政の柱となっている内容を整理する。
第6回	社会教育行政 ・学びの支援 ・文化芸術・スポーツ振興 ・生涯学習と音楽	予習：音楽教育に関連する公共施設を調べる。 復習：社会教育の意義と社会教育行政の概要 について整理する。
第7回	保育行政 ・幼稚園、保育園 ・保育の一元化	予習：保育園と幼稚園の違いを調べる。 復習：保育行政の現状と課題について整理する。
第8回	学校教育行政 ・学校制度改革 ・学校評議員制度と学校運営協議会制度 ・学校評価	予習：保護者が学校に期待する内容を考える。 復習：近年の我が国の教育政策・制度改革の方向性と概要について整理する。
第9回	学校経営 ・学校経営組織 ・校務分掌 ・人事評価制度	予習：自分の母校である中学校または高等学校の学校教育目標を調べる。 復習：組織的な学校運営の概要について整理する。
第10回	教育財政と学習環境の整備 ・文部科学省予算 ・地方教育財政 ・教育財政と音楽教育	予習：音楽教育と財政との関連について考える。 復習：教育財政の規模、特徴の概要及び課題について整理し、財政は教育の基盤であることを理解する。
第11回	教育課程行政（1） ・戦後から現代	予習：ゆとり教育とは具体的な特徴について調べる。 復習：学習指導要領の変遷を音楽教育との関連からまとめる。
第12回	教育課程行政（2） ・学習指導要領の変遷－学習指導要領改訂の方向 ・全国学力学習状況調査と学力向上施策	予習：現在、学力向上が重要な教育課題となっている理由を考える。 復習：改訂新学習指導要領（案）の特徴を整理する。
第13回	教員研修（1） ・行政研修（年次研修） ・校内研修	予習：教育公務員特例法第21条、22条を読む。 復習：教員研修の法的な規定及び内容について整理する。
第14回	教員研修（2） ・初任者研修制度	予習：教育公務員特例法第23条を読む。 復習：初任者研修の法的な規定及び内容について整理する。
第15回	本科目の総括 ・我が国における教育行政の特徴と課題	予習：今までの授業を振り返り、内容を整理する。 復習：教育行政の特徴と課題についてまとめる。

科目名(クラス)	音楽科教育法A－a・b	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	西田　康子	履修対象・条件	教職課程履修者と教職実践専攻は必修				

【授業の概要】

・学習指導要領の基礎的理論、音楽の目標と内容について学びます。
・小学校、中学校、高等学校の音楽科教員に必要とされる実践に向けた知識や技能を習得します。
・教職を目指す初期段階として、アクテイブラーニング手法を取り入れた授業方式を行い、主体的対話的な学びを行います。

【授業の到達目標】

・中、高等学校の教科書に記載されている教材の弾き歌いができる。
・教職を目指すものとして、音楽科実践に向けて知識や技能を学ぶ。
・模擬授業を実施することによって教育実習の心構えを学ぶ。
・学校現場での授業参観を通して教職を目指すための教員としての資質能力を身につける。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式及びグループ形式で課題に沿った話し合い活動を取り入れます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・主体的に学ぶことに重点を置いた授業形式を行います。また、グループ活動から自らの考えをより深く学べるよう、弾き歌い、模擬授業、学習指導要領の授業から積極的に取り組むことが求められます。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・授業での積極的な取り組み（発表、デスカッションにおける発言、実技演奏、模擬授業等）50%

・筆記試験、ポートフォリオ（演奏含む）50%

教科書	中学生の音楽1・2・3	著者等	小原光一	出版社	教育芸術社
教科書	学習指導要領（音楽編）	著者等	文部科学省	出版社	教育芸術社
参考文献	評価方法等の工夫改善のための参考資料	著者等	国立政策研究所	出版社	
参考文献	必要に応じてプリント配付	著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	はじめに（授業規律、自己紹介プレゼン） 教科書のルーツを探る	予習：シラバスを読み各回のテーマを押さえる。 復習：グループごとにされた内容を話し合いまとめる。
第2回	教科書の発達段階の内容を探る（発達段階における共通教材曲）	予習：学年ごとの内容を練習しておく。 復習：視聴後はグループ活動によりアナリーゼ。
第3回	学習指導要領の仲間読みと理解①	予習：指定された内容を読み合わせてくる。 復習：総則を覚える。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	弾き歌いテスト	予習：選曲し、,十分に練習しておく 復習：一人ずつ演奏会形式で成果と課題をまとめる。
第5回	学習指導要領の目標と内容	予習：資料に沿った内容をまとめておく。 復習：目標と内容を習得する。
第6回	音楽科授業について（先輩からの模擬授業DVDから）	予習：先輩からのDVDや模範授業から学ぶ。 復習：よい授業づくりとは何かを話し合いまとめる。
第7回	リコーダーの練習とアンサンブル①	予習：指定された曲を練習しておく。 復習：基本奏法を理解する。
第8回	リコーダーの練習とアンサンブル②	予習：指定された曲を練習しておく。 復習：基本奏法を理解する。
第9回	音楽科授業について（先輩からの模擬授業DVDから）	予習：指定された曲を練習しておく。 復習：基本奏法を理解する。
第10回	授業見学準備	予習：指定された学校についてまとめておく。 復習：突出したベテラン教員の授業から学んだことをまとめておく。
第11回	授業見学	予習：視点をまとめておく。 復習：協議内容をまとめて発表しあう。
第12回	和太鼓の奏法と音楽づくり①	予習：使用する小物を準備しておく。 復習：グループごとに練習
第13回	和太鼓の奏法と音楽づくり②	予習：プリント曲の練習 復習：グループごとに練習した成果を発表し合う。
第14回	歌唱指導による「15分導入授業」	予習：15分の組み立てをしながらすすめる。 復習：体制を考えながら授業に対する意識を高める。
第15回	歌唱指導による「15分導入授業」	予習：16分の組み立てをしながらすすめる。 復習：体制を考えながら授業に対する意識を高める。

科目名(クラス)	音楽科教育法B－a・b	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	西田　康子	履修対象・条件	教職課程履修者と教職実践専攻は必修				

【授業の概要】

・学習指導要領の基礎的理論、音楽の目標と内容について学びます。
・小学校、中学校、高等学校の音楽科教員に必要とされる実践に向けた知識を理解し、技能を身に付ける。
・教職を目指す初期段階として、アクテイブラーニング手法を取り入れた授業方式を行い、主体的対話的な学びを行います。

【授業の到達目標】

・中、高等学校の教科書に記載されている教材の弾き歌いができる。
・教職を目指すものとして、音楽科実践に向けて知識や技能を学ぶ。
・模擬授業を実施することによって教育実習の心構えを学ぶ。
・学校現場での授業参観を通して教職を目指すための教員としての資質能力を身につける。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式及びグループ形式で課題に沿った話し合い活動を取り入れます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・主体的に学ぶことに重点を置いた授業形式を行います。また、グループ活動から自らの考えをより深く学べるよう、弾き歌い、模擬授業、学習指導要領の授業など積極的に取り組むことが求められます。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・授業での積極的な取り組み（発表、デスカッションにおける発言、実技演奏、模擬授業等）50%

・筆記試験、ポートフォリオ（演奏含む）50%

教科書	中学生の音楽1・2・3	著者等	小原光一	出版社	教育芸術社
教科書	学習指導要領（音楽編）	著者等	文部科学省	出版社	教育芸術社
参考文献	評価方法等の工夫改善のための参考資料	著者等	国立政策研究所	出版社	
参考文献	必要に応じてプリント配付	著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	箏の基本的奏法について　①	予習：各自持参する小物を準備しておく。 復習：箏の基本的な奏法と構造について理解する。
第2回	箏の基本的奏法について　②	予習：基本的な奏法を理解する。 復習：さくらさくらを演奏できる。
第3回	学習指導案について①	予習：指導案についての今的内容を把握する。 復習：概要を知る。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	学習指導案について　②	予習：指導案についての今的内容を把握する。 復習：書き方を理解する。
第5回	模擬授業準備	予習：時間内に仕上げるよう繰り返し練習する。 復習：研究協議会を行い、成果と課題を発表し、まとめる。
第6回	模擬授業準備	予習：時間内に仕上げるよう繰り返し練習する。 復習：研究協議会を行い、成果と課題を発表し、まとめる。
第7回	模擬授業　①	予習：時間内に仕上げるよう繰り返し練習する。 復習：研究協議会を行い、成果と課題を発表し、まとめる。
第8回	模擬授業　②	予習：時間内に仕上げるよう繰り返し練習する。 復習：研究協議会を行い、成果と課題を発表し、まとめる。
第9回	模擬授業　③	予習：時間内に仕上げるよう繰り返し練習する。 復習：研究協議会を行い、成果と課題を発表し、まとめる。
第10回	模擬授業　④	予習：時間内に仕上げるよう繰り返し練習する。 復習：研究協議会を行い、成果と課題を発表し、まとめる。
第11回	模擬授業　⑤	予習：時間内に仕上げるよう繰り返し練習する。 復習：研究協議会を行い、成果と課題を発表し、まとめる。
第12回	模擬授業　⑥	予習：時間内に仕上げるよう繰り返し練習する。 復習：研究協議会を行い、成果と課題を発表し、まとめる。
第13回	模擬授業　⑦	予習：時間内に仕上げるよう繰り返し練習する。 復習：研究協議会を行い、成果と課題を発表し、まとめる。
第14回	模擬授業　⑧	予習：時間内に仕上げるよう繰り返し練習する。 復習：研究協議会を行い、成果と課題を発表し、まとめる。
第15回	まとめ	予習：各回のテーマを振り返る。 復習：振り返りテストを行い基本的な内容を押さえ、今後の教育実習での実践力を持つ。

科目名(クラス)	道徳教育の研究　a･b	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	五十嵐　由和	履修対象･条件	教職実践専攻は必修。教職課程履修者で中学免許取得希望者は必修。				

【授業の概要】

道徳は、教科化され「特別な教科による道徳」(道徳科)となる。道徳教育は、教育基本法にも明示された人格の完成を目標とした我が国教育の根幹として、道徳科を要として学校教育活動全体を通した道徳教育の充実した取り組みが求められている。道徳教育は、人間が本来持っているよりよく生きたいという願いやよりよい生き方を求め実践する人間の育成を目指し、その基盤となる道徳性を養う教育活動である。本講義では、道徳教育及び道徳科の特質や内容について理解を深めるとともに、自己を見つめ、道徳的価値に基づいた生き方の自覚を深める指導のあり方について理論と実践の両面から学んでいく。特に、道徳科の授業が、主体的、対話的な深い学び、考え、議論する授業になるように、専門的指導力の向上を図る。

【授業の到達目標】

･道徳教育･道徳科の、目標、内容、指導計画、指導、評価について、多面的･多角的に考察し、深く理解することができる。
･学んだことをもとに、道徳科の学習指導案を作成することできる。

【授業の「方法」と「形式」】

スライドを使用した講義、学生間のディスカッションを通して、主体的、対話的な授業を行っていきます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

自ら考え、表現できるように、主体的に学んでいくことが求められます。特に、教職科目ですので、誠意ある受講、時間厳守が併せて求められます。

【成績評価の「方法」と「基準」】

･授業への積極的な姿勢(発言内容、司会、課題への取り組み)、振り返り用紙　30%
･学習指導案　20%
･筆記試験　50%

教科書	中学校学習指導要領解説 特別の教科　道徳編 平成29年3月　発行	著者等	文部科学省	出版社	
教科書	中学校学習指導要領解説　総則編　総則編　平成29年3月発行	著者等	文部科学省	出版社	
参考文献		著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画･内容･準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習･復習)
第1回	はじめに 授業方法と形式(主体的な対話的な深い学びの授業スタイル) 道徳の本質と学校における道徳教育	予習:シラバスを読み、各回のテーマについて押さえておく。 復習:振り返りをしてテーマについてまとめる。
第2回	道徳教育の歴史と求められている課題	予習:今まで、小中学校で学んできた道徳教育について、調べる。 復習:振り返りをして、道徳教育の課題についてまとめる。
第3回	道徳教育の意義と道徳性の発達	予習:テキストを読み、テーマについて調べる。 復習:振り返りを行い、道徳性の発達についてまとめる

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	道徳教育の構造と役割　道徳教育と道徳科	予習：テキストで道徳教育と道徳科の違いについて調べる。 復習：振り返りを行い、道徳教育と道徳の役割をまとめる。
第5回	道徳教育の目標と内容	予習：テキストで道徳教育の内容を具体的に調べる。 復習：振り返りを行い、道徳教育目標と内容をまとめる。
第6回	道徳の指導計画	予習：テキストで道徳の指導計画を調べる 復習：指導計画の意義をまとめる。
第7回	演習１　道徳科の授業の進め方	予習：小中学校の時の道徳授業のよさについてまとめておく。 復習：振り返りを行い、テキストを参考に授業の進め方をもとめておく。
第8回	学習指導案の作成の基礎基本	予習：テキストの、学習指導案の作成方法について読む。 復習：学習指導案の形式をまとめる。
第9回	演習２　学習指導案の作成１	予習：テキストで道徳教材について調べる。 復習：学習指導案の完成に向け、検討する。
第10回	演習３　学習指導案の作成１（完成）・提出	予習：学習指導案の完成に向けて、研究する。 復習：学習指導案の要点をまとめる。
第11回	演習４　学習指導案の作成２	予習：テキストで道徳教材について調べる。 復習：学習指導案の完成に向け、検討する。
第12回	演習５　学習指導案の作成２（完成）・提出	予習：学習指導案の完成に向けて、研究する。　復習：学習指導案の要点をまとめる。
第13回	学級担任が行う道徳教育と評価	予習：テキストで評価について調べる。 復習：振り返り、道徳教育の評価についてまとめる。
第14回	道徳教育と道徳科の重要事項と学習指導案の基礎基本	予習：１３回までにまとめたことを総復習：しておく。 復習：振り返り、わかっていないところを確認する。
第15回	まとめ　道徳教育・道徳科の基礎基本　道徳科授業の目指すもの	予習：各回のテーマを振り返る。 復習：授業で学んだことを活用し、道徳教育、道徳科授業について探求を続ける。

科目名(クラス)	特別活動の研究　a・b	開講学期	a前期 b後期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	五十嵐　由和	履修対象・条件	教職実践専攻と教職課程履修者は必修。				

【授業の概要】

現在の中学生・高校生の課題として、自分への自信の欠如や自らの将来の不安、好ましい人間関係を築けないなどの課題が指摘されており、課題解決のために、特別活動を通して、体験活動や話し合い活動、集団活動による活動の一層の充実が求められている。特別活動は、望ましい集団活動を通して、一人一人の自主的・実践的な態度の育成などの生きて働く社会性を身につけ、人間形成を図る教育活動である。本講座では、特別活動の基礎を学ぶとともに学級経営の実際と工夫・学級担任として必要な学級経営、学級活動、学校行事、生徒会活動などについて、理解を深めるとともに指導の在り方について、具体的な事例研究・演習等を通して、理論と実践の両面から授業を展開する。「特別活動の基礎と学級経営の実際と工夫」を実践的に学ぶことを目的とする。

【授業の到達目標】

・特別活動の、目標、内容、指導計画、指導、評価について、多面的・多角的に考察し、深く理解することができる。
・学んだことをもとに、学級活動、講話、学級通信を窓口に学級担任の基礎基本・姿勢を身に付けることができる。

【授業の「方法」と「形式」】

・スライドを使用した講義、学生間のディスカッションを通して、主体的、対話的な授業を行っていきます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・自ら考え、表現できるように、主体的に学んでいくことが求められます。特に、教職科目ですので、誠意ある受講、時間厳守が併せて求められます。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・授業への積極的な姿勢(発言内容、司会、課題への取り組み、講話)、振り返り用紙　30%
・学級通信　20%
・筆記試験　50%

教科書	中学校学習指導要領解説　特別活動　平成29年3月　発行	著者等	文部科学省	出版社	
教科書		著者等		出版社	
参考文献	中学校学習指導要領解説　総則　平成29年3月　発行	著者等	文部科学省	出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	はじめに 授業方法と形式(主体的な対話的な深い学びの授業スタイル) 特別活動の目指すものと現代中高生の課題	予習:シラバスを読み、各回のテーマについて押さえておく。 復習:振り返りをしてテーマについてまとめる。
第2回	特別活動の目標と内容	予習:中学校・高校の時に、学んだ特別活動についてまとめておく。 復習:振り返りをして目標と内容を図式化してまとめる。
第3回	特別活動の基本的な性格と教育的意義	予習:テキストで教育的意義について調べる。 復習:振り返りをして、教育的意義についてまとめる。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	学級担任の心構え　講話	予習：学級担任の仕事にはどんなものあるか調べる。 復習：講話例を考えつくる。
第5回	学級活動Ⅰ　目標と内容	予習：中学校の時の、学活の内容を類型化しておく。 復習：振り返りを行い、目標と内容をまとめる。
第6回	学級活動Ⅱ　目標づくりと組織づくり　講話	予習：学級目標と学級組織について調べる。 復習：振り返りをして、目標と組織の具体例を調べる。
第7回	学級活動Ⅲ　生徒の活動と教室経営	予習：テキストから、生徒の活動を調べる。 復習：振り返りをして、教室経営で大切なことをまとめる。
第8回	学級活動Ⅳ　学級担任のキャリア教育	予習：キャリア教育とはどんな教育か調べる。 復習：振り返りをして、学級担任が行うキャリア教育
第9回	学級活動Ⅴ　いじめに強い学級づくり	予習：新聞等でいじめの事例を調べる。 復習：いじめに強い学級をつくるために学級担任としてすべきことをまとめる。
第10回	学級経営の構想と学級通信の作成Ⅱ	予習：小中高の時の学級通信の意義・内容を調べる。 復習：学級通信の基本構想をまとめる。
第11回	学級通信の完成と評価	予習：完成に向けて、資料等の準備をする。 復習：振り返りをして、学級通信の自己評価をする。
第12回	生徒会活動の目標と内容	予習：テキストから、生徒会活動について調べる。 復習：振り返りをして、生徒会活動の事例を調べる。
第13回	学校行事の目標と内容	予習：テキストから、学校行事について調べる。 復習：振り返りをして、学校行事の事例を調べる。
第14回	特別活動の基礎基本と重要事項	予習：13回までにまとめたことを総復習：しておく。 復習：振り返り、わかっていないところを確認する。
第15回	まとめ　特別活動の基礎基本　特別活動の目指すもの	予習：各回のテーマを振り返る。 復習：授業で学んだことを活用し、特別活動について探求を続ける。

科目名(クラス)	生徒指導の研究　a・b	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	五十嵐　由和	履修対象・条件	教職実践専攻は必修。教職課程履修者で中学免許取得希望者は必修。				

【授業の概要】

生徒に夢や希望をもって、充実した学校生活を過ごさせたい。教師の共通した願いである。しかし、近年、少年非行、暴力行為、いじめ、不登校問題、学級崩壊といわれる学級が機能しない状況が多く見受けられ、生徒指導の充実が求められている。生徒指導は学校教育においては一人ひとりの生徒の健全な成長を目指すものであり、究極的には自己指導能力を身に付けさせることを目指すものである。
本講座では、生徒指導の教育的意義や指導原理を踏まえ、基本的な生活習慣の定着、いじめ、不登校、暴力行為などの中学校・高等学校で生徒指導上の課題や問題を生徒指導の理論や考え方、実際の指導法、予防指導のあり方・方法など事例を基に授業を展開する。
「生徒指導の基礎を学ぶとともに生徒指導の実際と進め方」を実践的に学ぶことを目的とする。

【授業の到達目標】

・生徒指導の意義、生徒理解、生徒指導体制、教育相談、生徒指導の進め方、いじめ等の課題について、多面的・多角的に考察し、深く理解することができる。
・学んだことをもとに、生徒指導の理論を理解し、生徒指導の実践力を身に付けることができる。

【授業の「方法」と「形式」】

・スライドを使用した講義、学生間のディスカッションを通して、主体的、対話的な授業を行っていきます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・自ら考え、表現できるように、主体的に学んでいくことが求められます。特に、教職科目ですので、誠意ある受講、時間厳守が併せて求められます。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・授業への積極的な姿勢(発言内容、司会、課題への取り組み)、振り返り用紙　30%
・課題論文　10%
・筆記試験　60%

教科書	生徒指導提要	著者等	文部科学省	出版社	教育図書
教科書		著者等		出版社	
参考文献	中学校学習指導要領解説　総則　平成29年3月　発行	著者等	文部科学省	出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	はじめに 授業方法と形式(主体的な対話的な深い学びの授業スタイル)	予習:シラバスを読み、各回のテーマについて押さえておく。 復習:振り返りをしてテーマについてまとめる。
第2回	生徒指導の意義と課題	予習:テキストで、生徒指導の意義について調べる。 復習:振り返りをして、生徒指導の意義と課題をまとめる。
第3回	生徒指導と教育課程	予習:テキストで、生徒指導と教育課程の相互関係について調べる。 復習:振り返りをして、学習指導における生徒指導の役割について考察する。

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	児童生徒理解、発達障害	予習：テキストで、児童生徒理解の方法について調べる。 復習：振り返りをして、発達障害の生徒の課題をまとめる。
第5回	学校における生徒指導体制	予習：テキストで、生徒指導組織について調べる。 復習：振り返りをして、校長と生徒指導主事の役割をまとめる。
第6回	学級担任が行う生徒指導	予習：テキストで、学級担任の生徒指導の役割について調べる。 復習：振り返りをして、学校の教育相談体制についてまとめる。
第7回	教育相談の意義と進め方	予習：テキストで、教育相談の意義について調べる。 復習：教育相談と生徒指導の関係についてまとめる。
第8回	学級担任が行う教育相談	予習：小中高の経験から、学級担任の教育相談の事例を想起する。 復習：振り返りをして、教育相談における担任の役割をまとめる。
第9回	授業における生徒指導	予習：授業における生徒指導上の問題を予想し、まとめる。 復習：授業における生徒指導の役割をまとめる。
第10回	いじめについてⅠ	予習：最近のいじめの事例を調べる。 復習：いじめの構造についてまとめる。
第11回	いじめについてⅡ	予習：いじめ調査を分析する。 復習：いじめ解消の方策を探求する。
第12回	不登校生徒の対応と指導	予習：最近の生徒指導上の問題を調べる。 復習：不登校生徒解消の方策を探求する。
第13回	生徒指導諸問題（インターネット、スマホ、携帯電話等による諸課題と情報モラル教育、、喫煙・飲酒・薬物乱用、暴力行為の対応、保護者、地域、関係機関との連携）	予習：SNSに関わる生徒指導上の問題を調べる。 復習：生徒指導上の問題の基本対応についてまとめる。
第14回	生徒指導の基礎基本と重要事項	予習：13回までにまとめたことを総復習：しておく。 復習：振り返り、わかっていないところを確認する。
第15回	まとめ　特別活動の基礎基本　特別活動の目指すもの	予習：各回のテーマを振り返る。 復習：授業で学んだことを活用し、生徒指導について探求を続ける。

科目名(クラス)	教育総合科目（教職実践専攻）Ⅰ・ⅡA	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	2・3
担当教員	粕谷　宏美 西田　康子 金井　良次	履修対象・条件	教職実践専攻のみ履修可。必修。				

【授業の概要】

・本科目では、教科専門力を高めるとともに、教員に求められる資質能力を総合的に育成します。
・歌唱力、弾き歌い、和楽器、ギターなどの理解と専門的力量を高めます。
・教員としての総合的な資質能力を身に付けるため、地域の学校現場と連携して実践的に演習します。
・教職インターンシップにおける成果をまとめ、プレゼンテーションを行います。
授業の進行は予定であり、校外研修の日程等によって変更することがあります。

【授業の到達目標】

・小・中学校等の学校現場での補助教員として、情熱と教育的愛情をもって適切な指導をすることができる。
・発声の基礎・基本を身に付け、教材の歌唱や伴奏をすることができる。
・箏及びギターの基本的な知識を理解し、楽器の演奏をすることができる。
・インターンシップについて、自らの体験をまとめ、分かりやすいプレゼンテーションをすることができる。

【授業の「方法」と「形式」】

・演習形式（教育現場での体験研修・演習もあります。）

【履修時の「留意点」と「心得」】

・中学校及び高等学校教科書に掲載されている教材については、演奏表現及び指導できるようにしておいてください。
・和楽器については「日本の伝統音楽概説」での履修と合わせ、理解と演奏力を高めてください。
・教育現場の補助教員及び合唱指導ができるよう資質力量を高めてください。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・コンコーネ及び教材の演奏力（独唱・弾き歌い）20%
・和楽器の演奏力（20%）
・インターンシップについてのプレゼンテーション能力（20%）
・教員としての情熱や教育的愛情及び責任感（20%）
・授業、演習への参加度・積極性（20%）

教科書	コンコーネ50番、中・高音楽教科書	著者等		出版社	全音楽譜出版社
教科書	学習指導要領解説（総則・音楽）	著者等	文部科学省	出版社	教育芸術社
参考文献	必要に応じて配付します。	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	授業ガイダンス	予習：学習指導要領を理解し、コンコーネ50番及び教材の演奏できるようにしておく。 復習：インターンシップ活動予定の検討。
第2回	インターンシップの活動予定確認	予習・復習：インターンシップの活動計画を立てておくこと。
第3回	教科専門力の向上	予習：コンコーネ及び教材の演奏力を高めておく。 復習：自らの課題改善に努める。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	教科専門力の向上	予習：コンコーネ及び教材の演奏力を高めておく。 復習：自らの課題改善に努める。
第5回	教科専門力の向上	予習：コンコーネ及び教材の演奏力を高めておく。 復習：自らの課題改善に努める。
第6回	教科専門力の向上	予習：コンコーネ及び教材の演奏力を高めておく。 復習：自らの課題改善に努める。
第7回	教科専門力の向上	予習：コンコーネ及び教材の演奏力を高めておく。 復習：自らの課題改善に努める。
第8回	中間まとめ（発表会）	予習：コンコーネ及び教材の演奏力を高めておく。 復習：自らの課題改善に努める。
第9回	教員としての総合的資質能力の理解と実践	予習：学級担任の役割など教員の職務内容を理解しておく。 復習：研修のまとめと課題把握に努める。
第10回	教員としての総合的資質能力の理解と実践	予習：学級担任の役割など教員の職務内容を理解しておく。 復習：研修のまとめと課題把握に努める。
第11回	教員としての総合的資質能力の理解と実践	予習：学級担任の役割など教員の職務内容を理解しておく。 復習：研修のまとめと課題把握に努める。
第12回	教員としての総合的資質能力の理解と実践	予習：学級担任の役割など教員の職務内容を理解しておく。 復習：研修のまとめと課題把握に努める。
第13回	教員としての総合的資質能力の理解と実践	予習：学級担任の役割など教員の職務内容を理解しておく。 復習：研修のまとめと課題把握に努める。
第14回	教員としての総合的資質能力の理解と実践	予習：学級担任の役割など教員の職務内容を理解しておく。 復習：研修のまとめと課題把握に努める。
第15回	本科目の総括（研修の成果発表）	予習：発表の準備を十分にしておく。 復習：課題を把握し、今後の目標を定める。

科目名(クラス)	教育総合科目（教職実践専攻）Ⅰ・ⅡB	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2・3
担当教員	粕谷　宏美 西田　康子 金井　良次	履修対象・条件	教職実践専攻のみ履修可。必修。				

【授業の概要】

・本科目では、教科専門力を高めるとともに、教員に求められる資質能力を総合的に育成します。
・歌唱力、弾き歌い、和楽器、ギターなどの理解と専門的力量を高めます。
・教員としての総合的な資質能力を身に付けるため、地域の学校現場と連携して実践的に演習します。
・教職インターンシップにおける成果をまとめ、プレゼンテーションを行います。
授業の進行は予定であり、校外研修の日程等によって変更することがあります。

【授業の到達目標】

・小・中学校等の学校現場での補助教員として、情熱と教育的愛情をもって適切な指導をすることができる。
・発声の基礎・基本を身に付け、教材の歌唱や伴奏をすることができる。
・箏及びギターの基本的な知識を理解し、楽器の演奏をすることができる。
・インターンシップについて、自らの体験をまとめ、分かりやすいプレゼンテーションをすることができる。

【授業の「方法」と「形式」】

・演習形式（教育現場での体験研修・演習もあります。）

【履修時の「留意点」と「心得」】

・中学校及び高等学校教科書に掲載されている教材については、演奏表現及び指導できるようにしておいてください。
・和楽器については「日本の伝統音楽概説」での履修と合わせ、理解と演奏力を高めてください。
・教育現場において補助教員及び合唱指導ができるよう資質力量を高めてください。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・コンコーネ及び教材の演奏力（独唱・弾き歌い）20%
・和楽器の演奏力（20%）
・インターンシップについてのプレゼンテーション能力（20%）
・教員としての情熱や教育的愛情及び責任感（20%）
・授業、演習への参加度・積極性（20%）

教科書	コンコーネ50番、中・高音楽教科書	著者等		出版社	全音楽譜出版社
教科書	学習指導要領解説（総則・音楽）	著者等	文部科学省	出版社	教育芸術社
参考文献	必要に応じて配付します。	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	教科専門力	予習：学校現場で取り上げられる合唱曲を把握し、指導法を研究しておく。 復習：課題解決のための努力をする。
第2回	教科専門力	予習：学校現場で取り上げられる合唱曲を把握し、指導法を研究しておく。 復習：課題解決のための努力をする。
第3回	教科専門力	予習：学校現場で取り上げられる合唱曲を把握し、指導法を研究しておく。 復習：課題解決のための努力をする。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	教科専門力	予習：学校現場で取り上げられる合唱曲を把握しておく。 復習：課題解決のための努力をする。
第5回	教科専門力	予習：学校現場で取り上げられる合唱曲を把握しておく。 復習：課題解決のための努力をする。
第6回	Ⅰ　歌唱力向上（コンコーネ50番及び教材） Ⅱ　ギター演奏法研究	予習：コンコーネ及び教材を練習しておく 復習：歌唱及び楽器の演奏力を高める。
第7回	Ⅰ　歌唱力向上（コンコーネ50番及び教材） Ⅱ　ギター演奏法研究	予習：コンコーネ及び教材を練習しておく 復習：歌唱及び楽器の演奏力を高める。
第8回	Ⅰ　歌唱力向上（コンコーネ50番及び教材） Ⅱ　ギター演奏法研究	予習：コンコーネ及び教材を練習しておく 復習：歌唱及び楽器の演奏力を高める。
第9回	Ⅰ　歌唱力向上（コンコーネ50番及び教材） Ⅱ　ギター演奏法研究	予習：コンコーネ及び教材を練習しておく 復習：歌唱及び楽器の演奏力を高める。
第10回	Ⅰ　歌唱力向上（コンコーネ50番及び教材） Ⅱ　ギター演奏法研究	予習：コンコーネ及び教材を練習しておく 復習：歌唱及び楽器の演奏力を高める。
第11回	Ⅰ　歌唱力向上（コンコーネ50番及び教材） Ⅱ　ギター演奏法研究	予習：コンコーネ及び教材を練習しておく 復習：歌唱及び楽器の演奏力を高める。
第12回	実技発表及びプレゼンテーションのための事前演習	予習：発表会に向けて演奏力を高めておく。 復習：演奏力を高めプレゼンの準備をする。
第13回	実技発表及びプレゼンテーションのための事前演習	予習：発表会に向けて演奏力を高めておく。 復習：演奏力を高めプレゼンの準備をする。
第14回	実技発表	予習：発表会に向けて演奏力を高めておく。 復習：演奏力を高めプレゼンの準備をする。
第15回	インターンシップの報告プレゼンテーション（公開）	予習：十分な準備をしておく。 復習：自己の課題把握と、改善目標の設定。

科目名(クラス)	教職実践演習（中高）	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	4
担当教員	粕谷　宏美 西田　康子 金井　良次	履修対象・条件	教職課程履修者のみ必修。				

【授業の概要】

・教職課程全体を通して一人前の教師になるための力量を身に付けたかどうかを確認するために、教育実習を終えた4年生の最後に履修する科目です。
・課題意識に基づく主体的な討論や事例研究を通して、教員に求められる資質力量を再確認するとともに、自己の課題を明らかにし、理解と実践力を深めます。

【授業の到達目標】

・使命感や情熱、教育的愛情等（教職に対する使命感をもち、愛情をもって児童生徒に接することができる）
・社会性や対人関係能力（自分なりの考えや意見をもち、他人と協力して指導にあたることができる）
・児童生徒理解や学級経営（児童生徒ひとり一人のよさや個性を認めつつ、学級経営ができる）
・音楽科の指導力（専門的力量を身に付け、指導力を発揮して授業ができる）

【授業の「方法」と「形式」】

協調学習。チーム・プレゼンテーション。（教育課題や学校行事等をテーマにして職員研修や模擬授業を実施する。）

【履修時の「留意点」と「心得」】

・教育に関する動向に関心をもち、それらを様々な視点から研究してください。
・授業で提示されるどのテーマに対しても積極的に討議に参加してください。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・レポートや学習状況の観察に基づいて、以下の点を総合的に評価します。
・発表や討論のための事例研究や事前準備を十分に行っている。(レポート)
・プレゼンテーション能力があり、協調性をもって授業に取り組んでいる。
・自らの考えをもって、討論や発表に積極的に参加している。（授業への参加度・貢献度）

教科書	中学校学習指導要領総則編	著者等	文部科学省	出版社	教育芸術社
教科書		著者等		出版社	
参考文献	必要に応じて資料を配付します。	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第1回	授業概要の説明、グループ分け・研究テーマの決定	予習：大学の教職課程や教育実習を通して得た知見をまとめておく。 復習：班員と協議して取りくむ研究課題を決め、実践演習を計画する。
第2回	実践演習（模擬授業）参考事例提示	予習：重要な教育課題である「いじめ問題」についての理解を深めておく。 復習：実践演習の進め方について理解しておく。
第3回	企画書作成及び提出（グループ別協議）	予習：役割分担を決めて、職員研修会として企画・進行ができるようテーマについて研究する。 復習：本時のテーマの理解を深めるとともに、次週のテーマについて調べておく。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	先輩教師に学ぶ①	予習；本時のテーマについて協議に参加できるよう準備すること。 復習：本時のテーマの理解を深めるとともに、次週のテーマについて調べておく。
第5回	教育現場での参観研修	予習；本時のテーマについて協議に参加できるよう準備すること。 復習：本時のテーマの理解を深めるとともに、次週のテーマについて調べておく。
第6回	音楽科教員としての役割	予習；本時のテーマについて協議に参加できるよう準備すること。 復習：本時のテーマの理解を深めるとともに、次週のテーマについて調べておく。
第7回	教科指導のあり方	予習；本時のテーマについて協議に参加できるよう準備すること。 復習：本時のテーマの理解を深めるとともに、次週のテーマについて調べておく。
第8回	音楽の社会的役割について	予習；本時のテーマについて協議に参加できるよう準備すること。 復習：本時のテーマの理解を深めるとともに、次週のテーマについて調べておく。
第9回	生徒指導のあり方①	予習；本時のテーマについて協議に参加できるよう準備すること。 復習：本時のテーマの理解を深めるとともに、次週のテーマについて調べておく。
第10回	生徒指導のあり方②	予習；本時のテーマについて協議に参加できるよう準備すること。 復習：本時のテーマの理解を深めるとともに、次週のテーマについて調べておく。
第11回	教育課題対応①	予習；本時のテーマについて協議に参加できるよう準備すること。 復習：本時のテーマの理解を深めるとともに、次週のテーマについて調べておく。
第12回	教育課題対応①	予習；本時のテーマについて協議に参加できるよう準備すること。 復習：本時のテーマの理解を深めるとともに、次週のテーマについて調べておく。
第13回	子どもを取り巻く状況の変化	予習；本時のテーマについて協議に参加できるよう準備すること。 復習：本時のテーマの理解を深めるとともに、次週のテーマについて調べておく。
第14回	教員に求められる資質能力	予習；本時のテーマについて協議に参加できるよう準備すること。 復習：本時のテーマの理解を深めるとともに、教員に求められる資質能力について考察する。
第15回	本科目の総括（外部講師2）	教職課程全体の振り返るとともに、自己の課題を明らかにし、改善に向けて継続的に取り組んでいく。

科目名(クラス)	教育実習指導	開講学期	前期	単位数	1	配当年次	4
担当教員	粕谷　宏美 西田　康子 金井　良次	履修対象・条件	教職実践専攻のみ履修可。必修。				

【授業の概要】

本科目は、教育実習に向けて、その目的や心構えについて確認することが目的です。
・自己の課題を明らかにして、主体的、積極的な気持ちで実習に臨めるよう最善を尽くしてください。
・実習校中の各場面での挨拶や、児童生徒・教職員とのコミュニケーションのとり方について演習を行います。
・各学校で異なる学習指導案の書き方を理解し、対応のポイントを理解します。
・学校教育の現状と課題について理解し、対応のあり方について確認します。

【授業の到達目標】

・実習校の実態に応じた学習指導案を適切に作成することができる。
・実習校で予定される教材、もしくは共通教材の伴奏ができる。
・挨拶の心得を理解し、終了後のお礼状を適切に書くことができる。
・教育公務員といての教師の立場を理解し、教育実習生としての関わり方を理解することができる。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式。演習形式。

【履修時の「留意点」と「心得」】

・教育実習を受け入れていただいたことに感謝しつつ、気を引き締めて受講してください。
・欠席、遅刻、早退は認めません。

【成績評価の「方法」と「基準」】

・学習指導案を適切に作成することができる。
・実習校で予定される教材(もしくは共通教材)の伴奏ができる。
・挨拶やお礼状は適切に行うことができる。
・教師としての立場を理解し、授業に主体的に参加している。

教科書	学習指導要領解説	著者等		出版社	
教科書	中学・高校の音楽教科書	著者等		出版社	
参考文献	教育実習の手引き　教育実習ノート	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	教育実習への準備と心構え	予習:教職の意義や役割について自らの考えをまとめておく。 復習:教育実習を受け入れていただけることに感謝し、その職責を考える。
第2回	学習指導案の書き方	予習:事前に学習指導案を作成し、授業で提出する。 復習:不備な点を修正し、指導案の書き方を理解する。
第3回	教員としての資質能力	予習:教員に求められる資質能力や人間性について理解しておく。 復習:講義内容をまとめ、改善のために継続して努力をする。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	教材弾き歌い	予習：日頃から教材伴奏の練習をしておく。 復習：より多くの作品について練習、研究しておく。
第5回	教育現場での人間関係づくり①	予習：実習校でのあいさつを考えておく。 復習：様々な場面でのあいさつやコメントに対応できるよう準備しておく。
第6回	教育現場での人間関係づくり②	予習：日頃から教師としての豊かな人間性を身に付けておく。 復習：お礼状の書き方を理解する。
第7回	教育実習のまとめ①	予習：教育実習の総括をする。 復習：自らの課題を明らかにして、改善のための努力をする。
第8回	教育実習のまとめ②	予習：教育実習の総括をする。 復習：自らの課題を明らかにして、改善のための努力をする。
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		

科目名	教育実習

【授業計画の概要】

【授業の到達目標】

・4年間の教職課程及び教育実習事前指導で学んだ教育の理論を、学校現場で実証的に検証することができる。
・生徒理解を深めるとともに、実践指導を通してその方法を習得し、課題解決に向けて熱意Tをもって取り組むことができる。
・学校現場においてすべての教育活動を観察し、教員に求められる資質力量を身に付けるために使命感を自覚して取り組むことができる。

【成績評価の方法】

・教育実習ノート
・教育実習校からの評価
・事前、事後指導への取り組み状況等によって総合的に評価する

【授業計画の内容】

4	・教育実習事前指導において、心構えについてよく理解する。（4月） ・教育実習に向けて、学習指導案の書き方及び教材の弾き歌いの資質力量を高めておく。 ・実習校との事前打ち合わせに出席し、授業や校務分掌との職務について十分に把握する。 ・実習中は社会人としてのマナーはもとより、法令等を遵守して全力で取り組む。 ・教育実習終了後に事後指導を実施する。（7月予定） ・実習校の都合によっては秋に教育実習を行う場合がある。
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
1	
2	
3	

科目名	インターンシップⅠ（教職実践専攻）

【授業計画の概要】

・将来教員を目指すためには早い段階から教育現場の実態を知り、課題を把握することが大切です。
・原則的に小・中・高等学校での授業補助等を中心に体験研修を行います。
・インターンシップを行う学校等は、授業において教員から紹介します。
・本科目は教育総合科目と連動して実施することがあります。

【授業の到達目標】

・将来教師を目指すことを自覚して主体的、計画的に取り組んでいる。
・年間30時間（30コマ相当）以上のインターンシップを行っている。
・小学校及び中学校の教育現場を中心としてインターンシップを行っている。
・教員としての自らの課題を把握し、改善のために努力をしている。

【成績評価の方法】

・実施計画書及び実施報告書の内容及び提出状況
・中間・最終の実施報告発表会の内容とプレゼンテーション力
・インターンシップへの取り組みの姿勢（積極性・計画性・指導力）

【授業計画の内容】

月	内　　容
4	・実施ガイダンス(教育総合科目と連動) ・実施校の選定及び体験研修の概要を把握。 ・実施校との打ち合わせ及び研修内容の確認。 ・実施計画書及び実施報告書を作成・提出。(毎月末に確認)
5	
6	
7	・実施計画書及び実施報告書を作成・提出。(毎月末に確認) ・7月末の中間報告会のための準備（資料作成） ・報告プレゼンテーションの実施 ・後期の実施内容及び実施校の選定
8	
9	
10	・実施ガイダンス(教育総合科目と連動) ・実施校の選定及び体験研修の概要を把握。 ・実施校との打ち合わせ及び研修内容の確認。 ・実施計画書及び実施報告書を作成・提出。(毎月末に確認)
11	
12	
1	・1月の最終報告会のための準備（資料作成） ・報告プレゼンテーションの実施（公開）
2	
3	

科目名	インターンシップⅡ（教職実践専攻）

【授業計画の概要】

・将来教員を目指すためには早い段階から教育現場の実態を知り、課題を把握することが大切です。
・原則的に小・中・高等学校での授業補助等を中心に体験研修を行います。
・インターンシップを行う学校等は、授業において教員から紹介します。
・本科目は教育総合科目と連動して実施することがあります。

【授業の到達目標】

・将来教師を目指すことを自覚して主体的、計画的に取り組んでいる。
・年間30時間（30コマ相当）以上のインターンシップを行っている。
・小学校及び中学校の教育現場を中心としてインターンシップを行っている。
・教員としての自らの課題を把握し、改善のために努力をしている。

【成績評価の方法】

・実施計画書及び実施報告書の内容及び提出状況
・中間・最終の実施報告発表会の内容とプレゼンテーション力
・インターンシップへの取り組みの姿勢（積極性・計画性・指導力）

【授業計画の内容】

4	・実施ガイダンス(教育総合科目と連動) ・実施校の選定及び体験研修の概要を把握する。 ・実施校との打ち合わせ及び研修内容の確認する。 ・実施計画書及び実施報告書を作成し提出する。(毎月末に確認)
5	
6	
7	・実施計画書及び実施報告書を作成・提出(毎月末に確認) ・7月末の中間報告会のための準備（資料作成） ・報告プレゼンテーションの実施 ・後期の実施内容及び実施校の選定
8	
9	
10	・実施ガイダンス(教育総合科目と連動) ・実施校の選定及び体験研修の概要を把握。 ・実施校との打ち合わせ及び研修内容の確認。 ・実施計画書及び実施報告書を作成・提出。(毎月末に確認)
11	
12	
1	・1月の最終報告会のための準備（資料作成） ・報告プレゼンテーションの実施（公開）
2	
3	

科目名(クラス)	楽器の特性と機能(教職実践専攻)	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	2
担当教員	岩間　丈正	履修対象・条件	教職実践専攻のみ履修可				

【授業の概要】

自らが専門的に関わってきた楽器だけではなく、全ての楽器についての知識を持っている事は音楽教員を目指す者にとって極めて重要である。
本授業は、各楽器の様々な「歴史」「変遷」「機能」、その楽器の特徴・特性を発揮する楽曲などの知識を習得する事を目標とする。
将来音楽教員として必要な、オーケストラや吹奏楽指導指導法、移調楽器を含む楽器の知識、スコアの読み方等を身につける。

【授業の到達目標】

授業で取り上げたすべての楽器について理解を深め、将来の授業運営やオーケストラ、吹奏楽部指導に必要な知識、指導法を身につける。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式。毎週専門の講師による演奏を交えた楽器解説。各回の授業ではDVD・CD等視聴覚教材を使用する事がある。

【履修時の「留意点」と「心得」】

テキストは使用しないが授業時に配布された資料は大切に保管しておく事。言葉や紙面上の説明だけでなく、実際の楽器による生(なま)の音を聴くので、MP3等に録音する事が望ましい。各楽器の解説は専門の講師に依頼するため、必ずしもこのシラバスの順序で授業が進むとは限らない。また、楽器によっては1時限に2つの楽器を解説する場合がある。また、講師のスケジュールによっては解説出来ない楽器が出たり、研究員が担当したりする場合もある。

【成績評価の「方法」と「基準」】

期末に、授業で取り上げた全ての楽器について、授業内容を反映させたレポートを提出。【レポート100%】
レポート提出方法についてはオリエンテーション時及び最後の授業時に説明する。掲示も参照する事。

教科書	教員側で準備する	著者等		出版社	
教科書	教員側で準備する	著者等		出版社	
参考文献	教員側で準備する	著者等		出版社	
参考文献	教員側で準備する	著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	木管楽器概説	解説する楽器及び担当教員が確定した時点で告知するので、各自翌週解説する楽器について、図書館等を利用し、ある程度の基礎知識を予習しておく事。授業が終了したら、レポート提出に備え、必ずノートの整理をする事。
第2回 第3回	木管楽器概説 ・リコーダーの基礎知識 ・フルートの基礎知識 ・オーボエの基礎知識 ・クラリネットの基礎知識 ・ファゴットの基礎知識 ・サクソフォンの基礎知識	解説する楽器及び担当教員が確定した時点で告知するので、各自翌週解説する楽器について、図書館等を利用し、ある程度の基礎知識を予習しておく事。授業が終了したら、レポート提出に備え、必ずノートの整理をする事。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回 第5回 第6回 第7回 第8回	打楽器概説 ・打楽器の基礎知識 ・鍵盤打楽器の基礎知識 ・小物の基礎知識	解説する楽器及び担当教員が確定した時点で告知するので、各自翌週解説する楽器について、図書館等を利用し、ある程度の基礎知識を予習しておく事。授業が終了したら、レポート提出に備え、必ずノートの整理をする事。
第9回	ピアノ概説	解説する楽器及び担当教員が確定した時点で告知するので、各自翌週解説する楽器について、図書館等を利用し、ある程度の基礎知識を予習しておく事。授業が終了したら、レポート提出に備え、必ずノートの整理をする事。
第10回	チェンバロ概説	解説する楽器及び担当教員が確定した時点で告知するので、各自翌週解説する楽器について、図書館等を利用し、ある程度の基礎知識を予習しておく事。授業が終了したら、レポート提出に備え、必ずノートの整理をする事。
第11回 第12回	金管楽器概説 ・トランペットの基礎知識 ・ホルンの基礎知識 ・トロンボーンの基礎知識 ・ユーフォニアムの基礎知識 ・チューバの基礎知識	解説する楽器及び担当教員が確定した時点で告知するので、各自翌週解説する楽器について、図書館等を利用し、ある程度の基礎知識を予習しておく事。授業が終了したら、レポート提出に備え、必ずノートの整理をする事。
第13回 第14回	弦楽器概説 ・ヴァイオリンの基礎知識 ・ヴィオラの基礎知識 ・チェロの基礎知識 ・コントラバスの基礎知識	解説する楽器及び担当教員が確定した時点で告知するので、各自翌週解説する楽器について、図書館等を利用し、ある程度の基礎知識を予習しておく事。授業が終了したら、レポート提出に備え、必ずノートの整理をする事。
第15回	まとめ。レポート提出についての諸注意。	期日までにレポートを提出する。

科目名(クラス)	教職特講(教職実践専攻)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	開講学期	後期	単位数	2	配当年次	1～3
担当教員	粕谷　宏美 西田　康子	履修対象・条件	教職実践専攻のみ履修可。必修。				

【授業の概要】

教職を目指すための教育課題を理解し、求められる資質能力を高めることは重要なことです。本授業ではⅠ、Ⅱ、Ⅲを通して音楽科教員に求められる知識・技能を高め、教育論作文や面接等に反映できるよう指導します。教職教養及び教育法規、一般教養を含めて教員採用試験で求められる資質能力を総合的に高めていきます。進度や理解の状況によって柔軟に対応します。

【授業の到達目標】

・教職を目指すための教育課題を理解し、資質や能力を高め様々な視点から考察し、深く理解することができる。
・教員採用試験にむけての教育法規、教職教養、面接対応、論作文対応を理解し、実践力につなげることができる。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式及びアクテイブラーニング的な手法による。自ら考え対話的な授業を取り入れます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

教育課題に精通するため、日頃から教育書物や過去問題、新聞インターネットでの情報を把握してください。このことから、常に考えや意見等を論理的に伝えられるよう心がけてください。

【成績評価の「方法」と「基準」】

○授業への積極性(討論形式における発言内容、課題への取り組み等)50%
○教育法規、教職教養、論作文、面接対応学年に応じた筆記試験問題　50%

教科書	中学校学習指導要領解説総則編	著者等	文部科学省	出版社	教育芸術社
教科書	中学生の音楽1・2・3	著者等	小原光一	出版社	教育芸術社
参考文献	必要に応じて資料やプリント配付します	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	後期の予定・求められる教師像・先輩から学ぶ	予習:志願する自治体の教育施策を理解しておく 復習:教員採用試験の概要を知る
第2回	学校が求める“教師の即戦力”　教員の資質能力	予習:教育雑誌やボランテイア活動からまとめておく。 復習:討論形式授業からグループごとにまとめて発表する。
第3回	教職教養①	予習:採用試験で出題される内容を調べる。 復習:グループ形式で討論したことをまとめる。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	教職教養　②	予習：採用試験で出題される内容を調べる。 復習：グループ形式で討論したことをまとめる。
第5回	面接対応の基本	予習：教員採用試験で求められる対応の在り方を知る。 復習：実践力を身につけたことをまとめる。
第6回	グループ討議①	予習：与えられた課題から事前に調べておく。 復習：課題からグループごとに話し合い、討議内容をまとめる。
第7回	集団面接と教職教養　３	予習：課題に沿った内容を調べておく。 復習：課題からグループ討議した結果を発表し、まとめる。
第8回	教職教養　　④	予習：課題に沿った内容を調べる。 復習：課題から調べた事項を討議し合い、発表しキーワードを押さえる。
第9回	自己PRの仕方	予習：与えられた書式に自己分析をまとめておく。 復習：グループごとに発表し合い、対話的主体的にまとめる。
第10回	集団面接　　②	予習：与えられた内容で発表ができるようにまとめておく。 復習：繰り返し練習しながら社会人としての基礎的行動を身につける。
第11回	論文の書き方	予習：独特な書き方について資料を読んでくる。 復習：独特な書き方を知る。
第12回	教育法規	予習：知っておきべき教育法規を調べておく。 復習：これだけは30を覚える。
第13回	面接対応　②	予習：与えられた内容を調べておく 復習：集団及び個人対応で互いの良さを話し合い自分のものにするようにまとめておく。
第14回	教職教養	予習：採用試験で出題される内容を調べる。 復習：テストを行いながら教育情報を取得する。
第15回	最終試験	予習：シリーズで行った内容を調べておく。 復習：面接・教職教養からテストを行い評価をしていく。（成果と課題を分析しておく）

科目名(クラス)	教職特講(教職実践専攻)Ⅳ	開講学期	前期	単位数	2	配当年次	4
担当教員	粕谷　宏美 西田　康子	履修対象・条件	教職実践専攻のみ履修可。必修。				

【授業の概要】

教職を目指すための教育課題を理解し、求められる資質能力を高めます。
本授業ではⅣを通して教員採用試験での知識・技能を高め、教育論作文や面接等に反映できるよう指導します。
教職教養及び教育法規、模擬授業、実技試験、一般教養等を含めて教員採用試験出題される資質能力を総合的に高めていきます。
進度や理解の状況によって柔軟に対応します。

【授業の到達目標】

・教員採用試験を目指し教職教養、一般教養、実技試験、模擬授業、集団討議、論作文等の資質や能力を高め、様々な視点から主体的に学び合い、教員採用試験対策に臨む。

【授業の「方法」と「形式」】

講義形式、アクテイブラーニング的手法を取り入れた授業により主体的に考えた授業を取り入れます。

【履修時の「留意点」と「心得」】

教育課題に精通するため、日頃から教育書物や過去問題、新聞インターネットでの情報を把握してください。
このことから、常に考えや意見等を論理的に伝えられるよう心がけてください。

【成績評価の「方法」と「基準」】

授業への積極性(討論形式における発言内容・それぞれの課題にそった取り組み内容)50%

教育法規、教職教養、論作文、面接対応、テスト等に応じた筆記試験問題　50%

教科書	中学校学習指導要領解説総則編	著者等	文部科学省	出版社	教育芸術社
教科書	中学生の音楽1・2・3	著者等	小原光一他	出版社	教育芸術社
参考文献	必要に応じて資料配布します	著者等		出版社	
参考文献		著者等		出版社	

【授業計画・内容・準備学習】

回数	授　業　内　容	準備学習(予習・復習)
第1回	・志願書の書き方 ・受験する都道府県の実施要項について	予習:受験希望の自治体の実施要項を調べる。 学習方法を理解しておく。 復習:志願書の内容を下書してまとめる。
第2回	学習指導要領～総則～音楽の目標と内容	予習:総則の内容を下調べしておく 復習:総則と目標や内容が言えるようにする。
第3回	教育法規①	予習:これだけは覚えよう30資料図形を理解。 復習:出題頻度の高い法規を覚える。

【授業計画・内容・準備学習】		
回数	授　業　内　容	準備学習（予習・復習）
第4回	教育法規②	予習：教育公務員としての法規を暗記する。 復習：2回で樹形図が覚えられるようにする。
第5回	論文の書き方①	予習：教採試験論文を書いてみる。 復習：独特な書き方をマスターする。
第6回	論文の書き方②	予習：時間内に論文を体得する。 復習：自治体ごとの論文を体得する。
第7回	面接①	予習：社会人としての所作を調べておく。 復習：グループごとに実践練習の成果をまとめる。
第8回	面接②	予習：受験する出題内容をまとめておく。 復習：練習した成果をまとめておく。
第9回	知っておきべき教育課題①	予習：資料から調べて事柄をグループごとに討議。 復習：討議内容から押さえるべき事項をまとめる。
第10回	知っておきべき教育課題②	予習：資料から調べて事柄をグループごとに討議。 復習：討議内容から押さえるべき事項をまとめる。
第11回	集団討議と面接①	予習：準備された討議内容を調べる。 復習：討議について知ることができる。
第12回	集団討議と面接②	予習：準備された討議内容を調べる。 復習：討議について知ることができる。
第13回	実技・面接	予習：自治体ごとの実技を練習しておく。 復習：個々の発表から成果と課題を知る。
第14回	道徳教育	予習：道徳内容について調べておく。 復習：道徳教育について理解できる。
第15回	個人面接	予習：自治体ごとの内容について調べておく。 復習：子kの発表から成果と課題を知る。